茨城県教育財団文化財調査報告Ⅴ

常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

昭和55年3月

財団法人　茨城県教育財団

常磐道関係遺跡正誤表

頁	行	誤	正
背文字		昭和55年度	昭和55年
例　言	7	補助調査員	調査補助員
〃	9	補助調査員　仙波　　享	調査補助員　仙波　　亨
158	下から3	位置　　けられる	位置づけられる
187	全　　文	187頁全文	188頁全文
188	全　　文	188頁全文	187頁全文
219	2	捕えられる	とらえられる
224		上稲吉西原古墳A・B遺跡	上稲吉西原古墳・A・B遺跡
392		A－A′，B－B′，C－C′のレベルなし	L＝23.20 m
453	No. 71	A－A′　B－B′　　レベルなし	L＝23.80 m
458		A－A′　B－B′　　レベルなし	L＝24.60 m

序

財団法人茨城県教育財団では，昭和53年度から日本道路公団の委託を受けて，常磐自動車道の建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施しております。

この報告書は，昭和53年４月から昭和54年９月30日の期間で新治郡千代田村内における古墳及び集落址の調査結果を収録したものであります。

千代田村は恋瀬川をはさんで石岡市に対置し，それ故に埋蔵文化財の宝庫であります。郷土を理解するために本書がより多くの方々に御活用いただけるよう希望してやみません。

この調査にあたりまして御指導，御協力をいただいた，茨城県教育委員会，千代田村教育委員会，日本道路公団をはじめ関係諸機関及び地元各位に対し深く感謝の意を表します。

昭和55年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　　竹内　藤男

例　　言

1．本書は，日本道路公団と財団法人茨城県教育財団との委託契約に基づいて，昭和53～54年度に実施した新治郡千代田村，上稲吉西原古墳・同A遺跡・同B遺跡・同C遺跡・中佐谷十百遺跡・中佐谷A遺跡・同B遺跡・大塚古墳群（1～15号古墳）・松延1・2号墳・志筑遺跡の発掘調査報告書である。

2．昭和53年度発掘調査は，財団法人茨城県教育財団主任調査員倉本冨美男，調査員高村勇，調査補助員宮内良隆が上稲吉西原・中佐谷地区関係遺跡を担当し，同主任調査員山本貴之，調査員荒堀彰夫，補助調査員洞口正史が大塚9・10号古墳，志筑遺跡を担当した。
昭和54年度発掘調査は，主任調査員倉本冨美男，同中村幸雄，調査補助員宮内良隆が大塚古墳群（1～8・11～15号古墳）を担当し，主任調査員山本貴之，調査員小河邦男，補助調査員仙波享が松延1・2号墳・志筑遺跡を担当した。

3．出土遺物等の整理は，上稲吉西原・中佐谷の各遺跡および大塚古墳群（1～8号墳・11～15号墳）は倉本冨美男が，大塚古墳群（9・10号墳）・松延1・2号墳・志筑遺跡については山本貴之が実施した。

4．本書は倉本冨美男・山本貴之が発掘担当ごとに執筆した。

5．上記各遺跡の発掘調査，出土遺物の整理等に際して御指導，御協力を賜わった関係諸機関・各位に感謝の意を表したい。

目　　次

序

例　言

目　次

挿図目次

図版目次

第１章　調査の経緯……1

第１節　調査にいたる経過……1

１．常磐自動車道の建設……1

２．常磐自動車道……1

３．常磐自動車道と埋蔵文化財……2

第２節　調査の組織……2

第３節　調査の経過……4

第２章　遺跡の立地と環境……5

第１節　地理的環境……5

第２節　歴史的環境……7

第３章　上稲吉西原古墳……10

第１節　遺跡の概観……10

第２節　調査経過……10

第３節　古墳の構造……11

第４章　上稲吉西原Ａ遺跡（JKN―A）……12

第１節　遺跡の概観……12

第２節　調査経過……12

第３節　遺構・遺物……14

第５章　上稲吉西原Ｂ遺跡（JKN―B）……29

第１節　遺跡の概観……29

第２節　調査経過……29

第３節　遺構・遺物……31

第６章　上稲吉西原Ｃ遺跡（JKN―C）……53

第１節　遺跡の概観……53

第２節　調査経過…… 53
第３節　遺構・遺物…… 53
第７章　中佐谷十百遺跡（ＪＮＴ）…… 54
第１節　遺跡の概観…… 54
第２節　調査経過…… 54
第３節　遺構・遺物…… 55
第８章　中佐谷Ａ遺跡（ＪＮＳ―Ａ）…… 56
第１節　遺跡の概観…… 56
第２節　調査経過…… 56
第３節　遺構・遺物…… 59
第９章　中佐谷Ｂ遺跡（ＪＮＳ―Ｂ）…… 86
第１節　遺跡の概観…… 86
第２節　調査経過…… 86
第３節　遺構・遺物…… 87
第10章　大塚古墳群（ＪＯＴ―１～15）…… 90
第１節　古墳群の概況…… 90
第２節　調査の経過…… 90
第３節　古墳の調査…… 96
１．大塚１号古墳（ＪＯＴ―１）…… 96
２．大塚２号古墳（ＪＯＴ―２）…… 96
３．大塚３号古墳（ＪＯＴ―３）…… 99
４．大塚４号古墳（ＪＯＴ―４）…… 99
５．大塚５号古墳（ＪＯＴ―５）……100
６．大塚６号古墳（ＪＯＴ―６）……102
７．大塚７号古墳（ＪＯＴ―７）……103
８．大塚８号古墳（ＪＯＴ―８）……103
９．大塚９号古墳（ＪＯＴ―９）……104
10．大塚10号古墳（ＪＯＴ―10）……105
11．大塚11号古墳（ＪＯＴ―11）……108
12．大塚12号古墳（ＪＯＴ―12）……109
13．大塚13号古墳（ＪＯＴ―13）……110
14．大塚14号古墳（ＪＯＴ―14）……111

15. 大塚15号古墳（JOT—15）……112
第4節　調査のまとめ……112
第11章　松延古墳群……113
第1節　古墳の概観……113
第2節　調査経過……113
松延古墳1号古墳……113
松延古墳2号古墳……113
第3節　松延古墳1号古墳……115
古墳の現状……115
墳丘の構造……115
埋葬施設……116
その他の遺構……116
出土遺物……116
まとめ……116
第4節　松延古墳2号古墳……116
古墳の現状……116
墳丘の構造……117
埋葬施設……118
土壙……118
石棺……118
石棺内出土遺物……119
周溝部出土遺物……119
その他の遺構……120
住居址遺構……120
まとめ……121
第12章　志筑遺跡……122
第1節　遺跡の概観……122
調査区画……122
第2節　調査経過……123
第3節　遺構・遺物……126
遺構……126
住居址遺構……126

まとめ……156
土壙……159
まとめ……166
溝……167
まとめ……170
ピット……172
まとめ……180
志筑遺跡内・古墳および周溝墓……180
まとめ……188
遺物……191
古墳時代の遺物……191
その他の遺構……218
まとめ……219
第13章　まとめ……220

挿　図　目　次

第１図　位置図……223

上稲吉（JKN）・中佐谷（JNS）関係遺跡……223

第２図　上稲吉西原古墳・A・B遺跡全体図……224

第３図　上稲吉西原C遺跡・中佐谷十百遺跡全体図……225

第４図　中佐谷A・B遺跡全体図……226

第５図　JKN墳丘実測図……227

第６図　JKNトレンチ配置図……228

第７図　JKN—A遺跡遺構配置図……229

第８図　JKN—A・01号住居址実測図……230

第９図　JKN—A・02号住居址実測図……231

第10図　JKN—A・03号住居址実測図……232

第11図　JKN—A・04号住居址実測図……233

第12図　JKN—A・05住居址実測図……234

第13図　JKN—A・06号住居址実測図……235

第14図　JKN—A・07・08号住居址実測図……236

第15図　JKN—A・09・10号住居址実測図……237

第16図　JKN—A・11号住居址実測図……238

第17図　JKN—A・12号住居址実測図……239

第18図　JKN—A・01・03・04・05号土壙実測図……240

第19図　JKN—B遺跡遺構配置図……241

第20図　JKN—B・01号住居址実測図……242

第21図　JKN—B・02号住居址実測図……243

第22図　JKN—B・03号住居址実測図……244

第23図　JKN—B・04号住居址実測図……245

第24図　JKN—B・05号住居址実測図……246

第25図　JKN—B・06号住居址実測図……247

第26図　JKN—B・07号住居址実測図……248

第27図　JKN—B・08号住居址実測図……249

第28図　JKN—B・09号住居址実測図……250

第29図　JKN—B・11号住居址，02・03号土壙実測図……251

第30図　ＪＫＮ—Ｂ・12号住居址・01号土壙実測図……252
第31図　ＪＮＳ—Ａ遺跡遺構配置図……253
第32図　ＪＮＳ—Ａ・01号住居址実測図……254
第33図　ＪＮＳ—Ａ・03・04・17号住居址実測図（1）……255
第34図　ＪＮＳ—Ａ・03・04・17号住居址実測図（2）……256
第35図　ＪＮＳ—Ａ・05・07号住居址実測図……257
第36図　ＪＮＳ—Ａ・08・19号住居址実測図……258
第37図　ＪＮＳ—Ａ・09号住居址実測図……259
第38図　ＪＮＳ—Ａ・11号住居址実測図……260
第39図　ＪＮＳ—Ａ・12号住居址実測図……261
第40図　ＪＮＳ—Ａ・16号住居址実測図……262
第41図　ＪＮＳ—Ａ・20号住居址実測図……263
第42図　ＪＮＳ—Ａ・13号住居址実測図……264
第43図　ＪＮＳ—Ａ・14号住居址実測図……265
第44図　ＪＮＳ—Ａ・15号住居址実測図……266
第45図　ＪＮＳ—Ａ・18号住居址・01号土壙実測図……267
第46図　ＪＮＳ—Ｂ遺跡遺構配置図……268
第47図　ＪＮＳ—Ｂ・01号住居址，01・02号土壙実測図……269
第48図　ＪＫＮ—Ａ・01号住居址出土遺物……270
第49図　ＪＫＮ—Ａ・03号住居址出土遺物……270
第50図　ＪＫＮ—Ａ・02号住居址出土遺物……271
第51図　ＪＫＮ—Ａ・04号住居址出土遺物……271
第52図　ＪＫＮ—Ａ・05号住居址出土遺物……271
第53図　ＪＫＮ—Ａ・06号住居址出土遺物……271
第54図　ＪＫＮ—Ａ・09号住居址出土遺物……272
第55図　ＪＫＮ—Ａ・12号住居址出土遺物……272
第56図　ＪＫＮ—Ａ・11号住居址出土遺物……273
第57図　ＪＫＮ—Ｂ・01号住居址出土遺物……273
第58図　ＪＫＮ—Ｂ・02号住居址出土遺物……274
第59図　ＪＫＮ—Ｂ・03号住居址出土遺物……274
第60図　ＪＫＮ—Ｂ・04号住居址出土遺物……274
第61図　ＪＫＮ—Ｂ・06号住居址出土遺物……274

第62図　ＪＫＮ—Ｂ　05号住居址出土遺物……275
第63図　ＪＫＮ—Ｂ　07号住居址出土遺物……275
第64図　ＪＫＮ—Ｂ　08号住居址出土遺物……276
第65図　ＪＫＮ—Ｂ　08号住居址出土遺物……277
第66図　ＪＫＮ—Ｂ　09号住居址出土遺物……278
第67図　ＪＫＮ—Ｂ　11号住居址出土遺物……278
第68図　ＪＫＮ—Ｂ　12号住居址出土遺物……279
第69図　ＪＫＮ—Ｂ　グリット出土遺物……279
第70図　ＪＫＮ出Ｂ遺物……280
第71図　ＪＮＳ—Ａ　01号住居址出土遺物……281
第72図　ＪＮＳ—Ａ　03号住居址出土遺物……282
第73図　ＪＮＳ—Ａ　03号住居址出土遺物……283
第74図　ＪＮＳ—Ａ　04号住居址出土遺物……283
第75図　ＪＮＳ—Ａ　05号住居址出土遺物……284
第76図　ＪＮＳ—Ａ　07号住居址出土遺物……285
第77図　ＪＮＳ—Ａ　08号住居址出土遺物……285
第78図　ＪＮＳ—Ａ　11号住居址出土遺物……285
第79図　ＪＮＳ—Ａ　09号住居址出土遺物……286
第80図　ＪＮＳ—Ａ　12号住居址出土遺物……287
第81図　ＪＮＳ—Ａ　15号住居址出土遺物……287
第82図　ＪＮＳ—Ａ　13号住居址出土遺物……288
第83図　ＪＮＳ—Ａ　14号住居址出土遺物……289
第84図　ＪＮＳ—Ａ　16号住居址出土遺物……290
第85図　ＪＮＳ—Ａ　16号住居址出土遺物……291
第86図　ＪＮＳ—Ａ　18号住居址出土遺物……292
第87図　ＪＮＳ—Ａ　17号住居址出土遺物……291
第88図　ＪＮＳ—Ａ　19号住居址出土遺物……293
第89図　ＪＮＳ—Ａ　19号住居址出土遺物……294
第90図　ＪＮＳ—Ａ　20号住居址出土遺物……294
第91図　ＪＮＳ—Ａ　01号住居址出土遺物……294
第92図　ＪＮＳグリッド出土遺物……294
第93図　ＪＫＮ—Ａ　01号住居址出土遺物拓影図……295

第94図　ＪＫＮ―Ａ　02号住居址出土遺物拓影図……296
第95図　ＪＫＮ―Ａ　03号住居址出土遺物拓影図……297
第96図　ＪＫＮ―Ａ　04号住居址出土遺物拓影図……297
第97図　ＪＫＮ―Ａ　05号住居址出土遺物拓影図……298
第98図　ＪＫＮ―Ａ　09号住居址出土遺物拓影図……299
第99図　ＪＫＮ―Ａ　11号住居址出土遺物拓影図……300
第100図　ＪＫＮ―Ａ　12号住居址出土遺物拓影図……301
第101図　ＪＫＮ―Ａ土壙出土遺物拓影図……301
第102図　ＪＫＮ―Ｂ　01号住居址出土遺物拓影図……302
第103図　ＪＫＮ―Ｂ　03号住居址出土遺物拓影図……302
第104図　ＪＫＮ―Ｂ　06号住居址出土遺物拓影図……302
第105図　ＪＫＮ―Ｂ　05号住居址出土遺物拓影図……303
第106図　ＪＫＮ―Ｂ　08号住居址出土遺物拓影図……303
第107図　ＪＫＮ―Ｂ　09号住居址出土遺物拓影図……303
第108図　ＪＫＮ―Ｂ　11号住居址出土遺物拓影図……303
第109図　ＪＫＮ―Ｂ　12号住居址出土遺物拓影図……304
第110図　ＪＫＮ―Ｂ土壙出土遺物拓影図……305
第111図　ＪＫＮ―古墳丘・周溝断面図拓影図……306
第112図　大塚古墳群・松延１・２号墳・志筑遺跡地形図……307
第113図　ＪＯＴ―１・２・14号古墳墳丘実測図……309
第114図　ＪＯＴ―１・２・14号古墳トレンチ配置図……310
第115図　ＪＯＴ―１・２号古墳墳丘・周溝断面図……311
第116図　ＪＯＴ―２号古墳石棺展開図・主体部掘り方実測図……313
第117図　ＪＯＴ―２２号住居址・土壙実測図……314
第118図　ＪＯＴ―３・４・15号古墳墳丘実測図……315
第119図　ＪＯＴ―３・４・15号古墳トレンチ配置図……316
第120図　ＪＯＴ―３・４号古墳墳丘・周溝断面図……317
第121図　ＪＯＴ―５・６・13号古墳墳丘実測図……319
第122図　ＪＯＴ―５・６・13号古墳トレンチ配置図……320
第123図　ＪＯＴ―５・６号古墳墳丘・周溝断面図……321
第124図　ＪＯＴ―５号古墳石棺展開図……323
第125図　ＪＯＴ―５号古墳主体部掘り方実測図……324

第126図　JOT—7・8号古墳トレンチ配置図…… 325
第127図　JOT—8・11号古墳石棺展開図…… 326
第128図　JOT—7・8号古墳墳丘・周溝断面図…… 327
第129図　JOT—8号古墳主体部掘り方実測図…… 329
第130図　JOT—7・8・9・10号古墳地形図…… 330
第131図　JOT—9・10号古墳平面図…… 331
第132図　JOT—9・10号古墳断面図…… 333
第133図　JOT—9号古墳土壙実測図…… 332
第134図　JOT—10号古墳南側主体部実測図…… 332
第135図　JOT—10号古墳北側・南側主体部断面図…… 337
第136図　JOT—10号古墳北側主体部実測図…… 337
第137図　JOT—11・12号古墳墳丘実測図…… 338
第138図　JOT—11・12号古墳トレンチ配置図…… 339
第139図　JOT—11・13号古墳墳丘・周溝断面図…… 340
第140図　JOT—11・13号古墳主体部掘り方実測図…… 341
第141図　JOT—12号古墳墳丘・周溝断面図…… 342
第142図　JOT—12号古墳石棺展開図…… 343
第143図　JOT—12号古墳主体部掘り方実測図…… 344
第144図　JOT—13号古墳石棺展開図…… 345
第145図　JOT—13号古墳主体部掘り方実測図…… 346
第146図　JOT—14号古墳墳丘・周溝断面図…… 347
第147図　JOT—15号古墳墳丘・周溝断面図…… 348
第148図　JOT—5・11号古墳石棺内出土遺物…… 349
第149図　JOT—13号古墳石棺内出土遺物…… 350
第150図　JOT—2号古墳出土遺物…… 351
第151図　JOT—5号古墳出土遺物（1）…… 352
第152図　JOT—5号古墳出土遺物（2）…… 353
第153図　JOT—5号古墳出土遺物（3）…… 354
第154図　JOT—5号古墳出土遺物（4）…… 355
第155図　JOT—5号古墳出土遺物（5）…… 356
第156図　JOT—2号古墳出土遺物…… 357
第157図　JOT—11号古墳出土遺物…… 357

第158図　JOT－5号古墳出土遺物…… 358
第159図　JOT－8号古墳出土遺物…… 358
第160図　JOT－10号古墳出土遺物…… 358
第161図　JOT－12号古墳出土遺物…… 358
第162図　JOT－13号古墳出土遺物…… 359
第163図　JOT－2号古墳出土遺物拓影図…… 360
第164図　大塚古墳群全体図　1…… 361
第165図　大塚古墳群全体図　2…… 363
第166図　松延1・2号墳・志筑遺跡全体図…… 365
第167図　松延1号古墳地形図…… 367
第168図　松延2号古墳地形図…… 368
第169図　松延1号古墳断面図…… 369
第170図　松延2号古墳丘断面図…… 371
第171図　松延2号古墳周溝部断面図…… 373
第172図　松延2号古墳周溝部断面図…… 375
第173図-1 松延2号古墳主体部石棺実測図…… 377
第173図-2 松延2号古墳主体部石棺実測図…… 377
第174図-1 松延2号古墳主体部平面図…… 378
第174図-2 松延2号古墳主体部実測図…… 378
第175図-　松延2号古墳主体部土壙断面図…… 379
第176図　松延2号古墳主体部遺物出土状況図…… 381
第177図　松延2号古墳石棺内出土遺物実測図…… 382
第178図-1 松延2号古墳石棺出土遺物実測図…… 383
第178図-2 松延2号古墳内1号住居址実測図…… 383
第179図　松延2号古墳住居址実測図…… 384
第180図　松延2号古墳3号住居址実測図…… 385
第181図　志筑遺跡・遺構位置図…… 387
第182図　志筑遺跡01号住居址実測図…… 389
第183図　志筑遺跡02号住居址実測図…… 390
第184図　志筑遺跡04号住居址内フラスコ形土壙実測図…… 391
第185図　志筑遺跡03号住居址実測図…… 391
第186図　志筑遺跡04・05号住居址実測図…… 392

第187図　志筑遺跡06・07号住居址実測図…… 393
第188図　志筑遺跡08・09号住居址実測図…… 394
第189図　志筑遺跡10号住居址実測図…… 395
第190図　志筑遺跡11号住居址実測図…… 396
第191図　志筑遺跡12号住居址実測図…… 397
第192図　志筑遺跡13・17号住居址実測図　(1)…… 398
第193図　志筑遺跡13・17号住居址実測図　(2)…… 399
第194図　志筑遺跡15号住居址実測図…… 400
第195図　志筑遺跡16号住居址実測図…… 401
第196図　志筑遺跡18号住居址実測図…… 402
第197図　志筑遺跡19号住居址実測図…… 403
第196図　志筑遺跡21号住居址実測図…… 404
第199図　志筑遺跡22・26号住居址実測図…… 405
第200図　志筑遺跡23号住居址実測図…… 406
第201図　志筑遺跡24号住居址実測図…… 407
第202図　志筑遺跡25号住居址カマド実測図…… 408
第203図　志筑遺跡28号住居址実測図…… 409
第204図　志筑遺跡27号住居址実測図…… 410
第205図　志筑遺跡30号住居址実測図…… 411
第206図　志筑遺跡31号住居址実測図…… 412
第207図　志筑遺跡33号住居址実測図…… 413
第208図　志筑遺跡35号住居址実測図…… 414
第209図　志筑遺跡36号住居址実測図…… 415
第210図　志筑遺跡37号住居址実測図…… 416
第211図　志筑遺跡39号住居址実測図…… 417
第212図　志筑遺跡40号住居址実測図…… 418
第213図　土筑遺跡41号住居址実測図…… 419
第214図　志筑遺跡42号住居址実測図…… 420
第215図　志筑遺跡43号住居址実測図…… 421
第216図　志筑遺跡44号住居址実測図…… 422
第217図　志筑遺跡46号住居址実測図…… 423
第218図　志筑遺跡46号住居址実測図…… 424

第219図　志筑遺跡47号住居址実測図…… 425
第220図　志筑遺跡48号住居址実測図…… 426
第221図　志筑遺跡50号住居址実測図…… 427
第222図　志筑遺跡51号住居址実測図…… 428
第223図　志筑遺跡53号住居址実測図…… 429
第224図　志筑遺跡54号住居址実測図…… 430
第225図　志筑遺跡55号住居址実測図…… 431
第226図　志筑遺跡56号住居址実測図…… 432
第227図　志筑遺跡57号住居址実測図…… 433
第228図　志筑遺跡22・26・31号住居址カマド実測図…… 434
第229図　志筑遺跡土壙２・３・４号実測図…… 435
第230図　志筑遺跡土壙５・６・７号実測図…… 436
第231図　志筑遺跡土壙８・10・12号実測図…… 437
第232図　志筑遺跡土壙11・18・25号実測図…… 439
第233図　志筑遺跡溝（Ｍ１・２号）実測図…… 440
第234図　志筑遺跡溝（Ｍ１・２号）断面図…… 441
第235図　志筑遺跡溝（Ｍ３号）実測図…… 443
第236図　志筑遺跡溝（Ｍ５号）実測図…… 445
第237図　志筑遺跡溝（Ｍ６号）実測図・断面図…… 447
第238図　志筑遺跡溝（Ｍ６号）平面図…… 448
第239図　志筑遺跡ピット実測図…… 449
第240図　志筑遺跡ピット実測図…… 450
第241図　志筑遺跡ピット実測図…… 451
第242図　志筑遺跡ピット実測図…… 452
第243図　志筑遺跡ピット実測図…… 453
第244図　志筑遺跡円墳１号実測図…… 454
第245図　志筑遺跡円墳２号実測図…… 456
第246図　志筑遺跡円墳３号実測図…… 457
第247図　志筑遺跡円墳４号実測図…… 458
第248図　志筑遺跡円墳４号主体部実測図…… 459
第249図　志筑遺跡円墳４号断面図…… 460
第250図　志筑遺跡円墳５号実測図…… 461

第251図　志筑遺跡円墳５号主体部実測図……467
第252図　志筑遺跡円墳６号実測図……463
第253図　志筑遺跡方墳１号平面図主体部実測図……464
第254図　志筑遺跡方墳１号実測図　(1)……465
第255図　志筑遺跡方墳１号実測図　(2)……466
第256図　志筑遺跡方墳１号実測図　(3)……469
第257図　志筑遺跡方墳２号実測図……471
第258図　志筑遺跡特殊住居遺構平面図……472
第259図　志筑遺跡01号住居址遺物実測図……473
第260図　志筑遺跡04・05号住居址遺物実測図……473
第261図　志筑遺跡02号住居址遺物実測図……474
第262図　志筑遺跡10号住居址遺物実測図……475
第263図　志筑遺跡11号住居址遺物実測図　(1)……475
第264図　志筑遺跡11号住居址遺物実測図　(2)……476
第265図　志筑遺跡13号住居址遺物実測図……477
第266図　志筑遺跡15号住居址遺物実測図……478
第267図　志筑遺跡18号住居址遺物実測図……478
第268図　志筑遺跡19号住居址遺物実測図……478
第269図　志筑遺跡23号住居址遺物実測図　(1)……479
第270図　志筑遺跡23号住居址遺物実測図　(2)……480
第271図　志筑遺跡23号住居址遺物実測図　(3)……481
第272図　志筑遺跡23号住居址遺物実測図　(4)……482
第273図　志筑遺跡20号住居址遺物実測図……482
第274図　志筑遺跡24号住居址遺物実測図……483
第275図　志筑遺跡33号住居址遺物実測図……483
第276図　志筑遺跡25号住居址遺物実測図……483
第277図　志筑遺跡26号住居址遺物実測図……483
第278図　志筑遺跡32号住居址遺物実測図……484
第279図　志筑遺跡31号住居址遺物実測図……485
第280図　志筑遺跡37号住居址遺物実測図……485
第281図　志筑遺跡39号住居址遺物実測図　(1)……486
第282図　志筑遺跡39号住居址遺物実測図　(2)……487

第283図　志筑遺跡39号住居址遺物実測図（3）…… 488
第284図　志筑遺跡40号住居址遺物実測図…… 489
第285図　志筑遺跡44号住居址遺物実測図…… 489
第286図　志筑遺跡47号住居址遺物実測図…… 489
第287図　志筑遺跡45号住居址遺物実測図…… 490
第288図　志筑遺跡46号住居址遺物実測図…… 491
第289図　志筑遺跡50号住居址遺物実測図（1）…… 492
第290図　志筑遺跡50号住居址遺物実測図（2）…… 493
第291図　志筑遺跡51号住居址遺物実測図…… 494
第292図　志筑遺跡50号住居址遺物実測図（3）…… 494
第293図　志筑遺跡55号住居址遺物実測図…… 494
第294図　志筑遺跡53号住居址遺物実測図…… 494
第295図　志筑遺跡54号住居址遺物実測図…… 494
第296図　志筑遺跡52号住居址遺物実測図…… 495
第297図　志筑遺跡57号住居址遺物実測図…… 496
第298図　志筑遺跡12号住居址遺物実測図（縄文）…… 496
第299図　志筑遺跡17号住居址遺物実測図（縄文）（1）…… 497
第300図　志筑遺跡17号住居址遺物実測図（縄文）（2）…… 498
第301図　志筑遺跡22号住居址遺物実測図（弥生）…… 498
第302図　志筑遺跡29号住居址遺物実測図（弥生）…… 499
第303図　志筑遺跡37号住居址遺物実測図（弥生）…… 499
第304図　志筑遺跡56号住居址遺物実測図（弥生）…… 499
第305図　志筑遺跡43号住居址遺物実測図（弥生）…… 499
第306図　志筑遺跡42号住居址遺物実測図（弥生）…… 500
第307図　志筑遺跡土壙12号遺物実測図…… 501
第308図　志筑遺跡小調査区出土遺物実測図…… 501
第309図　志筑遺跡方墳１号周溝部出土遺物実測図…… 502
第310図　志筑遺跡出土遺物実測図…… 503
第311図　志筑遺跡出土遺物実測図…… 504
第312図　志筑遺跡円墳６号遺物実測図…… 504
第313図　志筑遺跡方墳１号遺物実測図（1）…… 504
第314図　志筑遺跡方墳１号遺物実測図（2）…… 504

第315図　志筑遺跡方墳２号遺物実測図…… 504
第316図　松延古墳２号墳出土遺物実測図（1）…… 505
第317図　松延古墳２号墳出土遺物実測図（2）…… 505
第318図-１志筑遺跡04・05・08・09号住居址拓影図…… 506
第319図-２志筑遺跡38号住居址拓影図…… 506
第320図　志筑遺跡04・05・08・09・14・37号住居址拓影図…… 507
第321図　志筑遺跡12号住居址拓影図（1）…… 508
第322図　志筑遺跡12号住居址拓影図（2）…… 509
第323図　志筑墳跡12号住居址拓影図（3）…… 510
第324図　志筑墳跡12号住居址拓影図（4）…… 511
第325図　志筑遺跡17号住居址拓影図（1）…… 512
第326図　志筑遺跡17号住居址拓影図（2）…… 513
第327図　志筑遺跡17号住居址拓影図（3）…… 514
第328図　志筑遺跡17号住居址拓影図（4）…… 515
第329図　志筑遺跡17号住居址拓影図（5）…… 516
第330図　志筑遺跡08・09号住居址拓影図…… 517
第331図　志筑遺跡22号住居址拓影図（1）…… 518
第332図　志筑遺跡22号住居址拓影図（2）…… 519
第333図　志筑遺跡22号住居址拓影図（3）…… 520
第334図　志筑遺跡26・29・33号住居址拓影図…… 521
第335図　志筑遺跡33・37号住居址拓影図…… 522
第336図　志筑遺跡38・40・41・42号住居址拓影図…… 523
第337図　志筑遺跡43号住居址拓影図…… 524
第338図　志筑遺跡44・55・56号住居址拓影図…… 525
第339図　松延古墳２号墳拓影図…… 526

図 版 目 次

上稲吉西原・中佐谷関係遺跡

ＰＬ　1　ＪＫＮ―墳発掘前全景…… 527
ＰＬ　2　ＪＫＮトレンチ…… 527
ＰＬ　3　ＪＫＮ―Ａ・Ｂ遺跡遠景…… 528
ＰＬ　4　ＪＫＮ―Ａ遺跡…… 528
ＰＬ　5　ＪＫＮ―Ｃ遺跡…… 529
ＰＬ　6　ＪＮＴ遺跡…… 529
ＰＬ　7　ＪＮＳ―Ａ遺跡…… 530
ＰＬ　8　ＪＮＳ―Ｂ遺跡…… 530
ＰＬ　9　ＪＫＮ―Ａ01号住居址…… 531
ＰＬ　10　ＪＫＮ―Ａ01号住居址遺物出土状態…… 531
ＰＬ　11　ＪＫＮ―Ａ02号住居址…… 532
ＰＬ　12　ＪＫＮ―Ａ02号住居址炉址…… 532
ＰＬ　13　ＪＫＮ―Ａ03号住居址…… 533
ＰＬ　14　ＪＫＮ―Ａ03号住居址遺物出土状況…… 533
ＰＬ　15　ＪＫＮ―Ａ04号住居址…… 534
ＰＬ　16　ＪＫＮ―Ａ05号住居址…… 534
ＰＬ　17　ＪＫＮ―Ａ06号住居址…… 535
ＰＬ　18　ＪＫＮ―Ａ07号住居址…… 535
ＰＬ　19　ＪＫＮ―Ａ08号住居址…… 536
ＰＬ　20　ＪＫＮ―Ａ09号住居址…… 536
ＰＬ　21　ＪＫＮ―Ａ09号住居址…… 537
ＰＬ　22　ＪＫＮ―Ａ10号住居址…… 537
ＰＬ　23　ＪＫＮ―Ａ11号住居址…… 538
ＰＬ　24　ＪＫＮ―Ａ11号住居址遺物出土状態…… 538
ＰＬ　25　ＪＫＮ―Ａ11号住居址遺物出土状態…… 539
ＰＬ　26　ＪＫＮ―Ａ11号住居址遺物出土状態…… 539
ＰＬ　27　ＪＫＮ―Ａ12号住居址炉址…… 540
ＰＬ　28　ＪＫＮ―Ａ12号住居址…… 540
ＰＬ　29　ＪＫＮ―Ａ01号土壙…… 541

ＰＬ　30　ＪＫＮ－Ａ 03号土壙……541
ＰＬ　31　ＪＫＮ－Ａ 04号土壙……542
ＰＬ　32　ＪＫＮ－Ａ 05号土壙……542
ＰＬ　33　ＪＫＮ－Ｂ 01号住居址……543
ＰＬ　34　ＪＫＮ－Ｂ 02号住居址……543
ＰＬ　35　ＪＫＮ－Ｂ 03号住居址……544
ＰＬ　36　ＪＫＮ－Ｂ 04号住居址……544
ＰＬ　37　ＪＫＮ－Ｂ 05号住居址……545
ＰＬ　38　ＪＫＮ－Ｂ 05号住居址遺物出土状態……545
ＰＬ　39　ＪＫＮ－Ｂ 05号住居址遺物出土状態……546
ＰＬ　40　ＪＫＮ－Ｂ 05号住居址遺物出土状態……546
ＰＬ　41　ＪＫＮ－Ｂ 06号住居址……547
ＰＬ　42　ＪＫＮ－Ｂ 07号住居址……547
ＰＬ　43　ＪＫＮ－Ｂ 07号住居址遺物出土状態……548
ＰＬ　44　ＪＫＮ－Ｂ 08号住居址……548
ＰＬ　45　ＪＫＮ－Ｂ 08号住居址遺物出土状態……549
ＰＬ　46　ＪＫＮ－Ｂ 09号住居址……549
ＰＬ　47　ＪＫＮ－Ｂ 11号住居址遺物出土状態……550
ＰＬ　48　ＪＫＮ－Ｂ 11号住居址……550
ＰＬ　49　ＪＫＮ－Ｂ 12号住居址……551
ＰＬ　50　ＪＫＮ－Ｂ 12号住居址遺物出土状態……551
ＰＬ　51　ＪＫＮ－Ｂ 01号土壙……552
ＰＬ　52　ＪＫＮ－Ｂ 02号土壙……552
ＰＬ　53　ＪＫＮ－Ｂ 03号土壙……553
ＰＬ　54　ＪＫＮ－Ｂ 05号住居址遺物出土状態……553
ＰＬ　55　ＪＫＮ－Ｂ グリッド遺物出土状態……554
ＰＬ　56　ＪＫＮ－Ｂ グリッド遺物出土状態……554
ＰＬ　57　ＪＮＴ グリッド出土遺物……555
ＰＬ　58　ＪＮＴ グリッド出土遺物……555
ＰＬ　59　ＪＮＳ－Ａ 01号住居址……556
ＰＬ　60　ＪＮＳ－Ａ 01号住居址遺物出土状態……556
ＰＬ　61　ＪＮＳ－Ａ 03号住居址……557

ＰＬ　62　ＪＮＳ―Ａ03号住居址遺物出土状態……557
ＰＬ　63　ＪＮＳ―Ａ04号住居址……558
ＰＬ　64　ＪＮＳ―Ａ04号住居址遺物出土状態……558
ＰＬ　65　ＪＮＳ―Ａ05号住居址遺物出土状態……559
ＰＬ　66　ＪＮＳ―Ａ07号住居址遺物出土状態……559
ＰＬ　67　ＪＮＳ―Ａ08号住居址……560
ＰＬ　68　ＪＮＳ―Ａ08号住居址遺物出土状態……560
ＰＬ　69　ＪＮＳ―Ａ19号住居址……561
ＰＬ　70　ＪＮＳ―Ａ19号住居址遺物出土状態……561
ＰＬ　71　ＪＮＳ―Ａ09号住居址……562
ＰＬ　72　ＪＮＳ―Ａ11号住居址……562
ＰＬ　73　ＪＮＳ―Ａ12号住居址……563
ＰＬ　74　ＪＮＳ―Ａ12号住居址遺物出土状態……563
ＰＬ　75　ＪＮＳ―Ａ15号住居址……564
ＰＬ　76　ＪＮＳ―Ａ16号住居址……564
ＰＬ　77　ＪＮＳ―Ａ16号住居址遺物出土状態……565
ＰＬ　78　ＪＮＳ―Ａ17号住居址……565
ＰＬ　79　ＪＮＳ―Ａ20号住居址……566
ＰＬ　80　ＪＮＳ―Ａ20号住居址遺物出土状態……566
ＰＬ　82　ＪＮＳ―Ａ13号住居址……567
ＰＬ　82　ＪＮＳ―Ａ14号住居址……567
ＰＬ　83　ＪＮＳ―Ａ14号住居址遺物出土状態……568
ＰＬ　84　ＪＮＳ―Ａ15号住居址……568
ＰＬ　85　ＪＮＳ―Ａ18号住居址……569
ＰＬ　86　ＪＮＳ―Ａ18号住居址遺物出土状態……569
ＰＬ　87　ＪＮＳ―Ｂ01号住居址……570
ＰＬ　88　ＪＮＳ―Ｂ01号住居址遺物出土状態……570
ＰＬ　89　ＪＮＳ―Ｂ01号土壙……571
ＰＬ　90　ＪＮＳ―Ｂ02号土壙……571
ＰＬ　91　大塚古墳群（ＪＯＴ）発掘前風景　(1)……572
ＰＬ　92　大塚古墳群（ＪＯＴ）発掘前風景　(2)……572
ＰＬ　93　ＪＯＴ―８11号古墳発掘前風景……573

ＰＬ　94　ＪＯＴ－１号古墳発掘前風景……573
ＰＬ　95　ＪＯＴ－１号古墳発掘後全景……574
ＰＬ　96　ＪＯＴ－１号古墳周溝断面……574
ＰＬ　97　ＪＯＴ－２号古墳発掘前風景……575
ＰＬ　98　ＪＯＴ－２号古墳発掘後全景……575
ＰＬ　99　ＪＯＴ－２号古墳石棺……576
ＰＬ　100　ＪＯＴ－２号古墳石棺……576
ＰＬ　101　ＪＯＴ－２号古墳石棺内部状況……577
ＰＬ　102　ＪＯＴ－２号古墳主体部土壙……577
ＰＬ　103　ＪＯＴ－２号古墳土壙……578
ＰＬ　104　ＪＯＴ－２号古墳土壙遺物……578
ＰＬ　105　ＪＯＴ－２号古墳内住居址……579
ＰＬ　106　ＪＯＴ－２号古墳住居址内出土遺物……579
ＰＬ　107　ＪＯＴ－３号古墳発掘前風景……580
ＰＬ　108　ＪＯＴ－３号古墳発掘後全景……580
ＰＬ　109　ＪＯＴ－４号古墳発掘前風景……581
ＰＬ　110　ＪＯＴ－４号古墳発掘後全景……581
ＰＬ　111　ＪＯＴ－５号古墳発掘前風景……582
ＰＬ　112　ＪＯＴ－５号古墳発掘後全景……582
ＰＬ　113　ＪＯＴ－５号古墳周溝断面……583
ＰＬ　114　ＪＯＴ－５号古墳石棺蓋石……583
ＰＬ　115　ＪＯＴ－５号古墳石棺内人骨……584
ＰＬ　116　ＪＯＴ－５号古墳石棺……584
ＰＬ　117　ＪＯＴ－５号古墳主体部土壙……585
ＰＬ　118　ＪＯＴ－５号古墳周溝内遺物出土状況……585
ＰＬ　119　ＪＯＴ－６号古墳発掘前風景……586
ＰＬ　120　ＪＯＴ－６号古墳発掘後全景……586
ＰＬ　121　ＪＯＴ－６号古墳周溝断面……587
ＰＬ　122　ＪＯＴ－６号古墳周溝内出土遺物……587
ＰＬ　123　ＪＯＴ－８号古墳発掘前風景……588
ＰＬ　124　ＪＯＴ－７・８号古墳発掘後全景……588
ＰＬ　125　ＪＯＴ－８号古墳周溝断面……589

ＰＬ　126　ＪＯＴ－８号古墳石棺……589
ＰＬ　127　ＪＯＴ－８号古墳蓋石除去……590
ＰＬ　128　ＪＯＴ－８号古墳石棺内部……590
ＰＬ　129　ＪＯＴ－10号古墳発掘前風景……591
ＰＬ　130　ＪＯＴ－９・10号古墳発掘状況……591
ＰＬ　131　ＪＯＴ－９・10号古墳全掘状況……592
ＰＬ　132　ＪＯＴ－９号古墳土壙……592
ＰＬ　133　ＪＯＴ－10号古墳主体部（北側）……593
ＰＬ　134　ＪＯＴ－10号古墳主体部（南側）……593
ＰＬ　135　ＪＯＴ－11号古墳発掘前風景……594
ＰＬ　136　ＪＯＴ－11号古墳……594
ＰＬ　137　ＪＯＴ－11号古墳トレンチ……595
ＰＬ　138　ＪＯＴ－11号古墳石棺……595
ＰＬ　138　ＪＯＴ－11号古墳石棺内人骨……596
ＰＬ　140　ＪＯＴ－11号古墳石棺……596
ＰＬ　141　ＪＯＴ－12号古墳発掘前全景……597
ＰＬ　142　ＪＯＴ－12号古墳石棺……597
ＰＬ　143　ＪＯＴ－12号古墳石棺蓋石除去……598
ＰＬ　144　ＪＯＴ－12号古墳石棺……598
ＰＬ　145　ＪＯＴ－12号古墳石棺内部……599
ＰＬ　146　ＪＯＴ－12号古墳主体部土壙……599
ＰＬ　147　ＪＯＴ－13号古墳発掘前風景……600
ＰＬ　148　ＪＯＴ－13号古墳周溝断面……600
ＰＬ　149　ＪＯＴ－13号古墳墳丘周溝……601
ＰＬ　150　ＪＯＴ－13号古墳石棺……601
ＰＬ　151　ＪＯＴ－13号古墳石棺内人骨……602
ＰＬ　152　ＪＯＴ－13号古墳石棺内遺物……602
ＰＬ　153　ＪＯＴ－14号古墳発掘後全景……603
ＰＬ　154　ＪＯＴ－15号古墳発掘後全景……603
ＰＬ　155　ＪＫＮ（４），ＪＫＮ－Ａグリッド（１～３，５～８）出土遺物……604
ＰＬ　156　ＪＫＮ－Ａ01（１～３），02（４～８），03（９，10）号出土遺物……605
ＰＬ　157　ＪＫＮ－Ａ03（１），09（２），11（３～８）号住居址出土遺物……606

ＰＬ　158　ＪＫＮ—Ｂ01（１・２）02（３）04（４・５）05（６～８）号住居址出土遺物 607
ＰＬ　159　ＪＫＮ—Ｂ05（１～８），07（９・10）号住居址出土遺物…… 608
ＰＬ　160　ＪＫＮ—Ｂ08（１～10）号住居址出土遺物…… 609
ＰＬ　161　ＪＫＮ—Ｂ09（１～４），12（７・８）号住居址，グリッド（５・６）出土遺物 610
ＰＬ　162　ＪＮＳ—Ａ01（１～６），03（７～10）号住居址出土遺物…… 611
ＰＬ　163　ＪＮＳ—Ａ03（１～８），04（９・10）号住居址出土遺物…… 612
ＰＬ　164　ＪＮＳ—Ａ05（１～３），07（４・５），11（６）12（７～９）号住居址出土遺物…… 613
ＰＬ　165　ＪＮＳ—Ａ12（１～４），13（５～８），14（９・10）号住居址出土遺物…… 614
ＰＬ　166　ＪＮＳ—Ａ15（１～４），16（５・６）17（７～９）19（10）号住居址出土遺物 615
ＰＬ　167　ＪＮＳ—Ａ19（１），20（２・３）号住居址，グリッド（４～６）出土遺物…… 616
ＰＬ　168　ＪＯＴ—２（１～19），５（20）出土遺物…… 617
ＰＬ　169　ＪＯＴ—５出土遺物（1）…… 618
ＰＬ　170　ＪＯＴ—５出土遺物（2）…… 619
ＰＬ　171　ＪＯＴ—５出土遺物（3）…… 620
ＰＬ　172　ＪＯＴ—５出土遺物（4）…… 621
ＰＬ　173　ＪＯＴ—５（１～20）８（21）11（22～32）12（33）13（34～55）出土遺物… 622
ＰＬ　174　ＪＯＴ—７周溝断面…… 623
ＰＬ　175　ＪＯＴ—７発掘後全景…… 623
ＰＬ　176　松延古墳１号墳丘，東側より…… 624
ＰＬ　177　松延古墳１号墳丘，南側より…… 624
ＰＬ　178　松延古墳１号墳発掘状況…… 625
ＰＬ　179　松延古墳１号墳，Ｄトレンチ周溝部…… 625
ＰＬ　180　松延古墳１号墳，Ａトレンチ…… 626
ＰＬ　181　松延古墳１号墳，Ｂトレンチ…… 626
ＰＬ　182　松延古墳２号墳全景…… 627
ＰＬ　183　松延古墳２号墳全景…… 627
ＰＬ　184　松延古墳２号墳周溝Ｆトレンチ…… 628
ＰＬ　185　松延古墳２号墳周溝Ａトレンチ…… 628
ＰＬ　186　松延古墳２号墳石棺…… 629
ＰＬ　187　松延古墳２号墳石棺…… 629
ＰＬ　188　松延古墳２号墳石棺…… 630
ＰＬ　189　松延古墳２号墳石棺内遺物出土状況…… 630

ＰＬ　190　松延古墳２号墳松延古墳主体部出土遺物…… 631
志筑遺跡（ＪＳＺ）
ＰＬ　191　志筑遺跡発掘前の風景 …… 632
ＰＬ　192　志筑遺跡の所在する台地 …… 632
ＰＬ　193　志筑遺跡発掘状況 (1) …… 633
ＰＬ　194　志筑遺跡小調査区発掘状況 (2) …… 633
ＰＬ　195　志筑遺跡小調査区発掘状況 (3) …… 633
住居遺構
ＰＬ　196　志筑遺跡01号住居址 …… 634
ＰＬ　197　志筑遺跡01号住居址貯蔵穴 …… 634
ＰＬ　198　志筑遺跡02号住居址 …… 635
ＰＬ　199　志筑遺跡02号住居址出土遺物…… 635
ＰＬ　200　志筑遺跡04号05号住居址 …… 636
ＰＬ　201　志筑遺跡04号内フラスコ形土壙…… 636
ＰＬ　202　志筑遺跡06号住居址 …… 637
ＰＬ　203　志筑遺跡07号住居址 …… 637
ＰＬ　204　志筑遺跡08号09号住居址 …… 638
ＰＬ　205　志筑遺跡10号住居址 …… 638
ＰＬ　206　志筑遺跡11号住居址 …… 639
ＰＬ　207　志筑遺跡12号住居址 …… 639
ＰＬ　208　志筑遺跡12号住居址 …… 640
ＰＬ　209　志筑遺跡12号住居址出土遺物 …… 640
ＰＬ　210　志筑遺跡13号17号住居址 …… 641
ＰＬ　211　志筑遺跡13号17号住居址 …… 641
ＰＬ　212　志筑遺跡17号住居址出土遺物 …… 642
ＰＬ　213　志筑遺跡17号住居址出土遺物 …… 642
ＰＬ　214　志筑遺跡14号住居址 …… 643
ＰＬ　215　志筑遺跡15号住居址 …… 643
ＰＬ　216　志筑遺跡18号住居址 …… 644
ＰＬ　217　志筑遺跡19号住居址 …… 644
ＰＬ　218　志筑遺跡19号住居址柱穴出土遺物 …… 645
ＰＬ　219　志筑遺跡20号住居址 …… 645

ＰＬ　220　志筑遺跡21号住居址 …… 646
ＰＬ　221　志筑遺跡22・26号住居址 …… 646
ＰＬ　222　志筑遺跡22・26号住居址カマド …… 647
ＰＬ　223　志筑遺跡22・26号住居址出土遺物 …… 647
ＰＬ　224　志筑遺跡23号住居址 …… 648
ＰＬ　225　志筑遺跡23号住居址貯蔵穴出土遺物 …… 648
ＰＬ　226　志筑遺跡24号住居址 …… 649
ＰＬ　227　志筑遺跡25号住居址 …… 649
ＰＬ　228　志筑遺跡27号住居址 …… 650
ＰＬ　229　志筑遺跡28号住居址 …… 650
ＰＬ　230　志筑遺跡31号住居址 …… 651
ＰＬ　231　志筑遺跡31号住居址カマド …… 651
ＰＬ　232　志筑遺跡32号住居址 …… 652
ＰＬ　233　志筑遺跡32号住居址出土遺物 …… 652
ＰＬ　234　志筑遺跡33号住居址方墳２号 …… 653
ＰＬ　235　志筑遺跡33号住居址 …… 653
ＰＬ　236　志筑遺跡35号住居址 …… 654
ＰＬ　237　志筑遺跡37号住居址 …… 654
ＰＬ　238　志筑遺跡39号住居址 …… 655
ＰＬ　239　志筑遺跡39号住居址出土遺物 …… 655
ＰＬ　240　志筑遺跡42号住居址 …… 656
ＰＬ　241　志筑遺跡42号住居址出土遺物 …… 656
ＰＬ　242　志筑遺跡43号住居址 …… 657
ＰＬ　243　志筑遺跡44号住居址 …… 657
ＰＬ　244　志筑遺跡40号住居址 …… 658
ＰＬ　245　志筑遺跡41号住居址 …… 658
ＰＬ　246　志筑遺跡45号住居址 …… 659
ＰＬ　247　志筑遺跡46号住居址 …… 659
ＰＬ　248　志筑遺跡50号住居址 …… 660
ＰＬ　249　志筑遺跡50号住居址出土遺物 …… 660
ＰＬ　250　志筑遺跡51号住居址 …… 661
ＰＬ　251　志筑遺跡52号住居址 …… 661

ＰＬ　252　志筑遺跡54号住居址 …… 662
ＰＬ　253　志筑遺跡55号住居址 …… 662
ＰＬ　254　志筑遺跡56号住居址, …… 663
ＰＬ　255　志筑遺跡56号住居址，炉址 …… 663
ＰＬ　256　志筑遺跡57号住居址 …… 664
ＰＬ　257　志筑遺跡57号住居址，炉址 …… 664

土壙

ＰＬ　258　志筑遺跡土壙02号 …… 665
ＰＬ　259　志筑遺跡土壙03号 …… 665
ＰＬ　260　志筑遺跡土壙04号 …… 665
ＰＬ　261　志筑遺跡土壙05号 …… 666
ＰＬ　262　志筑遺跡土壙06号 …… 666
ＰＬ　263　志筑遺跡土壙08号 …… 666
ＰＬ　264　志筑遺跡土壙10号 …… 666
ＰＬ　265　志筑遺跡土壙11号 …… 667
ＰＬ　266　志筑遺跡土壙12号 …… 667
ＰＬ　267　志筑遺跡土壙13号 …… 667
ＰＬ　268　志筑遺跡土壙14号 …… 667
ＰＬ　269　志筑遺跡土壙15号 …… 668
ＰＬ　260　志筑遺跡土壙17号 …… 668
ＰＬ　271　志筑遺跡土壙18号 …… 668
ＰＬ　272　志筑遺跡土壙20号 …… 669
ＰＬ　273　志筑遺跡土壙21号 …… 669
ＰＬ　274　志筑遺跡土壙25号 …… 669

溝

ＰＬ　275　志筑遺跡　溝（Ｍ１号）東側より …… 670
ＰＬ　276　志筑遺跡　溝（Ｍ１号）東側より …… 670
ＰＬ　277　志筑遺跡　溝（Ｍ１号）全体 …… 670
ＰＬ　278　志筑遺跡　溝（Ｍ３号） …… 671
ＰＬ　279　志筑遺跡　溝（Ｍ３号） …… 671
ＰＬ　280　志筑遺跡　溝（Ｍ５号） …… 672
ＰＬ　281　志筑遺跡　溝（Ｍ５号）土壙22号） …… 672

ＰＬ　282　志筑遺跡　溝（Ｍ６号）…… 673
ＰＬ　283　志筑遺跡　溝（Ｍ６号）（ピット）…… 673
ＰＬ　284　志筑遺跡　溝（Ｍ６号）土壙19号）…… 673
ピット（Pit）
ＰＬ　285　志筑遺跡ピット５…… 674
ＰＬ　286　志筑遺跡ピット６…… 674
ＰＬ　287　志筑遺跡ピット７…… 674
ＰＬ　288　志筑遺跡ピット10…… 675
ＰＬ　289　志筑遺跡ピット11…… 675
ＰＬ　290　志筑遺跡ピット13…… 675
ＰＬ　291　志筑遺跡ピット16…… 676
ＰＬ　292　志筑遺跡ピット18…… 676
ＰＬ　293　志筑遺跡ピット19…… 676
ＰＬ　294　志筑遺跡ピット22…… 677
ＰＬ　295　志筑遺跡ピット25…… 677
ＰＬ　296　志筑遺跡ピット26…… 677
ＰＬ　297　志筑遺跡ピット35…… 678
ＰＬ　298　志筑遺跡ピット36…… 678
ＰＬ　299　志筑遺跡ピット38…… 678
ＰＬ　300　志筑遺跡ピット39…… 679
ＰＬ　301　志筑遺跡ピット40…… 679
ＰＬ　302　志筑遺跡ピット42…… 679
ＰＬ　303　志筑遺跡ピット43…… 680
ＰＬ　304　志筑遺跡ピット49…… 680
ＰＬ　305　志筑遺跡ピット51…… 680
ＰＬ　306　志筑遺跡ピット55…… 681
ＰＬ　307　志筑遺跡ピット56…… 681
ＰＬ　308　志筑遺跡ピット57…… 681
ＰＬ　309　志筑遺跡ピット60…… 682
ＰＬ　310　志筑遺跡ピット67…… 682
ＰＬ　311　志筑遺跡ピット68…… 682
ＰＬ　312　志筑遺跡ピット74…… 683

ＰＬ　313　志筑遺跡ピット75 …… 683
ＰＬ　314　志筑遺跡ピット79 …… 683
円墳・方墳
ＰＬ　315　志筑遺跡円墳１・２・３号北側より …… 684
ＰＬ　316　志筑遺跡円墳１・20号住居址 …… 684
ＰＬ　317　志筑遺跡円墳４・29号住居址出 …… 685
ＰＬ　318　志筑遺跡29号住居址出土遺物 …… 685
ＰＬ　319　志筑遺跡円墳４号主体部・敷石 …… 686
ＰＬ　320　志筑遺跡円墳４号主体部・敷石 …… 686
ＰＬ　321　志筑遺跡円墳５号主体部 …… 687
ＰＬ　322　志筑遺跡円墳５号主体部出土遺物 …… 687
ＰＬ　323　志筑遺跡円墳６号・土壙南側より …… 688
ＰＬ　324　志筑遺跡円墳６号東側より …… 688
ＰＬ　325　志筑遺跡方墳１号主体部 …… 689
ＰＬ　326　志筑遺跡方墳１号・全景 …… 689
ＰＬ　327　志筑遺跡方墳１号周溝小調査区Ｂ２ｉ２・出土遺物状況 …… 690
ＰＬ　328　志筑遺跡方墳１号周溝小調査区Ｂ２ｉ３・出土遺物状況 …… 690
ＰＬ　329　志筑遺跡01・02号住居址出土遺物 …… 691
ＰＬ　330　志筑遺跡02・04・05号住居址出土遺物 …… 692
ＰＬ　331　志筑遺跡04・05・10・11号住居址出土遺物 …… 693
ＰＬ　332　志筑遺跡11号住居址出土遺物 …… 694
ＰＬ　333　志筑遺跡11号住居址出土遺物 …… 695
ＰＬ　334　志筑遺跡12号住居址出土遺物 …… 696
ＰＬ　335　志筑遺跡15・13・17号住居址出土遺物 …… 697
ＰＬ　336　志筑遺跡13・17号住居址出土遺物 …… 698
ＰＬ　337　志筑遺跡18・19・20・22・26号住居址出土遺物 …… 699
ＰＬ　338　志筑遺跡22・26・23号住居址出土遺物 …… 700
ＰＬ　339　志筑遺跡23号住居址出土遺物 …… 701
ＰＬ　340　志筑遺跡23号住居址出土遺物 …… 702
ＰＬ　341　志筑遺跡23号住居址出土遺物 …… 703
ＰＬ　342　志筑遺跡25・29・32号住居址出土遺物 …… 704
ＰＬ　343　志筑遺跡37号住居址出土遺物 …… 705

ＰＬ　344　志筑遺跡39号住居址出土遺物……706
ＰＬ　345　志筑遺跡39号住居址出土遺物……707
ＰＬ　346　志筑遺跡39号住居址出土遺物……708
ＰＬ　347　志筑遺跡40号住居址出土遺物……709
ＰＬ　348　志筑遺跡40・42号住居址出土遺物……710
ＰＬ　349　志筑遺跡42・45・46・47号住居址出土遺物……711
ＰＬ　350　志筑遺跡50号住居址出土遺物……712
ＰＬ　351　志筑遺跡50号住居址出土遺物……713
ＰＬ　352　志筑遺跡50号住居址出土遺物……714
ＰＬ　353　志筑遺跡50・51・52号住居址出土遺物……715
ＰＬ　354　志筑遺跡54・55・56号住居址出土遺物……716
ＰＬ　355　志筑遺跡57号住居址出土遺物……717
ＰＬ　356　志筑遺跡方墳１・２号出土遺物……718
ＰＬ　357　志筑遺跡土壙，小調査区，その他出土遺物……719

（注）遺物番号は図版の実測図と同じである。

第1章　調査の経緯

第1節　調査にいたる経過

1　常磐自動車道の建設

常磐自動車道は，「国土開発幹線自動車道建設法」に基づいて，日本道路公団が，日本全国各地に建設を進めている総延長7,600kmに及ぶ高速自動車国道網の一貫として計画されたものである。

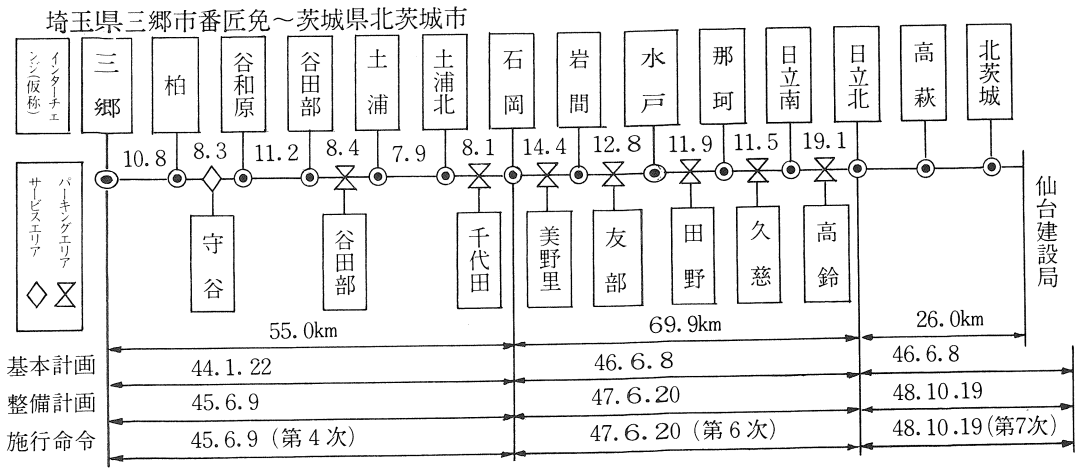
この自動車道の建設の目的は，「国土の普遍的開発をはかり，画期的な産業の立地振興及び国民生活領域の拡大を期するとともに産業開発のために不可欠な基盤である全国的な高速自動車交通網を新たに形成させるため，国土を縦貫及び横断する高速自動車道を開設し，これと関連して新都市及び新農村の建設を促進すること」である。

2　常磐自動車道

常磐自動車道は埼玉県三郷市国道298号線を起点とし，千葉県流山市北部で江戸川を渡り，国道16号線と連結し，利根川を渡って本県の北相馬郡守谷町に入り，研究学園都市付近及び土浦市を経て新治郡千代田村において国道6号線に連結し，さらに石岡市を通り，常総台地を北東に進んで，水戸市の西側から那珂川を渡り，再び国道6号線に接近して日立市に入り，北茨城市を通過して福島県いわき市に至る総延長約179kmの高速自動車道である。

区間及び延長

埼玉県三郷市番匠免～茨城県北茨城市



経過する市町村名

《埼玉県》　三郷市，吉川町

《千葉県》　流山市，柏市

《茨城県》　守谷町，谷和原村，伊奈村，谷田部町，土浦市，桜村，新治村，千代田村，石岡市，美野里町，八郷町，岩間町，友部町，内原町，水戸市，那珂町，東海村，常陸太田市，日立市，十王町，高萩市，北茨城市

《福島県》　いわき市

3　常磐自動車道と埋蔵文化財

本県では，高速自動車道の計画が示された昭和40年代，関係諸機関において文化財，特に埋蔵文化財の分布調査が実施され，県及び日本道路公団はその資料をもとに，その保存策を講ずべくいく度かの協議がなされてきた。

その後，日本道路公団の業務は，設計協議，中杭設置，用地買収と急ピッチで進行し，それに伴って文化財に支障のない工区を発注し，工事が開始され，土盛りによる道路造成，橋りょう工事が進められてきた。

昭和52年度に入り，茨城県教育委員会は，埋蔵文化財の取扱いについて日本道路公団と現地協議，遺跡面積，調査期間などの事務折衝を進め，年度末に茨城県教育委員会の案内で昭和53年度発掘調査実施予定の筑波郡谷和原村，新治郡桜村及び千代田村の各埋蔵文化財包蔵地を踏査した。

その後，茨城県教育委員会を通して日本道路公団から発掘調査の依頼があり，茨城県教育財団では，理事会において発掘調査の受託を決定し，昭和53年度の調査体制等について検討された。

第2節　調 査 の 組 織

昭和53年度，茨城県教育財団は大幅な定員増に伴い，調査課の組織の充実をはかり，円滑な業務の執行をはかるため企画管理班及び調査第一班，調査第二班，調査第三班の四班を編成し，発掘調査に係る企画及び運営，発掘調査に係る出土品の整理ならびに報告書の作成に従事することになった。

本茨城県教育財団は，昭和53年４月１日付けで日本道路公団と常磐自動車道に係る埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し，調査第三班（班長　高根信和，調査員６名）の担当するところとなった。調査地内は谷和原村，桜村，千代田村，調査対象面積は63,126㎡。

千代田村内の「上稲吉西原古墳，上稲吉西原Ａ遺跡，上稲吉西原Ｂ遺跡，上稲吉西原Ｃ遺跡，

中佐谷十百遺跡，中佐谷A遺跡，中佐谷B遺跡」の発掘調査は，主任調査員・倉本冨美男，調査員・高村勇が担当し，調査の補助を宮内良隆が担当した。調査期間は昭和53年4月1日から昭和54年3月31日。

千代田村内「志筑遺跡，大塚9号墳，大塚10号墳」は，昭和53年度，発掘調査を主任調査員・山本貴之，調査員・荒堀彰夫が担当し，調査の補助を洞口正史が担当した。

昭和54年度は，「大塚1号墳，大塚2号墳，大塚3号墳，大塚4号墳，大塚5号墳，大塚6号墳，大塚7号墳，大塚8号墳」の発掘調査を主任調査員・倉本冨美男，主任調査員・中村幸雄が担当し，調査の補助を宮内良隆が担当した。

さらに「大塚11号墳，大塚12号墳，大塚13号墳，大塚14号墳，大塚15号墳」の発掘調査は，主任調査員中村幸雄が担当し，調査の補助を宮内良隆が担当した。

「志筑遺跡，松延1号墳，松延2号墳」の発掘調査は，主任調査員山本貴之，調査員小河邦男が担当し，調査の補助を仙波亨が担当した。

上稲吉西原，中佐谷関係遺跡及び大塚1号墳～大塚8号墳，大塚11号墳～大塚15号墳の出土品等の整理作業は，昭和54年7月1日から主任調査員倉本冨美男が実施。志筑遺跡，松延1号墳，松延2号墳，大塚9号墳，大塚　号墳の出土品等の整理作業は，昭和54年7月1日から主任調査員山本貴之が実施した。

常磐自動車道敷地内埋蔵文化財包蔵地所在一覧表（千代田村内）

整理No.	遺　跡　名	記　号	所　　在　　地
1	上稲吉西原古墳	JKN	新治郡千代田村上稲吉字西原1262—1
2	上稲吉西原A	JKN—A	新治郡千代田村上稲吉字西原1262—43，66
3	上稲吉西原B	JKN—B	新治郡千代田村上稲吉字西原1262—52，53，65
4	上稲吉西原C	JKN—C	新治郡千代田村上稲吉字西原202
5	中佐谷十百遺跡	JNT	新治郡千代田村中佐谷字十百63，65，66
6	中佐谷殿内遺跡	JNTU	新治郡千代田村中佐谷字殿内867—1，2
7	中佐谷A遺跡	JNS—A	新治郡千代田村中佐谷字向山1081—1外6筆，1021
8	中佐谷B遺跡	JNS—B	新治郡千代田村中佐谷字新山1084，1085
9	大塚1号古墳	JOT—1	新治郡千代田村下志筑字大塚837—6
10	大塚2号古墳	JOT—2	新治郡千代田村下志筑字大塚837—6
11	大塚3号古墳	JOT—3	新治郡千代田村下志筑字大塚841—1
12	大塚4号古墳	JOT—4	新治郡千代田村下志筑字大塚841—1
13	大塚5号古墳	JOT—5	新治郡千代田村下志筑字大塚841—1
14	大塚6号古墳	JOT—6	新治郡千代田村下志筑字大塚841—1
15	大塚7号古墳	JOT—7	新治郡千代田村下志筑字大塚1545—5，6

整理No.	遺　跡　名	記　号	所　　在　　地
16	大塚８号古墳	ＪOT－８	新治郡千代田村下志筑字大塚1545－７，８　1549，1553
17	大塚９号古墳	ＪOT－９	新治郡千代田村下志筑字大塚1553
18	大塚10号古墳	ＪOT－10	新治郡千代田村下志筑字大塚1552－１，1553
19	大塚11号古墳	ＪOT－11	新治郡千代田村下志筑字大塚1551
20	大塚12号古墳	ＪOT－12	新治郡千代田村下志筑字大塚1545－15，1542－３
21	大塚13号古墳	ＪOT－13	新治郡千代田村下志筑字大塚841－１
22	大塚14号古墳	ＪOT－14	新治郡千代田村下志筑字大塚841－１
23	大塚15号古墳	ＪOT－15	新治郡千代田村下志筑字大塚837－６
24	松延１号古墳	ＪMN－１	新治郡千代田村下志筑字松延713，740－１
25	松延２号古墳	ＪMN－２	新治郡千代田村下志筑字松延745
26	志筑遺跡	ＪSZ	新治郡千代田村下志筑字松延744外５筆

第3節　調査の経過

昭和53年度の調査は，５月12日筑波郡谷和原村東楢戸古墳において関係者列席のもとにしめやかに常磐自動車道敷地内埋蔵文化財発掘調査の鍬入式を挙行し，千代田村内関係遺跡の発掘調査に入り，南からＪＫＮ，ＪＫＮ－Ａ，ＪＫＮ－Ｂ，ＪＫＮ－Ｃ，ＪＮＴ，ＪＮＳ－Ａ，ＪＮＳ－Ｂ，ＪＯＴ－９，ＪＯＴ－10の９か所を終了した。

昭和54年度は，ＪＯＴ－１～ＪＯＴ－８，ＪＭＮ－１，ＪＭＮ－２の10基の古墳及びＪＳＺについて調査を進めた。

大塚古墳群についての発掘調査の過程で，５基の古墳が確認され，茨城県教育委員会，日本道路公団と協議の結果，発掘調査を受託し，昭和54年９月30日をもって調査を終了した。

調査の方法は，各遺跡ともルートの中心杭を原点とし，東西南北にグリッド（４ｍ）を設定し，第１段階でグリッド数の¼を発掘する。遺構が確認された場合グリッドを拡張して遺構の検出にあたり，写真撮影，実測図の作成へと進めた。

第2章　遺跡の立地と環境

第1節　地理的環境

新治郡千代田村は茨城県のほぼ中央部，恋瀬川と桜川の間を筑波山塊南東山麓から霞ケ浦にむかって半島状に突出する新治台地のほぼ中央に位置する。

村役場の位置は東経140度14分，北緯36度9分。東西・南北ともに約9kmで，面積は49.22㎢，人口19,902人（昭和53・10・1現在），南は土浦市，東は新治郡出島村，北は石岡市，西は新治郡八郷町，西南は新治郡新治村に接し，村の中央部を国道6号線が南北に貫き，東端を国鉄常磐線が走っている。

村の北西の境は筑波山系の山本山（標高178.4m）・雪入山（380m）・浅間山（334.4m）・閑居山（140m）等の山並が続き，その山麓につづく台地は古成層，火山灰土の標高25～30mを測る平地となっている。概して台地の表面は平坦であるが，ところどころに波状の起伏を呈し，その間に樹枝状の支谷が入り込んでいる。

村の北東を恋瀬川が，中央部を天の川が東流し，両河川は村の東北端で合流し，石岡市を経て霞ケ浦に至る。両河川の流域には肥妖な沖積地が展開している。

上稲吉西原古墳，上稲吉西原A・B遺跡は，天の川南岸の支谷に面した台地上に立地し，それぞれ浅い谷を隔てて隣接し，南端から西原古墳・A遺跡・B遺跡と並び，わずか50～100m位の距離にある。また谷を隔てた東側に西田古墳群が立地する。つまり上稲吉西原古墳，西原A・B遺跡と西田古墳群は，天の川南岸の一つの支谷を取り囲むようにして隣接し，対置した遺跡群である。

天の川北岸の台地上に上稲吉西原C遺跡，中佐谷十百遺跡が立地する。天の川の支谷が，台地のほぼ中央にまで入り込み，その奥斜面に中佐谷十百遺跡が位置し，北から西にかけて傾斜している。天の川とその支谷にはさまれ東西に細長く伸びる台地のわずかな平坦部に西原C遺跡が位置している。

中佐谷遺跡は，天の川の支流でその北側を東流する雪入川の北岸の標高25～26mを測る台地上に立地し，幅10数mの小支谷によって二分され，西側がA遺跡，東側がB遺跡である。それぞれ南及び西に緩傾斜をみせるもののほぼ平坦な地形で，本遺跡に接して四万騎古墳群が立地する。

なお，中佐谷A・B遺跡を二分する谷頭から飲用に適する湧き水があり，集落形成に最適であったことが推測される。（中佐谷）

《参考文献》

○茨城県教育委員会「茨城県遺跡地図」茨城県教育委員会　昭和52年３月

○千代田村教育委員会「千代田村史」千代田村教育委員会　昭和45年２月

○「日本地誌　第５巻，関東地方論，茨城県・栃木県」　二宮書店　昭和50年３月

志筑遺跡は恋瀬川の南側に位置し，新治台地の北縁部の標高23～25m の平坦な地形に占地する。また，南側には恋瀬川の支流である天の川，新治台地を横断し肥決な沖積低地を形成し，台地奥深く，谷津，小支谷が入り込んでいる。

天の川は恋瀬川と合流し，霞ケ浦に流入する。恋瀬川と天の川の合流する台地の先端部には，野寺地区，国道６号線付近を市川地区，恋瀬川の上流に向って下志筑，中志筑，上志筑地区となる。恋瀬川の対岸には，千代田村粟田，高倉地区，石岡地区が遠望される。

本遺跡の北側恋瀬川の沖積地に面し農家が点在し，肥妖な水田が，霞ケ浦に向って広がっている状況を鳥瞰することが出来る。

野寺地区，市川地区，下志筑地区の点在する台地を，野寺台地，市川台地，志筑台地と呼ぶ，野寺台地には，千代田村立新治小学校があり隣接する安産の信仰で近郊，近在で有名なる子安神社がある。

市川地区には，国道６号線に沿って陸前浜街道の旧道が断続し，また，県指定文化財「一里塚」がある。

国道６号線より，市川地区，下志筑地区の集落を結ぶ村道がある。この村道を北西に約１km進むと，村道を隔てた南側には，大塚古墳群，北側には松延古墳群，志筑遺跡が位置している。通称志筑原と呼ばれる所で，栗，梨，桑畑，山林（松林）が広がっている。この台地の栗は千代田村の栗の発祥地として有名である。近年に入り梨の生産が増加し，また，蚕産等もさかんである。

志筑台地の東側には恋瀬川に沿って，県道，石岡筑波線があり，石岡市からの交通の便も良い。

今般，茨城県教育財団が発掘調査を実施した遺跡は，千代田村大字愛宕，松延十三塚等の字名のかかる地域である。

地目は，山林，梨，栗，桑畑，雑地であり，大塚古墳群15基，松延古墳群２基，志筑遺跡等，6500㎡で常磐自動車道の敷地内である。（志筑）

第2節　歴史的環境

歴史の宝庫といわれる石岡市の南に位置し，恋瀬川，天の川が流れる新治郡千代田村，この地もまた歴史の宝庫である。千代田村における文化の黎明は，恋瀬川，雪入川，天の川等の流域に起ったと考えられる。

縄文時代の遺跡は，天の川流域においては原山遺跡（茨城県遺跡地名表，通し番号2866），椿堂遺跡（2867），雪入遺跡（2870），太子堂遺跡など周知され，椿堂・太子堂遺跡から鹿の骨や骨角器が豊富に検出され，狩猟による生活が営まれていたことを物語っている。

古墳時代の遺跡としては，雪入川流域の四万騎古墳群（2024），上佐谷遺跡（2011），小池B遺跡（2012），天の川流域の飯塚遺跡（2017），飯塚古墳群（2020），西田古墳群（2023），御手洗古墳群（2025），高峰古墳群（2031）など周知され，西田古墳群から長さ1.8m，幅75cmほどの内部が朱塗りの箱式石棺が人骨，直刀を伴って検出され，裾部には円筒埴輪が多数出土した。

下佐谷十文字土田に至る道路と上佐谷に至る道路にはさまれて二木天神社が祭られてあるが，神社北側畑地より布目瓦が多数出土し，かって当地に寺院が所在していたと考えられる。礎石と思われる巨石は二木天神社の土台となっていて佐谷廃寺と呼ばれている。

上佐谷字下堂には下堂瓦窯址がある。布目瓦の破片が出土していることより前述の佐谷廃寺の瓦を主として焼いた窯であろうと思われる。上佐谷関戸にも二基の瓦窯址がある。布目瓦が10数個出土している。

中佐谷の東南にはり出した台地の突端に笠松城と呼ばれる古城址がある。面積およそ570a，城址の北部に1mたらずの土塁が残っている。

以上のように千代田村には，多くの遺跡が各時代を通じて埋蔵されている。（中佐谷）

《参考文献》

○茨城県教育委員会「茨城県遺跡地図」茨城県教育委員会　昭和52年3月

○茨城県教育委員会「茨城県遺跡地名表」茨城県教育委員会　昭和50年3月

○千代田村教育委員会「千代田村史」千代田村教育委員会　昭和45年2月

新治台地北縁部恋瀬川低地帯南岸に位置する下志筑，市川，野寺の台地に存在する遺跡は広大な規模の遺跡群である。下志筑の志筑台地には，下志筑字前畑・愛宕・雷神山，松延，弁天入内出坪・十三塚等の字名を中心に縄文時代から歴史時代にかかる遺跡がある。

大塚古墳群（笄崎古墳群，松延古墳群を含む）は明治時代に100余の古墳があったとされている。明治37年５月に高野空堂氏が調査し図示した「志筑原古墳群」によると，前方後円墳は５基，直径50ｍの最大級の円墳３基，直径23ｍの大形円墳８基，中形円墳14基，小形円墳71基となっている。（注１）

また，大正大学考古学研究会が昭和47年に調査した鴨台考古（注２）によると，野寺，市川，志筑を合せて86基（前方後円墳３基，帆立貝式古墳（？）１基，円墳81基とされている。「茨城県史料」（注３）によれば，市川地区に10基，下志筑地区に63基が存在することを明らかにしている。しかし，これらの資料によっても，古墳群の総数は確定しがたいと思われる。農耕，造成などにより破壊され，煙滅しているのもかなりあるだろう。これらを含めると100基以上の古墳が点在したと思われる。潮来町，大生原古墳群，常陸太田市梵天山古墳群同様，非常に古墳の多い地域である。

大正末期から昭和初期にかけて，郷土史研究家であった市川地区出身の長谷川辰之助氏が，志筑遺跡，大塚古墳群を紹介している。（注４）

志筑遺跡については，大正大学考古学研究会が分布調査を実施し，縄文時代（中期）弥生時代（後期）古墳時代の遺物散布状況を報告している。（注２）

歴史時代，鎌倉時代から室町時代にかけて，下志筑字松延に集落が存在していたとされる。（注５）

志筑遺跡に隣接する市川地区には，市川遺跡，笄崎古墳群，県指定史跡の熊野古墳（前方後円墳）がある。市川遺跡は昭和42年８月に発掘調査が行なわれ，古墳時代の住居遺構を検出している。（注６）また，熊野古墳の南西部に位置する姥久保古墳の石棺の調査が行なわれている。市川笄崎古墳群の周辺には，縄文時代の土器片，古墳時代の土器片等が散布している。

国道６号線市川地区より東南に位置する野寺地区には，野寺遺跡がある，遺跡は新治小学校及び子安神社の周辺であり，縄文時代，古墳時代の土器片が散布している。下志筑地区より恋瀬川の上流に位置する中志筑には，県指定史跡，志筑城跡がある。この城跡には，縄文式土器片等が散布している。上志筑地区には五輪堂遺跡があり，平安時代に築造されたと言われる願成寺跡がある。

恋瀬川の対岸石岡台地には，県内最大と言われる前方後円墳，県指定史跡，船塚山古墳，愛宕山古墳，国指定史跡，常陸国分寺跡，常陸国分尼寺跡が位置し，先史時代から，歴史時代に至る大小の遺跡群が点在している。（志筑）

註　（注１）「千代田村史」　千代田村教育委員会　昭和45年

（注２）「鴨台考古第２号」　大正大学考古学研究会　昭和48年

（注３）「茨城県史料考古学史料編，古墳時代」　茨城県，県史編さん　昭和49年

（注４）「愛宕遺稿集」　千代田村教育委員会

（注５）新編常陸国誌

（注６）千代田村埋蔵文化財調査報告書１

「市川遺跡，根崎古墳，清水並木経塚」千代田村教育委員会　昭和44年

第３章　上稲吉西原古墳

第１節　遺 跡 の 概 観

上稲吉西原古墳（ＪＫＮ）は新治郡千代田村上稲吉字西原1262―１番地に所在する。

本古墳は，天の川南岸の標高24～25m を測る台地の南端に位置し，およそ50m ほどで土浦市粟野地区に接する。道路用地は本古墳の南半分である。20数年前まで宅地であったが，その後現在に至るまで畑地として利用されていた。墳頂部南側に大小２個の貯蔵穴があり，大きい方は幅0.5m，長さ2.5m，深さ1.6m が存し封土の流出を含めて破損の著しい古墳である。

第２節　調　査　経　過

○昭和53年４月

現地踏査。発掘エリアの確認。日本道路公団石岡工事事務所との協議。千代田村教育委員会への協力依頼。

○昭和53年５月

作業員の募集，現場倉庫の建設，機材器具の購入等発掘準備を進めた。

西原古墳より調査を開始すべく準備を進めていたが，古墳に作付がなされてしまったため，調査を後日に変更。

○昭和53年11月下旬

発掘エリアの草刈り及び清掃，調査区域内の杭打ちを実施した。

杭打ちは，日本道路公団が設定した中心杭「346＋40」を起点とし，磁北方向に四分割して４m方眼の小調査区を設定した。調査区は北から南に向ってＡ・Ｂ・Ｃ……。西から東に向って１，２，３……とした。

○昭和53年12月上旬

墳丘測量と地形図の作成。

○昭和54年２月下旬

墳頂部を中心に東・西・南・北の４方位に幅２m ずつのトレンチを設定，南西墳丘部にグリッドを設定し，トレンチ発掘を開始した。

○昭和54年３月上旬

墳頂部より１m 下の土中よりゴボウがみつかる。ローム層も耕作土と混り合っていて相当攪乱

されている。

墳頂部より12m位下った東トレンチより周溝が確認される。続いて南側トレンチでも周溝が確認される。遺物は極端に少ないが，磨製石斧の先端が出土。

○昭和54年3月7日～9日

東・西・南・北のトレンチ及び東・南の周溝掘りを終了。トレンチ東壁・南壁の断面図実測及び写真撮影を実施する。

○昭和54年3月中旬

墳丘南東部のグリッド発掘により周溝部を確認し，調査を終了する。主体部及びその埋葬施設，外部施設ともに確認ができなかった。

第3第　遺構・遺物

古墳の構造

本古墳は，その約½にあたる面積を有する北西部が高速道路用地外であり，したがって発掘調査区域外である。そのため，古墳の形状・規模等については東と南に設定した幅2mのトレンチおよび墳丘南西面に設定したグリッドの発掘調査によって確認された周溝より算出し，推察した。

〈墳　丘〉

墳丘の形状は円墳である。古墳の規模は周溝を含む直径31.2m，周溝内径約24mほどである。墳丘高は南側周溝から計測して2.06m。東側周溝から計測して2.26mほどである。

封土の構成状態は，ローム土層，漸移層の上に旧表土である黒色土層（厚さ16～20cm程度）があり，その上に褐色のローム土で盛土されている。封土高およそ68cmほどである。

〈周　溝〉

周溝の規模は，最大幅（南周溝）3.7m，最小幅（東トレンチ）3.6m，深さ0.7～0.8mを計測する。溝の断面は上端部が大きく開いてゆるやかに立ちあがる形状を呈している。

〈主体部〉

墳丘および周溝の検出後，墳丘南西斜面におけるグリッド調査，ボーリング棒による検索等を試みたが，主体部の確認はできなかった。

〈外部施設〉

本古墳には，葺石，埴輪という外部施設の存在が認められない。

〈遺　物〉

本古墳に伴う遺物の出土はみられない。

磨製石斧の先端が出土したにとどまる。

第４章　上稲吉西原Ａ遺跡（ＪＫＮ－Ａ）

第１節　遺跡の概観

本遺跡は新治郡千代田村上稲吉字西原1262番地の43・66に所在する。

本遺跡は天の川流域の支谷に面した標高26～27m の台地上に立地し，畑地として利用されている。遺跡の南西約200m の地に上稲吉西原古墳が，北東および100m の地に上稲吉西原B 遺跡が，谷を隔てた南側に西田古墳群が所在する。北方に筑波山及び筑波山系の山々と中央青年の家を望む景勝の地である。発掘調査前は前述したように畑地で，甘藷，落花生，グラジオラス，ひまわり等が栽培されていた。調査対象面積1,520㎡。

第２節　調査経過

○昭和53年４月

現地踏査の実施と発掘エリアの確認をする。

○昭和53年５月

遺跡内に作付けがなされてしまったため，本遺跡の調査を収穫後とする。

○昭和53年11月中旬

遺跡の清掃。発掘調査区設定のため杭打ちを実施する。杭打ちは中心杭「349＋00」を起点とする。調査区数139。

○昭和53年11月下旬

排土処理場を上稲吉B 遺跡南側斜面とし，立木の伐開及び草刈りを実施，本遺跡の第１次調査に入る。黒曜石２片出土する。

発掘調査の中心が西原A 遺跡に移ったことにより，中佐谷A 遺跡に設置しておいた現場倉庫を本遺跡に移設する。

○昭和53年12月上旬

第１次調査を続行する。９基の住居址状遺構及び土壙状遺構が５基確認される。

○昭和53年12月20日

発掘用具・器材等を点検・整備し現地作業を終了。年末に入る。

○昭和54年１月上旬

発掘用具の点検，作業員への連絡など発掘作業再開について準備をすすめる。

遺構の呼称については，北から南へ，西から東への順序で01・02・03号住居址…，01・02・03号土壙……とし，その後は確認順とする。

10日，発掘調査再開。

○昭和54年1月中旬

01・02・03・04・05号住居址状遺構の検出に入る。

○昭和54年1月下旬

前述の住居址の遺構検出に並行して，06・07・08・09号住居址及び03号土壙の遺構検出に入る。01・02・03・05・06・09号住居址についてはセクション実測，写真撮影を逐次行なう。

住居址周辺の表土除去作業により新たに2基の住居址状遺構が確認され，10・11号号住居址と命名する。

○昭和54年2月上旬

前述の住居址発掘を続行する。01・02・03・09号住居址，03号土壙についてはセクション，平面プラン，遺構，遺物等の実測，写真撮影を行なう。

新たに01号土壙の検出に入る。次いで1基の住居址状遺構が確認される。12号住居址と命名。

○昭和54年2月中旬

住居址，土壙の検出を続行，並行して10・11・12号住居址，02・04・05号土壙の検出に入る。05・06・07・08号住居址，01・04・05号土壙については発掘が終了し，平面プラン実測に入る。

○昭和54年2月下旬

05・06・07・08号住居址，01・04・05号土壙についてそれぞれ実測が終了する。02号土壙は発掘の進行によって甘藷の貯蔵穴と判明したので放棄する。

10・11・12号住居址の発掘が終了し，セクション，平面プランの実測を開始する。

○昭和54年3月上旬

10・11・12号各住居址について，セクション，平面プラン，エレベーションなどの実測，写真撮影を実施し遺構検出を終了させ，プランのはっきりしない04号住居址の検出に取り組む。

3月6日，04号住居址の形態がはっきりする。調査員の喜びひとしお。実測，写真撮影を実施して本遺跡の発掘調査を終了する。

第3節　遺構・遺物

(1) 遺　構

1　住　居　址

01号住居址（第8図）

本住居址はH－3・H－4・I－3・I－4・J－3・J－4に確認され，調査地区の北西で11号住居址の北東約4mに位置する。

主軸方向はN－42－Wで，長径5.2m・短径4.4mほどの隅丸方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層面に検出され，壁はいずれも外反して立ちあがり，壁高は44～52cmほどである。床はロームで硬くしまっていて，ほぼ平坦な床面を呈している。

炉址は床の中央部よりやや北側よりに位置し，長径96cm・短径72cmほどの隅丸長方形の平面形を呈し，皿状に9cmほど掘られ，焼土や炭化物が充満していた。

ピットは4個検出され，各々対角線上に位置し，直径は大きく深さもかなり深い。いずれも主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	45	44	74	主　柱　穴
P 2	51	48	63	〃
P 3	58	54	45	〃
P 4	58	56	70	〃

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，Ⅰ層，Ⅱ層，Ⅲ層はかたくしまっているが粘性なく，ローム粒子，ロームブロック，炭化物を含む暗褐色土が堆積し，最下層は粘性のあるかたくしまったローム粒子を多量に含む褐色土がみられる。

遺物はP 1西側コーナーより紡錘車3個（第48図3・4・5），炉址北西端より弥生式土器片が出土している。

02号住居址（第9図）

本住居址はM－4・M－5・N－4・N－5に確認され，調査地区西端，01号住居址の南々東約12mに位置している。

主軸方向はN－34.5°－Wで，長径4.5m・短径4.25mほどの隅丸方形の平面形を呈し，炉址周辺

部より焼土が床面上に検出されている。

遺構は表土下第Ⅱ層から検出され，壁はいずれも外反して立ちあがり，壁高は53～58cmほどであり，壁下に溝は認められない。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬くしまった床面を呈している。炉址は床の中央部よりやや北側よりに位置し，長径80cm・短径69cmほどの楕円形の平面形を呈し，皿状に８cmほど掘られ，炭火物を多量に含む焼土がみられ，炉床には硬く焼けたロームがみられ，炉址南側より上面に長径15cm・短径14cm・厚さ５cmほどの炉石がみられた。

ピットは５個検出されたが，主柱穴としてはＰ１～Ｐ４が考えられる。各々対角線上に位置している。直径はＰ４だけ他より大きく，深さはいずれのピットもかなり深いが，ほぼ平均している。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
Ｐ１	45	44	74	主　柱　穴
Ｐ２	51	48	63	〃
Ｐ３	58	54	45	〃
Ｐ４	58	59	74	〃
Ｐ５	16	14		

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層はローム粒子を含む暗褐色土および黒褐色土の堆積がみられ，最下層はよくしまった粘性のある粘土ブロックを含む褐色土の堆積がみられる。

遺物は覆土から滑石製の紡錘車（第50図4，５，６，７）４個，壺形土器，器台形土器が出土している。

03号住居址（第10図）

本住居址は０－６・０－７・Ｐ－６・Ｐ－７にわたって確認され，調査地区の南西に位置し，02号住居址の南東およそ7.5mのところにある。

主軸方向はＮ－13°－Ｗで，長径４ｍ・短径3.4mほどの隅丸方形の平面形を呈している。遺構は表土下第Ⅱ層から検出され，各壁とも外反して立ちあがり，壁高は41～45cmほどである。壁下に溝は認められない。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬くしまった床面を呈している。炉址は床の中央部よりやや北よりに位置し，長径82cm・短径41cmの隅丸長方形の平面形を呈し，皿状に８cmほど掘りこまれ，焼土粒子を含む暗褐色土がみられる。

ピットは４個検出され，各々対角線上に位置し，本住居址の主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	40	29	41	主　柱　穴
P 2	31	28	23	〃
P 3	32	28	21	〃
P 4	33	30	16	〃

遺物はP 1～P 4の間およびP 4東側付近を中心に弥生式土器片がみられ，壺（第49図1・2）が出土している。

04号住居址（第11図）

本住居址はC－10・C－11・C－12・D－10・D－11・D－12にわたって確認され，調査地区の中央部最北端に位置し，05号住居址の北北西5mのところにある。

主軸方向はN－52°－Eで，長径6.1m，短径5mほどの方形の平面形を呈し，床面中央部よりやや北側よりP 1～P 2の間に長径1.95m・短径0.9mほどの範囲で焼土がみられた。

遺構は表土下第Ⅱ層から掘りこまれ，壁はいずれも外反して立ちあがり，壁高は10～37cmほどで，西壁は低い。床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬質の床面を呈している。壁下に壁溝は認められない。

ピットは4個検出され，直径は大きく，深さもかなりあり，各々対角線上に位置し，主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	42	38	55	主　柱　穴
P 2	50	49	90	〃
P 3	50	43	59	〃
P 4	41	39	40	〃

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層には褐色土及び黒褐色土が堆積し，遺構中央部においては焼土が認められ最下層は焼土ブロック，焼土粒子を多量に含む褐色土の堆積がみられる。

遺物は，土師式土器片がほとんどで，土玉（第51図2）・高杯（脚部）（第51図1）および弥生式土器の破片も出土している。

05号住居址（第12図）

本住居址はE—11・E—12・F—11・F—12・G—11・G—12にわたって確認され，調査地区中央部の北よりに位置し，04号住居址の南々東5m，07号住居址の北西3mのところにある。

主軸方向はN—85°—Wで長径6.1m・短径6mほどの方形の平面形を呈している。遺構は表土下第Ⅱ層より検出され，壁はいずれも外反して立ちあがり，壁高は37～46cmほどで，壁下には溝が南西コーナーを除いて周回している。壁溝の幅は17～27cmほどである。床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬質の床面を呈する。

炉址は床面中央部よりやや北壁よりに位置し，長径64cm・短径60cmほどの円形の平面形を呈し皿状に5cmほど堀りこまれている。炉址内部には炭化物，焼土粒子を含む暗褐色土が充満し，炉床には焼土を少量含む黄褐色土がみられる。

ピットは4個検出され，各々対角線上に位置し，本住居址の主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	63	61	48	主　柱　穴
P 2	48	42	31	〃
P 3	67	64	48	〃
P 4	54	53	50	〃

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層にはローム粒子を多量に含む褐色土，暗褐色土が堆積し，最下層には部分的に黒色土ブロックを含むローム粒子の暗褐色土の堆積がみられる。

06号住居址（第13図）

本住居址はI—11・I—12・J—11・J—12にわたって確認され，調査地区中央部に位置し，05号住居址の南10m，01号住居址の東27.5mほどのところにある。

主軸方向はN—13°—Wで，長径4.38m・短径3.55mほどの方形の平面形を呈している。遺構は表土下第Ⅱ層面から掘りこまれ，壁はいずれも外反して立ちあがり，壁高は19～25cmである。壁下に壁溝は認められない。

床はロームであり炭化物を少量含み，ほぼ平坦をなし，壁面近くでやや深くなり，硬くしまった床面を呈す。床面中央部に，長径1.45m・短径45cm・高さ9～11cmの焼土塊があり，上層は焼土ブロックを多量に含む暗赤褐色土が充満し，下層はローム ブロックを含む暗黄褐色土の堆積がみられる。

ピットは4個検出され，各々対角線上に位置し，主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	34	33	22	主　柱　穴
P 2	27	26	25	〃
P 3	41	31	30	〃
P 4	29	28	23	〃

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は黒褐色土，暗褐色土が堆積し，最下層には炭化物を少量含む褐色土の堆積がみられる。

遺物は，土師式土器の破片が１区と４区に集中してみられ，甕形土器（第53図１），器台形土器（第53図３）が出土している。

07号住居址（第14図）

本住居址はＦ―13・Ｆ―14・Ｇ―13・Ｇ―14で確認され，調査地区中央部よりやや東よりに位置し，日本道路公団が設定した中心杭「349＋00」が，ほぼ本住居址の中心にあたる。

主軸方向はＮ―16°―Ｗで，長径3.1m・短径2.95mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下層面に検出され，いずれの壁も外反して立ちあがり，壁高は16～21cmほどである。壁下に壁溝は認められない。

床はロームであり，床面はほぼ平坦であるが，ピットの位置から各壁にかけてやや高くなっている。

ピットは４個検出され，各々対角線上に位置し，主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	41	40	38	主　柱　穴
P 2	32	24	39	〃
P 3	38	30	27	〃
P 4	64	54	48	〃

住居址内覆土は，攪乱されているが，自然堆積の状態を示し，覆土上層は暗褐色土，黒褐色土が堆積し，最下層はローム粒子，ロームブロックを含む褐色土の堆積がみられる。

遺物は住居址中央部より東より覆土から土師式土器の破片（胴部）が４片出土したのみである。

08号住居址（第14図）

本住居址はＫ―15・Ｋ―16・Ｌ―15・Ｌ―16で確認され，調査地区の東側に位置し，12号住居

址の南13m ほどのところにある。

主軸方向はN —22.5—E で，長径5.5m ・短径4.65m ほどの方形の平面形を呈している。遺構は表土下第Ⅱ層面から掘りこまれ，北壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがり，他の壁はいずれもなだらかに外反して立ちあがる。壁高は11～19cmほどで，壁下に壁溝は認められない。

床はロームであり，西および南にやや傾斜し硬質の床面を呈している。炉址は認められない。

ピットは４個検出され，直径はかなり大きく，各々対角線上に位置し，本住居址の主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
Ｐ１	59	50	39	主　柱　穴
Ｐ２	41	32	37	〃
Ｐ３	44	40	41	〃
Ｐ４	43	40	31	〃

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は暗褐色土が堆積し，最下層はかたくしまり粘性のある褐色土の堆積がみられる。

遺物は住居址中央西側よりから土師式土器の破片６個が出土したのみである。

09号住居址（第15図）

本住居址はG —９・G —10・H —10で確認され，調査地区中央部に位置し，05号住居址の南西６ｍほどのところである。

主軸方向はN —23.5°—E で，長径3.95m ・短径3.15m の隅丸方形の平面形を呈している。遺構は表土下第Ⅲ層面に検出され，壁はいずれも外反して立ちあがる。壁高は51～61cmとかなり深く掘られている。壁下に溝は認められない。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬くしまった床面を呈す。炉址は床面中央より北西よりに位置し，長径50cm・短径38cmほどの楕円形の平面形を呈し，皿状に４cmほど掘られ，暗赤色の焼土が堆積している。

ピットは４個検出されたが，Ｐ１・Ｐ２の２個は住居址中央，東と西に対置し，Ｐ３・Ｐ４は住居址南側中央に接してあり，Ｐ４は深さが４cmほどしかないことからＰ３に付属するものと考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	50	47	72	主　柱　穴
P 2	33	29	68	〃
P 3	31	21	32	〃
P 4	29	22	4	〃

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は黒褐色土が堆積し，最下層はロームブロック，炭化物を含む暗褐色土の堆積がみられる。

遺物は２区P ２付近より壺形土器（第54図１・２）・器台形土器（第54図４）が出土している。

10号住居址（第15図）

本遺跡はJ —17・J —18・K —18で確認され，調査地区最東端に位置する。本住居址の南東５mほどのところに８号住居址がある。

主軸方向はN —67°—Wで，長径3.75m・短径3.53mほどの方形の平面形を呈している。遺構は表土下第Ⅱ層から掘りこまれ，壁はいずれも外反して立ちあがり，壁高は14～27cmほどである。壁下に溝は認められない。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬くしまった床面を呈している。炉址は認められず，ピットも検出できない。

遺物は土師式土器の破片が５点出土したのみである。

11号住居址（第16図）

本住居址はJ —（—１）・J —１・J —２・K —（—１）・K —１・K —２・L —１・L —２に確認され，調査地区の西側端に位置し，01号住居址の南東４mほどのところにある。

主軸方向はN —40°—Wで，長径6.65m・短径6.6mの隅丸方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層から検出され，ほとんどの壁は外反して立ちあがる。壁高は30～39cmほどで壁下に溝は認められない。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬質の床面を呈す。炉址は床面中央部よりやや西コーナーよりでP ４～P １の間に位置し，長径1.13m・短径70cmほどの小判形の平面形を呈し，皿状に10cmほど掘られ，炉址中央部には長径20cm・短径14cm・厚さ３cmほどの炉石がみられる。炉址内部には，炭化物，焼土粒子を含む黒褐色土が充満し，炉床は焼けてかたくなった赤褐色土がみられる。

ピットは5個検出され，P 1～P 4は各々対角線上に位置し，P 5はP 3，P 4の中間で壁よりに位置する。いずれも直径，深さから考えて主柱穴と思われる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	37	30	75	主　柱　穴
P 2	44	35	76	〃
P 3	52	40	70	〃
P 4	53	42	76	〃
P 5	46	39	75	〃

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は暗褐色土，黒褐色土が堆積し，最下層はしまりのある，ローム粒子を含む黄褐色土の堆積がみられる。

遺物は1区・2区・4区より各々紡錘車（第56図1，2，3，4）が出土している。

12号住居址（第17図）

本住居址はF－16・F－17・G－15・G－16・G－17・H－16に確認され，調査地区の北東に位置し，07号住居址の東およそ5.5mほどのところである。

主軸方向はN－18.5°－Eで，長径5.61m・短径5.06mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層面から掘りこまれ，壁はいずれも外反して立ちあがり，壁高は36～40cmほどである。壁下に溝は認められない。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬質の床面を呈している。炉址は床面中央部よりやや北よりで，P 1～P 2の中間に位置している。長径81cm・短径61cmほどの楕円形の平面形を呈し，皿状に13cmほど掘られ，内部には焼土粒子，焼土ブロックの黒褐色土がみられ，炉床は焼けてかたくしまった黄褐色土がみられる。

ピットは4個検出され，各々対角線上にあり，直径，深さとも平均しており，主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	39	38	58	主　柱　穴
P 2	28	24	46	〃
P 3	38	34	51	〃
P 4	38	33	55	〃

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層はローム粒子，炭化物，焼土を含む黒褐色土

が堆積し，最下層は焼土，スコリア，粘土ブロックを多量に含む暗褐色土が堆積している。

遺物は弥生式土器，土師式土器ともに破片が多く，高杯（第55図２），甕形土器（第55図３）が出土している。

01号土壙（第18図）

本址はG－７・G－８にわたって確認され，調査地区の北西部に位置する。主軸方向はN－59°－Eであり，長径2.17m・短径１mほどの方形の平面形を呈している。

遺構検出面から床までの深さは51～54cmほどで，壁はいずれも外反して立ちあがる。遺構内覆土は自然堆積の状態を示している。床はロームであり，平坦をなしているが硬いものではない。

遺物の出土は全くなく，本址の時期等は不明である。

(2) 遺　　物

01号住居址

本址からの遺物の出土は少なく，弥生式土器および土製品が東壁，南壁より床面直上に浮いた状態で出土し，土器はすべて破砕している。

土　器（第48図１～５）

１は北西コーナーの床面直上から出土した弥生式土器の底部である。底径4.2cmを測り，平底である。

器外面は全体に縄文が施文され，底部は篦削りされている。器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調はにぶい黄橙色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含み，焼成は良好である。

２は炉址北部の床面直上から出土した弥生式土器（壺）で，口径14.8cm・現高11cmを測り頸部以下欠損している。複合口縁を呈し，口縁は外反する。

口縁部は無文でその下を縄文原体による刺突痕で飾り，その上に径１cm・高さ６cmほどの瘤が３対突出している。口唇部にも縄文原体による押圧がなされ，頸部には羽状縄文が施文されている。

色調は明黄褐色を呈し，胎土中に砂礫を多く含み，焼成は良好である。

土製品

３～４は１と同じ場所から出土した紡錘車の完形品である。３の形状はほぼ円形で直径4.5cm，厚さ1.5cmを測り，重量は35g，中央に直径３～４mmほどの貫通孔を有する。表裏面に文様を全く

施文しない。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含み，焼成は良好である。

4は形状がほぼ円形で直径4.7～4.9cm，厚さ1.8cmを測り，重量は55g，中央に直径5mm前後の貫通孔を有する。表面に刺突文が施文されている。

色調は灰黄褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

5は南東壁中央部に近い床面直上に出土した紡錘車で，完存率½。形状はほぼ円形で直径5.2cm，厚さ1.5cmを測り，中央に径8mm前後の貫通孔を有する。表裏面への施文は全くない。

色調はにぶい黄褐色を呈し，胎土中に砂礫を含み焼成は良好である。

02号住居址（第50図1～7）

本址からの遺物の出土状態は北西コーナーおよびP 4付近から弥生式土器の破片，紡錘車が出土しているが，その数は極めて少ない。

土　器

1はP 4東部の床面直上に出土した弥生式土器の器台形土器である。脚部のみ完存し，裾径8.4cm，現高5.9cmを測り，脚部は結合部からゆるやかなカーブを描いて裾部に移行する。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土は砂礫を含み，焼成は良好である。

2はP 4西部床面直上から出土した弥生式土器の壺形土器である。胴部下半のみ遺存し，底部は欠失している。

器外面全体に羽状縄文が施文され，器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調はにぶい黄橙色を呈し，胎土中に砂礫を含み，焼成は良好である。

3は北西コーナー部の覆土第Ⅰ層から出土した弥生式土器の壺形土器である。胴部下半および底部が遺存している。底部径4.6cmを測り平底である。

器外面全体に附加条縄文が羽状に施文され，底部は篦削りである。器内面は全体に篦ナデ整形がみられる。

色調はにぶい黄褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む，焼成は良好である。

石製品

4～7は北西コーナーの覆土上層から出土した滑石製の紡錘車であり，7は一部欠失があるが他は完形である。すべて断面梯形を呈し，中央部に貫通孔を有する。

4の上部径2.6cm・下部径4.2cm・厚さ1.1mm・重量30g を測る。色調は黒褐色を呈す。

5の上部径2.55cm・下部径5.4cm・厚さ1.1cmを測り，色調は黒色を呈す。

６の上部径2.1cm・下部径4.2・厚さ0.7cmを測り，色調は黒褐色を呈す。

７の上部径1.6cm・下部径5.0cm・厚さ1.2cmを測り，色調は黒褐色を呈す。

03号住居址（第49図１～３）

本址からの遺物の出土状態は，炉址の西側床面上およびＰ４東側床面上から弥生式土器の破片が出土し，その数は極めて少ない。

土　器

１は炉址西側床面から出土した弥生式土器の壺形土器であり，口縁部および頸部が遺存し，口唇部その他は欠失している。口径17.4cm・現高16.8cmを測る。口縁部はなだらかに外反する。

器外面は全体に附加条縄文が羽状に施文され，器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

２はＰ４東側床面上に出土した弥生式土器の壺形土器である。胴部下半および底部が遺存する。底部径8.4cmを測り平底である。現高は11.3cm，器外面は附加条縄文が施文され，底部は篦削り整形，器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調はにぶい褐色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は普通である。

３は２と同じ位置から出土した土師式土器の壺形土器の胴部下半であり，胴部は底部より内彎して立ちあがる。底部径６cmを測り平底である。

器外面は篦削り整形，器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調は黒褐色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好である。

04号住居址（第51図１～２）

本址の遺物の出土状態は，弥生式土器，土師式土器のともに小片が覆土より出土し，ほとんどが復元不可能である。

土　器

１は南コーナー部床面上に浮いた状態で出土した土師式土器の高杯であり，杯部底部から，脚部にかけて遺存し，裾部は欠失している。裾部径4.7cm・脚部高5.5cmを測る。脚部は内彎ぎみに立ちあがる。

器外面は篦ミガキ整形がみられ，器内面は篦ナデ整形。

色調は明赤褐色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は良好である。

土製品

２はＰ４付近から出土した土玉であり，完形である。重量は17.5g，直径2.7cm前後の球形で，径６mmの中央に貫通孔がある。

色調はにぶい褐色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は良好である。

05号住居址（第52図１～２）

本址の遺物の出土状態は土師式土器小片を中心に多数出土し，弥生式土器の破片も出土している。

土　器

１は床面北西より覆土および南東壁よりの床面直上から出土した小片を接合した土師式の甕形土器である。胴部⅖が遺存し，口頸部および底部が欠失している。頸部径11.2cm，胴部最大径13.4cm，現高10.5cmを測り，口縁はＳ字状口縁を呈すると推定される。

器外面は刷毛目の整形がみられ，器内面は篦ナデ整形がみられるがかなり磨滅ぎみである。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は良好である。

２は北壁中央部床面直上の覆土より出土した土師式の坩形土器であり，口縁部から胴部にかけて，ほぼ⅘を遺存し，底部は欠失している。

口径13.1cm・現高8.5cmほどを測り，底部から外傾して立ちあがる。

器外面は全体に朱が塗ってあり，篦磨き整形がみられる。器内面は篦ナデがみられるが，磨滅ぎみである。

色調は明赤褐色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は良好である。

06号住居址（第53図１～３）

本址からの遺物の出土状況は土師式土器の破片のみで，覆土より多数出土している。

土　器

１は南壁中央部近くの覆土より出土した土師式の甕形土器であり，頸部および口縁部が遺存し，胴部および底部は欠失している。

口径18.3cm・頸部径15.9cmを測り，口縁部は「く」の字状に外反して立ちあがる。

器外面，器内面ともに篦ナデ整形がみられ，色調はにぶい橙色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は良好である。

２は北東コーナーの床面直上に出土した土師式土器の底部である。底径3.5cm，胴部はゆるやか

に外彎して立ちあがる。器外面は横位の篦削り。器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調はにぶい黄橙色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は良好である。

3はP 4南側の床面上に浮いた状態で出土した器台形土器の杯部である。口径7.4cm,ゆるやかに外反して立ちあがり，上部⅓ほどは内傾する口縁部をもつ。

器外面は篦削り，口縁部は篦ナデ，器内面は篦磨きの整形がみられる。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

09号住居址（第54図1～4）

本址からの遺物の出土状態は，弥生式土器，土師式土器のともに胴部の破片が中心であり，量は少ない。

土　器

1はP 2に接する北側床面直上から出土した弥生式土器で，広口長胴壺である。底部および胴部の¼ほどが遺存し，頸部および口縁部は欠失している。

底部径9 cmを測り，わずかに上げ底を呈している。胴部最大径は19cm前後を測る。胴部上位が張り，以下なだらかにすぼまる。

器外面は全体に附加条縄文が施文され，底部には木の葉圧痕がみられる。器内面は全体に篦ナデ整形がなされている。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土中に砂礫を含み，焼成は良好である。

2は遺構中央部より南東によった床面に出土した弥生式土器の壺形土器であり，頸部から口縁部にかけて残存し，その他は欠失している。

口径15cm・現高13.1cmを測り，広口で口辺部は外反する。

器外面は，口縁端部に縄文原体による押圧の施文がみられ，口縁部は附加条縄文による羽状文が施文され，肩部には附加条縄文の施文がみられる。器内面は全体に篦ナデ整形がなされている。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

3は南壁中央部より，床面直上に出土した弥生式土器の底部である。底径11.7cm・現高2.7cmを測る。器外面は全体に附加条縄文が施文され，底部に木の葉圧痕がみられる。器内面は篦ナデ整形がなされている。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好である。

4は遺構中央部より東よりの覆土から出土した土師式土器（高杯）の脚部である。裾部および杯部は欠失している。現高3.3cm前後である。

器外面は篦磨き。器内面は篦削り整形がみられる。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含み焼成は良好である。

11号住居址（第56図１～５）

本住居址からの遺物の出土状態は，弥生式土器の小破片と土師式土器の小破片がわずかに出土し，他に紡錘車が４点出土したのみである。土器の復元は不可能である。

土製品

１～４は土製紡錘車の完形品である。形状はほぼ円形で，中央に貫通孔を有している。

１は直径5.2cm前後，厚さ1.5cm，貫通孔径５mmを測る。表裏面にはともに５～６列に同心円形および放射状の刺突文が施文されている。

色調は明黄褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

２は直径5.3cm，厚さ1.2cm，貫通孔径５mmを測り，貫通孔より４cmほど隔てて同心円形の刺突文が１列施文されている。（片側）

色調は明黄色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

３は直径3.2cm，厚さ2.0cm，貫通孔径4.5mmを測り，断面梯形を呈している。表裏面に施文は全くない。

色調は橙色を呈し，胎土中砂礫を含む。焼成は良好である。

４は直径3.95cm，厚さ1.3cm，貫通孔径４mmほどを測る。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

12号住居址（第55図１～３）

本住居址からの遺物の出土状態は弥生式土器の小破片，土師式土器の小破片が出土し，土師式土器の破片は覆土よりかなり出土しているが復元は不可能である。

土　器

１は中央部西よりに床面直上から出土した弥生式土器の小形壺であり，口縁部が欠失している。底形６cm，現高８cm，胴部最大径8.8cmを測る。胴部は上位が張り，以下なだらかにすぼまり，底部は平底でわずかに上げ底を呈している。

器外面は，胴部全体に附加条縄文が施文され，頸部には櫛歯状工具による簾状文の施文がみられる。底部は篦削り整形が認められ，器内面は全体に篦ナデ整形がみられる。

色調は黒色を呈し，胎土中には砂礫を含む。焼成は良好である。

２は１の位置の北西覆土第Ⅰ層から出土した弥生式の高杯形土器で，脚部のみ残存し，他は欠

失している。裾部径６㎝，現高６㎝を測る。

器外面は，杯部に附加条縄文が施文され，脚部は篦削り整形が認められ，底部には木の葉圧痕がみられる。器内面は全体的に篦ナデ整形がなされている。

色調はにぶい黄橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好である。

３は北西コーナー部の覆土第Ⅰ層から出土した土師式土器の底部である。底径6.2㎝，現高5.3㎝を測る。

器外面は篦削り整形がみられ，器内面は磨滅により不明である。

色調はにぶい赤褐色を呈し，胎土中には砂礫を多く含む。焼成は普通である。

第５章　上稲吉西原Ｂ遺跡（ＪＫＮ－Ｂ）

第１節　遺跡の概観

本遺跡は新治郡千代田村上稲吉字西原1262番地の52・53・65に所在する。

前述の上稲吉西原古墳，上稲吉西原Ａ遺跡等と同台地上の最北端に立地し，天の川の氾濫原を足下にみおろす台地の突端にある。対岸には上稲吉西原Ｃ遺跡がみえる。

遺跡に接して北側に土浦市粟野地区との境界になる農道がある。土地の人はこれを鎌倉街道と呼んでいる。

本遺跡の調査対象面積は576㎡。下り車線左側で，畑地である。周囲は栗，桑が栽培されている。

第２節　調査経過

○昭和53年４月

現地踏査により発掘エリアを確認する。

○昭和53年10月中旬

排土処理場予定地の立木の除去及び草刈りを行なう。次いで遺跡内の上物（落花生）を移動し杭打ちの準備をする。

○昭和53年10月下旬

発掘調査区の設定のため杭打ちを実施する。調査区設定にあたっては，日本道路公団が設定した中心杭「350＋00」を起点とする。

調査区は小調査区で４ｍ方眼とし，北から南にＡ・Ｂ・Ｃ……とし，西から東にむかって１・２・３……とする。

○昭和53年11月中旬

本遺跡は調査対象面積が狭少なため，全調査区について第１次調査を実施することにし，11月14日，表土除去作業に入る。畑地として利用されていたため，作業能率は良好で0.3ｍほどで地山に達す。遺構らしきもの２基確認する。

○昭和53年11月下旬～12月上旬

第１次調査を続行する。４基の住居址状遺構を確認する。呼称については北から南へ，東から西にむかって01，02，03……号住居址とし，その後は確認順とする。

○昭和53年12月中旬

前述の住居址発掘に並行して第１次調査を続行する。住居址状遺構を３基確認する。

○昭和53年12月20日

検出中の住居址について霜対策を施し，出土中の完形もしくはそれに近い遺物の位置，レベル実測，写真撮影を行なって事務所に格納，発掘用具の整備・点検を実施して現地作業を終了させ，年末に入る。

○昭和54年１月上旬

発掘用具の点検，作業員への連絡等作業再開について準備をすすめる。

10日，現地作業を再開する。

○昭和54年１月中旬

新たに２基の住居址遺構の検出に入る。合計５基の住居址発掘を同時展開する。遺構周辺のベルトをはずし，オフセットを組み，実測の準備をすすめ，01・02・03・04・05号住居址のセクション実測をする。２基の住居址状遺構が確認される。

○昭和54年１月下旬

住居址発掘を続行する。各住居址のセクション実測を継続して実施し，写真撮影を行なう。

○昭和54年２月上旬～中旬

01号住居址の発掘を継続し，03・04・05号住居址の柱穴掘り，平面図，エレベーション等の実測，写真撮影を逐次行なう。２基の住居址状遺構が確認される。

○昭和54年２月下旬

01・02号住居址のセクション，平面プラン，エレベーション等の実測，写真撮影を実施する。新たに２基の住居址状遺構を確認する。

○昭和54年３月上旬

06・07・08・09号住居址の遺構検出に入る。次いで06・07・08号住居址のセクション，平面プラン，エレベーション等の実測をする。

○昭和54年３月中旬～下旬

06・07・08号住居址の発掘を終了させ，09号住居址の発掘と並行して11・12号住居址，01・02・03・04号土壙の発掘に入る。

下旬に上記各住居址の実測を行ない，遺跡全景を撮影し，３月23日本遺跡の発掘調査を終了する。

第3節　遺構・遺物

(1) 遺　構

01号住居址（第20図）

本住居址はD－9・D－10・C－9・C－10・C－11・E－10にわたって確認され，調査地区の北東部に位置する。

主軸方向はN－67.5°－Wで，長径7m・短径5.7mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層から掘りこまれ，ほとんどの壁は外反して立ちあがり，壁高は，およそ27～47cmほどである。壁下，北側・東側，南東コーナーにかけて幅5～20cm，深さ5～6cmほどの溝が周回している。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬質の床面を呈している。炉は認められない。

ピットは11個検出され，位置，直径，深さなどからP1～P4が主柱穴と考えられるが，P1の直径，深さが他と大きく相違している。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考	ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考
P1	74	59	91	主柱穴	P7	28	24	24	
P2	30	27	40	〃	P8	19	17	29	
P3	17	21	31	〃	P9	30	24	29	
P4	26	20	47	〃	P10	27	24	20	
P5	27	22	39		P11	27	24	48	
P6	23	21	26						

住居址内覆土は，自然堆積の状態を示し覆土上層は黒褐色土（斜面に対してレンズ状に堆積した有機質土層）が堆積し，最下層はローム粒子を多量に含む黄褐色土の堆積がみられる。

遺物は弥生式土器，土師式土器の破片が多数で，柑形土器（第57図6），甕形土器（第57図1～5），手づくね（第57図7）が出土している。

02号住居址（第21図）

本住居址はE－11・E－12・F－11・F－12・G－11・G－12・G－13にわたって確認され，調査地区の最東端部に位置する。

主軸方向はN－35°－Wで，長径7m・短径5mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層から掘りこまれ，東，西，北壁はいずれも外反して立ちあがっているが

南側は斜面になっているため，壁を確認することができない。耕作などにより削平されてしまったものと考えられる。壁高は37cmほどである。壁下に溝は認められない。

床はロームであり，床面は南に緩傾斜をみせ，粘性はあるが，それほど硬いものではない。

本住居址内に炉址，ピット共に確認することができない。

住居址内覆土は，自然堆積の状態を示し，01号住居址で述べたように，覆土上層は黒褐色土が堆積し，最下層は粘性のあるローム粒子を多量に含む茶褐色土である。

遺物は土師式土器の破片が中心で，壺形土器（第58図１・２），甕形土器（第58図３），高杯（第58図４），坩形土器（第58図５）などが出土している。

03号住居址（第22図）

本住居址はG－８・G－９・G－10・H－９・H－10・F－10にわたって確認され，調査地区中央部よりやや東よりに位置する。

主軸方向はN－65.5°－Eで，長径7.37m・短形6.15mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層から掘りこまれ，壁高は29～53cmほどで外反して立ちあがり，壁下に溝が南西コーナーを除いて周回している。溝の幅は22cm，深さ５cmほどである。

床はロームであり，平坦をなし，硬質の床面を呈している。炉址は認められない。

ピットは６個検出され，どのピットも直径，深さともかなり大きく，Ｐ１～Ｐ４はそれぞれ対角線上にあり，本住居址の主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
Ｐ１	64	54	74	主柱穴
Ｐ２	50	42	75	〃
Ｐ３	76	63	87	〃
Ｐ４	45	41	60	〃
Ｐ５	42	35	36	
Ｐ６	42	30		

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は黒褐色土が堆積し，最下層はローム粒子を多量に含む黄褐色土の堆積がみられる。

遺物は土師式土器の胴部を中心とした破片が出土している。

04号住居址（第23図）

本住居址はF－５・F－６・F－７・G－５・G－６・H－５・H－６にわたって確認され，

調査地区中央部の北端に位置し，南に06号住居址と接する。

遺構のおよそ半分（北および西側）が調査区域外のため，調査ができない。

主軸方向はN－5°－Eで，長径約8.85m・短径7.8mぐらいの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層面から検出され，壁はいずれも外反して立ちあがり，壁高は37～40cmほどであり，壁下には幅12～21cm，深さ4～9cmほどの溝が周回している。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬質の床面を呈している。炉は認められない。

ピットは5個検出され，直径，深さともかなり大きく，遺構の半分が調査できないため明確ではないが，P1～P3が主柱穴であろうと考えられる。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備考
P1	60	52	87	主柱穴
P2	92	73	64	〃
P3	110	99	104	〃
P4	55	42	94	〃
P5	61	55	47	〃

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土第Ⅰ層は弱粘性の黒褐色土が15cmほど堆積し，第Ⅱ層はスコリアを多量に含む暗褐色土が，最下層はローム粒子を含む黄褐色土の堆積がみられる。

遺物は土師式土器の破片が多量にみられ，壺形土器（第60図1），坩形土器（第60図6）高杯（第60図3～5），手づくね（第60図7）などが出土している。

05号住居址（第24図）

本住居址はH－7・H－8・I－6・I－7・I－8・J－6・J－7・J－8・J－9・K－7にわたって確認され，調査地区中央部に位置し，06号住居址の東2.5mほどのところにある。

主軸方向はN－17°－Wで，長径7.95m・短径7.7mほどの方形の平面形を呈している。床面中央部よりやや北西よりに長径42cm・短径31cmと長径39cm・短径31cmほどの共に楕円形の平面形を呈する焼土がみられる。

遺構は表土下第Ⅱ層に検出され，壁はいずれも外反して立ちあがり，壁高は20～38cmほどである。壁下には，幅15cm～25cm，深さ5～6cmほどの溝が周回している。

床はロームであり，床面は南に緩傾斜をみせる。

ピットは5個検出され，それぞれの位置からP1～P4が本住居址の主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	37	32	73	主　柱　穴
P 2	36	35	77	〃
P 3	39	30	80	〃
P 4	78	54	34	〃
P 5	39	38	70	

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は黒褐色土の堆積がみられ，下層はローム粒子を含む黄褐色土の堆積がみられる。

遺物は土師式土器の破片を中心に，弥生式土器の破片がみられ，甕形土器（第62図１～４）高杯（第62図５～７）手づくねなどが出土している。

06号住居址（第25図）

本住居址はI －４・I －５・I －６・J －４・J －５・J －６に確認され，調査地区のほぼ中央に位置し，西側は12号住居址と接する。

主軸方向はN －19.5°－Wで，長径7.1m・短径5.66mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層に検出され，南側の壁は垂直ぎみに外反して立ちあがり，他の壁はいずれもなだらかに外反して立ちあがる。壁高は10～24cmほどであり，壁下に溝は認められない。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬質の床面を呈す。床面南西コーナーよりに長径1.6m・短径1.4m・深さ0.56mほどの土壙が検出される。

炉址と思われる痕跡が床面中央部よりやや北側よりに２個接して検出され，長径75cm・短径58cmと長径57cm・短径53cmほどであり，ともに皿状に10cmほど掘りこまれている。内部には焼土，炭化物を含む黒色土が充満している。

ピットは10個検出され，P 1～P 4は各々対角線上に位置し，本住居址の主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	30	30	33	主　柱　穴
P 2	33	30	34	〃
P 3	40	28	31	〃
P 4	32	28	37	〃
P 5	43	39	68	〃
P 6	78	63	14	〃
P 7	34	23	66	〃
P 8	48	45	7	〃
P 9	75	61	30	〃
P 10	52	44	73	〃

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層第Ⅰ層はロームブロックを多量に含み,細かい炭化物を含有する暗黄褐色土，第Ⅱ層は，ロームブロックを多量に含み，スコリアを含む暗黄褐色土，最下層はローム粘子，ロームブロックを含む黄褐色土の堆積がみられる。

遺物は土師式土器の破片を中心に弥生式土器の破片がみられ，甕形土器（第61図１）が出土している。

07号住居址（第26図）

本住居址はK－4・K－5・K－6・L－4・L－5・L－6・M－4・M－5・M－6にわたって確認され，調査地区の中央部に位置し，北側で12号住居址と接する。

主軸はN－38°－Wで，長径6.62m・短径6.26mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は傾斜地にあり，表土下第Ⅰ層に検出される。南東に傾斜しているため，南東壁は低く，壁高は８～18cmほどであり，壁は外反して立ちあがる。壁下に溝は認められない。

床はロームであり，南東に緩傾斜をみせ，硬質の床面を呈している。炉址は認められない。

ピットは４個検出され，直径，深さともに均衡がとれ，各々対角線上に位置し，本住居址の主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	35	35	34	主　柱　穴
P 2	34	29	30	〃
P 3	36	30	31	〃
P 4	32	32	24	〃

住居址内覆土は，ロームブロックを多量に含む黄褐色土である。

遺物は土師式土器の破片の出土が多く，壺形土器（第63図１),台付甕(第63図２),鉢形土器(第63図５　),柑形土器（第63図４　）が出土している。

08号住居址（第27図）

本住居址はM－（－１)･M－（－２)･N－（－１)･N－（－２)･N－（－３)･O－（－１)･O－(－２)･O－(－３)にわたって確認され，調査地区の最西端に位置する。北側がエリア外のため，遺構の全容は調査できない。

主軸方向はN－10°－Wで，長径はほぼ8.26m・短径はほぼ6.84mほどで方形の平面形を呈していると考えられる。

遺構は表土下第Ⅱ層から掘りこまれ，ほとんどの壁はなだらかに外反して立ちあがり，壁高は

およそ22～42cmほどである。壁下に溝は認められない。

床はロームであり，ほぼ平坦をなすが東にやや傾斜をみせ，硬質の床面を呈している。

炉址は床面中央よりやや西よりに位置し，長径54cm・短径41cmほどの楕円形の平面形を呈し，皿状に7cmほど掘りこまれている。内部には焼土粒子・炭化物を含む黒色土の堆積がみられる。

ピットは4個検出され，直径，深さともかなりあり，P1～P3が本住居址の主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備考
P1	40	36	80	主柱穴
P2	44	42	70	〃
P3	80	72	60	〃
P4	42	40	68	

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は黒色土，暗褐色土が堆積し，下層はロームブロック，ローム粒子を含む褐色土の堆積がみられる。

遺物は土師式土器の破片が多量にみられ，土玉（第65図21），壺形土器（第64図1～3），高杯（第65図1～3），甕形土器（第64図4～8）などが出土している。

09号住居址（第28図）

本住居址はM－1・M－2・M－3・N－1・N－2・N－3・O－2にわたって確認され，調査地区の西部に位置し，08号住居址の東側にある。

主軸方向はN－45°－Wで，長径6.54m・短径5.6mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層に検出され，ほとんどの壁はなだらかに外反して立ちあがり，壁高は34～52cmほどである。壁下に溝は認められない。

床はロームであり，南東方向に傾斜する。床面はそれほど硬いものではない。

ピットは4個検出され，各々対角線上に位置し，本住居址の主柱穴と考えられる。炉址及び本住居址に伴う外部施設は認められない。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備考
P1	50	42	37	主柱穴
P2	32	30	28	〃
P3	38	30	30	〃
P4	36	32	30	〃

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は黒褐色土が堆積し，下層はローム粒子を含む暗褐色土の堆積がみられる。

遺物は土師式土器の破片が多く，甕形土器（第66図），坩形土器（第66図４），手づくね（第66図５）などが出土している。

11号住居址（第29図）

本住居址はK－１・L－（－１)･L－１に確認され，調査地区西部で09号住居址の北側に位置する。

遺構の大部分が調査区域外に属しているため，主軸方向・形態等を究明することができない。遺構の南東部がわずかに調査地区内に検出されるのみである。

本遺構は表土下第Ⅲ層面から掘りこまれ，壁高は34～52cmほどで，外反して立ちあがり，壁下に溝は認められない。

床はロームであり，硬くしまった床面を呈している。ピットの検出はできない。

住居址内の覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は暗褐色土が堆積し，下層にはローム粒子，ロームブロックを含む黄褐色土の堆積がみられる。

遺物は紡錘車（第67図１）が出土し，その他土師式土器片がみられる。

12号住居址（第30図）

本住居址はI －３・I －４・J －２・J －３・J －４・J －５・K－２・K－３・K－４・K－５・L－３・L－４にわたって確認され，調査地区の中央部に位置し，東側で06号住居址に，南側で07号住居址に接している。

主軸方向はN－54°－Wで長径7.85m・短径6.45mほどの方形の平面形を呈している。東コーナー部に長径1.75m・短径1.5m・厚さ25mほどの焼土塊がみられる。

遺構は表土下第Ⅲ層に検出され，壁はいずれも垂直ぎみに外反して立ちあがり，壁高は37～54cmほどである。壁下溝は認められない。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬質の床面を呈している。ピットは７個検出され，いずれも直径，深さともかなり大きいものであるが，主柱穴はP１～P４と考えられる。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考	ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考
P 1	44	31	81	主柱穴	P 5	33	26	53	
P 2	60	47	74	〃	P 6	37	33	44	
P 3	44	34	74	〃	P 7	49	33	50	
P 4	44	43	65	〃					

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層はかたくしまった暗褐色土層が堆積し，下層にはローム粘子，ロームブロックを含有する黄褐色土の堆積がみられる。

遺物は弥生式土器，土師式土器両方の破片がみられ，特に後者に多く，壺形土器（第68図１～５），紡錘車（第68図１・２），坩形土器（第68図６）が出土している。

01号土壙（第30図）

本址は調査区J －３において確認され，12号住居址内北西部に掘りこまれている。主軸方向はN －18.5°－E であり，長径1.85m ・短径0.7m ほどの方形の平面形を呈している。

遺構検出面から床までの高さは76～79cmほどであり，壁は垂直ぎみに外反して立ちあがっている。覆土はスコリアを含む黒褐色土，暗褐色土が堆積している。床はロームであり，平坦をなしている。

遺物は覆土から五領期の高杯の破片が１点出土したのみである。

02号土壙（第29図）

本址は調査区J －３・K －３において確認され，12号住居址内南西部，Ｐ４に接して西側に掘りこまれている。主軸方向はN －18.5°－E であり，長径2.05m ・短径0.8m ほどの方形の平面形を呈している。

遺構検出面から床までの高さは25cmほどであり，壁は西側はなだらかに，他は垂直ぎみに外反して立ちあがっている。床はロームであり，床面は平坦である。

覆土はローム粒子を含む極暗褐色土が15cmほど堆積し，下層は暗褐色土が堆積している。本址からの遺物は全くない。

03号土壙（第29図）

本址は調査区K －３・L －３・L －４において確認され，12号住居址の南側に位置する。主軸方向はN －77.5°－Wであり，長径2.45m ・短径1.31m ほどの隅丸長方形の平面形を呈している。

遺構検出面から床までの高さは21～26cmほどであり，壁は外反して立ちあがっている。床はロームでありほぼ平坦をなすが,中央部よりやや東よりに弧を描くような隆起がみられる。

覆土は２層でローム粒子を含む暗褐色土であり，自然流入による堆積を示す。本址からの出土遺物は全くない。

06号住居址内土壙（第25図）

本址は調査区J －５において確認され，06号住居址内南壁中央部に位置する。

主軸方向はN—20°—Wであり，長径1.6m・短径1.4mほどの方形の平面形を呈する。遺構検出面から床までの高さは0.5～0.56mほどであり，壁はほとんど外反して立ちあがる。

遺構内覆土はⅢ層で，いずれもロームブロックを多量に含んでいる。Ⅰ層は細かい炭化物を含有し，Ⅱ層はスコリアを含み，Ⅲ層はロームブロックを含み，いずれも黄褐色土である。

遺物の出土はみられない。

(2) 遺　物

01号住居址（第57図1～7）

本址からの遺物の出土状態はほとんど覆土から出土し，弥生式土器，土師式土器の小破片である。

土　器

1～3はいずれも土師式土器の小形甕形土器であり，1～2はほぼ完形に近い形で出土し，3は口縁部から胴部にかけて¼ほど遺存している。

1は口径72cm，底径42cm，器高68cmで，口縁部は頸部から外傾して立ちあがり，胴部最大径は85cmである。底部はややくぼんでいる。

器外面は口縁部に篦ナデ整形がみられ，胴部および底部は平削り整形がみられる。器内面は全体的に篦ナデ整形がなされている。

色調は橙色を呈し，胎土中には砂礫を多く含む。焼成は普通である。

2は口径6.5cm・器高6.3cm・底径2.5cmで，胴部最大径は8.3cmである。口縁部は頸部から外反して立ちあがり，底部はやや上げ底である。

器外面は，口縁部が篦ナデ整形。胴部および底部は刷毛目整形がみられ，器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好である。

3は口径13.4cm・現高11.4cm，胴部最大幅14.5cmを測り，口縁部は頸部から外反して立ちあがる。

器外面は，口縁部が篦ナデ整形，胴部が篦削り整形がみられ，器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は普通である。

4は土師式土器の底部で，他は欠失している。底径8.2cmで平底である。

器外面は胴部が横篦削り，底部に木の葉圧痕がみられる。器内面は篦ナデ整形。

色調は褐色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を多く含む。焼成は普通。

5は土師式土器の底部で他は欠失している。底部径5.7cm，現高7.1cmを測り底部は平底である。

器外面は，胴部に横篦削り整形がみられ，底部は篦削り。器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調は明黄褐色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を多く含む。焼成は良好である。

6は坩形土器であり，口縁部のみ残存する。口径10cm，現高4.2cmで,口縁部は大きく外反して立ちあがる。

器外面は，口縁部上部に篦ナデ整形，他は刷毛目整形がみられ，器内面も刷毛目整形がみられる。

色調はにぶい褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好。

7は土師式土器であり，¾ほど残存している。底径6.8cm・口径8.7cm・器高2.1cmで底部はやや上げ底である。

器外面，器内面ともに篦ナデ整形がなされ，底部に木の葉圧痕がみられる。

色調は橙色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は良好である。

02号住居址（第58図1～5）

本址からの遺物の出土量は少なく，住居址南西コーナーの覆土より出土し，ほとんど土師式土器の破片である。

土　器

1は壺形土器で，口縁部のみ¼ほど遺存し，他は欠失している。口径21cm・現高7.8cmを測り，口縁部は頸部から大きく外彎して，立ちあがり複合口縁を呈する。

器外面は，口径部に篦ナデ整形，頸部から肩部にかけて篦削り整形がみられる。器内面は篦ナデ整形がなされている。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好。

2も壺形土器で，口縁部¼ほど残存している。口径18cm・現高7cmを測り，口縁部は複合口縁をなし，大きく外彎する。

器外面，器内面ともに篦ナデ整形がみられ，色調は橙色，胎土中にスコリア，砂礫を含み，焼成は良好。

3は甕形土器で，½ほど残存する。口径14.1cm・底径3.7cm・器高11.4cm・最大幅13.3cmほどで，口縁部は頸部から外反して立ちあがっている。底部は中央部がややくぼんでいる。

器外面は，口縁部に篦ナデ，胴部および底部に篦削り整形がみられる。器内面は篦ナデ整形がなされている。

色調はにぶい褐色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は良好。

4は高杯形土器の杯部で，⅓ほど残存する。口径18.2cm・現高5.5cmほどで，杯部は大きく内彎ぎみに開いている。

器外面は，口縁部に篦ナデ，口縁部以外は篦削り整形がみられる。器内面は篦ナデ整形，色調はにぶい黄橙色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は良好。

5は坩形土器で，頸部より下部が残存し，口縁部が欠損している。底径3cm・現高6.3cm,底部は丸底で，胴部は扁平な球形をなし，最大径は中位で10.1cmほどである。

器外面は篦削り整形がなされ，器内面はナデ整形がみられる。

色調は橙色を呈し，胎土内には砂礫，スコリアを含む。焼成は普通。

04号住居址（第60図1～7）

本址の遺物の出土量は非常に多く，ほとんどが土師式土器の破片で覆土から出土している。

土　器

1は住居址内南東コーナーの床面直上に浮いた形で出土した壺形土器で，口縁部を½強ほど遺存している。口径19cm・現高8cmほどで，口縁部は複合口縁を持つ。肩の張った胴部から頸部が外反して立ちあがり，その上部は水平方向にのび，その上に大きく外反する口縁部がついている。

器外面は，口縁部にナデ整形がみられ，肩部は磨滅していて整形は不明。器内面は篦ナデ整形がなされている。

色調は灰黄褐色を呈し，胎土中にはスコリア，砂礫を含む。焼成は良好。

2は土師式土器の底部で，⅓を遺存する。底径6.5cm・現高3.1cmほどで，底部は丸底である。体部は内彎ぎみに大きく外反して立ちあがる。

器外面は体部が刷毛目整形，底部は篦削り，器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調は器内面が灰褐色を呈し，器外面は明赤褐色である。胎土中には砂礫を多く含み，焼成は良好。

3は高杯形土器であり，脚部の一部が遺存し，裾部は欠失している。

器外面は篦調整，器内面には篦ナデ整形がみられる。色調は明赤褐色を呈し，胎土中に砂礫を含み，焼成は普通である。

4も高杯形土器であり，杯部および裾部が欠失している。現高9cmほどで裾部があまり広がらない筒状の脚部で，内部は中空である。

器外面は篦磨き整形が認められ，全面に朱が塗ってある。器内面は篦削り。

色調は明赤褐色を呈し，胎土中には，スコリア，砂粒を含む。焼成は良好。

5は器台形土器で，口縁部⅔と杯部を残存する。口径12.6cm・現高6.4cmを測る。

器外面は，口縁部にナデ，体部に篦削り整形が認められ，器内面に篦ナデ整形がみられる。

色調は明赤褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は軟弱である。

6は坩形土器であり，頸部以下を遺存し，口縁部は欠損している。底径3.4cm・現高6.6cm，底部は中央部がややくぼんでいる。胴部は扁平な球形をなし，最大径は中位にあって11cmほどである。

器外面は篦削り，器内面はナデ整形。色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫，スコリアを含む。焼成は軟弱である。

7は鉢形土器であり，ほぼ完形で出土した。口径8.2cm・器高3.5cm・底径4.2cmを測り，最大径は口縁部にある。一見手づくね土器風のつくりで，底部にゆがみがある。

器外面は全体的に篦ナデ整形が認められ，器内面は篦削り整形がみられる。色調は灰黄褐色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好である。

05号住居址（第62図1～11）

本址からの出土遺物は，非常に多く，ほとんど土師式土器である。

土　器

1は住居址南西コーナー床面から出土した小形甕形土器である。口縁部の一部に欠損があるがほぼ完形である。口径14.2cm・器高12.5cm・底径4.3cmを測り，最大幅は中位にあり，15.3cmほどである。

口縁部は「く」の字状に外反し，先端で更に開く。胴部は扁平な球形であり，底部は平底である。

器外面は，口縁部および胴部に刷毛目整形。底部に篦削り整形。器内面に篦ナデ整形がみられる。

色調はにぶい黄橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好。

2は1と同じ南西コーナー床面から出土した甕形土器である。ほぼ完形で出土し，口径13.6cm・器高17.9cm・底径4.4cm，最大幅は中位にあって17.2cmを測る。口縁部は「く」の字状に外反して立ちあがり，胴部はほぼ球形で，底部は平底である。

器外面は，口縁部がナデ整形，胴部は刷毛目整形，底部に木の葉の圧痕がみられ，器内面は全体に篦ナデ整形が認められる。

色調は黒褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好。

3は住居址西壁よりの床面から出土した小形甕形土器であり，ほぼ完形である。口径9.1cm・器高10.9cm・底径3.5cmを測り，最大部は中位にあって11.5cmほどである。口縁部は「く」の字状に外反し，先端はやや内彎して立ちあがる。胴部は中位が大きく張り，扁平な球形であり，底部は平

底でやや上げ底ぎみである。

器外面は，全体に刷毛目整形がみられ，器内面は篦ナデ整形である。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好である。

4は住居址北西コーナーの床面から出土した小形壺形土器である。口縁部が欠失している。底径3.3cm・現高9.7cmを測り，胴部最大幅14.9cmほどで，中位に張りがあり，扁平な球形である。底部は平底でやや上げ底ぎみである。

器外面は全体に篦削り整形で，朱が塗ってある。器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調は暗赤色を呈し，胎土中に砂粒を含む。焼成は良好である。

5～6は高杯形土器であり，いずれも杯部のみ残存する。各々口縁部は内彎ぎみに大きく外反して立ちあがる。

5は口径16.4cm・現高5.7cmで器内外面ともに篦磨き，口縁部はナデ整形，色調は赤色，胎土中に砂粒を含み，焼成は良好。

6は口径15.7cm・現高5.1cm，器外面は篦磨き，器内面は篦ナデ，口縁部はナデ。色調は赤色，胎土中に砂粒を含み，焼成は良好。

7は高杯形土器であり，脚部のみ残存する。裾部径7.2cm・現高8.4cmを測り，裾部はあまり広がらない筒状の脚部で，内部は中空である。

器外面は篦磨き，内側は篦削り整形。色調は灰褐色，胎土中に砂粒を含み，焼成は良好。

8は坩形土器であり，ほぼ完形で出土した。口径12cm・器高6.7cmを測る。口縁部は大きく外反し，底部は平底で中央部にややくぼみがある。

器外面は刷毛目整形がなされ，器内面はナデ整形がみられる。

色調は明褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は軟弱である。

器外面は篦削り整形，器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は普通。

9～11は椀形土器であり，いずれも完存している。口径5.9cm・器高3.6cm・底径2.2cmほどで，胴部は底部から内彎ぎみに外反して立ちあがり，底部は平底である。

器外面は篦削り整形，器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は普通。

10は口径6cm・器高3.5cm・底径2.8cmを測り，胴部は底部からやや内彎ぎみに外反して立ちあがり，底部は平底である。

器内面，器外面ともに全体的に篦削りで口縁部はナデ整形がみられる。色調は橙色を呈し，胎土中には砂礫を含む。焼成は良好。

11は口径8.1cm・器高5.2cm・底径3.9cmほどで，胴部は内彎しながら外方に向う。底部は丸底で

ある。

口縁部はナデ整形がみられ，胴部上位に刷毛目，下方および底部は篦削り整形がなされ，器内面は篦ナデ整形が認められる。

色調は明赤褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

06号住居址（第61図１）

本住居址からの遺物の出土量は極めて少なく，ほとんどが土師式土器で，破砕している。

土　器

１は住居址南東コーナーの覆土第Ⅰ層から出土した壺形土器であり，口縁部4/5ほどが残存し，他は欠失している。口径12.5cm・現高5.9cmを測り，口縁部は肩部より「く」の字状に外反して立ちあがる。

器外面，器内面ともに刷毛目整形がみられ，口縁端部はナデ整形である。

色調は黒褐色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は普通である。

07号住居址（第63図１～５）

本住居址からの遺物の出土状態は遺構全域にわたり，床面直上から出土し，出土量も多い。土師式土器がほとんどである。

土　器

１は壺形土器であり，ほぼ完形を呈す。口径9.3cm・器高24.8cm・底径6.6cmを測る。口縁部は，「く」の字状に外反して立ち，胴部は中位が張り，最大幅25.3cmほどで算盤玉形をなし，底部は平底である。

器外面は，口縁部にナデ整形，胴部に篦磨き整形（磨滅ぎみ）がみられ，底部に木の葉圧痕が認められる。器内面は全体に篦ナデ整形がなされている。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

２は台付甕形土器であり，脚部が欠失している。口径10.5cm・現高14cmを測る。口縁部は頸部より「く」の字状に外反して立ちあがり，胴部中位よりやや上に張り，最大幅12.5cm，ゆるやかに弧を描いてすぼまる。

器外面は，口縁部にナデ整形，体部全体に刷毛目整形がみられ，器内面は篦ナデ整形がなされる。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

3は台付甕であり，台部のみ遺存し，他は欠失している。裾部径6.6cm・現高5.6cmを測り，台先端は「ハ」の字状に開く。

器外面は篦削り整形がみられる。色調はにぶい橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好。

4は坩形土器であり，口縁部が欠損し，頸部以下完存している。胴部上位に張があり，扁平な球形をなし，底部は平底である。

器外面は篦削り整形がみられ，器内面は篦ナデ整形がなされている。

色調は黄橙色を呈し，胎土中にスコリア，砂粒を含む。焼成は良好である。

5は鉢形土器であり，完形である。口径14.8cm・器高11.2cm・底径5.3cmを測る。

口縁部は直線的に開き，胴部はいくぶん張る。底部は平底で，中央部がややくぼむ。

器外面は口縁部および胴部に刷毛目整形，底部は篦削り整形がみられ，器内面に篦削り整形が認められる。

色調は橙色を呈し，胎土中には砂礫を含む。焼成は良好である。

08号住居址（第64図1～9）

本住居址からは土師式土器の遺物が多量に出土している。

土　器

1は壺形土器で胴部中位以下を欠損する。口径は21.4cmを測る。口縁部は中位に段を有し丸味をもって外反する。胴部はほぼ球形をなすと思われる。

器外面は口縁部にナデた後篦磨きがなされ，胴部は篦磨きがみられる。器内面は口縁部にナデた後篦磨きがなされ，胴部は篦ナデ整形であるが輪積痕が残る。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を多量に含む。焼成は良好である。

2は壺形土器で口縁部を欠損する。胴部最大径26.8cm・底部径7.4cmを測る。胴部はほぼ球形をなし，突出した平底である。

器外面は胴部，底部とも篦削りがみられる。器内面は全体に篦ナデがみられるが輪積痕が残る。

色調は明赤褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は普通である。

3は壺形土器で口縁部を欠損する。胴部最大径21.5cm・底部径5.7cmを測る。胴部はほぼ球形をなし，いくぶんあげ底である。

器外面は胴部では刷毛目整形の後，ていねいな縦位の篦磨きがみられ，底部は篦削りである。

器内面は全体に篦ナデがなされている。

色調はにぶい褐色を呈し，胎土中に砂粒を含む。焼成は良好である。

4は甕形土器で口縁部，胴部が約¼のみ遺存する。口径は19.3cmを測る。口縁部は丸味をもっ

て外反する。

器外面は口縁部に横ナデがみられ，胴部は刷毛目整形がみられる。器内面は口縁部に横ナデ，胴部に篦ナデがなされている。

色調は褐色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は良好である。

5は甕形土器でほぼ完形である。口径14.2cm・胴部最大径13.7cm・底部径4.0cmを測る。口縁部は「く」の字状に開く。胴部はいくぶん扁平な球形をなし，わずかにあげ底である。

器外面は口縁部に縦位の刷毛目，胴部にも刷毛目整形がみられ，底部は篦削りである。器内面は口縁部に横位の刷毛目整形，胴部に篦ナデがなされている。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

6は壺形土器でほぼ完形である。口径12.7cm・器高11.3cm・底部径2.9cmを測る。口縁部は「く」の字状に開き，胴部は少し張り，小さい平底である。

器外面は口縁部に横ナデ，胴部，底部に篦削りがみられる。器内面は口縁部で横ナデ，胴部，底部で篦ナデがなされている。

色調は外面が褐灰色，内面は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は普通である。

7は甕形土器で胴部⅓を欠損する。口径18.1cm・胴部最大径27.0cmを測る。口縁部は「く」の字状に開き，胴部はほぼ球形をなす。

器外面は口縁部にナデ後刷毛目整形がみられ，胴部にも刷毛目整形がみられるが磨滅しておりはっきりしない。

器内面は縦位の口縁部に横位の刷毛目整形，胴部に篦ナデがなされている。

色調は赤色を呈し，胎土中に砂礫を多量に含む。焼成は普通である。

8は土師式土器の胴部であり，胴部最大径14.6cmを測る。胴部はほぼ球形をなす。

器外面は横位の刷毛目整形がみられ，器内面は篦ナデがなされている。

色調は黒色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

9は台付甕形土器で台部のみ遺存する。台裾径11.5cmを測る。台部は「ハ」の字状に開く。

器外面，内面とも刷毛目整形がなされている。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を多量に含む。焼成は良好である。

(第65図1～20)

1は高杯形土器で脚部を欠損する。口径は16.1cmを測る。口縁部はほぼ直線的に大きく，開き，底部との境に稜を有す。

器外面は口縁部先端に横ナデ，以下底部にかけて篦削りがなされている。器内面は口縁部先端に横ナデ，以下全体に篦ナデがみられる。

色調は明赤褐色を呈し，胎土中に砂粒を含む。焼成は普通である。

2は高杯形土器で口縁部と脚部を欠損する。口縁部は内彎しながら立ちあがる。

器外面は篦ナデがなされ，器内面は磨滅しており不明である。

3は高杯形土器で杯部と裾部を欠損する。脚部は柱状をなす。

器外面は脚部に縦位の篦磨きがなされ，器内面は底部に篦ナデがみられる。

色調は外面が黒褐色，内面が明赤褐色を呈し，胎土中にスコリア，砂粒を含む。焼成は良好である。

4は器台形土器で脚部約¾ほど遺存する。裾径12.5cmを測る。脚柱は大きく「ハ」の字状に開く。

器外面，内面とも台脚部は篦削りがみられ，先端部は横ナデ整形である。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

5は小型の壺形土器で約¼欠損する。口径6.4cm・器高6.9cm底部径4.1cmを測る。口縁部は「く」の字状に開き，胴部は扁平な球形をなす。底部中央がいくぶんくぼむ。

器外面は口縁部，胴部で刷毛目整形，底部で篦削りがみられる。器内面は口縁部に横位の刷毛目整形がみられ，胴部，底部は篦による調整がなされている。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土中に砂礫を多量に含む。焼成は普通である。

6は小型の壺形土器でほぼ完形である。口径5.4cm・器高6.0cm・底部径5.0cmを測る。口縁部は外傾しながら立ちあがるが，中段から内屈する。胴部はゆがみが多く，平底である。

器外面は口縁部上半に横ナデ整形，口縁部下半から胴部にかけて刷毛目整形がみられ底部は篦削である。器内面は口縁部が横ナデ整形，胴部，底部は篦ナデである。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土中に砂礫を多量に含む。焼成は良好である。

7は小形の壺形土器で口縁部と胴部⅓を欠損する。胴部はほぼ球形をなし，平底である。底部径は3.4cmを測る。

器外面は胴部，底部とも刷毛目整形がなされている。器内面は胴部，底部とも篦ナデである。

色調はにぶい黄褐色を呈し，胎土中に砂礫を多量に含む。焼成は普通である。

8は壺形土器で口縁部を欠損する。胴部は算盤玉状をなし平底である。底部径3.7cmを測る。

器外面は全体に篦削りがなされている。器内面は頸部が刷毛目整形され，胴部は篦ナデがみられる。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

9は坩形土器で口縁部約⅔を欠損する。口径7.8cm・器高7.4cmを測る。口縁部は「く」の字状に開き，胴部下位が張り，あげ底である。

器外面は口縁部が篦ナデ，胴部，底部は篦削りがなされている。器内面は全体に篦ナデがなされている。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は軟弱である。

10は坩形土器で胴部中位以下が遺存する。胴部は扁平な球形をなし，あげ底である。

器外面は全体に篦削りがなされ，器内面は篦ナデがみられる。

色調は明褐色を呈し，胎土中にスコリア，砂粒を含む。焼成は良好である。

11は坩形土器で口縁部を欠損する。胴部中位が張り，平底である。底部径3.3cmを測る。

器外面は胴部，底部とも篦削りがなされ，器内面は胴部，底部とも篦ナデである。

色調は灰黄褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

12は坩形土器で口縁部を欠損する。器形が小さい割に器肉が厚く，いく分あげ底である。

器外面は胴部に横位の刷毛目整形がみられ，底部は篦削りである。器内面は篦ナデがなされている。

色調は灰黄褐色を呈し，胎土中に砂礫を多量に含む。焼成は良好である。

13は坩形土器で口縁部約½が遺存する。口径15.2cmを測る。口縁部は「く」の字状に開いて立ちあがり，ほぼ直線的に伸びる。

器外面，内面とも口縁部先端に横ナデがみられ，以下縦位の篦磨きがなされている。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

14は鉢形土器で底部と胴部下位が遺存する。胴部は内彎気味に大きく開いて立ちあがり，いく分あげ底である。底径は4.2cmを測る。

器外面は胴部，底部とも篦削りがなされ，器内面は篦ナデである。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好である。

15は坩形土器で口縁部約½が遺存する。口径は7.75cmを測る。口縁部はほぼ直線的に外傾して立ちあがる。

器外面は口縁部先端に横ナデがみられ，以下縦位の篦磨きがなされている。器内面は口縁部先端が横ナデ，以下篦ナデがみられる。

色調は明赤褐色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は普通である。

16は坩形土器で胴部下位と底部が遺存する。胴部は内彎して立ちあがり，平底である。底部径3.6cmを測る。

器外面は胴部，底部とも篦削りがなされ，朱が塗られている。器内面は篦ナデである。

色調は明赤褐色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好である。

17は椀形土器で約⅓を欠損する。胴部は内彎しながら立ちあがり，そのまま口縁部へ続く。平底であるが，ゆがみが大きい。口径7.0cm・器高4.5cmを測る。

器外面は口縁部が横ナデ，胴部が斜位の刷毛目整形，底部は篦削りがなされている。器内面は口縁部に横ナデ，胴部，底部に篦ナデがみられる。

色調は黒褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

18は小形甕土器で約⅓遺存する。口縁部は丸味をもって外反し,胴部はいくぶん張り,器肉は厚い。

器外面は全体に篦削りがなされ，朱が塗られている。器内面は全体に篦ナデがなされている。

色調は明赤褐色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好である。

19は土師式土器で胴部中位以下が遺存する。胴部はあまり張らず，平底である。底部径は3.5cmを測る。

器外面は胴部，底部とも篦削りで朱が塗られている。器内面は全体に篦ナデがなされている。

色調は外面が明赤褐色，内面が黒褐色を呈し，胎土中にスコリアと多くの砂礫を含む。焼成は良好である。

20は弥生式土器の壺形土器で胴部中位以上を欠損する。胴部はあまり張らず，平底である。底部径は6.3cmを測る。

器外面は胴部に付加条縄文が施文され，底部には木の葉圧痕が残る。器内面は胴部，底部とも篦ナデがなされている。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

21は土玉で完造品である。直径3.6cm・長さ3.7cm・口径0.7cmほどである。指による整形がなされ，指頭痕が残る。

色調はにぶい黄橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

09号住居址（第66図1～5）

本住居址からの遺物の出土量はそれほど多くはなく，土師式土器がほとんどである。住居址南東コーナーに多く出土した。

土　器

1は床面南西コーナーの床面直上から出土した小形甕形土器であり，約⅔を遺存している。口径12.8cm・器高10.9cm・底径5.4cmほどで,口縁部は「く」の字状に外傾し，頸部に稜をもつ。胴部は球形で中位が張り，底部は扁平な丸底である。

器外面は，口縁部にナデ整形，胴部には刷毛目整形，底部に篦削り整形がみられ，器内面は篦ナデ整形がなされている。

色調はにぶい黄橙色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は普通。

2は小形甕形土器で完存率⅔，口径9.9cm・器高12.2cm・底径6.3cmを測る。口縁部は垂直ぎみに立ちあがり，胴部は中位が張り扁平球形をなし，大きな弧を描いてすぼまる。底部は平底で上げ底ぎみである。

器外面は刷毛目整形，口縁部に篦ナデ整形，底部は篦削り整形がみられる。器内面は篦ナデ整形がなされている。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は普通である。

3は南東コーナーより出土した小形壺形土器で，口縁部のみ欠失している。底径4.2cm・現高9.9cmを測る。胴部中央が大きく張り扁平な球形をなし，底部は平底である。

器外面は刷毛目，篦削り整形がみられ，器内面は篦ナデ整形が認められる。

色調はにぶい黄橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好。

4は北西コーナーの覆土より出土した坩形土器である。口縁部約⅓程度欠失し，他は残存している。口径9.9cm・器高7.9cm・底径3.3cmを測る。口縁部は大きく直線的に開き，体部は中位よりやや上が張り，扁平な球形をなし，底部は平底である。

器外面は頸部から口縁部にかけて刷毛目整形，底部は篦削り整形がみられ，器内面は篦ナデ整形がなされている。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫，スコリアを含む。焼成は良好。

5は3と同じ位置の覆土より出土した手捏ね土器で，ほぼ完形である。口径5.1cm・器高4.3cm・底部径4cmを測る。口縁部は頸部より直立ぎみに立ちあがる小形の壺形土器である。

器外面は，胴部に斜位の刷毛目痕がみられ，口縁部はナデ整形がなされている。器内面は篦ナデ整形が認められる。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好。

11号住居址（第67図1）

本住居址からの出土遺物は，住居址そのものが調査区内に一部検出されたに過ぎないため，極めて少ない，土師式土器の小破片が中心である。

土製品

1は遺構内東側の覆土第Ⅰ層から出土した土製のほぼ完形に近い紡錘車である。直径4.7cm・上部径4.3cm・下部径4.5cm・厚さ1.45cmを測り，ほぼ円形を呈す。重量は45g。円盤中央に中央孔があり直径0.5cmほどである。

色調は橙色を呈し，胎土中には砂礫を含む。焼成は良好である。

12号住居址

本住居址からの遺物の出土状態は，北西コーナーおよび南東コーナー部に集中していた。弥生式土器と土師式土器で，すべて破砕した小片である。

土　器（第68図１～６）

１は北西コーナー部の覆土から出土した弥生式土器の壺形土器であり，口縁部が¼ほど遺存して肩部以下欠失している。口径9.2cm・現高15.5cmを測り，口縁部は頸部よりゆるやかに外反する。

器外面は，口縁端部および口縁部に縄文原体の押圧痕が認められ，頸部および胴部に附加条縄文が施文されている。器内面はナデ整形がなされている。

色調はにぶい黄橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

２も弥生式土器の壺形土器で北東コーナー部より出土した。口縁部から頸部にかけて遺存し，胴部，底部は欠失している。口径16.9cm・現高13.5cmを測り，口縁部は大きく外反して開く。

器外面は，口縁部および口縁端部に縄文原体による押圧痕が認められ，口縁部には瘤をはりつけている。頸部および胴部には附加条縄文が施文され，器内面はナデ整形がみられる。

色調は褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好である。

３は北西コーナー部より出土した弥生式土器の壺形土器と推定される。底部のみ遺存し，他は欠失している。底径4.6cmほどで，平底である。

器外面は，附加条縄文が施文され，底部は篦削り整形がみられる。器内面は篦ナデ整形が認められる。

色調は明黄褐色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は良好。

４～５は南西コーナー床面より出土した弥生式土器の壺形土器と推定される。底部のみ遺存している。４は底径6.5cmを測り，平底である。５は底径8.5cmほどの平底で，やや上げ底である。

胴部に縄文が斜状に施文され，底部は篦削り整形がみられる。器内面は篦ナデ整形がなされている。

色調は４は灰褐色を呈し，５はにぶい橙色を呈す。胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好。

６は南西コーナー部の床面より出土した土師式土器の坩形土器である。底部は完存，体部より口縁部にかけて約⅓ほど遺存している。口径13cm・器高9.9cm・底径４cmほどで，口縁部は外傾し，体部上位に張りがあり，以下ゆるやかに窄る。底部は平底。

器外面は篦磨き整形がみられ，器内面は磨滅していて不明。

色調は橙色を呈し，胎土中にスコリア，砂礫を含む。焼成は良好。

土製品（第68図１・２）

１・２は北東コーナー部に出土した土製の紡錘車であり，１は完形，２は約¾ほど遺存している。１は直径4.8cm・厚さ中央部３cm・側面８mmほどの円盤で，中央に径５mmほどの貫通孔を有している。

２は直径5.5cm・厚さ中央部２cm・側面９mmほどの円盤で，中央に径７mmほどの貫通孔を有している。

色調は１は橙色・２は黄橙色を呈し，胎土中に砂礫を多く含む。焼成は良好である。

グリット（Ⅰ－３）出土遺物（第69図１～３）

１は土師式土器の壺形土器で，頸部より上部が遺存している。口径22.1cm・現高12.8cmほどで二段口縁を有し，頸部は外傾して立ちあがり，途中で大きく角度を変えて外反し，直線的に立ちあがる口縁部に移行し，移行部に稜を生じている。口縁部は円弧を描いて外反して立ちあがり，先端は垂直に立つ。

器外面は，口縁部，頸部が刷毛目整形のあとに篦磨きがなされ，体部に篦磨き痕が認められる。器内面は，口縁部に篦ナデ整形，頸部に刷毛目整形，体部は磨滅していて不明である。

色調はにぶい橙色を呈し，胎土中にはスコリア，砂礫を含む。焼成は良好。

２は小形台付甕形土器であり，口縁部約¾，胴部約⅔ほど遺存し，台部は完存している。口径8.8cm・器高12.5cm・底径7.7cm・台裾高4.3cmを測る。口縁部は「く」の字状に外反して立ちあがり，先端部は内彎ぎみに立つ。胴部は長目の球形でゆるやかな円弧を描き，中位が張り，以下窄る。台部は内彎ぎみに開き，端部は平坦に仕上げられている。

器外面は，斜位および横位の刷毛目整形がなされ，器内面は篦ナデ整形がみられる。

色調は橙色を呈し，胎土中に砂礫を含む。焼成は普通である。

３は杯形土器であり，ほぼ完存している。口径は13cm・器高6.8cm・底径3.3cmほどで，口縁部は大きく外反して立ちあがり，底部は平底で中央部がくぼむ。

器外面は，口縁部はナデの後刷毛目整形，体部は篦ナデ，底部は篦削り整形がみられる。器内面は篦ナデ整形が認められる。

色調は橙色を呈し，スコリア，砂礫を含む。焼成は良好である。

第6章　上稲吉西原C遺跡（ＪＫＮ－Ｃ）

第1節　遺跡の概観

本遺跡は新治郡千代田村上稲吉字西原202番地に所在し，天の川とその支谷にはさまれた東西に細長く伸びる台地の馬の背状のわずかな平坦部に立地する。天の川を隔てた南西の台地に西原遺跡群が立地する。発掘前は畑地に利用され，土師器片がわずかに散布していた。調査面積370㎡。

第2節　調査経過

○昭和53年4月

現地踏査をし，発掘エリアを確認する。

○昭和53年10月中旬

発掘区域内の草刈り，清掃を行ない，杭打ちを実施して発掘調査区を設定する。杭打ちにあたっては日本道路公団が設定した中心杭「356＋00」の上り車線側幅杭を起点とする。

○昭和53年11月上旬

本遺跡の調査方法を検討し，第1次調査を開始する。

表土から0.3mほどで地山に達す。遺物は各調査区とも極めて少なく，遺構も確認できない。よって本遺跡は第1次調査のみで発掘調査を終了する。

第3節　遺構・遺物

(1) 遺　構

天の川とその支谷にはさまれた馬の背状の台地のせまい平坦地のうち，370㎡を調査対象面積として約その¼にあたる面積について第1次調査を実施し，遺構の検出につとめた。

各調査区とも耕作土層以下10cmほどでローム層の地山に達し，遺構の存在は確認できなかった。

(2) 遺　物

本遺跡は370㎡を調査の対象面積として，約¼にあたる面積について第1次調査を実施。出土遺物は極めて少ない。

土師式土器胴部の破砕した小片が275個。内耳鍋の内耳部小破片2個出土したにとどまる。表面採集においても，埴輪片と思われる破片を1片得たのみである。

第７章　中佐谷十百遺跡（ＪＮＴ）

第１節　遺跡の概観

本遺跡は新治郡千代田村中佐谷字十百63・65・66番地に所在する。天の川と雪入川にはさまれ，天の川の支谷が中央部まで入り組んだ標高24～26mの台地上に立地し，北から西にかけて傾斜している。

本台地の北西には筑波山系の山本山（標高178.4m）が迫り，これに従う河川や沼地が多く，細い支谷にみられるように地形の起伏も大きい。

本遺跡の北東に笠松城址，800mのところに中佐谷Ａ遺跡があり，北西約750mのところに佐谷廃寺跡がある。調査対象面積1620㎡。

第２節　調査経過

○昭和53年４月

遺跡の現地踏査。発掘エリアの確認をする。

○昭和53年６月上旬

中佐谷十百229番地に発掘調査事務所を設置し，発掘調査の拠点とする。

○昭和53年９月中旬

発掘エリアの草刈り，桑の木の抜根，清掃等を実施する。

○昭和53年10月上旬

杭打ちを実施し，調査区を設定する。杭打ちは日本道路公団が設定した中心杭「359＋00」を基準とする。

○昭和53年10月中旬

杭打ちの続行及び調査方法について検討する。調査区数105。

○昭和53年10月下旬

排土置き場の設定とその草刈り及び清掃。

○昭和53年11月上旬

第１次調査に入る。遺跡内の北東部は耕作土の下がすぐローム層であるが，遺跡が西及び南に傾斜しているため，その他は暗褐色土層が１ｍ以上堆積している。

遺物の出土も少なく，須恵器片が中心である。

○昭和53年11月中旬

本遺跡の第１次調査を終了する。発掘調査区数28.448㎡。

第３節　遺構・遺物

(1) 遺　構

天の川支谷の奥斜面を中心に，1620㎡を調査の対象面積として，その約¼にあたる面積について表土を除去して第１次調査を実施し，遺構の検出につとめる。

斜面地のため，発掘区の深度はさまざまである。表土層10～20cmばかりが耕作土層で，それ以下褐色土層が部分的には１ｍ以上堆積している。

地山面はローム土層から灰色粘土層に変化する。基盤は砂礫の混入する灰色粘土層である。

本遺跡では，前述の第１次調査によって遺構を検出することはできなかった。

(2) 遺　物

本遺跡は1620㎡を調査の対象面積として，約¼にあたる面積について第１次調査を実施。遺物は，土師式土器，須恵器の破砕した小片が多量に出土。小破片のため復元は不能である。

須恵器では，杯の蓋部が多く，つまみが20個出土している。また折り返し口縁をもつ蓋部が１片みられる。

第8章　中佐谷A遺跡（JNS—A）

第1節　遺跡の概観

本遺跡は新治郡千代田村中佐谷字向山1081番地の1外6筆の地に所在し，雪入川を足下に見る標高25～26mの台地上に展開する畑地である。地形はほぼ平坦で南及び西に緩傾斜をみせる。幅約20mの小支谷を隔てた東側に中佐谷B遺跡が所在する。

発掘前の遺跡は，甘藷・桑畑・栗畑として耕作され，杯らしい土器が出土したことがあるようすだが，現在所在は不明である。土師式土器片が散布している。

中佐谷A・B両遺跡を界する谷頭から清水が湧き出して水田耕作に利用されているが，灌漑技術の未発達な時代での農耕や集落形成の上で最適の場所であったろうと推測される。発掘対象面積5760㎡。

第2節　調査経過

○昭和53年4月

現地踏査。発掘エリアの確認。

○昭和53年6月

7日より作業開始。

遺跡の草刈り及び流木の除去，桑の木の伐開および抜根，清掃等を実施する。並行して発掘区域の杭打ちを行なう。

杭打ちは，日本道路公団が設定した中心杭「367+40」を起点として4m方眼の小調査区を設定する。調査区数360。

下旬に遺跡全景の写真撮影を行ない，29日より第1次調査に入る。

○昭和53年7月

遺跡の第1次調査を続行する。

遺跡の南西部から表土除去作業を開始したが，その辺一帯はかつては谷であったのだろう，土砂が堆積してゆるやかな傾斜地を形成している。そのため，南西部の各調査区は2mほど掘り下げても暗褐色土層が続き，加えて暑熱地獄を思わせる炎天下での作業は困難を極め，1調査区の表土除去作業に予想外の日数を費す。しかも表土除去後数分で土壌が乾燥して土色に変化をきたし遺構確認が容易でない。ひたすら降雨を乞い願う。

遺物は各調査区より土師式土器片が出土し，５基の住居址状遺構が確認される。

○昭和53年８月

第１次調査を続行する。前月に引き続き晴天に恵まれ，表土除去作業は順調に進んだが遺構確認は困難を極める。３基の住居址状遺構が確認される。

住居址状遺構等の呼称は，西から東へ，南から北に向って01号住居址，02号住居址……とし，その後は確認順とする。

下旬に01号，02号住居址の検出に入る。

両遺構ともに南北ベルトはグリッドベルトを転用し，東西ベルトは遺構の主軸に直交するベルトを設定する。幅20cm。

01号住居址―十字ベルト中央部より掘り下げたところ張り床を検出する。出土遺物はすべて床面より浮いており，床面に炭化物がまじる。東及び南側の立ち上がりが検出できない。

02号住居址―床面も検出されないし遺物も出土しない。確認を誤るか。

○昭和53年９月上旬

02号住居址として発掘していた遺構が確認の誤りであったとわかり，これを欠番とする。

４日，５日と待望の降雨があり，新たに４基の住居址状遺構と土壙１基が確認される。

12号住居址・13号住居址・01号土壙の検出に入る。

○昭和53年９月中旬

01号住居址南側の壁面が検出できない。南側表土を除去し確認を急ぐ。14号住居址の検出に入る。

○昭和53年９月下旬

12・13・14号住居址，01号土壙の検出を続行する。12号住居址についてはほぼ東・西・南・北に壁面が検出される。01号住居址平面プランの実測を終了するが柱穴は未確認。

○昭和53年10月上旬

前月に引き続き12・13・14号住居址の遺構検出を続行する。14号住居址は南側に傾斜しているため,南側の立ち上がりが確認できない。あるいは流されてしまったか。

新たに15号住居址の発掘に入る。並行して上記各住居址のセクション実測，写真撮影等逐次実施し，01号住居址の発掘を終了する。

○昭和53年10月中旬

03・04・05・06・07・09号住居址の遺構検出に入る。発掘の進行に伴い，05・06号住居址と呼称していた遺構が１基の遺構と確認されたので，以後これを05号住居址と呼称し，06号住居址を欠番とする。

03・04号住居址南側に接して住居址状遺構を１基確認する。続いて15号住居址の東部にも１基

確認し，それぞれ17・18号住居址と命名する。

12号住居址１区より杯が４段重ねで出土する。セクション，平面図，エレベーション等の実測，写真撮影を行ない12号住居址の発掘を終了する。

○昭和53年10月下旬

08・10・11・17・18・19号住居址の検出に入る。

第１次調査において，10・11号住居址は隣接する２基の遺構と確認されたが，発掘の進行に伴い１基と確認されたので，これを11号住居址と呼称し，以後10号住居址を欠番とする。

13・14・15号住居址の実測を行なう。

住居址のほとんどが遺跡の北側に位置するため，北側に置いた排土を遺跡の南側に移動する。

○昭和53年11月上旬

13・14・15号住居址の遺構検出終了する。続いて04・05・07号住居址の実測と16号住居址の遺構検出に入る。19号住居址の立ち上がりは東,西,南側で確認されたが北側は調査区域外のため，北東部での確認を急ぐ。

○昭和53年11月中旬

04・05・07・09号住居址のセクション，平面図，遺物，エレベーション等の実測及び写真撮影を逐次実施し，上記住居址の遺構検出を終了する。

○昭和53年11月下旬

08・11・18号住居址の実測が終了する。続いて03号住居址の実測を開始する。

○昭和53年12月上～中旬

03・16号住居址の遺構検出及びセクション，平面図，エレベーション等の実測が終了する。続いて17・20号住居址の実測を開始する。

○昭和53年12月20日

年末に入るに当って，各住居址・土壙に霜対策を施し，出土中の完形，もしくはそれに近い遺物は平面図に位置をおとし，レベル実測と写真撮影を行って事務所に格納。発掘用具・器材等の整備・点検を実施して倉庫に格納し現場作業を終了する。

○昭和54年１月上旬

発掘用器材器具の点検，作業員への連絡等作業再開について準備をすすめる。

○昭和54年１月中旬

10日，発掘調査を再開する。

17号住居址の遺物あげ，カマドのセクション実測，土相記入，写真撮影，20号住居址の写真撮影，01号土壙の平面実測を実施し，１月19日本遺跡の発掘調査を終了する。

第3節　遺構・遺物

(1) 遺　構

01号住居址（第32図）

本住居址はU－5・U－6・V－5・V－6・W－5・W－6にわたって確認され，調査地区の南西部端に位置する。

主軸方向はN－15°－Wで，長径5.61m・短径4.8mほどの方形の平面形を呈している。北壁中央部にカマドが構築されている。

遺構は表土下第Ⅲ層面に検出され，壁はいずれも垂直ぎみに外反して立ちあがり，壁高は18～52cmほどである。北壁と西壁の下には幅10～15cm・深さ2～3cmほどの溝が回っている。

床はロームであり，しまり，粘性があって硬く，地形は南へ傾斜しているが，ほぼ平坦を呈している。

ピットは8個検出されたが，規模および位置から考えてP1～P4が本住居址の主柱穴と推定される。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考	ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考
P 1	27	22	41	主柱穴	P 5	30	19	15	
P 2	28	26	40	〃	P 6	22	14	19	
P 3	21	17	45	〃	P 7	28	26	19	
P 4	25	21	52	〃	P 8	38	34	50	

ピット周辺には木材の炭化したものが残っており，南西ピット北側には柱とみられる木炭が出土した。

住居址内覆土は農耕等による攪乱もあるが自然堆積の状態を示し，西から東へ，北から南へ傾斜する地形にしたがって側壁から褐色土，暗褐色土が流れこんで堆積している。

遺物は覆土より出土が多く，甕形土器（第71図1～4，10），杯形土器（第71図5～9，11）などがある。

03号住居址（第33～34図）

本住居址はM－4・M－5・M－6・N－4・N－5・N－6・O－4・O－5にわたって確認され，調査地区西端に位置する。東側で04号住居址と，南東で17号住居址と3基の住居址が複合している。

主軸方向はN—22.5°—Wで，長径6.7m・短径6.7mほどの方形の平面形を呈している。遺構は表土下第Ⅱ層に検出され，ほとんどの壁は垂直ぎみに外反して立ちあがり，壁高は14～40cmほどである。壁下を幅13～18cm・深さ15～30cmほどの溝が周回している。

床はロームであり，ほぼ平坦をなしているが，Ｐ１からＰ６を通って北西壁に至る地点にかけて，深く掘りこまれている。床面はそれほど硬いものではない。

ピットは12個検出され，本住居址の規模が大きいことから，主柱穴として住居址の複合する南東部は不明であるが，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ８と推定される。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考	ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考
Ｐ１	20	19	25	主柱穴	Ｐ７	16	15	15	
Ｐ２	19	17	15	〃	Ｐ８	18	18	20	主柱穴
Ｐ３	22	22	10		Ｐ９	35	21	29	
Ｐ４	23	18	27	主柱穴	Ｐ10	19	16	30	
Ｐ５	26	24	23		Ｐ11	24	19	13	
Ｐ６	26	18	34		Ｐ12	26	19	40	

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は炭化物，粘土ブロック，砂等を含有する暗褐色土が25cmほど堆積し，下層には粘性なく，雲母，粘土ブロックを含む暗褐色土が堆積している。

遺物は覆土内出土が多く，北西部および中央部付近から土師式土器，須恵器の破片が出土している。

小形甕（第72図５），皿（第72図４）等がみられる。

04号住居址（第33～34図）

本住居址はM—６・M—７・N—６・N—７に確認され，調査地区西側部に位置し，西に03号住居址と，南西で17号住居址に複合している。しかも，西壁および南壁が流失してしまい，床面からのみ形状を推定せざるを得ない。

主軸方向はN—17°—Wで，長径4.15m・短径3.5mほどの方形の平面形を呈していると推定される。

遺構は表土下第Ⅲ層に検出され，北壁および西壁はなだらかに外反して立ちあがり，壁高は９～14cmほどである。

床はロームであり，中央部が高く盛りあがり，軟弱な床面を呈している。北壁中央部にカマドの痕跡がみえるが，その造りを確認することができない。

ピットも１個検出されたにすぎない。長径22cm・短径21cm・深さ40cmほどである。

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層はロームを含む暗褐色土が20cmほど堆積し，最下層は黒色土（ブロック），粘土ブロックを含み，かたくしまった暗黄褐色土が堆積している。

遺物は土師式土器の破片が主で，他に須恵器片がみられ，甕形土器（第72図１～４・７），杯（第72図５・９）が出土している。

17号住居址（第33～34図）

本住居址はN－６・O－６に確認され，調査地区西側部に位置し，北側で03・04号住居址と複合している。

主軸方向はN－10°－Wで，長径3.8m・短径3.6mほどの方形の平面形を呈している。遺構は表土下第Ⅱ層面に検出され，壁はいずれも垂直ぎみに外反して立ちあがり，壁高は39～50cmほどである。西壁下に幅13cm・深さ３cmほどの溝が認められる。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，床面は軟弱である。北壁中央部にカマドが構築されている。カマド内の覆土は第Ⅰ層に砂を含む黄褐色土が堆積し，第Ⅱ層は炭化物を含む黒褐色土がみられ，この層はしまり，粘性がなくざくざくしている。最下層の焚口にあたる部分には，焼土を含む赤褐色土が堆積している。

ピットは北西コーナー部と南東コーナー部に２個検出される。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
Ｐ１	21	16	25	
Ｐ２	20	17	27	

遺物はピット付近の覆土を中心に出土し，小形甕，鉢形土器，杯，椀，須恵器皿（第87図　）がみられる。

複合する上記３基の住居址は，03号住居址を切って04号住居址が構築され，さらにそれらを切断して17号住居址が構築されたものと考えられる。

05号住居址（第35図）

本住居址はN－９・N－10・O－９・O－10にわたって確認され，調査地区西側部に位置し，北側で07号住居址と複合する。

主軸方向はN－23.5°－Wで，長径5.4m・短径3.8mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅲ層より掘りこまれ，壁は南側を除いてはいずれも外反して立ちあがる。南側

の壁は確認されない。傾斜地に構築された住居址のため流失した可能性が強い。壁高は14～16cmほどである。壁下に幅４cm・深さ９cmほどの溝が南側を除いて周回している。

床はロームを含み，粘性はあるが，それほど硬いものではなく，床面は南へ傾斜している。中央部に直径1.45m・深さ10cmほどのくぼみがみられる。炉址，カマドは認められない。

ピットは，住居址内外に確認することができない。

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，傾斜地のため，北および西側から流入し堆積している。

遺物は１区床面からの出土が多く，甕形土器（第75図１・２），鉢形土器（第75図８），杯形土器（第75図４・５），コシキ（第75図３）等が出土している。

07号住居址（第35図）

本住居址はＬ－10・Ｍ－９・Ｍ－10・Ｎ－９・Ｎ－10にわたって確認され，調査地区西側部に位置し，南側で05号住居址と複合する。

主軸方向はＮ－20.5°－Ｗで，長径5.25m・短径4.1(確認面)mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅳ層面に検出され，05号住居址と複合していると推察される。南側を除いては，ほとんどの壁はなだらかに外反して立ちあがり，壁高は15～21cmほどである。05号住居址によって切断されてしまったものと推定される。

床はロームを含むそれほど硬いものではなく，床面は南へ傾斜している。床面北西よりに長径25cm・短径22cmほどの楕円形状に焼土の散布がみられる。

ピットは本住居址内外に確認することはできない。住居址内覆土状況は自然堆積の状態を呈し，北および西側壁より流入によって堆積したと考えられ，覆土上層に砂，炭化物を含む暗褐色土が，下層にはロームを含む黄褐色土がみられる。

遺物は床面上中央部北よりに集中し，コシキ（第76図１）・高杯（第76図２～５），椀形土器（第76図６）甕形土器等が出土している。

05・07号の両住居址はいずれも古墳時代のものと考えられるが，新旧関係については，07号住居址を切断して05号住居址が構築されたと考えるのが妥当であろう。

08号住居址（第36図）

本住居址はＫ－５・Ｋ－６・Ｌ－５・Ｌ－６に確認され，調査地区北西端に位置する。北側が調査地区外に属し，西側が19号住居址と複合するため，本住居址の全容を明確にすることができない。

主軸方向はＮ－42°－Ｗと推定され，長径4.4m・短径3.6mほどの方形の平面形を呈するものと推定される。

遺構は表土下第Ⅰ層に検出され，表土除去の後に床面が露呈し，床面南東部に炭化物の散布がみられる。西および南側の壁は外反して立ちあがり，壁高は７cmほどである。壁下には幅15cm・深さ11cmほどの溝が回っている。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，それほど硬いものではない。

ピットは１個検出されたのみで，長径16cm・短径14cm・深さ22cm ほどを計測するが柱穴と断定するには，住居址そのものの形が不明であることから極めて弱いものと考えられる。

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層にはローム粒子，粘土ブロック，炭化物等を含む暗褐色土が，最下層にはローム粒子を含む黄褐色土の堆積がみられる。

遺物は，床面南西コーナーより杯形土器（第77図１）が出土したほかは，破片も極めて少ない。

19号住居址（第36図）

本住居址はＪ－６・Ｊ－７・Ｋ－６・Ｋ－７・Ｌ－６・Ｌ－７にわたって確認され，調査地区北西部に位置する。北西コーナー部が調査区域外であり，西側は08号住居址と複合する。

主軸方向はＮ－15°－Ｗであり，長径６ｍ・短径６ｍほどの正方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層に検出され，壁はいずれもなだらかに外反して立ちあがり，壁高は13～26cmほどを計測する。壁下には幅10～13cm・深さ３～６cmほどの溝が回っている。

床はロームおよびかたい粘土ブロックで硬質であり，平坦をなしている。床面南西よりに貯蔵穴が１個検出され，長径75cm・短径59cm・深さ41cmほどを計測する。

北壁中央部に直径1.8m・深さ13～15cmほどの方形状のカマドが構築されていた痕跡が認められるが，その造りについては確認できない。

カマド内覆土は，第Ⅰ層が砂およびロームブロックを含むしまりのない褐色土で，焚口部と推定される部分まで堆積し，カマド内には焼土を多量に含む茶褐色土がかたくしまって堆積し，竈床は焼けてかたくしまった暗赤色土がみられる。粘土の使用は確認できず，砂と焼土の検出にとどまる。

ピットは11個検出され，位置的にみてＰ１～Ｐ４が主柱穴と考えられるが，Ｐ３～Ｐ４は主柱穴と断定するには弱く，主柱穴の補助的なものと考えるのが妥当かと考えられる。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考	ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考
P 1	37	32	12	主柱穴	P 7	27	22	23	
P 2	51	49	46		P 8	20	18		
P 3	32	8	15		P 9	15	14	30	
P 4	23	14	19	主柱穴	P 10	20	19	26	
P 5	22	20	43		P 11	11	8	33	
P 6	24	23	26						

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層はスコリア，ローム粒子を含む非常にかたくしまった黄褐色土が，下層には炭化物，ローム，かたい粘土ブロック等を含む褐色土が堆積している。

遺物は覆土内より土師式土器の破片が多数出土し，甕形土器（第88図１～８），鉢形土器（第88図11），椀形土器（第88図10），コシキ（第88図９），砥石（第89図１）等がみられる。

09号住居址（第37図）

本住居址はK－７・K－８・K－９・L－７・L－８・L－９・M－８にわたって検出され，調査地区西側に位置し，北西コーナーで19号住居址と複合する。

主軸方向はN－21°－Wで，長径6.12m・短径5.9mほどを測る方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層に検出され，壁はいずれも垂直に立ちあがり，壁高は22～46cmほどである。壁下には幅９～13cm・深さ２～３cmほどの溝が周回している。

床はロームであり，平坦をなし，硬い床面を呈している。北壁中央部には直径１m・深さ８cmほどのカマドの構築されていた痕跡が認められるが，本住居址においてもその造りについては確認することができない。カマド内覆土状況は，覆土上層は砂を多量に含むかたくしまった褐色土が厚い層(14～36cm)をなして堆積し，第Ⅱ層は砂を含む焼土でしまりなくザクザクしていて暗褐色を呈し，最下層は焼土，粘土ブロック，砂を等分に含む暗赤褐色土であり，周囲はローム質およびローム土層である。

ピットは７個検出され，P１～P４が本址の主柱穴と考えられる。直径はあまり大きいものではない。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	23	21	38	主柱穴
P 2	21	18	40	〃
P 3	30	29	45	〃
P 4	27	17	42	〃
P 5	18	16	36	
P 6	17	13	26	
P 7	18	14	40	

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層はローム粒子，炭化物を含む暗褐色土が堆積し，最下層は硬くしまって粘性のあるローム小礫，炭化物，粘土ブロックを含む褐色土の堆積がみられる。

遺物は覆土中より多数土師式土器の胴部の破片が出土し，甕形土器（第79図１～４），鉢形土器（第79図12）等が出土する。須恵器の高杯も出土している。

08・19・09号住居址については，古墳時代に展開された住居址と推定されるが，新旧関係については，08号住居址を切断して19号住居址が作られ，さらにそれを切断して09号住居址が構築されたと考えられよう。

11号住居址（第38図）

本住居址はH－11・H－12・I －11・I －12・J －11・J －12にわたって確認され，調査地区中央部より北側よりに位置し，18号住居址西側４ｍほどのところにある。

主軸方向はN－17°－Wであり，長径6.75m・短径6.5mほどの方形の平面形を呈している。遺構は表土下第Ⅰ層に検出され，北壁，西壁は垂直に，他の壁はなだらかに外反して立ちあがり，壁高は31～47cmほどである。壁下には南を除いて幅６～12cm・深さ２～３cmほどの溝が回っている。

床はロームであり，平坦をなし極めて硬質の床面を呈している。南側中央部に貯蔵穴が検出される。長径68cm・短径62cm・深さ41cmほどを計測する。

カマド，炉址，および本住居址に係る外部施設は，認められない。

ピットは12個検出され，住居址内の位置およびピットの配列よりＰ１～Ｐ４，Ｐ７，Ｐ11が本址の主柱穴と考えられる。直径は20cm前後である。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考	ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考
P 1	22	18	25	主柱穴	P 7	23	23	31	主柱穴
P 2	19	16	18	〃	P 8	27	19	44	
P 3	18	17	20	〃	P 9	14	13	23	
P 4	15	14	33	〃	P 10	21	17	22	
P 5	18	13	18		P 11	19	16	25	主柱穴
P 6	21	17	32		P 12	20	17	20	

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は炭化物，スコリアを含む非常にかたくしまった暗褐色土の堆積がみられ，最下層は炭化物，ロームブロックを含む黄褐色土が堆積している。

遺物は覆土の中より，土師式土器の破片が多量に出土し，甕形土器（第78図），高杯（第78 3），杯形土器（第78図４・５），コシキ（第78図１・２），把手（第78図８），手づくね（第78図７）の出土がみられる。

12号住居址（第39図）

本住居址はE—19・E—20・F—19・F—20・G—19にわたって確認され，調査地区中央部の北西に位置し，南側で20号住居址と複合し，西側で16号住居址に接する。遺構南東壁は検出できない。

主軸方向はN—42.5°—Wで，長径5.2m・短径4.75mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層に検出され，壁（南東壁を除いて）は外反して立ちあがり，壁高は15～36cmほどである。壁下には幅10～14cm・深さ２～４cmほどの溝が検出される。

床はロームであり，平坦をなし，極めて硬質の床面を呈している。西壁中央部にカマドの構築されていた痕跡がみえるが，その造りについては確認できない。砂の堆積が検出されたのみである。

ピットは４個検出されるも，南側コーナー部においては検出できず，Ｐ１，Ｐ２，Ｐ３が本址の主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
P 1	25	25	48	主柱穴
P 2	25	21	39	〃
P 3	24	22	16	〃
P 4	25	23	53	

住居址内覆土は攪乱も多いが自然堆積の状態を示している。覆土上層は炭化物，粘土ブロック，ローム粒子等を含む褐色土であり，下層にはロームまじりの褐色土が堆積している。

遺物は覆土出土が多く，西側コーナーより４段重ねの杯形土器（第80図 ）が出土し，その他甕形土器（第80図）が出土する。

16号住居址（第40図）

本住居址はＦ—18・Ｆ—19・Ｇ—18・Ｇ—19に確認され，調査地区中央部の北西に位置し，東側で20号住居址と複合し，北東部で12号住居址に接する。

主軸方向はＮ—17.5°—Ｅであり，長径4.85m・短径4.35mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層に検出され，壁は垂直に立ちあがり，壁高は34～58cmほどである。床はロームであり硬質で，床面は南に緩傾斜をみせる。

北壁中央部にカマドが構築されていた痕跡が認められるが，その構造を確認することができない。カマド址と考えられる部分における覆土状況は，上層に炭化物，ロームブロックを多量に含む褐色土がみられ，第Ⅱ層にロームおよび数cmほどの粘土ブロックを含む黄褐色土が，焚口部と推定される部分には焼土が多量に，カマドの奥と考えられる部分にはローム質で砂を少し含む黄褐色土がそれぞれ堆積している。

北西コーナー付近に貯蔵穴が１個検出されている。長径72cm・短径49cm・深さ23cmほどの規模を有している。

ピットは６個検出されたが，北西コーナーには検出できない。直径はあまり大きくなく，Ｐ１～Ｐ３が本住居址の主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
Ｐ１	17	14	18	主　柱　穴
Ｐ２	15	12	21	〃
Ｐ３	18	12	24	〃
Ｐ４	15	11	28	
Ｐ５	20	12	51	
Ｐ６	18	10		

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は焼土，ロームブロックを多く含む黒褐色土が，第Ⅱ層はロームブロックを含む褐色土で，最下層はローム質の黄褐色土の堆積がみられる。

遺物は覆土から土師式土器の破片が中心で，鉢形土器（第84図13～15)の完形品その他甕形土器(第84図１～６)，小形甕（第84図７・12)，杯形土器（第84図９～11)，コシキ等が出土している。

20号住居址（第41図）

本住居址はF—20・G—19・G—20・G—21・H—19・H—20にわたって確認され，調査地区中央部より北東に位置し，北側で12号住居址と，北西において16号住居址とそれぞれ複合する。

主軸方向はN—44°—Wであり，長径6.3m・短径6.1mほどの方形の平面形を呈すると推定される。

遺構は表土下第Ⅱ層に検出され，壁は垂直に外反して立ちあがり，壁高は14～25cmほどである。壁下には幅10cm・深さ4cmほどの溝が回っている。

床はロームで平坦をなし，硬くしまった床面を呈している。カマドの痕跡は認められない。

ピットは7個検出され，P1～P3が本住居址の主柱穴と考えられる。南西コーナー部は複合しているため検出できない。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備考
P 1	52	44	26	主柱穴
P 2	26	25	40	〃
P 3	28	22	20	〃
P 4	23	19	28	
P 5	21	21	40	
P 6	41	34	47	
P 7	17	12	33	

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は砂を含む褐色土で下層はロームを含む茶褐色土が堆積している。

遺物は極めて少なく，土師式土器の破片が覆土より出土し，杯形土器（第90図2），小形甕（第90図1）等がある。

12・16・20号の3住居址はともに古墳時代の遺構であるが，新旧関係については，20号住居址を切断して12号住居址が構築されたと推定される。

13号住居址（第42図）

本住居址はG—22・G—23・H—22・H—23・I—22・I—23にわたって確認され，調査地区の東部に位置する。

主軸方向はN—23°—Wであり，長径5.4m・短径5.1mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅲ層面に検出され，壁はいずれも垂直に立ちあがり，壁高は57～64cmほどである。壁下には北を除いて幅13～34cm・深さ3～10cmほどの溝が周回している。

床はロームであり，かたくしまり，床面は中央部がやや高くなり，北東部および南側がやや深く掘りこまれている。

北壁中央部にカマドの痕跡があり，覆土状況は上層が小礫粒子を含む暗褐色土，第Ⅱ層は第Ⅰ層と同じでしまりがなくザクザクした土層，下層に焼けた土器小片，炭化物を含む褐色土層の堆積がみられる。

ピットは10個検出され，Ｐ１～Ｐ４が本址の主柱穴と考えられる。

ピット番号	長径　cm	短径　cm	深さ　cm	備　　考
Ｐ１	20	18	22	主　柱　穴
Ｐ２	23	21	31	〃
Ｐ３	20	17	21	〃
Ｐ４	24	20	20	〃
Ｐ５	24	19	18	
Ｐ６	20	17	18	
Ｐ７	22	22	26	
Ｐ８	19	19	16	
Ｐ９	22	22	15	
Ｐ10	24	24	16	

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は粘土ブロック，炭化物粒子を含む暗褐色土が堆積し，最下層はローム質，炭化物，青灰色粘土を含む褐色土の堆積がみられる。

遺物は土師式土器，須恵器の出土がみられ，甕形土器，(第82図１～５，９～15)，鉢形土器（第82図７）杯形土器（第82図８・16～21）等および本遺跡唯一の墨書土器片（ＰＬ165―８）が出土している。

14号住居址（第43図）

本住居址はＫ―21・Ｋ―22・Ｌ―21・Ｌ―22・Ｌ―23にわたって確認され，調査地区中央部東よりに位置し，13号住居址の南約９ｍほどにある。

主軸方向はＮ―８°―Ｗであり，長径7.6ｍ・短径5.4ｍほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅲ層に検出され，壁はいずれも外反して立ちあがり，壁高は19～36cmほどである。壁下に一部を除いて幅11～20cm・深さ７cmほどの溝が周回している。

床はローム質で平坦をなし，床面はそれほど硬いものではない。東壁中央部近くの床面上に幅10cm・長さ60cm・厚さ６cmの木炭と幅10cm・長さ24cm・厚さ５cmほどのものが検出されている。

北壁中央部には，カマドの痕跡が確認されるも，その構造については不明である。覆土は上層に砂，焼土ブロック，粘土ブロックを含む暗赤褐色土が，第Ⅱ層は砂を多量に含む茶褐色土が，カマドを囲むように堆積し，カマド内部と考えられる層は赤色の焼土のみがかたくしまって堆積している。特に各層に砂が多量に含まれているのが目立つ。

本址はピットが多数検出され，22を数える。本址の規模，ピットの位置および配列から推察して，主柱穴はＰ１～Ｐ６と考えられる。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考	ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考
Ｐ１	21	20	52	主柱穴	Ｐ12	16	16	16	
Ｐ２	18	17	55	〃	Ｐ13	18	18	30	
Ｐ３	26	19	46	〃	Ｐ14	16	13	20	
Ｐ４	20	20	48	〃	Ｐ15				
Ｐ５	24	22	47	〃	Ｐ16				
Ｐ６	23	22	61	〃	Ｐ17	23	20	32	
Ｐ７	19	22	21		Ｐ18	22	15	30	
Ｐ８	21	21	45		Ｐ19	18	15	13	
Ｐ９	21	21	43		Ｐ20	20	17	18	
Ｐ10	20	20	28		Ｐ21	18	13	12	
Ｐ11	28	28	35		Ｐ22	22	19	20	

住居址内覆土は南の傾斜地に本址が構築されているため，北側より流入し堆積した自然堆積の状態を示している。

遺物は小形甕（第83図５）の完形品外，土師式土器の破片で，甕形土器（第83図１・２・４），杯形土器（第83図７～10），椀形土器（第83図11），手づくね（第83図13），コシキ（第83図６）等が出土している。

遺構内から焼土が多量に検出され，明らかに柱と考えられる木炭が床面上に検出されたことは，本址が火災にあったものと考えられる。

15号住居址（第44図）

本住居址はＧ―15・Ｇ―16・Ｈ―15・Ｈ―16・Ｉ―15・Ｉ―16にわたって確認され，調査地区の中央部北側よりに位置し，16号住居址の西約５ｍほどのところにある。

主軸方向はＮ―21°―Ｗであり，長径5.26m・短径5.1mほどの方形の平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅰ層に検出され，壁はいずれも垂直に立ちあがる。壁高は２～９cmほどである。壁下には，西および北西を除いて溝が回っている。

床はロームであり，平坦をなし，床面は硬い。北壁中央部はカマドの痕跡が確認され，砂と焼土が検出されている。

床面北西コーナーには長径103cm・短径90cmほどの楕円形の平面形を呈する貯蔵穴が検出され，床面からの深さ13cmほどを計測する。

ピットは11個検出され，Ｐ１～Ｐ４が対角線上に位置することから，本址の主柱穴と考えられる。直径はそれほど大きくないが，深さはかなりある。

ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考	ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考
Ｐ１	21	15	40	主柱穴	Ｐ７	25	23	60	
Ｐ２	22	18	36	〃	Ｐ８	19	17	25	
Ｐ３	23	19	41	〃	Ｐ９	25	19	34	
Ｐ４	27	18	47	〃	Ｐ10	29	25	30	
Ｐ５	25	19	57		Ｐ11	23	21	41	
Ｐ６	20	18	30						

本址は表土直下に床面が露呈していた。

遺物はあまり多くなく，甕形土器（第81図５），杯形土器（第81図１～４）が出土している。

18号住居址（第45図）

本住居址はＨ―13・Ｈ―14・Ｉ―13・Ｉ―14に確認され，調査地区中央部北よりに位置し，11号住居址東側４ｍほどのところにある。

長径5.3ｍ・短径４ｍほどの不整形方形の平面形を呈しているが，主軸方向は不明である。

遺構は表土下第Ⅲ層面に検出され，壁はいずれも外反して立ちあがる。壁下に壁溝は認められない。

床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬質の床面を呈している。北壁中央部の覆土にカマドらしき痕跡をみるが明確でない。

ピットは２個検出され，北壁東よりは長径95cm・短径88cm・深さ18cmを有するピットで貯蔵穴と考えられ，その南に検出された長径25cm・短径21cm・深さ39cmほどのピットは，本址の主柱穴と判断するには極めて弱く困難である。

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層は炭化物を含む黄褐色土，下層は炭化物，粘土ブロックを含むしまりのある褐色土の堆積がみられる。

遺物は覆土からの出土が主で数は少ない。主たる遺物は甕形土器(第86図１～４),杯形土器（第86図６～９),コシキ（第86図５）等である。

01号土壙（第45図）

本址はJ —16・J —27・K —26・K —27に確認され，調査地区東側端に位置する。

主軸方向はN —35°—Wで，長径5.2m・短径５ｍほどの楕円形の平面形を呈する。遺構は表土下第Ⅱ層に検出され，壁は外反して立ちあがる。壁高は14～15cmほどである。

床はロームであり，平坦で硬質の床面を呈す。住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，第Ⅰ層は細砂を含む黒褐色土が，第Ⅱ層はローム粒子。焼土を含む褐色土が堆積している。

遺物は土師式土器の破片が数点出土したのみである。

(2) 遺　物

住居址番号	遺物No.	器種	法量 cm 口径	法量 cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
01	1	甕(土師器)	底径 7.8		胴部球形，平底，胴部篦磨き，底部篦削り，器内面・篦ナデ，胴部上位欠損。	橙色	スコリア 砂礫	良好
01	2	甕(土師器)	26.8		口縁部「く」の字に開く。胴部球形。口縁部は横ナデ，胴部篦削り，器内面横ナデ	橙色	スコリア 砂礫	良好
01	3	甕(土師器)	17.8		口縁部¼遺存し丸味をもって外反。横ナデ整形。	明赤褐色	砂礫	良好
01	4	甕(土師器)	13.8		口縁部¼遺存，器内・外面に横位の篦ナデ整形。	橙色	スコリア 砂礫	良好
01	5	杯(土師器)	15	4.7	口縁部はほぼ垂直に立ちあがり，中位から外反，丸底。口縁部横ナデ。	橙色	スコリア 砂礫	
01	6	杯(土師器)	13.4	4.7	口縁部内彎ぎみに立ちあがり，大きく外反，丸底。器外・内面に横ナデ，朱付着。	赤褐色	スコリア 砂礫	良好
01	7	杯(土師器)	14.8	4.4	口縁部・底部の一部を欠く。、6とほぼ同じ形態。口縁部横ナデ，底部篦削り。朱が付着。	赤褐色 橙色	砂礫を少々	良好
01	8	杯(土師器)	14.5	4.4	約½欠失。口縁部短かく垂直に立つ。胴部内彎しながら大きく開く。平底。口縁部横ナデ，胴部・底部篦削り。朱付着。	明赤褐色	スコリア 砂礫	良好
01	9	杯(土師器)	13.4	7.5	口縁部短かく垂直に立つ。胴部は丸味をもち，扁平な丸底。	赤褐色	砂礫を少々	良好
01	10	甕(土師器)	10.3		口縁部約¼遺存。口縁部垂直に立ちあがる。横ナデ整形。朱が付着。	明赤褐色		良好
01	11	杯(須恵器)	底径 8.2		約¼遺存。胴部直線的に開いて立ちあがる。平底。胴部ロクロナデ。	灰黄色	スコリア 砂礫	良好
03	1	甕(土師器)	26.2		口縁部¼遺存。口縁部外彎して立ちあがる。ナデ整形。	にぶい黄橙色	スコリア 砂礫	良好
03	2	甕(土師器)	20		口縁部約¼遺存。口縁部外彎。ナデ整形。	浅黄橙色	砂礫多	良好

住居址 遺物 番号 No.	器種	法量 cm 口径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
03 3	甕	14.1		口縁部2/11遺存。口縁部外彎しナデ整形。胴部は中位が張り篦削り。	にぶい黄橙色	スコリア 砂礫	良好
03 4	椀	14.2	9.8	2/3遺存。口縁部垂直ぎみ。胴部中位が張る。丸底。胴部篦削り。口縁部ナデ。	にぶい橙色	砂礫多	良好
03 5	小形甕	10.2	12.2	3/4遺存。口縁部短・垂直。胴部中位が張る。上げ底。外・篦削り。内篦ナデ。	にぶい黄橙色	砂礫	軟弱
03 6	杯	10.8	8.6	3/4遺存。口縁部短・内傾，胴部中位に張り，上げ底。器外面篦削り。	橙色	砂礫	普通
03 7	鉢	12	11.7	完存。口縁部外反，上位に張り，平底器外面篦削り，口縁部ナデ。	赤色	スコリア 砂礫多	良好
03 8	杯	12	3.4	3/4遺存。口縁部外彎しながら垂直に。体部短・丸底。体部篦削り，器内面篦磨き。	にぶい橙色	スコリア 砂礫	良好
03 9	椀	13.7	5.1	3/4遺存。口縁部外反，体部短・丸底，体部篦削り，器内面篦ナデ。	灰褐色	砂礫	良好
03 10	杯	14.2	4.1	3/4遺存。口縁部内傾，丸底，器外面篦削り。器内面，口縁部ナデ。	にぶい黄橙色	スコリア 砂礫	普通
03 11	杯	13.2	4.4	5/6遺存。口縁部内傾。丸底。器外面篦削り，器内面篦ナデ。	黒色	砂礫	普通
03 12	杯	12.8	4.3	4/5遺存。口縁部内傾。丸底。器外面篦削り。器内面篦ナデ，口縁部ナデ。	にぶい褐色	スコリア 砂礫	良好
03 13	杯	13.25	4.8	完存。口縁部内傾，丸底で凹あり。器外面篦削り。口縁部ナデ。	浅黄橙色	スコリア 砂礫	普通
03 14	杯	14.1	3.6	完存。口縁部内傾。丸底。器外面篦削り。口縁部，器内面ナデ。	浅黄橙色	砂粒	良好
03 15	杯	17.2	4.2	1/4遺存。口縁部内彎。丸底。器外面篦削り。器内面篦ナデ。口縁部ナデ。	にぶい橙色	スコリア 砂粒	良好
03 16	杯	14.1	3.8	口縁部1/2，体部3/4遺存。口縁部内傾，丸底。器外面篦削り，器内面ナデ。	赤黒色	砂粒	普通
03 17	杯	13	4.1	3/4遺存。口縁部内傾。丸底。器外面篦削り。器内面，口縁部ナデ。	橙色	スコリア 砂粒	

住居址番号	遺物No.	器種	法量 cm 口径	法量 cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
03	18	杯（土師器）	13.1		口縁部⅓遺存。口縁部内彎。器肉ほぼ均一。口縁部ナデ。朱が付着。	赤橙色	砂粒	良好
03	19	杯（土師器）	18.9		口縁部¼遺存。口縁部外傾。ナデ整形。	橙色	スコリア砂粒・砂礫	良好
03	1′	杯（土師器）	15.3	5.8	⅞完存。口縁部内傾。丸底。器外面篦削り。口縁部，器内面ナデ。	にぶい橙色	スコリア砂礫	良好
03	2′	杯（土師器）	19.4	6.95	¾遺存。口縁部内傾・丸底。器外面篦削り。口縁部，器内面篦ナデ。	にぶい橙色	スコリア砂粒	良好
03	3′	小形甕（土師器）	6.2		¼遺存。口縁部外彎。下位に張り，胴長。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	明赤褐色	砂礫多	普通
03	4′	小形杯（土師器）	6.8	2.1	⅚遺存。口縁部内傾。平底。口縁部ナデ整形。	にぶい褐色	スコリア砂礫	良好
03	5′	皿（須恵器）	20.0	4.3	⅘遺存。口縁部外反。器内面ロクロナデ。高台ナデ。底部ロクロ削り。	黄灰色	砂礫	良好
03	6′	把手（土師器）				にぶい黄橙色	砂礫	良好
04	1	甕（土師器）	21.5		口縁部⅔遺存。口縁部外反。ナデ整形。	明赤褐色	砂礫	軟弱
04	2	甕（土師器）	20.1		口縁部½遺存。口縁部「く」の字に大き開く。器外面ナデ。器内面篦削り。	橙色	砂礫	良好
04	3	甕（土師器）	21.1		口縁部½遺存。「く」の字に開く。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	にぶい褐色	砂礫	良好
04	4	甕（土師器）	15.0	16.3	胴部¼欠　。他遺存。口縁部「く」の字に外反，中位が張る。器外面ヘラ調整。	橙色	砂礫	普通
04	5	杯（土師器）	15	3.6	⅚遺存。口縁部内傾。丸底。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	にぶい橙色	スコリア砂礫	良好
04	6	鉢（土師器）	15.8	8.0	¾遺存。口縁部外彎して垂直に。最大幅上位。平底。器外面篦削り。	(内)にぶい橙色 (外)赤褐色	スコリア砂礫	良好
04	7	甕	底径 9.0		底部⅓遺存。器外面篦磨き。底部・器内面篦削り。	にぶい黄橙色	砂礫多	良好

住居址番号	遺物No.	器種	法量 cm 口径	法量 cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
04	8	長甕（土師器）	9.7		底部完存，他欠失。平底。器外面篦磨。器内面篦削り。底部木の葉圧痕。	にぶい橙色	スコリア砂礫	良好
04	9	杯（須恵器）	13.5	4.1	底部⅓，口縁部¼遺存。口縁部外傾。底部平底。器内面ロクロナデ。	にぶい黄橙色	スコリア砂礫	普通
04	10	杯（須恵器）	16.2		口縁部¼遺存。口縁部やや外彎。器内面ロクロナデ。	にぶい黄橙色	スコリア砂礫	普通
05	1	甕（土師器）	17.0		口縁部，胴部⅙遺存。口縁部外彎・ナデ。器内面篦ナデ。	にぶい黄橙色	スコリア砂礫	良好
05	2	甕（土師器）	21.4		¾遺存。口縁部大きく外彎。平底。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	橙色	スコリア砂礫	良好
05	3	コシキ（土師器）	9.2		底部完存。平底。器外面篦磨き。器内面篦ナデ。	にぶい黄橙色	スコリア砂礫	良好
05	4	杯（土師器）	13.0	4.3	⅘遺存。口縁部内傾。丸底。器外面篦削り。口縁部・器内面篦ナデ。	灰褐色	砂粒	良好
05	5	杯（土師器）	12.7	4.4	⅚遺存。口縁部内傾。丸底。口縁部ナデ。器外面篦削り，器内面篦ナデ。	外一黒色 内一橙色	砂粒少	良好
05	6	杯（土師器）	13.4		口縁部⅓遺存。口縁部内傾。器外面篦削り，口縁部ナデ。	にぶい橙色	スコリア砂粒	良好
05	7	杯（土師器）	15.8		口縁部⅕遺存。口縁部直立ぎみに内傾。器外面篦削り。口縁部ナデ。内面篦ナデ。	にぶい橙色	スコリア砂粒	良好
05	8	鉢（土師器）	15.2	12.3	ほぼ完存。口縁部垂直に立つ。平底。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	にぶい橙色	砂礫多	良好
07	1	コシキ（土師器）	24.8		⅔遺存。口縁部外傾，胴部上位やや張り以下窄る。平底。整形同上。	にぶい褐色	砂礫多	良好
07	2	高杯（土師器）	14.8	8.5	⅔遺存。口縁部外反。口縁部ナデ。杯部内ナデ，器外面磨滅。	明赤褐色	砂礫	良好
07	3	高杯（土師器）			脚部¾遺存。脚部大きく開く。杯部内面ナデ。脚部外面篦削り。	橙色	スコリア砂礫	良好
07	4	高杯（土師器）	裾径 10.5		脚部のみ遺存。脚部「八」の字に大きく開く。器外面篦磨き。器内面篦削り。	明赤褐色	スコリア砂礫多	良好

住居址番号	遺物No.	器種	法量 cm 口径	法量 cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
07	5	高杯（土師器）	底径 9.0		脚部⅓遺存。脚部横に大きく開く。脚部外面指押し，内面ケズリ。	橙色	スコリア 砂礫	良好
07	6	椀（土師器）	10.9		口縁部⅖遺存。口縁部内傾，口縁部ナデ整形。	橙色	砂粒 砂礫	良好
07	7	甕（土師器）	底径 7.6		底部½遺存。厚みのある上底。直線的に外傾。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	内一橙色 外一にぶい橙色	スコリア 砂礫	良好
07	8	把手			ほぼ完存。	にぶい黄橙色	砂礫	良好
08	1	椀（土師器）	13.4	4.8	¾遺存。口縁部外反。丸底。器外面篦削り。器内面篦ナデ。口縁部ナデ。	橙色	スコリア 砂礫	良好
19	1	小形甕（土師器）	15.9		口縁部⅛遺存。口縁部「く」の字に外反。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	にぶい褐色	スコリア 砂礫	良好
19	2	甕（土師器）	22.8		⅓遺存。口縁部大きく外彎。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	明赤褐色	スコリア 砂礫	良好
19	3	甕（土師器）	20.0		胴部⅓より上位遺存。口縁部「く」の字に外反。器外面篦削り，器内面篦ナデ。	赤色	砂礫多	良好
19	4	甕（土師器）	25.3		口縁部⅙遺存。口縁部「く」の字に外反。器外面篦削り，器内面篦ナデ。	にぶい橙色	砂礫多	良好
19	5	甕（土師器）	16.2		口縁部⅓遺存。口縁部「く」の字に外反。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	にぶい黄橙色	砂礫	良好
19	6	甕（土師器）	17.0		⅓遺存。口縁部「く」の字に外反。胴長。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	明赤褐色	スコリア 砂礫	良好
19	7	甕（土師器）	底径 8.2		底部のみ遺存。やや上げ底。直線的に外傾。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	橙色	スコリア 砂礫	良好
19	8	甕（土師器）	底径 9.0		底部½遺存。平底。直線的に外傾。器内面篦磨き。底部篦削り。内面篦ナデ。	にぶい黄橙色	スコリア 砂礫	良好
19	9	コシキ（土師器）	26.0	24.3	ほぼ完存。口縁部「く」の字に外反。最大幅上位。外面篦削り，内面篦磨き。	橙色	砂礫	良好
19	10	椀（土師器）	10.8		口縁部⅓遺存。口縁部外反。上位に最大幅。器外面篦削り。朱付着。	赤色	スコリア 砂礫	良好

住居址番号	遺物No.	器種	法量 cm 口径	法量 cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
19	11	鉢（土師器）	16.8		⅓遺存。口縁部外反。平底。器外面篦削り。器内面篦ナデ。口縁部ナデ。	にぶい褐色	スコリア 砂礫	良好
19	01	砥石			完存。	灰色		良好
09	1	甕	21.0		¼遺存。口縁部外彎。器外面篦削り。器内面篦ナデ，口縁部ナデ。	にぶい橙色	スコリア 砂礫	良好
09	2	甕	23.0		口縁部完存。口縁部外彎。器外面篦削り。口縁部ナデ。	にぶい橙色	スコリア 砂礫	良好
09	3	甕	23.8		口縁部⅓遺存。口縁部外彎。器外面篦削り。器内面篦ナデ。口縁部ナデ。	橙色	スコリア 砂礫	良好
09	4	小形甕	10.3		口縁部¼遺存。口縁部「く」の字に外反。口縁部ナデ。	橙色	砂礫	良好
09	5	高杯	底径 8.7		脚部⅔遺存。脚部「ハ」の字に開く。杯部内面朱付着。器外面篦削り。	にぶい橙色	スコリア 砂礫	良好
09	6	高杯（須恵器）	19.5	17.0	脚部⅔遺存。杯部完存。口縁部外反。脚なだらかに外反，下位より横に開く。	灰色	砂礫	良好
09	7	杯（土師器）	15.2		口縁部½遺存。口縁部外傾。器外面篦削り。器内面，口縁部ナデ。	黒褐色	砂粒	良好
09	8	杯（土師器）	13.3	3.3	口縁部⅔遺存。口縁部内傾。丸底。器外面篦削り。口縁部，器内面，篦ナデ。	黒色	砂粒	良好
09	9	杯（土師器）	14.0		口縁部欠失。丸底。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	黒褐色	砂粒	良好
09	10	杯（土師器）	13.3		口縁部⅔遺存。口縁部外反。口縁部，器内面朱塗り。器外面篦削り。	赤色	スコリア 砂粒	良好
09	11	椀（土師器）	10.3		口縁部¼遺存。口縁部垂直に立ち，先端内傾，最大幅中位，扁平な球形，朱付着。	赤色	スコリア 砂礫	良好
09	12	鉢（土師器）	14.2		口縁部⅕遺存。口縁部「く」の字に外反，上位張る。器外面篦削り。	にぶい橙色	砂礫多	良好
09	13	壺（土師器）	底径 4.0		底部完存。底部やや上げ底。直線的に開く。胴部篦磨き。底部篦削り。	橙色	スコリア 砂礫	普通

住居址番号	遺物No.	器種	法量cm 口径	法量cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
09	14	壺（土師器）	底径 6.6		底部½遺存。平底，直線的に開く。器外面篦削り。器内面ナデ。	内一橙色 外一にぶい褐色	スコリア 砂礫	良好
09	15	甕（土師器）	底径 6.2		底部¼遺存。平底。直線的に開く。器外面篦削り。器内面磨滅して不明。	にぶい黄橙色	砂礫多	良好
09	16	甕	底径 7.0		底部¾遺存。内彎して立つ。平底。器外面篦削り。器内面ナデ。	にぶい褐色	スコリア 砂礫	良好
09	17	甕	底径 6.3		底部のみ完存。直線的に開く。上げ底。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	褐灰色	砂礫	良好
09	18	小形甕（手捏）	底径 3.2		底部のみ完存。平底。底部にくびれあり。内彎して立ちあがる。篦削り。	橙色	砂礫 スコリア	良好
09	19	把手				黒色	スコリア 砂礫	良好
17	1	コシキ（土師器）	24.0	24.4	½遺存。口縁部外反。最大幅上位。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	黒褐色	スコリア 砂礫	良好
17	2	杯（土師器）	13.1		完存。口縁部やや外彎。丸底。器外面篦削り。口縁部ナデ。器内面篦ナデ。	にぶい黄褐色	スコリア 砂礫	良好
17	3	杯（土師器）	14.4		¾遺存。口縁部外反。底部やや上げ底。器外面篦削り。器内面ロクロナデ。	にぶい黄橙色	スコリア 砂礫	良好
17	4	甕（須恵器）	20.4		口縁部⅓遺存。口縁部「く」の字に開く。器外面平行たたき。口縁部ナデ。	黄灰色	砂礫多	良好
17	5	甕（須恵器）	12.7	4.8	口縁部，底部欠失。外彎ぎみに開く。器外面平行たたき。器内面篦ナデ。	褐灰色	砂礫	良好
17	6	杯（須恵器）	12.7		ほぼ完形。口縁部外反。平底。器内外面ロクロナデ。底部篦削り。	灰色	砂礫	普通
17	7	杯（須恵器）	底径 6.9		ほぼ完形。口縁部外傾。平底。器内外面ロクロナデ。底部篦削り。	灰色	砂礫	
17	8	蓋杯（須恵器）			¼遺存。口縁部外反。天井部平ら。中央部に扁平なつまみをもつ。	灰色	砂礫	良好
17	9	杯（須恵器）			¾遺存。口縁部は大きく外反し，後やや立ちあがる。端部に「八」状の高台。	灰色	砂礫	良好

住居址番号	遺物No.	器種	法量 cm 口径	法量 cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
17	10	砥石			ほぼ完存。	にぶい黄橙色		
17	11	紡錘車			½遺存。	暗褐色		良好
11	1	コシキ（土師器）		28.0	¾遺存。口縁部垂直ぎみに外反。最大幅上位，平底。器外面篦削り。	赤色	スコリア砂礫	良好
11	2	コシキ（土師器）	底径 7.7		⅓遺存。平底。直線的に大きく外傾。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	内ー明赤褐色 外ーにぶい黄橙色	スコリア砂礫	良好
11	3	高杯（土師器）			脚部高台より上部遺存。脚柱垂直に下り，裾部開く。杯部器内面朱塗り。	橙色	スコリア砂礫	良好
11	4	杯（土師器）	12.0		口縁部½遺存。口縁部垂直ぎみに外反。口縁部ナデ整形。	にぶい黄橙色	スリリア砂礫	良好
11	5	杯（土師器）	13.3	5.3	¼遺存。口縁部外彎して開く。丸底。器内面，口縁部朱塗り。口縁部ナデ。	黄橙色	スコリア砂粒	良好
11	6	壺（土師器）	底径 10.0		底部⅔遺存。底部より垂直ぎみに，後外彎しながら外に開く。器外面篦削り。	内ーにぶい橙色 外ー褐灰色	砂礫多	良好
11	7	手捏（土師器）	2.5	1.15		橙色	砂礫	普通
11	8	把手				橙色	スコリア砂礫	良好
12	1	杯（土師器）	13.1	3.9	ほぼ完存。口縁部内傾，丸底。器外面篦削り。口縁部ナデ。器内面ナデ。	浅黄橙色	砂粒少	良好
12	2	杯（土師器）	13.0	3.7	ほぼ完存。同上。	灰白色	砂粒少	良好
12	3	杯（土師器）	12.9	4.1	⅚遺存。同上。	浅黄橙色	砂粒少	良好
12	4	杯（土師器）	14.5	3.7	完存。口縁部垂直に立つ，丸底。器外面篦削り。器内面，口縁部篦ナデ。	浅黄橙色	砂粒少	良好
12	5	杯（土師器）	12.3	4.3	ほぼ完存。同上。	橙色	砂礫	良好

住居址番号	遺物No.	器種	法量cm 口径	法量cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
12	6	杯(土師器)	12.8	4.3	ほぼ完存。口縁部内傾。丸底。器外面篦削り。器内面，口縁部ナデ。	内ーにぶい黄橙色 外ー黒褐色	スコリア 砂粒	良好
12	7	小形甕(土師器)	17.0	10.4	ほぼ完存。口縁部丸味をもって外反。最大幅上位，ゆがみのある平底。篦削り。	橙色	砂礫多	良好
12	8	鉢(土師器)	15.7	8.7	ほぼ完存。同上。	内ー黒色 外ー橙色	砂礫多	軟弱
12	9	甕(土師器)	底径 8.2		底部½遺存。平底，胴部大きく内彎ぎみに開く。外篦削り，内・篦ナデ。	にぶい黄橙色	砂礫多	良好
12	10	壺(土師器)	底径 6.7		底部遺存。上げ底。胴部外反ぎみに立ちあがる。外面削り。内面篦ナデ。	にぶい橙色	砂礫多	良好
16	1	甕(土師器)	26.6		口縁部⅓遺存。口縁部丸味をもって外反。器外面篦削り，口縁部ナデ。	明黄褐色	砂礫	良好
16	2	甕(土師器)	底径 8.0		底部遺存。底部やや上げ底。胴部内彎しながら大きく開く。器外面篦削り。	にぶい黄橙色	スコリア 砂礫多	普通
16	3	甕(土師器)	20.1		底部欠失。口縁部丸味をもって外反。胴部上位張り以下窄る。外篦削り。	橙色	スコリア 砂礫多	良好
16	4	甕(土師器)	底径 7.0		胴部中位以下遺存。平底，胴部ほぼ球形。器外面篦磨き，器内面篦ナデ。	浅黄橙色	スコリア 砂礫	良好
16	5	甕(土師器)	19.2		口縁部¼遺存。口縁部丸味をもって外反。器外面篦削り，器内面篦ナデ。	浅黄橙色	スコリア 砂礫	良好
16	6	甕(土師器)	底径 8.5		胴部¾遺存。胴部ほぼ球形。平底。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	橙色	スコリア 砂礫多	普通
16	7	小形甕(土師器)	8.6		胴部中位以上遺存。口縁部直立，胴部わずかに張る。	灰黄褐色	砂礫	良好
16	8	瓶(土師器)	底径 10.9		胴部¾遺存。器外面篦磨き，内面篦ナデ。平底。胴部最大幅上位。	にぶい黄橙色	スコリア 砂礫多	良好
16	9	杯(土師器)	13.0		口縁部，底部⅓遺存。口縁部内傾。丸底であろう。器外面篦削り，内篦ナデ。	黒褐色	スコリア 砂粒	良好
16	10	杯(土師器)	15.2		⅕遺存。口縁部直立，器外面篦削り，器内面篦ナデ，底部は丸底と思われる。	灰褐色	スコリア 砂礫	良好

住居址番号	遺物No.	器種	法量 cm 口径	法量 cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
16	11	杯（土師器）	15.7		口縁部，底部⅕遺存。口縁部丸味をもって外反，丸底と思われる。篦削り。	橙色	スコリア 砂粒	良好
16	12	小形甕（土師器）	8.0		ほぼ完存。口縁部丸味をもって外反。胴部上位張る。器外面削り。器内面ナデ。	浅黄橙色	砂礫多	良好
16	13	鉢（土師器）	10.0	10.8	ほぼ完存。口縁部内傾。胴部上位くびれる。上げ底。篦削り，篦ナデ，ナデ。	橙色	スコリア 砂粒	良好
16	14	鉢（土師器）	14.0		⅓遺存。胴部外傾しながら立ち上がり口縁部に続く。篦削り，篦ナデ。ナデ。	橙色	砂礫多	良好
16	15	鉢（土師器）	17.4		¼遺存。口縁部丸味をもって外反。器外面篦削り，口縁部，器内面ナデ。	内一灰黄褐色 外一橙色	スコリア 砂礫	良好
20	1	小形甕（土師器）	15.0	15.2	口縁部⅚，頸部以下底部に至る⅚を遺存。口縁部「く」の字に外反。平底。	橙色	砂礫多	良好
20	2	杯（土師器）	11.1	4.2	¾遺存。口縁部内傾。丸底。器外面篦削り。器内面篦磨き。口縁部ナデ。	にぶい褐色	砂粒 スコリア	良好
13	1	甕（土師器）	19.8		胴部上位以上½遺存。口縁部「く」の字に外反。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	にぶい橙色	スコリア 砂礫	普通
13	2	甕（土師器）	20.9		口縁部¼遺存。口縁部丸味をもって外反。先端は垂直に立ちあがる。篦削り。	にぶい橙色	スコリア 砂礫	良好
13	3	甕（土師器）	20.7		口縁部¼遺存。口縁部丸味をもって外反。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	明黄橙色	砂礫	良好
13	4	甕（土師器）	18.7		口縁部½遺存。口縁部「く」の字に外反。先端直立。器外面篦削り。内面篦ナデ。	にぶい黄橙色	スコリア 砂礫	良好
13	5	甕（土師器）	18.1		口縁部⅓遺存。口縁部丸味をもって外反。先端直立。整形同上。	にぶい黄橙色	スコリア 砂礫	普通
13	6	小形甕（土師器）	13.4		口縁部½遺存。同上。	にぶい黄橙色	スコリア 砂礫	普通
13	7	鉢（土師器）	13.1	11.0	底部完存，他⅙遺存。同上。底部に木の葉圧痕。	橙色	スコリア 砂礫	普通
13	8	杯（土師器）	15.3		⅙遺存。口縁部外反。平底。器外面ロクロナデ。器内面篦磨き。	橙色	スコリア 砂礫	良好

住居址番号	遺物No.	器種	法量 cm 口径	法量 cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
13	9	甕（土師器）	底径 5.7		底部遺存。胴部外傾しながら立ちあがる。底部やや上げ底で木の葉圧痕。	灰黄褐色	スコリア 砂礫	良好
13	10	土師式土器	底径 7.0		底部½遺存。胴部外傾，平底。木の葉圧痕。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	にぶい橙色	砂礫	良好
13	11	甕（土師器）	底径 6.8		底部遺存。同上。	内ー浅黄色 外ーにぶい黄褐色	スコリア 砂礫	良好
13	12	甕（土師器）	底径 6.7		底部⅔遺存。胴部内彎ぎみ，平底。木の葉圧痕。器外面横篦削り。	橙色	砂礫多	普通
13	13	甕（土師器）	底径 7.9		底部遺存。胴部外傾。平底。器外面篦削り，器内面篦ナデ。	にぶい橙色	スコリア 砂礫	良好
13	14	甕（土師器）	底径 9.6		底部完存。体部外反。底部は水平。高台を付す。ロクロナデ，底部ロクロ削り。	にぶい黄橙色	砂礫多	良好
13	15	甕（須恵器）	24.5		底部欠失。口縁部は丸味をもって外反。上位張る。器外面平行たたき。	灰色	砂礫	良好
13	16	杯（須恵器）	高台径 6.3		底部⅓遺存。底部水平。底部内側よりに「八」の字に高台を付す。ロクロ削り。	橙橙色	スコリア 砂礫	普通
13	17	杯（須恵器）	高台径 7.2		底部⅓遺存。同上。	橙色	砂礫	普通
13	18	杯（須恵器）	高台径 8.7		底部⅔遺存。同上。器内面ロクロナデ。体部外傾して立ちあがる。	褐灰色		良好
13	19	杯（須恵器）	高台径 6.6		底部のみ遺存。体部大きく開いて立ちあがる。底部端に「八」の字に高台。	灰色	砂礫	良好
13	20	杯（須恵器）	14.0	4.0	完存。体部内彎ぎみに外反し口縁部に至る。平底。ロクロナデ，内面篦削り。	黄灰色	スコリア 砂礫	良好
13	21	杯（須恵器）	高台径 9.1		底部完存。口縁部⅓遺存。体部外傾。底部端に高台垂直に付す。平底。	灰白色	砂礫	普通
13	22	把手	64g			橙色	砂礫	良好
14	1	甕（土師器）	20.4		胴部中位以上⅓遺存。口縁部丸味をもって外反，器外面篦削り，器内面篦ナデ。	橙色	砂粒 スコリア	良好

住居址番号	遺物No.	器形	法量 cm 口径	法量 cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
14	2	土師式土器	底径 9.4		底部遺存。胴部外彎しながら立ちあがる。底部はやや上げ底。篦削り。	にぶい褐色	スコリア砂礫	良好
14	3	小形甕(土師器)	16.4		¼遺存。底部欠失。口縁部丸味をもって外反。胴部最大径上位。篦削。篦ナデ。	橙色	スコリア砂礫	良好
14	4	土師式土器	底径 7.3		底部¼遺存。胴部直線的に外傾。平底。器外面篦削り,底部削り。器内面篦ナデ。	にぶい黄橙色	スコリア砂礫	良好
14	5	小形甕(土師器)	11.3	14.1	ほぼ完存。口縁部「く」の字に外反。中位が張る胴長の球形。上げ底。	橙色	砂礫多	普通
14	6	コシキ(土師器)	底径 7.6		底部⅓遺存。胴部内彎ぎみに立ちあがる。平底。器外面篦削り,器内面篦ナデ。	にぶい黄橙色	スリアア砂礫	良好
14	7	杯(土師器)	13.0		口縁部¼遺存。口縁部直立。器外面篦削り。口縁部,器内面ナデ。口縁部黒塗。	橙色	スコリア砂粒	良好
14	8	杯(土師器)	12.4		底部欠失。口縁部内傾。丸底と思われる。器外面篦削り。器内面篦ナデ。	橙色	スコリア砂礫	良好
14	9	杯	14.4		口縁部⅙遺存。同上。	にぶい橙色	スコリア砂粒	良好
14	10	杯(土師器)	18.3		¾遺存。同上。	浅黄橙色	スコリア砂粒	良好
14	11	椀(土師器)	9.5	8.6	ほぼ完存。口縁部直立。丸底。上位が張る。器外面削り。器内面ナデ。	橙色	砂粒	良好
14	12	小形甕(土師器)	底径 6.4		胴部下半⅓遺存。胴部内彎しながら立ちあがる。やや上げ底。篦削り,篦ナデ。	にぶい橙色	スコリア砂粒	良好
14	13	手捏			脚部遺存。高杯形土器。	橙色	砂粒	軟弱
14	1	杯(土師器)	14.3	3.8	⅔遺存。口縁部短かく,内傾。丸底。器外面篦削り。器内面篦ナデ,口縁部ナデ。	浅黄橙色	スコリア砂粒	良好
15	2	杯(土師器)	13.1	4.8	ほぼ完存。口縁部垂直に立ちあがる。丸底。整形は1に同じ。	浅黄橙色	砂粒少	良好
15	3	杯(土師器)	13.2	4.3	¾遺存。同上。	橙色	砂粒	普通

住居址番号	遺物No.	器形	法量 cm 口径	法量 cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
15	4	杯（土師器）	13.1	4.1	¾遺存。口縁部内傾，丸底。器外面篦削り。黒く焼けている。器内面ナデ。	浅黄橙色	砂粒少	良好
15	5	甕（土師器）	底径 8.7		底部⅔遺存。胴部大きく外反して立ちあがる。器内面篦ナデ。器外面磨滅。	橙色	スコリア 砂粒	良好
18	1	甕（土師器）	18.7		口縁部⅓遺存。口縁部外彎。器外面篦削り。器内面篦ナデ。口縁部ナデ。	黄橙色	スコリア 砂礫	良好
18	2	甕（土師器）	底径 8.4		底部遺存。胴部球形。内彎して立ち上がる。やや上げ底。整形1に同じ。	内ー浅黄橙 外ー灰褐色	砂礫多	良好
18	3	土師式土器	底径 8.3		底部遺存。胴部大きく開いて立ち上がる。平底。整形同上。	橙色	スコリア 砂礫	良好
18	4	甕（土師器）	底径 7.6		胴部下半⅔遺存。胴部内彎ぎみに大きく開いて立ちあがる。平底。1に同じ。	にぶい褐色	スコリア 砂礫	良好
18	5	土師式土器	底径 7.7		胴部以下¼遺存。胴長球形。把手貼付。平底。整形同上。	にぶい黄橙	スコリア 砂礫	良好
18	6	杯（土師器）	12.6	5.1	½遺存。口縁部外彎しながら内傾。丸底。器内面篦磨き。口縁部ナデ。	明赤褐色	スコリア 砂粒	良好
18	7	杯（土師器）	12.0	4.4	⅓遺存。口縁部垂直に立ちあがる。丸底。口縁部朱塗り。	赤褐色	スコリア 砂礫	良好
18	8	杯（土師器）	12.9	4.0	½遺存。口縁部内傾，丸底。器外面篦削り。器内面篦磨き。口縁部ナデ。	橙色	スコリア 砂礫	良好
18	9	杯（土師器）	15.9	4.25	⅓遺存。口縁部外反。丸底。整形同上。器内面朱塗り。	赤色	スコリア 砂礫	良好
グリッド 0－6	1	小形甕（土師器）	10.7	10.8	¾遺存。口縁部丸味をもって外反。先端部直立。胴部上位張る。平底。	黒褐色	砂礫	軟弱
グリッド Q－5	2	椀（土師器）	12.6	6.4	完存。口縁部外彎ぎみに内傾。平底。器外面篦削り，口縁部ナデ。内面篦ナデ。	橙色	砂礫	良好

第９章　中佐谷Ｂ遺跡（ＪＮＳ－Ｂ）

第１節　遺跡の概観

本遺跡は新治郡千代田村中佐谷字新山1084番地・1085番地に所在する。中佐谷Ａ遺跡と谷を隔てた東側標高26～27ｍの台地上に展開する畑地である。発掘調査前は苗木畑として利用されていた。遺跡に接して北東部に四万騎古墳群がある。調査対象面積840㎡。

第２節　調査　経過

○昭和53年４月

現地踏査を実施し発掘エリアを確認する。

○昭和53年５月

作業員募集，発掘用器材の購入等発掘準備をすすめる。

○昭和53年６月

遺跡内の草刈り，立木の除去及び杭打ちを実施して調査区を設定する。杭打ちは，日本道路公団が設定した中心杭「369＋40」を基点とする。調査区数62。

○昭和53年８月

好天に恵まれたため夏草の繁茂が著しく再度草刈り及び清掃をし，第１次調査に入る。ローム層上面は殆ど耕作土でガサガサした黒褐色土である。

○昭和53年９月

第１次調査を続行する。１基の住居址状遺構と２基の土壙を確認する。

○昭和53年10月

遺構が確認された周囲の調査区の表土除去作業を実施する。

○昭和53年12月

01号住居址，01号土壙，02号土壙の検出に入る。

○昭和53年12月20日

３基の遺構に霜対策を施し，現地作業を終了させ年末に入る。

○昭和53年１月

10日，発掘調査を再開する。

01号住居址，01・02号土壙の平面形，セクション，エレベーション等の実測を逐次行ない，写

真撮影を実施して，１月19日本遺跡の発掘調査を終了する。

第３節　遺構・遺物

(1) 遺　構

01号住居址（第47図）

本住居址はＧ－８・Ｈ－８に確認され，調査地区西端に位置する。

主軸方向はＮ－11.5°－Ｗで，長径3.1m・短形2.9mほどのほぼ正方形に近い平面形を呈している。

遺構は表土下第Ⅱ層から掘りこまれ，北西壁は垂直ぎみに，他の壁はなだらかに外反して立ちあがり，壁高は39～61cmほどである。立ちあがりは極めて良好な状態で検出された。壁下には幅17～30cm・深さ３～６cmほどの溝が周回している。

床はロームであり，かたくしまっていて良好な床面を呈している。床面は平坦である。北壁中央部に落ちこみが認められる。その形状から煙道の掘りこみと推定され，ここにカマドが構築されていたものと考えられるが，明確でない。

ピットは床面に３個，遺構外側のコーナー部に４個，その他２個，計９個検出されたが，柱穴としては床面のピットは弱く，遺構外コーナー部のＰ１～Ｐ４が，より重要で，本址の主柱穴と考えるのが妥当であろう。

ピット番号	長径	短径 cm	深さ cm	備　考	ピット番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	備　考
Ｐ１	35	27	41	主柱穴	Ｐ７	19	15	15	
Ｐ２	32	24	20	〃	Ｐ８	24	24	49	
Ｐ３	32	31	53	〃	Ｐ９	18	16	23	
Ｐ４	33	25	48	〃					
Ｐ５	25	13	18						
Ｐ６	24	15	14						

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，覆土上層に黒色土，暗褐色土が堆積し，最下層は，炭化物を含むローム質の黄褐色土が堆積している。

遺物は比較的少なく，甕形土器（第91図１～４），須恵器片その他杯の破片が数点出土したにとどまる。

01号土壙（第47図）

本址はI の８に確認され，調査地区西端，01号住居址の南側に位置している。主軸方向はN―35°―Wで，長径2.4m・短径1.4mほどの楕円形の平面形を呈している。遺構検出面からは床までの深さは25cmほどで，壁はゆるやかに外反して立ちあがっている。

覆土は２層にわけられ，遺物の出土は全くなく，本址の性格，時期等は不明である。

02号土壙（第47図）

本址はE―18に確認され，調査地区の北東端に位置する。主軸方向はN―33°―Wで，長径1.3m・短径0.6mほどの方形の平面図を呈している。遺構は表土下第Ⅱ層面に検出され，床までの深さは0.4mほどで，壁は垂直ぎみに外反している。

遺構内覆土は黒色土のみで，ロームブロックがわずかに混入し自然堆積とは考えられない。農耕に伴う芋穴の可能性が強いと考えられる。

(2) 遺　物

01号住居址（第91図１～４）

本住居址からの遺物の出土状態は，遺物量が極めて少なく，床面に近い覆土から土師式土器が出土し，すべて破砕していた。

土　器

１は南東コーナー部床面直上から出土した甕形土器であり，胴部下半以下が欠失している。口径19.4cm・現高11cmほどで，口縁部は丸味をもって外反している。

器外面は，口縁部がナデ整形。胴部が篦削り整形がみられる。器内面は篦ナデ整形がなされている。

色調はにぶい褐色を呈し，胎土中にスコリア・砂礫を含む。焼成は良好である。

２は１と同地点から出土した甕形土器で，口縁部から肩部に至る1/5ほどを遺存している。口径14.3cm・現高4.2cmほどを測る。口縁部は丸味をもって外反しながら立ち上がる。

器外面は，口縁部にナデ整形痕が認められるが，他は磨滅していて不明である。

色調はにぶい赤褐色を呈し，胎土中にスコリア・砂礫を含む。焼成は良好である。

３は北東コーナー部から出土した甕形土器である。胴部下半以下欠失している。口径14.6cm・現高6.5cmほどで，口縁部は丸味をもって外反し，立ちあがっている。

器外面は，口縁部にナデ整形。胴部に篦削り整形。器内面に篦ナデ整形が認められる。

色調は橙色を呈し，胎土中にスコリア・砂礫を含む。焼成は良好である。

4は3と同じ地点に出土した甕形土器の胴部であり，¼ほど遺存している。最大径は胴部中位よりやや上部にあり，以下内彎しながら窄る。

器外面は，胴部上位では篦削り整形が認められ，胴部下半では横位の篦削りがみられる。器内面は全体的に篦ナデ整形がなされているが，底部近くは磨滅していて，整形痕は認められない。

色調は灰褐色を呈し，胎土中にスコリア・砂礫を含む。焼成は良好である。

第10章　大塚古墳群（ＪＯＴ）

第１節　古墳群の概況

本古墳群は新治郡千代田村大字大塚に所在する。国道６号線沿い，同村市川地区より同村下志筑地内に至る農道によって，東側の松延１・２号墳と区別されるが，実勢としては恋瀬川南岸の台地に占地する広範囲な古墳群であり，恋瀬川から松延１・２号墳の西側に浸蝕する谷を中心に台地の南側・霞ケ浦の浸蝕谷に至る約１kmの間に集中している。15基（当初10基，発掘調査の過程で５基加えられる）の古墳が発見されている。

古墳群の立地する台地は雑地であり，既に耕作等により削平されて，現墳高0.3m～0.6m を測る程度である。建設予定の常磐自動車道は，これら古墳群の中心を貫いている。

各古墳の呼称については，北から順に大塚１号墳（ＪＯＴ－１）・大塚２号墳（ＪＯＴ－２）……大塚10号墳（ＪＯＴ－10）と命名し，新たに発見されたものは南から順に大塚11号墳（ＪＯＴ－11）……大塚14号墳（ＪＯＴ－14）・大塚３号墳の調査中に発見されたものを大塚15号墳（ＪＯＴ－15）と呼称する。

大塚９・10号墳は昭和53年度に調査を行ない，その他13基の古墳は昭和54年度に調査を実施。

第２節　調査の経過

大塚古墳群（９号・10号墳）

昭和53年４月から７月にかけて，発掘調査の諸準備期間として，調査方法の検討，調査用具の選択，現地踏査，作業員雇用，発掘調査範囲内の伐開作業，杭打ち作業を実施したのち，７月上旬より発掘調査に入る事が出来た。７月中旬から下旬にかけては，大塚古墳群，松延古墳群，志筑遺跡の一部の草刈作業，雑木の焼却，環境整備等を行なう。

当初，志筑遺跡の発掘調査を，実施する計画であったが，用地取得等の事情から急きょ変更し，大塚古墳群の９号・10号墳の発掘調査に入る。

７月下旬

特に大塚古墳群内，７号・８号・９号・10号墳の清掃を実施し，現況の写真撮影を行なう。また，７号・８号・９号・10号墳の地形測量を実施する。

発掘調査にあたり，発掘調査区を設定する。設定の方法として，日本道路公団の基準杭No.１か

ら，北東へ8.5m地点の白杭を起点とし，東西南北に4mの方眼の杭を打ち，北から南へ，a～w西から東へ1～21の小調査区を設ける。31日より10号墳の小調査区の表土排除作業を開始する。

8月上旬

10号墳の小調査区にセクション図の作成，セクションベルトの取り除き作業を行なう。

10号墳は，小調査区の表土の排土作業を終了した結果前方後円墳であることを確認し，また，9号墳の排土作業を同時に行なった結果円墳であることが確認された。

10号墳の前方後円墳，中央部の位置および後円部の南側に位置する個所より主体部を確認し，前方部主体部を南主体部，後円部主体部を北側主体部と名称をつけた。

8月中旬

9号墳は，小調査区の排土作業を終了し，周溝部の発掘作業を実施し，また主体部の確認作業を行ったが主体部は確認出来なかった。南側周溝部の外側に沿って土壙を確認する。

10号墳の小調査区を中心にセクション図の作成，および両主体部の発掘作業を行なう。

8月下旬

9号墳は，周溝の発掘作業を中心に進めた。セクション図の作成，セクションベルトの取り除き作業を実施する。

10号墳は，両主体部の内部調査を行なう。さらに平面図の作成を行なう。

9月

この月は，当初の計画に基づき，志筑遺跡の草刈作業，小調査区の発掘作業に入り，大塚9号10号墳の調査は中断する。また作業員の不足もおきる。（農繁期のため）

10月

9号墳，10号墳の調査を再開する。9号墳は，主体部確認作業を中心に精査したが，確認できなかった。

10号墳，南北両主体部の精査を行ない，石棺掘り方を実測する。

9号墳，10号墳の平面図，エレベーション図の作成，写真撮影を行ない調査を完了する。

○昭和54年4月上旬

器材の点検，調査方法についての検討など発掘についての諸準備。

○昭和54年４月中旬

10日，作業開始。

発掘区域の草刈り，清掃，トレンチの設定等を行ない２・４・６・７号墳の発掘に入る。

トレンチの設定にあたっては，１・２号墳は日本道路公団が設定した基準杭「ＳＴＡ５」をもとに設定したグリッドを，３・４・５・６号墳については「ＳＴＡ３」を基準に設定したグリッドを，７・８号墳については「ＳＴＡ１＋8,559」を基準に設定したグリッドをもとにして，南北および東西に，あるいは主軸に幅２ｍで設定。

２号墳において，南北トレンチ・南側周溝より石棺蓋石らしきもの露呈。北側周溝に切りあいの痕跡が認められる。

６・７号墳について墳丘平面実測を実施。

○昭和54年４月下旬

１号墳では発掘区域内の草刈り・清掃等を行ない，発掘調査の準備を整える。

２号墳では墳丘測量による平面図作成，東西トレンチの設定と発掘。西トレンチＬ－３に黒色土の落ちこみがみられる。

４号墳では南北トレンチの発掘が終了し，周溝の位置を確認する。さらに東西トレンチの設定・発掘・周溝を確認し，発掘全景の写真撮影をする。

６・７号墳も東西・南北トレンチの発掘により周溝の位置を確認する。７号墳では東西南北トレンチ発掘後の全景撮影を行なう。

○昭和54年５月上旬

１号墳は墳丘の約½が高速自動車道用地外であるため，西トレンチ・南北トレンチを設定し発掘に入り，西トレンチにおいて周溝位置を確認する。

２号墳はトレンチ発掘による墳丘断面の写真撮影を行なう。

４号墳は周溝発掘を進める。

５号墳は東西・南北にトレンチを設定し，南北トレンチの発掘に入る。周溝の位置が確認され，北側周溝から形象埴輪（人物）の手が出土。

６・７号墳，墳丘断面の実測に入る。

○昭和54年５月中旬

１号墳は墳丘測量を実施し，南北トレンチ南側部を延長し，発掘に入る。

２号墳は墳丘断面の写真撮影および実測に入る。

３号墳は発掘区域の草刈り・清掃および墳丘の平面実測を行ない，その結果，前方後円墳と推定し，後円部と思われる墳丘の北および西側に幅１ｍ・長さ12ｍのトレンチを設定し，発掘に入る。

4号墳は周溝確認のためグリッド発掘をすすめる。

5号墳は南北・東西トレンチ及び周溝の発掘をすすめる。北及び南側周溝付近から円筒埴輪片出土。北側周溝より形象埴輪（人物の頭部―男子・手）等が出土する。

6号墳は主体部探査のため墳丘部の発掘をすすめる。

8号墳は墳丘の平面実測を行ない，トレンチを設定し発掘に入る。

○昭和54年5月下旬

1号墳は南北および西側の周溝発掘を行ない，墳丘断面図の土相注記，写真撮影を実施し，実測に入る。

2号墳は周溝確認のための墳丘西側部の発掘をすすめ，併せて黒色土の落ちこみが認められる部分の発掘をすすめる。

J―3グリッド表土下より木の実の炭化物多量に出土する。

南周溝部において確認された主体部（石棺）の調査に入り，上蓋写真撮影，実測を行なう。

3号墳は前述のトレンチ発掘を継続する。

4号墳は墳丘断面図の土相注記を実施する。

5号墳は周溝の発掘，墳丘の断面の精査，写真撮影等を遂次実施する。

6号墳は主体部探査及び周溝確認のため発掘を継続する。

8号墳においては主体部（石棺）が確認され，石棺上部の排土を行なう。

○昭和54年6月上旬

1号墳は墳丘断面図の土相注記を行なう。

2号墳は石棺平面図，石棺内部等の実測を行ない，続いて本古墳内土壙の発掘に入る。鉄鏃らしい鉄器残片出土する。

3号墳は前方後円墳であろう予測のもとにA 3h 3～B 3C 9に幅2mの主軸トレンチを設定し，発掘に入る。墳頂部より石棺残片が出土する。

4号墳は周溝確認および主体部探査のため墳丘発掘を継続する。

5号墳は墳丘，周溝確認および主体部探査のため発掘を継続する。

5日,C2d 7グリッドに主体部が確認される。

6号墳は周溝部確認調査，主体部探査のため墳丘部発掘を継続する。7号墳も同様である。

8号墳は主体部調査に入る。石棺上部の排土，石棺上蓋写真撮影，同実測，石棺エレベーション，石棺内部調査，同実測等遂次調査をすすめる。

この頃，2号墳北側周溝における「切りあい」，6号墳北側周溝の調査によって，新たに古墳の存在が確認され，さらに8号墳の南西にかなりのマウンドをもつ円墳が，6号墳と7号墳のほぼ中間に石棺の存在が確認される。これら新規に確認された古墳の呼称については，概況で述べ

た通りである。

○昭和54年6月中旬

2号墳においては，土壙の調査を継続する。金環2個出土する。本主体部か。

3号墳は主軸トレンチの発掘を継続する。

6・7号墳は主体部探査のために墳丘部発掘を続行する。

8号墳は石棺調査を継続させ，掘り方発掘，掘り方実測，石材引きぬき等実施する。

○昭和54年6月下旬

6号墳は墳丘部発掘を継続させ，併せて墳頂部付近に出土した遺物の取りあげを行なう。

7号墳は主体部探査のため周溝部付近の墳丘部発掘を行なう。

8号墳は掘り方平面の実測，写真撮影を行なって主体部調査を終了する。さらに形態追求のため，主軸トレンチを幅2mに設定し発掘に入る。

14号墳において南北および東西にトレンチを設定し，発掘に入る。

○昭和54年7月上旬

2号墳下の住居址の発掘に入る。表土下10～20cmで床面が検出される。住居址平面プラン，断面，エレベーションの実測および写真撮影を遂次行なう。

3号墳は主軸トレンチの発掘を続行する。3本の周溝が確認され，これまで前方後円墳であろうとの想定のもとに調査をすすめてきたが，このことによって，3号墳と接して立地する古墳の存在が確認される。15号古墳と命名する。

15号墳にトレンチを設定して発掘に入り，周溝の位置を確認する。

5号墳は墳丘部発掘を続行する。形象埴輪（人物―女）が出土・その他埴輪片多数出土する。続いて主体部の調査に入り，石棺上部の排土作業を行なう。

11号古墳においては発掘区域の草刈り，グリッド設定のための杭打ち，墳丘平面実測を行ない，南北および東西にトレンチを設定する。

14号墳はトレンチおよび周溝の発掘を続行する。

○昭和54年7月中旬

3号墳は主体部探査のために墳丘部発掘を行なう。北側周溝（A 3j 8）より石棺に使用されたたと思われる長径70cm・短径40cmほどの石が検出される。

7号墳は周溝の全体的な形態を究明するために発掘を続行。

11号墳はトレンチ発掘に入る。主体部（石棺）が確認される。

14号墳は周溝および墳丘の発掘を続行。

○昭和54年7月下旬

2号墳は墳丘部のベルトはずしおよび東西周溝の写真撮影および周溝断面の実測を行ない，本

古墳の調査を終了する。住居址が残るのみ。

８号墳はくびれ部の周溝確認のための調査をすすめる。

５号墳は石棺調査に入り，石棺上蓋写真撮影と実測。石棺内部撮影および実測，石棺内遺物実測，石棺底石上面プラン実測等遂次行ない，次いで周溝発掘と埴輪列の検出につとめる。以上で本古墳の調査を終了する。

12号墳は「ＳＴＡ３＋０」を基準として原点移動，グリッド設定のために杭打ちを実施。次いで墳丘の平面測量を行ない，石棺の確認部を仮りの中心軸として，みかけ上の墳頂で交差する１ｍ幅のトレンチを南北および東西に設定し発掘に入る。

13号墳においても，墳丘の平面実測を行ない，トレンチを東西，南北に設定し，調査に入る。まもなく周溝の位置が確認され，次いで西トレンチ内で主体部（石棺）が確認される。

14号墳では墳丘部・周溝の発掘および実測を遂次行ない，調査を終了する。

15号墳は周溝発掘および墳丘断面の実測を行ない，調査を終了する。

○昭和54年８月上旬

２号墳下住居址については，遺物の取りあげ，ピット掘り，平面プラン・エレベーション等の実測及び写真撮影を実施し，調査を終了する。

４号墳は北西周溝の調査を最後に終了。

６・７・８号墳も墳丘・周溝の断面撮影終了と同時に調査を終了する。

12号墳は主体部の調査に入り，上蓋の写真撮影，実測を行なう。

石棺は一度開かれた様子がみられる。掘り方の内側に攪乱の後がみられ，内部をのぞける程度に上蓋がずれており，閉そくが不完全で，内部に土が流れこ　でいる。

次いで石棺上蓋を除去し，内部調査を実施。

13号墳は石棺掘り方確認のため周溝および墳丘発掘をすすめる。

○昭和54年８月下旬

中旬は月おくれ盆につき作業中止。

13号墳について石棺調査に入る。人骨１体分，副葬品として鉄鏃がみられる。

○昭和54年９月

11号墳は主体部の調査に入る。石棺掘り方の発掘および実測，石棺調査を遂次行ない，12・13号墳も主体部の調査をすすめ，発掘全測図を作成し，調査を終了する。

第3節　古 墳 の 調 査

1．大塚1号古墳（ＪＯＴ―１）

(1)　古墳の現状

恋瀬川からの浸蝕谷の北斜面に立地。本古墳の約½は高速自動車道の用地外である。

雑地で，既に耕作等により削平され，現墳高0.3～0.4m ほどである。

(2)　古墳の構造

〈墳　丘〉

墳丘の形状は円墳で，規模は周溝を含む南北径30m，周溝内径18.9m を計測する。

封土の構成状態は，南北トレンチ西壁断面図によると，ローム層の上に旧表土である黒色土層が20～25cmほどあり，その上にロームあるいはロームブロックを含む暗褐色土ないしは褐色土が45cmほど盛土されている。

〈周　溝〉

周溝の規模は最大幅6.0m・最小幅5.5m・深さ0.9～0.95m ほどで,溝の断面はゆるやかな傾斜をもって外反しながら立ちあがっている。完全に周回し，円形を呈すると思われる。

(3)　埋 葬 施 設

墳丘の保存状態は良好であるにもかかわらず，主体部およびそれに該当する施設は発見されない。

2．大塚2号古墳（ＪＯＴ―２）

(1)　古墳の現状

恋瀬川からの浸蝕谷の東岸に立地，雑地であり，耕作等によって削平され，現墳高0.5m ほどである。

(2) 古墳の構造

〈墳　丘〉

墳丘の形状は円墳で，規模は周溝を含む東西径20.7m・南北径20mほどで，東西周溝内径14m・南北周溝内径12.7mを計測する。

封土の構成状態は南北トレンチ東壁によると，ローム層の上に旧表土である極暗褐色土の堆積が30cmほど認められ，それがⅡ層にわかれ，上層は固くしまっており，下層は軟かい。旧表土は耕作土の直下にある。墳丘は低いがその保存状態は良好である。

〈周　溝〉

周溝の規模は最大幅4.7m・最小幅3.5m・深さ0.3～0.7mほどで，溝の断面は大きく開いて立ちあがる。完全に周回すると思われるが北側周溝が14号墳と切り合い，北西で周溝の末端が弥生時代の住居址と切り合う。

(3) 埋葬施設

Aトレンチ南側周溝（N－5グリッド南東部）北壁斜面より蓋石長径131cm・短径37cm・底石長径122.5cm・短径27.5cmほどの小形の箱式石棺が検出される。蓋石2枚，妻石2枚，側石が3枚ずつの6枚，底石3枚によって作られ，東壁内径25cm，西壁内径17.5cmほどで船底形を呈している。主軸方向はN－73°－Eを。

石棺内部は攪乱された形跡はないが東側石と蓋石に若干のすき間が生じ，そこから流入したと考えられる土砂によって埋められていた。人骨等は検出されない。

(4) その他の遺構

〈土　壙〉

本址は本古墳内北西側墳丘L－3・L－4で確認される。主軸方向N－73°－Wで長径3.24m・短径2.26mほどの長方形の平面形を呈する。

遺構は表土下第Ⅰ層より検出され，壁は外反して立ちあがり，壁高は66cmを測る。床面は粘土および石片が混入している。

土壙内は攪乱された形跡が著しく，石棺底石らしい石片が多数出土。

遺物は金環2個，鉄鏃残片7個，刀子1本が出土，本古墳の主体部と推定される。

〈住居址〉

本址は本古墳北西側周溝に切断されて，J－3・J－4・J－5・K－3・K－4・K－5に

わたって確認される。

遺構は表土下第Ⅰ層から掘りこまれ，上層面に木の実の炭化物が弥生式土器片と共に検出される。主軸方向はN—66.5°—Wであり，長径6m・短径4.5mほどの長方形の平面形を呈する。

壁は外反して立ちあがり，壁高は4～15cmほどである。床面はローム粒塊，焼土炭化物が混入する黒褐色土である。ピットは6個検出され，P1～P4が主柱穴と考えられる。

遺物は紡錘車1個，弥生式土器小破片，木の実の炭化物等が出土している。

(5) 遺　物

(第150図1～30)

1～26はいずれも鉄鏃あるいは刀の破片と考えられるが，さびが著しく，しかも原形をとどめていない。土壙より出土。

22は刀子である。土壙より出土。

29～30は金環である。29は長径3.3cm・短径2.8cm・厚さ径9mmほどの環で，中央に径1.6cmほどの孔がある。30は長径3cm・短径2.7cm・厚さ7mmほどの環で，中央に径1.5cmほどの孔がある。住居址床面出土。

(第156図1～4)　(第150図28)

住居址番号	遺物No.	器種	法量cm 口径	法量cm 器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成
JOT2住居址	1	壺(弥生式土器)	14.3		胴部下位以下欠損。複合口縁でゆるやかに外反。頸部に櫛描文,胴部に縄文。	青灰色	砂粒	良好
JOT2住居址	28	紡錘車(土製)	直径 5.5	孔径 0.7		にぶい黄橙色	スコリア	良好
JOT2	2	平瓶(須恵器)	胴径 14.0		肩部張る。胴上半ロクロナデ，胴下半ロクロ削り。中位に自然釉付着。	灰色	砂礫	良好
JOT2	3	杯(土師器)	12.3	3.9	⅔遺存。口縁部内傾。丸底，器外面篦削り。口縁部。器内面ナデ。	褐色	砂礫	良好
JOT2	4	杯(土師器)	13.2	5.1	口縁部⅓欠損。口縁部外傾。丸底。器外面篦削り。器内面，口縁部ナデ。	にぶい橙色	スコリア 砂礫	良好

3．大塚3号古墳（ＪＯＴ－3）

(1) 古墳の現状

本古墳は恋瀬川からの浸蝕谷の南斜面に面して立地・約½は高速自動車道の用地外である。雑地であり，発掘前は栗林であった。耕作等で削平され，現墳高0.4mほどである。

(2) 古墳の構造

〈墳　丘〉

墳丘の形状は円墳であり，規模は周溝を含む東西径約26m，周溝内径約18mを計測する。

封土の構成は，主軸トレンチ北壁断面図によるとローム層の上に旧表土である黒色土が約26cmほど堆積し，その上にロームあるいはローム粒子，ロームブロックを含む暗褐色土，明褐色土が約65cmほど盛土されている。墳丘の保存状態は良好である。

〈周　溝〉

周溝の規模は最大幅4.7m・最小幅3.6m・深さ60～74cmほどであり，溝の断面はゆるやかに外反して立ちあがっている。

周溝最下層には黒色土とロームの混入した暗褐色土が6～8cmほど堆積し，その上にかたくしまった黒色土が22～25cmほど，さらにやわらかい黒色土，きめこまかく重い黒色土，きめの荒い黒色土と順に堆積している。

(3) 埋葬施設

墳丘北側約½について調査をすすめたが，埋葬施設は発見されない。北側周溝底面より長径70cm・短径40cmほどの石棺の底石と思われる石材が検出されたが，主体部の痕跡は認められない。

4．大塚4号古墳（ＪＯＴ－4）

(1) 古墳の現状

本古墳は恋瀬川からの浸蝕谷の南端に面して立地，古墳の中央に大きな溝が掘られてあり，西半分は山林，その他は雑地であり，調査前は栗林であった。墳丘は削平されてあり，現墳高0.3～0.4mほどである。

(2) 古墳の構造

〈墳　丘〉

墳丘の形状は円墳であり，規模は周溝を含む南北径25.1m・東西径25.1m・周溝内径南北15.8m・東西15.1mを計測する。

封土の構成は，Aトレンチ西壁断面図によると旧表土である黒色土がローム層の上に約20cmほどあり，その上に暗褐色土・褐色土と順に盛土され，墳頂部では44cmほどの封土が計測されるが墳丘の保存度は悪く，墳頂外では即耕作土である。

〈周　溝〉

周溝は完全に周回し，ほぼ円形を呈している。最大幅は4.9m・最小幅4.3mを測り，深さは60～85cmほどであり，西側で深く，東側で浅い。

周溝内覆土の堆積状態は，上層が黒褐色土，次に暗褐色土，最下層が褐色土であり，いずれもローム，ローム粒子が混入されている。

(3) 埋葬施設

周溝および墳丘部は全掘したが，主体部およびそれに該当する施設は発見されない。

5．大塚5号古墳（JOT－5）

(1) 古墳の現状

本古墳は南側に小形の方形を持つ，いわゆる前方後円墳形の古墳である。4号古墳の南に位置する。雑地であり，調査前は栗畑であった。耕作等により削平され，現墳高0.3～0.5mほどである。西裾部より埴輪片が表採される。

(2) 古墳の構造

〈墳　丘〉

墳丘の形状は前方後円墳である。規模は周溝を含む東西径（後円部）27.5m，南北径32mほどを計測する。墳丘内径は東西18.6m・南北23.8mほどであり，くびれ部は周溝内径8.3mほどを測る。

封土の構成状態は，ロームの上層に旧表土である黒色土が約20cmほど堆積し，その上に約40cmほど暗褐色土あるいは褐色土の盛土がみられる。墳丘は低いが，保存度は良好である。

〈周　溝〉

周溝の最大幅6.1m・最小幅4.2m・深さは1.14～0.48mほどで，古墳全体のくびれ部にあたる部分が最も深く，前方部南面と後円部東側が浅い。

周溝内覆土の状況は，上層は褐色土が12cmほどの層をなし，その下に黒褐色土がほぼ同じ厚さの層をなし，次に黒色土がかなり厚く堆積し，最下層にロームの混入した褐色土がみられる。

(3) 埋葬施設

本古墳の主体部と思われる箱式石棺は，いわゆる墳丘の括れ部にあたる位置に深い土壙を設けてロームブロックに完全に覆われた状態で発見された。

土壙は主軸方向N—67.5°—Wであり，長径4m・短径2.85mほどの長方形の平面形を呈している。壁は垂直ぎみに外反し，壁高は1.13m～1.02mほどで，床面は粘土，細石片，ロームが混じりあった褐色土であり，しまりがない。

土壙最上層面から約42cm下に石棺の蓋石が検出される。蓋石は2枚で長径2.72m・短径0.8mほどである。蓋石上面から底石底面までの高さ70cm，底石は3枚，側石片側2枚ずつの4枚，妻石2枚の石材が使われている。

石棺内部は長径2.07m・短径72cmの長方形で，側壁，底石，天井石に朱がぬられている。人骨1体分，直刀1振，刀子1本，骨鏃10数本が検出される。

〈石棺内人骨および遺物の遺存状態について〉

頭蓋骨は東壁に向け，つま先を西壁に向けた伸展状態である。人骨全体の遺存状態は良。

副葬品は鉄剣1振，刀子1本，骨鏃多数（約16本），遺存状態は良。

石棺内部は攪乱もしくは二次的な埋葬を受けた形跡は全くない。副葬品のうち，鉄剣は柄を東壁に向け，切先を西壁にむけ，刃部は人体側にむいた形で，北壁と人体の間にほぼ平行に置かれている。

刀身は頭蓋骨頂部より骨盤の付近にまで至っており，全長101cmを測る。骨鏃は鉄剣の切先付近と北壁との間に一括して存在し，刀子は現長10cm，鉄剣の柄の部分のすぐ南側に置かれている。

全体の骨格の中で，左手は骨盤のそばに，右手は骨盤の上に伸ばした状態であったらしい。頭骨を除けば遺存状況が最も良好なのは肋骨から大腿骨までである。左腕は，上腕骨・橈骨の遺存が比較的良好である。足根骨・踵骨・中足骨以外は痕跡をとどめていない。

左手は中指骨・指骨とも旧位置を保ち，遺存状態は良。脛骨は細片化し，縦割れし原形をとどめていないが，これに比べ腓骨の保存状態は良である。また足根骨は骨粉化しわずかに痕跡をとどめるだけである。

骨盤は特に仙骨から寛骨にかけてよく原形をとどめており，これに第３・４・５各腰椎が良好に残存している。

頭骨は横をむいた形であり，顔面は南側壁をむいている。下顎骨の遺存は悪く骨粉化しており周辺に歯が散在する。歯は奥歯から前歯にかけて一括して残存している。

朱は側壁，天井石，底石に塗られ，側壁，天井石の朱は遺存度が良好であるが，底石では人骨の下となった部分にわずかに認められる程度である。また石棺の目ばりの粘土にも塗られている。

石棺の材質は粘板岩である。刀子の柄は鹿角製，直刀付近に検出された骨製品は骨鏃と考えられ，16本が１かたまりで検出され，遺存度は良好。鹿の中指骨，中足骨の部分を用いたものと推定される。

(4) 外部施設

本古墳から埴輪が多量に出土しているがすべて破砕している。埴輪列は古墳をほぼ周回しており，後円部北側に形象埴輪類の一括出土がある。（第151～154図）

形象埴輪（男子頭部・女子頭部―まげは欠失―胸部・右手・馬―顔の一部・くら）その他円筒埴輪。

6．大塚６号古墳（ＪＯＴ―６）

(1) 古墳の現状

本古墳は，大塚５号墳の西側に立地する。現墳高0.2～0.3mほどで円墳と考えられる。雑地であり耕作等によって削平されている。調査前は栗畑として利用されていた。

(2) 古墳の構造

〈墳　丘〉

墳丘の形状は円墳である。規模は周溝を含む東西径23.7m・南北径25.4mを計測し，周溝内径は東西が17m・南北径16.5mほどを測る。

封土の構成状態は，ローム上層に旧表土である黒褐色土が14～16cmの層をなし，その上に８～24cmほどのロームブロックを混入する褐色土が盛土されている。墳頂部周辺では盛土は認められない。

〈周　溝〉

周溝の最大幅は８ｍ，最小幅は２ｍほどで，深さは44～76cmほどで東側周溝は浅い。完全に周

回し，円形を呈する。

周溝内覆土は，耕作土の下に黒褐色，黒色土が堆積し，最下層にローム粒子を混入する暗褐色土がみられる。

(3) 埋葬施設

全掘して調査をすすめたが，埋葬施設と考えられる遺構は発見できない。土師式土器である杯形土器が1個出土。

7．大塚7号古墳（JOT－7）

(1) 古墳の現状

本古墳は霞ケ浦からの浸蝕谷の北岸に展開する台地上に立地する。雑地であり，調査前は松林であった。現墳高は0.5～0.7mほどで円墳と推定される。

(2) 古墳の構造

〈墳　丘〉

墳丘の形状は円墳である。規模は周溝を含む東西径32.5m，南北径31.8mを計測し，周溝内径は東西18m・南北16.6mを測る。

封土の構成状態は，Aトレンチ西壁断面図によると，旧表土である黒色土は8～12cmの層をなし，その上にロームブロックを含む褐色土あるいは明褐色土が60～65cmほど盛土されている。

〈周　溝〉

周溝最大幅は9.2m・最小幅8mほどで，深さは90cmほどである。完全に周回し，円形を呈すると推定される。

墳丘はやや変形しているが保存状態は良好である。

(3) 埋葬施設

墳丘盛土を完掘したほか，表土層を全掘したが，本古墳における主体部は発見されない。

8．大塚8号古墳（JOT－8）

(1) 古墳の現状

本古墳は大塚7号古墳の南側に立地する。前方後円墳形を呈し，後円部墳頂部を農道が東西に走り，外形上著しく変形している。現墳高0.5～0.6m。調査前は松林であり，削平されている。

(2) 古墳の構造

〈墳　丘〉

墳丘の形状は前方後円墳である。規模は周溝を含む東西径26.5m・南北径（前方部を含む)33.5m・周溝内径は東西17.5m・南北径27.8mを計測し，くびれ部は周溝を含む東西径18.5m・周溝内径9.35mを測る。

封土の構成状態は，後円部においては旧表土である黒色土が10cmほどの層をなし，その上に褐色土が84cmほど盛土されている。

〈周　溝〉

周溝の最大幅6.4m，最小幅2.5mを計測し，深さ26～86cmほどで，前方部が深く，後円部西側は狭くて浅い。後円部東側周溝はことに広くなっている。周溝断面は大きく開いて立ちあがっている。

周溝内覆土は第Ⅰ層が黒色土，第Ⅱ層に黒褐色土，最下層に暗褐色土が堆積している。

(3) 埋葬施設

本古墳の埋葬施設は，西側に張りだした前方部と後円部の中間，括れ部のやや南よりに土壙を設けて設置されたやや小形の箱式石棺である。

土壙は主軸方向N—53.5°—Eであり，長径2.31m・短径1.35m，壁面は垂直に立ちあがり，壁高は38.5cmほどである。

石棺の規模は，蓋石3枚，側石は北壁が3枚，南壁2枚，妻石各1枚ずつの2枚で，蓋石は長径1.65m・短径60cmを測る。石棺内部は長径1.39m・短径41cmほどで高さは28cmである。

蓋石除去後の石棺内部は土砂がいっぱいに流入しており，土砂の中に粘土が混入されている。土砂の中から，歯13個，上腕骨片1個，その他骨粉が検出されたのみで，副葬品は検出されない。

9．大塚9号古墳（ＪＯＴ—9）

古墳の現状

9号墳の北側には7号墳，東側に8号墳，西側には10号墳が位置している。

墳丘は，耕作によって，ほとんど削平されているが，調査前において墳丘測量を実施した結果墳丘の最も高い標高は，25.00mであり，円形として閉合する。等高線は，24.90mで10cmの差である。24.80mの等高線は，10号墳をとり囲む線で，これに閉合して平坦になる。

墳丘の構造

小調査区を設定し調査を開始した。墳丘は耕作土層だけであり小調査区を全面的に排土した結

果，円墳であることが確認された。墳丘の法量は，東西径19,50m，南北径21.80mを計測する。周溝は，南側および東側がやや張り出している。周溝の巾は，2.25～6.50m，深さ0.6～0.8mを計測する。

溝の断面は，自然的な堆積の状況を呈している。周溝は，10号墳の周溝と西側で接触している。

埋葬施設

全体発掘を実施したにもかかわらず主体部は，確認出来なかった。

出土遺物

東側周溝部底面より，石棺利用の目的のための雲母片岩一枚，土師式土器，杯形土器片壺形土器片が少量検出した。

その他の遺構

周溝部，南側に位置し，土壙が確認された。土壙は，周溝のスロープ状の傾斜地にあたり，長径3.5m，短径1.9m，深さ1.15～1.25mの長方形の平面形を呈する。土壙の床面からは，ピット4個を確認した。P1 長径30cm・短径25cm・深さ35cm，P 2 長径35cm・短径26cm・深さ52cm，P 3 長径30cm・短径22cm・深さ25cm，P 4 長径27cm・短径22cm・深さ10cm。床面は平坦であり，あまり起伏はみられない。床面から壁面の立ち上がり状況をみると，長軸では，北側は垂直に近い状況であるが，南側では，ややゆるい傾斜をなす。また，短軸では一部，階段状になり外反しながら立ち上がっている。遺物は検出されなかった。土壙の堆積は自然的な堆積の状況を呈していた。

10. 大塚10号古墳（ＪＯＴ—10）

古墳の現状

10号墳の東側には，9号墳が隣接している。墳丘は耕作によりほとんど削平されているが，調査前に於いて墳丘測量を実施した結果，墳丘の最も高い標高は25.20mであり，円形として閉合する等高線は24.90mである，24.80mでは，円墳9号をとり囲む線と閉合して平坦になるが，等高線24.70mから南西側に，傾斜をなし谷津に入り込む。

古墳の西側は約½を除いて調査区域外である。

墳丘の構造

小調査区を設定し，墳丘の耕作土層を全面排土作業を実施した結果前方後円墳であることを確認した。

墳丘の法量は，全長23.20m，後円部径15m，前方部長8.2m，前方部巾12.32mを計測した。

主軸方向は，ほぼ南北であるが，石棺中央（南主体部）を通過する主軸線を設定して測ると，N—19°—Eである。平面図から判断すれば，南側の前方部のラインはある程度整っているが，東側に位置するくびれ部より，後円部に向かうにしたがい，やや円形がくずれた形で，前方部とほとんど変化がない状態である。よって，後円部は，正確な円形を示していない。

墳丘はないが，周溝内の堆積土層から墳丘が存在したことが推定される。周溝の形状は，墳丘の形状を相似させた形態である。周溝の巾は，平均4.75～2.25mで最も広いくびれ部で5m，最も狭い前方部で2mを測る。

周溝の断面は，ゆるいスロープ状を呈し，平均0.5～0.6mの深さをもつ，東側のコーナーが一番深く1.2mを測る。周溝内の堆積土は，上層から，黒色土，暗褐色土，黒色土，褐色土等ロームブロック等が含まれて構成され自然的な堆積の状況を呈している。

埋葬施設

本墳の埋葬施設は，前方部に位置する南側主体部と後円部の周溝よりに位置する北側主体部が存在する。どちらの埋葬施設も，土壙内に埋設された箱式石棺である。

土　　壙

北側主体部

土壙は箱式石棺を埋設するために掘削されている，土壙の主軸線はほぼ，南北にもち長径3.2m・短径1.52mの平面形を呈する。深さは，ローム面から底面まで0.87mである。土壙は，2段造りの様子を残している。一度ゆるい傾斜で彎曲しながら，さらに掘削されている。

凹に石棺が埋設されていたと思われるが，盗掘により雲母片岩の石板がぬかれている。

石　　棺

石棺の両妻石，東西の側石，蓋石は，取り除かれていた。土壙内部の堆積土をみると，褐色土，黒褐色，暗褐色土等で構成されているが覆土内に木炭の層が，傾斜して流れ込んでいる。また，バラス状の雲母片岩が多量に検出された。

石棺の床面には，バラス状の雲母片岩が残存しており，バラス状の雲母片岩が敷石であったことが判明した。石棺の石材を掘り込んだ状況が確認されたことにより，石棺の内法は長径1.8m巾70cm前後の箱式石棺であったことが確認された。

南側主体部

北側主体部と同様，箱式石棺である。

土　　壙

土壙は箱式石棺を埋設するために掘削されている。土壙の主軸線は，墳丘と一致し前方部と後円部にまたがって位置している。

石棺の裏込めとして，７種類の土層がみられる，粘土は妻石の裏込めの最下層のコーナーに見られる。これは石棺の目貼りとして使用されたと考える。

石　　棺

石棺は，妻石一枚，東側石一枚，敷石二枚が残存していたにすぎない。長径2.1m・巾1.05m・深さ0.8mである。

石棺の石材は，雲母片岩を板状に加工したもので厚さ12cm前後のものを使用している。

石棺の妻石および東側石は垂直に立てられ，床面には二枚の敷石が敷かれているが，床面の敷石も下に暗褐色の土を盛土していることが判明した。厚さは，８cm前後である。

出土遺物

周溝部より，土師式土器片，及び杯形土器を，前方部の周溝より検出する。また東側，北側の周溝からは，石棺組立て加工のおり，破損した雲母片岩が検出した。

主体部より歯が検出しただけである。

ま と め

大塚９号墳は円墳である。台状部から埋葬施設は確認出来なかった。

周溝東側，溝底部より，雲母片岩が検出された。利用目的は，敷石か側石であろう。東側の周溝には陸橋を有する形状を示している。また，西側にも同じ状況を示している個所がある。南側には土壙が確認されている。土壙の深さ，底面のピット等から判断し，埋葬施設ではなく食物用の貯蔵穴と思われる。

周溝部からは，弥生式土器片，土師式土器片等を検出しているが，直接古墳と関連性があるものと決定ずける資料ではない。

大塚10号墳は，前方後円墳である。

埋葬施設が前方部と後円部の接点で中央部に位置するものと，後円部の裾部の周溝よりに位置しているものがある。石棺の新旧については，中央部に造られたのが最初であり，追葬されたのが，後円部の裾部に施されたと判断すべきであろう。

くびれ部付近の周溝は台状部からスロープ状の傾斜をなし外の立ち上がりに至るが，後円部の裾部に位置する主体部付近では，周溝は非常に深くなり，溝の底部から粘着性の土を取り石棺等

の裏込めと，石棺目貼りに利用していると判断される。

周溝部からは，須恵器の長頸壺片が検出されている。また，土師式土器の杯が完形で検出した。杯は鬼高期に位置ずけられるものであろう。

出土遺物は，古墳の構築された時期の判断の資料となるだろう。

大塚９号・10号墳の構築の新旧についても周溝の断面から判断し若干９号墳がさきに構築された状況を示している。

11. 大塚11号古墳（ＪＯＴ—11）

(1) 古墳の現状

本墳は本古墳群の最南端に位置し，これより南は霞ケ浦の浸蝕谷であり，その急斜面の直上に立地する。調査前は松林であり，保存状態は良好と思われる。現墳高0.6mほどである。

東側⅓程度は高速自動車道用地外のため，全容を究明することはできない。

(2) 古墳の構造

〈墳　丘〉

エリア内墳丘¾程にA（北）トレンチ，それに直交するB（西）トレンチ，東側境界に平行なCトレンチを設定して調査をすすめた。

規模は周溝を含む直径19m・周溝内径12.6mほどと推定される。周溝は一部南側の谷にむかって開口する中規模のもので，円形を呈すると考えられる。

封土の構成状態は，ローム層の上に旧表土である黒色土が10～12cmほどの層をなし，その上にローム粒子，ロームブロックを含む褐色土が３層40cmほど盛土されている。

墳丘の保存状態は良好である。

〈周　溝〉

最下層はローム層であり，その上にローム粒子を多量に含む褐色土が堆積し，周溝中央部にはロームを少量含み，かたくてもろい極暗褐色土が，墳丘側にローム粒子を多量に含む暗褐色土が，墳丘裾部側にはしまりのない黒色を含む暗褐色土が堆積している。

周溝断面は大きくゆるやかに開いて立ちあがっている。

(3) 埋葬施設

墳丘南西側に土壙に埋置された箱式石棺を検出する。

土壙は主軸方向N—16.5°—Wであり，長径3.15m・短径2.22m・深さ70cmを測り，壙内は石棺側石が立つように掘られている。

石棺は土壙の中央に位置し，土壙中に完全に埋没していた。石棺の材質は粘板岩で，蓋石２枚側石６枚，妻石２枚，底石３枚の計13枚からなる。側石は内側に傾いている。

石棺の法量は長さ2.25m・幅72～56cm・高さ53cmで北ですぼまるゆるい船底形を呈している。

人骨１体分出土する。(第148図)

12. 大塚12号古墳（ＪＯＴ—12)

(1) 古墳の現状

本古墳は６号古墳の南西に位置する。畑地であり，桑畑として利用されていた。低い墳丘が耕作によって変形を受けているため，墳形の確認は困難である。

先に確認された箱式石棺を中心にD（東西）トレンチを設定，次いでA（南北）トレンチを設定して本墳の性格を究明した。

(2) 古墳の構造

〈墳　丘〉

墳丘の形状は馬鞍形を呈し，規模は周溝を含む直径約27.3m・周溝内径20m，くびれ部の周溝外径18.2m・周溝内径11.2mを計測する。

封土の構成状態は，ローム層の上に約10cmほど旧表土である黒色土がのっており，その上にローム粒子を少量含む褐色土が25～28cmほど盛土されているが，削平・攪乱のため明かでない。

〈周　溝〉

周溝の最大幅5.8m・最小幅3.3mほどで深さは60cmほどを測る。周溝断面はゆるやかに大きく開いて立ちあがっている。

上層にローム粒子（少量)・極少量の焼土粒子を含有する黒褐色土が24cmほど堆積し，その下に多量のローム粒子を含む暗褐色土・明褐色土が堆積している。全体に盛土の流れ込みは少ない。

(3) 埋葬施設

本墳の主体部は括れ部中央に構築された土壙に埋置された箱式石棺である。

土壙は主軸方向N—83.5°—Eで，長径3.17m・短径1.92m・深さ90cmであり，壙内には側石が立つように掘られて，石棺が設置されている。

石棺は土壙中央に位置し，土壙内に完全に埋没していた。蓋石３枚，側石10枚，底石５枚の計18枚からなる。法量は長さ1.96m（外法2.15m)・幅55cm（外法82cm)・高さ65cmで石材は粘板岩である。石棺底部は長方形を呈す。

石棺は一度開かれた痕跡が認められる。掘り方の内側に攪乱されたようすが残っているし，閉

塞も不完全であり，石棺内部がややのぞける程度に上蓋がずれている。

内部には土砂が流入してぎっしりつまり，土の中から小片骨が若干出土したのみで他に刀子1本が検出された。(第161図)

13. 大塚13号古墳（ＪＯＴ—13)

(1) 古墳の現状

本墳は6号古墳の北側に位置し，本古墳群中最も小形のものである。雑地であり，調査前は栗山に利用されていた。耕作等により墳丘は著しく削平されていて，地表面から墳形を確認することは困難である。

6号古墳の調査が進行する中でその存在が確認された。

(2) 古墳の構造

〈墳　丘〉

墳丘の形態は円墳である。規模は周溝を含む東西径15.5m・南北径16.5m・東西周溝内径10m南北周溝内径9mを計測し中規模の墳丘である。

封土の構成状態は旧表土の上に耕作土層がのっており盛土の状況は不明である。

〈周　溝〉

周溝は完全に周回し，円形を呈している。最大幅は4.4m・最小幅2.5m・深さ約70cmほどを測る。

覆土の状況は，最上層に固くてもろい黒色土が，第Ⅱ層に黒褐色土が，下層にローム粒子を多量に含む暗褐色土の堆積がみられる。

(3) 埋葬施設

本古墳の主体部は墳丘中央部に設けられた土壙内に埋置された箱式石棺である。

〈土　壙〉

墳丘中央部に設けられ，主軸方向はN—78°—Wであり，長径3.33m・短径2.3mほどの長方形の平面形を呈している。壁は外反して立ちあがり，壁高は約70cmほどである。

土壙内覆土はロームブロックおよびローム粒子を含む暗褐色土あるいは褐色土である。

〈石　棺〉

石棺はいわゆる箱式石棺であり，墳丘中央部に設けられた土壙の中に埋置されていた。土壙上面よりおよそ16cmほど下の覆土から蓋石が露呈し，上下左右をロームブロックで覆れている。

蓋石2枚，側石6枚，底石2枚の計10枚からなり，材質は粘板岩である。蓋石2枚の継ぎ目に

長径50cm・短径45cmほどの石を用い，白色粘土をその間に使用して閉塞とした。粘土による閉塞は石棺を良好な状態に保って効果は大である。

石棺内部は全面朱彩で，朱の壁面に対する遺存は良好であり，一部で人骨にも塗られたような痕跡が認められるが壁のものかどうかは不明である。

石棺の法量は長さ2.1m（内側1.95m）・幅87cm（60cm）・高さ40cmほどで西側がやや窄り船底形を呈している。

石棺の継ぎ目より多少の土砂が流れこんでいたが人骨1体分が検出された。

〈人骨の遺存状態〉（第149図）

骨格全体の遺存は良好である。特に頭骨・下顎骨・肩甲骨・胸骨・肋骨の一部，右手上腕骨，橈骨・尺骨等ほぼ完全に近い状態で残存していた。それに対してほとんどの背椎，骨盤，脛骨腓骨の遺存は悪い。

〈石棺内出土遺物〉（第162図　）

石棺内より出土した遺物は鏃柄7個，鉄鏃2個，鏃（先端）8個，刀子柄3本，刀子1本でいずれもさびが著しく員数を定かに把握できにくい。

14. 大塚14号古墳（ＪＯＴ—14）

(1) 古墳の現状

本墳は恋瀬川からの浸蝕谷の東岸に立地し，松延1号墳と大塚2号墳の中間に位置する。市川地区と下志筑地区を結ぶ農道によって，墳丘の½ほどが既に消失している。

自然の隆起する地形にあって墳丘の判別は困難であるが，大塚2号古墳を調査する中で，2号墳の北側周溝と本墳の南側周溝が切り合っていたため発見されるにいたった。

(2) 古墳の構造

〈墳　丘〉

本墳の規模は，周溝を含む直径25～26m，周溝内径15.5mほどと推定される。封土の構成状態は，ローム層の上に旧表土である黒色土が10cmほどのっており，その上にローム粒子を多量に含む褐色土が10～15cmほど盛土されている。円形を呈す。

〈周　溝〉

周溝は幅3～5.4mほどを有し，深さは1mほどを計測する。完全に周回し円形を呈すると考えられる。

周溝内覆土は，上層はローム粒子を含む黒褐色土が，下層にはロームを多量に含む褐色土の堆積がみられる。

(3) 埋葬施設

東西および南北にトレンチを設定し，その他補助トレンチを設定して調査をすすめたが，本墳の主体部あるいはそれに該当する施設は発見できない。

15. 大塚15号古墳（ＪＯＴ—15）

本墳は大塚３号古墳に隣接して発見される。

主軸トレンチおよびそれに直交するトレンチ，さらに補助トレンチを設定して調査をすすめた。規模は周溝を含む直径16.7m，周溝内径10.7m を計測し，深さは34～74cmを測る円墳であろう。本古墳群中13号古墳に次いで小規模な古墳である。墳丘は明確でない。埋葬施設も発見できない。

第４節　調査のまとめ

新治郡千代田村大字下志筑大塚地内・常磐自動車道敷地内に係る大塚古墳群15基の古墳について発掘調査を実施した。９・10号古墳の２基については昭和53年度に，１～８号古墳，11～15号古墳については昭和54年度にそれぞれ調査をすすめた。

調査の方法は，設定されたグリッドをもとに東西および南北に２ｍ幅のトレンチを（必要に応じては主軸トレンチを設定）設定して発掘調査をすすめ，墳丘規模および範囲を確認，さらに主体部あるいはそれに該当する施設の確認および検出につとめた。それらの施設が発見されない古墳については，墳丘部全体の盛土を除去して探査した。

また周溝についてはプランの確認のために１ｍ幅の補助トレンチを設定して調査をすすめ，さらに表土層の発掘によって周溝部分の確認を実施。

各墳丘については２ｍ方眼によるレベリングをもとに10cm基準の等高線図を作成し，部分的には１cm・５cmの補助等高線を加えた。これには平板による地勢図をあわせて検討を行なっている。

本古墳群は，調査前は栗林，松林あるいは桑畑の中にあって，確認しがたい条件の中にあったが，保存の状態は大概良好であった。極めて低い墳丘のものが大部分であったにもかかわらず，ほとんどその位置と原形を確認し得た。

発掘調査を実施した15基の古墳については，前方後円墳形を呈するもの３基，馬鞍形の周溝をなすもの２基，円形あるいはそれに類すると推定される古墳10基，発見された石棺は７基，他に掘り方のみのもの２基，別に弥生時代の住居址が１基……以上が本古墳群調査の全容である。

第11章　松延古墳群

第1節　古墳の概観

松延古墳は，前述した通り国道6号線，市川地区より，下志筑地区に通ずる村道を約600ｍ程進んだ，常磐自動車道の敷地内の東側に位置している。

松延古墳群とは，大塚古墳群内の一地域であり，千代田村字松延に存在するために，茨城県教育委員会が仮称したものである。敷地内には1号墳と2号墳があり，1号墳は地目，松林，栗林で，松延838―3番地，740―1番地，702番地，744番地に所在する。また2号墳は，774番地，745番地に所在する。地目は，栗林である。

第2節　調査経過

松延古墳1号墳

昭和54年4月10日

当初，草刈作業を行ない，発掘調査区の設定をし，A・B・C・Dトレンチとする。

発掘精査作業は，封土の掘り下げを行ない，主体部の確認作業，周溝部の露呈作業を進める。

A・B・C・Dトレンチのセクション図作成のため遣り方組み，実側を行なう。

5　月

主体部確認，および周溝部の確認のため，E・F・G・Hの各トレンチを設定し，発掘調査をした結果，主体部は，確認することは出来なかった。Hトレンチは，発掘前，盗掘坑と思われるので主体部を確認出来ると判断し，堀り下げたが，主体部は，確認できなかった。しかし，周溝部の発掘作業により円墳であることが確認される。各トレンチの精査，写真撮影および周溝内出土遺物取り上げ，周溝部の平面図作成等を行ない，5月21日を持って終了する。

5月は，松延古墳2号墳に主力を向ける。

松延古墳2号墳

松延1号墳と同様，墳丘の状況を把握し，調査区をA・B・C・D・E・F・G・H・Iトレンチとし，また，志筑遺跡の小調査区を利用してC2e 2，C2e 3，C1a 9，C1b 9，C1c 9を設定する。

4　月

昭和54年４月11日より，草刈作業を実施し，発掘調査に入る。Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｇ・Ｈ・Ｉ トレンチの封土を掘り下げる，Ｂトレンチ主体部と思われる所を検出したので北側，南側を拡張する，Ｃトレンチは，周溝部検出できず終了する。Ｃトレンチ墳頂直下に住居遺構を確認した。また，Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｇ・Ｈの各トレンチの封土を掘り下げる。その結果，前方後円墳であることが判明する。

Ｉ トレンチ，周溝部全体が，前方の周溝部であるため，周溝の外側，内側の拡張，周溝部の立ち上がりを露呈させる。

下旬に入り，Ｃ１ａ ９，Ｃ１ｂ ９，Ｃ１ｃ ９内の発掘精査，Ｃ２ｅ ２，Ｃ２ｅ ３内の発掘精査を実施した。

5　月

５月３日―５月６日，作業。

Ｂトレンチ内，主体部の石棺検出作業を実施し，石棺の石蓋を露呈させる。

Ａトレンチ，Ｃトレンチ，Ｄトレンチセクション図作成のため遣り方を組み，実測図を作成する。

Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｇ・Ｈ・Ｉ の各トレンチ周溝精査作業を前月同様実施する。その結果Ｉトレンチ拡張部より，住居遺構，（松延３号住居址）を確認する。周溝（各トレンチ）内の遺物，出土位置図を作成する。

Ｃ１ａ ９，Ｃ１ｂ ９，Ｃ１ｃ ９内の発掘の結果，住居遺構（松延１号住居址）を確認する。また，Ｃ２ｅ ２，Ｃ２ｅ ３にも周溝部が検出される。住居遺構（志筑遺跡　53号住居址）を検出する。

トレンチＤ・Ｅ・Ｆ・Ｇ・Ｈ・Ｉ のセクション図の作成を行なう。周溝部の発掘精査により，前方後円墳であることが判明された。しかし，くびれ部の個所を露呈させていないのでＪ トレンチを設定し発掘精査作業を進める。くびれ部を完全に露呈させることはできなかった。

中旬に入り，周溝部の発掘調査は一応終了したので，主体部調査を中心に進める。（５月24日）石棺の蓋石の実測を行ない，25日蓋石を開けた。その結果，刀剣３振，人骨３体分を検出する。財団本部局長大内秀夫，調査課長　川俣吉之助来跡する。25日慰霊祭を行うことに決定する。５月25日，慰霊祭を行なう。財団本部常務理事川野辺四郎，教育庁文化課職員，日本道路公団石岡工事事務所，千代田村教育委員会，千代田村文化財審議委員，常磐自動車道敷地内発掘担当班長，高根信和，以下，全調査員，作業員，参列する。

慰霊祭のおり千代田村立千代田中学校生徒約800名，志筑遺跡および松延２号墳の主体部見学する。一時発掘作業を中断する。

26日より，石棺の内部，遺物の実測を開始する。

7月1日，山本貴之，本日より整理班に転属する。

7月1日～16日まで，調査を中止し志筑遺跡を集中的に行なう。

7月17日より再開する。

前方後円墳のくびれ部J トレンチの間，Eトレンチ，Fトレンチ側寄りを拡張する。拡張の結果，くびれ部を確認した。また，住居遺構（松延2号住居址）を確認する。

7月下旬

主体部の掘り方のセクション図，石棺の平面図等を作成し主体部の調査を行なう。また，古墳内に検出された，住居遺構（松延1号住居址，2号住居址，3号住居址）の調査を行なう。

8　月

住居址1号～3号の図面作成，古墳全体の平面図を作成し，また，主体部，石棺の取り上げ作業を行ない図面作成をし，Bトレンチのセクション図を作成して8月8日をもって終了する。

第3節　松延古墳1号墳

古墳の現状

本墳は，国道6号線，市川地区より，下志筑地区の集落に通ずる村道を約600m向った東側に位置し千代田村大字下志筑字松延地内にある。

本墳の占地する地形的位置は，恋瀬川からの小支谷が北西から南西に向かって伸びる南側の台地に存在する。また，小支谷の谷津が松延1号墳と2号墳の間に入り込んでいる。

墳丘は，松林であり調査前伐開され，焼却作業を行った後，墳丘測量を実施した。

墳丘の最高点は，標高25.55mを示しており，24.05mで平坦になる。比高は1.5mである。

墳丘の北，東，南の一部にかけ，墳丘は削平されていた。また，南側の墳丘の傾斜地には，盗掘穴と思われる土壙が存在していた。

墳丘の構造

調査は，当初，東西南北にトレンチを設定し開始したが，周溝部の確認のみであり，主体部の確認が出来なかったので，Fトレンチを設定した。また，主体部，周溝部の確認も含め，E・G・Hトレンチの調査も行なったが主体部は確認出来なかった。周溝部の露呈により円墳であることが判明した。円墳の法量は，南北の外径で24.4mであり内径で16.7mを計測する。

封土の構成は，旧表土の上に1.5m前後の土を積み重ねている。内容は，暗褐色土，黒褐色土，褐色土等で構成され，その中に黒褐色土有機質土層と，ローム質土層を交互に積んでいる。

周溝内の堆積土は，黒褐色土，褐色土，暗褐色土，極暗褐色土等から構成され，自然的な堆積の状況を呈している。

周溝はスロープ状の溝になる。平均して巾は4.0～4.5m前後であり，深さは0.5～0.6m前後を呈する。

埋葬施設

墳丘の南側傾斜面にHトレンチに盗掘穴があり主体部と考えたが，調査の結果主体部は確認出来なかった。

その他の遺構

Bトレンチ，周溝部内に細かい溝があるがこれは土地の境界溝である。

Eトレンチ，周溝内にピットがある，直径2m前後，深さ1.5mである。

出土遺物

各周溝より，土師式土器片を検出する。主に，杯形土器片及び壺形土器片等である。

Aトレンチ　周溝部からは先土器時代の石器，円錐形石核，チャート等を検出した。

Hトレンチより，石鏃等を検出した。

まとめ

トレンチに発掘調査を実施して，埋葬施設が確認されなかったのは，大塚9号墳と同様である。

周溝部からは，縄文時代，弥生時代，古墳時代の土器片が散布している。また，Aトレンチ，Cトレンチより，須恵器を2片検出した。これらの須恵器等により構築期を推察することが出来るだろう。

第4節　松延2号墳

古墳の現状

本墳は志筑遺跡と隣接している。北側は恋瀬川からの小支谷が入り込み谷津を形成し，本墳の南西側から南側にかけて傾斜をなし，小舌状部にあたる。地目は栗林であり，栗の発祥地の原点とされている。

本墳の北側は敷地外になる。敷地外には隣接して円墳があり，3基ほど確認されている。

当初，草刈作業，焼却作業を行ない，墳丘測量調査をする。農耕作業により墳丘部は削平されて

円墳か，前方後円墳か判断しかねていたが，調査の結果，墳頂の最高点は標高26.18mを示しており標高26mから24.75mまでは，楕円形状に閉合する。それ以下の等高線は閉合せず，東，南側では平坦になる。しかし，南西側は標高24mから，標高21mで，谷津頭の傾斜状況を示している。よってゆるい傾斜をもった台地線に古墳が構築されたことが判る。

墳丘の構造

調査には，最初，墳頂部を軸とし，東西南北に，A・B・C・Dトレンチを設定し周溝と判断される位置に，F・G・H・Iのトレンチ及び志筑遺跡小調査区C1a 9・C1b 9・C1c 9・C2e 2・C2e 3を設定する。

封土の排土作業により，周溝部及び主体部を確認した結果，前方後円墳であることが明らかになる。

墳丘の法量は，全長35m（周溝部を含めて全長42m），後円部径22.6m，前方部長さ22m，前方部巾18mを計測する。石棺を通過する主軸線を設定して測るとN—48°—Eとなる。墳丘の平面プランは全体的に整っている。

封土の状況をみると，墳頂部では，1.5mでローム層になる。ロームの上層には，黒色土，暗褐色土，極暗褐色土等が堆積している。これは，旧表土で構築する時期の表土であり，その上に，暗褐色土，褐色土，の中に黒色土，ロームブロックなどが混入している。これらの土層を交互に積み重ねて墳丘の土盛状況を示している。また，墳丘から傾斜面をみると，耕作土，黒褐色土，暗褐色土で構成されている。墳丘は，小起伏の所を利用している。

周溝部の形状は墳丘相似形を呈する。周溝の巾は平均5m程である。最も広い後円部で6mを示す。周溝は北側ではゆるい傾斜のスロープ状を呈し，耕作土から深さは80cm～1m10cm前後である。また，クビレ部付近から前方部にかけての南側コーナーでは，幅5m前後で耕作土からの深さ1.5m前後であり後円部よりやや急な傾斜をなす。墳丘部から傾斜し周溝に至るが，階段状になる所もみられる。前方部では，3m～3.5mの巾を示し，墳丘部から急傾斜で周溝底に至り，外にゆるい傾斜で立ち上がる。

周溝底の状況をみるとC1a 9，C1b 9では標高23.55m，C2e2・C2e3では標高23.72m，Dトレンチ22.90m，Jトレンチで22.80m，Gトレンチ22.48m，Hトレンチ22.50m，Iトレンチでは，22.59mを示すが，周溝底は後円部より，前方部に向かって，傾斜を示している。比高は1m前後を呈する。しかし，クビレ部から，前方部の角隅までは平均的な深さである。前方部の敷地境よりでは，標高23.31m，前方部の隅角では標高23.00mであり，敷地境から傾斜を示し約30cm前後の比高を示す。

周溝内の堆積土層は，上層から耕作土，褐色土，黒色土，黒褐色土，暗褐色土の中に，ロームブ

ロック，及びローム粒子等を含有して構成されている。堆積土は自然的な堆積を示している。

埋葬施設

本墳の埋葬施設は土壙内に埋葬された箱式石棺である。

土　壙

土壙は箱式石棺を埋設するために掘削されている。土壙の主軸線は，古墳の主軸と一致し後円部と前方部の接点に位置する。平面的形状は長方形を呈し，長径７ｍ18cm・短径５ｍ80cmを測る。深さは断面でみると，ローム面から底面まで１ｍ22cm～１ｍ85cmである。長径の北と南で約63cmの比高があり，短径の西南では差はほとんど見られない。よって，全体的に北側から南に傾斜している。

また，石棺は北側で封土の盛土に55cm前後，南側では，82cm前後突出している。土壙は半封土半ローム掘削している状況を示す。

ロームよりの掘削状況をみると，ローム面から床面の傾斜は80度～85度前後を示す。

短径の西側では，ロームの掘り込みから垂直に落ち込んでさらに外反し床面に至る。床面には，凹があり石棺が埋設されているが，石棺を立てるために20cm前後掘り下げられている。

土壙内には，石棺の裏ら込めとして，石棺と密着し目貼りとして粘土がある。また，暗褐色土褐色土，黒褐色等，土層の中にハードロームブロック，ローム粒子等を含有して，交互に重ねられていた。上層部の土層にも粘土が検出される。石棺の蓋石に目貼りとして使用したものと考えられる。また，雲母片岩の破片が，埋込みの土層に混じり検出された。

石　棺

石棺は蓋石２枚と継ぎに使用した４個の石と妻石２枚，東西側石４枚，敷石５枚，計13枚の板石を組み合せて作られている。

石棺の内法は，長径3.30m・短径1.25m・深さ1.50mである。石棺の石材は雲母片岩を板状に加工したもので厚さ10cm～25cm前後のものを使用している。石棺の主軸はN—48°—Eで，土壙と同じである。

石棺の蓋石は２枚の板石であるが，粘土により目貼りされて，その上に４個の石を重ねている。石棺の敷石の下には，硬いローム層の上に厚さ10cm前後の暗褐色土を入れ，その上に板石を敷いたことが判明した。側石であるが，両妻石が中に入り，妻石をはさむ状態を示している。北妻石より側石は長い板石を利用し，南側で両側石とも別の板石と組み合せている。

〈石棺内出土遺物〉

石棺内より，人骨３体部，直刀３振，鉄鏃（No.１～No.４）刀子片等を検出した。出土状況は，第176図に示す状態である。

人骨の埋葬順を判断すれば次の様である。まず，第１人骨は東側の側石に接してあり，第２人骨は，西側の側石，第３人骨より外部に位置する。第３人骨は，中央部に位置する。

第１人骨は，頭骨部が破損しまた，側石によせられた状況を示す。第２人骨は，西側によせられた状況であり，また，第１人骨側に移動している状態を示す。第３人骨は，頭骨，頸骨，肋骨，指骨等，脊髄，骨盤，大腿骨，及び骨粉が残存している状況を示す。

直刀は，東側に位置するNo.１が最も古く，次に中央にあり（No.２），西側にNo.３が位置する。

刀子は北妻石から二枚目で西側石の間にはさまる状況で検出する。

鉄鏃は直刀No.２に接する位置で検出した。

第１人骨に伴なうNo.１は，銹化が進んでいるがところどころに鞘の木片が残っている。

長さは，77.5cm・刃幅４m・茎長16cm。鍔は付属しているが切先を欠損する。

茎には目釘が２個所確認出来る。鍔は十所透倒卵形鍔であり長径９cmを示す。

第２人骨に伴なうNo.２は，長さ96cm・刃幅４cm・茎長16cm。鍔，九所透倒卵形鍔で長径11cm，刀身には鞘の木質が，遺存しているがNo.１同様，銹化が進んでいる。

第３人骨に伴なうNo.３は長さ１m １cm１mm・刃幅４cm・茎長16cm。鍔は無窓の倒卵形鍔であり，長径７cm５mmを呈する。No.１，No.２同様銹化が進んでいるが鞘の木片を遺存している。

鉄鏃，これは第３人骨に伴なうものと判断する。折損し，銹がひどい完形のもの３個のみで，鉄鏃のかたまり一括である。鏃身は尖根丸造で，長い茎被ぎを有するものである。

刀子は破損している。柄の一部が残り，刃は大部分残存していない。第１人骨に伴なうものと判断する。

〈周溝部出土遺物〉

周溝全体にわたり，円筒埴輪片が検出されているが，特に前方部は，小粒の埴輪片であり，接合するのは不可能である。

周溝部，クビレ部から前方部の南側では，墳丘から，２段状の傾斜をなしている。段のある部分は，埴輪列の位置と思われるが，その地点ではほとんど確認されず，周溝部に少量の埴輪片を検出したにすぎない。埴輪片は，大きさ５cm～10cm前後のものである。やはり接合は不可能であり復元は出来なかった。後円部でC ２e ２～C ２e ３の，墳丘部に円筒埴輪の底部，直径15cm前後を検出した。周溝部からの埴輪片は小粒であり接合，復元も不可能であった。

〈その他の遺構〉

Ｃ１ｂ９・Ｃ１ａ９より縄文時代，弥生時代住居址，松延01号住居址，Ｄトレンチ及びＪトレンチより02号住居址，Ｈトレンチ及びＩトレンチより03号住居址,(古墳時代)，Ｂトレンチより04号住居址(古墳時代）を確認する。

住居址遺構

松延01号住居址（縄文時代，弥生時代）

住居址は，志筑遺跡Ｃ１ｂ９・Ｃ２ｃ９・Ｃ２ｄ９の小調査区を利用し，松延古墳２号の周溝部確認作業および溝（Ｍ６号）の発掘作業のおり確認したものである。

北側は溝（Ｍ６号）により切断され，また，西側敷地外になる。

住居址は，縄文時代住居址と弥生式時代住居址との複合である。

主軸方向は，Ｎ―40°―Ｅであり，01号Ａ・Ｂに分割する。01号住居址Ａは，隅丸方形の平面形を呈している。床面は平坦であり住居址の柱穴と思われるピットが２個確認できた。床面からの壁面の立ち上がりは，ゆるい傾斜である。

住居址の堆積は，自然的な堆積である。

住居址Ｂは，弥生時代の床面下に位置し，住居址Ａの床面から垂直に掘り込まれ，床面は平坦である。覆土は，自然的な堆積を示している。

住居址Ａは，覆土より，弥生式土器の壺形土器片を検出する。また，住居址Ｂは,縄文時代(中期）加曽利Ｅ式土器の破片を検出する。

松延02号住居址（古墳時代）

本址は松延古墳２号墳のＤトレンチ，Ｊトレンチより確認する。Ｄトレンチ，Ｊトレンチの間を拡張し住居址の発掘精査を行う。南側は周溝により切断されている。

住居址の主軸方向は，Ｎ―40°―Ｅ，長径4.35m・短径４ｍ前後の方形の平面形を呈するものと判断される。壁高は北側で10cm，西側40cm，南側10cm前後であり，周溝部に接近するにしたがい壁高は，底くなる。壁の下には壁溝があり一周している状態を示す。壁溝の巾は約20cmで，深さ10cm前後である。

住居址の床面は平坦であり，ロームで硬い。床面からは，ピット７個確認する。このピットのうち，住居址の柱穴と思われるのは，Ｐ２で直径40cm・深さ70cmである。他のピットは，やや浅い。Ｐ２の北･南側には,焼土および炭化物が確認され，また，北側の角隅からは木炭が検出された。

住居址の堆積土は，黒褐色土，暗褐色土，褐色土等で構成される。土層の中にも炭化物，炭化

粒子，焼土粒子なども混入している状況から察し，火災で消滅した住居址と判断される。

遺物は，炭化物（木炭），土師式土器の壺形土器片を少量検出したにすぎない。

松延03号住居址（古墳時代）

松延２号墳の前方部のＩトレンチ北側を拡張しＨトレンチと結ぶ，その結果住居址が確認された。主軸方向は，Ｎ―35°―Ｅ，長径５ｍ前後・短形4.15ｍの方形の平面形を呈する。

壁高は，55cm前後を呈するが，南側の周溝に接するにしたがい，東西の壁面は，掘削され壁は，なくなる。

住居址の覆土は，暗褐色土，黒褐色土，褐色土により構成されて，自然的な堆積を示しているが周溝部はやや攪乱を示す。床面にはピットがある。ピットは住居址の主柱穴であり対角線上にならぶＰ１は，直径40cm・深さ50cm，Ｐ２は直径40cm・深さ50cm，Ｐ３は直径45cm・深さ30cm，Ｐ４は直径40cm・深さ45cm，周溝部のピットが浅いのは，前述したように掘削しているためである。

床面には，炉址がある。長径75cm・短径40cmの不整形を呈する。炉址の断面は，暗褐色土，褐色土等から構成され，多量の焼土塊，粒子などを含む。床面は加熱を受け，硬くしまっている。

遺物は，壺形土器片，杯形土器片，高杯形土器片，器台形土器片等を検出する。

松延04号住居址

Ｂトレンチの前方部に存在し，住居址のほとんどは，周溝により切断され，わずかに残存する。

遺物として，土師式土器片，杯形土器片，壺形土器片等を少量検出する。

ま と め

本墳の問題点をあげ，まとめとしたい。

第１．構築された地形は前述した通り西側に谷津頭があり傾斜をなす地点であり，台地の起伏を利用している。

第２．埋葬施設である主体部の状況は，追葬が行なわれ，封土の一次，二次的に掘削が行なわれている。

第３．埋葬施設は当初から半封土，半ロームを掘り込んでいるのが特徴である。

第４．周溝部より埴輪片（円筒埴輪）が検出されているが，小粒であり復元は不可能であった。

第５．埴輪列の確認，埴輪の底部等はあまりみられない。

第６．台状部内には，五領期に位置する住居遺構が検出した。

第７．周溝部高低，前方部の周溝部と後円部で比高差がみられる。

第８．墳丘は削平され，前方後円の状況を示していなかった。

以上の事柄が明らかになったわけである。よって，古墳の成立期等も，解明される。

第12章　志　筑　遺　跡

第1節　遺 跡 の 概 観

遺跡は，志筑台地の北端に位置する。北側には変瀬川が流れ，石岡市内に至る水田が開けている。西側には，小支谷が入り込み，谷津が形成されている。西側の谷津頭に接し松延２号墳があり，北側の敷地外には，円墳が点在する。台地の標高23～24m 前後を呈している。

遺跡の地目は，栗林，桑畑，植木畑，梨畑等で構成される。地番は，千代田村字松延 760 番地，761番地及び，千代田村字愛宕後776番地，777番地，778番地の常磐自動車道敷地内である。

遺跡の分布調査では，縄文時代中期～後期の土器片が散布し，また，弥生時代後期から古墳時代にかけての土器片が多量に散布していた。

調 査 区 画

調査区画の設定

発掘調査に際しての地区設定は，常磐自動車道の中央杭No.6 ＋40（Ｄ２ａ １）を起点として磁北線に沿って40m 方眼の大調査区を設定し，40m 方眼の大調査区内を10等分し，４ｍ方眼の小調査区を設けた。

大調査区の名称は北から南へ,「Ａ」,「Ｂ」,「Ｃ」,「Ｄ」とし，西から東へ「１」,「２」,「３」,「４」と表わす。

小調査区は北から南へ「ａ」,「ｂ」……「ｆ」,「Ｊ」とし，西から東へ「１」,「２」……「９」「０」と表わした。

小調査区の名称は「Ａ１ａ １」,「Ｂ１ａ １」,「Ｃ１ａ １」のように名記した。

	1	2	3	4
A				
B				
C				
D				

〈大調査区〉

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
A										
B										
C										
D										
E										
F										
G										
H										
I										

〈小調査区〉

第2節　調　査　経　過

7月中旬

志筑遺跡一部雑木の焼却，草刈作業を実施した。

9月上旬

当初，志筑遺跡全体が草が茂っていたので草刈作業を実施し，11日より第一次調査として，調査区の25％を調査する。大調査区，Ａ３地区，Ａ４地区の排土作業を実施し，遺構検出にかかる。

9月中旬

Ａ２地区，Ｂ２地区，Ｂ３地区，Ｃ２地区，Ｃ３地区の排土作業を行ない遺構として，溝状遺構，土壙及び，住居遺構が検出され，縄文式土器片，弥生式土器片，土師式土器片等を多量に検出する。25％の小調査区の排土作業は終了する。

9月下旬

Ａ２地区，Ａ３地区，Ａ４地区の小調査区より全面排土作業にかかる。この地区は台地の端部にあたり傾斜地のため堆積土が厚く，ローム面までの掘り下げは時間をかける。遺構として，溝状遺構，住居遺構があることが判明する。

10　月

Ａ２・Ａ３・Ａ４・Ｂ３地区の一部の農道東側を中心に行なう。その結果，住居遺構12基，溝状遺構３基等を検出し，また溝（Ｍ１号）の発掘作業を開始する。溝セクション図作成，農道東側より縄文時代住居遺構１基，弥生式住居遺構１基，古墳時代住居遺構10基で多量の縄文土器片，土師式土器片を検出する。

11　月

Ａ２・Ｂ３・Ｃ２・Ｃ３地区の小調査区の排土作業を行なう。Ａ２地区の溝状遺構は，円形プランとなり３基確認する。円墳１号・２号・３号と名称をつける。

Ｂ２地区より円形の溝状遺構を検出したので円墳４号と名称をつけた。その他，住居遺構，土壙を検出する。Ｂ３地区は，排土作業の結果，小調査区，黒色土の堆積土が厚いことが判明したので黒色土の排土作業を注意しながら進め，住居遺構，方形の周溝を確認することが出来た。

Ｃ２地区の排土の結果，Ｂ３地区と違い30cm位でローム面を露呈させる。

調査の結果，円形周溝部及び主体部と思われる地点の確認をし，円墳５号墳と呼称する。

Ｃ３地区の排土作業を進めた大調査区Ｃ２と同様約30cmでローム面を露呈させ，住居遺構を確認し，全遺跡の80％の排土作業を終了する。

12　月

Ａ２地区に確認できた遺構の内，円墳１号・２号・３号の発掘調査にかかる。

円墳１号は，中央部に主体部と思われる土壙を確認する。円墳２号墳内の中央部に住居遺構，20号住居址を確認するが主体部は，確認できなかった。

円墳３号，周溝部の発掘作業を進め同時に主体部の調査を実施したが確認できなかった。

円墳１号～３号までの図面作成を行なう。

Ａ３地区，Ａ４地区の遺構発掘調査作業を進める。

住居遺構，01・02・03・04・05・06・07・08・09号の住居址の調査を進める。

その結果01号住居址は，溝（Ｍ１号）の東側に位置し，溝（Ｍ１号）に切られる。02号住居址は，溝（Ｍ１号）の西側で壁が一部破壊されていた。03号住居址は，溝（Ｍ２号）により切断されていた。04・05号住居址は，古墳時代のもので，複合し，また，04号住居址には，縄文時代の土壙（フラスコ型）が検出される。04号住居址，05号住居址の下部には，縄文時代の住居址，12号を確認する。

12月の調査としては，01・02・03・04・05・06・07・08・09号の住居址で遺物取り上げ作業，図面作成等を行なう。また，Ｂ３地区より検出した，方形周溝を方墳１号とし，周溝の一部を発掘して，12月26日をもって，年末，年始のため作業を中止する。

1　月

４日，調査補助員として，洞口正史（筑波大学学生）参加する。

Ａ２・Ａ３地区の住居遺構，溝（Ｍ１号）溝（Ｍ３号），前年度調査を実施した。遺構を補足調査し，図面の作成を行なう。

中旬に入り，住居遺構のあるＡ２地区，Ｂ２地区の発掘調査にかかる。住居址，21・22・24・25・26号を発掘調査する。方墳１号の周溝部の発掘調査作業を行い，遺物の取り上げ作業も進める。

溝５号の発掘調査を行ない，遺物（須恵器片，石棺の敷石と思われるものなどを取り上げる。

2　月

Ａ３地区，Ａ４地区の農道東側住居址，01 ～ 09号の実測を終了する。また，溝（Ｍ１号）の調査実測を完了し，住居址10号・11号・12号の発掘調査作業を実施する。

Ａ２地区・Ａ３地区の発掘作業を進め，土壙４号・５号の記録を作成する。

住居址21号・22号・26号・23号・24号・27号の記録作成を完了し，新しく31号・32号・33号・35号の住居址，並びに，円墳４号と主体部，円墳４号内住居址29号（弥生時代）の調査をする。方墳２号の周溝部の発掘作業，主体部の発掘調査，主体部は，33号住居址と重複しており，調査は困難であった。遺物取り上げをする。

方墳１号の周溝発掘調査作業を行ない，同溝部より検出する。

古墳時代，和泉期の遺物を取り上げる。

3　月

１月・２月に発掘調査した遺跡内の住居遺構，Ｂ２地区の遺構の調査，Ａ３地区10号・11号・12号住居址の調査を行ない，遺物取り上げ作業，記録作成，ならびに溝（Ｍ１号）溝（Ｍ２号）・（Ｍ３号）および溝（Ｍ５号）の記録作成を行なう。

３月23日をもって発掘作業を中止，事務所を閉鎖し作業を中止する。

発掘調査は，昭和53年７月より始め昭和54年３月をもって終了したが，志筑遺跡全体の80％の排土作業と，Ａ３・Ａ４・Ｂ２・Ｂ３の調査を実施したのみで，残りは次年度繰越しとなる。

昭和54年４月

発掘調査は，10日より開始する。前年度発掘調査した，Ａ２・Ａ３地区及びＣ３地区の住居遺構の補足調査を実施，主力の作業員を松延古墳１号･２号に向け,一時調査を中断することにする。

5　月

15日より発掘調査に入る。前年度，遺物のみ取り上げた方墳１号の清掃を開始し，周溝部のセクション図の作成，セクションベルトの取り除き作業を進め，また，住居遺構，16号・19号・37号の調査を行なう。下旬に入り住居遺構13号・17号・ 14号・15号 ・18号住居址の発掘調査を実施し一部図面作成を行う。

6　月

前月の住居遺構の調査を行ない，18号住居址，19号住居址，及び52号住居址に隣接し，または，切り込んでいる円墳６号を検出した。円墳６号の周溝部及び主体部の発掘調査を行ないセクショ

ン図等の図面を作成する。中旬に入り住居址，39号・40号・41号・42号・43号・44号・ 50号・51号・52号住居址，並びに，溝（Ｍ６号）の発掘調査作業を行なう。

５月に発掘した住居址及び土壙等の補足調査を行ない図面を作成する。また，土壙（17・18・21・22）の発掘調査を実施し図面の作成を行なう。

７　月

Ｃ２地区を中心に，住居址，円墳５号周溝の発掘調査を進める。溝（Ｍ６号）の西側を拡張し，排土作業を行ない溝（Ｍ６号）全体を露呈させ，また，円墳５号の周溝部を露呈させる。

Ｃ２地区，及び松延古墳２号墳の東側を拡張し，排土作業を行なう。その結果，溝（Ｍ６号）の西側より，住居遺構を検出する。前年度掘り残した溝（Ｍ５号）の西側を排土した結果，住居遺構を検出する。溝（Ｍ５号）は，溝（Ｍ６号）と接していることが明らかになる。

排土作業により確認できた。住居遺構は，46・47・53・54・55・56・57号住居址である。これらの住居遺構の発掘調査を行なう。また，６月に発掘調査を行なった住居遺構，39・40・41・42・43・44・46・50・51号住居址，土壙等の平面図，エレベーション図，セクション図等を作成する。

下旬に，住居遺構，13号・14号・17号にかけて，中世～近世に位置する家屋の礎石が確認されたので，その調査を行なう。方墳１号の主体部の発掘調査を実施する。

８　月

住居遺構，53・54・56号の平面図を作成する。

方墳１号の主体部，周溝部の図面作成，各住居址，土壙，溝（Ｍ５・Ｍ６号）の補足調査を，実施する。また，全体の遺構配置図を作成し，８月８日をもって志筑遺跡発掘調査を終了する。

第３節　遺　構　遺　物

遺　構

住居址遺構

01号住居址（古墳時代住居址）（第182図）

01号住居址は，溝（Ｍ１号）の東側に位置し，Ａ３ｈ７・Ａ３ｈ８・Ａ３ｈ９・Ａ３ｉ８・Ａ３ｉ９の小調査区により確認されたものである。主軸方向は，Ｎ―45°―Ｅであり，長径6.60m・短径6.10ｍで隅丸方形を呈している。南側は溝（Ｍ１号）により切断されている。西側・北側のコーナーに位置する壁は残存しているが壁高は，西側で19cm前後であが，北側では，５～６cmを確認する

のみである。これは，北側に，松の根が繁って生えていて，攪乱していたためである。

床面北側は，木の根により破壊されて床面はしまっていない。床面にピットがある。ピットは，6ケ所である。Ｐ５は，木の根による攪乱である。住居址の柱穴と思われるものは，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４である。これらのピットは対角線上にある。柱穴のピットは，長径40cm・深さは45cm前後である。

Ｐ６は，貯蔵穴である。貯蔵穴の長径は，1.10m・短径80cmあり楕円形を呈する。

床面にはＰ１・Ｐ５の南側に位置して焼土がある。焼土の平面形は，不定形である。長径95cm・短径50cm前後である。焼土の上部層は，３層から成立する。床面と壁面の接点には溝はない。Ｐ６は床面が全般的に平坦でありしまっているが，Ｐ１・Ｐ５付近は攪乱している。また，中央部北床面のたたきのある部分が切りとられている。

遺物の出土状況をみるとＰ６（貯蔵穴）より 器台形土器片，壺形土器片が少量検出され，また，Ｐ１・Ｐ５の北側の位置より壺形土器片が少量検出できた。

02号住居址（古墳時代）（第183図）

本住居址は，Ａ３地区Ａ３ｇ８・Ａ３ｇ９・Ａ３ｈ８・Ａ３ｈ９の小調査区に確認される。

01号住居址の南側に位置する。01号住と02号住の間には溝（Ｍ１号）がある。

主軸方向はＮ―50°―Ｅであり，長径6.6m・短径5.5mの隅丸長方形の平面形を呈する。西側，南側，東側のコーナーの壁高は45cm前後であるが，北側コーナーの壁は，溝（Ｍ１号）を構築するおり，上部は削平され，残存して25cm前後の壁となっている。

壁は，垂直に近く，床面は平坦で硬い床である。

ピットは５個所ほど確認された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は，各々対角線上に位置し，本住居址の主柱穴である。Ｐ１は長径56cm・短径50cm・深さ64cm，Ｐ２は直径40cmの円形プランで深さ60cm，Ｐ３は直径46cmの円形プラン・深さ64cm，Ｐ４は直径54cmの円形プランで深さ74cmある。また，Ｐ５は貯蔵穴であり，長径114cm・短径76cm・深さは床面より20cmを測る。Ｐ４と切り合う状態である。

遺物は，西側コーナーのＰ４の付近を中心に集中しており，甕形土器片，高杯形土器，坩形土器等が出土している。貯蔵穴Ｐ５などからも，甕形土器片等を検出する。

住居址内覆土は，自然堆積の状態を示し，覆土上層部は黒褐色土が床面には，暗褐色土が堆積している。しかし，北側コーナーは一部攪乱されている。

03号住居址（古墳時代）（第185図）

本住居址は，Ａ３・Ａ４調査区のＡ３ｇ０・Ａ３ｈ９・Ａ４ｇ１・Ａ４ｈ１の小調査区内にある。

03号住居址は，溝（Ｍ１号）・（Ｍ２号）の合う位置にあり，溝（Ｍ２号）に大部分を破壊され，住居址遺構がかろうじて残存する状態である。住居址の壁は，溝（Ｍ２号）を中心として，西側および東側に少量あるのみである。よって柱穴貯蔵穴等は確認できない。

遺物としては，杯形土器，甕形土器片を少量検出したにすぎない。

04・05号住居址，04号住居址内土壙

Ａ3h 9・Ａ3h 0・Ａ3i 8・Ａ3i 9・Ａ3i 0・Ａ3j 8・Ａ3j 9・Ａ3j 0の調査区より確認する。

当初，25%の小調査区の排土作業のおり，Ａ3j 9の小調査区で，住居址の床面であることに気づかずに掘り下げ，全体の排土作業の時に気づいたが，床面まで全体掘り下げてしまい，堆積土の記録を作成しなかった。

住居址の北側には02号住居址が，また，南西側には溝（Ｍ３号）が05号住居址の壁面および，床面を切り込んで隣接している。

04号住居址（第186図）

住居址は，主軸方向Ｎ―40°―Ｅで，長径4.70m・短径3.50m前後で隅丸方形の平面形を呈するものと考えられる。

東側の壁面の検出は，簡単であったが，05号住居址の切り合いについて明確にとらえることが，出来なかった。

北の壁は，05号住居址の位置とほとんど変らない状態であると判断したが，北西の角隅の壁面を確認出来なかった。

壁高は，東側で20cm・南西側は20cm前後で，やや垂直に近い状態である。床面は平坦で，ロームのしまった硬い床をなす。ピットが４個検出しているが，Ｐ１は住居址，05号の主柱穴と考えられる。04号の主柱穴と思われるものは，Ｐ2・Ｐ３・Ｐ４のいづれか判断しかねる。Ｐ２は，直径55cm・深さ72cm。Ｐ３長径65cm・短径50cm・深さ70cm。Ｐ４長径55cm・短径52cm・深さ67cmである。

遺物は，壺形土器片，杯形土器片，器台形土器片などを検出する。

04号住居址内土壙

本址は，当初住居址の柱穴と思い掘り下げる。掘り下げた結果，内部に広がりフラスコ型となる。

覆土は暗褐色土が主に埋まっていた。その中より遺物として，縄文土器を少量検出した。

長径２m・短径1.65m，床面までの深さは，55cm，底面の長径は2.35m・短径2.20mを測る。

北西部に張り出した部分があるがこれは，上部の土が崩れピットとつながった所である。住居(第184)は掘り込みを表わしているが，実測前は直径60cm前後の円形を呈していたにもかかわらず，霜柱が立つ中での調査のため，上の土が落ちくずれてしまった。

05号住居址（古墳時代）（第186図）

主軸方向はN —48°—E，長径9.20m・短径7.20mの隅丸方形の平面形を呈する。

住居址の南側から，北西にかけて溝（M３号）が掘り込み，東側は04号住居址により切り込まれている。北側に張り出し部があるがこれは小調査区の排土作業のおり，掘り下げすぎた部分である。

壁は，北側と南側にみられる。北側はゆるい傾斜をなすが，南側の壁は垂直に近い状態である。壁高は25～30cm前後である。床面は平坦である。床面には焼土があり，焼土(1)は，長径1.50m・短径１m前後の不定形であり，厚さ15～20cm前後である。焼土(2)は，長径1.10m・短径45cm，焼土(3)は，長径60cm・短径50cmであった。焼土は，焼土粒子，焼土塊，炭化物を含有し，床面は硬くしまっている。床面には，ピットがある。Ｐ１・Ｐ５・Ｐ６・Ｐ７・Ｐ８・Ｐ９等である。

柱穴Ｐ１は，04号住居址の内部にあるが，05号の柱穴と思われる。長径95cm・短径80cm・深さ90cm。Ｐ５は，長径1.10m・短径1.04mの楕円形で深さ95cmである。底面は，Ｐ７・Ｐ８・Ｐ９もあるが住居址との関連性はない。北西側の床面は暗褐色土の土層であり，12号住居址の上層部にあたり縄文土器片が多量に検出した。

出土遺物は，土師式土器の壺形土器片，高杯形土器片，杯形土器片等を検出する。

特にＰ６・Ｐ５の周辺に集中している。

06号・07号住居址（第187図）

本址はＡ３ｉ９・Ａ４ｉ１・Ａ３ｊ９の小調査区より確認されたものである。東側は,発掘敷地外のため発掘調査はできない。住居遺構の東側の敷地内，耕作土からのセクション図を作成した。その状況より耕作土は，25cmあり，黒土褐色土層が24cm前後ある。その下に遺構が確認できたのである。

遺構は，06号・07号の複合住居遺構であることが判明した。06号住居址は，壁高30cm前後である。床面は平坦であり硬い。07号住居址は，壁高15cm前後である。床面は硬い。

07号住居址の南側には，溝（M３号）があり住居遺構を切断している。

06号住居遺構からは，土師式土器片を検出する。07住居址も同様である。

ピット，貯蔵穴と思われるものは，確認されなかった。

08号住居址（古墳時代，弥生時代）（第188図）

08号・09号住居址は，小調区A 3i 6・A 3i 7・A 3j 6・A 3j 7に位置する。この2基は複合しており，溝（M 1号）に向って延びる。溝（M 3号）により，切断されている。また，溝（M 5号）が北西に位置している。

当初，この住居遺構の覆土は，黒色土とロームブロックの混入した，攪乱状況であり遺構があることが判断できなかったが，溝（M 3号）の発掘作業を進め，溝（M 3号）の底面を追った結果，明らかにされたものである。09号住居址の中に08号住居址を確認する。

08号住居址の主軸方向は，N—85°—Wである。住居遺構の確認出来る個所は，溝（M 3号）の南側コーナーおよび，東側コーナーの一部にすぎない。推定であるが，長径4 m 30cm前後，短径で3 m 70cm前後である。平面形では隅丸方形を呈する。壁の状況をみると，南側のコーナーで壁高は，10cm前後であるが，西側および北西側では計測不可能である。ピットのP1があり，床面での径は，30cm前後で深さは60cmある。P 2 もP 1と同様である。P 1の西南に位置する，溝（M 3号)よりに炉址がある。炉址の長径は1 m 40cm，短径で40cm前後で，平面形は不定形を成していた。炉址付近で床面は硬くしまっていて，炉址を発掘調査した結果，床面より下がっている。
炉址の西側一帯は，溝（M 3号）に連なる。南西からの溝状遺構により切断されている。

遺物としては，縄文式土器片，弥生式土器片，土師式土器片が検出された。

09号住居址（第188図）

09号住居址は，長径6 m 26cm・短径で5 m 20cmの隅丸長方形である。

主軸方向は，N—95°—Wであり，08号住居址の外側に壁を残している。壁の位置は，溝（M 3号）をはさんで，北側のコーナーと南側コーナー，並びに北側のコーナー部に見られる。

西側は溝状遺構が階段状になっているが，住居遺構の内では，住居遺構を切断し，ゆるい傾斜をなしている，よって床面は破壊され，また，壁面も一部破壊されている。壁の高さは，平均8cm前後である。北側では傾斜をなしている。床面は東側で08住居址よりやや高く，しまりも硬いが，西側では，床面はローム面でしまりがなくやわらかい。

炉址は，08号住居遺構内に位置するものがこの住居址では中央部に位置している。08・09号いずれの炉址であるかは，判断しにくい。

遺物は，08号同様であり，ロームブロックと黒色土の混入した覆土より確認され，床面から確認出来たのは，炉址の周辺より検出した弥生式土器の壺形土器片のみである。

10号住居址（古墳時代）（第189図）

A 3f 5・A 3f 6・A 3f 7の小調査区より，確認する。住居址の南側は，溝（M 1号）が

住居址を切り込んでいる。北西には，11号住居址が，隣接している。

主軸方向は，N—62°—Wで，長径4m50cm・短径4m30cm前後で，隅丸方形の平面形を呈すると思われる。壁高は，15～25cm前後でゆるい傾斜をなす。床面は，平坦である。ピットが2個確認されている。P1は，直径40cm・深さ37cm。P2は，長径45cm・短径35cm・深さ47cmである。その他は，ピットが確認されていない。P2の西側には，長径60cm・短径30cmの焼土を確認する。焼土の厚さは，10～15cm前後であり，床面は，非常に硬くなっている。また，北側の角隅よりに，焼土が確認される。

遺物は，P1・P2を結んだ線上に多く検出され，壺形土器，壺形土器片，杯形土器片，器台形土器片などがある。

11号住居址（古墳時代）（第190図）

住居遺構は，A3e 4・A3e 5・A3f 2・A3f 5・A3g 5の小調査区に位置するものである。住居址は，溝（M1号）により，切断されている。

主軸方向は，N—95°—Wであり，長径4m10cm・短径3m50cmほどの，隅丸方形の平面形を呈し，南西コーナー部は，溝（M1号）の傾斜部に検出される。西側の溝より，炭化物が，堆積土の中に混入して検出され，東側の隅丸コーナー周辺よりは，堆積土に混じり焼土粒子，炭化物が検出された。

住居址覆土は，溝の周辺では，自然堆積3層よりなっている。北側の壁コーナーでは，傾斜をなした状態で床面から立ち上がり，壁高は，45～50cm前後を呈する。また，溝（M1号）の西側コーナーでは，M1号の傾斜部に垂直で，50cm前後立ち上がっている。壁溝は，確認されていない。ピットは，5個所ほど，確認できた。主柱穴としては，P1・P2・P3・P4であり，対角線上にある。P2は，直径45cm・深さ38cmであり，P4は，長径45cm・短形30cmの楕円形である。深さは，溝の傾斜面であるため20cmほどである。P1の溝（M1号）よりには，炭化物が黒色土に混じり検出された。また，P2の東側コーナーより，炭化物と混じり，木炭が検出される。

遺物は，溝（M1号）の東側の覆土より，全体にわたり，高杯形土器片，壺形土器，杯形土器などが，多量に検出された。貯蔵穴および，炉址などは確認されなかった。

12号住居址（縄文時代中期）（加曽利EⅠ式）（第191図）

この住居址は，A3i 8・A3i 9・A3j 8・A3j 9に位置する。5号住居址の床面下にかかっているので，5号住居址の発掘調査を実施したのち，発掘調査にかかる。また，この住居址は，溝（M3号）により，切断されている。

主軸方向は，N—20°—W，長径7m20cm・短径5mほどの楕円形の平面形を呈する。南東部の

コーナーは，西南部コーナーが，一部張り出しているが，発掘のおり掘りすぎた部分である。住居址内覆土は，自然堆積土の状態である。暗褐色土で，壁周辺部，および，床面は，褐色土層の堆積がみられる。また，溝（Ｍ３号）周辺では，褐色土がU字状にそって，溝（Ｍ３号）の底面まで続いている。

壁は，北西部のコーナーで垂直に近い。壁高は40cm前後であり，また，東南のコーナーの壁高は，20cm前後で垂直に近く，床面より立ち上がって，５号住居址の床面にいたる。また，東側コーナーは，壁高20～30cmである。西側溝（Ｍ３号）の西側は，20～30cmの壁高を呈する。壁下には，溝が周回している。壁溝は，20～30cmほどの幅を有し，深さは10～20cm（床面から）ほどである。

ピットは，12個所ほど確認されたが，主柱穴は，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ６・Ｐ３・Ｐ12・Ｐ９が考えられる。Ｐ１は直径50cmの円形であり，深さは，75cmである。Ｐ３は，楕円形で直径50cmあり，深さは，80cmである。Ｐ６は，溝（Ｍ３号）により，一部床面を削平されているが，ほぼ円形で，直径50cmを呈し，深さは，60cmある。Ｐ９は，長径68cm・短径60cmの楕円形を呈し，深さは，80cmほどである。Ｐ12は，長径50cm・短径45cmの楕円形を呈し，深さは，80cmほどである。また，壁面に接し，Ｐ４・Ｐ５・Ｐ７・Ｐ10・Ｐ11のピットが配置されている。Ｐ５は，長径75cm・短径65cmの楕円形で，階段状になり，底面になる。深さは，86cmである。住居遺構５号住居址のピットと，推定した。Ｐ７は，Ｐ６と隣接している。長径45cmの円形に近い平面形を呈す。深さは，60cmである。Ｐ10は，長径70cm・短径58cmの楕円形で，深さは，68cmを呈する。Ｐ11は，Ｐ５の東壁に接する。直径50cmで，ほぼ円形に近い状態であり，深さは，20cm前後で，壁下の溝により切断される。Ｐ12は，炉址である。溝（Ｍ３号）の位置より，約20cmほど内部に位置する。縄文土器の口縁部から頸部にかけての，甕形土器が埋め込まれていた。甕形土器の長径は30cmあり，内部には，炭化物が含まれていた。床面は，暗褐色の硬い床である。

13号住居址，17号住居址（古墳時代，縄文時代）

住居遺構は，Ｂ３ｆ ７・Ｂ３ｆ ８・Ｂ３ｇ ６・Ｂ３ｇ ７・Ｂ３ｇ ８の位置にある。北側は，住居遺構，14号住居址があり，農道となる。また，13・17号住居址の東側は，農道および敷地外になる。西側には，方墳１号の周溝があり，住居遺構を切断している。13号住居址および，17号住居址は，複合している。13号住居址を古墳時代の遺構，17号住居址を縄文時代の住居址とする。両住居址とも，東南に面した方は，敷地外のため，確認できない。

13号住居址（古墳時代）（第192～193図）

主軸方向は，Ｎ―38°―Ｗである。推定ではあるが，長径３ｍ50cm・短径３ｍ20cmであり，隅丸方形の平面形を呈するものである。壁は，西側の方墳１号の周溝の内側で南側に位置する個所に

より確認されるのみである。ここの壁高は，西側で25cm前後であり，南側で40cm前後ある。内部の覆土は，褐色土および，暗褐色土からなっていた。溝により切断され，溝の堆積土と異なっている。住居遺構内には，ピットがある。住居遺構と関連するものは，Ｐ７・Ｐ９・Ｐ11・Ｐ12であり，対角線上にあるので，主柱穴と判断する。Ｐ８・Ｐ10・Ｐ13については，住居址構とは関連性はないと判断する。

Ｐ７は，直径50cmで，深さ42cm。Ｐ９は，直径35cm，深さ20cm。Ｐ11は，直径57cm，深さ45cm。Ｐ12は，直径62cmで，深さ60cmである。また，Ｐ８は，直径32cm，深さ40cm前後。Ｐ９は，直径45cm，深さ31cm。Ｐ２は，貯蔵穴と判断され，直径１ｍ10cm・短径80cm・深さ72cmの平面形を呈する。

遺物は，Ｐ12の付近を中心として検出され，壺形土器片，杯形土器片などである。

17号住居址（縄文時代）（第192～193図）

17号住居址は，13号住居址と複合し，切り合っていることは前述した通りである。

主軸方向は，Ｎ―60°―Ｗであり，長径10m 04cm・短径６ｍ02cmで，長形の隅丸を呈している。北側の壁は，完全に露呈しているが，西側の壁面は，方墳１号の周溝により，破壊されている。また，南側は，13号住居址床面の下に位置するため，複雑になっている。東側は，前述した通り，敷地外になるため完掘はできない。

住居址内の覆土の堆積は，セクション図の示す通り，周溝部の一部セクション図に記入できない部分があるが，周溝部セクションベルトが交互するためである。

覆土内は，褐色土層であり，褐色土の中に，ローム粒子が混入しているが，しまっていた。堆積は，一部攪乱もみられたが，全般に渡って，自然堆積層と判断される。壁は，床面に対し，傾斜をなして，立ち上がっている。壁高は，場所により異なるが，北側は，平均60cm前後であり，南側は13号住居址の床面からで，35cm前後である。西側の壁面は不明である。

ピットは，11個所である。その内，この住居遺構に関連するもので主柱穴と思われるものは，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５であると判断する。Ｐ１は，不定形であるが，長径１ｍ40cm・短径60cm・深さ80cmであり，Ｐ２は，長径１ｍ10cm・短径76cmの楕円形である。深さは，75cmである。Ｐ３は，方墳１号の溝により切断され，周溝底と同じになってしまっているが，直径38cm位の円形である。Ｐ４は，直径90cmであり，深さは，65cmである。Ｐ６は，平面形で長方形を呈す。長径80cm・短径56cmである。また，Ｐ13は，長径48cm・深さ約20cmであり，底面には，礎石がある。Ｐ８は，直径72cmで，深さ40cmである。Ｐ12は，直径48cm前後で，深さ24cmで底面には礎石がある。

遺物は，北側の壁面に沿って，多量に検出した。完形土器は２個，その他は，½位のものや，

大形土器片などが口縁部から胴部にかけて検出された。遺物の検出された状況をみると，覆土に多く，床面にはあまりみられなかった。

床面は，全体的にしまりがあり，壁面下には，溝は検出されなかった。覆土内，および，床面は，縄文時代，古墳時代の遺構とは異なり，住居遺構の礎石と思われるものが検出されている。

14号住居址（古墳時代）

Ｂ３ｄ６・Ｂ３ｄ７・Ｂ３ｅ６・Ｂ３ｅ７・Ｂ３ｆ９の位置にある。北東側は，農道になっているため，発掘精発一部のみで終了した。

主軸方向は，Ｎ―27°―Ｗである。住居遺構の計測は，三角状に確認されているが，一辺の長さは，約10m 70cmある。全体としては，隅丸方形のプランと判断される。北側の壁面から南側に壁がみられ，一部壁が突き出ている。

壁高は，なだらかな傾斜をしている部分と，垂直に近い部分がある。壁の垂直になっている所では，40～50cmある。住居址内の覆土は，極暗褐色土,暗褐色土から,底面に至り，褐色土などで構成されている。床面は，平坦であり，しまっている。しかし，北西に位置する個所は，ロームの床面が盛り上がっている。また，土壙状のようになり，一段床面より低い部分を呈している。床床面には，ピットがある。ピットＰ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は計測してあるが，他のピットＰ６～Ｐ10は計測していない。Ｐ１～Ｐ５と同様と思われる。住居の主柱穴は不明である。

遺物は，縄文土器片が，17号住から入り込んでいる様子がうかがわれ，覆土内から多量に検出された。底面からは，少量の土師式土器片が検出されたにすぎない。

15号住居址（古墳時代）（第194図）

小調査区，Ｂ３ｃ６，Ｂ３ｃ７，Ｂ３ｄ６，Ｂ３ｄ７に位置する地点にて確認されたものである。北東の方向は，農道により調査を行うことはできなかった。

主軸方向は，Ｎ―23°―Ｗである。長径７ｍ40cm・短径７ｍ前後を有する隅丸方形の平面形を呈している。

遺構内覆土は，暗褐色土層，黒褐色土層，黒色土層からなり，また，一部の暗褐色土層より炭化物，および，焼土粒子が検出されている。

壁高は，東側のコーナーで，平均32cm前後あり，西側のコーナーで，30～15cm前後，南側のコーナーで，25～15cmを計測される。壁下に溝が一部検出している。溝の位置する個所は，東側のコーナー部，西側のコーナー部にみられる。東側のコーナー部は，壁下から内部に向かって伸びている。溝の幅は，平均25cm前後であり，深さは，15～20cmのものである。また，西側の壁内の溝は，住居址の角隅にて，壁面から離れているが，壁面の掘り過ぎである。溝の幅は，平均25cm

～30cmを計測する。深さは，15～25cm前後である。また，住居址内部には，楕円形を呈する溝がある。溝の幅は，15～30cmのもので深さは，10～20cm前後を計測するものである。

ピットは，７個所ある。その内，この住居址の主柱穴と思われるのは，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３などと，判断される。ピットの深さは，それぞれ異なるが，Ｐ１は，円形，直形60cm，床面からの深さは40cm。Ｐ２は，楕円形で長径85cm・短径55cm・深さ46cm。Ｐ３は，直径50cmの円形，深さ40cmである。Ｐ４はＰ３と接していて，直径35cm前後の不定形である。深さは，40cmを計測する。Ｐ５は，長径60cm・短径50cmの楕円形を呈する。深さは，35cmを計測する。他にＰ６・Ｐ７があり，Ｐ６は，円形で直径30cm・深さ20cm。Ｐ７は円形で直径45cm・深さ29cmを計測する。

床面は，平坦であり，ロームの床である。床面内部にある溝には，焼土，および，炭化物の混じった地点があり，また，Ｐ７の南測の壁，および，壁溝に炭化物，および，焼土が確認された。炭化物などを取り除いた結果，床面は，焼土となり，赤褐色土で硬い。

遺物は，覆土内から，縄文土器片が多く出土している。また，土師式土器片を床面に近い覆土から少量検出した。土師式土器片は，壺形土器の口縁部，胴部，杯形土器片，器台形土器片などが検出された。

16号住居址（古墳時代）（第195図）

住居址は，B3a6・B3a７・B3b6・B3b7 の小調査区より確認されたものである。東側は農道であり発掘調査作業はできなかった。この住居址の南に位置する15号住居址，西側に位置する18号住居址がある。本住居址には，土壙13号が切り込んでおり，また，住居址の北西側に，土壙15号が検出されている。

主軸方向は，Ｎ―40°―Ｗであり，長径５ｍ40cmである。農道の調査ができないため不明確であるが，隅丸方形の平面形を呈するものと判断した。壁は，なだらかな傾斜をなしている。北側壁高は，平均30cmであり，南側コーナーでは，30～35cm前後ある。また，西側のコーナーでは，30cm前後を呈する。

ピットは，３個所確認されている。Ｐ１は，直径24cmの円形で，深さ15cmである。Ｐ２は，直径30cmで円形を呈し，底部はやや西側によっている。深さは，28cmである。Ｐ３は，直径30cm，深さ32cmほどである。ピットの柱穴は，Ｐ１・Ｐ２であろうと判断する。

遺構の堆積土は，耕作土があり，その下に厚い黒色土が堆積しており，第３層として，暗褐色土となる。住居遺構は，この暗褐色土層より切り込まれている。床面までに，ローム粒子を含む暗褐色土，炭化物を含んだ暗褐色土などがあり，床面に至る。

遺物は，黒色土層に多く，縄文土器片が検出され，暗褐色の覆土内より，古墳時代の土師器片を検出する。

18号住居址（古墳時代）（第196図）

本址は,Ｂ３ｃ４，Ｂ３ｂ４,Ｃ３ｂ５の小調査区に位置する。北西には，円墳６号,東側に土壙，16号住居遺構，南側に方墳１号，周溝部に隣接する。

主軸方向，Ｎ―57°―Ｗである。長径６ｍ20cm×６ｍ20cmの隅丸方形を呈する。

遺構の覆土は，暗褐色土，黒褐色土，褐色土，黒色土の土層により構成され，一部には，焼土粒子，炭化物を含有している。床面から立ち上がる壁高は，北側で38cm前後あり，70°の傾斜を呈す。東側壁高は，30cmで傾斜は70°を呈す。西側壁高は，28cmで傾斜は，垂直に近い。南側壁高は40cmで傾斜は70°である。壁高の傾斜は平均している。壁面直下には，壁溝がある。壁溝は，幅20～35cm前後で，床面からの深さは20cm前後である。Ｐ１の南側コーナーにはみられない。

床面にはピットが，７個所検出されている。住居址の柱穴と思われるのは，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ６である。Ｐ１は，楕円形の平面形を呈し，長径64cm・短径40cmで，床面からの深さは，54cmである。Ｐ２は，円形を呈し，直径45cm・深さ40cmである。Ｐ３は不定形を呈し，直径78cm・短径50cm・深さ52cmである。Ｐ６は，円形を呈し，直径45cm・深さ52cmである。その他，Ｐ５・Ｐ７がある。Ｐ５は，直径45cm・深さ40cmの円形で，Ｐ７は直径50cm・深さ48cmである。Ｐ４は，貯蔵穴である。長径78cm・短径62cmであり，楕円形の平面形を呈する。深さは，32cmである。

床面は，全体的に平坦であり，張り床である。Ｐ３・Ｐ７の中間には，炉址がある。長径１ｍ12cm・短径57cmの，不定形を呈する。炉址の断面は，暗褐色の中に焼土粒子が含まれ，焼土塊があり，炉址床面は硬い。

19号住居址（古墳時代）（第197図）

この住居址は，Ａ３ｉ２・Ａ３ｉ３・Ａ３ｉ４・Ａ３ｊ２・Ａ３ｊ３・Ａ３ｊ４の小調査区より，確認されたものである。住居址は，北側に農道があり，また溝（Ｍ５号）により，切断されている。また，南側には，円墳６号の周溝部が接触している。

主軸方向は，Ｎ―48°―Ｗで，長径７ｍ60cm×７ｍ60cmの方形を呈する平面形をなしている。

住居内，覆土の堆積土をみると，暗褐色土，褐色土，黒色土，極暗褐色土などからなりたっている。また（Ｍ５号）の切断している状況を確認し，住居遺構との関連性をつかむことができた。

住居遺構の壁面を観察した結果，北側では，壁の傾斜角度は，70°度前後であり,南側では，傾斜角度は，85度前後である。また，東側の傾斜は，84度で，西側では，86度～88度の垂直になる壁である。壁高は，北側で64cm，南側で60cm，西側で55cm，東側で65cmである。周溝の幅は，25～８cmで，深さは，15cm前後である。床面には，炉址があり，長径１ｍ25cm・短径１ｍ05cmの楕円形の平面を呈する。炉址の断面をみると，炭化物粒子を多量に含んでいる。また，ロームが硬く焼かれていた。炉址の床面は，かたくなっている。Ｐ１・Ｐ６の北側にも，炭化物が散布して

いて，Ｐ６の真北には，粘土が，床面に接着している。この粘土は，当時のままの状態でおかれていると考えられる。Ｐ１は，長径１ｍ05cm・短径65cm・深さ50cmで，長方形の平面形を呈する。その他Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ６・Ｐ７の６個のピットが確認されている。その内，Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は，この住居址の主柱穴であると判断する。対角線上にある。Ｐ２は，長径85cm・短径75cmの楕円形で，深さは，床面より80cmである。Ｐ３は，溝（Ｍ５号）の床面に位置している。直径45cmで，深さは，溝底から80cmあり，やや内部に向かって，柱穴は，傾斜している。Ｐ４は，長径82cm・短径60cmの楕円形を呈する。深さは，50cmである。Ｐ５は，長径40cmの円形を呈する。深さは，溝（Ｍ６号）底部より，深さ30cmである。Ｐ６は，直径40cm・深さ15cm程であり，Ｐ７は，長径50cmで，深さ40cm程である。

遺物は，炉址の北側に位置する地点の覆土より検出される。壺形土器片，高杯形土器片，器台土器片などである。また，Ｐ６周辺よりも少量の土師片が検出されている。遺構覆土からは，縄文片が多量に検出されている。Ｐ６の内部からは，大形土器の完形品を検出する。

20号住居址（古墳時代）

この住居址は，Ａ２ｈ９・Ａ２ｈ０・Ａ２ｉ９・Ａ３ｉ０に，確認されたものである。住居は，円墳３号内に位置している。

主軸方向は，Ｎ―41°―Ｗであり，長径４ｍ80cm・短径４ｍ64cmの隅丸方形を呈するものである。

遺構は，表土下第一層から掘り込みが確認され，壁高は，20cm前後である。壁は，ゆるい傾斜をなしている。覆土は，暗褐色，黒褐色などにより，構成されている。床面は，平坦である。しかし，東北から，南側に位置するピット付近にかけて，やや床面が傾斜をおびている。ピットは，貯蔵穴と思われる地点であり，長径90cm・短径60cmである。深さは，25cm前後であった。床面の精査を実施したが，柱穴のピットらしき所は，確認できなかった。床面は，軟弱であり，壁をかろうじて検出したにすぎない状態である。南側に突き出した所は，掘りすぎによるものである。

遺物は，貯蔵穴と思われるＰ１の周辺覆土内に検出され，南側に位置する壁面から，壺形土器片を検出し，西側に位置する地点より，器台を検出することができた。

この住居址は，円墳３号と称する内部にあり，古墳時代の前期，五領期に併行する遺物を検出しているので，円墳３号の考察の重要な資料となる。

21号住居址（古墳時代）（第198図）

本址は，Ａ２ｉ５に位置する小調査区より確認される。

主軸方向は，Ｎ―50°―Ｗで，長径５ｍ44cmである。しかし，発掘調査外にあるため，一部のみ調査したにすぎない。住居址の覆土の上層には，耕作土，および，茶褐色土（焼土粒子を含む）

があり，これは，最近除草により，焼却した灰と混入したものである。植木が列をなしているため，攪乱している。床面は，ロームブロックを多量に含んでいる。

壁高は，約20cmあり，壁下には，壁溝が確認される。壁面幅は，80～40cmで，深さは，15cm前後である。壁の傾斜は，ややなだらかであり，床面は硬い。壁のもち上がりから，ピットが確認される。長径45cm・短径35cm・深さは，床面より37cmある。

遺物は，覆土より，少量の壺形土器片，高杯形土器片を検出する。

22・26号住居址（弥生時代，古墳時代）

Ｂ２g３・Ｂ２g４・Ｂ２h３・Ｂ２h４・Ｂ２h５・Ｂ２i３・Ｂ２i４の小調査区より，確認されたものである。発掘精査作業を進めることにより，住居址が複合していたことから，22号・26号住居址と名称をつけた。

22号住居址（弥生時代）（第199図）

この住居址は，主軸方向，Ｎ―33°―Ｗで，長径７ｍ60cm・短径６ｍの隅丸方形の平面形をなすと判断する。床面は，北側，東側，西側に残すのみで，26号住居址と切り合って，切断している。壁高は45cm前後であり，やや傾斜をなし，立ち上がっている。北側の床面より，弥生時代の壺形土器を検出することができた。また，焼土が確認された。床面は，ロームで硬い。

26号住居址（古墳時代）（第199図）

本址は，22号住居址を切断して造築された住居址である。

主軸方向は，Ｎ―40°―Ｗで，長径60m・短径58m前後の，方形の平面形を呈する。住居址の隅は，直角に近い。

住居址の覆土は，黒褐色土，暗褐色土，褐色土，明褐色土，茶褐色土などから構成されている。

壁面を観察すると北，東，西側は22号住居址の床面になっているため，26号住居址の壁面のもち上がりが，正確にとらえることができるのは，南側である。南側の床面から，50～60cmの壁高を呈し，傾斜は，70度～85度ほどである。北，東，西側の22号の床面と，26号住居址の床面の段差は，25～30cm前後である。段差のある傾斜は80度前後の壁面をなす。

床面には，Ｐ１～Ｐ４の主柱穴が対角線上に配置している。Ｐ１は，長径35cm・深さ90cm。Ｐ２は，長径38cm・深さ85cm。Ｐ３は，長径35cm・深さ85cm。Ｐ４は長径55cm・深さ94cmである。Ｐ５は貯蔵穴であり，長径85cm・短径62cm・深さ50cm前後の楕円形を呈する。

南側の壁面には，まじきりの状態で，底面に盛土が形成されている。幅は，35cmで高さは７cm～10cmのものである。貯蔵穴を取り囲む状態の盛土が東側で破壊されて，一部不明の３個所に

まじきられている。

西側の壁面の中央部から，南側に位置した所に，カマドがある。カマドは，大部分破壊されていたが，床面に近い所は，残存していたので，調査をした。その結果，カマドの幅は1m08cm，そ側の袖部は，長径82cm，先端部の幅は，20cm前後，南側の袖部の長さは，90cm，先端部は，23cm前後である。煙道部は，確認できなかった。燃焼部に，坩，および，壺形土器片が検出された。粘土は，褐色土の粘土に砂と，明褐色灰の土により，構成されたものであるが，砂が多く，くずれたと判断する。

遺物の出土状況は，覆土から，壺形土器片，坩形土器片，高杯形土器片，器台形土器片などを検出する。

23号住居址（古墳時代）（第200図）

本址は，B 1h0・B 2h1・B 2i0・B 2i1より確認される。北西側は，敷地外である。

主軸方向は，N—10°—Wであり，長径4m80cm・短径4m10cmの，隅丸方形を呈し，平面形である。

遺構内の覆土は，黒褐色土，極暗褐色土，暗褐色土，褐色土などから構成されている。床面に接する覆土からは，多量の炭化物，および，炭化粒子，焼土粒子が含まれていて，厚い層をなしているが，一部，木の根，栗の林の開墾により，土層が攪乱しているところもみられる。

壁の状況を観察すると，東西南北の壁面は，平均80度前後の傾斜をなしているが，南北の壁は，やや低い。壁高は，平均45cm前後である。床面は，平坦であるが，一部，凹状である。壁にそった溝は，検出されなかった。床面には，炉址があり，楕円形の平面形を呈す。炉址は，炭化物，および，焼土塊があり，炉址は，かたくしまっている。

ピットは，P 1～P 5の個所にある。P 1は，長径30cm・深さ45cm。P 2は，長径25cm・深さ44cm。P 3は，長径25cm・深さ32cm。P 4は，長径25cm・深さ60cm。P 5は，貯蔵穴で，長径15cm・短径10・深さ50cmである。このP 1～P 4が，柱穴であり，P 4は傾斜をなしている。

遺物の出土状況は全体にわたり，床面上の覆土より検出されている。また，主柱に利用したものが，木炭となり残存している。焼土，木炭が多量に検出されたことにより，火災にあったと思われる。

遺物は，多量に出土し，瓶式形土器片，壺形土器片，坩，高杯，杯などがみられる。貯蔵穴からは，壺形土器，坩形土器片が，底部を上にし，口縁部を貯蔵穴の床面に向けた状況で確認された。

24号住居址（古墳時代）（第201図）

この住居遺構は，Ｂ２ｄ５・Ｂ２ｄ６・Ｂ２ｅ５・Ｂ３ｅ６に位置する。小調査区から確認する。この住居址の西側には，25号住居址が壁面の一部を切断した状況で隣接している。

主軸方向は，Ｎ―15°―Ｗで，一辺の径４ｍ50cmで，隅丸方形の平面形を呈する。遺構の覆土は，一部攪乱されている。堆積土は，黒褐色土，暗褐色土，明褐色土より構成されている。壁の高さは，25cm前後である。床面は平坦であり，ピットがＰ１～Ｐ５の５個所にある。主柱穴と思われるのは，Ｐ１，径40cm・深さ50cm。Ｐ２，径30cm・深さ46cm。Ｐ３，径25cm・深さ53cm。Ｐ５，径35cm・深さ50cmのピットで，対角線上に並ぶ主柱穴と判断する。Ｐ４は，径27cm・深さ40cmのピットである。床面は，ほぼ平坦であり，中央部より，Ｐ１・Ｐ３の間には，炉址がある。炉址は，直径１ｍ50cm・短形１ｍ17cmの楕円形の平面形を呈する。炉址の上層部は，炭化物を含み，床面はかたく，赤褐色土になっている。

遺物は，高杯形土器片，壺形土器片が少量検出された。

25号住居址（古墳時代）（第202図）

本址はＢ２ｄ４・Ｂ２ｄ５・Ｂ２ｅ４・Ｂ２ｅ５に位置する小調査区より，確認されたものである。西側に円墳４号の周溝があり，その周溝を切り込んでいる。また，東側には24号住居址があり，24号の壁面に接し，壁を切断している。床面は，ほぼ同じ高さである。

主軸方向は，Ｎ―55.5°―Ｗであり，長径45m・短径36mの長方形の平面形を呈する。隅は丸みがなく角状になる。

住居址内の堆積土は，第１層の耕作土より掘り込みが確認される。壁高は30cm前後であり，壁は，垂直ぎみに立ち上りを呈している。床面は，ロームで硬く，ほぼ平坦である。ピットは，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３の３個所ある。Ｐ１は，直径30cm・深さ25cm。Ｐ２は，直径28cm・深さ45cmである。

これらのピットは住居址内に，一直線にある主柱穴である。壁とＰ１に接する地点にカマドがあり，そのカマドの南側に位置し，Ｐ３がある。これは，貯蔵穴である。貯蔵穴は，長径53cm・短径50cm・深さ76cmで方形を呈する。床面は，平坦であるが，もぐらの穴により破壊されている。

遺物は，非常に少なく，床面の覆土より確認されたものは，壺形土器片，杯形土器片などである。

《カマド》

カマドの位置は，南西のＰ１・Ｐ３に隣接した，住居址南西の壁にある。南西の壁中央より，やや南に位置し，切られたものである。発掘調査したカマドの状態は，壁面のローム面の高さと

同じであり，カマドの北側は，ややゆるい傾斜をなしていた。南には，貯蔵穴があり，急傾斜をなしている。カマドの調査にあたり，セクション図作成の準備を進めて，カマドの露呈作業に入る。カマドの規模は，壁面での幅１ｍ14cm，東袖の長さは68cm，西袖の長さは78cmである。東袖の幅は，先端部で60cm，西袖の幅の先端部は，65mである。カマドは，粘土と砂とを混合したもので，褐色の土である。支柱と思われるものはなかった。また，煙道部については，確認できなかった。

27号住居址（古墳時代）（第204図）

本址は，Ｂ２ａ８・Ｂ２ａ９・Ｂ２ｂ８・Ｂ２ｂ９に位置する。北側は円墳３号の周溝部があり，土壙４号が東側，土壙６号が西側に隣接している。

主軸方向は，Ｎ―38°―Ｅで，長径４ｍ90cm・短径４ｍ40cmの隅丸方形である。壁高は，６～10cm前後であり，一部は確認するのが非常に困難な状況であった。発掘精査の結果，ピットを検出する。

柱穴と思われるＰ１は，直径40cm・深さ20cm。Ｐ２は，直径40cm・深さ20cm。Ｐ３は，直径40cm・深さ30cm。Ｐ４は，直径40cm・深さ28cmである。これらのピットは，それぞれ，壁面よりにある。Ｐ２に隣接して，楕円形の平面形を呈するＰ５の貯蔵穴がある。長径65cm・短径45cm・深さ25cmである。

住居覆土は，２層にて暗褐色，橙色などにより，構成されている。

遺物は，貯蔵穴から少量，土師片を検出（壺形土器片，杯形土器片）などである。耕作土の下にロームがある状態で，住居遺構は耕作のおり破壊されたと考えられる。

28号住居址（古墳時代）（第203図）

住居址は，敷地内，Ａ２ｉ４・Ａ２ｊ４付近に位置し，一部のみで，住居址の大半が敷地外に出ていることが判明し調査の結果，少量遺物，高杯形土器片，壺形土器片を検出した。セクション図より，住居址内の土層は，自然堆積したことが認められる。一部植木により攪乱している所もある。壁高は，18cm前後であり，やや，傾斜をなす。壁下の床面には，溝は検出されない。床面は軟弱であり，張り床ではない。ピットなど，柱穴と思われるものは，確認できなかった。

主軸方向は，Ｎ―55°―Ｗをなし，隅丸方形のプランであると判断する。

29号住居址（弥生時代）

本址は，Ｂ３ｅ１・Ｂ３ｅ２・Ｂ３ｅ３・Ｂ３ｆ１・Ｂ３ｆ２の小調査区より確認されたものである。この住居址は，北から西側にかけては敷地外になる。円墳４号の周溝内部に位置し，東側は一部円

墳４号の主体部により切断され，北側には，土壙８号が隣接している。

主軸方向は，Ｎ―60°―Ｅで，長径５ｍ40cm・短径４ｍであり，隅丸方形の平面形を呈する。壁面は，円墳４号墳の主体部により，東側壁を一部破壊され，また，南側の壁は，周溝により変化をしている。壁高は，北側で20cm，南側で24cm，西側で15cm，東側で15cm前後を示す。壁の立ち上がりはややゆるい傾斜である。床面は平坦である。

遺構内の堆積は，表土（耕作土）Ⅱ層より，切り込まれている。暗褐色土，黒褐色土，褐色土，橙色土などにより構成されている。

床面には，Ｐ１～Ｐ５のピットがある。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は，柱穴であり対角線上にある。Ｐ１は，直径25cm・深さ55cm。Ｐ２は，直径45cm・深さ60cm。Ｐ３は，直径34cm・深さ56cmである。Ｐ４は，直径40cm・深さ48cmである。

Ｐ１・Ｐ４の北側には，ピットがあり，その上には，炭化物が検出された。これには，藁，木炭などが検出され，ピット内部までつまっていた。これは，最近焼却した場所と考えられる。４本の主柱穴の中心部には，炉址がある。炉址には，普通石などが置かれている例が多いが，この場所では，確認できなかった。炉址の長径は，68cm，短径は，40cmの楕円形の平面形を呈している。炉址の上層部には，炭化物などの多く含んだ黒褐色土があり，その下層には，赤褐色土の焼土がある。床面は，焼土であり，かたかった。

遺物は，覆土，および，Ｐ４の北側から南側にかけて，検出された。壺形土器片等口縁部から，頸部にかけてのものを中心にして，少量検出されたにすぎない。

30号住居址（古墳時代）（第205図）

本址は，Ｂ２ｇ５・Ｂ２ｇ６・Ｂ２ｇ７・Ｂ２ｈ５・Ｂ２ｈ６の小調査区より確認する。住居址は，溝(Ｍ５号)により切り込まれている。また，南から北側へ向かって小溝がある。東側は方墳２号の周溝部がかかっている。西側には，22号住居址，26号住居址が位置している。

主軸方向は，Ｎ―40°―Ｗで，長径５ｍ30cm・短径５ｍ20cmの隅丸方形の平面形を呈する。堆積土は，耕作土を取り除いた。第２層土より切り込まれ，黒褐色土,褐色土,極暗褐色土などで形成している。

壁高は，10cm前後である。壁の傾斜はなだらかである。床面は，平坦である。溝（Ｍ５号），が横断し，住居の中央部にある。Ｐ１は，住居址の柱と思われるが，やや壁よりである。直径40cm・深さ48cmで，Ｐ１の南側に焼土がある。厚さは，10cm前後であり，また，小溝の南側にも焼土があり，長径１ｍ30cm・短径50cm前後である。厚さは10cm前後であり，暗褐色の中に焼土粒子，および，炭化物を含有している。下層部は，黒褐色になっている。非常にかたい床面は，焼土で，ロームがやけている。

遺物は，壺形土器片を少量覆土より，確認する。完形品の土器は，溝（Ｍ５号）の立ち上がり部分の暗褐色土より，検出した。

31号住居址（古墳時代）（第206図）

本址は，Ｂ２i６・Ｂ２i７・Ｂ２j６・Ｂ２j７の小調査区より確認する。住居址の北側には，30号住居址があり，北西か西南に向かって，溝（Ｍ５号）が走る。北西に位置し，複合住居址，22・26号が位置する。

主軸方向N —68.5°—W，長径５ｍ20cm・短形５ｍ10cmの方形の平面形を呈する。覆土は，第２層から切り込まれている。黒褐色土,極暗褐色土,暗褐色土などから構成されている。

壁高は，北側で40cm前後，南側35～40cm前後，西側で50cm前後，東側35～45cm前後を呈する。壁面は，内反，または，外反している所もみられる。壁の立ち上がりの傾斜は，70～85度前後を呈する。壁高の下には，溝のようにやや低くなり廻わっている。

床面は，全体的に平坦である。柱穴が対角線上に企画されている。Ｐ１は，直径40cm・深さ38cm。Ｐ２は，直径30cm・深さ50cm。Ｐ３は，直径34cm・深さ60cm。Ｐ４は，直径35cm・深さ40cm。住居址の南側の隅に貯蔵穴がある。貯蔵穴は，直径68cmの円形の平面形を呈す。深さは65cmである。貯蔵穴の床面は平坦であり，住居址の床面まで80度前後の傾斜で立ち上がっている。

遺物の出土状況は，床面から２層前後の覆土内全体に，遺物が散乱している。特にＰ１付近，Ｐ２付近がもっとも出土している。壺形土器片，杯形土器片，高杯形土器片などである。

《カマド》

Ｐ２・Ｐ３の東側の壁面にカマドがある。

カマドは，壁面を切り込まずに内部に造られたものである。カマドの壁面に接した所の上幅は，２ｍ70cmあり，床面の粘土の盛り上がるすそまでで，約３ｍ30cmになる。精査の結果，北側の袖部の長さは，１ｍ50cm。南側の袖部の長さは，約１ｍ60cm前後である。焚口部は，幅30cm前後あり，焚口部の長さは，約40cm前後と考えられる。燃焼部と焚口部の接点には，自然石の18cm前後の細長い石が，たてに埋込まれて赤褐色土になっている。燃焼部の中から坩形土器片が検出されている。煙道部については不明であったが，壁面に接し一段高くなって残存する粘土の塊りがある。これが，煙道部と関連するものと判断したい。粘土は，褐色土と砂と灰褐色土の粘土が混入したものである。

32号住居址（古墳時代）

本址はＢ２f８・Ｂ２f９・Ｂ２g８・Ｂ２g９に位置する小調査区より確認する。方墳１号内の

主体部と複合しあっている。

主軸方向は，N—35°—Eで，長径3m60cm・短形3m08cmの隅丸方形の平面形を呈する。

壁高は，20cm前後である。壁面の直下には壁溝があり，壁溝の幅は，平均20cm前後である。

床面は，方墳1号の主体部に位置するため，平坦な部分は一部にすぎず，主体部の掘り込みの立ち上がりの残存部分から，主体部の底面に向い傾斜をなしている。主体部の北側には，平坦な床面から主柱穴がある。直径40cm・深さ30cm前後であり，P2・P3は，主体部傾斜面に位置し，30～40cmの直径で，深さ30cm前後を呈する。

住居址と主体部の関係であるが，主体部が前時期に造られ，住居址が後の時期に造られたと判断する。住居址の覆土は，表土（耕作土）より切り込まれ，黒褐色土，暗褐色土，極暗褐色土，褐色土などにより構成されている。

遺物は，P1・P2の主柱穴がある，北側の平坦な床面より多量に検出する。遺物の出ている土層は，表面（耕作土）との接点する第2層（1層）部より床面の土層までつらなる。

しかし，主体部によるにしたがい，遺物は少ない。主体部，覆土内上層部よりヤリカンナが検出される。これは，32号住居址のものと判断する。方墳2号と主体部の関係については，後述したい。

33号住居址（第207図）

本址は，B3e9・B3e0・B3f9・B3f0の小調査区より確認する。住居址の南側には方墳2号，北側には37号住居址があり，東側には方墳1号の周溝部が位置する。住居址の北側は溝（M5号）があり，一部壁面が破壊している。また，方墳2号の周溝部が住居址の南を切断する。土壙14号が東側にあり，住居址の壁面を切っている。

主軸方向は，N—28°—Eで，長径7m80cm・短径7m40cmの隅丸方形の平面形を呈する。遺構内の覆土は，暗褐色土，黒褐色土などから構成されている。

床面は平坦でロームが硬い。床面にはP1・P3の主柱穴があり，P1は長径9cmで傾斜をなしている。深さは90cmである。P2は，方墳2号の周溝部の内部に位置し，長径1m20cm前後を呈していて，深さは95cmで内部に向かって垂直をなしている。P3・P4も同様である。P4の北側には，焼土があり，炭化物が含まれていてやわらかい。その他ピットP5・P6・P7・P8もある。中央部には炉址があり，炭化物，および，焼土塊が堆積している。非常にやわらかい近年焼却したものの残存である。

壁面B地区は垂直になり壁部北側は，壁高40cm前後，南側では30cm前後。西側の壁高は35cm前後で東側でも同様であった。

遺物の出土状況をみると，完形品の遺物は確認されず，壺形土器片，杯形土器片，高杯形土器片器台形土器片が散布していた。覆土内からは，縄文式土器片，弥生式土器片を検出する。

35号住居址（古墳時代）（第208図）

本址は，Ｂ２ａ５・Ｂ２ａ６・Ｂ２ｂ５・Ｂ２ｂ６の小調査区に位置する。北側には21号住居址があり，東・西・南・北には，ピット群，土壙などが点存する。

主軸方向は，Ｎ―75°―Ｗであり，長径４ｍ10cm・短径３ｍ50cmの隅丸方形の平面形を呈する。住居址内覆土は，褐色土，明褐色土などから構成されている。壁高は，８cm前後である。壁傾斜はゆるく，壁の掘り込み面から床面までの深さは８cm前後である。床面の中央部には不整形のピットがある。これは，木の根による攪乱で床面を破壊する。床面には，ピットが４か所検出されているが，住居址の主柱穴と思われるのは，Ｐ１・Ｐ２であり，他の２個は，住居址には関係ないものと判断される。ピットＰ１・Ｐ２では直径40cm・深さ35～40cm前後のものである。Ｐ３・Ｐ４は，長径40cm・深さ20cm前後である。

遺物は，壺形土器片，器台土器片を少量検出したにすぎない。

36号住居址（古墳時代）（第209図）

本址は，Ｂ２ｄ８・Ｂ２ｄ９・Ｂ２ｃ８の小調査区より確認する。本址は溝（Ｍ５号）により東側は切り込まれる。溝（Ｍ５号）の南には33号住居址が位置し，北側には土壙４号が位置する。当初，遺構の確認は困難であったが，溝（Ｍ５号）の発掘調査のおり傾斜面に落ち込みがみられ，ロームの色土と異なることに気付き発掘調査した結果，住居址であることが判明した。

主軸方向は，Ｎ―１°―Ｅであり，長径４ｍ50cm前後・短径４ｍの隅丸方形の平面形を呈するものと思われる。

住居址内の覆土は，暗褐色土，褐色土により構成されている。壁高は，18～20cm前後を呈する。壁面の傾斜は，西側のコーナーで垂直に近いが，北側・南側ではややゆるい傾斜をなす。

床面は，全体的に平坦であり，ロームで硬い。床面には，ピットが５個確認できた。Ｐ１は，長径55cm・短径50cm・深さ34cm。Ｐ２は長径45cm・短径40cm・深さ42cm。Ｐ３は長径60cm・短径40cm・深さ50cm。Ｐ４・Ｐ５の位置は，住居址の柱穴と判断しかねる。

遺物は，土師式土器片，壺形土器片，杯形土器片などを検出する。また，縄文式土器片を少量検出する。

37号住居址（弥生時代）（第210図）

本址はＢ２ｄ９・Ｂ２ｄ０・Ｂ３ｄ１・Ｂ２ｅ９・Ｂ２ｄ０・Ｂ３ｅ１内の小調査区より確認される。

この住居址は，南側方墳１号の周溝により切断され，また，33号住居址により切断されている。

主軸方向は，Ｎ－４°－Ｅで，長径５ｍ60cm・短径４ｍ80cmの隅丸方形の平面形を呈するものと判断される。

住居址内の覆土は，黒褐色土，暗褐色土，明褐色土，および，焼土粒子，ロームブロックなどを含有している褐色土などから，構成されている。住居址の壁面は，北側のコーナー部と南側に残存している。北側コーナーの壁高は，28cm前後で，南側壁高は12cm前後である。

床面は平坦であり，ロームで硬い部分が残存するが，ほとんど破壊されている。床面はピットが８か所確認された。主柱穴と思われるのは，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３であり，直径35～55cm・深さ40～55cm前後である。Ｐ４・Ｐ５・Ｐ６・Ｐ７については不明である。床面の中央部に位置するのは，炉址である。炉址は，焼土塊を主体とした土層であり，黒褐色土，褐色土，暗褐色土などで構成されている。厚さは20～25cm前後であり炉址の床面は，焼土で硬くしまりきっている。

遺物は，覆土内より壺形土器の口縁部，および，胴部の破片を検出した。また，古墳時代前期の壺形土器が検出された。

38号住居址（古墳時代）

本址は，Ｃ３ｄ５の小調査区より確認する。東側は敷地外であり，北西には39号住居址，南西には50号住居址が位置する。住居址の壁高は30cm，床面は平坦で，ロームの硬い床である。

遺物としては，壺形土器片，杯形土器片を検出した。

39号住居址（古墳時代）（第211図）

本址は，Ｃ３ａ５・Ｃ３ａ６・Ｃ３ｂ５・Ｃ３ｂ６の小調査区より確認する。北側には，方墳１号の周溝が隣接し，南側には38号住居址がある。

主軸方向は，Ｎ－34°－Ｅの住居址とＮ－50°－Ｅの住居址の複合である。最初に造られた住居址は，長径４ｍ70cm・短径４ｍ45cmの隅丸方形の平面形を呈するものであり，その住居址を切断し新しく造られた住居址が，長径３ｍ85cm・短径２ｍ80cmで方形の平面形を呈する住居址である。最初に造られた住居址の壁は，北側から北東にかけて壁面が残存している。この残存した壁面の壁高は床面から25～35cm前後である。新しく造られた住居址の壁は，南西から南側にかけて，床面からの壁高は，30～55cm前後である。南側には壁高があり壁の幅は30cm・深さ８cm前後である。最初に造られた住居址の床面は新しく造られた床面により切断されているが，床面の残存する部分は北側，北東の壁に向かってスロープ状にやや傾斜をなす。新しく造られた床面は平坦である。

床面状況であるが，新，旧の住居址には11個のピットがある。その内最初の住居址の柱穴と思われるのは，Ｐ１・Ｐ２であり，残り２個は，確認されていない。Ｐ１は，長径48cmで深さ65cm。

Ｐ２は，長径52cm・深さ24cmである。（新しい住居址床面から)。Ｐ５・Ｐ６・Ｐ７のピットについては柱穴とは異なる。新しく造られた住居址は，２本の主柱でささえられた住居址である。その柱穴は，Ｐ３・Ｐ４である。Ｐ３・Ｐ４は，直径30cm・深さ60cm前後であり，床面は平坦である。その他にＰ８・Ｐ９・Ｐ10のピットがあるが不明である。Ｐ11は，新しく造られた住居址の貯蔵穴である。貯蔵穴は，長径65cm・短径60cmで楕円形を呈する。深さは40cmで壁はややゆるい傾斜斜をなし底面は平坦になる。住居址の南西の壁に面し，カマドと思われるものがあるが，砂塊と判断を下した。カマドの性格がないのに疑問をもつが，建設途中で廃棄したものとする。

住居址の覆土は，黒色土，黒褐色土，暗褐色土，褐色土，明褐色土から構成される。その中に焼土粒子，および，木炭などが含まれている。

遺物は，新しく造られた住居址には少なく，山砂塊のある地点から壺形土器片を検出し，Ｐ９の付近からは，高杯形土器片，坩形土器を検出する。また，古い住居址の北西から北東にかけて覆土内より，長頸形壺，壺形土器片，杯形土器片，高杯形土器片，器台形土器片を検出した。新しい住居址を造る時に古い住居址へ，土器片を動かしたと考えられる。両住居址の覆土からは，木炭なども多量に検出された。

40号住居址（古墳時代）（第212図）

本址はＣ３ｅ１・Ｃ３ｅ２・Ｃ３ｅ３・Ｃ３ｆ１・Ｃ３ｆ２・Ｃ３ｆ３・Ｃ３ｇ２の小調査区より確認する。住居址の西側隣接地には，円墳５号の周溝がある。また，住居址の南西部の壁を切断した土壙20号があり，41号住居址が隣接している。東側は敷地外となり壁高は検出されない。

主軸方向は，Ｎ―16°―Ｅであり，長径５ｍ40cm・短径４ｍ40cmで方形の平面形を呈する。住居址の壁高は平均44cmで床面からの壁の立ち上がりは，ややゆるやかな傾斜をなす。壁の直下には壁溝がある。壁溝の幅は30～45cm前後で，深さは床面から15～20cm位である。

住居址の堆積土は黒色土，黒褐色土，暗褐色土，褐色土などにより構成される。床面には，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４の主柱穴が確認される。Ｐ１は直径30cm・深さ60cm。Ｐ２は直径30cm・深さ60cm。Ｐ３は直径40cm・深さ65cm。Ｐ４は直径35cm・深さ50cmである。南側の壁面に位置しＰ６がある。Ｐ６の周辺には壁溝と盛土した粘土と東南からの壁溝がＰ６の北側に入りこんでいる。盛土と溝は，Ｐ６を囲む。これは，貯蔵穴を間仕切りの働きをしていると思われる。Ｐ５は，長径１ｍ07cm・短径90cmで，深さ40cmで，床面は平坦になっている。楕円形を呈する平面形で貯蔵穴と同様のものであるが断定できない。住居址の西側壁中央部よりに山砂の多く含まれた粘土がある。カマドが破壊されたものかは断定できない。

遺物の出土状況であるが，Ｐ６の貯蔵穴の北側。Ｐ４の柱穴を中心として覆土内に散布していた。壺形土器片，杯形土器片，器台形土器片，高杯形土器片などである。

41号住居址（弥生時代）（第213図）

本址は，Ｃ２ｆ０・Ｃ２ｆ１・Ｃ３ｆ２・Ｃ２ｇ９・Ｃ２ｇ０・Ｃ３ｇ１の小調査区より確認される。西側には円墳５号の周溝があり，住居址の壁，床面を切断し，北東側には土壙20号が壁，および，床面を切り込んでいる。

主軸方向は，Ｎ―74°―Ｅで，長径４ｍ95cm・短径４ｍ40cmの隅丸方形の平面形を呈している。

住居址の覆土は，自然堆積であり，黒褐色土，黒色土，暗褐色土などから構成されている。住居址の壁面は，ゆるい傾斜をなす。壁高は10cm前後であり，床面は平坦でやや硬いロームで構成される。しかし，西側は円墳５号の周溝部に向かって傾斜をなす。また，北東の土壙20号により切断される。床面には，ピットが４か所ある。Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴として，対角線上にあるが，Ｐ１はややづれている。ピットの直径は40cmで，深さ40cm前後である。

住居址の中央部には炉址がある。炉址は，長径１ｍ05cm・短径95cm前後で炉址の中央部に石が置かれている。炉址は暗褐色で，焼土粒子，および，焼けたロームなどで構成され，床面は硬くしまっている。

出土遺物は，弥生式土器，壺形土器の破片を少量検出し，また，古墳時代の土器片など少量検出したにすぎない。

42号住居址（古墳時代）（第214図）

本址は，Ｃ２ｂ９・Ｃ２ｂ０・Ｃ２ｃ０の小調査区より確認する。この住居址は，円墳５号の周溝により切り込まれている。北側には土壙17号があり，また，南側には土壙25号が位置している。

主軸方向は，Ｎ―16°―Ｅで，長径４ｍ60cm・短径３ｍ60cmの方形の平面形を呈する。住居址の覆土は，黒褐色土，黒色土，暗褐色土などで堆積し構成されている。

壁高は，北側で20cm，南側で15cm，西側で20cm，東側で20cm前後を測る。北，南，西の壁はややゆるい傾斜で床面から立ち上がっているが，東側は垂直に近い状態である。

床面は，周溝が南東から北西へ斜めに切り込んでいて，平坦な部分は北東と西南のみである。床面は平坦であり床面のしまりはやや硬い。

住居址の主柱穴は，２個所確認できた。Ｐ１は，直径32cm・深さ30cm。Ｐ２は，長径55cm・短径38cm・深さ40cmである。

出土遺物は，壺形土器片，杯形土器片，高杯形土器片などを少量検出する。

43号住居址（弥生時代）（第215図）

本址は，C2a6・C2a7・ C2b6 ・C2b7 の小調査区より確認する。住居址の東側には土壙21号が位置する。南側は，円墳５号の周溝部により，切り込まれている。住居址中央部には南北に溝が

切り込んでいる。

主軸方向は，N—60°—Eで長径5m40cm・短径4m60cmの隅丸方形の平面形を呈する。

住居址内の覆土は，極暗褐色土，褐色土などで構成されているが，南北の溝の土層があり，覆土に変化を与えている。住居址の壁面の立ち上がりは，ややゆるい傾斜をなし，床面より立ち上がっている。壁の高さは30cm前後である。

床面は平坦なロームの床で硬い。床面にあるピットP1・P2は，住居址の柱穴と思われるが，住居址の構成としては，北側の床面，および，南側の円墳5号の周溝部より検出されなかったことが残念である。P1の長径は40cm・深さ60cm。P2の長径60cm・短径45cm・深さ55cmを呈する。その他にP3がある。P3は長径60cm・短径35cm・深さ25cmである。中央部南北に溝が走り，この溝は，円墳5号の周溝部を切り込んでいる。住居址内の床面の溝の幅は60cm前後あり，深さ50cm前後である。溝の底部は平坦になる。この溝の成立期，使用目的については不明である。

床面P3の北側に炉址が位置する。 炉址には自然石が置かれている。炉址の断面をみると，暗褐色土，褐色土により構成されるが，その土層には焼土粒子，焼土のブロックなどが混入している。床面は焼かれてしまっていた。

遺物は，弥生時代の壺形土器片を少量検出した。また，土師式土器片，縄文土器なども検出した。

44号住居址（弥生時代）（第216図）

本址は，C2e7・C2c8・C2f8の小調査区より確認する。住居址の北側には51号住居址が位置し，南側には溝（M6号）が隣接する。また，住居址は円墳5号の内部に位置する。

主軸方向は，N—32°—Eで長径5m40cm・短径4m40cmの隅丸方形の平面形を呈する。住居址の覆土は，黒褐色土，暗褐色土，極暗褐色土，明褐色土，褐色土などにより構成される。

壁面は，垂直の部分もあるが，緩傾斜をなしている。壁高は25cm前後である。

床面は，平坦でロームの面は硬い。床面のP1～P4は住居遺構の主柱穴であり，直径36～40cmの雲母片岩が置かれている。炉址の堆積土は，褐色土，暗褐色土，明褐色土であり，焼土粒子，焼土塊などが含まれる。炉址の床面は，火熱を受けて非常に硬い。

遺物は，弥生式土器片，および，土師式土器片を少量検出する。弥生の土器片は壺形土器片，底部，頸部などである。また有孔円盤を検出する。

45（a・b）号住居址

本址は，C2g7・C2g8・C2g9・C2h7・C2h8・C2h9の小調査区より確認されたものである。本址（a)の北東部に位置し円墳5号の主体部が住居遺構を切り込んでいる。南西に

は溝（Ｍ６号）が住居址の床面，壁面を切り込む。また，南側は円墳５号の周溝部により住居址の壁面，および，床面を切り込み，溝（Ｍ６号）に周溝も切断されている。

溝（Ｍ６号）の南側には，45（b）号住居址がある。この住居址（b）の北側は円墳５号の周溝により壁面，床面を切り込んでいる。また溝（Ｍ６号）により東側は切断されている。

本址（a）の主軸方向は，Ｎ—30°—Ｅであり，長径４ｍ50cm前後・短形３ｍ70cm前後であると考えられる。

本址（b）の主軸方向は，Ｎ—65°—Ｅであり，長径４ｍ50cm前後・短径３ｍ80cm前後と考えられる。

本址（a)のセクション図では，円墳５号の主体部，住居址，溝（Ｍ６号），円墳５号の周溝と堆積土の変化がみられる溝（Ｍ６号),住居址，古墳の成立期を検討することができる。

本址（a・b）は，溝（Ｍ６号），円墳５号の成立前のものであり，床面の堆積は，主体部，および，溝（Ｍ６号）により切り込まれ一部残存しているのみである。堆積土は，褐色土，暗褐色土により構成されている。

壁面の立ち上がりは，ややゆるい傾斜をなしている。壁高は18～25cm前後であり，床面は平坦であり，主柱穴と思われるピットなどは検出することはできなかった。

遺物は，土師式土器の壺形土器片，杯形土器片，高杯形土器片などを検出する。

本址（b）は，北側から東側の壁面を破壊したことは前述の通りである。住居址内の覆土は褐色土，暗褐色土などにより構成されていた。壁面の立ち上がりは，ややゆるい傾斜をなす。壁高は30～40cmを示す。床面は平坦でありロームで硬くしまっている。床面にはピットが３か所検出され，Ｐ１は長径１ｍ35cm・短径75cm・深さ55cmで長楕円形を呈する貯蔵穴である。遺物は検出されなかった。Ｐ２・Ｐ５については不明であるが，Ｐ４は主柱穴と思われる。また，溝（Ｍ６号）の傾斜に検出したＰ３は主柱穴と判断される。

遺物は，住居址（a）と同様である。

46号住居址（古墳時代）（第218図）

本址はＢ２ｊ４・Ｂ２ｊ５・Ｂ２ｊ６・Ｃ２ａ４・Ｃ２ａ５・Ｃ２ａ6の小調査区より確認する。この住居址の北側は，溝（Ｍ５号)により切り込まれている。また,東側には,土壙23号が壁,床面を切り込んで位置している。住居址の西側に隣接して，57号住居址の南側には56号住居址が隣接する。

主軸方向は，Ｎ—70°—Ｗで長径８ｍ60cm・短径６ｍ70cmの方形の平面形を呈する。南東のコーナーに，一部張り出している個所がある。

住居址内の覆土は，黒褐色土，暗褐色土，褐色土，橙土などにより構成されている。住居址と土壙とのセクション図を見ると，土壙が後世に造られたことが確認できる。

壁は，緩傾斜をなしていて，壁高は40cm前後である。床面は平坦でロームは硬い。

床面には４個のピットが確認され，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３は住居址の主柱穴と判断される。Ｐ１は，直径50cm・深さ60cm。Ｐ２は直径48cm・深さ60cm。Ｐ３は直径35cm・深さ75cmである。Ｐ４は直径30cm・深さ25cmであり主柱穴とは違う。Ｐ２の南側に位置しＰ５がある。貯蔵穴で直径80cmの円形を呈し，深さ70cmであり，床面までの立ち上がりは，70度～80度の傾斜をなす。Ｐ２・Ｐ３の間で南側の壁面に盛土がある。セクション図より判断すれば，褐色土，暗褐色土，暗赤褐色土，赤褐色土などより構成されている。これらの土層には，焼土塊，焼土粒子などが含まれ，また，土器なども検出されているのでカマドと判断したい。

盛土は，長径１ｍ50cmで，幅１ｍ10cm前後である。壁面から床面にゆるい傾斜をなす。東側コーナーの張り出している部分は，土壙20号の南側に位置する土壙であり階段状になっている。用途，時期は不明である。

出土遺物は，覆土より壺形土器片，高杯形土器片などを検出した。特に出土した地点はＰ３の周辺，カマドの付近，Ｐ５の貯蔵穴付近である。

47号住居址（古墳時代）（第219図）

本址は，Ｃ２ｆ５の小調査区より確認する。

北側から南側にかけ，溝（Ｍ６号）により切り込まれ，また，円墳５号の周溝により掘り込まれ一部残存するのみである。北側の一部の壁と南側の壁が残っているが，ゆるい傾斜をなし床面に至る。壁高は約６～10cm前後である。

遺物は壺形土器片，杯形土器片，高杯形土器片，器台形土器を覆土より検出する。

床面は，ロームの硬い所が一部残すのみであった。

48・49号住居址（第220図）

本址は，Ｂ３ｊ６・Ｃ３ａ６の小調査区より確認する。

東側は敷地外となる。北側には方墳１号の周溝が隣接し，それぞれの住居址，覆土内からは土師式土器，壺形土器片，高杯形土器片などを少量検出する。

壁高は20cm前後でどちらの住居址もゆるい傾斜をなしている。床面はロームで硬い。

50号

50号住居址（古墳時代）（第221図）

本址は，Ｃ３ｃ３・Ｃ３ｃ４・Ｃ３ｄ３・Ｃ３ｄ４・Ｃ３ｅ３の小調査区より確認する。住居址の東側は畑地で敷地外になる。また，北東部には，住居址38号・39号が隣接する。

主軸方向は，Ｎ―20°―Ｅ，長径５ｍ70cmで，短径５ｍ60cm前後である。隅丸方形の平面形を呈

する。

住居址内の覆土は，褐色土，明褐色土，暗褐色土，黒褐色土などで構成されている。

住居址の掘り込みから,床面までの壁高は,20～30cm前後である。壁の立ち上がりは，ややゆるい傾斜をなしている。

床面には，大小５個のピットがある。Ｐ１・Ｐ２は，住居址の主柱穴と思われる。Ｐ１は，直径30cm・深さ45cm。Ｐ２は，長径25cm・深さ70cmである。Ｐ３は，Ｐ１・Ｐ２より浅く，直径47cm・深さ25cmであり，柱穴とは異なる。

Ｐ１の北側に位置するＰ５は，長径２ｍ・短径90cm・深さ32cmの長楕円形を呈する。覆土の中からは，多量の焼土，および，炭化物が含まれていた。Ｐ４の床面からの切り込みは，ゆるい傾斜をなし，床面は，平坦である。Ｐ２の北東部の壁面側に位置するＰ４は，長径１ｍ02cm・短径95cmの，楕円形を呈し，深さは45cmである。覆土の中からは，多量の焼土，および，炭化物が含まれてる堆積を示していた。Ｐ２の両側の敷地外に沿って，焼土層が帯状に確認される。また，中央部の敷地外よりに点在していた。床面のＰ４・Ｐ５に集中し，焼土，炭化物を検出していることは，住居址の火災により，廃屋化したのち，二次的変化があり，堆積したと考えられる。

遺物は，Ｐ３・Ｐ４の間の壁面より集中して検出された。遺物は主に，壺形土器片，杯形土器片，高杯形土器片などで，床面に近い，覆土内で検出された。

51号住居址（古墳時代）（第222図）

本址は，Ｃ２ｃ５・Ｃ２ｃ６・Ｃ２ｄ５・Ｃ２ｄ６の小調査区より，確認する。

住居址の西側には，円墳５号の溝があり，床面，壁面を切り込んでいる。南側に位置して，溝（Ｍ６号）44号住居址がある。

主軸方向は，Ｎ―52°―Ｅである。長径４ｍ90cmで，短径４ｍ50cm前後と思われる。住居址内の堆積土は，黒褐色土，暗褐色土，褐色土などにより，構成される。住居址を，円墳５号の周溝部が切り込んでいる状態が，明確に表わされている。

壁は，ゆるい傾斜をなし，床面に至る。床面からの壁高は，10cm前後を呈する。平面は，ほぼ平坦であるが，若干起伏もみられる。

床面には，Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４のピットがあり，円墳５号の周溝部の傾斜面に，Ｐ１・Ｐ５がある。これらのピットの中で，住居址の主柱穴と思われるのは，Ｐ１・Ｐ５である。Ｐ１は，直径35cm・床面からの深さ90cm。Ｐ５は直径45cm・深さ98cmである。Ｐ３・Ｐ２は，壁高によりすぎ，Ｐ１・Ｐ５と違い浅い。Ｐ５は，貯蔵穴と思われる。直径65cmの円形の平面形を呈す。深さは，50cmである。２個所の主柱穴は，不明である。中央部には，焼土化した所と，炉址があり，Ｐ１の東側には，床面焼成部分が見られる。そこには，木炭が多量に検出された。中央部の炉址をセ

クション図からみると，褐色土，暗褐色土により，構成されている。これらの土層は，火熱を受けているものであり，炉址の床面は，非常に硬い。

出土遺物は，Ｐ１の壁面よりに木炭が多量に検出されたこと，貯蔵穴Ｐ４の周辺からは，壺形土器片が，少量検出されたにすぎない。

52号住居址（古墳時代）

本址は，Ｂ３ｃ２・Ｂ３ｃ３・Ｂ３ｄ２の小調査区より確認される。

本址の北側には，円墳６号があり，東側に18号住居址，南側に方墳１号周溝部に隣接している。この住居址は，ほとんど，壁面，床面なども破壊されていて，正確にとらえることは困難である。北側は，円墳６号の周溝により切り込まれている。方墳１号の周溝部の底部に向かい，傾斜をなしている。

遺物は，壺形土器，壺形土器片，杯形土器片などを検出する。

53号住居址（古墳時代）（第223図）

本址は，Ｃ２ｄ３・Ｃ２ｅ３・Ｃ２ｅ４の小調査区より，確認し，松延２号墳の発掘中に検出する。溝（Ｍ６号）の構作土作業を行ない，調査をした。

溝（Ｍ６号）により，東側の床面は，壁面を切り込んでいる。

主軸方向，Ｎ―32°―Ｗ，長径５ｍ10cm・短径４ｍ50cm前後（推定）で，方形の平面形を呈する。

住居址内の覆土は，褐色土，暗褐色土，黒褐色土層により構成される。

住居址の壁面は，床面から，垂直に近い状況で立ち上っているが，東側の壁面，および，床面は，松延２号墳の周溝部，露呈作業のおり破壊する。

床面は，ロームの床面で，硬くしまっている。床面よりピットを８個検出した。その内，住居址の柱穴と思われるのは，Ｐ１～Ｐ６，Ｐ８のグループとＰ２・Ｐ７のグループである。Ｐ１は，直径25cm・深さ52cm。Ｐ６は，長径40cm・短径26cm・深さ55cm。Ｐ８は，長径34cm・短径24cm・深さ34cm。Ｐ２は，長径38cm・短径34cm・深さ45cm。Ｐ７は，長径45cm・短径25cm・深さ45cmである。他のピットＰ３・Ｐ４・Ｐ５については，住居遺構とは関係ないと判断する。特に，Ｐ４・Ｐ７の周辺には，住居址の柱に利用されたと思われる木炭が散布している。特に，焼土で炭化物が多い点で判断したい。

住居址内の遺物は，壺形土器片，杯形土器片などを検出する。

54号住居址（古墳時代）（第224図）

本址は，Ｃ２ｉ８・Ｃ２ｉ９・Ｃ２ｉ０・Ｃ２ｊ８・Ｃ２ｊ９・Ｃ２ｊ０の小調査区より，確認される。北側には，溝（Ｍ６号）が隣接している。

主軸方向は，N—10°—Wで，長径4m70cm・短径3m90cmの隅丸方形の平面形を呈する。住居址内の覆土は，暗褐色土，黒褐色土，褐色土などにより，構成されている。壁の状況を見ると，西北側・南側は，垂直に近い状況で床面から立ち上っているが，東側・西側は，ややゆるい傾斜である。

床面は，平坦であり，しまっている。床面からは，ピットが確認され，P1・P2・P3・P4は，住居址の主柱穴である。P1は，直径30cm・深さ25cm。P2は，直径30cm・深さ25cm。P3は，直径35cm・深さ50cm。P4は，直径35cm・深さ50cmである。P2の東側，壁面よりに焼土，および，P3の東側に，焼土が検出した。P3の焼土は，長径50cm・短径34cmの楕円形で，厚さは10cm前後である。P3にかかり，流れ込んでいる。

遺物は，P3の周辺，および，P4の南側より，壺形土器，壺形土器片，器台形土器などを検出する。

55号住居址（古墳時代）（第225図）

本址は，B1j0・B2j1・C1a0・C2a0の小調査区で確認する。

本址は，溝（M6号）により，西側から南側にかけて壁面，床面が，掘り込まれ破壊されている。

主軸方向は，N—32°—W，長径3m74cm・短径3m25cmの方形の平面形を呈する。

住居址内の覆土は，明褐色土，暗褐色土，褐色土により，構成される。壁高は，20cm前後であり，床面からの立ちあがりは，ややゆるい傾斜をなしている。壁面直下には，壁溝がみられる。壁溝の確認されたのは，北側，東側の一部で，壁溝の幅は，20～30cm前後で，深さ7～15cm前後である。床面は平坦になり，ロームは硬い。

東側の壁面に沿って，ピットが確認された。P1は，長径50cm・短径30cm・深さ66cmである。P2は，長径45cm・短径30cm・深さ40cmである。南側の壁面にP3があり，直径40cm・深さ38cmである。これらのピットは，住居址の柱穴と判断することを避けたい。

遺物は，西側の溝（M6号）と壁面の接点で，器台形土器，P2の壁面との間で，壺形土器片を少量検出する。

56号住居址（弥生時代）（第226図）

本址は，C2b4・C2b5・C2b6・C2c4・C2c5・C2c6の小調査区より確認する。

本址の北側には，住居址46号，東側には，円墳5号の周溝，南側から，北側にかけ，溝（M6号）が隣接している。

主軸方向は，N—20°—W，長径5m10cm・短径3m90cmの隅丸方形の平面形を呈する。

住居址内の覆土は，暗褐色土，黒色土，黒褐色土，褐色土などにより構成されている。

壁面は，全体に渡りややゆるい傾斜をなしている。壁高は，20～25cm前後を呈する。

床面は平坦でしまっている。床面には，ピットが6個確認する。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と思われるが，Ｐ５・Ｐ６は，住居址とは関連性はないと判断する。Ｐ１は，長径45cm・短径30cm・深さ46cm。Ｐ２は長径40cm・短径28cm・深さ46cmで柱穴は，階段状になっている。Ｐ３は直径35cm・深さ55cm。Ｐ４は直径35cm・深さ60cm。Ｐ５は直径20cm・深さ35cm。Ｐ６は直径28cm・深さ30cmである。

床面の中央部には，炉址があり，炉址の上部に雲母片岩の石が置かれている。この炉址のセクション図をみると，多量の焼土粒子および塊があり，ロームが焼かれている。炉址の床面は非常に硬い。炉址の焼土の厚さ20cm前後である。

遺物は,住居址内覆土から弥生式土器片を検出したが,Ｐ４の北西の壁面から弥生式土器の壺形土器，および壺形土器片を検出した。

住居址内から遺物は少量検出されたにすぎない。

57号住居址（第227図）

本址は，Ｂ２i２・Ｂ２i３・Ｂ２ｊ２・Ｂ２ｊ３の小調査区より確認する。本址の北側には土壙11号，南側に住居址46号，溝（Ｍ５号）が隣接している。

主軸方向は，Ｎ―35°―Ｗで，長径５ｍ80cm・短径５ｍ40cmの隅丸方形の平面形を呈する。

住居址内の覆土は，暗褐色土，黒褐色土，褐色土，極暗褐色等により構成される。

壁高は15～25cm前後であり，床面から掘り込みまでの立ち上がりは，ややゆるい傾斜をなす。壁の真下には壁溝がある。壁溝の幅は25～45cm前後で床面から深さは，７～25cm前後を呈する。

本址の西側に土壙が位置する。土壙は本址の壁面および床面を切り込んで造られている。土壙の長径は２ｍ64cm・短径１ｍ30cm・深さ40cmの長楕円形を呈している。床面は平坦で硬くしまっている。床面から住居址床面の壁はゆるい傾斜をなす。

住居址内にはピットを５個確認した。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は，柱穴と思われる。P1は長径40cm・短径31cm・深さ60cm。P2は長径45cm・短径38cm・深さ25cmで浅い。P4は長径80cm・短径50cm・深さ60cmである。Ｐ３は床面の切り込みがが広すぎる。長径１ｍ05cm・短径95cmの楕円形を呈す。深さは，85cmである。

住居址の床面は平坦で，硬くしまっている。住居址の中央部には炉址がある。炉址の上には，雲母片岩の石が置かれてある。炉址の長径は80cm・短径55cmの楕円形を呈す。炉址は，暗褐色土，褐色土で構成されるがその土層内を分析すれば，焼土粒子，火熱を受けたことが判明される。

床面はロームで非常に硬い。炉址の堆積は20cmである。

出土遺物は，土師式土器，坩形土器，器台形土器，壺形土器等を検出する。弥生式土器も少量含まれる。

ま と め

住居遺構について

住居遺構は次の様な時期に分類される。

〈縄文時代の住居址〉

地 区	住居址番号	主軸方向	長径×短径(m)	壁高(cm)	ピット(個)	備 考
A 3	12号住址址	N—20°—W	7.20×5.00	40	12	縄文時代中期，5号住居址の下部に位置する。加曽利式土器（加曽利E）
B 3	17号住居址	N—60°—W	10.04×6.02	60	12	縄文時代中期，5号住居址の下部に位置する。加曽利式土器（加曽利E）。13号住居址と複合。

〈弥生時代の住居址〉

地 区	住居址番号	主軸方向	長径×短径(m)	壁高(cm)	ピット(個)	備 考
A 3	08号住居址	N—85°—W	4.30×3.70	10	2	
B 2	22号住居址	N—33°—W	7.60×6.00	45	—	長岡式
B 3	29号住居址	N—60°—E	5.40×4.00	20	4	
B 2・B 3	37号住居址	N—4°—E	5.60×4.80	25	—	
C 2・C 3	41号住居址	N—74°—E	4.95×4.40	10	4	
C 2	43号住居址	N—60°—E	5.40×4.60	30	3	
C 2	44号住居址	N—32°—E	5.40×4.40	25	4	
C 2	56号住居址	N—20°—W	5.10×3.90	20～25	4	

〈古墳時代の住居址〉

地 区	住居址番号	主軸方向	長径×短径(m)	壁高(cm)	ピット(個)	備 考
A 3	01号住居址	N—45°—E	6.60×6.10	19	6	五領期
A 3	02号住居址	N—50°—E	6.60×5.50	45	5	五領期
A 3	03号住居址	—	—	—	—	周溝により破壊
A 3	04号住居址	N—40°—E	4.70×3.50	20	4	
A 3	05号住居址	N—48°—E	9.20×7.20	25～30	6	

地　区	住居址番号	主軸方向	長径×短径(m)	壁高(cm)	ピット(個)	備　　考
A 3・A 4	06号住居址	—	—	30	—	敷地外接点一部のみ発掘
A 3・A 4	07号住居址	—	—	15	—	〃　〃
A 3	09号住居址	N —95°—W	6.26×5.20	8	—	
A 3	10号住居址	N —62°—W	4.50×4.30	15～25	2	
A 3	11号住居址	N —95°—W	4.10×3.50	45～50	4	
	13号住居址	N —38°—W	3.50×3.20	25	12	
B 3	14号住居址	N —27°—E	—	40～70	5	
B 3	15号住居址	N —23°—W	7.40×7.00	15～30	7	
B 3	16号住居址	N —40°—W	7.40×—	30	3	
B 3・C 3	18号住居址	N —57°—W	6.20×6.20	30	7	
A 3	19号住居址	N —48°—W	7.60×7.60	64	6	
A 2	20号住居址	N —41°—W	4.80×4.64	20	—	
A 2	21号住居址	N —50°—W	5.44×—	20	—	
B 1・B 2	23号住居址	N —10°—W	4.80×4.10	45	5	
B 2	24号住居址	N —15°—W	4.50×4.50	25	5	
B 2	25号住居址	N -55.5°- W	4.50×3.60	30	3	カマド有り，和泉期
B 2	26号住居址	N —40°—W	6.00×5.80	50	5	
B 2	27号住居址	N —38°—E	4.90×4.40	6	5	
A 2	28号住居址	N —55°—W	—	18	—	敷地外接点，一部のみ発掘
B 2	30号住居址	N —40°—W	5.30×5.20	10	1	
B 2	31号住居址	N -68.5°W	5.20×5.10	40	4	カマド有り，鬼高期
B 2	32号住居址	N —35°—E	3.50×3.08	20	4	
B 3	33号住居址	N —28°—E	7.80×7.40	30	8	
欠	34号住居址	—	—	—	—	敷地外接点，一部のみ発掘
B 2	35号住居址	N —75°—W	4.10×3.50	8	4	
B 2	36号住居址	N — 1 °—E	4.50×4.00	20	5	
C 3	38号住居址	—	—	30	—	敷地外接点，一部のみ発掘
C 3	39号住居址	N —34°—E N —50°—E	4.70×4.45	25～35	11	
C 3	40号住居址	N —16°—E	5.40×4.40	44	4	
C 2	42号住居址	N —16°—E	4.60×3.60	20	2	
C 2	45a号住居址	N —30°—E	4.50×3.70	18～25	—	
C 2	45b号住居址	N —65°—E	4.50×3.80	30～40	—	
B 2・C 2	46号住居址	N —70°—W	8.60×6.70	40	3	
C 2	47号住居址	—	—	6 ～10	—	敷地外接点，一部のみ発掘

地　区	住居址番号	主軸方向	長径×短径(m)	壁高(cm)	ピット(個)	備　　考
B 3・C 3	48・49号住居址	—	—	—	—	敷地外接点，一部のみ発掘
C 3	50号住居址	N－20°－E	5.70×5.60	20～30	5	
C 2	51号住居址	N－52°－E	4.90×4.50	10	5	
B 3	52号住居址	—	—	—	—	
C 2	53号住居址	N－30°－E	5.10×4.50	—	8	
C 2	54号住居址	N－10°－W	4.70×3.90	—	4	
B 1・B 2	55号住居址	N－32°－W	3.74×3.25	20	—	
C 1・C 2						
C 1	57号住居址	N－35°－W	5.80×5.40	25～45	5	

縄文時代から弥生時代，古墳時代に至る住居址の一覧表を記載したわけであるが，縄文時代の住居址は，２軒検出され，甕形土器の完形品を含む遺物を検出すると同時に，住居址の位置が恋瀬川台地の東側傾斜面に近くに確認される。縄文時代の住居址は縄文時代中期（加曽利ＥＩ式）に位置するものである。縄文時代の住居遺構は，溝遺構により一次・二次の破壊を受け，保存状態はきわめて悪かった。しかし，調査により遺物，遺構を捉えることが出来たことは，一つの収穫であった。

弥生時代の住居址は，松延古墳２号の位置による場所から多く検出されている。

住居遺構からの遺物は少なく，底部，頸部，胴部，口縁部等の破片が少量検出しているにすぎない。住居址の炉址には，焼土の土に石が置かれているのに特色がみられる。土器の時期的な構成は，弥生時代の後期に位置される。十王台式土器と少し異なる長岡式土器に併行する土器が出土している。恋瀬川流域に於ける弥生時代の解明資料となるだろう。

古墳時代の住居址遺構は，年代的には五領期から，鬼高期に位置する。

住居址は，東側に傾斜する地点から，松延古墳２号台状部にも確認されている。

五領期，和泉期，鬼高期に位置づけられる住居址の中で，和泉期，鬼高期の住居址は，カマドが存在していることである。カマドは，焚口部，燃焼部が確認されたが，煙道部等は明確に捉えることは出来ない。また，壁面から切り込まれて構築されている状況をつかむことは出来なかった。住居址の壁に位置した中央部にあるのではなく，左右どちらかによっていることが特徴である。この時期のカマドの発達して行く途上の前期に位置　けられると思う。

古墳時代の住居址により，松延古墳２号墳の成立期，および，円墳１号～６号，方墳１号～２号の成立期の材料を提供してくれたと思う。

土　壙

土壙１号

円墳１号の主体部

土壙２号（第229図）

本土壙は,Ｂ２ｃ３の小調査区より確認する。

主軸方向は，Ｎ―32°―Ｅ，長径２ｍ90cm・短径１ｍ80cm・深さ30cm前後の長楕円形の平面形を呈す。土壙内の覆土は,上層部に攪乱の跡が，見られるが，黒褐色土，褐色土，極暗褐色土等から，構成されている。

床面は，起伏を呈するが，ロームで硬い，底面からの立ち上がりは，緩傾斜をなす。

覆土内から，縄文式土器片，土師式土器を少量検出する。

土壙３号（第229図）

本土壙は,Ｂ２ａ０・Ｂ２ｄ０の小調査区より確認し長径１ｍ40cm・短径１ｍ30cm・深さ15cmの楕円形を呈す。床面は,平坦でやわらかい。壁面の立ち上がりはゆるい傾斜をなす。

出土遺物は，縄文式土器片を少量検出する。

土壙４号（第229図）

本土壙は，Ｂ２ｂ９の小調査区より確認する。

主軸方向は，Ｎ―40°―Ｗであり，長径３ｍ35cm・短径１ｍ05cm・深さ53cmで長方形の平面形を呈す。覆土の堆積土は，黒褐色土，明褐色土，暗褐色土，褐色土により構成される。

床面は，起伏を呈してはいるが，ロームの硬いものである。

床面からの立ち上がり壁面は，ゆるい傾斜をなす。

覆土内から，縄文式土器片，土師式土器片（胴部）を少量検出する。

土壙５号（第230図）

本土壙は,Ｂ２ａ７・Ｂ２ｂ７の小調査区より確認する。

主軸方向は，Ｎ―43°―Ｅ。長径３ｍ22cm・短径１ｍ20cm・深さ27cmで長方形の平面形を呈する。

床面は，平坦であり，硬いロームである。床面からの立ち上がりは，ゆるい傾斜をなす。

遺物として，縄文式土器，土師式土器片を少量検出する。

土壙６号（第230図）

本土壙は，Ｂ２ｂ８の小調査区より確認する。

主軸方向はＮ―20°―Ｅで，長径２ｍ80cm・短径１ｍ50cm・深さ20cmの長楕円形の平面形を呈する。

覆土は,第２層より切り込まれる。暗褐色土，褐色土，明褐色土等から構成されるが一部攪乱している。

床面は，ややしまりがあるが，起伏を呈す。床面からの立ち上りは，ゆるい傾斜をなす。

覆土内からは，縄文式土器片を少量検出する。

土壙７号（第230図）

本土壙は，Ｂ２ｆ３・Ｂ２ｆ４の小調査区より検出される。

主軸方向は，Ｎ―８°―Ｅであり，長径２ｍ10cm・短径１ｍ80cm・深さ50cmの楕円形の平面形を呈する。

覆土は，暗褐色土，褐色土から構成される。床面には，二個のピットがある。

床面は，ロームでやわらかい。南側から底面に階段状の傾斜をなしている。

Ｐ１は，長径45cm・短径40cmの楕円形を呈する。床面は，スロープ状になる。

Ｐ２は，直径35cm前後で楕円形を呈する。床面は，しまりが硬い。

出土遺物は縄文式土器片，土師式土器片を少量検出していたにすぎない。

土壙８号（第231図）

本址は，Ｂ２ｄ２の小調査区より確認する。

土壙は，住居址29号の北側にあり，円墳４号内に位置している。

主軸方向は，Ｎ―25°―Ｅである。長径３ｍ30cm・短径１ｍ36cm・深さ56cmで長方形の平面形を呈する。

底部は，ほぼ平坦であり，硬くしまったロームである。底部からの壁面の傾斜は，内に彎曲している部分がある。

土壙の覆土は，黒褐色土，暗褐色土，褐色土から構成される。

出土遺物は，覆土内より縄文式土器片，土師式土器片等，少量検出する。

土壙９号

円墳４号主体部（別添）

土壙10号（第231図）

本土壙は，Ｂ２ｆ４・Ｂ２ｆ５の小調査区より確認する。

北側には，住居址25号，南側に住居址22号・26号が隣接する。

主軸方向は，Ｎ－２°－Ｗであり，長径２ｍ50cm・短径１ｍ50cm・深さ47cmで長方形の平面形を呈す。

土壙西側コーナーに張り出し部が見られるが，発掘調査により掘り過ぎたものである。

土壙内の覆土は，黒褐色，極暗褐色，明暗褐色，褐色土により構成されている。

底面は，平坦でかなり硬いしまりがある。床面からの立ち上がりは，75度前後の傾斜をなす。

遺物として，縄文土器片，土師式土器片を少量検出する。

土壙11号（第232図）

本土壙は，Ｂ２ｈ２・Ｂ２ｈ３・Ｂ２ｉ２・Ｂ２ｉ３の小調査区より確認する。

東側には，住居址22号・26号，南側には，住居址57号が隣接する。

主軸方向は，Ｎ－15°－Ｗであり，長径２ｍ85cm・短径１ｍ35cm・深さ90cmで長方形の平面形を呈する。

土壙の覆土は，暗褐色土，極暗褐色土，褐色土から構成されている。

北，南側，掘り込み面から床面までの傾斜は，垂直に近い状況を呈するが，東西の壁面の傾斜は内側に彎曲している。壁面は，硬いロームであり，床面は平坦で硬い床となっている。

出土遺物として，縄文式土器片，土師式土器片を覆土から少量検出したにすぎない。

土壙の用途，目的は不明確である。

土壙12号（第231図）

本土壙は，Ｂ２ｊ９の小調査区より確認する。

南側には，土壙17号が隣接する。主軸方向は，Ｎ－０°であり長径２ｍ85cm・短径１ｍ50cm・深さ２ｍ55cmで長方形の平面形を呈する。

覆土は，黒褐色土，極暗褐色土，褐色土等により構成される。底部は平坦であり，硬くしまっている。底部からの立ち上がりは，垂直に近い状態である。

覆土，掘り込みから約40cm下の覆土より，土師式土器，壺形土器，坩形土器，および高杯片等を検出する。土壙の掘られた時期との関係は不明であるが，偶然にこの上層覆土に入り込んだものと判断される。

土壙13号

本土壙は，Ｂ３ａ６・Ｂ３ａ７・Ｂ３ｂ６・Ｂ３ｂ7の小調査区に確認された。住居遺構16号住居址と切り合った状況で確認されたものである。16号住居遺構の南側に位置する。

主軸方向は，Ｎ―23°―Ｗであり，長径２ｍ90cm・短径90cmの長方形の平面形を呈する。深さは50cmであり壁高はＶ字形を呈する。床面は平坦である。

土壙の長軸の両端には，ピットがある。

土壙の床面の状況は，南側は25cm円形を呈し，深さ30cmあり，また北側のピットは，直径37cmの円形を呈し，土壙の壁から垂直に近い状態で入り込んでいる。

床面からの深さは，47cmを計測する。

土壙の覆土は，自然堆積であり，暗褐色土および褐色土層からなる。遺物としては，縄文式土器片を少量検出したに過ぎない。

この土壙は，16号住居址を切断して築かれる点を考慮すれば，16号住居址より新しい時代に造られたものである。また特徴として長軸の両先端にピットがある点である。年代等も遺物等の検出が少量であり，，土壙の性格，意味については，不明である。ただこのような形態をなし，特定の地域で貯蔵用に利用されているものと同様に考えられるが定かではない。

土壙14号

本土壙は，住居址33号の東側中央部の壁面を切り込んで，位置している。

主軸方向は，Ｎ―13°―Ｅ，長径２ｍ30cm・短径１ｍ10cm・深さロームの切り込み面から約65cmで長方形の平面形を呈する。

覆土は，暗褐色土，黒褐色土，褐色土でロームブロック，ローム粒子を，多量に含んでいる。

底部は平坦であるが，ロームでやわらかい。遺物として，土師式土器片を少量検出する。

土壙15号

本土壙は，Ｂ３ａ４・Ｂ３ｂ３・Ｂ３ｂ４に位置し，16号住居址の北西側に隣接している。

主軸方向は，Ｎ―23°―Ｅであり，土壙の長径２ｍ58cm・短径90cmで長方形の平面形を呈する。深さは，65cmあり，床面は平坦である。壁は長径の北側では垂直に近い状態であるが，南側では，階段状を呈する。東西側の壁面は，垂直に近い状態である。

土壙内の覆土堆積は，自然堆積であり，黒褐色土，褐色土により構成されている。覆土内遺物としては，縄文式土器片，土師式土器片が，少量検出されたのみである。

土壙16号

欠番。

土壙17号

本土壙は，Ｃ２ａ９の小調査区より確認される。　住居址42号が南に位置する。

主軸方向は，Ｎ―92°―Ｅで長径２ｍ60cm・短径１ｍ26cm・深さ55cmである。長方形の平面形を呈す。

床面は平坦であり，ロームで硬くしまっている。

床面からの壁の立ち上がりは，75度前後の傾斜をなす。

土壙内の覆土は，黒褐色土，黒色土，暗褐色土等から構成され，遺物はこの覆土内からは縄文土器片，土師式土器片等を少量検出した。

この土壙の時期，使用目的については不明。

土壙18号（第232図）

本土壙は，Ｃ３ｈ１の小調査区より確認する。東側は敷地外になる。土壙の北側には住居址41号，土壙20号，住居址40号が位置し，南側には，土壙19号および溝（Ｍ６号）が隣接する。

主軸方向は，Ｎ―10°―Ｅで長径２ｍ15cm・短径98cm・深さ35cmで長方形の平面形を呈する。

土壙内の覆土は，黒褐色土，暗褐色土，褐色土により構成されている。各層ともハードロームブロックを含有する。

床面は，起伏が見られる。北側の隅にピットが見られるが攪乱したものであり，木の根等によるものと判断する。遺物等は検出されなかった。成立期，および用途は不明。

土壙19号

本土壙は，Ｃ２ｈ０の小調査区より確認される。土壙の南側には，溝（Ｍ６号）があり，この溝に切断されている。

主軸方向は，Ｎ―25°―Ｅ。長径２ｍ40cm・短径２ｍ・深さ45cm前後の長楕円形を呈する。

覆土は，暗褐色土，黒褐色土，褐色土等で構成されている。土層より判断すると溝（Ｍ６号）土壙19号の堆積土を切り込んでいる。よって溝（Ｍ６号）の造られた以前に存在していたことが言える。土壙内からは，少量の土師式土器片，縄文式土器片等が検出されている。

土壙20号

本土壙は，Ｃ３ｅ１・Ｃ３ｅ２・Ｃ３ｆ１・Ｃ３ｆ２・Ｃ３ｆ３・Ｃ３ｇ2の小調査区より確認され

た。住居址40号の西側に位置する。土壙の西側には住居址41号がある。

土壙は，円形の平面形を呈するもので，直径２ｍ90cm・深さ40cmのもので住居址40号及び41号の壁および床面を切り込んで造られたものである。床面は平坦であり，土壙の上層部は攪乱している。が，褐色土層等で構成され，床面は褐色土でしまりがあることが判明した。造られた時期は不明である。出土遺物として，土師式土器片および縄文式土器片等が少量検出される。

土壙21号

本土壙は，住居址43号の東側に位置し，円墳５号の周溝部と隣接している。

主軸方向はＮ―62°―Ｅ。長径２ｍ40cm・短径１ｍ34cm・深さ１ｍ65cmで長楕円形の平面形を呈する。

土壙の覆土の上層部は，黒色土，黒褐色土でその中にごく少量のＹ・Ｐを含んで中層に入る。中層は，褐色でＹ・Ｐおよびハードロームブロック等含む。底部は，褐色土，ハードロームブロックになり，しまり粘着性をおびている。（自然堆積である）

土壙の特徴は，掘り込みは広いが，床面に下がるにしたがい狭くなる。床面から掘り込み面までの壁の状況を見ると，床面から外反しながら立ち上がる。

床面からの壁の傾斜は，北,南では60～80度前後であり,東，西では70～89度前後で立ち上がる。床面は，東側から西側に向ってゆるい傾斜をなす。遺物は,縄文式土器片,土師式土器片等を少量検出する。

この土壙は，志筑遺跡で１ケ所のみである。Ｔピットとよばれるものである。

土壙22号

本土壙は，Ｃ２ｂ２・Ｃ２ｂ３の小調査区より確認する。溝（Ｍ５号）の西側，最終地点に位置する。(溝Ｍ５号）との関係もあると判断する。

直径２ｍ50cmの円形で平面形を呈する。ロームの切り込み面からの深さは，約60cm前後である。溝（Ｍ５号）からの落ち込みは，18～20cm前後でゆるい傾斜を呈す。

土壙内の覆土をみると，暗褐色土，褐色土等により構成する。

遺物は，縄文式土器片，土師式土器片 等を少量検出した。

土壙23号

この土壙は，住居址46号の東側に位置する。

主軸方向は，Ｎ―７°―Ｗであり，長径２ｍ60cm・短径１ｍ80cm・深さ40cmの楕円形の平面形を呈する。

土壙内の覆土は，暗褐色土，黒褐色土等により構成されている。この堆積土から判断すると，住居址が先に造られていることが判明する。

土壙は東側で階段の様になるが，西側では，住居址46号の床面から切り込んでいる。

壁面は，ややゆるい傾斜をなす。床面は，ややまるみをおびている。ロームの床で硬い。

出土遺物として，土師式土器片を少量検出した。

この土壙の造られた時期などは，不明。使用目的不明。

土壙24号

欠番。

土壙25号（第232図）

本址は，Ｃ２d8・Ｃ２d9・Ｃ２e8・Ｃ２e9の小調査区より確認する。円墳５号内に位置する。北東部には，住居址42号が位置し，また，西南には，住居址44号が位置している。

主軸方向は，Ｎ―34°―Ｗで，長径３ｍ30cm・短径１ｍ25cm・深さ17cm前後であり，長方形の平面形を呈する。

覆土は，暗褐色土，褐色土で構成される。それぞれの土層に，ハードロームブロック等が混合している。

土壙の床面は平坦であり，壁面は床面からゆるい傾斜をなす。

出土遺物は，覆土より縄文式土器片を検出する。

ま と め

土壙，1号・9号は，古墳，円墳1号（円形周溝墓）主体部，円墳4号，主体部にあたる。また，16号・24号，土壙は発掘精査した結果，土壙とはならず，変色した土層が残存していたにすぎない，削平されてしまった。

土壙一覧表を基に土壙の特性を考えたい。

土壙	主軸方向	形　状	長径×短径(m)	深さ(m)	備　　考
1	—	—	—	—	
2	N—32°—E	長楕円形	2.90×1.80	0.30	
3	—	長楕円形	1.40×1.30	0.15	
4	N—40°—E	長 方 形	3.35×1.05	0.53	
5	N—43°—E	長 方 形	3.22×1.20	0.27	
6	N—20°—E	長楕円形	2.80×1.5	0.20	
7	N—8°—E	楕 円 形	2.10×1.80	0.50	
8	N—25°—E	長 方 形	3.30×1.36	0.56	
9	—	—	—	—	
10	N—2°—W	長 方 形	2.50×1.50	0.47	
11	N—15°—W	長 方 形	2.85×1.35	0.90	
12	N—0°—E	長 方 形	2.85×1.50	2.55	遺物，土師式土器（五領期）
13	N—23°—E	長 方 形	2.90×0.9	0.50	ピットが長軸の先端に2個あり。
14	N—18°—E	長 方 形	2.30×1.10	0.65	住居址を切り込む。
15	N—23°—E	長 方 形	2.58×0.9	0.65	
16	—	—	—	—	—
17	N—92°—E	長 方 形	2.60×1.26	0.55	
18	N—10°—E	長 方 形	2.15×0.98	0.35	
19	N—25°—E	長楕円形	2.40×2.00	0.45	
20	—	円　　形	2.90	0.40	住居址40，41号に切り合う。
21	N—62°—E	長楕円形	2.40×1.34	1.65	Tピットとよばれる。
22	—	円　　形	2.50	0.60	
23	N—7°—W	長楕円形	2.60×1.80	0.40	46号住居址と切り合う。
24	—	—	—	—	—
25	N—34°—E	長 方 形	3.30×1.25	0.17	円墳5号内。

これらの土壙を，グループ的に編成すれば，次のグループに分けられる。まず，第一に円墳３号（円形周溝墓）の南から南西にかけて位置する。土壙３号・４号・５号・６号。第二に円墳４号の南側に位置した土壙，７号・10号・11号。第三の円墳５号の周溝の南側に位置した土壙18号・19号・20号，東側に位置した12号・17号，北側に21号・23号，北西に22号，墳丘内の25号。

第四に，円墳６号（円形周溝墓）の東側に位置する土壙13号・15号。第五として方墳２号（方形周溝墓）14号等に区分される。

第一のグループで，土壙３号は，小規模であり円形に楕円形を呈している。他の土壙は，長径2.80m～3.35m・短径で1.05m～1.80m・深さ0.15～0.53mを示していて，ほぼ同一の形態を示す。

第二のグループ，長径2.10～3.80m・短径1.50～1.80m・深さ0.47～0.90mである。

第一グループより深い。グループの土壙としては同一形態を示す。

第三のグループ，①円形の土壙は20号・22号，直径2.50～2.90m・深さ0.47～0.90mで，第一のグループより深い。20号・22号とも同一形態を示す。

② 土壙21号は通称，Ｔピットと呼ばれるものであり，特殊な土壙である。

③ 土壙12号は，Ｎ－０°－Ｅの主軸を示し，五領期の土器を含んでいたが，長楕円形，長方形の土壙とは異なる。場合によれば，方墳２号（方形周溝墓）に関係があるかは不明である。

④ 円墳内土壙25号は，異質のものと考えられる。浅い（不整形である壁，底皿等）。

⑤ その他長方形および楕円形を呈する。土壙は，長径2.40～2.60m・短径0.95～1.80m・深さ0.65ｍである。

各グループは，円墳３号（円形周溝墓），円墳４号，円墳５号，円墳６号（円形周溝墓）方墳２号（方形周溝墓）の周辺に存在しているが，古墳（周溝墓）等に関連性があり，殉葬土壙的役割をもつ性格のものか，農耕作業より，食糧物の貯蔵穴のものかは判断しがたい。しかし，地域的にグループを形成を示すところが，土壙の特徴と言えるだろう。

溝

溝は，恋瀬川に接した台地の先端の傾斜地に位置したＡ地区より番号を付して溝（Ｍ１～Ｍ６）とする。

小調査区Ａ３ｃ２から，Ａ３ｈ６を通り曲折してＡ４ｆ１に至る溝を溝（Ｍ１号），小調査区Ａ4i4からＡ３ｇ０に至り溝（Ｍ１号）に接合する。溝を溝（Ｍ２号），小調査区Ｂ３ｂ０から北西に向って，Ａ３ｈ６の溝（Ｍ１号）に接合する溝を溝（Ｍ３号）。小調査区Ａ３ｂ２から溝（Ｍ１号）に接合する溝（Ｍ４号）松延古墳２号墳，前方部に隣接する小調区Ｃ２ｂ３から発掘調査地区の中央部を縦断し，Ａ３ｈ６の溝（Ｍ１号）に接合する溝を溝（Ｍ５号）小調査区Ｃ１ａ９から南東に向って横断し，Ｃ２ｊ０に至る溝を溝（Ｍ６号）とする。

溝１号（Ｍ１号）（第233図）

本址は，小調査Ａ３ｈ６を中心に曲折して，北西Ａ３ｃ１に直線に延びる。主軸方向は，Ｎ―53°―ＥでありＡ３ｈ６から曲折し北東へ直線に延びる。主軸方向は，Ｎ―68°―Ｗである。曲折する角度は113°である。

Ａ３ｈ６を軸として，長さは，北東側25m，北西側24m 50cmを呈する。溝の幅は３～４ｍ，深さ１ｍ50cm前後である。

掘り込み面から底面までは，ゆるい傾斜を呈す。傾斜の所々に小ピットがある。ピットは浅い。溝との関係は，不明，床面は平坦であり，傾斜はみられない。壁面および底面は硬いロームである。

溝の覆土は，第二層の黒色土より掘り込まれ，黒褐色土，暗褐色土，明褐色土，褐色土などにより構成されている。堆積土は自然堆積を呈す。

遺物は特に黒色土の第二層に多く見られ，縄文式土器片が特に検出され，住居址１号・10号・11号周辺では土師式土器片が検出された。底面では，雲母片岩が少量とＡ４ｆ１付近で馬の骨を検出する。

溝２号（Ｍ２号）（第233図）

本址は，Ａ３ｇ０・Ａ３ｈ０・Ａ４ｈ１・Ａ４ｊ１の小調査区に位置する。

溝（Ｍ１号）に切り込まれた状況を示す。しかし，東側には溝らしいものはない。

溝１号は，幅が広くなる状況を示している。溝（Ｍ２号）は，切り込まれた地点でやや隅丸を呈する。溝２号により住居址３号が切断される。

主軸方向は，Ｎ―23°―Ｗを示す。溝の幅は，３～４ｍ前後である。溝は，西側はゆるく，東側はやや急な傾斜をなしスロープ状で，深さは，30～70cm前後を呈す。

Ａ４ｉ１の小調査区は，Ａ３ｇ０の小調査区よりも深い，壁面，底面とも硬いロームである。

溝内の覆土は，黒褐色，暗褐色，褐色土等により構成されている。

遺物としては，住居址３号のものと思われる土師式土器が底面に近い覆土より検出する。

杯形土器片，壺形土器片等である。

この溝は，古墳の周溝と同様な形態を示すので，付近を分布調査した結果，エリヤ外側に石棺があることが判明した，よって古墳の周溝と考えられる。

溝３号（Ｍ３号）（第235図）

本址は，Ｂ３ｂ０の小調査区より北西に直線に延びて小調査区Ａ３ｈ６の溝（Ｍ１号）に至る。

溝は住居址５号・６号・12号，８・９号の壁面および床面を切り込む。溝（Ｍ１号）により切り込まれている。

主軸方向は，N—45°—E溝の長さ21m，幅1～1m30cm・深さ30～55cm前後を計る。

溝の覆土は小調査区A 3a9・A 3i9付近では，黒色土，黒褐色土，暗褐色土，褐色土等で構成された自然堆積を示し，U字形を呈する。

住居址8号・9号付近で，土師式土器片および縄文式土器片が出土。8・9号住居址付近では，縄文式土器片，弥生式土器片，土師式土器片が出土。

溝4号（M4号）

本址は，A 3d2の小調査区に位置する。溝（M1号）に接触する。

主軸方向は，N—65°—E。長さ4m50cm・幅1m50cm前後で，深さ55cmである。

溝の底部は，平坦で硬いロームである。溝の覆土は，黒褐色土，暗褐色土，褐色土により構成される。遺物は検出できなかった。

溝5号（M5号）（第236図）

溝5号は松延古墳2号墳，前方部の小調査区C 2b3より発し，A 3h5の溝（M1号）に接する。主軸方向は，N—42°—E。溝は全長74m80cmを測り，幅は1m10cm～2m50cm・深さ70～1m前後を呈する。底面は全般にわたり平坦で硬くしまっている。床面からの壁面の傾斜は，平均して45度～60度の傾斜で外反しながら立ち上っている。

西側から東側に至る高低の差は，80cmほど傾斜し東側が低くなる。

溝の覆土は小調査区A 3h5では，溝の上に積まれた土層に，ハードロームブロック，ローム粒子を含む，暗褐色，褐色土であり，粘着性のある土層を含んでいる。

この堆積土は，人工的に積まれたものであり，溝（M1号）の土か，溝（M5号）の東側の8号・9号住居址の小溝の掘り起しの土か不明である。

農道西側の溝の覆土は，黒褐色土，極暗褐色土，暗褐色土，明褐色土，褐色土により構成され，自然堆積層を呈する。

この溝は，住居址19号・30号・33号・36号・46号，方墳2号・円墳6号が切り込んで小調査区C 2b3の土壙22号と接合する。

溝からの出土遺物は全搬的にみると，覆土からは，縄文式土器片，土師式土器片，低面からは，雲母片岩，須恵器片（壺形）縄文土器片，陶器片（壺形）等である。

溝（M6号）（第237図）

この溝は，C 1a9から南東に向って横断しC 2j0に直線で至る溝である。

主軸方向は，N—52°—E，長さ62m・幅2m80cm～3m20cm・深さ1～1m20cm前後を呈する。

底面は平坦であり硬い。底面からの壁面の立ち上りは場所により異なる。小調査区C 2j 9には，土壙19号があるが，この土壙を切り込んで，垂直に近い状態で落ち込む。床面には4個のピットがあり，ピットは，対角線上に並び，溝にかかる橋脚があったと推定される。その柱穴と思われる。ピットは長径50～70cm前後で，床面から深さ45cm前後を呈している。

小調査区C 2e4付近では，底面からの壁面の立ち上りは，ゆるい傾斜をしているが，円墳5号の周溝を切り込み，C 2h7の小調査区では，住居址46号および円墳5号の周溝を切り込んで底面からの立ち上りは，外反してゆるい傾斜を呈する。

小調査区C 2b2・C 2c1では，溝（M 5号）に隣接し，松延古墳2号墳の周溝とつながり，周溝の立ち上り部を切り込んでいる。またC 1j 9・C 2a 9の小調査区では，松延1号住居址と接し，住居址を切り込んでいる。

溝の底面の高低の差は，ほとんどみられない。

溝の覆土は，黒褐色，暗褐色，褐色，明褐色土等から構成されている。

出土遺物は，C 2i 9・C 2j 9の小調査区の底面から須恵器片，陶磁片等を検出する。

溝全体として，ところどころに雲母片岩，縄文式土器片，弥生式土器片少量，土師式土器片などを検出する。

溝は，前述した通りM 1号・M 2号・M 3号・M 4号・M 5号・M 6号である。

溝の状況は，次の表のようになる。

溝M号	主軸方向	形状	幅	深さ
溝M 1号	N—68°—E	逆台形	3m～4m	1m 50cm
	N—53°—E	「く」の字型 逆台形		
溝M 2号	N—23°—E	スロープ状	3m～4m	30cm～70cm
溝M 3号	N—45°—E	U字形	1m～1m 30cm	30cm～55cm
溝M 4号	N—65°—E	U字形	1m 50cm	55cm
溝M 5号	N—42°—E	逆台形	1m 10cm～2m 50cm	70cm～1m
溝M 6号	N—52°—E	逆台形	2m 80cm～3m 20cm	1m～1m 20cm

溝M 1号・溝M 5号・溝M 6号は形状で同じ構築法を示している。

溝M 1号と溝M 5号の接点では，底面では段差がある。溝M 1号の底面の標高は，21.90m，M 5号の底面の標高は，22.86mで，比高は96cmを示している。

溝M 1号と溝M 5号の接点ではロームブロックと黒色土が混じり盛土となっている。また，溝M 3号の接点も同様である。このことは，溝M 1号が，溝M 3号および，溝M 5号より新しい遺構

と判断される。

溝M２号は，溝M１号により切断されている。溝M２号は，古墳の周溝であり，古墳の特性を持っている。

溝M３号は,U字形の溝であり,直線に延び溝M１号と接合するが性格は不明である。ただ，溝M６号と同じ方向に走っている。

溝M４号は，円墳１号・２号の周溝と同じ形状を示す。性格は不明である。

溝M５号は，発掘敷地内の中央部を縦断して，形状は逆台形を呈する。溝底は，西高東底を示している。西側の標高は，23.70m，東側では，23.86mであり比高は，84cmの傾斜を示している。

溝M６号は，遺跡の西端を縦断する。南側が高く標高23.08m，北側が23.34mで比高26cm前後でやや北側が高い。

溝M１号・溝M５号・溝M６号とも，構築の方法は同じ形態を示す。また，溝底から出土した遺物も，陶器片，須恵器片，雲母片岩等で，同時期のものと判断される。

溝M１号・溝M５号・溝M６号は後述する。その他の遺構（住居遺構）と関連性があると判断される。

ピット

地　区	遺構番号	形　状	規　　模	概　　要
B 2c8	P 1	楕円形	長径　70cm 短径　47cm 深さ　47cm	東側は，階段状になり，底部に入る。 西側は，彎曲する。 壁は，しまりがある。
B 2d7	P 2	円　形	長径　70cm 短径　67cm 深さ　25cm	床面は，起伏があり，やわらかい。 木の根により攪乱されている。
B 3d7	P 3	楕円形	長径　72cm 短径　52cm 深さ　30cm	木の根による攪乱。 床面は，階段状をなしている。
B 2d7	P 4	円　形	長径　69cm 短径　68cm 深さ　30cm	柱穴と思われる掘り込みは，床面までほぼ垂直である。 床面は，起伏があるが，ロームで硬い。 柱の内形の圧痕がある。
B 2c7	P 5	楕円形	長径　50cm 短径　40cm 深さ　37cm	柱穴と思われる。 底部は，硬くしまっている。 床面からの立ち上がりは，傾斜をなす。
B 2d7	P 6	楕円形	長径　62cm 短径　55cm 深さ　42cm	木の根による攪乱。 やわらかいソフトロームのしまりである。
B 2d6	P 7	楕円形	長径1m27cm 短径1m13cm 深さ　58cm	覆土内に縄文式土器片・土師式土器片を検出する。 床面からの立ち上がりは，70°前後の傾斜を呈す。 床面は，ロームで硬い。
B 2i 6	P 8	—	—	木の根が残存している。
B 2d6	P 9	不整形	長径1m47cm 短径1m20cm 深さ　15cm	木の根による攪乱。 床面は，木の根の痕跡が見られる。
B 2d3	P10	円　形	長径　65cm 短径　62cm 深さ　27cm	木の根が残在している。

地　区	遺構番号	形　状	規　　模	概　　要
B 2e8	P 11	円　　形	長径　66cm 短径　61cm 深さ　30cm	床面は，起伏があり柱の痕跡あり，特にしまっている。 床面からの立ち上がりは，ゆるい傾斜をなす。
B 2c6	P 12	不 整 形	長径 1 m 90cm 短径 1 m 42cm 深さ　36cm	床面は，平坦，ロームで硬い。 床面からの立ち上がりは，外反。 傾斜角度は，ゆるい。西側は，小ピットがある。
B 2e6 B 2d6	P 13	長楕円形	長径 1 m 90cm 短径　64cm 深さ　21cm	床面は，平坦であり硬い。床面からの立ち上がりは，ゆるい傾斜をなす。用途については，不明。
B 2c6	P 14	—	— 長径　73cm	—
B 2a4 B 2b5	P 15	円　　形	長径　73cm 短径　73cm 深さ　20cm	木の根による攪乱であり，やわらかい。
B 2b4	P 16	楕 円 形	長径 1 m 02cm 短径　76cm 深さ　56cm	底は，ロームで硬くしまっている。 柱穴と思われる。
B 2b4 B 2b5	P 17	楕 円 形	長径　90cm 短径　82cm 深さ　21cm	床面は，平坦であり，ロームで硬くしまっている。 壁面は，ゆるい傾斜である。
B 2f8	P 18	楕 円 形	—	壁は，垂直に立ち上がり，床面は，ロームで硬くしまっている。 柱穴と思われる。
B 2f7	P 19	楕 円 形	長径　55cm 短径　50cm 深さ　28cm	床面は，平坦であり，ロームで硬くしまっている。 壁面は，ゆるい傾斜である。
B 2e7	P 20	楕 円 形	長径　69cm 短径　63cm 深さ　22cm	床面は，平坦であり，ロームで硬くしまっている。 壁面は，ゆるい傾斜である。

地　区	遺構番号	形　状	規　　模	概　　要
B 2f 7	P 21	不 整 形	長径　66cm 短径　61cm 深さ　19cm	床面は，平坦であり，ローム，硬くしまっている。壁面は，ゆるい傾斜である。
B 2f 7	P 22	楕 円 形	長径　60cm 短径　56cm 深さ　27cm	床面は，平坦であり，ローム。硬くしまっている。壁面は，ゆるい傾斜である。
B 2f 6	P 23	—	—	—
B 2f 6	P 24	楕 円 形	長径　59cm 短径　46cm 深さ　25cm	床面は，平坦であり，ローム硬くしまっている。壁面は，ゆるい傾斜である。
B 2f 6	P 25	円　　形	長径　51cm 短径　51cm 深さ　30cm	床面は，平坦であり，ローム硬くしまっている。壁面は，ゆるい傾斜である。
B 2g 7	P 26	楕 円 形	長径　83cm 短径　80cm 深さ　21cm	床面は，硬くしまっている。床面からの立ち上りは，ややゆるい傾斜をなしている。
B 2f 6 B 2g 7	P 27	楕 円 形	長径 1 m 04cm 短径　82cm 深さ　14cm	床面は，スロープ状であり硬くしまっている。覆土より土師片を検出する。
B 2g 6	P 28	円　　形	長径　50cm 短径　46cm 深さ　19cm	木の根による攪乱である。
B 2g 5 B 2h 5	P 29	長楕円形	長径 1 m 07cm 短径　55cm 深さ　17cm	木の根による攪乱である。
B 2g 5	P 30	長楕円形	長径 1 m 12cm 短径　83cm 深さ　17cm	床面は，起伏がある。床面からの立ち上がりは，ゆるい傾斜をなす。

地　区	遺構番号	形　状	規　　模	概　　要
A 2i 8	P 31	楕 円 形	長径　60cm 短径　— 深さ　12cm	円墳3号周溝により切断される。床面は，平坦である。掘り込み面から床面までの傾斜は，ゆるく，なめらかである。
B 2i 3	P 32	不 整 形	長径　46cm 短径　45cm 深さ　28cm	掘り込みからの傾斜は，70度前後呈す。床面は，しまっている。
B 2h 3 B 2i 3	P 33	長楕円形	長径　86cm 短径　64cm 深さ　27cm	掘り込み面からの傾斜は，ゆるやかである。床面は起伏がありやわらかい。木の根による攪乱である。
B 2h 2	P 34	不 整 形	長径　68cm 短径　56cm 深さ　19cm	西側の壁は，階段状をなす。床面から東側に向って傾斜をなし，床面は，やわらかい。木の根による攪乱である。
B 2h 1	P 35	長楕円形	長径1m 36cm 短径　90cm 深さ　15cm	主軸方向N —70°—E 壁面は，ゆるい傾斜をなす。床面は，平坦である。ロームの硬い床で農業用の貯蔵穴と思われる。
B 2h 2 B 2i 2	P 36	長楕円形	長径1m 42cm 短径1m 20cm 深さ　22cm	主軸方向N —65°—E 。床面からの立ち上がりは，西側は垂直に近い。北南東は，ゆるい傾斜をなす。床面は，ロームの硬い床である。農業用の貯蔵穴と思われる。北側にピットがある。
B 2i 2	P 37	楕 円 形	長径1m 70cm 短径1m 36cm 深さ　26cm	掘り込み面から底面に向って，階段状になっている。壁面および底部は，やわらかいソフトロームで構成されている。木の根による攪乱である。
B 2j 2	P 38	楕 円 形	長径　65cm 短径　62cm 深さ　53cm	柱穴と思われるものである。壁面は，ロームでしまりがある。底部からの立ち上がりの傾斜は，60度を呈す。
B 2j 2	P 39	長楕円形	長径1m 40cm 短径　47cm 深さ　13cm	床面は，平坦である。壁面の立ち上がりは，ゆるい。木の根による攪乱。
A 2i 7	P 40	楕 円 形	長径　66cm 短径　58cm 深さ　43cm	木の根による攪乱。

地　区	遺構番号	形　状	規　　模	概　　要
A 2h7	P 41	—	—	不　明
A 2i 7	P 42	楕 円 形	長径　54cm 短径　53cm 深さ　27cm	木の根による攪乱。
A 2i 8	P 43	円　　形	長径　50cm 短径　50cm 深さ　26cm	木の根による攪乱。
A 2i 7	P 44	円　　形	長径　40cm 短径　40cm 深さ　15cm	木の根による攪乱。
A 2i 7	P 45	楕 円 形	長径　57cm 短径　48cm 深さ　20cm	木の根による攪乱。
A 2i 7	P 46	楕 円 形	長径　48cm 短径　38cm 深さ　15cm	木の根による攪乱。
A 2i 8	P 47	不 整 形	長径 1 m 40cm 短径　80cm 深さ　25cm	木の根による攪乱。
A 2h7	P 48	円　　形	長径　60cm 短径　57cm 深さ　19cm	木の根による攪乱。
A 2h7	P 49	楕 円 形	長径　53cm 短径　45cm 深さ　19cm	木の根による攪乱。
A 2h7	P 50	楕 円 形	長径　52cm 短径　47cm 深さ　24cm	木の根による攪乱。

地　区	遺構番号	形　状	規　　模	概　　要
A 2h6 A 2i 6	P 51	円　　形	長径　2m 短径　— 深さ　—	円形の平面形を呈するものと思われる。 敷地外に接している。 遺物として土師式土器を検出する。床面は，硬い。
A 2g7	P 52	楕 円 形	長径　65cm 短径　— 深さ　14cm	木の根による攪乱。
A 2g7	P 53	楕 円 形	長径　72cm 短径　— 深さ　17cm	木の根による攪乱。
A 2g8	P 54	楕 円 形	長径　59cm 短径　52cm 深さ　20cm	木の根による攪乱。
A 2j 5	P 55	楕 円 形	長径　60cm 短径　50cm 深さ　14cm	木の根による攪乱。
A 2j 6	P 56	楕 円 形	長径 1m 16cm 短径 1m 14cm 深さ　16cm	床面は，起伏をなし，ロームで硬くしまっている。 壁面の立ち上がりは，ゆるい傾斜をなす。
A 2j 5	P 57	円　　形	長径　42cm 短径　42cm 深さ　25cm	木の根による攪乱。
A 2i 6	P 58 P 59	不 整 形	長径 1m 13cm 短径　— 深さ　—	木の根による攪乱。
A 2i 6	P 60	円　　形	長径　41cm 短径　41cm 深さ　20cm	木の根による攪乱。
A 2j 6	P 61	楕 円 形	長径　44cm 短径　40cm 深さ　16cm	木の根による攪乱。

地　区	遺構番号	形　状	規　　模	概　　要
A 2j 6	P 62	円　　形	長径　52cm 短径　52cm 深さ　10cm	木の根による攪乱。
A 2j 6	P 63	楕 円 形	長径　70cm 短径　58cm 深し　16cm	木の根による攪乱。
A 2j 6	P 64	楕 円 形	長径　65cm 短径　48cm 深さ　18cm	木の根による攪乱。
A 2j 6	P 65	楕 円 形	長径　88cm 短径　70cm 深さ　17cm	木の根による攪乱。
A 2j 6	P 66	楕 円 形	長径　60cm 短径　50cm 深さ　15cm	木の根による攪乱。
A 2j 6	P 67	円　　形	長径　45cm 短径　45cm 深さ　18cm	木の根による攪乱。
A 2j 6	P 68	楕 円 形	長径　60cm 短径　50cm 深さ　27cm	木の根による攪乱。
A 2j 7	P 69	楕 円 形	長径　76cm 短径　60cm 深さ　14cm	木の根による攪乱。
B 2a 6	P 70	楕 円 形	長径　65cm 短径　53cm 深さ　14cm	木の根による攪乱。
B 2a 7	P 71	楕 円 形	長径　55cm 短径　48cm 深さ　12cm	木の根による攪乱。

地　区	遺構番号	形　状	規　　模	概　　要
A 2j 6 A 2j 7	P 72	楕 円 形	長径　71cm 短径　57cm 深さ　12cm	木の根による攪乱。
B 2a 6	P 73	不 整 形	長径　90cm 短径　65cm 深さ　19cm	木の根による攪乱。
B 2a 6	P 74	楕 円 形	長径　50cm 短径　45cm 深さ　33cm	木の根による攪乱。
B 2a 5	P 75	楕 円 形	長径　85cm 短径　68cm 深さ　18cm	木の根による攪乱。
B 2b 7	P 76	楕 円 形	長径　92cm 短径　77cm 深さ　10cm	床面は，平坦でロームで硬い。 立ち上がりは，ゆるい傾斜をなす。 用途は，不明である。
B 2b 5 B 2b 6	P 77	楕 円 形	長径　52cm 短径　45cm 深さ　28cm	床面は，起伏があり，ロームで硬い。壁面の立ち上がりは，ややゆるい傾斜をなしている。
B 2b 5	P 78	楕 円 形	長径　62cm 短径　61cm 深さ　12cm	木の根による攪乱。
B 2b 5	P 79	楕 円 形	長径　70cm 短径　69cm 深さ　14cm	木の根による攪乱。
B 2a 5	P 80	楕 円 形	長径　58cm 短径　44cm 深さ　28cm	木の根による攪乱。

ま と め

ピットは，Ａ２地区，Ｂ２地区に集中し検出されたものである。

ピットの種類をみると木の根による攪乱が最も多い。これは，Ａ２地区，Ｂ２地区とも耕作土を排除すると，25～35cm前後でローム層になる。耕作土が浅かったことが，植木の植える時，または，木の伐根の時に掘削されたものである。次に住居遺構に関係するものと思われるものは，ピットの壁面，底面が硬くなっている。古墳時代の竪穴住居，弥生時代の竪穴住居の遺構は，判断しかねる。しかし，住居遺構のものとすれば，掘削されて柱穴のみとなるが，周辺の堆積土をみても，破壊された形跡はみられない。よって，後世の柱穴と考えたが，対角線上に結び合う性格のものは検出されなかった。

志筑遺跡内，古墳および周溝墓

志筑遺跡内の住居跡遺構を想定し発掘調査を実施したが，方形の溝，円形の溝，それに，主体部と思われる土壙を検出した。これらを一括し，古墳として取扱う。

Ａ２地区より，円墳１号・円墳２号・円墳３号，Ｂ２地区，円墳４号・方墳２号，Ｂ３地区，円墳６号・方墳１号，Ｃ２地区，円墳６号とした。

円墳，方墳と名称をつけたが，周溝墓と推定されるものは，円墳１号・２号・３号・６号，方墳１号・２号であり，古墳として，とらえられるものは，円墳４号と５号である。

これらの古墳群，周溝墓群の地目は，畑地であり，植木が植えられ，平坦な状況を呈し，あまり起伏は，見られなかった。

円墳１号（円形周溝墓）

Ａ２地区に位置する農道の西側で確認する。円墳１号，南側には円墳２号（円形周溝墓）北西側には，円墳３号（円形周溝基）が位置している。

墳丘の構造

耕作で削平され墳丘は存在しない。平坦である。円形の周溝が囲繞するだけである。

法量は，東西南北ともほぼ同じで直径９ｍ40cmを計る。周溝はU字形を呈し，幅0.72～１ｍ前後深さ20～55cm前後である。

周溝の断面を見ると第二層から掘り込まれ，黒褐色土，暗褐色土，明褐色土，褐色土等から，構成され自然堆積土の状況を表わしている。

埋葬施設

本周溝墓の主体部は土壙である。土壙は，主軸方向N —26°—E，墳丘の中央部に位置し，長径4ｍ30cm・幅1ｍ90cmの長楕円形を呈している。深さは40cmであり，底部はロームで硬くしまっている。床面からの立ち上がりは，やや緩い傾斜を呈している。

土壙内の覆土は，暗褐色土，褐色土から構成され，ローム粒子，ロームブロック，黒色土が含まれている。

出土遺物

主体部の覆土から，土師式土器片，縄文式土器片を少量検出する。

周溝部からは，土師式土器片，縄文式土器片を，覆土上層部より少量検出した。

周溝底部の覆土より雲母片岩の小石を検出したにすぎない。遺物がわずかなので円形周溝墓との関連については，判断しかねる。

円墳2号（円形周溝墓）

本，円形周溝墓は，Ａ２地区より確認する。円墳１号（円形周溝）が北側に位置し，北東側に円墳３号（円形周溝墓），東側に円墳６号（円形周溝墓）が隣接している。

墳丘の構造

円墳１号と同様，墳丘は存在せず円形の周溝が囲繞するだけである。

法量は，長径14m 08cm・短径13m 60cmで，南北の長い楕円形の平面形を呈している。

周溝は幅１～１ｍ20cm・深さ40～50cm前後である。溝は，Ｕ字形を呈する。

溝の断面をみると，第二層より掘り込まれている。

覆土は，黒色土，暗褐色土等から構成される自然的な堆積状況を表わしている。

埋葬施設

主体部と思われる墳丘部の精査確認作業を進めた結果，古墳時代（五領期）の住居址20号が中央部にあり，埋葬施設は，確認できなかった。住居址の発掘作業を進め，床面を露呈させ追求したが，確認できなかった。若干住居址の東側が傾斜していることが判明したにすぎない。

出土遺物

墳丘部の住居址20号から，高杯土器片，壺形土器片，杯形土器片を検出した。

周溝部の覆土より，縄文土器片，土師式土器片を少量検出する。また，雲母片岩の小石を検出

する。

円墳３号（円形周溝墓）

本墳は，北東側に円墳１号（円形周溝墓），東側に円墳２号（円形周溝墓）が隣接している。西側は区域外となり，円周の$\frac{1}{2}$を露呈させたのにすぎない。

墳丘の構造

墳丘は，勿論存在しない，円形の周溝が囲繞するだけである。主軸方向は，N—67°—Wであり，長径11m 72cm・短径７m 20cmである。周溝の幅は，72cm～１m 60cm前後でU字形を呈する。深さは，場所により異なるが，特に周溝の落ち込む所は，南東部であり20～70cm前後を呈する。周溝内の覆土は，黒褐色土，黒色土，暗褐色土，褐色土などにより構成されて，自然的な堆積状況をあらわしている。墳丘は平坦である。

埋葬施設

墳丘部内の精査作業を実施したが確認することは，出来なかった。木の根の跡がみられる。

出土遺物

東南の周溝部ＳＰＢ～ＳＰＢ′付近で縄文式土器片を少量検出したにすぎない。

円墳４号

本墳は，Ｂ２地区で確認する。本墳の東側には住居址25号が周溝部を掘り込み，南側では土壙７号が隣接している。北側から西側にかけては，敷地外となり約$\frac{1}{2}$を露呈させたにすぎない。墳丘内には29号住居址および土壙８号が存在する。

墳丘の構造

墳丘は，耕作土だけで，削平され封土はなく平坦である。円形の周溝が囲繞するだけである。

法量は，長径16m 40cm，円形の平面形を呈するものと考えられる。

周溝は，緩い傾斜をなし，幅80～120cm・深さ50cm前後である。周溝の断面を見ると，黒褐色土，暗褐色土，褐色土などから構成され，自然堆積の状況を表わしている。

埋葬施設

本墳の埋葬施設は，土壙内に埋設された。箱式石棺である。この北側に，土壙８号があるが，

関連性があるかぼうか判断しかねる。

土　壙

土壙は，箱式石棺を埋設するために掘削されている。土壙の主軸方向は，N—37°—E である。長径２m 50cm・短径１m 05cmで長方形の平面形を呈する。深さは，ローム面から凹までの深さは，北，東，西側でそれぞれ50cm前後である。敷石までの深さは，30cm前後である。

土壙の南北側では，ローム面から落ち込み凹みに妻石が埋設されていたと思われるが，石を立てるためゆるい傾斜になっていることが明らかになった。また，東西の側石の同様である。

北側の一部は，栗の木によるピットがあり，掘り方は攪乱され判然としない。また，南側は，住居址29号の床面から掘り込まれている状況を示し，非常に浅い。

石　棺

半封土で，半ロームを掘り込んで構築されたものである。

石棺の 蓋石・両妻石・側石は，取り除けられ，敷石は４枚残存するが，南側の敷石一枚が取り除かれていた。

石棺の内法は，全長１m 89cm・幅70cmであり，深さは，ロームからの掘り込みで15cm前後を表わす。

出土遺物

周溝部から，土師式土器片，縄文式土器片を少量検出した。また主体部の上層の耕作土を取り除いた，第１層から土師式土器の壺形土器片を確認し，雲母片岩を検出する。

円墳５号

本墳は，Ｃ２地区より確認する。

本墳の内部には，住居址44号・45号・47号・51号，並びに土壙25号，周溝の外側には接触し，または周溝により切り込まれた住居址，41号・42号・43号などが位置する。溝（Ｍ６号）により南から西側にかけて周溝は，切断されている。

墳丘の構造

本墳は，耕作土だけで，墳丘が存在せず，円形の周溝が囲繞するのみである。

法量は，直径23m 70cmで円形の平面形を呈する。

周溝は，スロープ状で船底形を呈し，幅１～１m 50cm・深さ18—45cm前後である。周溝の断面

をみると自然的な堆積状況を呈している。

埋葬施設

円墳５号墳の埋葬施設は，南側に位置している。

本墳の埋葬施設は，土壙内に埋設された箱式石棺である。

土　壙

土壙は，箱式石棺を埋設するために掘削されている。

土壙の主軸方向は，Ｎ―70°―Ｅ，長方形の平面形を呈する。長径６ｍ・短径３ｍ80cm・深さ90cmである。土壙の覆土より，バラスの雲母片岩が多量に検出した。盗掘にあった石材は，搬出された状況であり土壙内は，攪乱している。床面は，雲母片岩のバラスが敷石であったと推定される。また，石棺の両妻石，両側石がぬかれているため，石棺の石材埋め込みに掘り込んだ跡から計測すると，内法は，長径４ｍ・短径２ｍ前後，深さ40cmと推定される。

石棺のぬかれたために覆土内に，ウラゴメに利用した粘土が散乱していた。

出土遺物

床面の下層部の覆土より，鉄鏃，刀剣のつば等が検出する。

住居址45号と切り合うため，覆土上層部では，住居址の土師式土器片が検出される。

円墳６号（円形周溝墓）

本墳は，Ｂ３地区より確認する。

本墳の中央部には，土壙があり，この土壙が，主体部と考えられる。円墳の東側には住居址18号がある。周溝部から，土壙が台状部に切り込み位置している。西側には溝（Ｍ５号）が，周溝部を切り込む。北側には，住居址19号が隣接する。

墳丘の構造

耕作土のみで墳丘は存在しない。楕円形の周溝が囲繞するのみである。

法量は，長径５ｍ55cm・短径５ｍを計測する。

周溝はＵ字形を呈する。周溝の幅は80～90cm・深さ45cm前後である。よく整形されている。

円墳１号・２号・３号と同じ造りである。溝の断面をみると，黒褐色土，暗褐色土，褐色土などから構成され，自然的な堆積の状況を呈している。

埋葬施設

本墳の埋葬施設は，中央部に位置する土壙と推定する。土壙は，長径２ｍ18cm・短径１ｍ・深さ50cmの長方形の平面形を呈する。土壙の南側には，ピットがあり攪乱されている。

土壙内の断面を見ると，黒褐色土，暗褐色土，褐色等により構成される。

床面からの壁面の立ち上がりは，ややゆるい傾斜を呈する。また，床面は，西側から東側にかけてみると，階段状を呈している。

その他の遺構

東側に位置する土壙は，長径１ｍ50cm・短径70cmで長方形の平面形を呈する。

周構部を切り込み，外反して底面に至る，底面は平坦であり，ロームで硬い。

南側に位置して住居址52号があるが，床面，壁面が明確に把握されていないが住居址とした。しかし，古墳との関連性も考えられる。

出土遺物

周溝部より土師式土器片，縄文式土器片を少量検出する。

主体部と思われる土壙（中央部）よりは，少量の土師式土器片を検出したにすぎない。

東側の土壙より土師式土器片，縄文式土器片を少量検出する。

南側，住居址52号とした，周溝部付近では，土師式土器の壺形土器（前期）を検出している。

方墳１号（方形周溝墓）

本墳は，Ｂ３地区より確認する。

当初，小調査区の排土作業のおり農道の東側と同様に傾斜地であり，堆積が厚いと考えた。黒色土の排土作業を続けた結果，周溝部を確認し，方墳であると判断した。また，小調査区Ｂ３ｈ３・Ｂ３ｈ４・Ｂ３ｈ５で黒色土の中にロームブロックが混入していることから，主体部と判断した。

墳丘の構造

耕作土は平坦であり，墳丘は存在しなかったが，耕作土の除去により，黒色土と平行して，主体部があり，墳丘部が残存していたことになる。

周溝は方形を呈し囲繞する。墳丘は，主軸をほぼ南北にもち，南北に長い方形を呈する。

墳丘の法量は，南北で24m・東西で24mである。周溝の幅は，３～４ｍ・深さ70cm～１ｍ50cm前後である。

周溝の断面をみると，黒色土，極暗褐色土，黒褐色，暗褐色土，褐色土等から構成され，自然的な堆積の状況を呈している。周溝は，北側でスロープ状を呈し，南側では，逆台形を呈し，東，西側でも逆台形状を呈する。

埋葬施設

主体部は，黒色土を切り込んで構築し，黒色土の中にロームブロックが混入している。封土の中央部である。主軸方向は，N－5°－Wである。

槨

槨は長径9m80cm・幅4m50cmであり，暗褐色土，褐色土等で構成され，ハードロームブロック等を混入している。また，東側では一部粘土がみられた。

黒色土を切り込んだ槨は，深さ70cmでロームの床面に至る。黒色土からの切り込みは，ゆるい傾斜を呈していた。床面はハードロームで硬い。

床

多量のハードロームブロックを含有し，しまりのある土層で，粘土床の代りをしている。

暗褐色土，褐色土がある。床は，長径8m・幅90cmを呈する。深さ15cm前後で船底形を呈している。

出土遺物

主体部の槨および床からは，縄文式土器片，土師式土器片が，検出されたが，主体部の遺物で直接関係のあるものでなく，周辺の住居遺構のものと判断される。

床からは，埋葬した時の副葬品等は，検出されなかった。

周溝部からは，全般にわたり，土師式土器片，縄文式土器片等を検出する。特にB3j1・B3i2・B3j3・B3i4の南側に面した小調査区の周溝部より，壺形土器片，杯形土器，杯形土器片，高杯形土器片，坩形土器片等を多量に検出する。土器については，鬼高，和泉期のものが多く出土した。

方墳2号（方形周溝墓）

本墳は，B2地区に確認される。

方墳2号の北側には溝（M5号）が西側に向かって縦断し，周溝部を切断する。東側には，住居址33号が位置する。方墳2号の周溝部がこの住居址の壁面および床面を切り込んでいる。

ま と め

志筑遺跡内古墳および周溝

墳丘について

古墳，周溝墓とも墳丘部の盛土がない，その理由として次の事が考えられる。

(1) 鎌倉時代から室町時代にかけて集落があった。

家屋建設のための整地により破壊する。

(2) 集落防備用の溝構築による破壊。

(3) 近年の農耕作業による破壊（元地主の話，ブルトーザー利用して掘削，整地はしていない）

トラクターの利用。

(4) 墳丘部の盛土を，周溝の土で構築されたとすれば，盛土の墳丘は低い。よって，自然的に土は流れ平坦になる。

東側傾斜では，旧表土とされる黒色土の堆積は厚い，墳丘部の土が流れ堆積したものか。

以上，４つの理由が立つが定かではない。

	主体部	台状径（m）	溝幅（m）	深さ（m）	溝形状
円１号	土壙 N－26°－E	短7.45×長7.80	0.70×1.00	0.20～0.50	U字形
円２号	住居址 N－40°－W	12.0×16.0	1.00～1.20	0.40～0.50	U字形
円３号	不明 N－67°－W	½直径 9.0	0.72～1.60	0.20～0.70	U字形
円４号	石棺 N－37°－E	½直径14.0	0.8 ～1.20	0.20～0.50	船底形（スロープ状を呈す）
円５号	石棺 N－63°－E	直径 21.0	1.00～1.50	0.18～0.45	船底形（スロープ状を呈す）
円６号	土壙 N－32°－E	9.70×8.50	0.80～0.90	0.45～0.50	U字形
方１号	土壙 N－２°－E	1.60×1.80	3.00～4.00	0.70～1.50	逆台形状
方２号	土壙 N－30°－E	9.80×13.40	0.85～1.00	0.45～0.50	U字形

〈古墳・周溝の性格〉

また，方墳１号の周溝部が隣接する。本墳の主体部には，住居址32号が位置する。

墳丘の構造

本墳は，墳丘は存在しない。方形の周溝が囲繞するのみである。墳丘は，東西に長く，溝の外側から長径15m 40cm・短形11m 40cm前後の隅丸方形である。

周溝は，円墳１号・２号と同様，Ｕ字形を呈し，幅85cm～１ｍ・深さ50cm前後を呈する。

周溝内の検積土は，黒褐色土，暗褐色土，褐色土等から構成され，自然的な堆積を呈していた。

埋葬施設

本墳の埋葬施設は，土壙である。主軸方向は，Ｎ―60°―Ｗであり，墳丘のほぼ中央部に位置する。長径４ｍ50cm・幅75cm・深さ15cm前後を呈し，底面は平坦である。土壙の西側には，ピットがある。土壙には，住居址32号があり，この住居址を切断し造られたと判断する。住居址の遺物は，北側のコーナーに集中して出土している。

出土遺物

主体部からは，住居址32号の壺形土器片，ヤリカンナ等が検出した。しかし，主体部からは，埋葬に関係する遺物は，検出されなかった。

周溝部からは，縄文式土器，土師式土器片等を少量検出する。

円墳（周溝墓）１号・２号・３号・６号は，Ｕ字形を呈し，溝幅，深さ等も同じ形状態であり，また，方墳２号（方形周溝墓）も同じ形態を示している。

これらの内，円墳１号（周溝墓）円墳６号（周溝墓），方墳１号（方形周溝墓）等が主体部と思われる土壙を持ち，土壙内からの出土遺物は確認されていない。また，周溝部からも確証なる遺物は検出されていない。よって，円形周溝墓，方形周溝墓として判断を下せない現状である。

円墳２号（周溝墓）として，20号住居址で前述した通り，五領期の住居址が検出された。

住居址のプランは明確にとらえられたので調査を実施した。しかし，主体部らしき土壙跡は検出されず，壁面等は破壊されていない点を考えると主体部は，住居遺構の覆土および，その土層の土層に構築されたか？

住居遺構の覆土をみると，東西側の土層に変化が少量みられる。住居遺構の床面は，全体的に褐色土で一部東側に傾斜を示す。住居址の床面はやわらかい。柱穴と思われる跡が確認出来ない。よって，住居址が時代的に古く，後に円形周溝墓が構築されたと判断する。時期は６号墳と同時期と考えられる。

円墳６号（周溝墓）

19号住居遺構は，和泉期に位置すると，この円墳（円形周溝墓）は，和泉期以降の鬼高期に位置され構築されたものと判断される。しかし，周溝部等から遺物はなく決定ずけることは出来ない。また，周溝の南側に位置して，遺物が検出されたので，52号住居址として位置ずけてあるが，住居址の壁面および，床面の柱穴は，確認されていないため仮称52号住居址とした。しかし，住居遺構としての性格はなく，暗褐色土の中に，五領期の壺形土器があった。周溝との関係は，不問とすべきであろう。

方墳１号（方形周溝墓）

小調査区，Ｂ３ｉ１・Ｂ３ｉ２・Ｂ３ｉ３を中心に全体にわたり，土師式土器（壺形土器片，坩形土器片，瓶土器片，杯形土器，杯形土器片，甕形土器等）である。土師式土器の編年より時期的に分けると，和泉期，鬼高期が多いが，特に鬼高期の遺物が多く出土している。これは葬送儀礼の行為ではなかろうか。また，五領期の土器片，弥生式土器の壺形土器，底部，縄文土器片等も混入している。

13号住居址が東側に位置している。この住居址の時期は，和泉期の壺形土器片等を検出している住居遺構であるからして，この和泉期の住居遺構を周溝は切断していることになる。よって，方墳１号の成立期は，和泉期以降～鬼高期に成立したと言える。

方墳２号

この方墳２号は，32号住居址および，33号住居址により，時期判断出来る。

方墳の主体部の土壙は，住居址の遺物を動かして構築されている。住居址は五領期のものであり，遺物は主体部の北側から東側に集積された状況を示している。また，33号住居址は，周溝により切断され，南側を縦断している。33号住居址は，和泉期のものである。溝（Ｍ５号）に接する周溝内より土師式土器，五領期の坩形土器を検出しているが，住居址からの流れ込みと判断される。これらのことからこの方墳２号の構築期は，和泉期以降であり鬼高期に位置すると判断したい。

円墳４号

円墳４号の台状部には，29号住居址が位置しているが，弥生時代後期の長岡式土器に併行するものである。また，周溝部を切り込んで25号住居址が，住居遺構は鬼高期に位置ずけられる，よって，古墳の成立期は鬼高期以降に構築された。

円墳５号

円墳の周溝部には，住居址が周溝により切断されている。

古墳時代，前期の五領期，和泉期に位置ずけられる。41号・45号・47号・51号住居址を切断し，また，弥生時代後期，長岡式土器に併行の住居址を切断している。

古墳の成立は，和泉以降で鬼高期に成立した可能性がつよい。(円墳５号の主体部より検出した土器により鬼高期である)

以上のことから判断すると，成立期は次の通りである。

円墳１号　和泉期以降鬼高期　円墳２号　和泉期以降鬼高期　円墳３号　和泉期以降鬼高期。
円墳４号　和泉期以降鬼高期　円墳５号　和泉期以降鬼高期　円墳６号　和泉期以降鬼高期。
方墳１号　和泉期以降鬼高期　方墳２号　和泉期以降鬼高期。

円墳１～３号は，和泉期以降鬼高期に位置されると思われる。６号も同じ形態を示す。

方墳１・２号および，円墳４～５号は，同時期に位置するだろう。

５号・６号墳は円墳であり，これらを除いた，円墳１・２・３・６号は，円形周溝墓および，小古墳群として捉えるべきものか，主体部の土壙があるか，性格等，明確にとらえられないので，円形周溝にしておくべきか判断しかねる。また，方墳１号・２号同様であるが，１号は性格的に，主体部をもった方形周溝として捉えるべきであろう。

古墳時代の遺物

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
01	1		— 15.8	折り返し口縁	ハケ目調整のあとナデ	ハケ目調整のあとヨコヘラミガキ 頸部ーヘラケズリ	外面ーにぶい黄色 内面ーにぶい橙色 スコリア(多)、軟弱
	2	器台	6.8 8.4	脚部に3孔を有す 底径12.5cm	受部ーヘラミガキ 脚部ーヨコヘラミガキ	受部ーヘラミガキ 脚部ーヘラナデ	外面ー橙色 内面ー暗褐色 砂粒(多)、普通
	3	器台		脚部に3孔を有す	タテヘラミガキ	ナデ	にぶい橙色 砂粒(少)、普通
02	1	壺	22.0 18.9		口縁部ーナデ 胴部ーハケ目調整	口縁部ーハケ目調整	浅い橙色 砂礫(少)、砂粒(多) 普通
	2		16.4 14.6		口縁部ーハケ目調整のあと横ナデ 底部ーヘラケズリ	口縁部ー横ナデ 胴部ーヘラケズリ	浅黄橙色 砂礫(少)、砂粒(多) 普通
	3		— (17.3)		ハケ目調整	口縁部ーハケ目調整	橙色。砂礫(少)、砂粒(少)、軟弱
	4		— —		ハケ目調整		外面ー橙色 内面ーにぶい黄橙色 砂粒(少)、軟弱
	5	高杯	13.5 24.9	脚部に3孔を有す 底径14.7cm	杯部ーヘラミガキ 頸部ーヘラケズリ 脚部ーヘラミガキ		外面ーにぶい褐色、 内面ー橙色、スコリア(少)、砂礫(少)、普通
	6	高杯	— 20.0				橙色 砂粒(少)、普通
	7	高杯	— 14.8		ハケ目調整か(?)	ハケ目調整のあと横ナデ	外面ーにぶい褐色、 内面ーにぶい橙色、 砂粒(少)良好
	8	高杯	— —	脚部に3孔を有す 底径 9.7cm	ヘラミガキ	ヘラナデ	浅黄橙色 砂礫(少)、砂粒(多) 軟弱
	9	坩	— —		胴部ーハケ目調整のあとヘラケズリ	頸部ーハケ目調整	外面ーにぶい黄橙色 内面ーにぶい橙色 スコリア(多)、普通

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
02	10	坩	— —				橙色 砂粒(多)、普通
	11	坩	— 10.7		ハケ目調整のあとヘラミガキ	横ナデ	橙色 砂礫(多)、良好
	12	坩	6.1 13.0		口縁部上－横ナデ、口縁部下～胴部－ヘラミガキ 底部－ヘラケズリ	口縁部－ヘラミガキ	外面－にぶい褐色 内面－橙色 砂粒(少) 普通
	13	杯	3.2 9.9	底径 3.7cm	ヘラナデ、横ナデ 底部－ヘラケズリ	ヘラナデ 横ナデ	にぶい橙色 砂礫(少)、砂粒(多) 普通
04 05	1	壺	— (16.0)				外面－にぶい褐色 内面－にぶい赤褐色 スコリア(多) 砂礫(多)、軟弱
	2	壺	— —	底径 5.0cm	ヘラケズリ	ヘラナデ	外面－にぶい褐色 内面－にぶい赤褐色 スコリア(多) 砂礫(多)、軟弱
	3	高杯	— 8.4		口縁部－横ナデ	ヘラミガキ	明赤褐色、スコリア(少)、砂礫(少)、砂粒(多)、軟弱
	4	高杯	7.7 10.8	脚部に3孔を有す 底径 7.6cm	杯部上－ヨコヘラミガキ 杯部下－タテヘラミガキ 脚部上－タテヘラミガキ 脚部下－ヨコヘラミガキ	脚部上－ヘラケズリ 脚部下－ヘラナデ？	にぶい褐色 スコリア(少) 砂粒(多) 普通
	5	器台	— 8.1		口縁部－横ナデ 受部上－ヘラミガキ 受部下－ヘラケズリ 脚部－タテヘラミガキ	受部－ヘラミガキ 脚部－ヘラナデ(?)	橙色 スコリア(少) 砂粒(多) 普通

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
10	1	壺	— 13.8	折り返し口縁	口縁部ーハケ目調整のあと横ナデ、頸部ーハケ目調整のあとタテヘラミガキ	ハケ目調整のあとヘラミガキ	褐色 スコリア(少) 砂礫(少)、砂粒(多) 普通
	2	壺	— 1.2		口縁部ーハケ目調整のあと横ナデ	口縁部ーハケ目調整のあと横ナデ 胴部ーヘラナデ	外面ー暗赤褐色 内面ー明赤褐色 スコリア(少) 砂礫(少)、砂粒(多) 普通
	3	壺	— 17.2		口縁部ー横ナデ 胴部ーハケ目調整	口縁部ー横ナデ	明赤褐色、スコリア(少)、砂礫(少) 砂粒(多)、普通
	4	壺	15.4 (17.0)		口縁部ー横ナデ 胴部ーヘラケズリ	口縁部ー横ナデ	外面ー褐色 内面ー黄橙色 スコリア(少)、砂礫(少)、砂粒(多) 軟弱
	5	壺	21.0 18.4		口縁部ーハケ目調整のあと横ナデ、胴部ーハケ目調整のあとヘラケズリ、底部ーヘラケズリ	口縁部ーハケ目調整のあと横ナデ 胴部ーヘラナデ	内面ー暗赤褐色 内面ーにぶい褐色 砂粒(少)、砂礫(少) 良好、
	6	壺	11.4 11.5		口縁部ーヘラミガキ 胴部ーハケ目調整のあとタテヘラミガキ	口縁部ーヘラミガキ	外面ー明赤褐色 内面ー明黄褐色 砂粒(多) 普通
11	1	壺	— —	口縁部は「く」の字を、胴部は球形を呈する 底形 7.7cm	ハケ目調整のあとヘラナデ 底部ーヘラケズリ	ヘラナデ	外面ーにぶい橙色 内面ー明褐色 スコリア(多)、砂礫砂粒(多)、外面普通、内面軟弱
	2	甕	22.3 20.5	胴部最大径24.0cm球形をなす	口縁部ー横ナデ 胴部上ーハケ目調整	口縁部ーハケ目調整	外面ー暗赤褐色 内面ー明赤褐色 スコリア(少)、軟弱

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
11	3	甕	29.0 21.5		口縁部ーハケ目調整のあと横ナデ 胴部ーハケ目 底部ーヘラケズリ	口縁部ー横ナデ	明褐色、砂礫(少) 砂粒(多)、普通
	4	甕	— (20.0)	頸部は「く」の字形を呈する	口縁部ーハケ目のあと横ナデ 胴部ーハケ目	口縁部ーハケ目のあと横ナデ 胴部ーヘラミガキ	にぶい黄色、 砂礫(少)、普通
	5	甕	— (18.8)	口縁部は稜をなす、底部は「く」の字形である	口縁部ーハケ目のあと横ナデ 胴部ーハケ目調整	口縁部ーハケ目のあと横ナデ 胴部ーヘラナデ	明黄褐色、砂粒(多) 軟弱
	6	甕	— 13.0		口縁部ーハケ目のあと横ナデ 胴部ーハケ目	口縁部ーハケ目のあと横ナデ 胴部ーヘラナデ	外面ー橙色 内面ー褐色 砂粒(多)、良好
	7	甕	— 14.7		口縁部ーハケ目のあと横ナデ 胴部ーハケ目	口縁部ーハケ目のあと横ナデ 胴部ーヘラナデ	にぶい褐色 スコリア(少)、砂粒(多)、普通
	8	甕	— 11.0	頸部から垂直に立ち上がる口縁を有する	ヘラケズリ	ヘラナデ	橙色 砂礫(多)、砂粒(多) 軟弱
	9	壺	— —	朱色である	ヘラミガキ	ヘラナデ	外面赤褐色、内面ーにぶい橙色 砂粒(少)、普通
	10	壺	— —	底部凹である	ヘラケズリ	ヘラナデ	明赤褐色 スコリア(少) 砂粒(多)、普通
	11	壺	— —		胴部上ーハケ目 ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい褐色 砂礫(少)、砂粒(多) 普通
	12	杯	— —	底部凹を有する	ヘラケズリ	ヘラミガキ	外面ーにぶい橙色 内面ー明赤褐色、スリア(少)、普通
	13	鉢	9.2 (21.4)		ヘラミガキ 底部ーヘラケズリ	ヘラミガキ	赤褐色、スコリア、 砂礫(少)、砂粒(多) 普通

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
11	14	小型鉢	7.4 9.3	意図的に輪積	口縁部粘土はりつける時指オサエ		外面－にぶい橙色 内面－明赤褐色 スコリア(少)、砂礫 良好
	15	高杯	11.5 17.0	上位に3孔有り	杯部－ハケ目のあとヘラミガキ	杯部－ヘラミガキ 脚部－ヘラナデ	にぶい橙色 砂粒(少)、良好
	16	高杯	— 10.9		口縁部－横ナデ ヘラミガキ 杯部下－ヘラケズリ	杯部－ヘラミガキ	明赤褐色 スコリア(少) 砂粒(多) 普通
	17	坩	4.2 8.3		ヘラミガキ	ナデ	外面－褐色 内面－にぶい橙色 スコリア(少)、普通
	18	坩	— —		ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい褐色 砂礫(多)、砂粒(多) 普通
13	1	壺	18.9		ハケ目調整の後ヘラミガキ		にぶい橙、焼成良好 砂礫を微量含む
	2	甕	16.8		ナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ	黒褐色、砂礫を含む 焼成良好
	3	壺	16.1	胴部最大径23.1cm、上位にあり	ハケ目調整のあと、ヘラミガキ	ヘラケズリ	黒褐色、焼成普通 砂粒スコリアを含む
	4	壺	12.2	胴部径15.8cm	口縁部－ナデ ハケ目調整 胴部上－ハケ目調整、胴部下－ヘラミガキ	輪積痕あり ヘラナデ	暗灰黄、砂礫(少) 焼成やや軟弱
	5	小型甕	14.0	胴部最大径13.6cm	口縁部－ヘラナデ、ハケ目調整	ヘラナデ	にぶい黄褐 砂粒(少)、焼成普通
	6	壺	23.2	胴部最大径28.8cmで中位 口縁部「く」の字形	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラミガキ 摩滅ぎみ	にぶい黄橙 砂粒を含む 外灰黄褐 焼成やや軟弱

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
13	7	高杯	— —	脚部に3孔有する	ヘラミガキ	ヨコナデ	橙、焼成やや軟弱 砂粒を少量含む
	8	高杯	— —		ヘラケズリ ハケ目調整	ヨコハケ目 ナデ	にぶい黄褐、焼成やや軟弱、砂粒を含む
	9	器台	— —	底部径11cm 脚部に3孔有り 中央部に貫通孔	ヘラミガキ 底部ナデ ヘラミガキ	ヘラナデ	灰褐 焼成普通 砂粒を少量含む
	10	長頸壺？	(10.4)	長頸部、口縁部20.5cm	頸部ーハケ目調整、ヘラミガキ	ヘラミガキ	明赤褐色 砂礫(少)
	11	杯	4.6 11.6	底部よりラッパ状に開く	ヘラナデ	ヘラナデ	浅黄橙、橙 焼成やや軟弱 砂礫を含む
	12	杯	5.2 9.0	底部より内湾して立ち上がる	未調整の部分が多い ヘラナデ	ナデ	内画ーにぶい黄橙 砂礫、スコリア(少)含む 外面ー灰黄褐 焼成良好
	13	不明	4.3	口縁部下に一対の孔がある 胴部にはタテヨコの縄文とヘラの刺突文がある 志筑では特殊な土器である	ヘラミガキ	輪積痕あり ナデ	(小型有孔壺形土器) 土器の外面は朱である 砂礫を含む 内面はにぶい橙 焼成良好
15	1	壺	10.6	頸部は「く」の字形	縦ハケ目調整	横ハケ目調整	にぶい褐 スコリア、砂礫を含む 焼成良好
	2	高杯	4.0	底部径 8.8cm 脚部は底い	ヘラ整形 摩滅している	輪積痕あり	にぶい橙 スコリア、砂礫を含む 焼成良好
	3	椀	13.4	頸部ー輪積あり	横ヘラナデ	ヨコヘラナデ	にぶい橙 砂粒を多量に含む 焼成粗

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
18	1	甕	18.3	頸は「く」の字形を呈する 胴部最大径26.6cm	口縁部－横ナデ 胴部－摩滅する	横ヘラナデ 輪積痕あり	内面－橙 外面－にぶい黄橙 砂粒(多)、スコリア 軟弱
	2	高杯	— —	底部径 9.6cm	縦ナデ	横ナデ	外面－黄橙 砂粒(少) 内面－黄橙、普通
	3	器台	7.8 7.4	脚台上位に3孔有り 受部中央に貫通孔 杯底部径11.35cm 貫通孔0.95cm	縦ナデ 杯部ナデ	横ナデ 杯内部－ヘラミガキ	明赤褐色 良好 スコリア、砂礫(少)
	4	器台	7.0	中央に貫通孔	受部－意図的に輪積を残している 脚部－タテナデ	杯部—ヘラナデ 脚部－輪積痕あり 脚部下－横ナデ	内面－にぶい黄橙 外面－にぶい黄橙 良好 スコリア、砂礫(少) 砂粒
	5	高杯	— —	脚部のみ、脚部	ヘラナデ調整 底部径12cm	輪積痕あり	明赤褐色、良好 砂粒
	6	器台	— —	脚部径13cm 脚部上位3孔有り、中央部貫通孔	ヘラナデ調整 一部摩滅	横ナデ 輪積痕あり	浅黄橙 砂粒、粗
19	1	壺	16.2	頸部は「く」の字形を呈する	口縁部ナデ ナデ	ヘラナデ 輪積痕あり	褐色、スコリア、砂礫を少量含む 焼成普通
	2	坩	18.6 12.4	口縁部から胴部中位までススが付着	ヘラミガキ 頸部から胴部ヘラケズリ 底ヘラケズリ	ナデ	内面－にぶい黄褐 砂礫を含む、外面－灰褐、底面－明褐色 焼成良好
20	1	壺	22.5	口縁部はゆるやかな有段をなす	ハケ目 ハケ目の後ナデ	ヘラミガキ	外面－にぶい橙 内面－にぶい橙 砂粒(少)、やや軟弱
	2	甕	20.9 16.5	底部径 6.4cm	斜ハケ目 ヘラミガキ	口縁部はヘラ整形、胴部-輪積痕	にぶい褐色 スコリア、砂礫(少)

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
20	2			胴部径20.5cm 口縁部はやや垂直ぎみ外反する 底部は凹む		胴部下位ハケ	砂粒あり、良好
	3	甕	14 15.3	底部径 5.3cm 胴部径17.1cm 頸部「く」の字形	タテナデ ハケ目 底部ーヘラケズリ	横ナデ	外面ー褐色 砂粒(多) 内面ー褐色、やや軟弱
	4	高杯	7.8 7.9	底面径10.8cm 杯はやや傾斜をなす 口縁部内彎する 中央部貫通孔 脚部上位3孔有	タテヘラミガキ 杯部ーヘラミガキ	杯部ーヘラミガキ 輪積痕あり 脚部ーヘラナデ	にぶい橙 砂粒(多) 良好
	5	杯	13.2	底内面より内彎しながら大きく外方へ開く	ヘラナデ	ヘラミガキ	にぶい橙 良好 スコリア、砂粒
23	1	甕	26.3 19.0	「く」の字形を呈する 胴部径25cm 底部やや凹を有する	口縁部ーヘラナデ 胴部ーヘラ調整	頸部に指圧痕がみられる ヘラ整形	にぶい褐色 砂礫含む 良好
	2	甕	26.2 18.5	「く」の字形を呈する頸部 胴部径24.5cm 中心にあり	口縁部ーヘラナデ 胴部ーヘラケズリ スス付着	ヘラ調整 ヘラ痕	胴ー橙、軟弱 底ーにぶい褐色土 砂礫を含む
	3	壺	28.3 16.0	底部凹である	口縁部ーナデ 胴部ーヘラ調整 スス付着	ヘラナデ	内面ーにぶい赤褐色 外面ー黒褐色土 砂礫含、良好
	4	壺	15.6	口縁は外彎気味に外反する 底部欠損	口縁部ーナデ	ヘラナデ	褐色、普通 砂礫(少)

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
23	5	甕	23.2		口縁部ーナデ	ヘラナデ	口縁部ー橙 砂礫(少) 胴部ーにぶい黄橙 良好
	6	甕	18.3	やや直線的な肩部をなす	口縁部ーナデ 胴部上ーハケ目調整 ヘラミガキ	ヘラナデ 輪積痕あり	にぶい橙 砂礫 普通
	7	壺	18.5	口縁部外傾に外反する。 口縁部複合口縁をなす	ナデ後ちヘラミガキ 頸部ーヘラミガキ	ナテのあと ヘラミガキ	にぶい褐色 砂粒、スコリア 良好
	8	壺	19.0	胴部最大径25.6cm	口縁部ナデ ヘラ調整	ヘラナデ 輪積痕あり	橙 砂礫 良好
	9	壺	17.4		口縁部ナデ ヘラナデ調整	口縁部ナデ ヘラナデ	にぶい黄褐色 砂礫(含)、普通
	10	壺	13.2	口縁部から頸部よりゆるやかに外反する	口縁ナデ	輪積痕あり	内面ー橙 外面ーにぶい黄褐 砂礫(含) 粗
	11	壺	ー ー	壺底径 8.2cm	底部ヘラケズリ	ヘラナデ	外面ー褐色 内面ーにぶい黄橙 砂粒を含む やや軟弱
	12	壺	13.1		口縁部ナデ 肩部より下ヘラケズリ	ヘラナデ	橙 砂礫、スコリア(少) 焼成やや軟弱
	13	壺	17.9		口縁部ナデ ヘラナデ調整	ヘラナデ 輪積痕あり	橙 砂粒を含む、軟弱
	14	壺	12.3	口縁部は外反する	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラ整形 輪積痕あり	橙、普通 砂礫(少)
	15	壺	(16.0)	胴部径(16.8cm)	口縁部ナデ 胴部ーヘラ調整 ヘラミガキ	頸部指おさい ヘラナデ	明褐色、普通 砂礫を含む

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
23	16	壺	— 17.8	なで肩 胴部最大径17.1cm	口縁部ナデ 胴部—ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい褐色 砂礫、普通
	17	壺	19.3 13.9	底部 4.9cm	口縁部—ヘラナデ 胴部—ヘラケズリ	ヘラナデ 輪積の後あり	橙 砂礫、やや軟弱
	18	壺	18.8 13.4	胴部—球形を有す、胴部最大径19.5cm、頸部は「く」の字形 口縁部はほとんど垂直に立ち上がる	口縁ナデ 胴部—ヘラミガキ	口縁部ヘラナデの後ヘラミガキ 胴部ヘラナデ	にぶい褐色、一部橙 砂礫、良好
	19	壺	15.7 12.6	胴部は球状を呈する	口縁部—ヘラナデ 胴部下部—ヘラケズリ スス付着	ヘラナデ	内・外面—橙 砂礫、良好
	20	コシキ	27.0 32.4	底部径 8.5cm 貫通孔径 7.2cm 把手2ケ所付	ヘラミガキ ヘラケズリ	ヘラナデ	橙、一部黒褐色 砂粒・スコリア(微) 良好
	21	杯	5.7 13.1	底部-丸味をもつ 口縁部径15.9cm	口縁部ナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラナデ	橙、普通 砂礫
	22	杯	4.6 15.9	口縁部—若干内彎する	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラナデ	橙、普通 砂粒
	23	杯	15.4		口縁部ナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	橙 砂礫、やや軟弱
	24	椀	14.9	口縁部より内彎する	口縁部ナデ ヘラミガキ 摩滅ぎみ	ヘラミガキ	にぶい赤褐色 砂礫、スコリア やや軟弱
	25	杯	6.0 16.8		口縁部—横ナデ ヘラケズリ	ナデ	橙色 砂礫(多)、良好
	26	杯	5.8 15.3	口縁部は内湾する 底部—丸みある	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラナデ	橙 砂礫、普通

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
23	27	杯	7.9 14.0	口縁部は内彎しながら立ち上がる 底部 3.5cm	口縁部ナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	赤黒色 やや軟弱 砂粒
	28	杯	5.8 14.2	口縁部は内彎して稜を有し外反する	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラケズリ 摩滅ぎみ	橙、やや軟弱 砂粒、スコリア(少)
	29	杯	6.9 13.1	底部丸味を有す	ヘラミガキ 口縁部ナデ	ヘラナデ(?)	灰褐色、砂礫 にぶい褐色、やや軟弱
	30	杯	5.3 14.0	底部丸味を有す 口縁部は内彎して稜を有し外反する	ヘラケズリ ヘラミガキ	ヘラナデ	にぶい黄褐色 砂粒を含む 普通
	31	杯	6.1 11.5	口縁部は内彎して稜を有し外反する 底は丸味を示す	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい黄褐 砂粒 普通
	32	杯	6.2 12.1	底面丸味を呈す	口縁部ナデ ヘラケズリ	摩滅ぎみ ヘラミガキ	橙 砂礫、やや軟弱
	33	杯	5.3 10.6	底部丸味を呈す 内彎して立ち上がる	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラミガキ ヘラナデ	明赤褐色 砂礫 良好
	34	杯	5.9 14.4	内彎して口縁部に至る	ヘラケズリ	ヘラミガキ	明褐色 砂礫 普通
	35	杯	4.8 14.4	内彎して口縁部に至る	口縁部ナデ ヘラケズリ ヘラケズリ	ナデ	橙 砂礫を含む 焼成普通
	36	杯	4.9 14.6	内彎して立ち上がり口縁部に至る	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラミガキ	にぶい橙 砂礫を少量含む 焼成普通

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
23	37	杯	5.9 16.3		ヘラナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒褐色、やや軟弱 砂礫を少量含む
	38	杯	5.2	底部に木葉痕あり	ヘラナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	橙、一部にぶい褐 砂礫を含む、やや軟弱 スコリアを含む
	39	杯	6.5 15.9	底部丸味を持つ	口縁部ヘラナデ ヘラケズリ ススが付着	ヘラケズリ	褐色、やや軟弱 砂礫を含む
	40	杯	6.6 15.0	口縁部不整である	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラナデ	外面にぶい赤褐色 砂粒、砂礫を含む 内面にぶい黄橙 焼成良好
	41	杯	4.2 14.4		口縁部ナデ ヘラミガキのあとラフなヘラミガキ	ヘラミガキ	にぶい黄褐 砂粒を含む 焼成普通
	42	杯	5.5 14.0	底面からゆるい傾斜をなし内彎しながら立ち上がる	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラナデ	明黄褐色 砂礫を多くふくむ 焼成やや軟弱
	43	坩	— —	胴部は球状を呈する、底部は丸味をおびている	ヘラミガキ	ヘラナデ	外面－橙 内面－にぶい黄褐色 砂礫を含む、焼成普通
	44	坩	12.6 8.1	胴部最大径15.3cm	ヘラミガキ ヘラナデ(頸部)	ヘラナデ(頸部)	にぶい黄褐色 砂礫を含む 焼成やや軟弱
	45	坩	— —	底部は丸味をおびている 胴部は最大径16.5cm	胴部ヘラケズリ		にぶい赤褐色 砂礫スコリアを含む 焼成良好
25	1	甕	20.4	頸部は「く」の字形	口縁部横ナデ	ヘラナデ 口縁部、横ハケ	橙 スコリア砂礫を含む 焼成良好
	2	杯	4.5	底面より内彎して外方へひろがる	ヘラケズリ ナデ	ヘラナデ	橙 砂礫を含む 焼成良好

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
26	1	壺	25.0 (16.5)	底部径 6.8cm 胴部径22.0cm 口縁部「く」の字形	口縁部横ナデ	輪積痕あり ナデ 口縁部横ナデ	外面－にぶい橙 内面－灰褐色 砂粒、砂礫(多)
	2	椀	9.0 15.2	底面より内彎して口縁部で外反する	口縁部ナデ 胴部ヘラケズリ	ヘラナデ	明褐色 砂粒 焼成良好
	3	杯	4.5 14.8	底面より内彎する	ヘラケズリ	ナデ	外面－褐色 砂礫(少) 内面－にぶい橙 普通
	4	杯	5.1 15.4	底面より内彎する	ヘラケズリ	ナデ	赤褐色 砂礫(少) 良好
	5	杯	5.5 16.6	底面は凹になる	タテヘラ整形	タテヘラ整形	外面にぶい褐色、内面黒褐色、砂礫、普通
	6	杯(?)	7.4 11.2	頸部は「く」の字形	ヘラミガキ 口縁部横ナデ	ヘラミガキ 口縁部横ナデ	橙 砂礫少量、良好
31	1	壺	— —	頸部つなぎめ痕あり 底部径 7.0cm	ヘラナデ 胴部ラフなヘラミガキ、胴部下位ヘラミガキ 底部ヘラケズリ	ヘラナデ 輪積痕あり	にぶい橙 焼成普通 スコリア砂礫少量 砂粒多く含む
	2	杯	5.4 13.8	底部径 4.5cm	口縁部ナデ ヘラケズリ	輪積痕あり ナデ	外面－にぶい橙 内面－明赤褐 焼成普通 スコリア砂礫を含む
	3	紡垂車					
32	1	甕	18.3	頸部「く」の字形を呈する 口縁部径15.3cm 底部欠損	ハケ目	輪積痕あり ヘラ整形 横ナデ	外面－褐色 内面－にぶい橙色 砂粒(少)焼成 普通
	2	甕	22.4	頸部「く」の字形	口縁部－横ナデ ハケ目整形	ヘラナデ 輪積痕あり	外面-暗赤灰、焼成やや軟弱 内面－赤褐色 砂粒多量に含む

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
32	3	甕	(20.5)	胴部径(24.6cm) 頸部は「く」の字形	ハケ目調整 ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ	横ナデ－口縁部	外面－圧褐色 内面－にぶい黄橙 スコリア砂礫(多)
	4	甕	17.7	胴部径(20.8cm) 「く」の字形の頸部	ヘラナデ ヘラ整形	ヘラナデ 輪積痕あり ヨコナデ	外面－圧褐色 内面－にぶい橙 スコリア、砂粒 焼成粗
	5	甕	16.7		ハケ目ヨコナデ ヘラケズリ 頸部「く」の字形 胴部径17.9cm	ヨコナデ ヘラナデ	外面－にぶい黄橙 内面－にぶい黄橙 砂礫多量、焼成粗
	6	器台	6.8	脚部に3孔あり	受部－ヘラナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	明褐色、焼成普通 スコリア砂礫を含む
	7	器台	8.5	中央部貫通孔 脚部に3孔有り	口縁部横ナデ ヘラミガキ ヘラケズリ	受部 ヘラミガキ ヘラケズリ	にぶい褐色 焼成良好 砂粒(少)
	8	器台	— —	脚部径 9.2cm 脚部上位3孔有り	ヘラミガキ		にぶい黄橙 焼成良好 砂粒(少)
	9	器台	— —	脚部底径 9.5cm	ヘラ整形	横ナデ	にぶい黄橙、 焼成良好、砂粒(多)
	10	台付椀	10.0 9.0	台付部 ハケ目ヘラナデ調整	タテヘラナデ	斜ヘラナデ	
33	1	杯	(11.4)		ナデ	ヘラナデ	にぶい橙
	2	土玉					
	3	土玉					
	4	土玉					
37	1	壺	33.7 (14.2)	底部径 8.0cm 口縁部に稜を有する	口縁部－横ナデ ハケ目調整 ヘラナデ 摩滅ぎみ	口縁部－横ナデ	外面－にぶい褐色 内面－橙色 スコリア、砂礫(少) 砂粒(多)、普通

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
37	2	壺	— —	底部に凹を有する	胴部上ーハケ目調整のあとヘラミガキ 胴部下ーヘラケズリ。底径 6.7 cm、底部凹む		外面ー赤橙色 内面ー暗赤褐色 砂礫(少)、砂粒(多) 良好
	3	壺	27.5 20.2		口縁部ハケ目調整のあと横ナデ 胴部下ーヘラケズリ	ヘラナデ	橙色 スコリア、砂粒(多) 良好
39	1	甕	23.0 19.6	「く」の字形 胴部径25.0cm 底部凹をなす	ハケ目調整	輪積 ヘラ目調整	にぶい赤褐 スコリア、砂粒を少量含む
	2	甕	22.9 16.5	頸部は「く」の字形 胴部最大径23.4 cm	口縁部ナデ 胴部上位ハケ目調整 胴部下位ヘラナデ 底部ヘラケズリ	輪積痕あり 口縁部ヨコナデ ヘラナデ	浅黄橙 砂粒、スコリア(少) 焼成、やや軟弱
	3	甕	20.1 18.5	頸部「く」の字形 胴部径22.0cm	口縁部ナデ ハケ目調整 胴部ハケ目調整 底部ヘラケズリ	口縁部ハケ目調整 胴部ヘラナデ	にぶい橙 砂粒、スコリアを含む
	4	甕	21.8 18.6	頸部「く」の字形 底部凹、口縁部径18.6cm 胴部径22.9cm	ヘラナデ ヘラケズリ 口縁部ナデ	ヘラナデ 輪積痕あり	にぶい橙 砂粒、スコリア(少) 焼成普通
	5	壺	18.5	底部欠損	口縁部ヘラナデ 胴部ヘラケズリ ミガキ	輪積痕あり	口縁にぶい橙 灰黄褐色、焼成良好 スコリア砂粒を含む
	6	甕	(19.3)	「く」の字形を呈す	ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ	ヘラケズリ調整	内面ーにぶい赤褐 外面ー暗褐色 焼成粗悪 砂粒、スコリア(少)
	7	甕	17.7 15.1	「く」の字形 胴部径18.3cm	ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ	ヘラナデ	褐灰、にぶい橙、砂粒を含む、焼成普通

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
39	8	甕	16.6	胴部径	口縁ーハケ目調整のヘラナデ 胴部上ハケ目調整、胴部下ハケ目調整の後ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ	スコリア、砂粒(少) 内面ー灰白 外面ー黄灰 焼成粗悪
	9		17.2	「く」の字形 頸部からやや肩が落ちる	口縁ハケ目調整あとナデ 胴部ハケ目調整	輪積あとあり ハケ目調整 ナデ	灰褐色 砂粒を少量含む 焼成やや軟弱
	10	甕	17.0	口縁部ヨコナデ	ハケ目調整の後ナデ ハケ目調整	ヘラナデ	内面ー浅黄橙 砂粒スコリアを含む 外面ー黒褐色 焼成やや軟弱
	11	甕	12.6	口縁部が胴部と同じ	ハケ目調整	輪積のあとあり 口縁部ハケ調整	外面ー黒褐色 内面ー浅黄色 焼成やや軟弱 砂粒スコリア(少)
	12	甕	14.6	胴部径16.0cm	口縁部ハケ目のちナデ ハケ目調整 ヘラケズリ	ヨコナデ	内面ー浅黄橙 外面ー灰褐 焼成やや軟弱 砂粒スコリア含む
	13	甕	16.8	「く」の字形	口縁部ハケ目調整のちナデ ハケ目調整	ヘラミガキ	にぶい黄橙 焼成普通 砂粒スコリア(少)
	14	甕	(15.3)	口縁部のみ	ナデ ナデた後ハケ目調整	ナデ	砂粒スコリア含む 焼成普通
	15	壺	— —	胴部径28.3cm	ハケ目調整 ヘラナデ	ヘラナデ 輪積痕あり	内面ー橙 砂粒スコリアを含む 外面ー灰黄褐 やや軟弱
	16	壺	— —	底部径(5.2cm) 胴部径(18.8cm) 底部凹である 口縁部欠損	ヘラミガキ	輪積痕あり ヘラナデ	橙 焼成やや軟弱 砂粒を含む

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
39	17	壺	— —	胴部径(19.4cm) 底部径 5.8cm 底部凹を示す	ハケ目のあとヘラミガキ、ヘラケズリ	まめつが激しい	橙 スコリアを含む 焼成やや軟弱
	18	坩	— —	胴部径(12.8cm) 底部径(3.8cm) 底部やや凹む	ヘラミガキ ヘラケズリ	ヘラナデ	外面－黄橙 内面－橙 焼成やや軟弱 砂粒を含む
	19	壺	— —	口縁部欠損	ヘラミガキ	輪積痕あり ヘラナデ	橙、焼成普通、砂粒 スコリアを少量含む
	20	壺		胴部径(12.5cm)	ヘラケズリ	摩滅のため不明	にぶい黄橙 焼成軟弱 砂粒を含む
	21	壺	— —	底部のみ	ハケ目調整のあとヘラナデ	ヘラナデ ハケメ調整	褐色、焼成普通 砂粒スコリア含む
	22	壺	— —	底部のみ	ヘラケズリ ハケメ調整	ヘラナデ 摩滅ぎみ	にぶい褐色 焼成軟弱 砂粒を含む
	23	壺	— —	底部のみ	ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい黄橙 焼成やや軟弱 砂粒を含む
	24	壺	— —	底部径 5.3cm	ヘラミガキ	摩滅がはげしい	にぶい褐色 焼成軟弱 砂礫を含む
	25	甕	9.2 11.1	胴部は内彎ぎみに外に開き頸部内側にわずかな稜をもって外反する	ハケ目 下部ヘラケズリ 口縁部ナデ	ナデ	橙 砂礫スコリアを少量含む 焼成粗悪
	26	高杯	— —	脚部径 8.8cm	ハケ目調整	ヘラケズリ(上) ハケ目調整(下)	にぶい橙、焼成普通 砂粒、スコリア含む
	27	高杯	— —	脚部径(10.7cm) 脚部は開きの少ないラッパ状を呈する	ハケ目調整の後ヘラケズリ	ハケ目調整	橙 砂粒、スコリア含む やや軟弱

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
39	28	高杯	11.1 16.0 底部径 9.0	内彎して大きく外方に開く、杯部と小さなラッパ状を呈する 脚部、杯部と脚で接合している状況を示している	ハケ目調整 杯、脚部ハケ目ナデ	杯部横ナデ 脚部ナデ	スコリア砂礫を含む にぶい黄橙 焼成良
	29	台付甕	— —	台部のみである	ハケ目調整	ハケ目調整	にぶい黄橙 焼成やや軟弱 砂粒を少量含む
	30	器台	8.5	杯部は底でわずかに内彎し口縁部に至る	ヘラミガキ	台部ヘラケズリ	内面－赤 外面－橙 砂粒を含み焼成普通
	31	椀	11.9	内彎する下位からやや内傾気味に外反する 口縁部、輪積痕を残す	ハケ目調整の後ヘラケズリ ヘラナデ	ハケ目調整	橙 砂粒スコリア(少) 焼成普通
	32	コシキ	14.8 20.8	口縁部は折り返し口縁を示す 頸部には輪積が残る	ヘラケズリ 口縁部ナデ	ヘラ調整	橙 砂礫スコリア含む 焼成良好
	33	坩	15.1 (13.8)		口縁部ナデ 胴部タテ向のヘラナデ 下ヘラケズリ		にぶい黄橙 砂粒スコリアを少量含む
	34	坩(長頸壺)	22.0 12.2	胴部の最大径15.9cm 底部から内彎し頸部から稜を有して「く」の字形に外反する	ナデ 口縁部、頸部タテヘラミガキ	ヘラミガキ	にぶい黄橙 焼成粗悪 砂粒を少量含む
	35	杯	5.7 14.7	底面より内彎しながら立ち上がる	朱ぬり 口縁部ナデ 底部ヘラケズリ	ナデ	橙 砂粒スコリアを少量含む

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
39	36	杯	5.4 14.0	底面より内彎しながら立ち上がる、口縁部内側に内反する	胴部ヘラミガキ 口縁部ナデ	ヘラミガキ 摩滅ぎみ	外面－にぶい赤褐色 内面－にぶい赤褐色 焼成粗 砂粒スコリアを含む
40	1	甕	19.3 14.7	胴部径18.4cm 頸部は「く」の字形	胴部位、ハ目調整 口縁部ヘラナデ	ヘラナデ	外面－灰褐 内面－にぶい橙 焼成普通、砂粒(少)
	2	甕	— (20.0)	頸部は「く」の字形、接合の痕あり（頸部にみられる）	ナデ	ナデ	にぶい橙 焼成普通 砂粒を含む
	3	甕	20.6	肩が落る状態を示す	ヘラケズリ ハケ目調整 口縁部ナデ	ヘラナデ 輪積痕あり	にぶい黄橙、焼成良好、砂粒を少量含む 内面－橙
	4	壺	— 16.0		ナデ	ナデ	外面－にぶい褐 砂礫を含む、焼成普通、スコリア含む
	5	壺	— (20.0)	口縁部は「く」の字形	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラケズリ	にぶい橙 焼成普通 砂礫、スコリアを含
	6	高杯	(10.6) (18.8)	脚部上位に3孔あり	ナデ、ハケ目ヘラミガキ	脚部ヘラケズリ 杯部ヘラミガキ	にぶい橙 焼成普通 砂粒(少)
	7	杯	4.8 15.5	底面丸味をもつ	ヘラケズリ	ヘラナデ	暗赤褐色 砂粒、スコリア(少) 焼成普通
	8	土玉					
44	1	高杯	—	脚部、杯部欠損	ナデ	ナデ	にぶい黄橙、砂礫を含む 焼成良好
	2	有孔円盤	—				
45	1	壺	16.0	折り返し口縁	ナデ ハケ目調整	輪積痕あり 横ナデ	砂粒、にぶい褐色 焼成－軟弱

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
45	2	壺	— —	頸部は「く」の字形 胴部径34.8cm	ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラケズリ 輪積痕あり	内－黄褐色、砂粒含 外－明黄褐色 焼成－軟弱
	3	壺	— —	底部径 7.0cm 底部よりゆるい傾斜で立ち上がる	ハケ目調整のあとヘラケズリ	ヘラナデ	内面－暗褐色 砂粒含 外面－にぶい橙
	4	甕	— (20.7)		ナデのあとハケ目調整		橙、普通 砂粒を含む
	5	壺	— —	底部径 8.2cm 凹を有する	ヘラケズリ		明黄色 焼成軟弱
	6	壺	— —	底部径 6.2cm やや凹を有する			内－橙色、外－褐色 砂粒(少) 焼成やや軟弱
	7	壺	— —	底部径 7.1cm やや凹を有する			橙色、普通 砂粒(少)
	8	壺	— —				橙、焼成軟弱 砂粒(少)、スコリア
	9	小甕	12.1	底部欠損 胴部から内彎して立ち上がり、口縁部で外反する	口縁部ナデ ハケメ調整のあとヘラミガキ	ヘラナデ	外－にぶい黄褐 砂粒 内－にぶい黄橙 スコリア(少) 普通
	10	器台	8.8 9.0	脚台3孔 受部中央に貫通孔	口縁部ナデ 杯ヘラミガキ 脚ヘラミガキ		内－にぶい黄橙 外－黄、灰、黄褐 砂粒、スコリア(少) 焼成、普通
	11	杯	4.4 12.7	底部は丸味を持つ	ナデ ヘラケズリ	ヘラミガキ	橙、普通 砂粒(少)
46	1	壺	— —	胴部径26.7cm 底部、頸部、なし 口縁部なし 胴部のみ	タテヘラケズリ	横ヘラナデ 輪積痕あり	橙 砂粒 良好
	2	高杯	5.5 (17.4)	杯部のみ残存 ゆるい傾斜で外反する	口縁部ヘラナデ 中間部ヘラミガキ 頸部ヘラケズリ	タテヘラミガキ	黄橙 砂粒(多) 良好

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
46	3	杯	5.4 13.0	底面より内彎する	ヘラケズリ 口縁部ナデ	ヘラナデ	内面－灰黄橙 スコリア 外面－橙 普通、砂粒(少)
	4	杯	6.1 13.5	底面より内彎する	ヘラケズリ 口縁部ナデ	ヘラナデ	にぶい橙 普通 砂礫
	5	杯	5.8 —	底面より内彎する	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラナデ	明赤褐色、普通 砂粒、砂礫
	6	杯	5.4 15.5	底面より内彎する	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラミガキ	橙 普通 砂粒
47	1	器台	— —	脚台、裾はやや開く、底径8.4cm脚部に3孔杯中央に貫通孔	タテヘラミガキ	杯、ヘラミガキ	赤褐 スコリア砂粒(多)含む、 焼成普通
50	1	壺	26.1 19.5		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	口縁部－横ナデ ヘラケズリ	にぶい橙色 スコリア、砂礫(少) 普通
	2	壺	25.9 20.3		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	口縁部－横ナデ ヘラケズリ	黄橙色 スコリア(少) 砂粒(少)、普通
	3		— —				にぶい橙色 砂礫(少)、やや軟弱
	4	壺	— 9.3		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	口縁部－横ナデ	橙色、スコリア(少) 砂粒(少)、普通
	5	甕	— —		底部－ヘラケズリ	ヘラナデ	明赤褐色 砂礫(少)、普通
	6		— —	底径 6.9cm	ヘラケズリ	ヘラナデ	外面－にぶい赤褐色 内面－灰褐色 砂礫(少)、普通
	7		— —	底径 5.9cm	ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい橙色 砂粒、やや軟弱
	8		— —	底径 5.7cm	ヘラケズリ	ヘラナデ	外面－にぶい赤褐色 内面－灰褐色 砂粒、普通

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
50	9	高杯	— 17.7		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	横ナデ	外面－赤色 内面－にぶい黄色 砂礫を含む やや軟弱
	10	高杯	16.0 17.3	底径13.9cm	杯部－口縁－横ナデヘラケズリ 底辺端部－横ナデ	杯部－口縁－横ナデ 底辺端部－横ナデ	橙色 砂礫(少) 軟弱
	11	高杯	12.2 19.1	底径14.9cm	杯部-口縁-横ナデ、ヘラケズリ 底部端部－横ナデ、脚部－ヘラミガキ	杯部－口縁－横ナデヘラミガキ 底辺端部－横ナデ、脚部－ヘラケズリ	橙色 砂礫(少) 普通
	12	高杯	14.3 19.4	底径14.9cm	杯部－横ナデ 底辺端部－横ナデ	杯部－横ナデ 脚部－ヘラケズリ、底辺端部－横ナデ	橙色 スコリア(少) 砂粒(少) 良好
	13	高杯	13.0 17.5	底径13.9cm	杯部－口縁－横ナデケズリのあとタテヘラミガキ 脚部—ヘラミガキ	杯部－横ナデ 脚部－ナデ	橙色 砂礫 普通
	14	高杯	12.4 18.0	底径11.6cm	杯部－口縁－横ナデヘラミガキ 脚部—ヘラミガキ 底辺端部－横ナデ	杯部－横ナデ 脚部－ナデ 底辺端部－横ナデ	にぶい褐色 スコリア(少) 砂粒(少) 良好
	15	杯	4.8 14.8	底径 4.2cm	口縁部－横ナデ ヘラミガキ(?)	口縁部－横ナデ ヘラミガキ	橙色 砂粒(少)、やや軟弱
	16	杯	4.6 15.8		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	ナデ	にぶい橙色、砂礫 やや軟弱
	17	杯	5.7 15.7	底径 5.6cm	口縁部－横ナデ ヘラケズリ	横ナデ	橙色 砂礫、やや軟弱
	18	杯	6.7 15.4		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	横ナデ	にぶい黄褐色、スコリア(少)砂粒(少)普通
	19	杯	4.8 16.0		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	横ナデ	明赤褐色 砂礫 やや軟弱

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
50	21	杯	6.4 17.8		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	口縁部－横ナデ	にぶい橙色 砂礫(少)、やや軟弱
		杯	6.9 15.3		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	横ナデ	橙色 砂粒、軟弱
	22	杯	6.2 15.7		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	口縁部－横ナデ 放射状暗文（ヘラミガキ）	橙色 砂礫、普通
	23	杯	6.7 15.1		口縁部－横ナデ	口縁部－横ナデ ヘラミガキ	橙色 砂礫、軟弱
	24	杯	5.9 15.4		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	口縁部－横ナデ ヘラミガキ	橙色、スコリア(少) 砂粒(少)、普通
	25	杯	6.3 16.2		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	口縁部－横ナデ 放射状ヘラミガキ	外面－にぶい黄橙色 内面－明赤褐色 良好
	26	杯	6.4 (12.4)		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	口縁部－横ナデ ヘラナデ	にぶい橙色 スコリア(少) 砂粒(少)、普通
	27	杯	— 16.0		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	横ナデ 口縁部－横ナデ ヘラミガキ	にぶい橙色 スコリア(少) 砂粒(少)、普通
	28	杯	— 14.0		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	口縁部－横ナデ ヘラミガキ	にぶい褐色 砂粒、普通
	29	鉢	— 21.7		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	口縁部－横ナデ ヘラナデ	橙色 砂粒、軟弱
	30	椀	8.2 13.1		口縁部－横ナデ ヘラケズリ	ヘラナデ	橙色、スコリア 砂礫、やや軟弱
	31	椀	— —		ヘラケズリ	口縁部－横ナデ	橙色 砂粒、普通
	32	小形甕	5.4 6.3	底径 4.6cm	口縁部－横ナデ ナデ(?)	口縁部－横ナデ	にぶい橙色 砂礫、良好
51	1	坩	9.5 11.7		口縁部－横ナデ ヘラミガキ 底部—ヘラケズリ	口縁部－横ナデ ヘラナデ	橙色 普通
52	1	壺	— (15.0)	口縁部のみ	口縁部ナデ ハケ目調整、横ナデ、頸部タテハケメ調整	ヘラミガキ	橙、砂粒(少) 良好

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
52	2	壺	— —	底部から胴部にかけて⅔残存 底部径5cm	ヘラケズリ		にぶい橙 砂粒、スコリア 良好
	3	壺	— —	胴部のみ胴部の最大径16.9cm	ハケ目調整のあとヘラミガキ 底部よりヘラケズリ	ヘラナデ 輪積痕あり	砂粒(含) 普通
	4	壺	— —	胴部最大径28cm 底部6cm	ヘラケズリ	横ヘラナデ 輪積痕あり	砂粒を含む、褐色 スコリア(少)、普通
	5	壺	— 12.0	口縁部「く」の字形	ハケ目調整	横ナデ	砂粒(少) 橙、普通
	6	壺	— 12.8	底部欠損	口縁部は横ナデ 胴部ハケ目調整	口縁部横ナデ ヘラナデ	内面橙、焼成粗 外面褐灰色、砂粒
	7	支脚	11.3	底面径10.9cm 高さ11.3cm			砂粒(含)、黄橙、良 良好、
54	1	壺	16.2 15.3	底部中央に、焼成後外側から穿孔し、研磨している 底径 4.2cm	口縁部ーハケ目調整のあと横ナデ、胴部ー上ーハケ目調整 胴部ー下ーヘラケズリ	口縁部ーハケ目調整のあと横ナデ	赤褐色 砂礫(少) 普通
	2	壺	— —	底部中央に焼成後外側から穿孔し、研磨している、底径6.6cm		ヘラナデ	にぶい褐色 砂粒 軟弱
	3	壺	18.5 19.0		口縁部ーハケ目調整のあと横ナデ、胴部ー上ーハケ目調整、胴部ー下ーヘラナデ、底部ーヘラケズリ	口縁部ーハケ目調整のあと横ナデヘラナデ	明赤褐色 スコリア、砂礫 普通

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
54	4	器台	8.5 8.1	脚部に3孔を有す	杯部－口縁－横ナデ ヘラケズリのあとヘラミガキ 脚部—ヘラミガキ 底辺端部-横ナデ	杯部－口縁－横ナデヘラミガキ 脚部－ヘラナギ 底辺端部－横ナデ	砂粒 普通
55	1	器台	8.0 (8.8)	底径（12.0cm）	口縁部－横ナデ 脚部—ヘラミガキ 底辺端部-横ナデ	口縁部－横ナデ 脚部—ヘラナデ 底辺端部-横ナデ	橙色 砂礫(少)、スコリア(少) 砂礫(多)、普通
57	1	壺	15.0 (17.4)		口縁部－横ナデ ハケ目調整	口縁部－横ナデ ヘラナデ	橙色、スコリア(少) 砂礫、軟弱
	2		— —	底径 5.9cm	ハケ目調整 底部—ヘラケズリ		橙色 砂粒(少)、普通
	3		— —	底径 7.4cm	ヘラケズリ	ヘラナデ	外面－にぶい黄褐色 内面－にぶい黄橙色 砂粒(少)、普通
	4		— —	底径 6.3cm	ヘラケズリ	ヘラナデ	外面－橙色 内面－にぶい黄橙色 砂粒、普通
	5		— —	底径 5.4cm	ヘラケズリ		橙色 砂粒(少)、普通
	6		— —	底径 5.5cm			外面－にぶい黄橙色 内面－橙色 スコリア(少)、砂粒 やや軟弱
	7		— —	底径 3.6cm	ハケ目調整	ヘラナデ	にぶい黄橙色 砂粒(少)、普通
	8		— —	底径 7.1cm	ヘラケズリ	ヘラナデ	浅黄橙色 砂粒(少)、普通
	9		—	底径 4.2cm	ヘラミガキ	ヘラナデ	にぶい橙色 スコリア(少)、砂粒 普通
	10	小型壺	7.9 8.4	底径 5.0cm	口縁部－横ナデ	口縁部－横ナデ ナデ	にぶい黄橙色、スコリア(少)、砂粒(少)、普通
	11	小型壺	7.7 10.8		胴部－ハケ目調整(?)のあとヘラケズリ	口縁部－横ナデ	橙色 スコリア(少) 砂粒(少)、普通

住居址	土器No.	器形	法量(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
57	12		7.3 (11.4)		口縁部－横ナデ	口縁部－横ナデ	灰黄褐色 スコリア(少)、砂粒 軟弱
方墳 1号	1	甕	— (18.3)	「く」の字形を呈する	口縁部ナデ ヘラケズリのあと粗つなヘラミガキ		外面－にぶい赤褐色 内面－にぶい橙 砂礫、砂粒(多) 良好
	2	甕	9.0 19.0	「く」の字形を呈する	口縁部－ナデ ヘラナデ	ヘラナデ	外面－にぶい橙 内面－にぶい橙 砂礫(多)、スコリア 良好
	3	甕	— 20.3	頸部外反する	口縁部ナデ ヘラナデ	ヘラナデ	橙、砂粒(多) スコリア、砂礫(少) 普通
	4	甕	— —		ヘラミガキ 底部－ヘラケズリ	ハケ目調整	外面－赤褐色 内面－橙、砂礫 砂粒(少)、普通
	5	高杯	— —	底部はラッパ状に開く	ヘラミガキ		明赤褐色 砂礫ウンモを少量 砂粒(多)、普通
	6	器台	— 7.5	脚部に3孔有す 中央部貫通孔有り	口縁部ナデ ヘラケズリ ヘラミガキ		明赤褐色 砂礫(少)、砂粒(多) 普通
	7	坩	15.1 (9.2)	底部凹を有す 底径 5.8cm	口縁部ナデ ヘラミガキ 底部—ヘラケズリ	ナデ	外面－明赤褐色 内面－灰褐 砂粒、砂礫(多) 普通
	8	杯	6.4 (14.4)	底部から内彎しながら立ち上がる 底径 5.6cm	ヘラケズリ 口縁部ナデ	ヘラミガキ	外面－明赤褐色 内面－にぶい黄橙 砂礫、砂粒(多) スコリア(多)、普通
	9	杯	(5.8) (15.7)		ヘラケズリ (ヘラミガキ)	放射状のヘラミガキ	明赤褐色 砂粒(多)、軟弱
	10	杯	5.3 14.0	底部から内彎しながら立ち上がる	ヘラケズリ 未調整の部分が残る	ナデ	赤褐色、砂粒(多) 良好

住居址	土器No.	器形	法量(器高)(cm)	器形の特徴	外面	内面	備考
方1	11	杯	4.1 14.4	底径 6.0cm	口縁部ナデ ヘラケズリ	ヘラナデ	橙 砂礫(少)、砂粒(多) 普通
	12	杯	6.6 14.6	底部から内彎しながら立ち上がる	口縁部ナデ ヘラケズリ	マメツ　ナデ	橙 スコリア、砂礫(少)
	13	杯	5.7 15.0	口縁部は外反する	口縁部ナデ ヘラケズリ	ナデ	明赤褐色 砂礫(多)、良好
	14	杯	5.55 15.1	口縁部は内彎する 底径 6.5cm	ヘラケズリ 口縁部ナデ	放射状のヘラミガキ	外面－暗赤褐色 内面－にぶい赤褐色 砂礫(少)、砂粒(多) 良好
	15	杯	4.2 14.9	底径 4.8cm	口縁ナデ ヘラケズリ	ナデ	橙 砂礫(少)、砂粒(多) 普通
	16	杯	6.15 14.6	底部から内彎している。底部丸味をもつ	底径 5.7cm		明褐色 スコリア砂粒(多) 普通
	17	杯	5.0 16.0	底部から内彎しながら立ち上がる 底部丸味をもつ	ヘラケズリ 朱色 口縁部ナデ	ヘラケズリ	赤 スコリア(多) 普通 砂礫、砂粒(多)
	18	杯	4.5 13.6		ヘラケズリ 口縁部ナデ	ヘラナデ	外面－明赤褐色 内面－赤色、軟弱 砂礫、スコリア(多)
	19	杯	— 14.0		ヘラミガキ	ヘラミガキ	褐色、普通 スコリア(少) 砂粒(多)
	20	杯	7.8 (15.3)	底部は不整形であり底部は内彎しながら立ち上がり口縁部は、外反する	口縁部ナデ ヘラケズリ 底部－木の葉圧痕	マメツギミ	外面－明赤褐色 内面－赤色 砂礫(多) 軟弱

(注)　法量は、上－器高、下－口径を、(　)内は推定置を示す。
備考は、色調、胎土、焼成を示す。
縄文、弥生時代の遺物については、拓影・実測のみである。

その他の遺構

住居遺構

小調査区B 3d8・B 3e7・B 3e8・B 3f7・B 3f8・B 3g7・B 3g8 で13号・14号・17号住居址に確認された遺構である。

雲母片岩の石が間隔をおいて検出される。縄文時代，古墳時代の住居址とは異なるものと判断し，石の配置されている状況を調査した結果，次の様なことが明らかになった。

S 1—S 2—S 5，S 2—S 3，S 3—S 7，S 11—S 14—S 16，S 4—S 5—S 6，S 7—S 8—S 9—S 10，S 11—S 12—S 13，S 14—S 15，S 6—S 8—S 12—S 13等が線上で結ばれる。特に東西S 7—S 8，S 11—S 12，S 14—S 15の各々の長さは3m 42cm前後を示し，また，南北のS 7—S 11，S 11—S 14，S 14—S 16，S 8—S 12，S 12—S 15の長さは，2m 14cm前後を示している。

S 7—S 8—S 12—S 11—S 7を結んだ結果，長方形となる。また，S 11—S 12—S 15—S 14—S 11で結んだ所は長方形となり同じ面積で7.31㎡を示す。

石の高低を測ると次の様な表を示す。

石	標　高	高低差	石	標　高	高低差
S 1	23.084m	−0.5	S 10	23.920m	+0.335
S 2	23.596m	−0.011	S 11	23.393m	−0.192
S 3	23.460m	−0.125	S 12	23.223m	−0.362
S 4	23.485m	−0.100	S 13	24.447m	+0.862
S 5	23.467m	−0.118	S 14	23.637m	+0.047
S 6	23.686m	+0.101	S 15	24.074m	−0.489
S 7	23.560m	−0.025	S 16	23.474m	−0.111
S 8	23.515m	−0.07	S 17	23.324m	−0.261
S 9	23.496m	−0.089	S 18	23.690m	−0.105

（標高　23,585m を基準とする）

S 7—S 11—S 14—S 16の南北関係，S 7（高）—S 11（低）—S 14（高）—S 16（低）

S 4—S 5—S 6の東西関係，S 4—S 5—S 6は，水平に近い。

S 11—S 12—S 13，東西関係，S 11（高）—S 12（低）—S 12（低）—S 13（高，非常に高い）

住居址の礎石とした場合，黒色土層及び暗褐色土層の中にピットを掘り，ピットの中に雲母片

岩を入れ，柱の安定をはかる，深く，浅くという，たがいちがいにピットを構えたと推察する。

礎石の検出は一部であり，また，攪乱等により粉失している部分もあるが，住居遺構として捕えられる。

ま と め

鎌倉時代から室町時代にかけて志筑遺跡には松延集落が存在したと言われている。

地籍図によると，字名として，愛宕下，愛宕，雷神，松延，鹿島窪，鹿島久保，十三塚，永久保，要害等があり，これらの内字松延は広い地域をしめる。雷神，愛宕，要害等の字名は，城塞館址，城跡等に存在する。特に要害の字名は，城塞，城跡に多くある。要害の字は，大塚10号墳の傾斜面の谷津付近に位置する。土塁，堀等はみられない。

今般発掘調査した志筑遺跡から，縄文時代，弥生時代，古墳時代の遺構とは異なる。雲母片岩で構成された住居遺構は松延集落の遺存と判断した。その結果，松延集落を取り囲み，防備の目的で溝（Ｍ１号・Ｍ３号・Ｍ５号・Ｍ６号）を構築したと判断される。溝からは，古墳の石棺にも利用されているが，住居遺構の礎石にも利用されている雲母片岩を底面から検出する。また鎌倉時代頃，生活用具として使用されている甕形および壺形の陶器片，須恵器片等も少量検出している。

これらの事からも，住居址遺構と，溝（Ｍ１号・Ｍ３号・Ｍ５号・Ｍ６号）は同時期の遺構と判断される。しかし，溝と住居遺構を結びつける確証はない。

第13章　ま　と　め

今回調査した松延古墳群，志筑遺跡の住居址群，円墳，方墳，溝などについては，以上述べた通りである。

松延古墳群は，大塚古墳の一部であり前方後円墳の２号墳の北側には円墳が２基ほど点在している。また，周辺の畑地には小さい隆起状の古墳があり掘削，削平された姿がみられる。志筑台地にあっては松延古墳１号・２号の墳丘が残存していたのは稀なことである。

発掘調査の結果，松延古墳群の松延１号墳から埋葬施設の検出ができなかったのは残念である。周溝確認により円墳であることが判明した。周溝部から鬼高期に位置する土器片を検出し，また，須恵器片などを検出した。

松延２号墳の調査の結果，前方後円墳で半封土，半ローム面に掘り込み，構築された埋葬施設を確認し，周溝部からは埴輪片を検出した。その他，台状部には五領期の住居遺構を確認したことが発掘調査の収穫であろう。

志筑遺跡

発掘調査により，縄文時代の住居址２基，弥生時代住居址８基，古墳時代の住居址48基，方墳２基，円墳６基，溝６基，歴史時代の住居址１基，その他の土壙，ピット群を検出した。

縄文時代の住居址は縄文時代中期であるが，発掘敷地外の広範囲にわたり土器の破片が散布している。特に中期から後期のものである。

弥生時代の住居址であるが，弥生後期の長岡式に併行すると思われるものであり，恋瀬川，南岸で確認されたのは最初である。また，常磐高速自動車道敷地の西原地区で確認され，恋瀬川の支流，天の川流域にも存在することが明らかになった。

古墳時代の住居址は，五領期，和泉期，鬼高期を中心としており，これらの住居址集落と古墳群の構築期との関連性を追究する資料となるであろう。また，円墳１号～６号，方墳１号～２号が検出されている。特に注目すべき点は，和泉期の住居址を破壊し構築されている点であろう。

円墳１号・２号は，埋葬施設は確認されず，円墳３号・６号は土壙を検出し，円墳４号・５号からは石棺の埋葬施設を確認する。方墳１号は，黒色土を切り込み，土壙を造り埋葬施設としている。この周溝からは和泉期，鬼高期の土師式土器を検出している。周溝および埋葬施設などから考え方形周溝墓の可能性を秘している。方墳２号も埋葬施設の土壙を持つ。

円墳１号・２号・３号・６号，方墳２号は，同じ形状のU字形の溝が構築している点が特色とみられる。そして，これらの古墳は円形周溝，方形周溝としておくべきものか，円，方形周溝墓

とすべきか，解明しがたい問題を残している。

その他，溝，土壙などが存在する。

溝の構築期については，周溝底より検出した遺物から判断される程度である。土壙については成立期，用途など不明な点が多い。

今回発掘調査した古墳群および，住居址群などについて述べてきたが，詳細な研究は後にゆずるとして，古墳および，住居址群の構成性格をつかむことができた。

恋瀬川南岸の志筑台地に縄文時代から今日に至るまでの永年に渡る生活が営まれてきたと言える。

〈参考文献〉

○財団法人茨城県教育財団「常磐自動車道敷地内埋蔵文化財調査報告Ⅰ」　昭和54年３月

○財団法人茨城県教育財団「松葉遺跡」　昭和54年３月

○井上義安「茨城県大洗町長峯遺跡」　大洗町教育委員会　昭和48年12月

○駒宮史朗他「本郷・愛宕」埼玉県遺跡発掘調査報告書第７集，埼玉県教育委員会　昭和50年11月

○小久保徹他「鶴ケ丘」　〃　第８集　埼玉県教育委員会　昭和52年12月

○中村恵次他「東寺山石神遺跡」　財団法人千葉県文化財センター　昭和52年３月

○中村浩他「陶邑」大阪府文化財調査報告書第28集，大阪府教育委員会　昭和51年３月

○茨城県教育委員会「宮中野古墳群調査報告」　昭和45年３月

○茨城県史編集委員会「茨城県資料　考古学資料編　古墳時代」茨城県　昭和49年２月

挿　　図

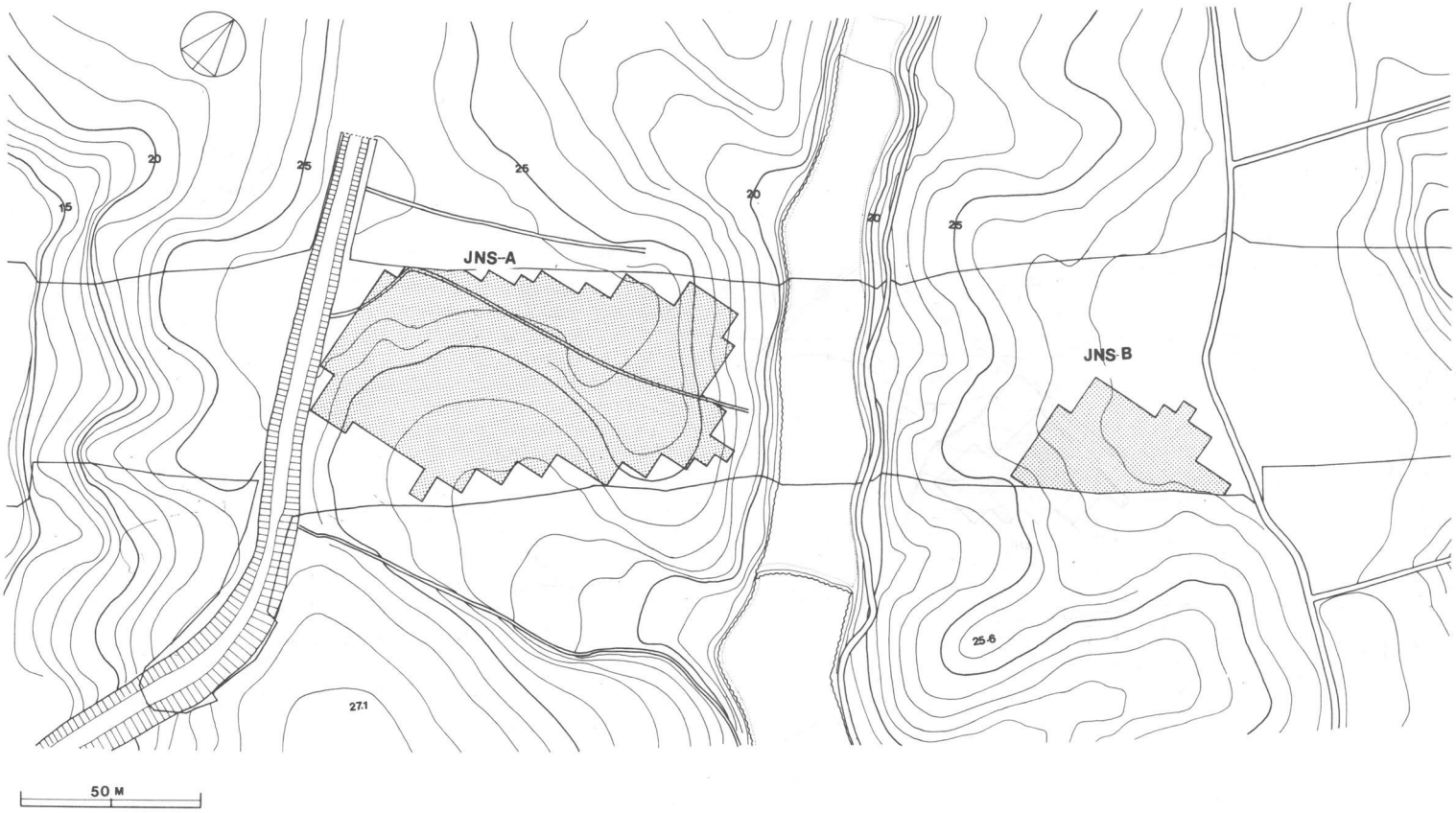
市川
笄崎

第１図　位　置　図

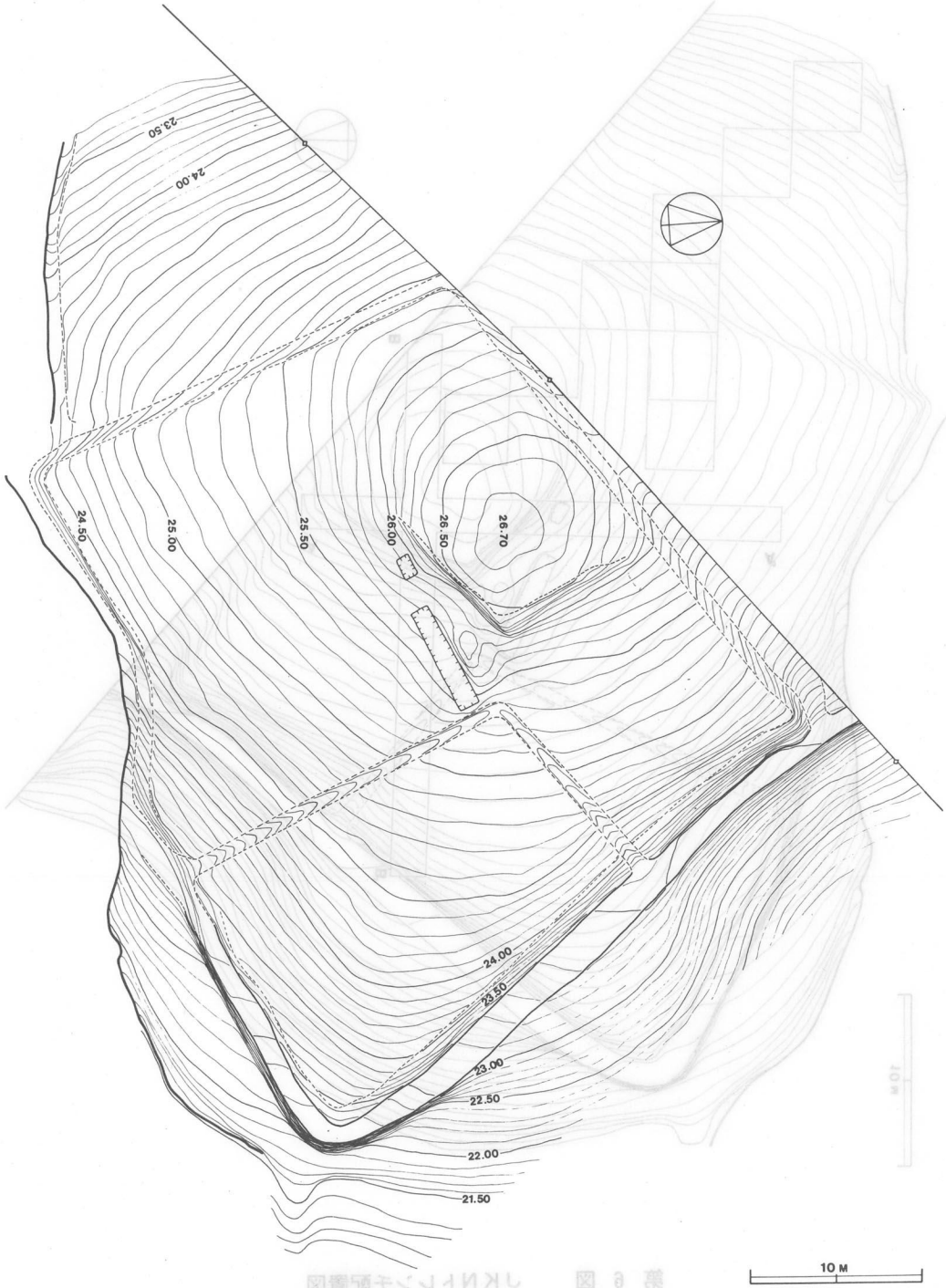
番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名
1	上稲吉西原古墳	8	大塚古墳群	2024	四万騎古墳群
2	上稲吉西原Ａ遺跡	9	松延１・２号古墳	2025	御手洗古墳群
3	上稲吉西原Ｂ遺跡	10	志筑遺跡	2033	笄崎古墳群
4	上稲吉西原Ｃ遺跡	2010	千代田中学校付近遺跡	2868	市川遺跡
5	中佐谷十百遺跡	2014	根崎遺跡	2873	根崎遺跡
6	中佐谷Ａ遺跡	2016	志筑遺跡		
7	中佐谷Ｂ遺跡	2023	西田古墳群		

第 2 図　　上稲吉西原古墳 A・B遺跡全体図

第 3 図　上稲吉西原C遺跡・中佐谷十百遺跡全体図

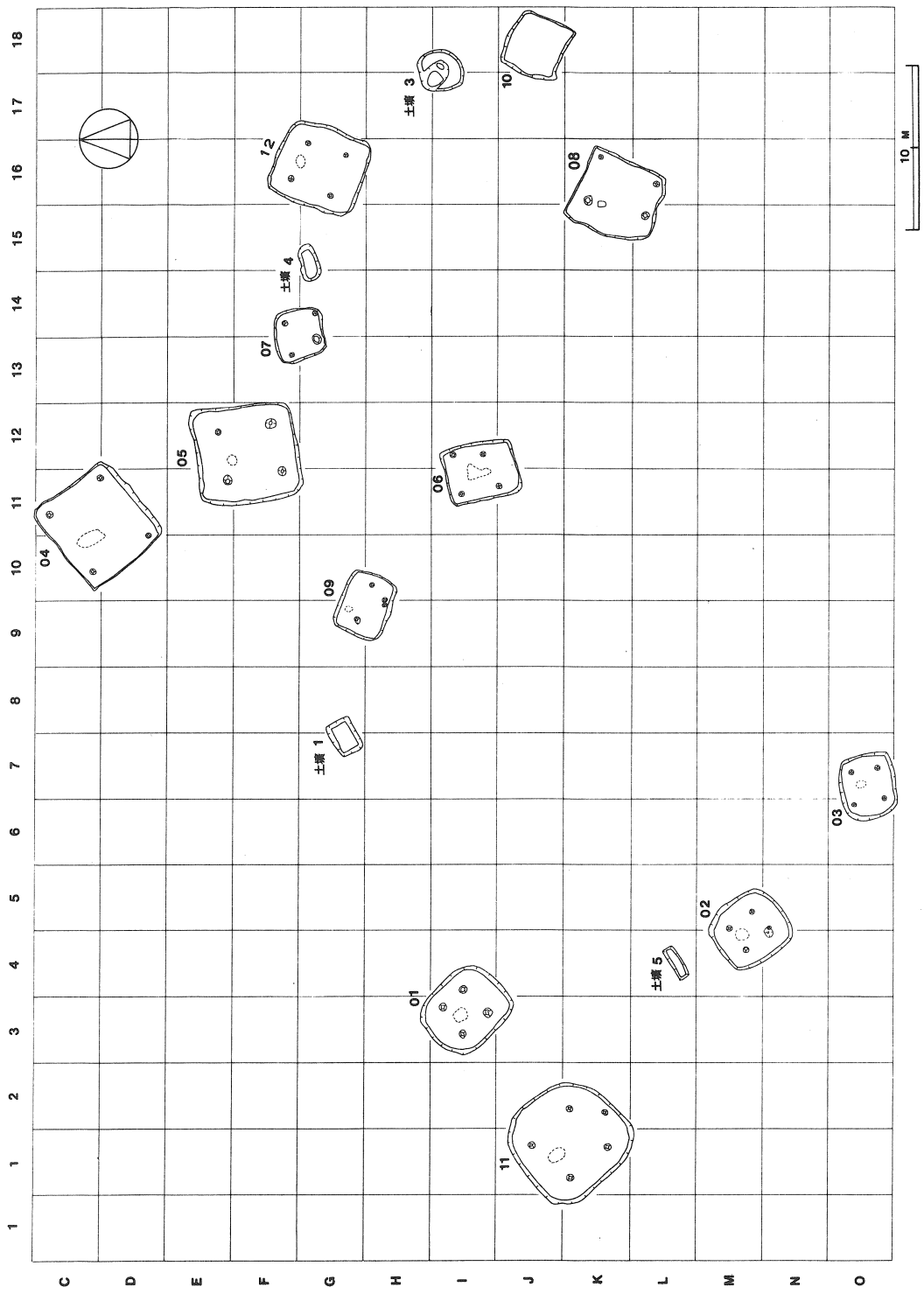


第 4 図　　中佐谷Ａ・Ｂ遺跡全体図

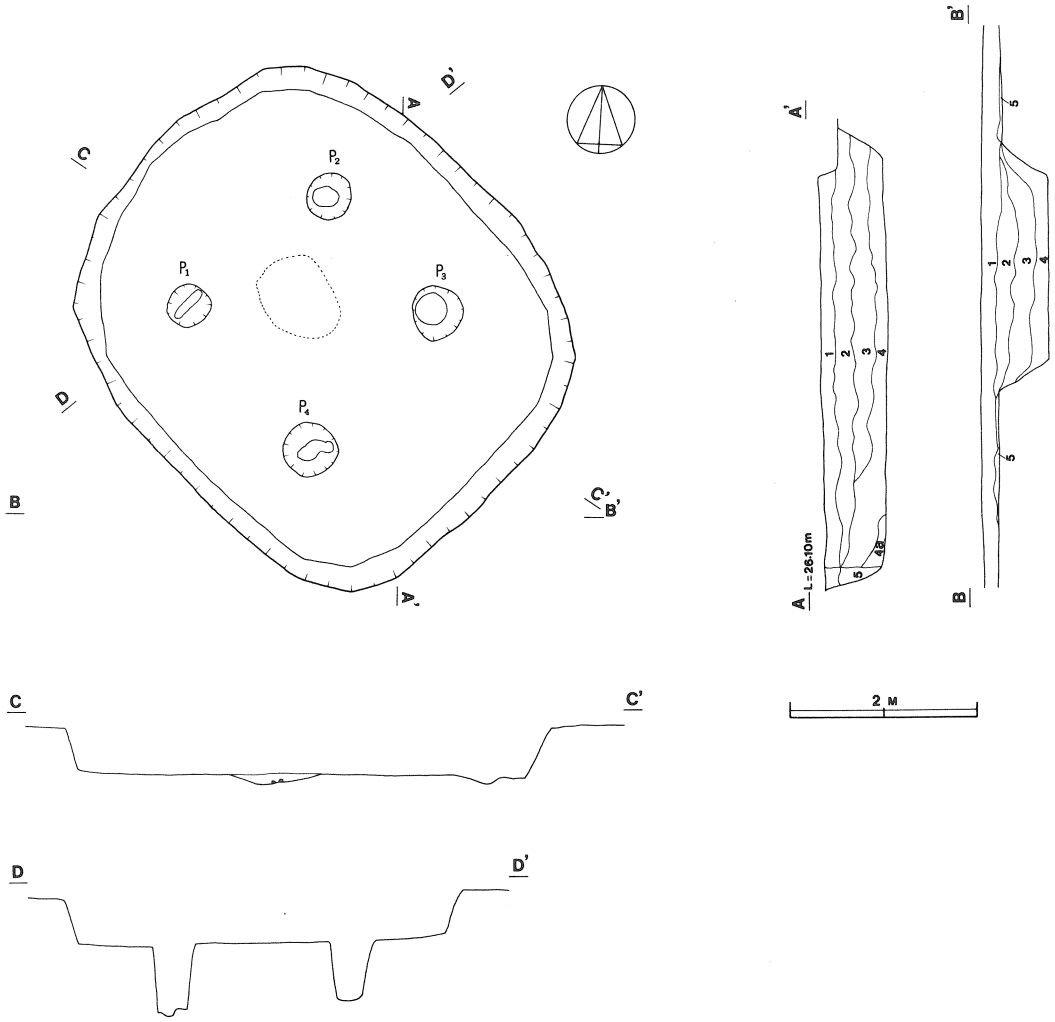


第 5 図　ＪＫＮ墳丘実測図

第 6 図　　ＪＫＮトレンチ配置図



第 7 図　　ＪＫＮ－Ａ遺跡遺構配置図



第 8 図　　ＪＫＮ－Ａ01号住居址実測図

JKN－A 01号住居址土層解説

1．Hue　10YR 3/3　暗褐色　耕作土しまりなし，ローム粒子含む。

2．Hue　10YR 2/3　黒褐色　しまりあるも粘性なし，ローム粒子及び数mmのブロック多く含む。焼土，炭化物混

3．Hue　10YR 3/4　暗褐色　かたくしまる，粘性なし，ローム粒子，炭化物含む。

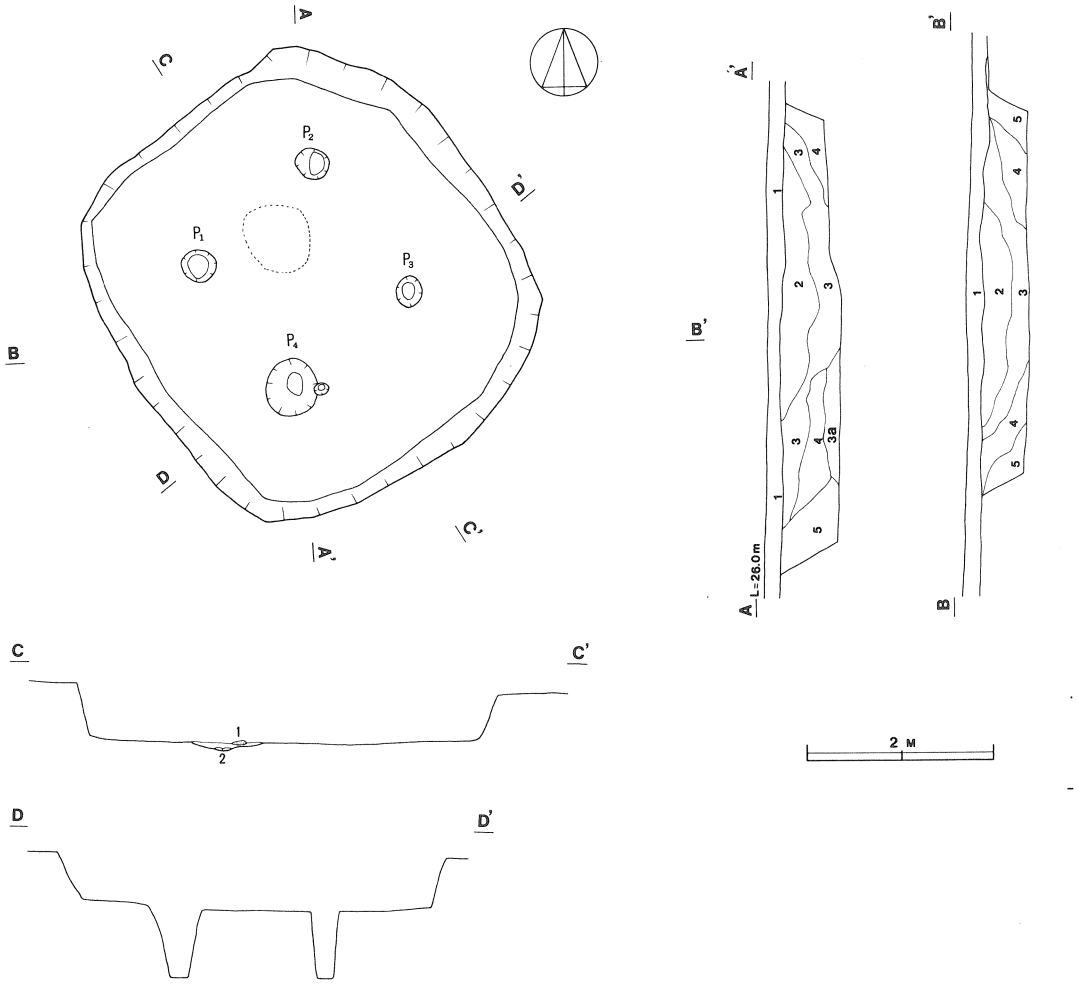
4．Hue　10YR 3/2　黒褐色　粘性あり，ローム，ローム粒子，焼土ブロック，炭化物少々含む

4 a Hue　10YR 3/2　黒褐色　4層に同じ，特に粘土ブロック含む。

5．Hue　7.5YR 2/1　褐色　しまり，粘性あり，ローム多く含む。

炉．Hue　7.5YR 2/1　黒色土　炭化物，焼土大量に含む。

：焼土ブロック



第 9 図　　ＪＫＮ－Ａ02号住居址実測図

JKN－A 02号住居址土層解説

1．Hue　10YR 3/3　暗褐色　耕作土，ローム粒子多く含む

2．Hue　10YR 2/1　黒色　しまりなしボロボロ，ローム粒子含む。

3．Hue　10YR 2/2　黒褐色　2層よりはしまる，多少水分あり，ローム粒子及び焼土含む。

3 a Hue　10YR 2/2　黒褐色　3層に同じ十炭化物，焼土・焼土ブロック（数mm）含む。

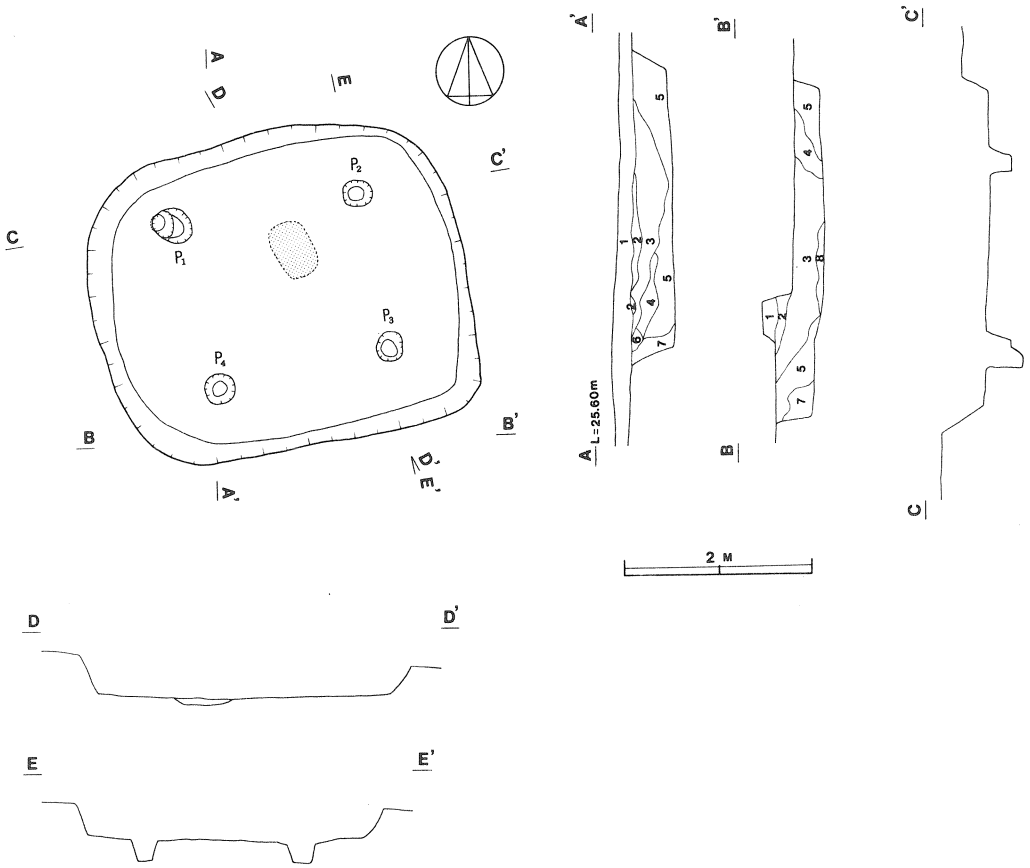
4．Hue　10YR 3/3　暗褐色　粘性あり，ローム粒子，ブロック含む。

5．Hue　10YR 4/4　褐色　よくしまり粘性あり，粘土ブロック含む。ローム質。

炉1．Hue　7.5YR 2/1黒色土　炭化物・焼土多く含む。

2．Hue　5YR 4/8　赤褐色・焼土のみ。

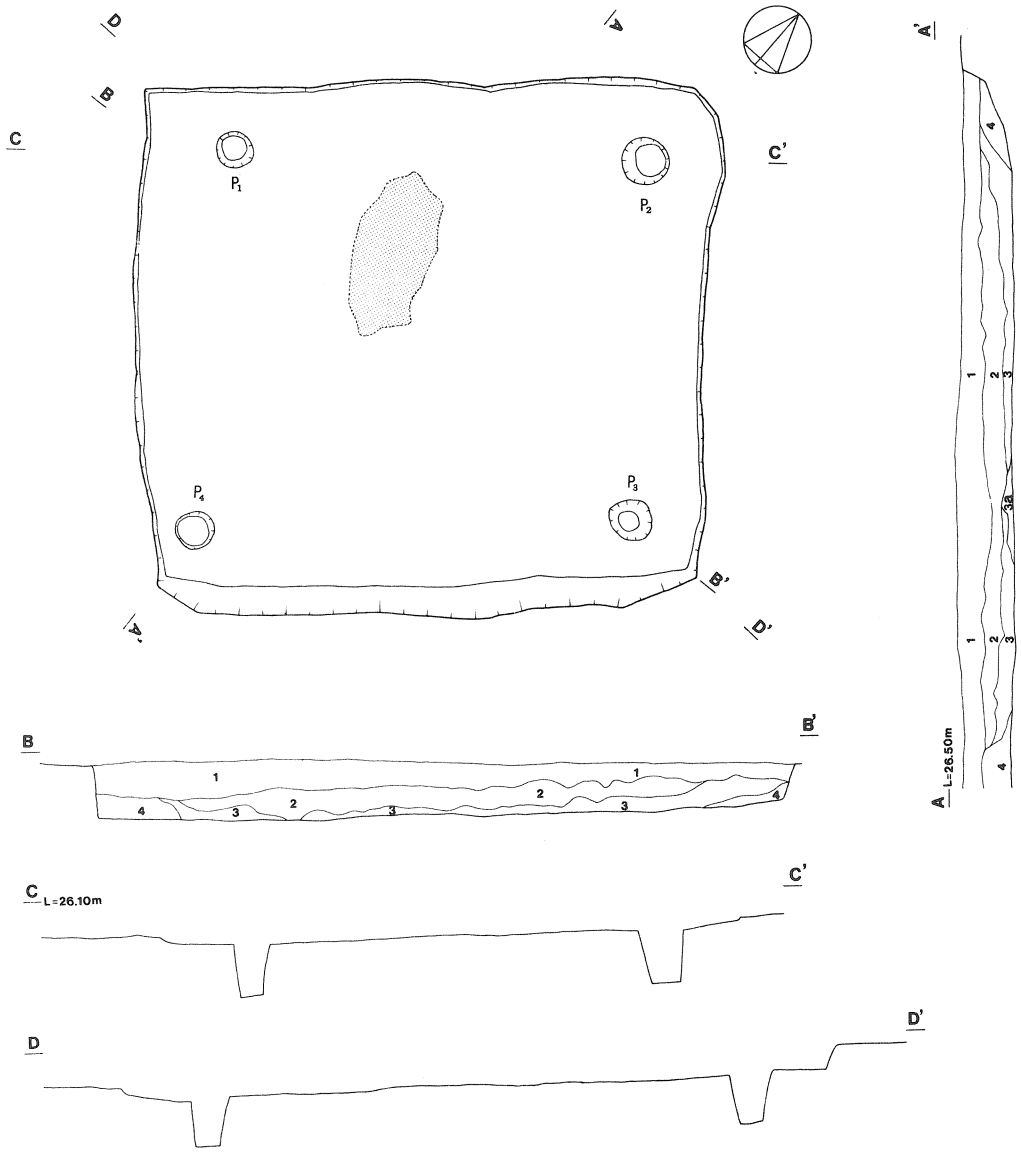
：石



第 10 図　　ＪＫＮ－Ａ03号住居址実測図

JKN－A 03号住居址土層解説

1．Hue　10YR 3/4　暗褐色　耕作土，しまり粘性なし。
2．Hue　10YR 2/3　黒褐色　しまり粘性なし，焼土ローム含む。
3．Hue　10YR 3/2　黒褐色　しまりなし，ローム粒子・ブロック・焼土含む。
4．Hue　10YR 3/4　暗褐色　粘性少々，焼土・黒色土粒子含む。
5．Hue　10YR 4/4　褐色　しまり，粘性あり，ロームブロック，焼土少々含む。
6．Hue　10YR 4/6　褐色　粘性あり，粘土ブロック含む，ローム質。
7．Hue　10YR 4/6　褐色，しまり粘性ありやわらかい。ロームブロック多く含む，ローム質。
8．Hue　10YR 5/6　褐色，ローム。
炉　Hue　7.5YR 5/8　明褐色　(焼土粒子含)
：焼土ブロック



第 11 図　　JKN－A04号住居址実測図

JKN－A 04号住居址土層解説

1．Hue　10YR4/4　褐色　耕作土，よくしまる。一部農道になっていたためカチンカチンにしまる。ローム粒子多く含む。

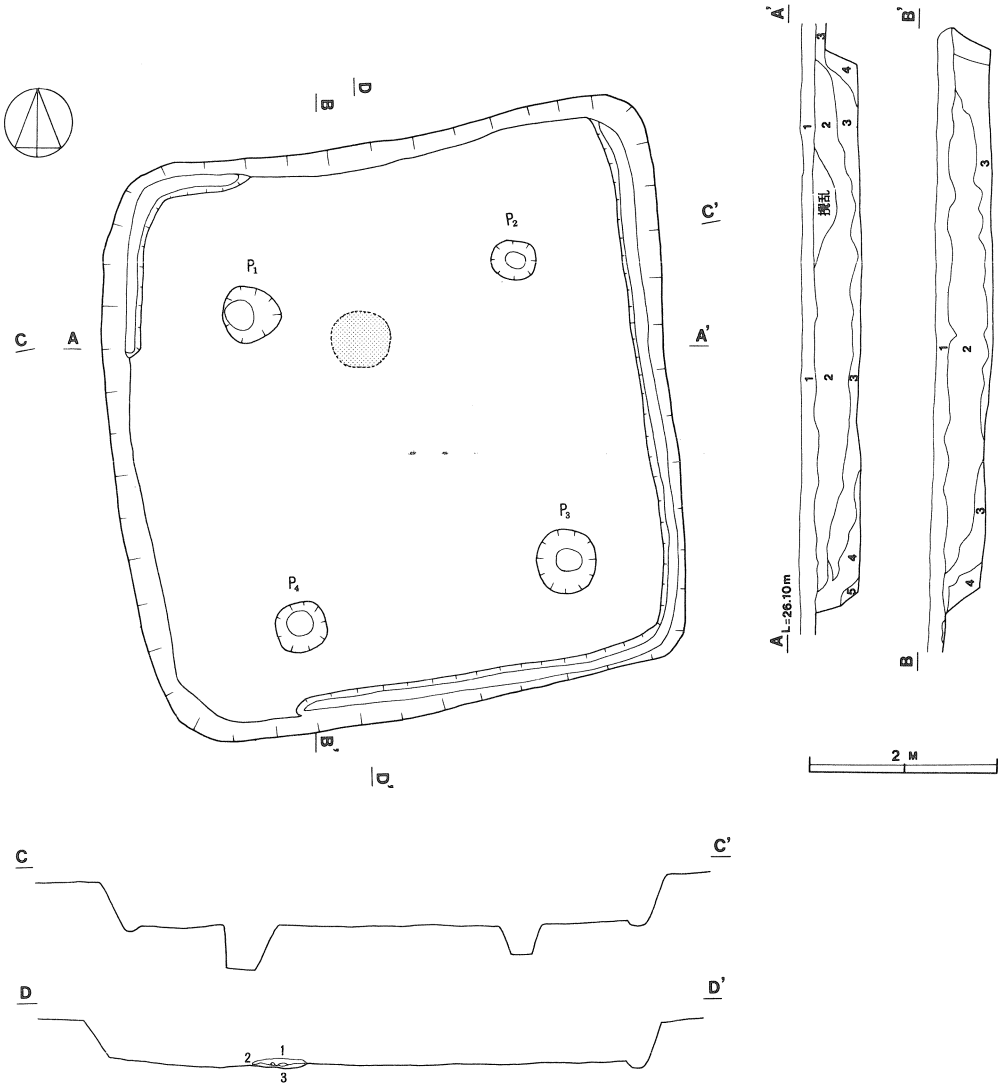
2．Hue　10YR3/2　黒褐色　部分的にかたくしまる。ローム粒子含む。住居址中央部においては焼土も含む。

3．Hue　7.5YR4/4　褐色　しまりなし。焼土，ロームブロック含む。

3a Hue　7.5YR4/4　褐色　3層に同じ＋焼土ブロック及び粒子多く含む。

4．Hue　10YR4/4　褐色　しまり粘性あり，粘土ブロック含む，ローム質。

2 M



第 12 図　　ＪＫＮ－Ａ05号住居址実測図

JKN-A　05 号住居址土層解説

1．Hue　10YR5/4　褐色　耕作土。しまり，粘性なし，ローム粒子・炭化物含む。

2．Hue　10YR2/3　黒褐色　かたくしまる。焼土，ローム粒子多く含む。

3．Hue　10YR3/4　暗褐色　しまりなし。ローム粒子，小レキ含む。部分的に黒色土，ブロック混入する。

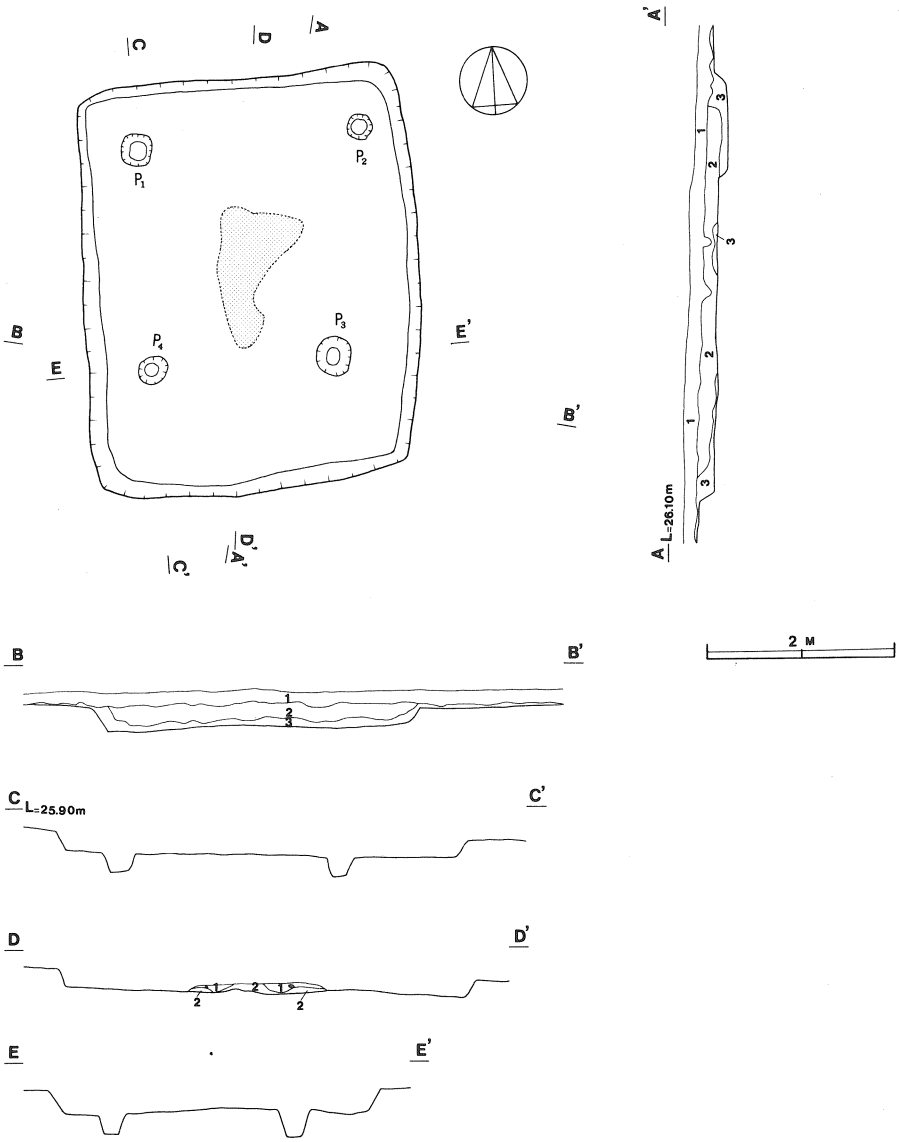
4．Hue　10YR5/6　褐色　よくしまる。径５㎜の粘土ブロック含む，ローム質。

5．Hue　7.5YR5/6　褐色　粘性。しまりなし，かたいロームブロック含む，ローム質。

炉 1．Hue　7.5YR3/4　暗褐色　しまりなし。炭化物・焼土，焼けたローム粒子含む。

2．Hue　7.5YR5/4　褐色　ハードロームブロック。

3．Hue　10YR5/6　明黄褐色　粘性あり，焼土少量含む。



第 13 図　　JKN－A06号住居址実測図

JKN－A06号住居址土層解説

1．Hue　10YR 3/2　黒褐色　耕作土，しまり粘性なし，ローム粒子，炭化物含。

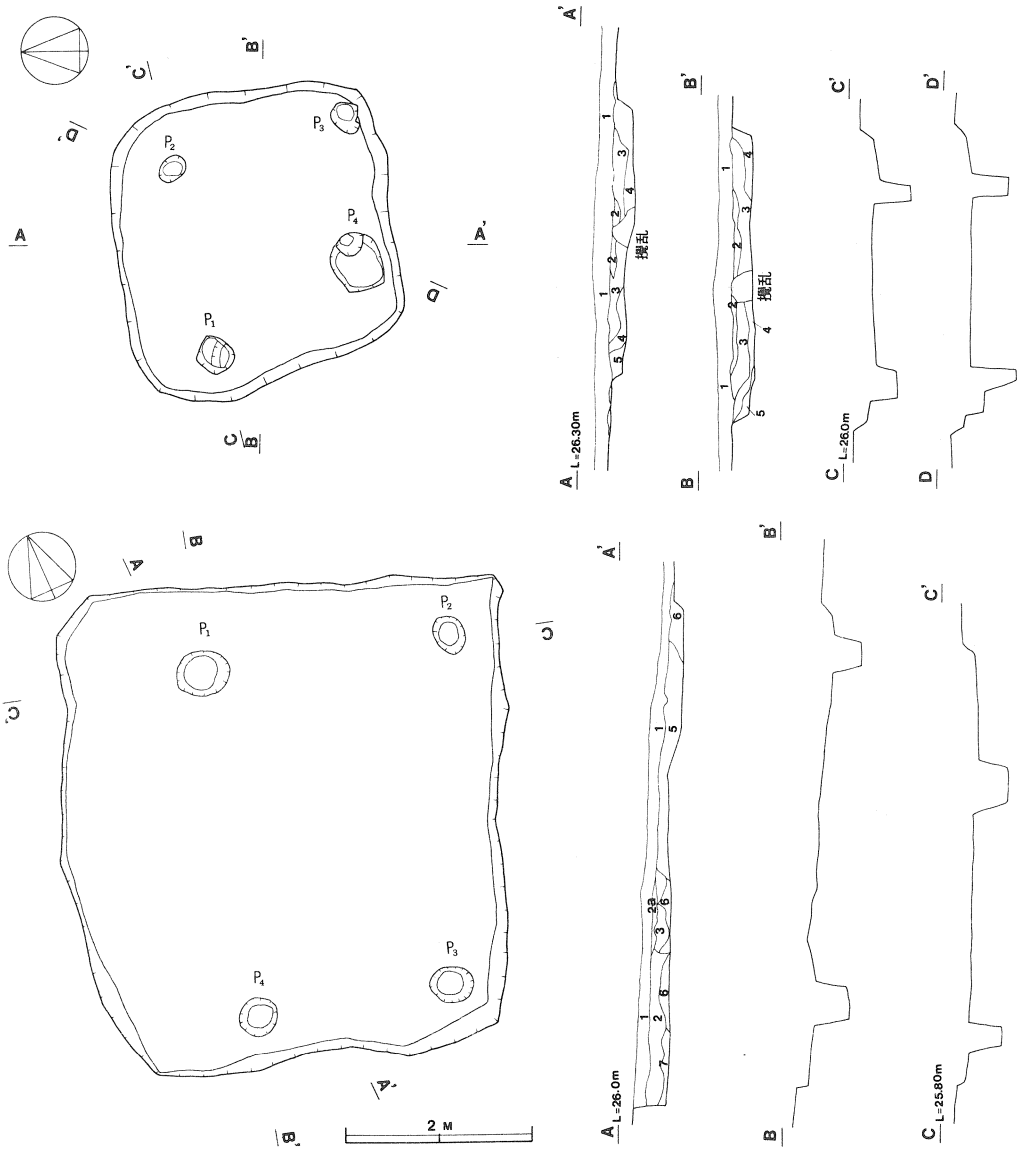
2．Hue　10YR 3/4　暗褐色　よくしまる，炭化物，ローム粒子，焼土含む。

3．Hue　7.5YR 4/6　褐色　よくしまり，粘性あり，ローム質，炭化物少々含む。

炉1．Hue　5YR 5/8　明赤褐色しまりなくボロボロ，焼土ブロック・粒子多く含む。

2．Hue　10YR 3/4　暗褐色　しまり，粘性なし，ロームブロック含む。

：焼土ブロック（赤色）



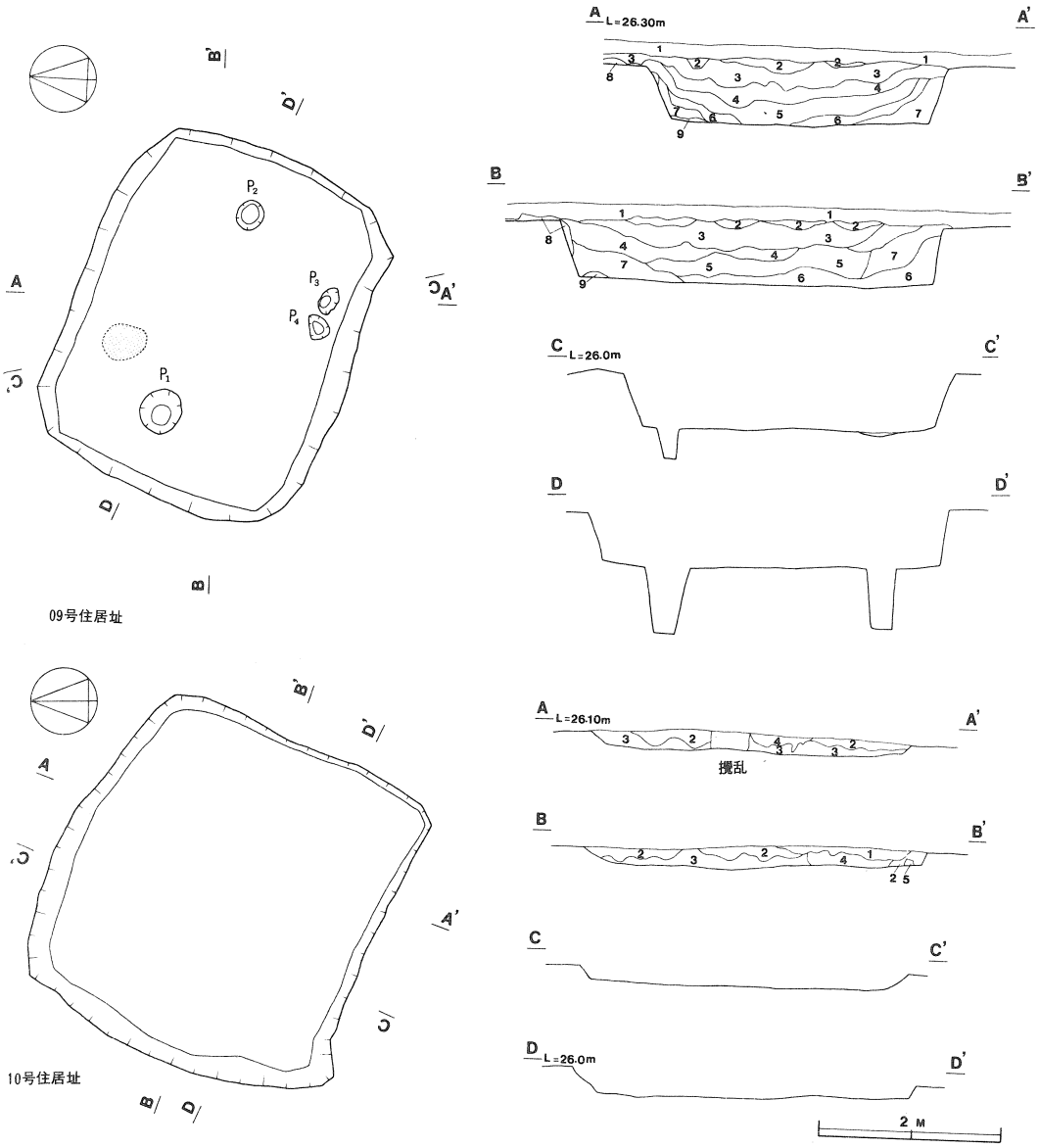
第 14 図　　ＪＫＮ－Ａ07・08号住居址実測図

JKN－A08号住居址土層解説

1．Hue　10YR 2/3　黒褐色　耕作土，しまり粘性なし，ローム粒子，砂含む。
2．Hue　10YR 3/3　暗褐色　しまる，粘性なし，炭化物・粘土ブロック，ローム粒子含む。
2 a Hue　10YR 3/3　暗褐色　2層に同じ十焼土粒子含む。
3．Hue　5YR 3/4　暗赤褐色　しまりなくボロボロ，焼土ブロック・粒子，炭代物多く含む。
4．Hue　10YR 3/4　暗褐色　しまりなし，けずるとくずれる，ローム・炭化物含む。
5．Hue　10YR 4/4　褐色　かたくしまる，炭化物，ロームブロック含む。
6．Hue　10YR 5/6　褐色　粘性あり，2㎝前後のロームブロック含む，ローム質。

JKN－A07号住居址土層解説

1．Hue　10YR 3/4　暗褐色　耕作土層，しまり粘性なし炭化物，砂含む。
2．Hue　10YR 2/3　黒褐色　しまりなくざくざく，焼土・ローム粒子含む。
3．Hue　10YR 3/4　暗褐色　かたくしまる，焼土，炭化物多く含む。
4．Hue　10YR 4/4　褐色　しまり，粘性ともにあり，ローム粒子，ブロック含む，焼土わずかに含む。
5．Hue　10YR 5/6　褐色　かたくしまり，部分的にボロボロ，ローム質。



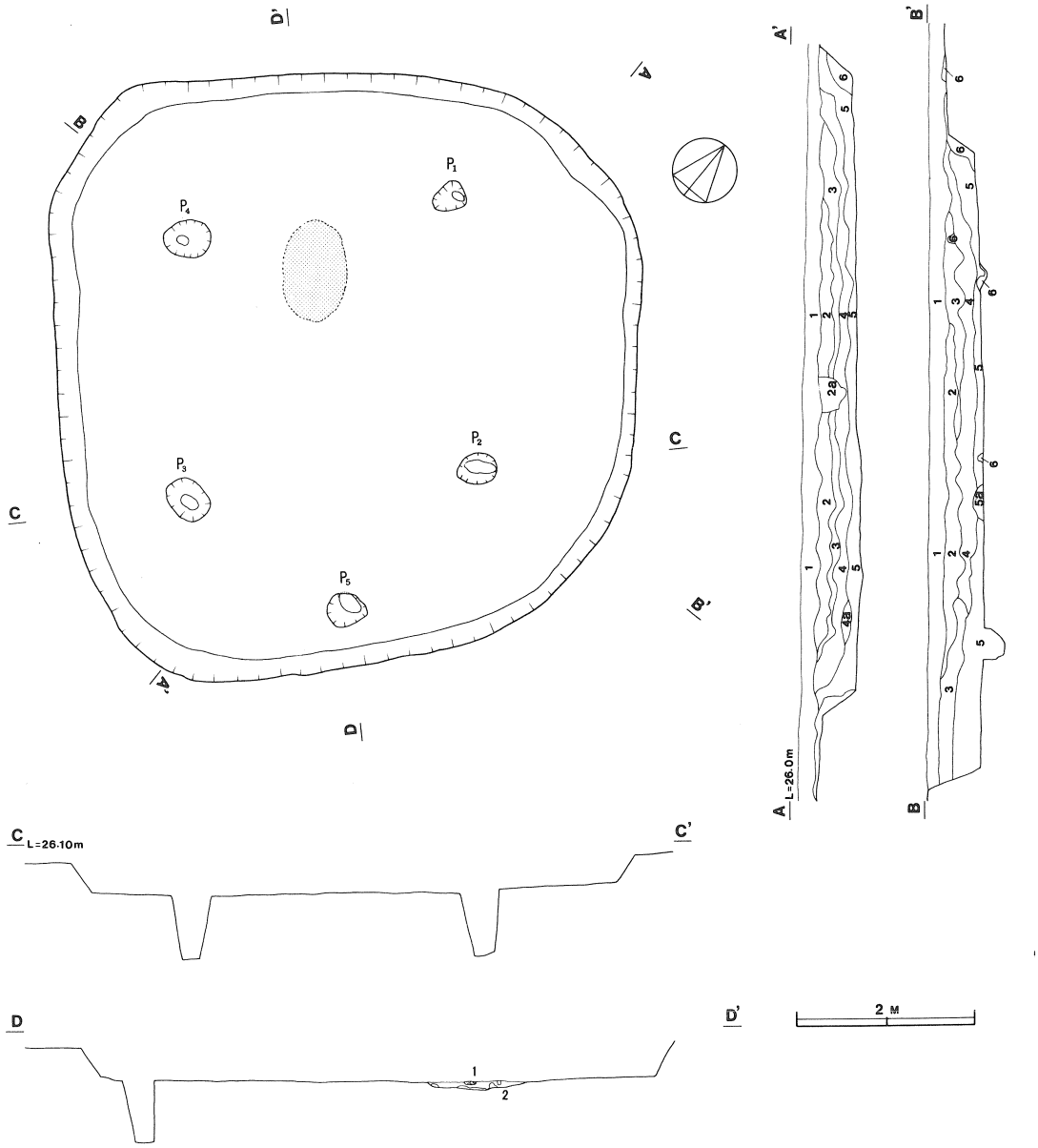
第 15 図　　JKN－A09・10号住居址実測図

JKN-A　09 住居址土層解説

1．Hue　7.5YR 4/6　褐色　耕作土，しまり・粘性なし，ローム粒子，焼土含む。
2．Hue　7.5YR 2/1　黒色　粘性なくもしまり良い。ローム粒子及び径数mmのブロック含む。
3．Hue　7.5YR 3/2　黒褐色　よくしまる，ローム粒子及び数mmのブロック，炭化物含む。
4．Hue　7.5YR 4/4　よくしまる。ロームブロック，炭化物含む。部分的(まだら模様)にローム質となる。
5．Hue　7.5YR 3/4　暗褐色　よくしまる。1～5mmのロームブロック多量に含む。
6．Hue　7.5YR 3/3　暗褐色　粘性少々あり，ロームブロック含むが5層の1/3程度。
7．Hue　10YR 3/4　暗褐色　粘性少々。ロームブロック炭化物含む。
8．Hue　10YR 5/8　黄褐色　かたく粘性あり，ローム及び数cmのブロック含む。
9．Hue　7.5YR 3/1　黒褐色　粘性あり。炭化物多量に含む。

JKN-A　10号住居址土層解説

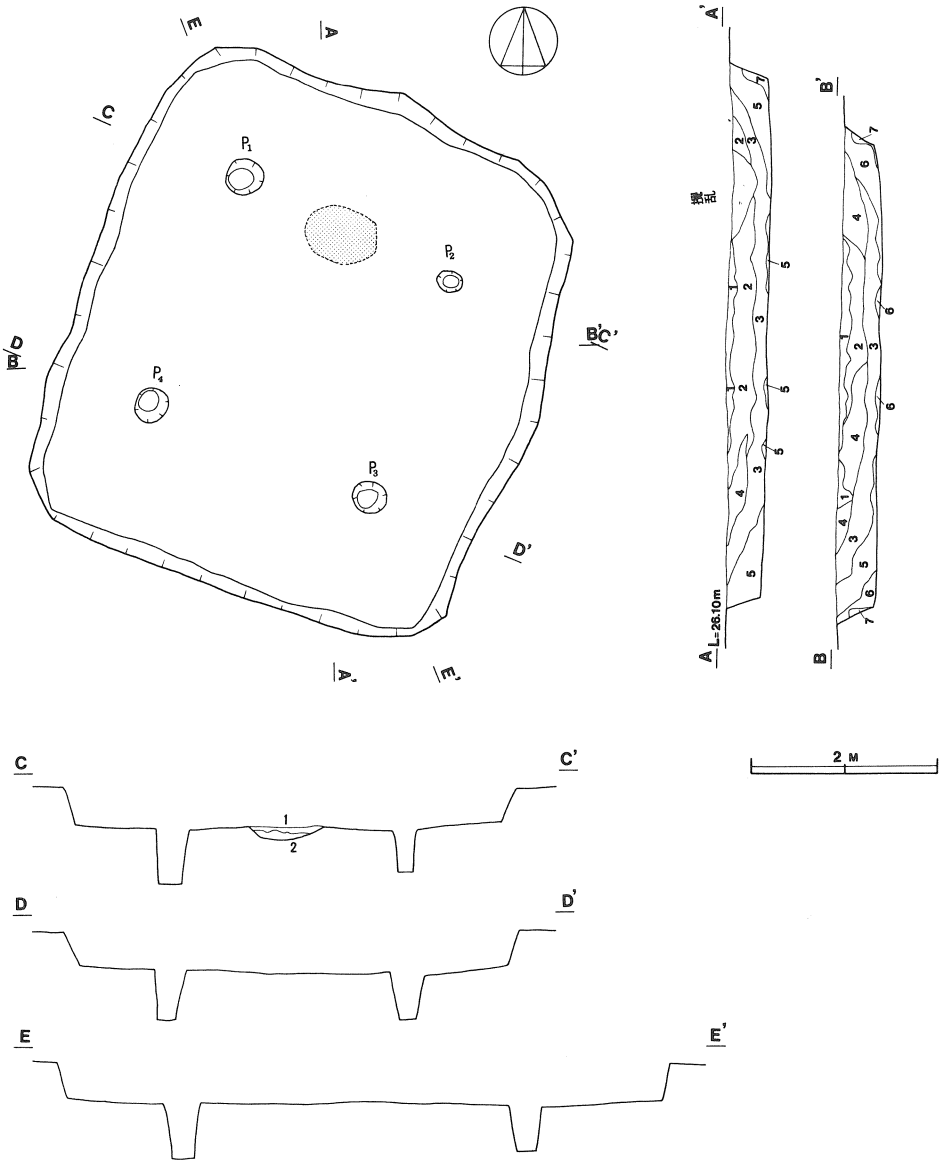
1．Hue　10YR 3/2　黒褐色　しまり，粘性なし。砂，ローム粒子，焼土含む。
2．Hue　10YR 4/4　褐色　しまりなし。炭化物，スコリア含む。
3．Hue　10YR 4/6　褐色　粘性あり，ハードロームブロック含む，ローム質。
4．Hue　10YR 3/2　黒褐色　しまりなし。炭化物，焼土全面に含む。
5．Hue　10YR 4/6　褐色　ロームブロック及びローム。



第 16 図　ＪＫＮ－Ａ11号住居址実測図

JKN-A　11号住居址土層解説

1	. Hue	10YR 3/3	暗褐色	耕作土，しまり・粘性なし。ローム粒子・炭化物・砂含む。
2	. Hue	10YR 3/2	黒褐色	しまり，粘性なし。ローム粒子及び径数mmブロック含む。
2a	. Hue	10YR 2/1	黒色	2層に同じ。
3	. Hue	10YR 3/3	黒褐色	ローム粒子及びブロック・炭化物含む。粘土粒子わずかに混入。
4	. Hue	10YR 4/4	褐色	しまりあり，焼土・炭化物，粘土ブロック含む。
4a	. Hue	10YR 4/4		4層に同じ。炭化物より多く含む。
5	. Hue	10YR 4/4	褐色	粘り少々感じる。炭化物・ロームブロック多く含む。
5a	. Hue	10YR 4/4		5層に同じ。焼土粒子多く含む。
6	. Hue	10YR 5/6	黄褐色	しまり，粘性あり，ローム質，かたいロームブロック含む。
炉1	. Hue	10YR 3/3	黒褐色	しまりなし，炭化物，ロームブロック，焼土粒子含む。
2	. Hue	5YR 4/6	赤褐色	焼けてかたい

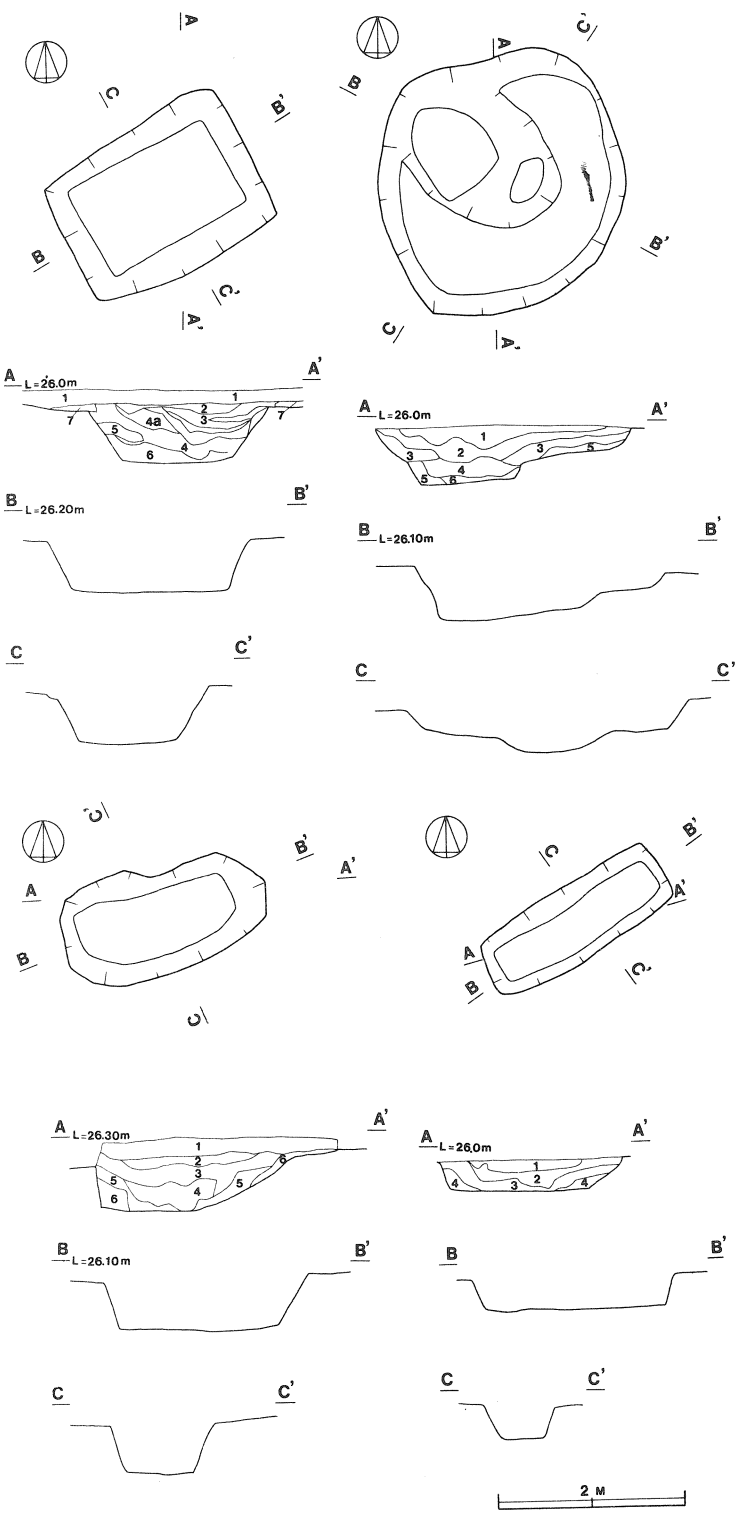


第 17 図　　ＪＫＮ－Ａ12号住居址実測図

JKN-A　12住居址土層解説

1．Hue　10ＹＲ 2/3　黒褐色　しまりなし。ローム，砂，焼土各粒子多く含む。
2．Hue　10ＹＲ 3/2　黒褐色　しまりなし。ローム炭化物，焼土粒子含む。ところにより黒色土をブロックで含む。
3．Hue　10ＹＲ 2/3　黒褐色　しまりあり。ローム粒子，ブロック炭化物，焼土含む。小レキ含む。
4．Hue　10ＹＲ 3/4　暗褐色　しまりなし。 0.1～1㎝の粘土ブロック含む。ローム粒子混入，焼土混入。
5．Hue　10ＹＲ 3/3　暗褐色　しまりあり。ローム及び粘土ブロック多く含む。焼土，スコリアあり。床面付近では粘土ブロックが目立つ。
6．Hue　10ＹＲ 3/2　黒褐色　しまりあり。スコリア，ローム粒子含む。
7．Hue　10ＹＲ 5/4　黒褐色　全体にもろくボロボロ。スコリア含む，ローム質。

炉1．Hue　10ＹＲ 3/2　黒褐色　しまりなし。焼土粒子及び同ブロック含む。
2．Hue　10ＹＲ 5/8　黄褐色　焼けてかたくしまる，ブロック状のハードローム上部は焼けて赤色を示す。



JKN-A　1号土壙土層解説

1. Hue 7.5YR3/4　暗褐色　耕作土。しまり・粘性なし，砂少々含む。
2. Hue 7.5YR3/3　暗褐色　しまりあり，炭化物，ローム粒子，径1cm以下のブロック含む。
3. Hue 7.5YR3/2　黒褐色　しまりあり，径1～2cmのロームブロック含む。
4. Hue 10YR5/8　黄褐色　しまりなくボロボロ。黒褐色土をブロックで含む，ローム及びロームブロック層。

4a Hue 7.5YR5/4　褐色　4層に同じ。

5. Hue 7.5YR5/6　褐色　径5cm及び数mmのロームブロックだけを含む。
6. Hue 7.5YR3/2　黒褐色　径1cm前後のロームブロックを大量に含む。
7. Hue 10YR5/6　黄褐色　ローム。

JKN-A　3号土壙土層解説

1. Hue 10YR5/4　褐色　かたくしまる。炭化物わずかに含む。
2. Hue 7.5YR5/4　褐色　粘性あり，5mm程度のロームブロック散在。ローム粒子，炭化物含む。
3. Hue 10YR5/6　褐色　よくしまる。粘土ブロック(径数mm)ローム含む。
4. Hue 10YR5/4　褐色　しまりあり。炭化物，ローム粒子含む。
5. Hue 10YR5/6　褐色　粘性あり。ローム及び粘土ブロック含む。
6. Hue 10YR5/6　褐色　粘性あり。ローム粒子，粘土ブロック含むローム質。

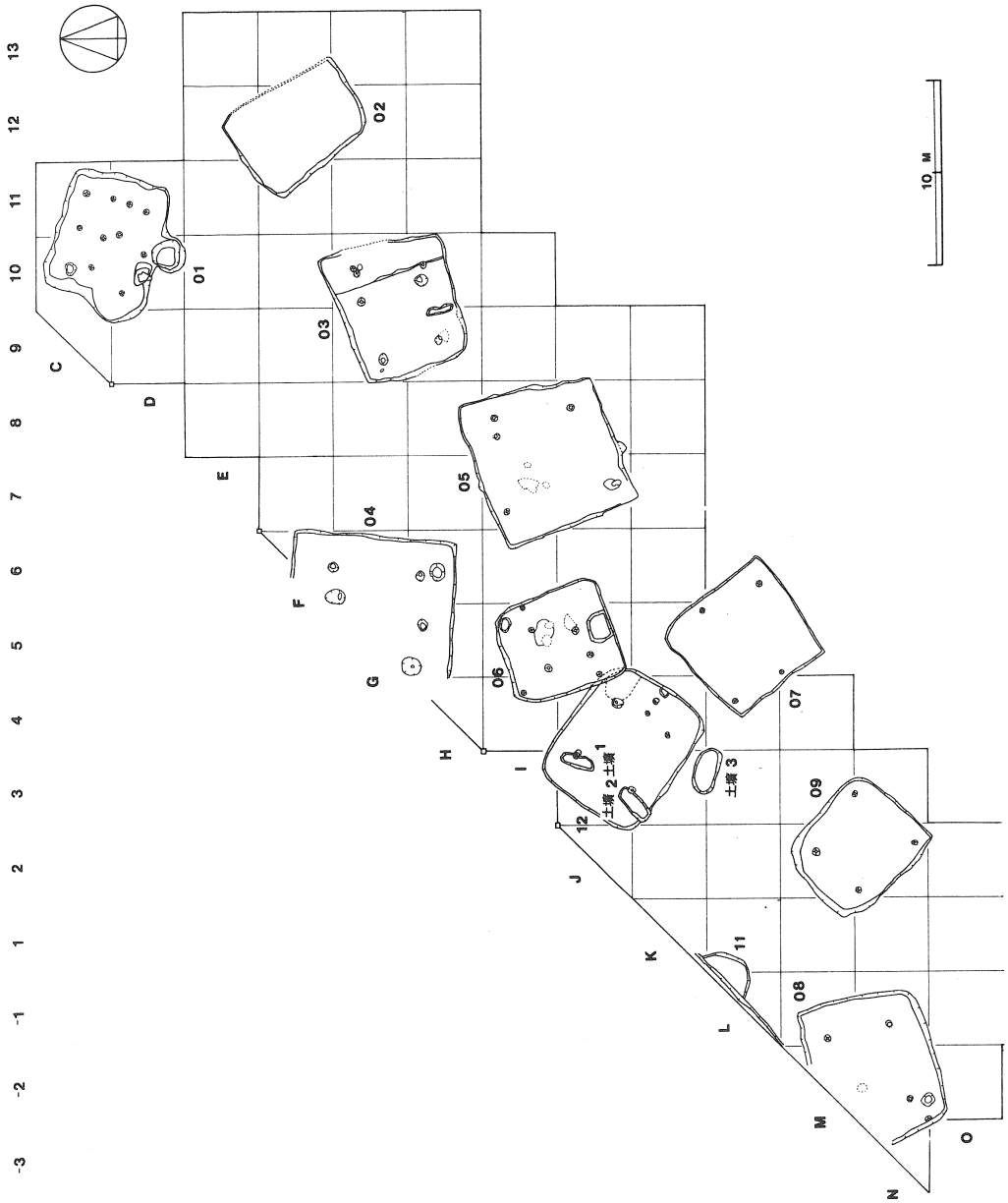
JKN-A　4号土壙土層解説

1. Hue 10YR3/3　暗褐色　耕作土，しまりなし。ローム粒子，砂含む。
2. Hue 10YR3/2　黒褐色　部分的にしまる。砂，ローム炭化物含む。
3. Hue 10YR3/2　黒褐色　焼土，砂，ローム粒子含む。
4. Hue 10YR3/2　黒褐色　よくしまる。径数mmの粘土ブロックを多く含む。
5. Hue 10YR3/3　暗褐色　しまりあり。小さな粘土ブロック及び粒子多く含む。
6. Hue 10YR3/4　暗褐色　粘性あり，ロームブロックを含む，ローム質土層。

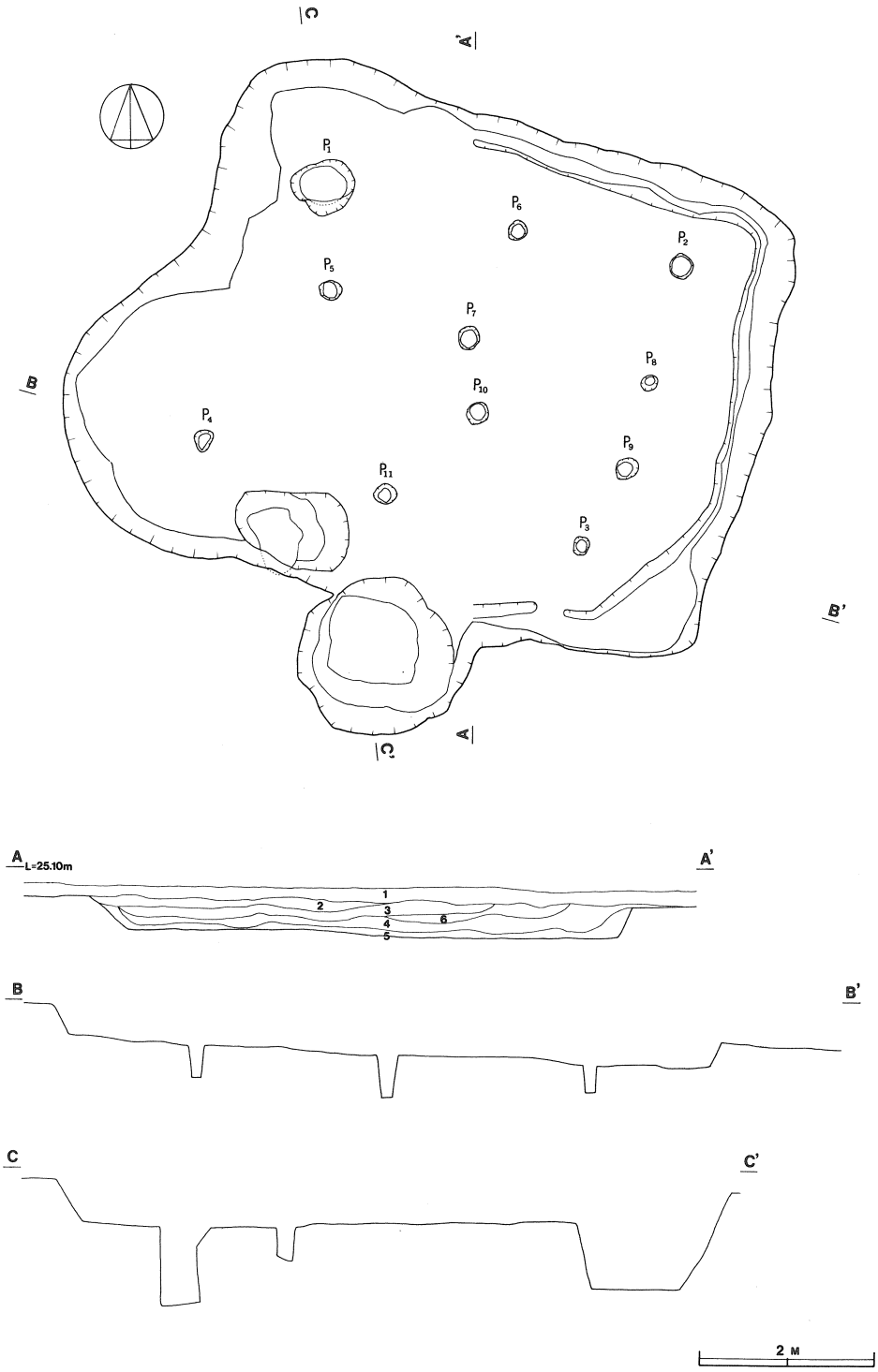
JKN-A　5号土壙土層解説

1. Hue 10YR3/1　黒褐色　しまりなし，ローム粒子，炭化物含む。
2. Hue 10YR3/3　暗褐色　しまり，粘性なし，ローム粒子及びソフトブロック含む。
3. Hue 10YR3/4　暗褐色　しまりなくも粘性あり，ローム粒子の目立つローム質土層。
4. Hue 10YR5/4　褐色　粘性あり，ハードロームブロックを大量に含む。

第 18 図　ＪＫＮ－Ａ01・03・04・05号土壙実測図

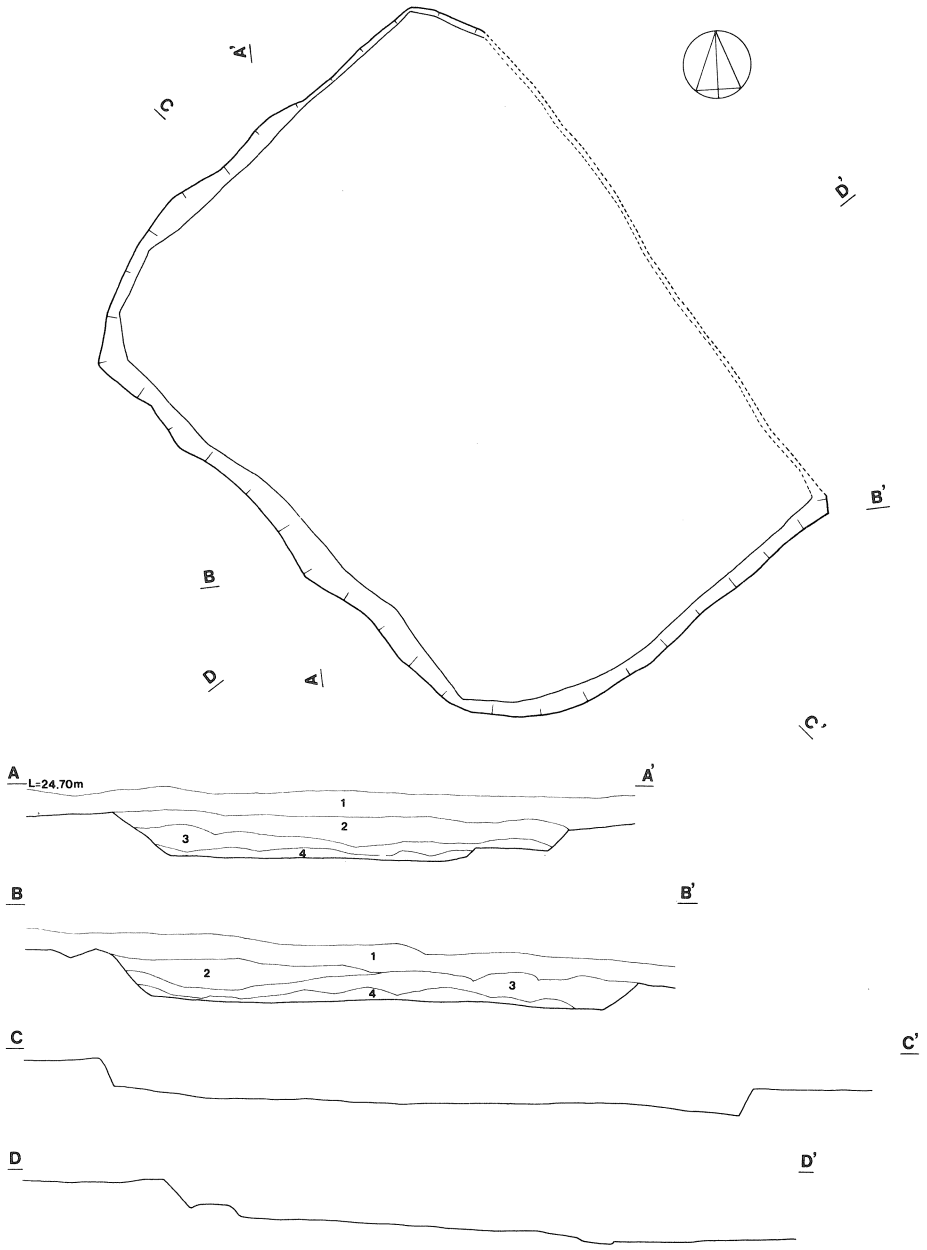


第 19 図　　ＪＫＮ－Ｂ遺跡遺構配置図

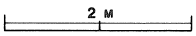


第 20 図　　ＪＫＮ－Ｂ01号住居址実測図

JKN－B01号住居址土層解説
1．Hue　7.5YR 4/4　耕作覆土層
2．Hue　7.5YR 3/1　覆土
3．Hue　　5YR 5/4　覆土
4．Hue　　10YR 6/4　覆土
5．Hue　　10YR　5/3　覆土
6．Hue　7.5YR 2/1　覆土

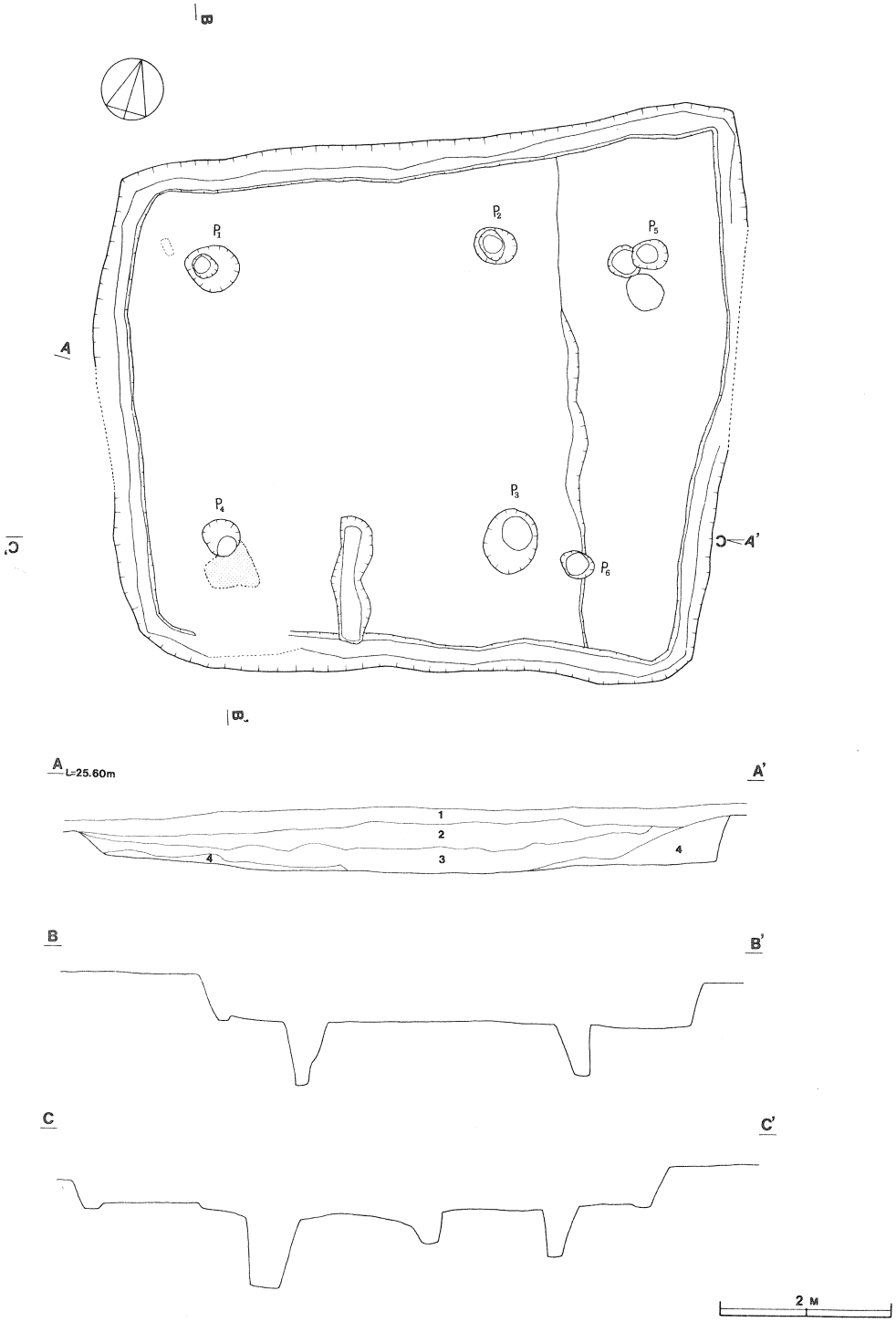


第 21 図　　ＪＫＮ－Ｂ02号住居址実測図



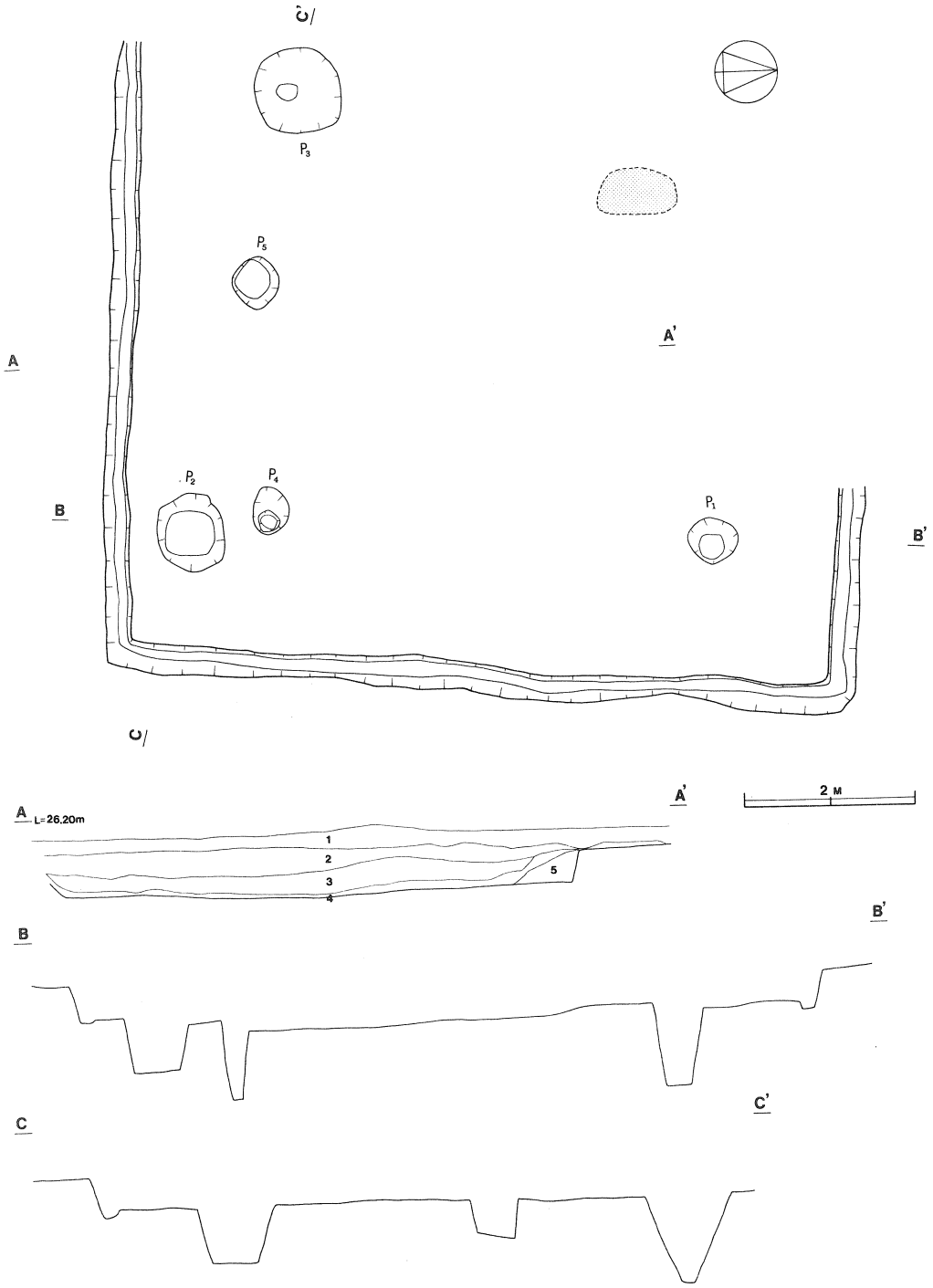
JKN－B02号住居址土層解説

1．Hue　7.5YR ⅔　耕作表土層
2．Hue　7.5YR ⅔　黒褐色　ローム粒混
3．Hue　7.5YR ⅔　黒褐色
4．Hue　7.5YR ⅔　茶褐色　粘性あり



第 22 図　　ＪＫＮ－Ｂ03号住居址実測図

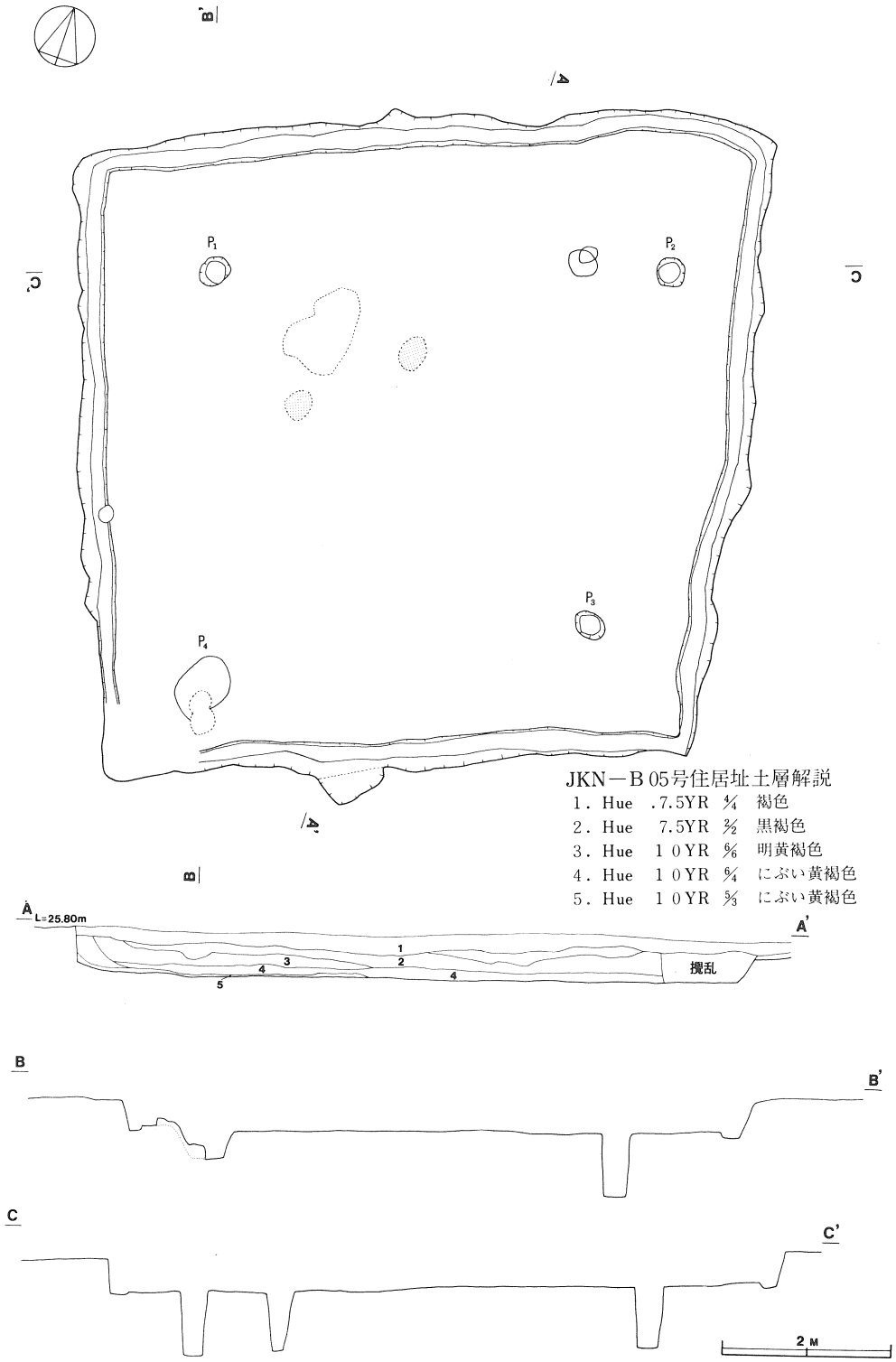
JKN－B03号住居址土層解説
1．Hue　7.5YR 5/4　褐色
2．Hue　7.5YR 3/2　黒褐色
3．Hue　10YR 5/4　にぶい黄褐色
4．Hue　10YR 5/3　にぶい黄褐色



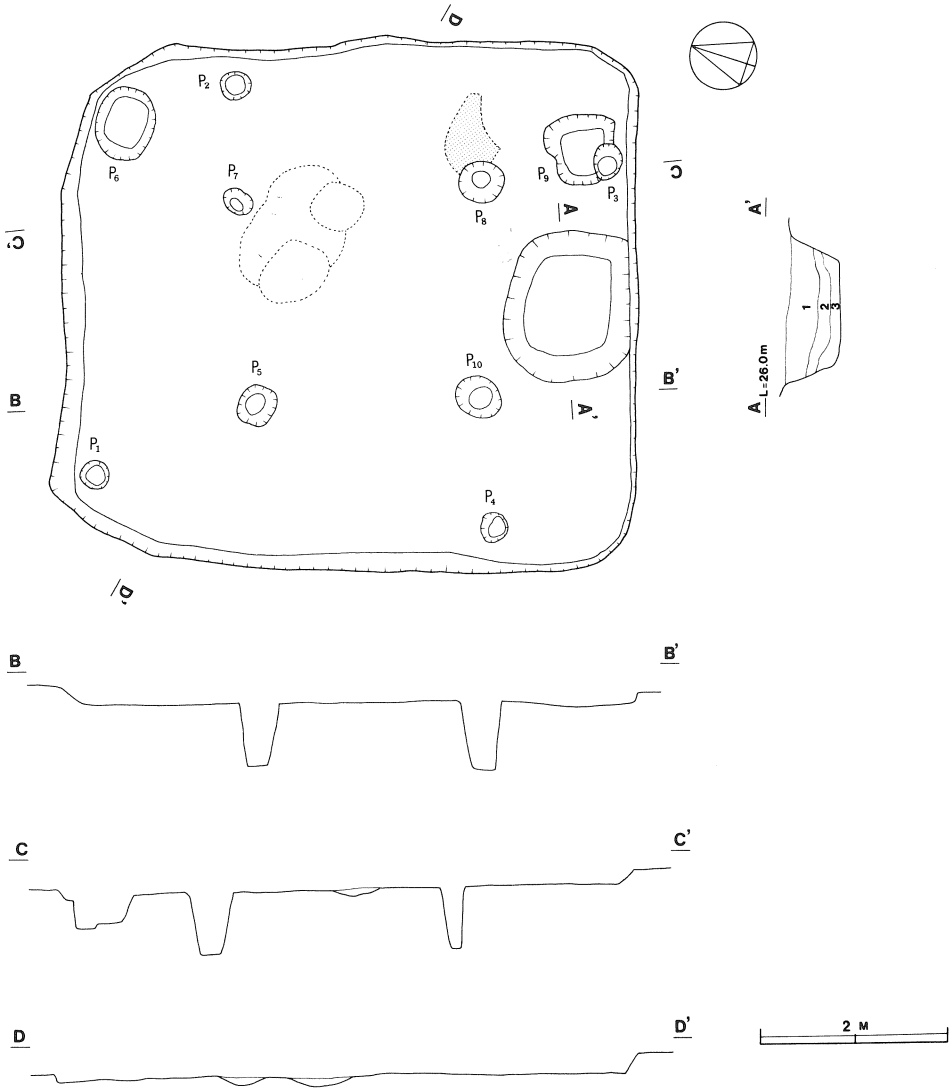
第 23 図　　ＪＫＮ－Ｂ04号住居址実測図

JKN－B04号住居址土層解説

1．Hue　7.5YR 4/4　褐色　　耕作表土層
2．Hue　7.5YR 3/2　黒褐色　　覆土層，弱粘性
3．Hue　10YR 6/4　暗褐色　　スコリア多い
4．Hue　10YR 5/3　黒色含褐色　粘性有，床直層
5．Hue　10YR 6/4　黄褐色

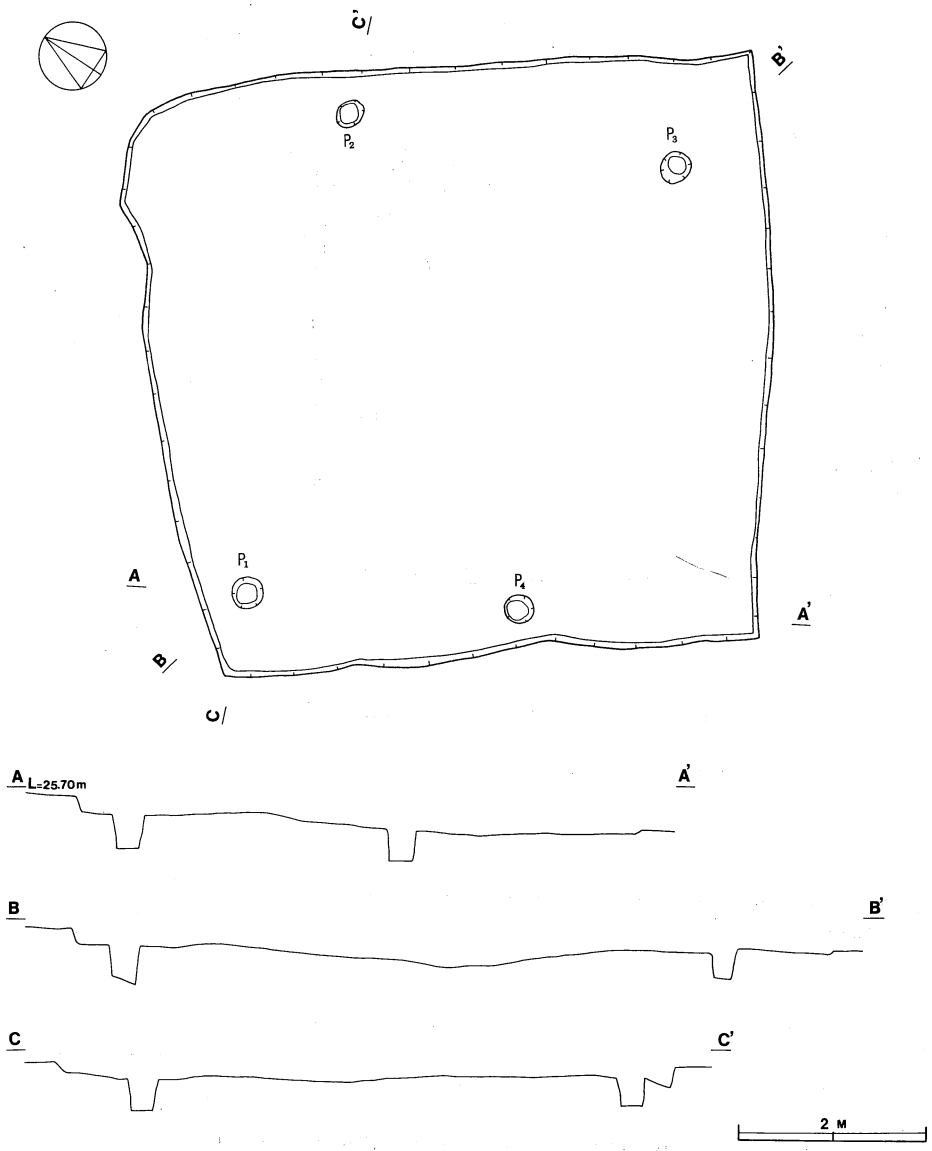


第 24 図　　ＪＫＮ－Ｂ05号住居址実測図

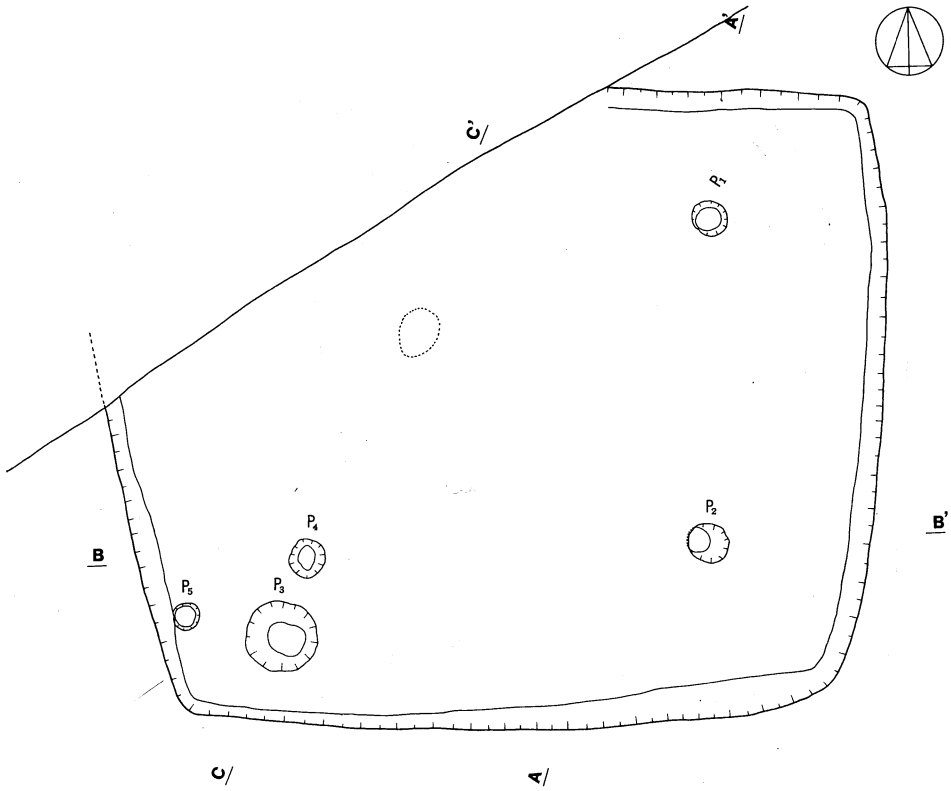


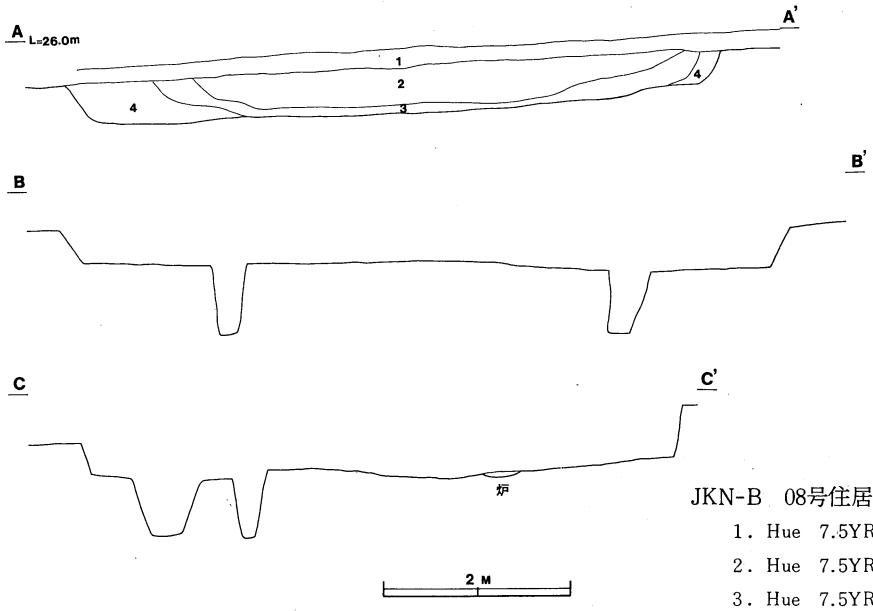
第 25 図 ＪＫＮ－Ｂ06号住居址・06号住居址内土壙実測図

JKN－B 6 号住居址土層解説
C．1：焼土
D．1・2：焼土
A～A′　土壙土層解説
1．Hue　2.5YR 5/6　1は2よりやや暗い黄褐色（細かい炭化物を含）
2．Hue　2.5YR 5/4　2は3よりやや暗い黄褐色（スコリアを含）
3．Hue　2.5YR 5/3　黄褐色（ブロックが多い）



第 26 図　　ＪＫＮ－Ｂ07号住居址実測図

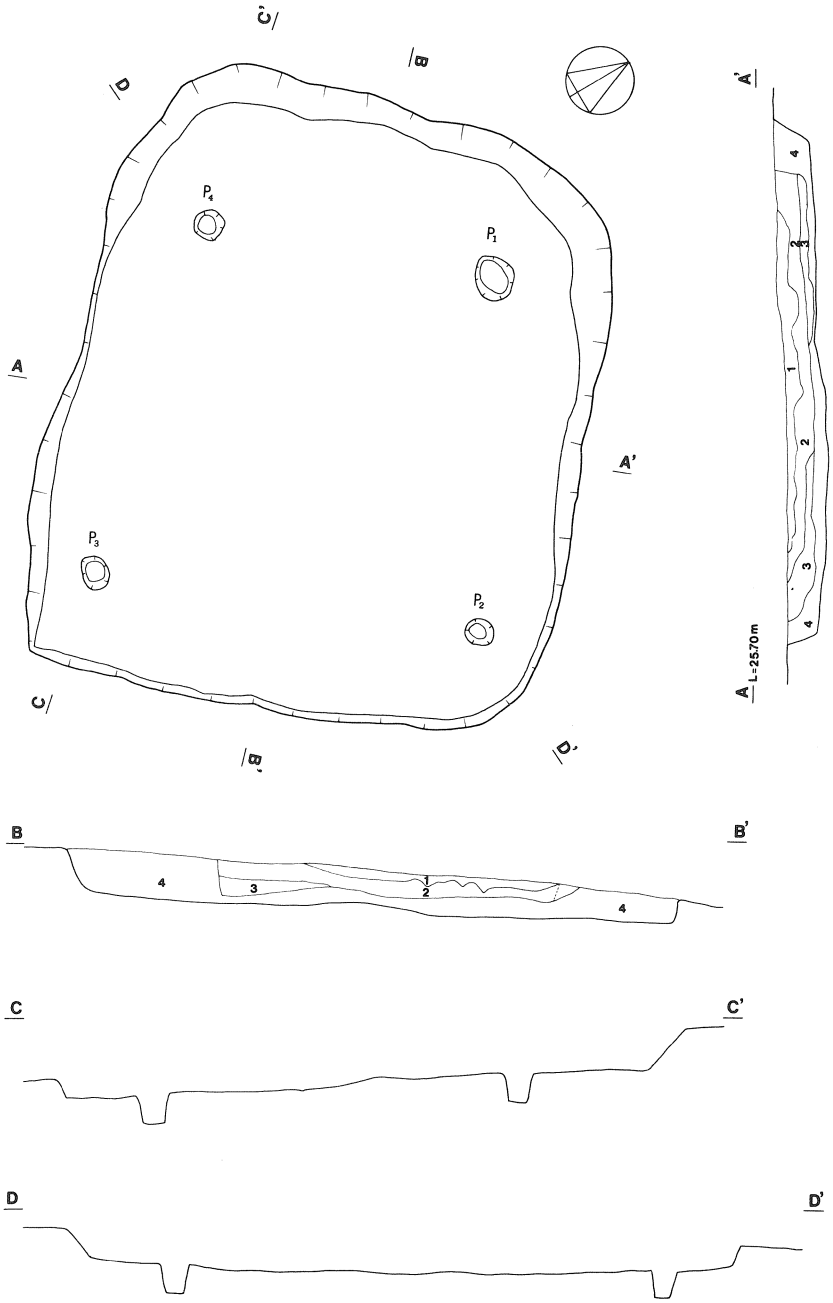




JKN-B　08号住居址土層解説

1．Hue　7.5YR4/4　表土層
2．Hue　7.5YR2/2　黒色
3．Hue　7.5YR3/3　暗褐色
4．Hue　7.5YR6/4　褐色

第 27 図　　ＪＫＮ－Ｂ08号住居址実測図

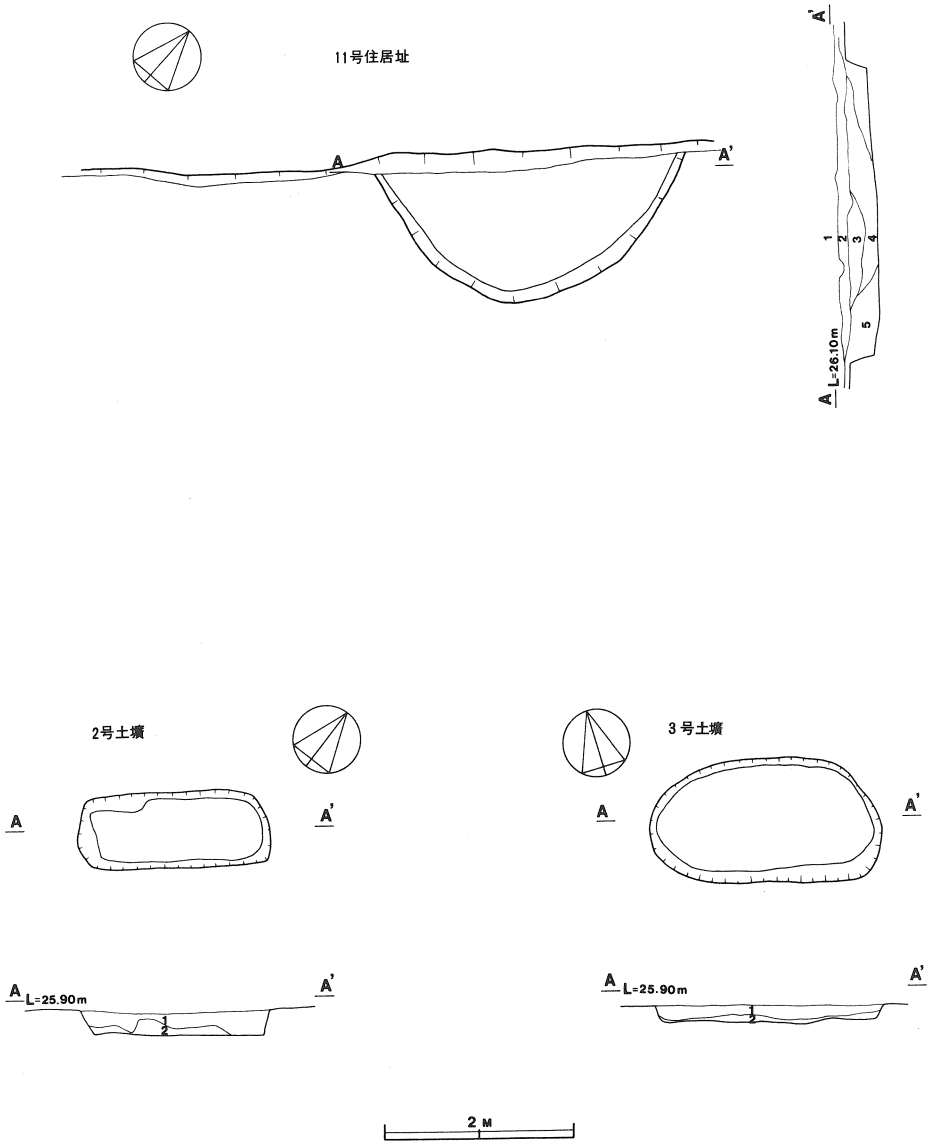


JKN－B09号住居址土層解説

1．Hue　7.5YR 2/2　黒褐色
2．Hue　7.5YR 3/3　暗褐色　3層の方が強い
3．Hue　7.5YR 3/2　暗褐色
4．Hue　7.5YR 6/4　褐色

2 M

第 28 図　　ＪＫＮ－Ｂ09号住居址実測図



第 29 図　　ＪＫＮ－Ｂ11号住居址，２・３号土壙実測図

JKN-B　11号住居址土層解説

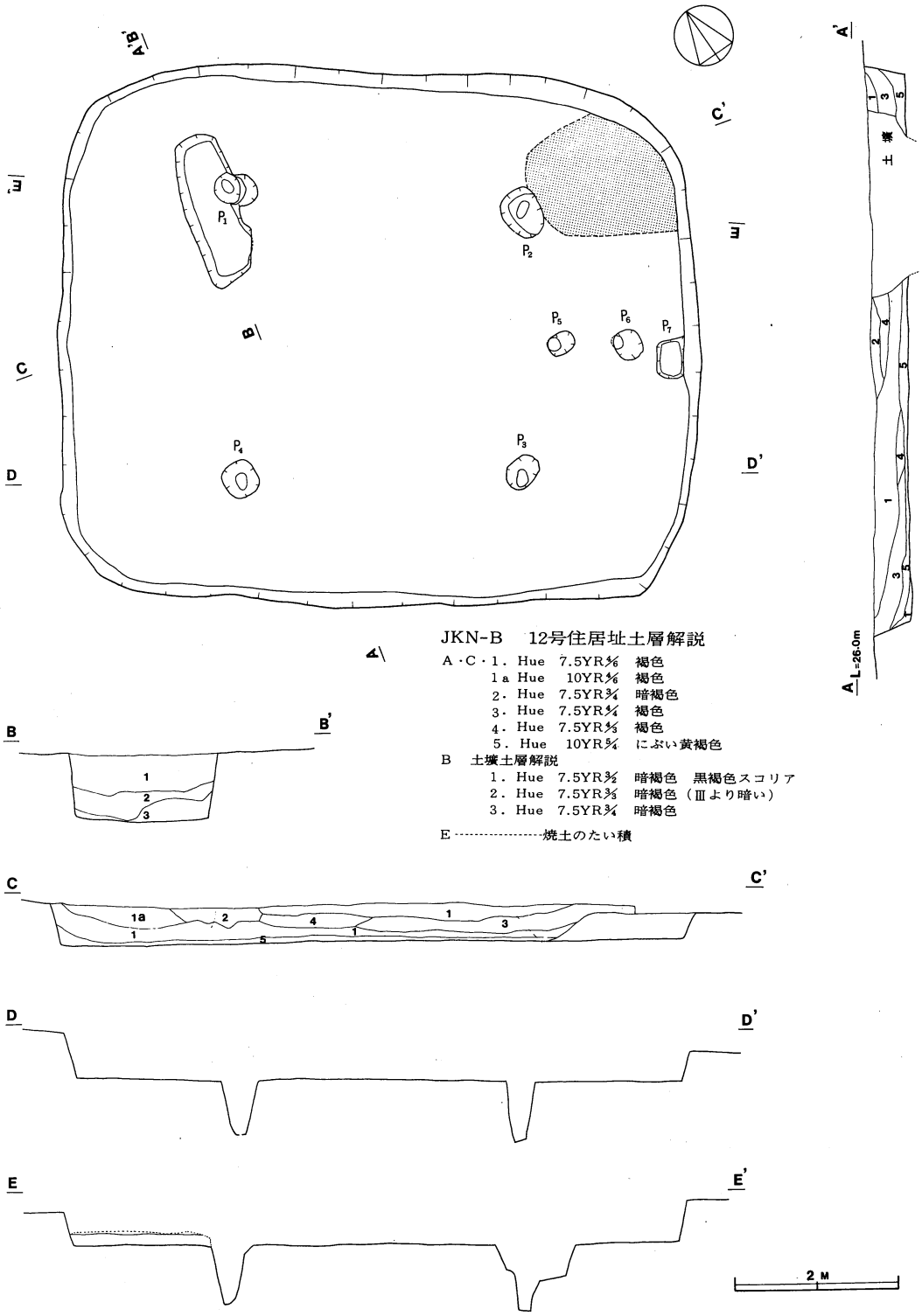
1．Hue　7.5YR⅚　褐色
2．Hue　7.5YR¾　暗褐色
3．Hue　7.5YR⅘　褐色
4．Hue　7.5YR⅝　褐色
5．Hue　10YR⅝　にぶい黄褐色

JKN-B　土壙2号土層解説

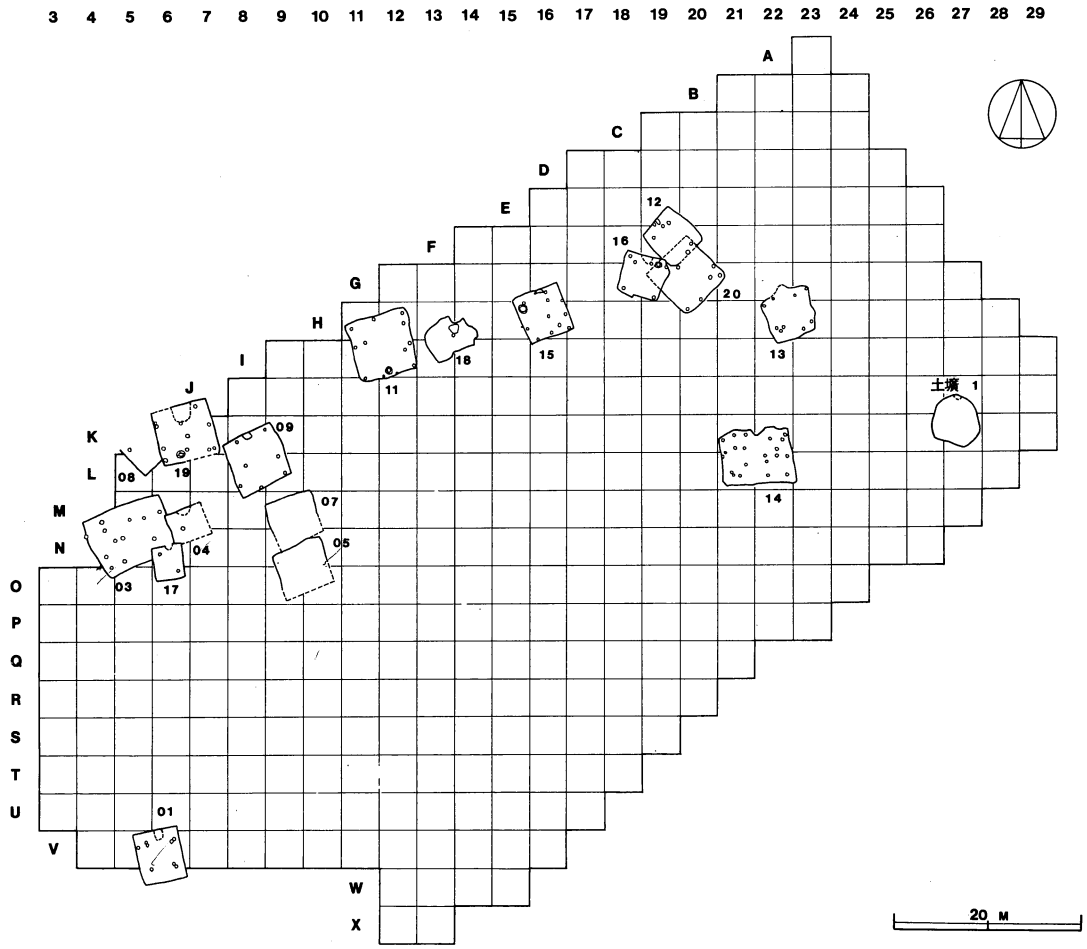
1．Hue　7.5YR⅔　ローム粒子含
2．Hue　7.5YR⅔　ロームブロック含

JKN-B　土壙３号土層解説

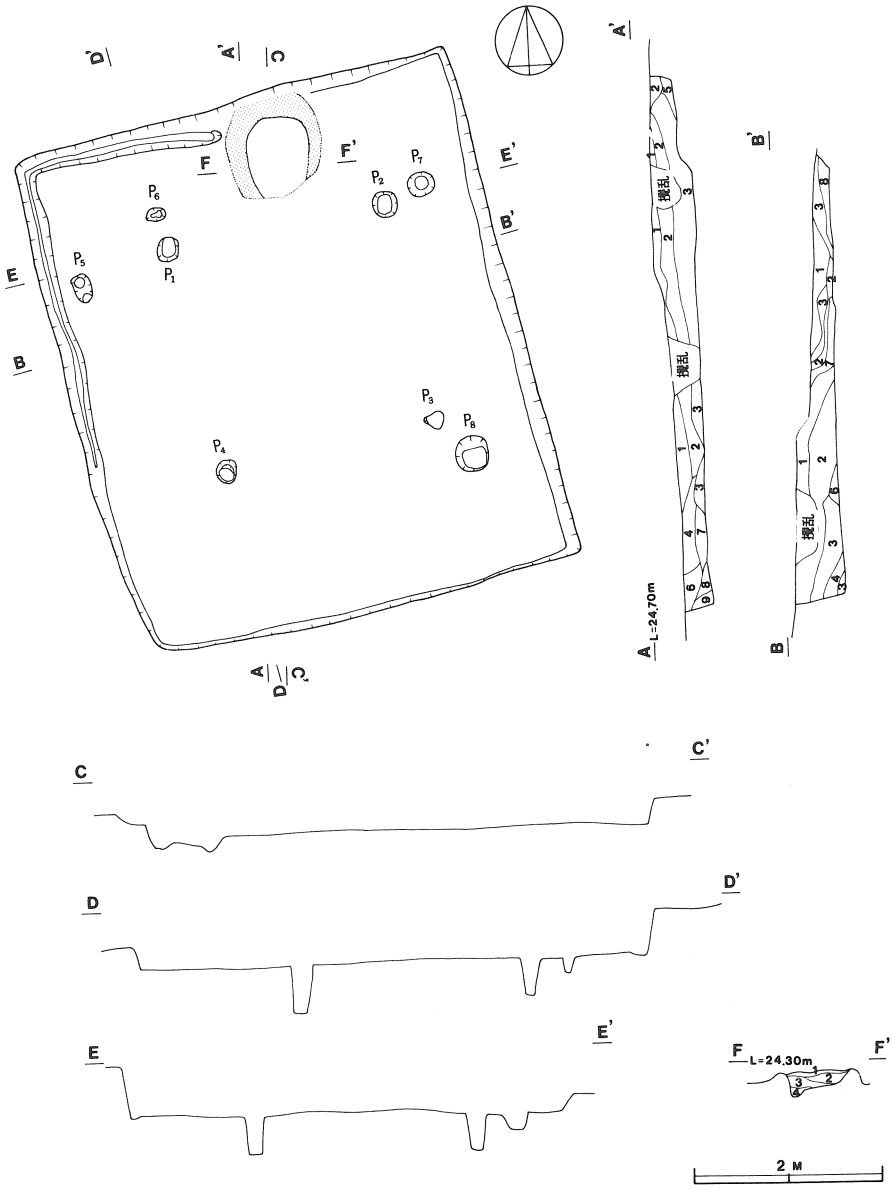
1．Hue　7.5YR⅜　ローム粒子含
2．Hue　7.5YR⅝　ローム粒子多



第 30 図　　ＪＫＮ－Ｂ12号住居址・1号土壙実測図



第 31 図　　ＪＮＳ－Ａ遺跡遺構配置図



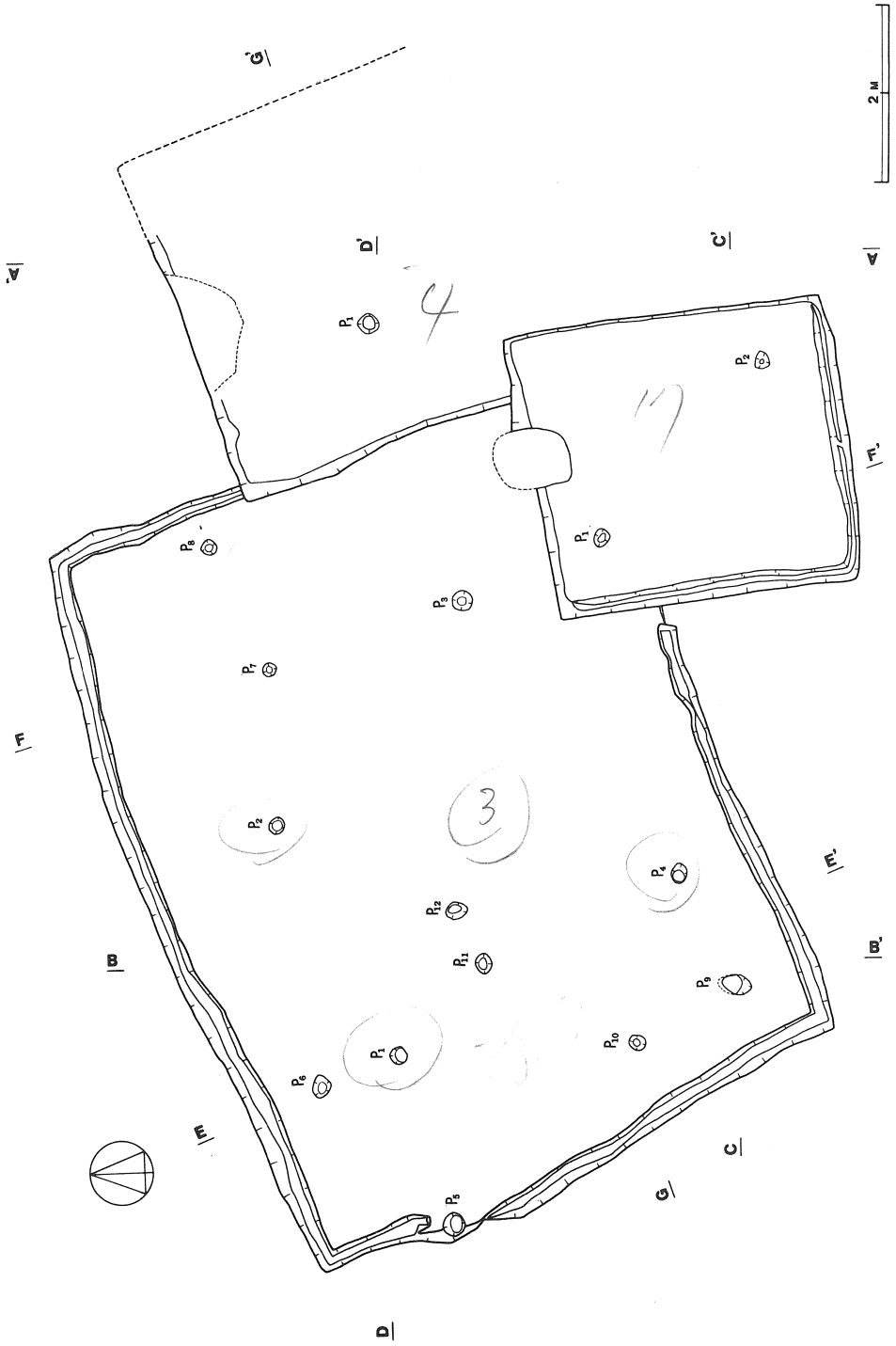
第 32 図　　ＪＮＳ－Ａ01号住居址実測図

JNS －Ａ01号　住居址土層解説

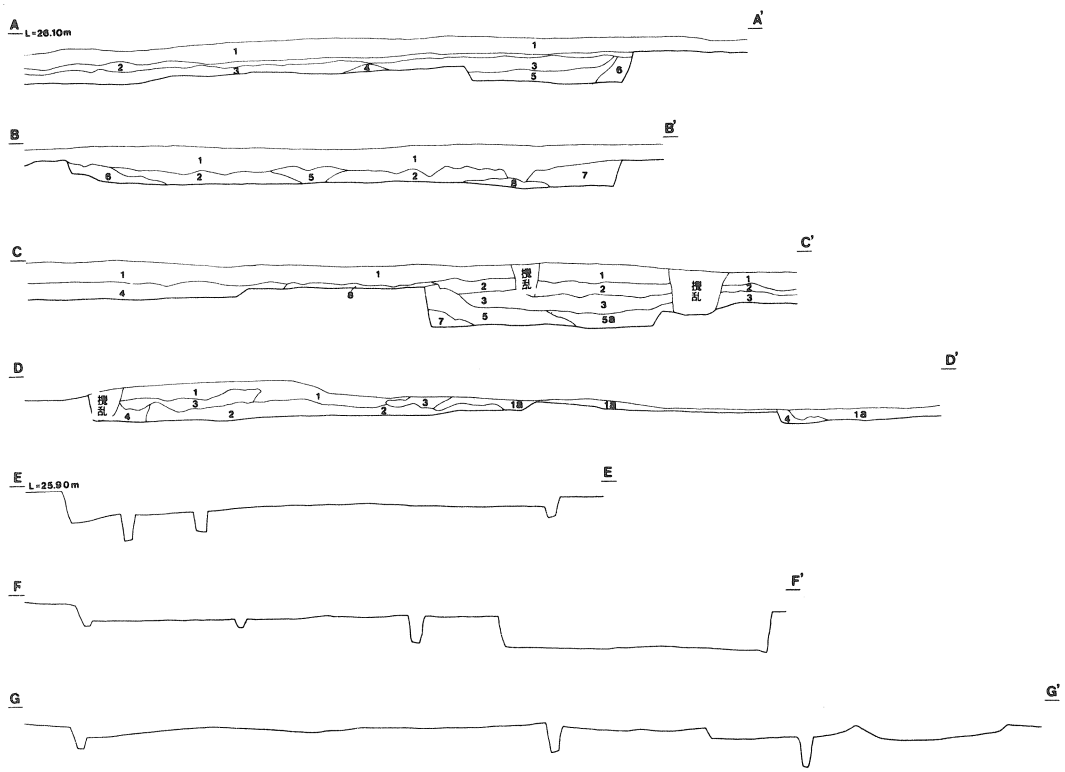
Ａ１．Hue 7.5YR ¾　暗褐色　しまり，粘性あり，黒色ブロック含，粘土ブロックあり。
　２．Hue 7.5YR ⅔　褐色　ロームブロック多量に含む，粘土ブロック点在，しまり粘性あり。
　３．Hue１０YR ¾　褐色　しまり，粘性あり，ロームブロック含む，炭化物混入。
　４．Hue 7.5YR ¾　褐色　黒色ブロック含，粘土ブロック点在，しまり・粘性あり。
　５．Hue 7.5YR ⅚　褐色　しまり，粘性あり，良質の砂多量に含む，焼土含む。
　６．Hue 7.5YR ¾　暗褐　色しまりなし，粘性あり，ロームまじり。
　７．Hue１０YR ⅚　褐色　焼けた土器粒子を含，しまり・粘性あり。
　８．Hue１０YR ¾　褐色　しまり・粘性あり，ローム及び粘土ブロック多量に含む。
　９．Hue 7.5YR ¾　暗褐　色はり粘性ありロームブロック含む。
Ｂ１．Hue 7.5YR ⅔　褐色　しまりなし，粘性あり，粘土小ブロック含む。
　２．Hue 7.5YR ¾　褐色　しまり，粘性あり，ロームブロック多量に含む。
　３．Hue 7.5YR ⅔　褐色　しまり粘性あり，灰白色粘土ブロック及び粒子含。ロームブロック含，焼けた土器粒子含む。
　４．Hue 7.5YR ¾　褐色　しまりなし粘性強い，焼土粒子含む。
　５．Hue１０YR ¾　褐色　しまりなし粘性強い，ローム多量に含む。
　６．Hue 7.5YR ¾　褐色　しまり・粘性あり，焼土・ローム含む。
　７．Hue 7.5YR ⅔　暗褐色　しまり粘性あり，炭化物多量含む。
　８．Hue 7.5YR ¾　褐色　粘性強い，ロームまじり。

Ｆ～Ｆ′　かまど土層解説

1·3　Hue 7.5YR ⅔．暗褐色ざくざくしまりなし，焼土，砂含む。
　２．Hue 7.5YR ¾　暗褐色　しまりなし，焼けた土器片含。
　４．Hue 7.5YR ⅚　黄褐色　しまり粘性あり，ロームまじり。



第 33 図　　ＪＮＳ－Ａ03・04・17号住居址実測図（１）



第 34 図　ＪＮＳ－Ａ03・04・17号住居址実測図（２）

2 M

JNS －Ａ３・４・17号住居址土層解説

Ａ（04・17住）

1．Hue１０YR ⅘　褐色　耕作土，しまり粘性なし。
2．Hue１０YR ⅔　黒褐色　かたくしまる，さらさら炭化物，砂，ローム含。
3．Hue１０YR ⅔　暗褐色　しまりあるも粘性なし，ローム含む。
4．Hue１０YR ¾　暗褐色　粘性あるもしまりなし，ローム含む。
5．Hue１０YR ⅔　暗褐色　かたくしまる，土器片(焼けたもの)粘土ブロック，黒色土(ブロックとして)含む。
6．Hue１０YR ⅔　黒褐色　しまりなし，粘性あり，ロームブロック含む。

Ｂ（03住）

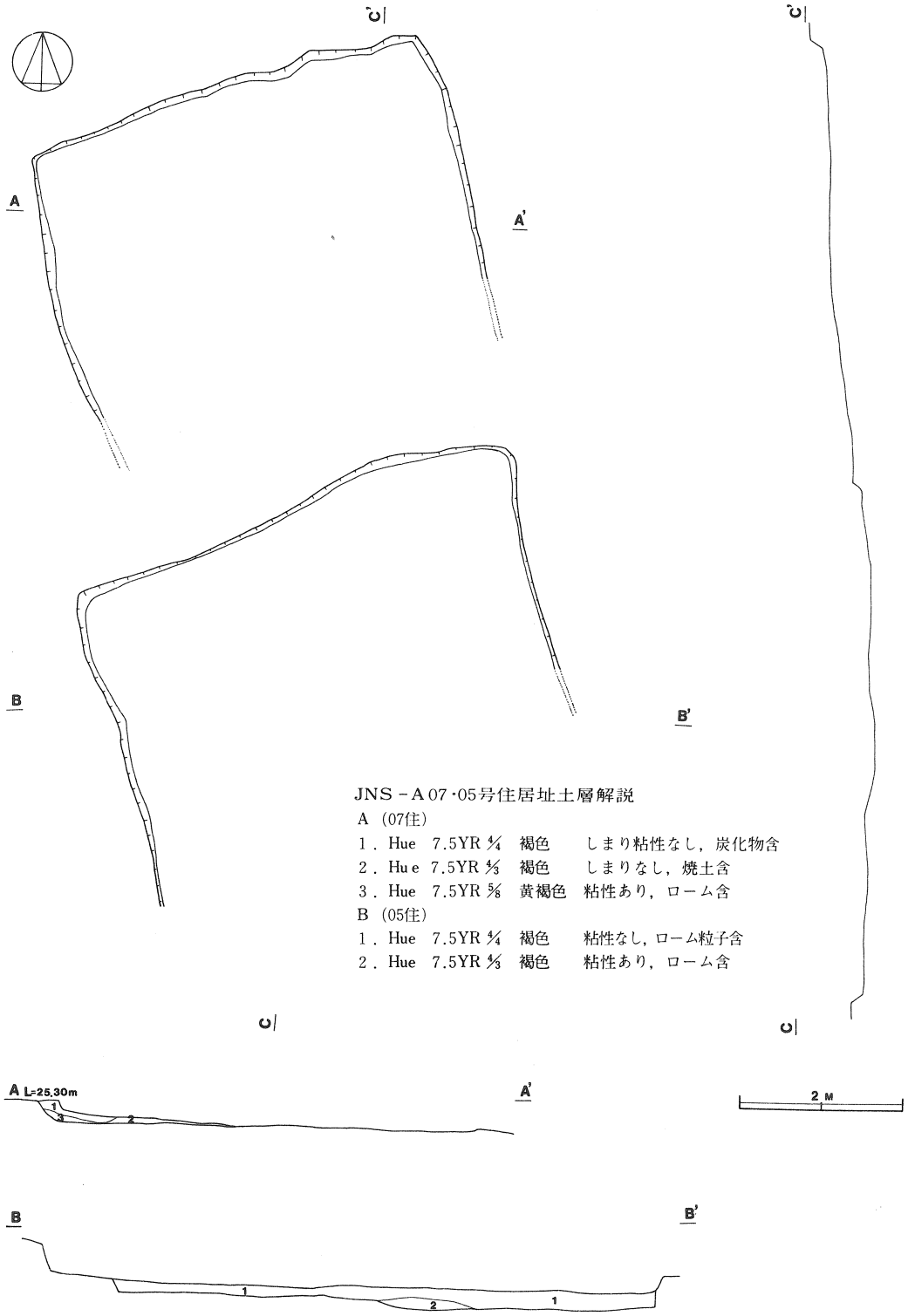
1．Hue１０YR ¾　暗褐色　耕作土・しまりなし，炭化物・粘土ブロックを含む。
2．Hue 7.5YR ¾　暗褐色　粘性あり，粘土ブロック炭化物砂含む。
3．Hue１０YR ¾　暗褐色　しまり粘性なし，良質の砂を含む。
4．Hue１０YR ⅔　暗褐色　しまり粘性なし，赤茶色土器粒子含む。
5．Hue 7.5YR ¾　暗褐色　しまり粘性あり，炭化物・灰白色・砂を含む。
6．Hue 7.5YR ¾　暗褐色　しまりなし，粘土ブロック多く含む。
7．Hue１０YR ⅔　褐色　しまりなし，ボロボロ・粘性なし，かたい，粘土ブロック多量に含む。
8．Hue１０YR ⅘　褐色　かたくしまり粘性あり，炭化物ローム含む。

Ｃ（03・17住）

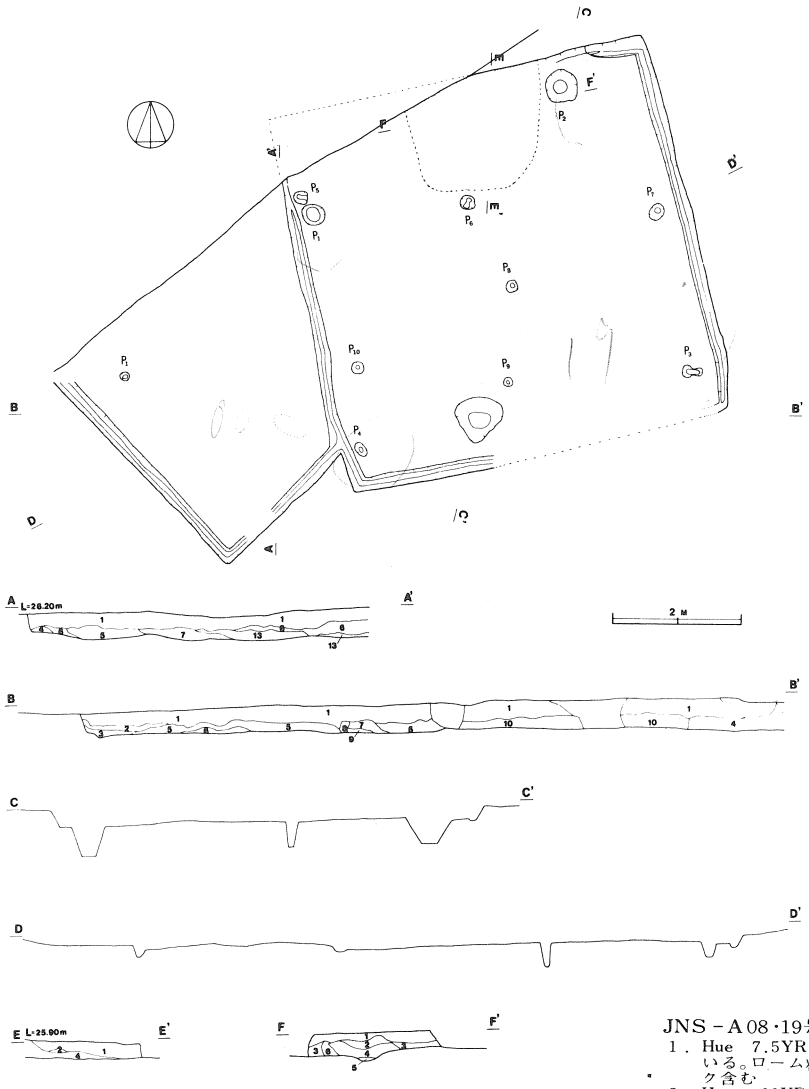
1．Hue１０YR ⅘　褐色　耕作土・しまり，粘性なし
2．Hue１０YR ⅔　黒褐色　かたくしまる，さらさら炭化物・砂・ローム含む
3．Hue１０YR ⅔　暗褐色　しまりあるも粘性なし，ローム含む
4．Hue１０YR ¾　暗褐色　粘性あるもしまりなし，ローム含む
5．Hue１０YR ⅔ 暗褐色　かたく　しまる，土器片(焼けたもの)粘土ブロック，黒色土(ブロックとして)含む
5ａ Hue１０YR ⅔　暗褐色　５層と同じ，多少黄色がかる
6．Hue１０YR ⅔　黒褐色　しまりなし，粘性あり，ロームブロック含む
7．Hue１０YR ¾　暗褐色　しまり，粘性ともにあり，ローム・雲母粒子含む
8．Hue１０YR ⅚　褐色　ローム

Ｄ（03・04住）

1．Hue１０YR ¾　暗褐色　耕作土・しまりなし，炭化物・粘土ブロック含む
1ａ Hue１０YR ¾　暗褐色　粘性なし雲母含む，粘土ブロック含む
2．Hue 7.5YR ¾　暗褐色　しまりなし，粘性あり，炭化物・粘土ブロック，砂含む
3．Hue１０YR ¾　暗褐色　しまり，粘性なし，砂含む
4．Hue１０YR ⅝　黄褐色　しまり粘性なし，ロームブロック含む



第 35 図　ＪＮＳ－Ａ05・07号住居址実測図



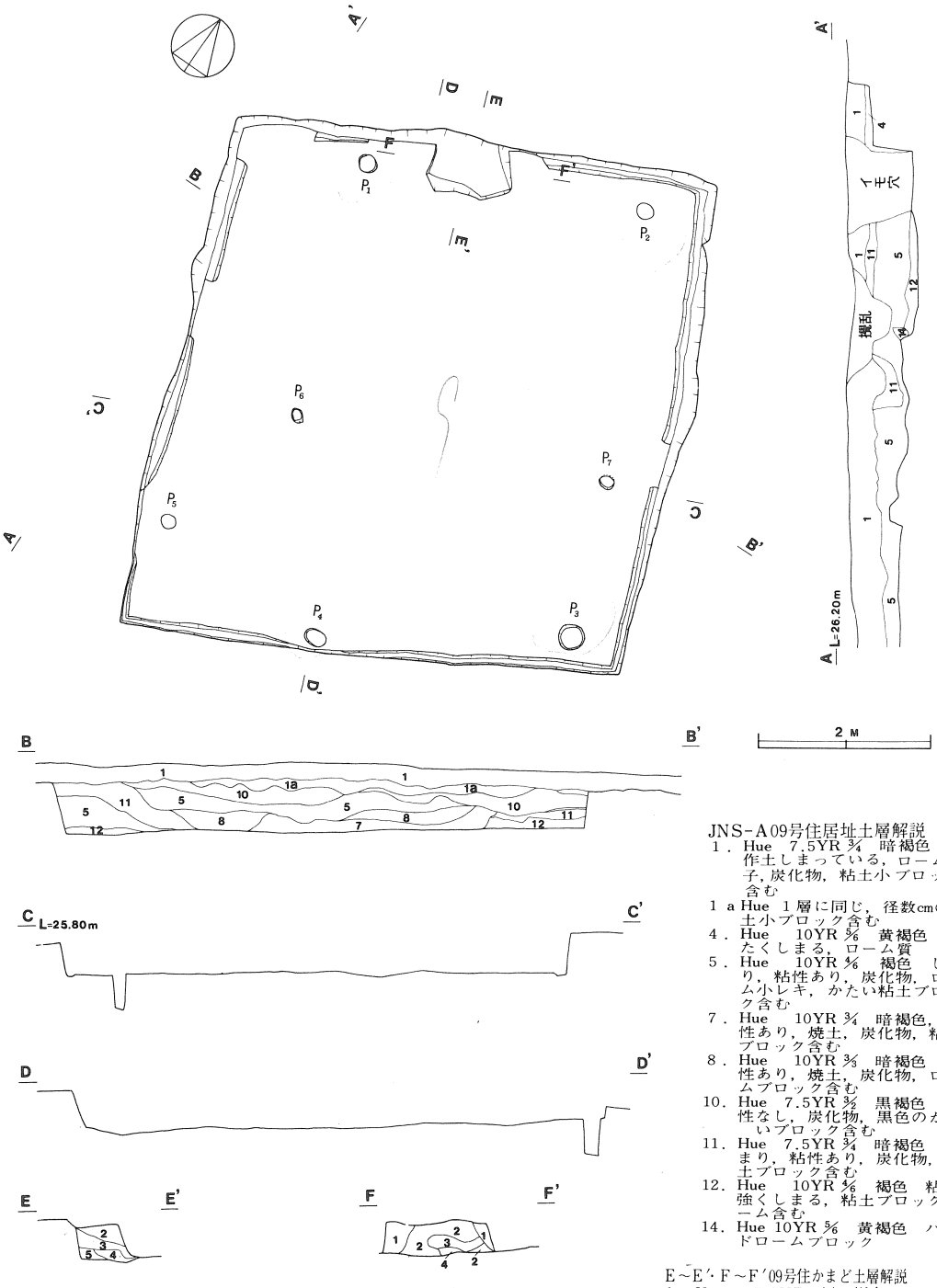
第 36 図　　ＪＮＳ－Ａ08・19号住居址実測図

JNS－A08・19号住居址土層解説

1．Hue　7.5YR ¾　暗褐色 耕作土しまっている。ローム粒子，炭化物，粘土小ブロック含む
2．Hue　10YR ⅔　にぶい黄褐色　非常にかたくしまる。ローム粒子，スコリア含む。
3．Hue　7.5YR ⅔　褐色　粘性しまりあり，ローム粒子及び小ブロック含む。
4．Hue　10YR ⅚　黄褐色　かたくしまる，ローム質。
5．Hue　10YR ⅚　褐色　しまり粘性あり炭化物，ローム小レキかたい粘土ブロック含む。
6．Hue　7.5YR ⅚　褐色　しまり，粘性あり，粘土ブロック，焼土，炭化物含む。
7．Hue　10YR ¾　暗褐色　粘性あり，焼土炭化物，粘土ブロック含む。
8．Hue　10YR ⅔　暗褐色　粘性あり，焼土炭化物ロームブロック含む。
9．Hue　7.5YR ¾　暗褐色　粘性あるもしまりなし，炭化物，焼土含む。
10．Hue　7.5YR ⅔　黒褐色　粘性なし，炭化物，黒色のかたいブロック含む。
11．Hue　10YR ⅚　褐色　かたくしまる，炭化物，粘土ブロックローム含む。

E～E′・F～F′ 19号住かまど土層解説

1．Hue　7.5YR ⅚　褐色　砂・ローム，ブロック含む。覆土しまりなし
2．Hue　7.5YR ⅔　褐色　しまりなし砂含む。
3．Hue　7.5YR ⅚　褐色　砂・ロームブロック含む。よくしまる。
4．Hue　7.5YR ⅚　にぶい褐色　かたくしまる，焼土多く含む。
5．Hue　7.5YR ¾　暗褐色　非常にかたい，焼土のみ。
6．Hue　5YR ⅚　粘性なし，砂を大量に含む。よくしまる。



JNS-A09号住居址土層解説

1．Hue　7.5YR ¾　暗褐色　耕作土しまっている，ローム粒子，炭化物，粘土小ブロック含む

1 a Hue　1層に同じ，径数cmの粘土小ブロック含む

4．Hue　10YR ⅚　黄褐色　かたくしまる，ローム質

5．Hue　10YR ⅚　褐色　しまり，粘性あり，炭化物，ローム小レキ，かたい粘土ブロック含む

7．Hue　10YR ¾　暗褐色，粘性あり，焼土，炭化物，粘土ブロック含む

8．Hue　10YR ⅔　暗褐色　粘性あり，焼土，炭化物，ロームブロック含む

10．Hue　7.5YR ⅔　黒褐色　粘性なし，炭化物，黒色のかたいブロック含む

11．Hue　7.5YR ¾　暗褐色　しまり，粘性あり，炭化物，粘土ブロック含む

12．Hue　10YR ⅚　褐色　粘性強くしまる，粘土ブロック，ローム含む

14．Hue 10YR ⅚　黄褐色　ハードロームブロック

E～E'・F～F'09号住かまど土層解説

1．Hue　7.5YR ¾　褐色　ローム質，ム質，よくしまる。砂・粘土ブロブロック含む。

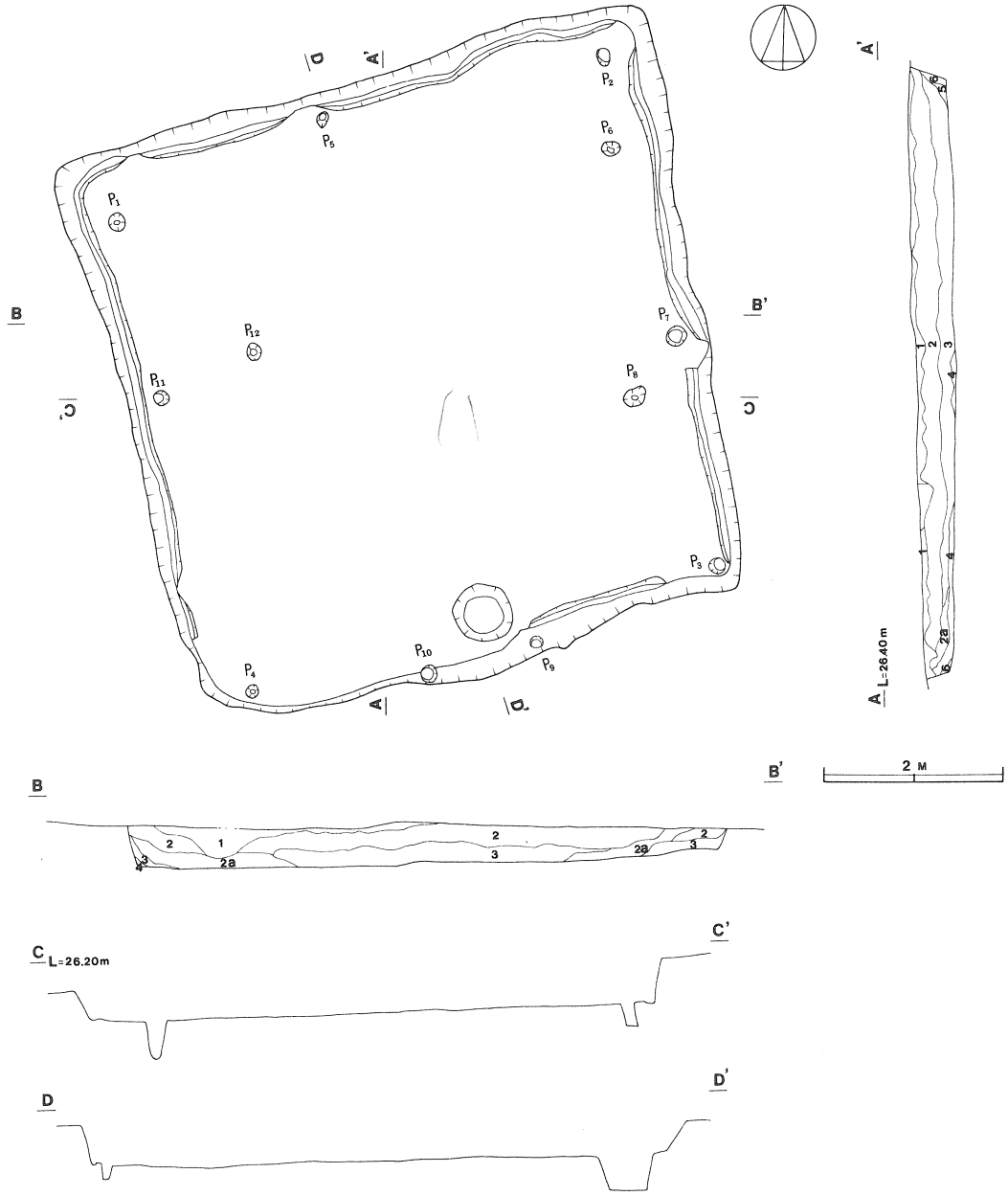
2．Hue　7.5YR ⅓　褐色　よくしまり，砂多量に含む。

3．Hue　7.5YR ¾　褐褐色　しまりなくザラザラし，焼土・砂含む。

4．Hue　10YR ⅜　暗赤褐色　焼土・砂・粘土ブロック・等分含む。

5．　ローム，地山。

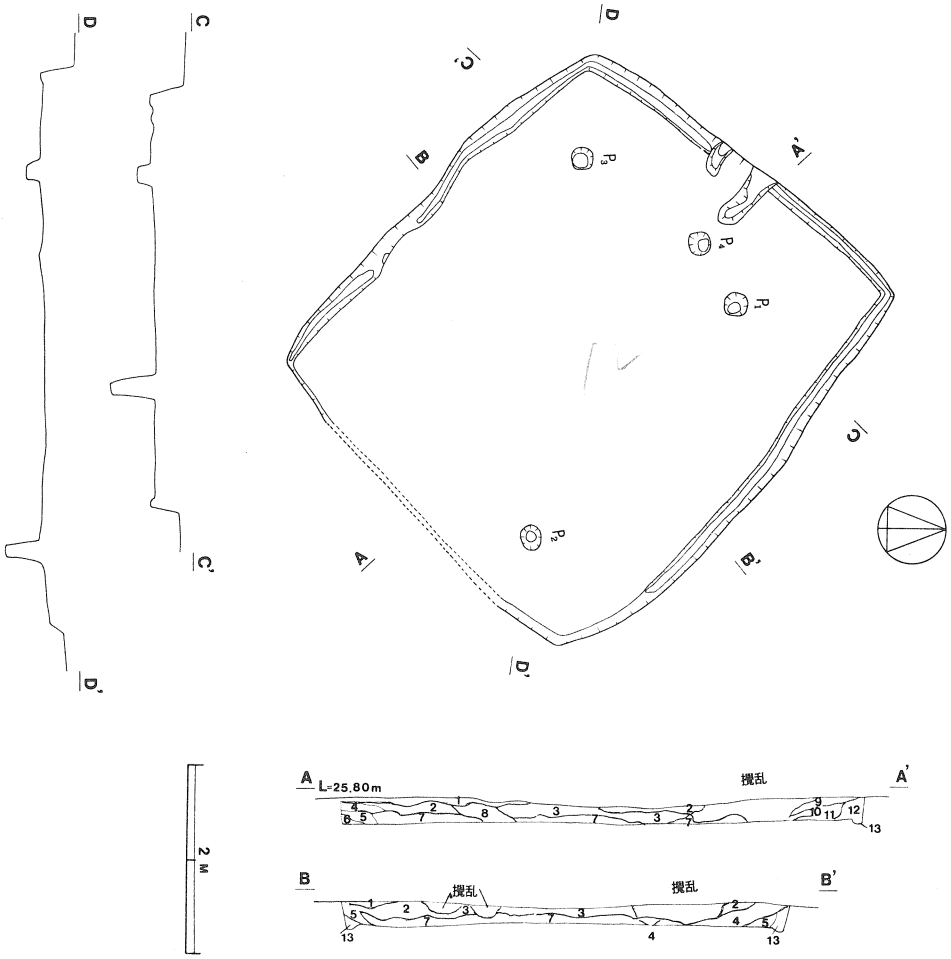
第 37 図　　JNS－A09号住居址実測図



第 38 図　　ＪＮＳ－Ａ11号住居址実測図

JNS－A11号住居址土層解説

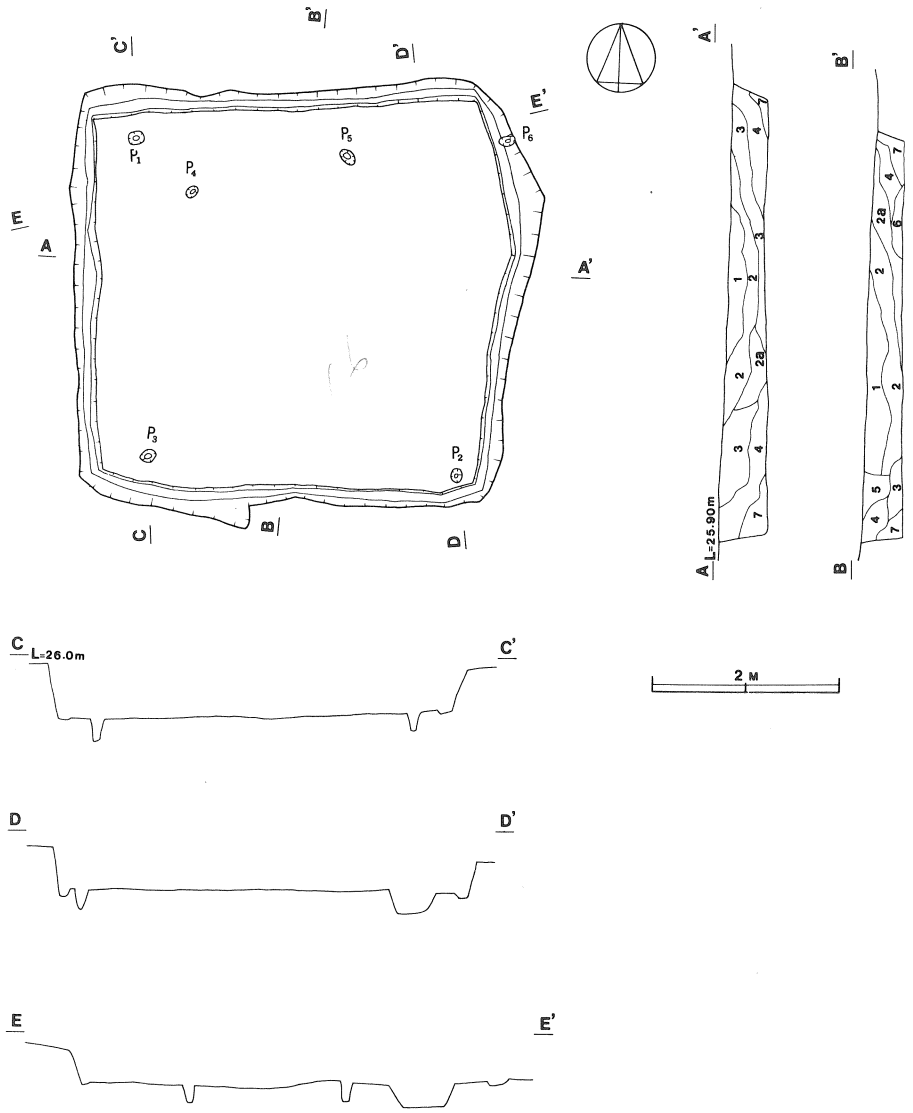
1．Hue　10YR 4/4　褐色　耕作土，しまり，粘性なし，炭化物，スコリアを含む
2．Hue　10YR 3/4　暗褐色　1層と同じ，非常にかたくしまる
2 a Hue　2層に同じ，ロームブロック多く含む
3．Hue　10YR 5/4　にぶい黄褐色　粘性なし，炭化物，ロームブロック，ローム含む
4．Hue　7.5YR 4/6　褐色　よくしまり，粘性あり，炭化物，粘土ブロック，ローム含む
5．Hue　7.5YR 4/4　褐色　かたく粘性あり。ローム炭化物，粘土ブロック多く含む
6．Hue　10YR 4/6　褐色　しまり，粘性あり，ローム多く含む



第 39 図　　ＪＮＳ－Ａ12号住居址実測図

JNS －A　12号住居址土層解説

1. Hue 7.5YR 4/4　褐色かたくしまる，ローム粒子含む
2. Hue 10YR 5/6　褐色１層よりしまりなし，粘性なし，粘土小ブロック含む
3. Hue 10YR 5/6　褐色しまりあるも粘性なし，粘土ブロック，炭化物，雲母片含む
4. Hue 7.5YR 4/4　褐色粘性あり，ローム粒子，粘土ブロック含む
5. Hue 10YR 5/6　褐色かたくしまっている，粘土ブロック及びローム含む
6. Hue 10YR 5/6　褐色ざくざくしている，ロームまじる，粘性あり
7. Hue 10YR 5/6　褐色しまり，粘性あり，ローム含む
8. Hue 7.5YR 5/6　褐色しまりなし粘性ありローム含む
9. Hue 10YR 5/6　褐色しまりあり砂，小レキ含む
10. Hue 10YR 5/6　褐色しまりあり砂，小レキ，粘土ブロック含む
11. Hue 10YR 5/4　褐色しまりあり粘性なし，ロームを含む砂質層
12. Hue 1.5YR 3/4　暗褐色砂及びローム含む
13. Hue 7.7YR 5/4　褐色しまり粘性あり，ロームまじり

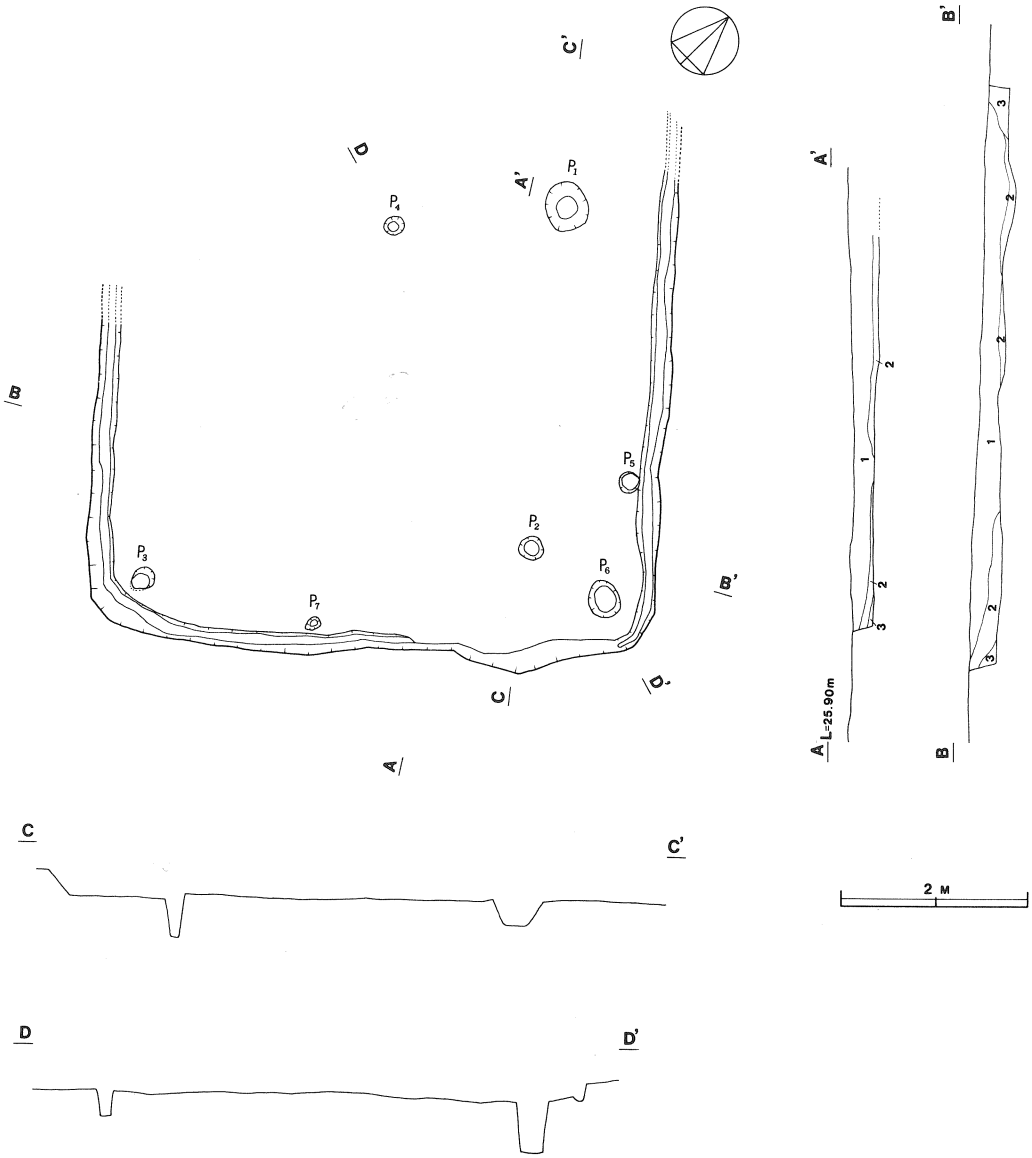


第 40 図　　ＪＮＳ－Ａ16号住居址実測図

JNS－A16号住居址土層解説

1．Hue　7.5YR 3/2　黒褐色　かたまるが粘性なし，焼土ロームブロックを多く含む。
2．Hue　7.5YR 4/3　褐色　　しまり，粘性あり，ロームブロック多く含む。
2 a Hue　7.5YR 4/3　褐色　２層に同じ，炭化物を多く含む。

3．Hue　10YR 5/6　黄褐色　しまり，粘性あり，ローム質。
4．Hue　10YR 5/8　黄褐色　しまり，粘性あり，ローム及び数cmの粘土ブロックを含む。
5．Hue　7.5YR 3/3　暗褐色　しまり，粘性あり，ローム粒子含む。
6．Hue　7.5YR 4/6　赤褐色　よくしまる，焼土多量に含む。
7．Hue　10YR 5/4　にぶい黄褐色　ローム質砂少々含む。



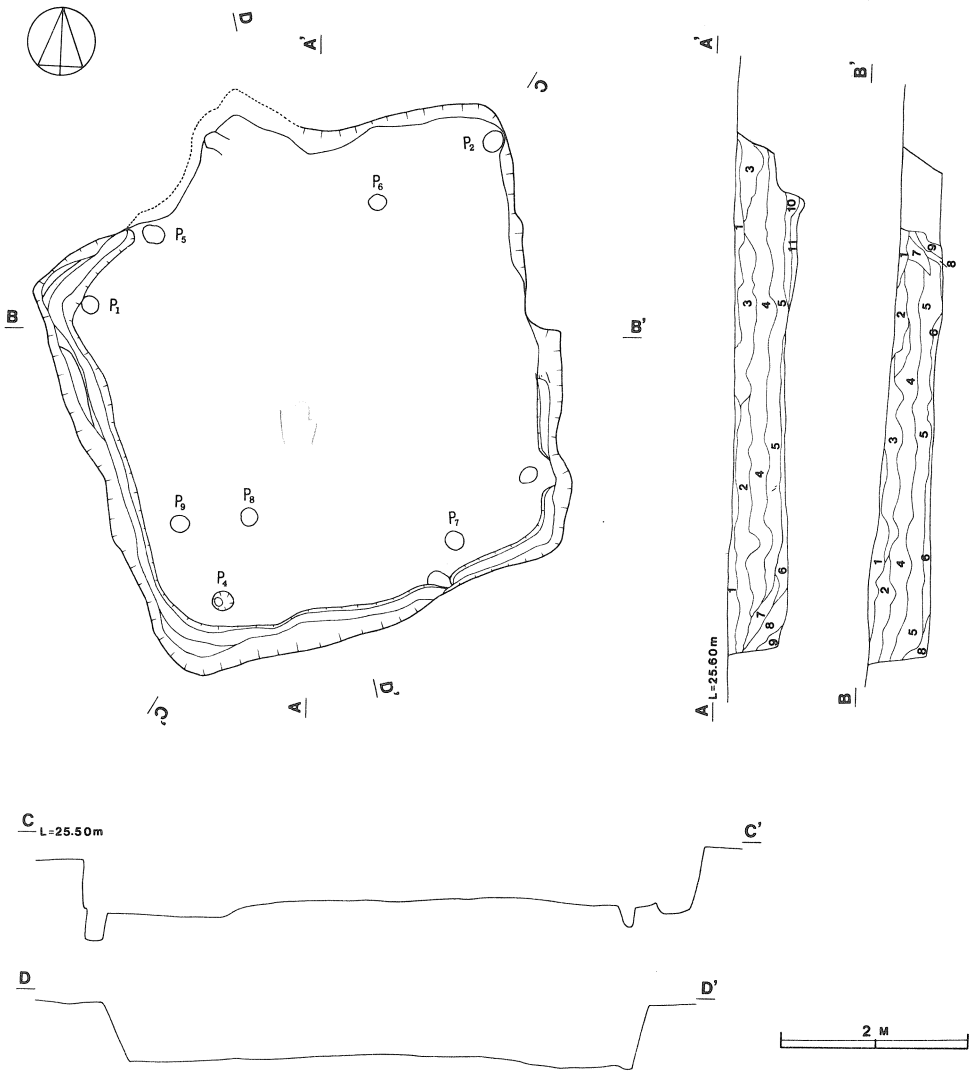
第 41 図　　ＪＮＳ－Ａ20号住居址実測図

JNS－A20号住居址土層解説

1．Hue　7.5YR 5/3　褐色　砂含しまり，粘性なし

2．Hue　7.5YR 5/4　褐色　粘性あり，ローム含

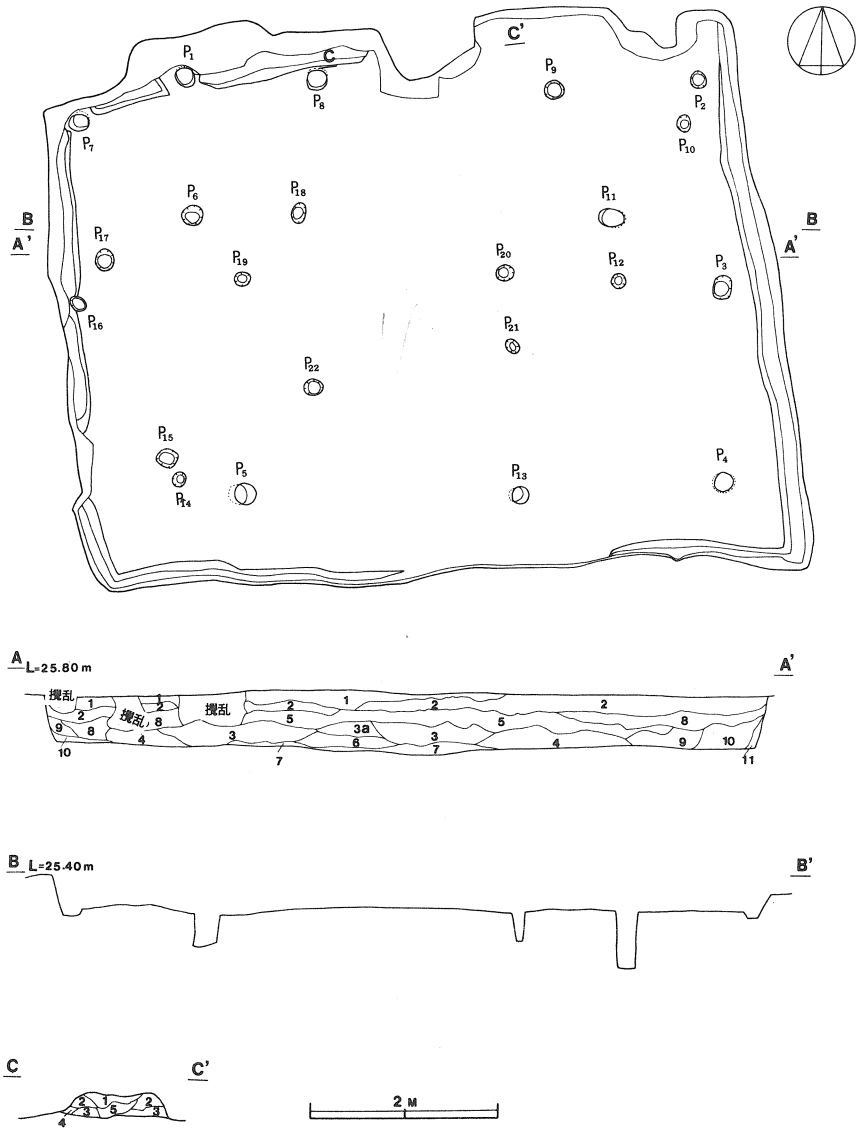
3．Hue　7.5YR 5/6　褐色　ローム，ロームブヲック含，ロしまり粘性あり。



第 42 図　　ＪＮＳ－Ａ13号住居址実測図

JNS－A　13号住居址土層解説

1．Hue　10YR ¾　暗褐色　非常にかたくしまる，ローム粒子，スコリア含む。
2．Hue　10YR ¾　暗褐色　しまり粘性なし，小レキ粒子含む。
3．Hue　10YR ⅔　黒褐色　はり，粘性なし，小レキ粘土ブロック炭化物粒子含む。
4．Hue　10YR ¾　暗褐色　しまりあるも粘性なし，粘土ブロック，炭化物粒子含む。
5．Hue　10YR ⅘　褐色　しまり，粘性ともにあり，焼けた土器片，炭化物粒子含む。
6．Hue　10YR ⅘　褐色　かたくしまる，ローム質，炭化物，青灰色粒子を含む。
7．Hue　10YR ¾　暗褐色　２層に同じ，さらにはりがなくザクザク。
8．Hue　7.5YR ⅘　褐色　粘性あり，粘土ブロック含む。
9．Hue　7.5YR ⅘　褐色　粘性あり，ローム含む。
10．Hue　10YR ⅔　黒褐色　かたくしまる，木炭，焼けた土器片多く含む。
11．Hue　7.5YR ¾　暗褐色　非常にかたい，粘土ブロック含む。



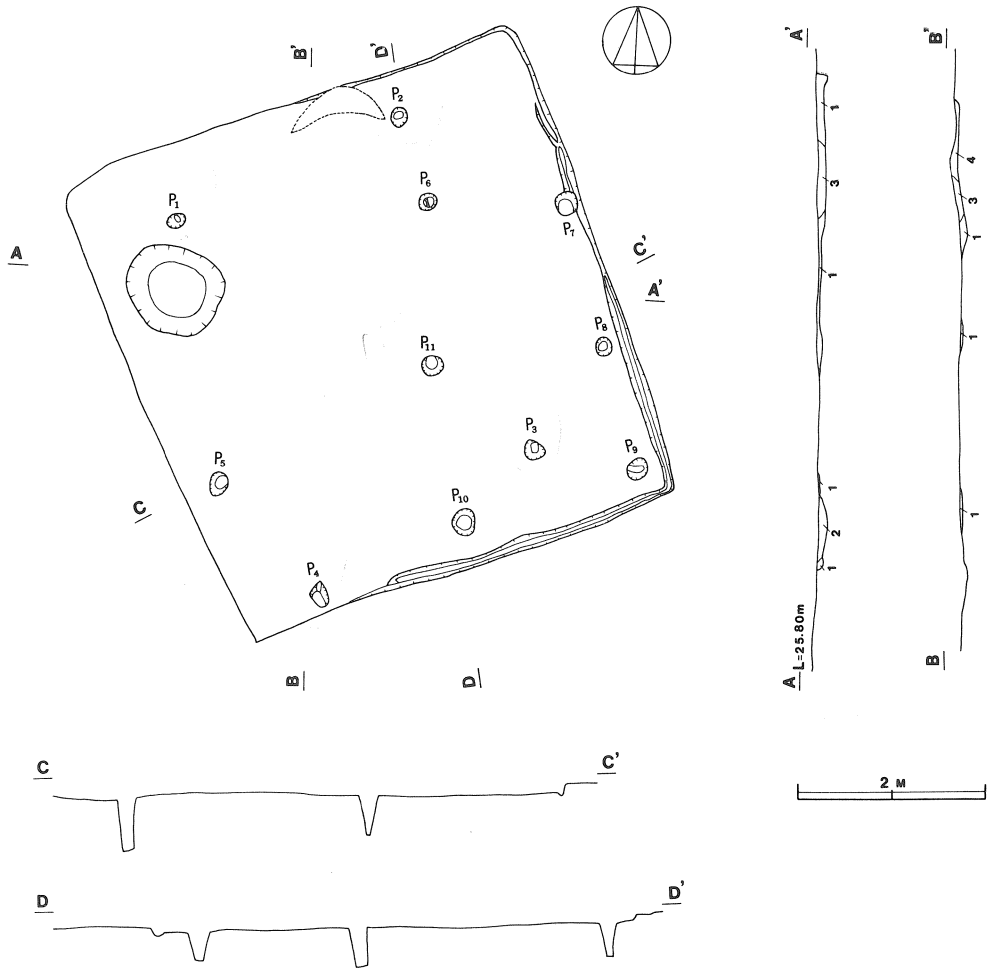
第 43 図　　ＪＮＳ－Ａ14号住居址実測図

JNS －A　14号住居址土層解説

1．Hue 7.5YR 3/4 暗褐色耕作土，しまりなし小レキ含む
2．Hue 7.5YR 3/3 暗褐色非常にかたくしまる，炭化物，砂，粘土ブロック含む
3．Hue 7.5YR 3/2 黒褐色しまりあり，粘土ブロック，焼土含む
3a Hue 7.5YR 3/4 暗褐色土相・質３層に同じ
4．Hue 7.5YR 3/4 暗褐色　粘性あり，粘土ブロック，ローム・焼土含む
5．Hue 7.5YR 4/3 褐色かたい部分とザクザクの部分があある，全体的にしまっている，ローム粒子，焼土含む
6．Hue 7.5YR 3/3 暗褐色しまり粘性なし，焼土，ロームブロック含む
7．Hue１０YR 4/3 褐色（床面のほりすぎ)粘性しまりあり，かたい粘土ブロック，ローム質層
8．Hue 7.5YR 4/3 褐色しまりなくくずれやすい焼土含む
9．Hue 7.5YR 4/4 褐色粘性あり，焼土，ローム，炭化物含む
10．Hue 7.5YR 4/4 褐色しまり粘性あり，焼土，粘土ブロックック含む，ローム質
11．Hue 7.5YR 4/4 褐色しまりなし，粘性強い，ローム質
12．Hue 7.5YR 4/3 褐色しまりあり，焼土，スコリア，砂多く含む
13．Hue　5 YR 3/4 暗赤褐色焼土，砂，多く含む
14．Hue 7.5YR 4/4 褐色しまりあり炭化物砂焼土含む
15．Hue 7.5YR 3/3 暗褐色しまりあり，炭化物，焼土多く含む

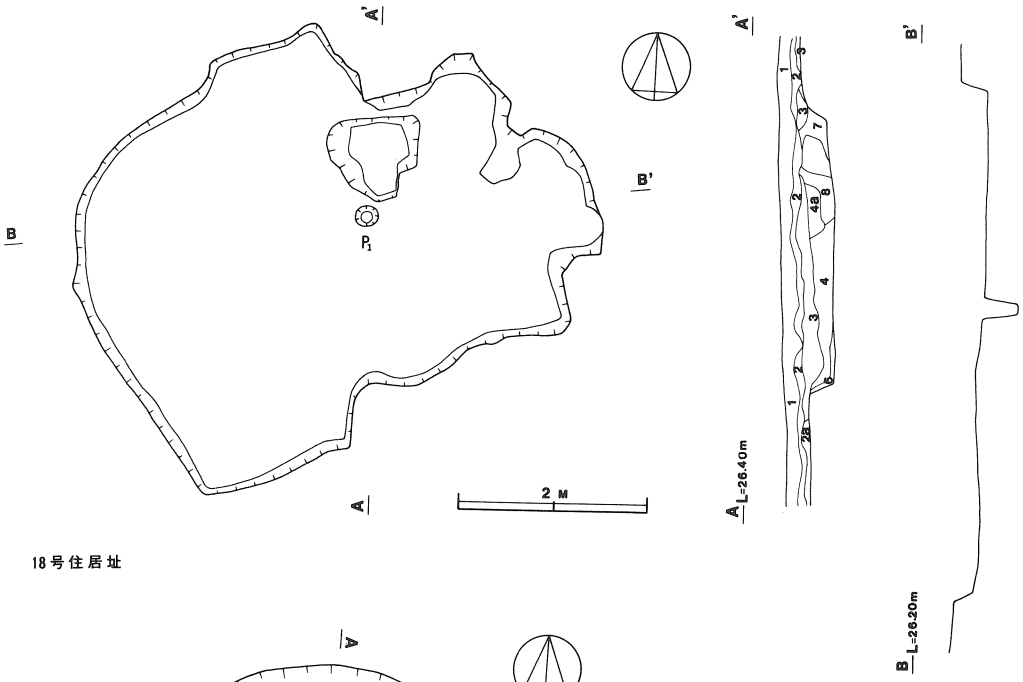
C～C′　かまど土層解説

1．Hue　5YR 3/6 暗赤褐色砂，焼土ブロック，粘土ブロック含む
2．Hue　5 YR 4/3 褐色かたくしまる，砂多く含む
3．Hue 7.5YR 4/4 褐色かたくしまる，砂，ローム含む
4．Hue 7.5YR 4/6 褐色非常にかたい，ローム含む
5．Hue 7.5YR 5/6 明褐色砂・焼土ブロック・粘土ブロック含む
6．Hue　5 YR 4/6 赤褐色かたくしまる，焼土のみ赤色

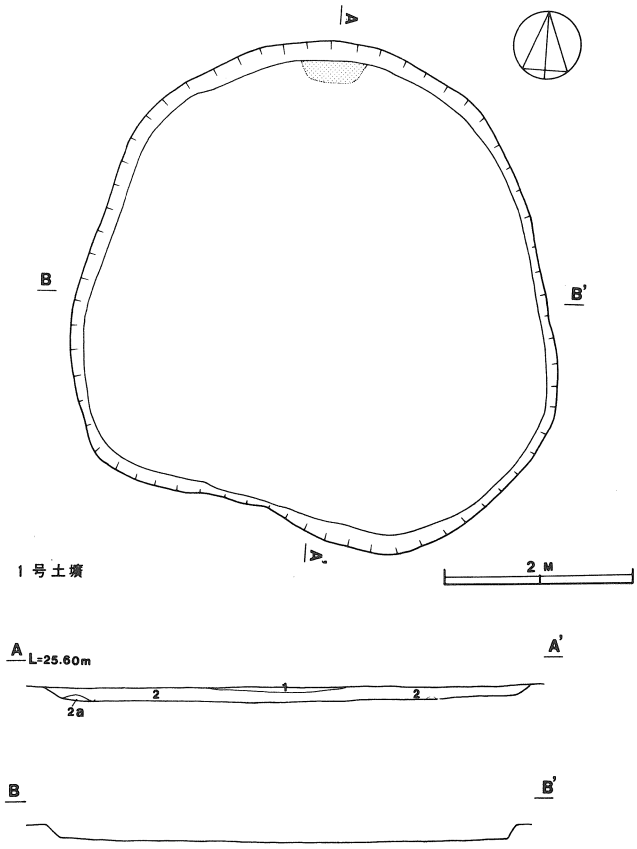


第 44 図　　ＪＮＳ－Ａ15号住居址実測図

JNS－A15号住居址土層解説
1．Hue　10YR 5/6　黄褐色　ローム，ブロック含む，しまり粘性あり
2．Hue　7.5YR 3/2　黒褐色　粘性なし，焼土，炭化物含む
3．Hue　7.5YR 3/4　暗褐色　はりなし，焼土含む
4．Hue　7.5YR 4/6　褐色　粘性あり，焼土砂含む



18号住居址



1号土壙

第45図　JNS—A18・1号土壙実測図

45図　18号住居址　01号土壙

JNS —A　1号土壙土層解説

1．Hue 7.5YR 3/1 黒褐色　細砂含，しまり，粘性なし。

2．Hue 7.5YR 5/4 褐色　部分的に焼土が混入する。粘性あり。砂・ローム粒子含む。

2a Hue 7.5YR 5/6 焼土を2より多量に含む。

JNS —A　18号住居址土層解説

1．Hue 10YR 5/4 褐色　耕作土。しまり粘性なし，炭化物，スコリア含む。

2．Hue 7.5YR 3/4 暗褐色　1層と同じ。非常にかたくしまる。

2a Hue 10YR 3/4 暗褐色　2層に同じ，ロームブロック多く含む。

3．Hue 10YR 5/4 にぶい黄褐色　粘性なし炭化物，ロームブロックローム含む。

4．Hue 7.5YR 5/6 褐色　よくしまり粘性あり。炭化物，粘土ブロック，ローム含む。

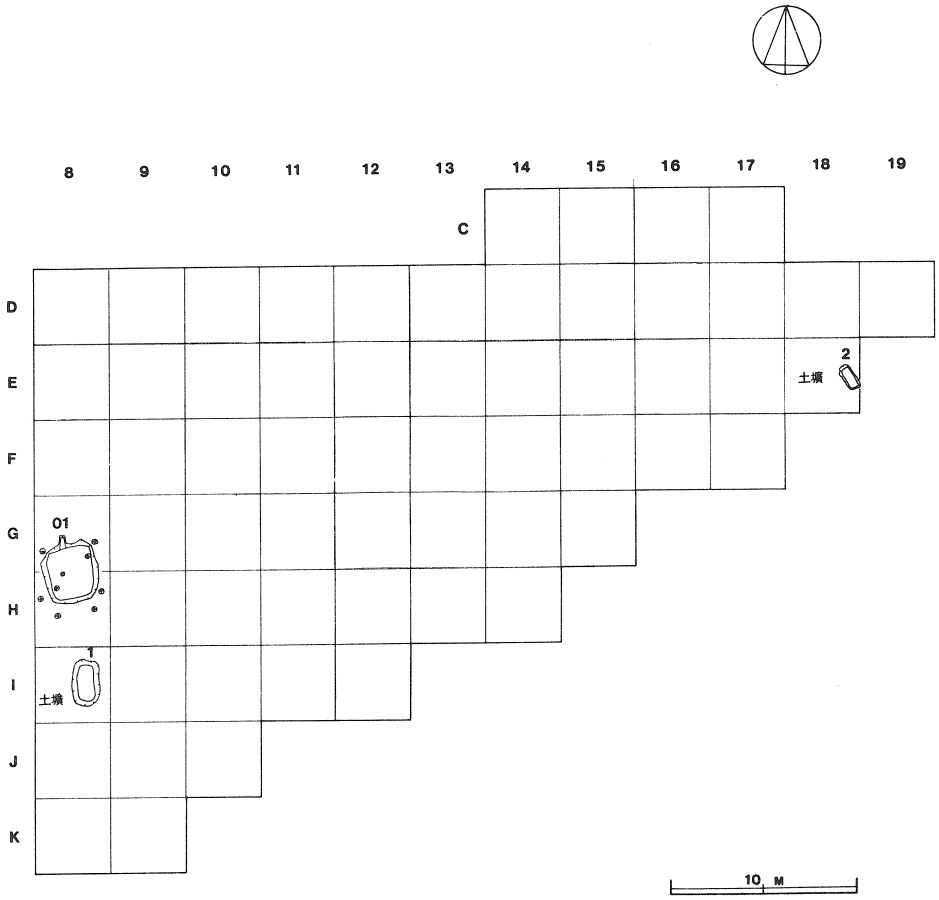
4a Hue 7.5YR 5/6 褐色　4層に同じ。炭化物，砂多く含む。

5．Hue 7.5YR 5/4 褐色　かたく粘性あり，ローム，炭化物，粘土ブロック多く含む。

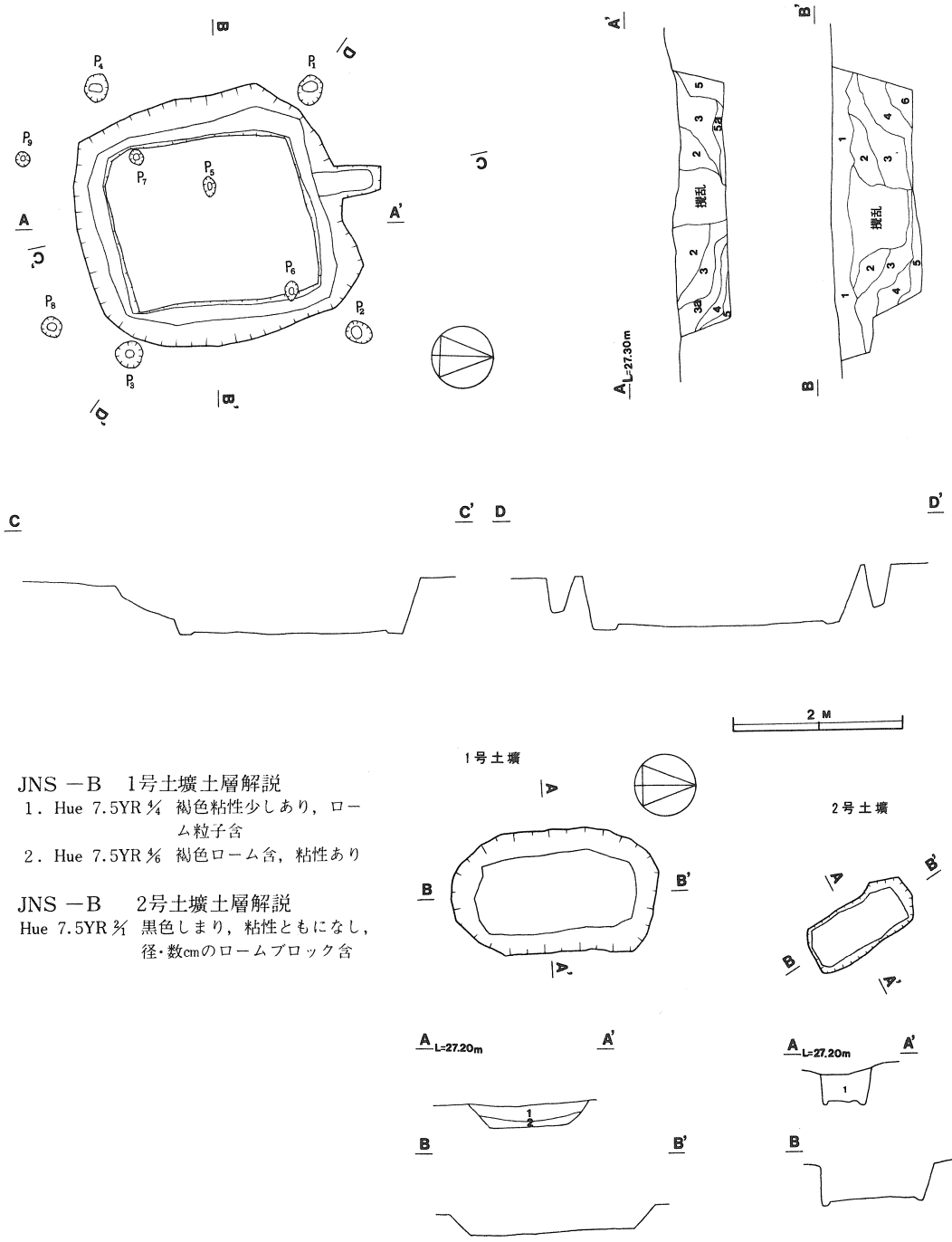
6．Hue 10YR 5/6 褐色　しまり粘性あり，ローム多く含む。

7．

8．Hue 10YR 3/4 暗褐色　粘性なししまりあり，黄白色砂，焼土含む。



第 46 図　　ＪＮＳ－Ｂ遺跡遺構配置図



JNS －B　1号土壙土層解説

1．Hue 7.5YR 4/4　褐色粘性少しあり，ローム粒子含

2．Hue 7.5YR 4/6　褐色ローム含，粘性あり

JNS －B　2号土壙土層解説

Hue 7.5YR 3/1　黒色しまり，粘性ともになし，径・数cmのロームブロック含

第 47 図　　ＪＮＳ－Ｂ01号住居址，１・２号土壙実測図

JNS －B　01号住居址土層解説

1．Hue 7.5YR 2/3　褐色黒色土粒子含，耕作土しまりなし

2．Hue 7.5YR 3/1　黒色軟らかいロームブロック含，しまり粘性なし

3．Hue 7.5YR 3/4　粘性あり，小さな粘土ブロックローム含，ややしまる

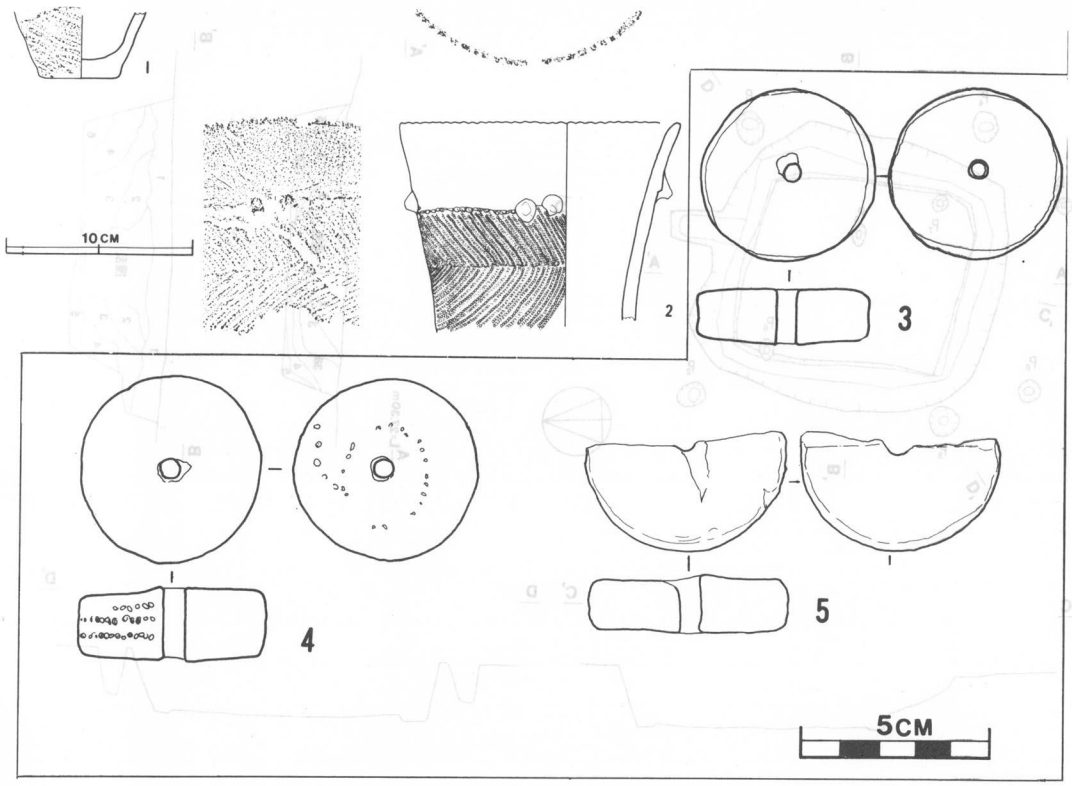
3a Hue 7.5YR 3/4　土層質３に同じ，やや明るくなる

4．Hue 7.5YR 4/4　褐色ローム，粘土ブロック，小レキ含，しまり粘性あり

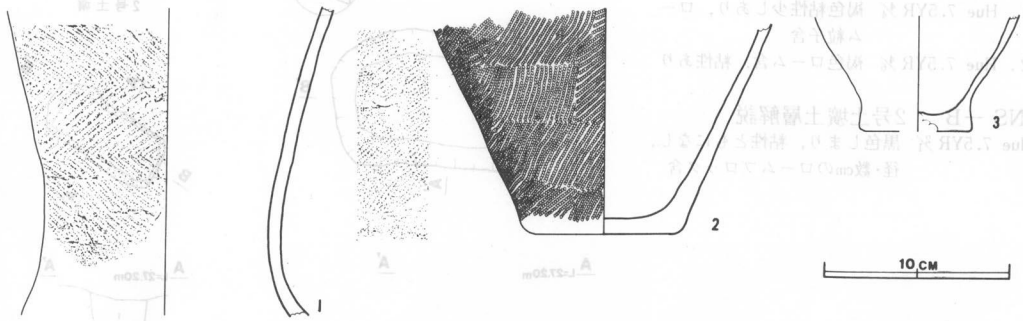
5．Hue 10YR 5/6　黄褐色ローム質，炭化物含，しまり粘性あり

5a Hue 10YR 5/8　黄褐色土層質は５に同じ

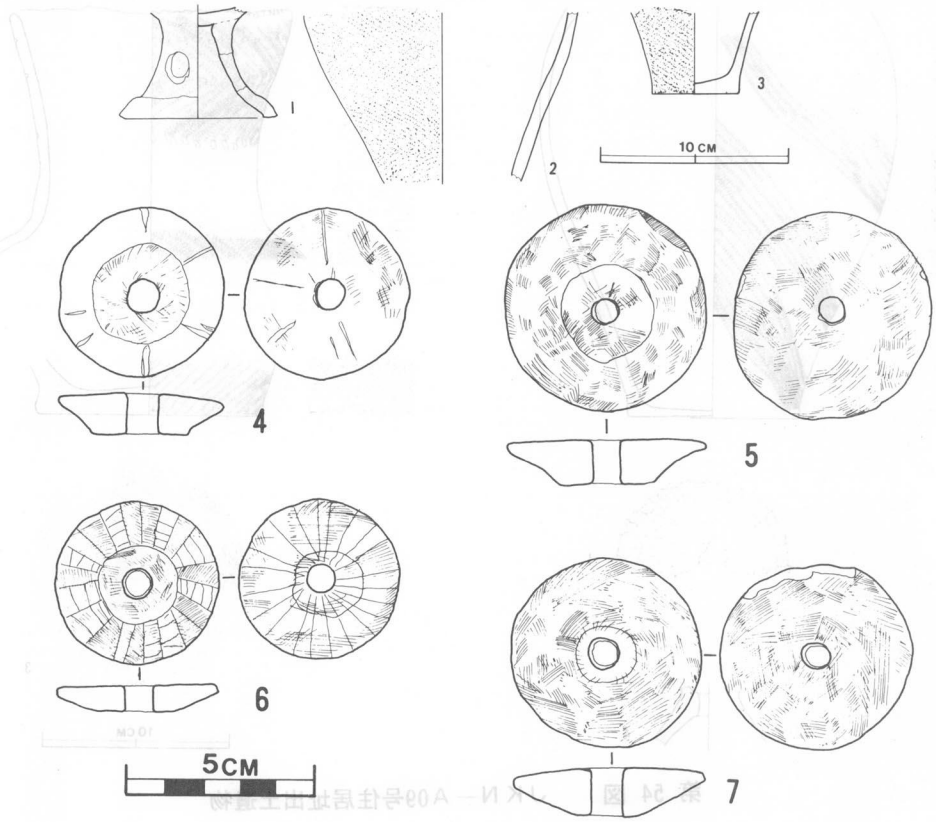
6．Hue 7.5YR 4/6　褐色ざくざくしている，焼土・炭化物・細砂粒子含，しまり粘性なし



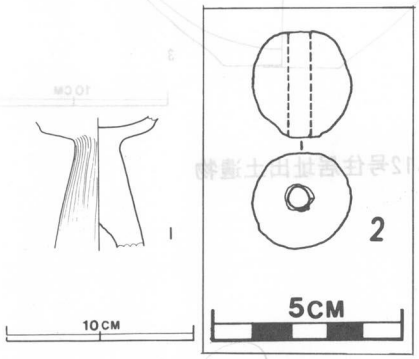
第 48 図　　ＪＫＮ－Ａ01号住居址出土遺物



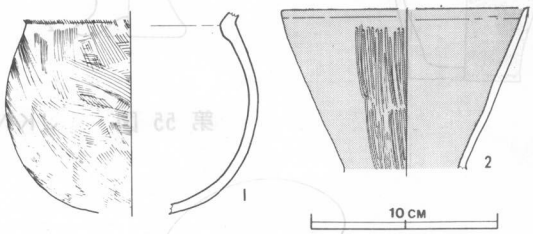
第 49 図　　ＪＫＮ－Ａ03号住居址出土遺物



第 50 図　　ＪＫＮ－Ａ02号住居址出土遺物

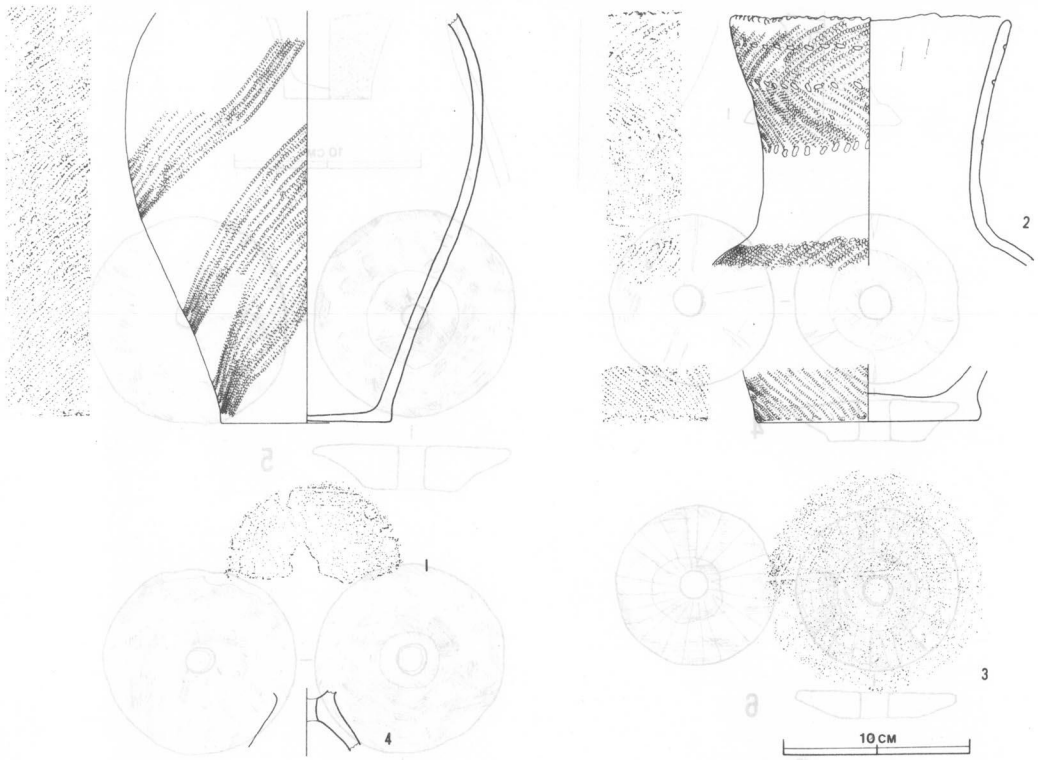


第 51 図　　ＪＫＮ－Ａ04号住居址出土遺物

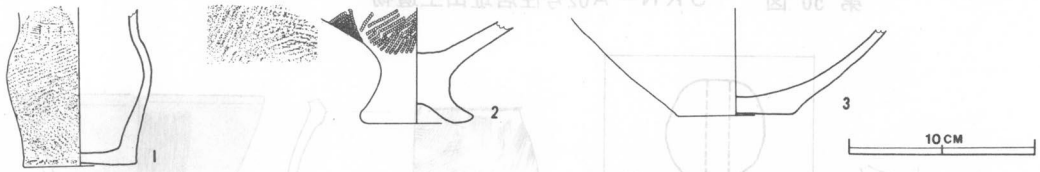


第 52 図　　ＪＫＮ－Ａ05号住居址出土遺物

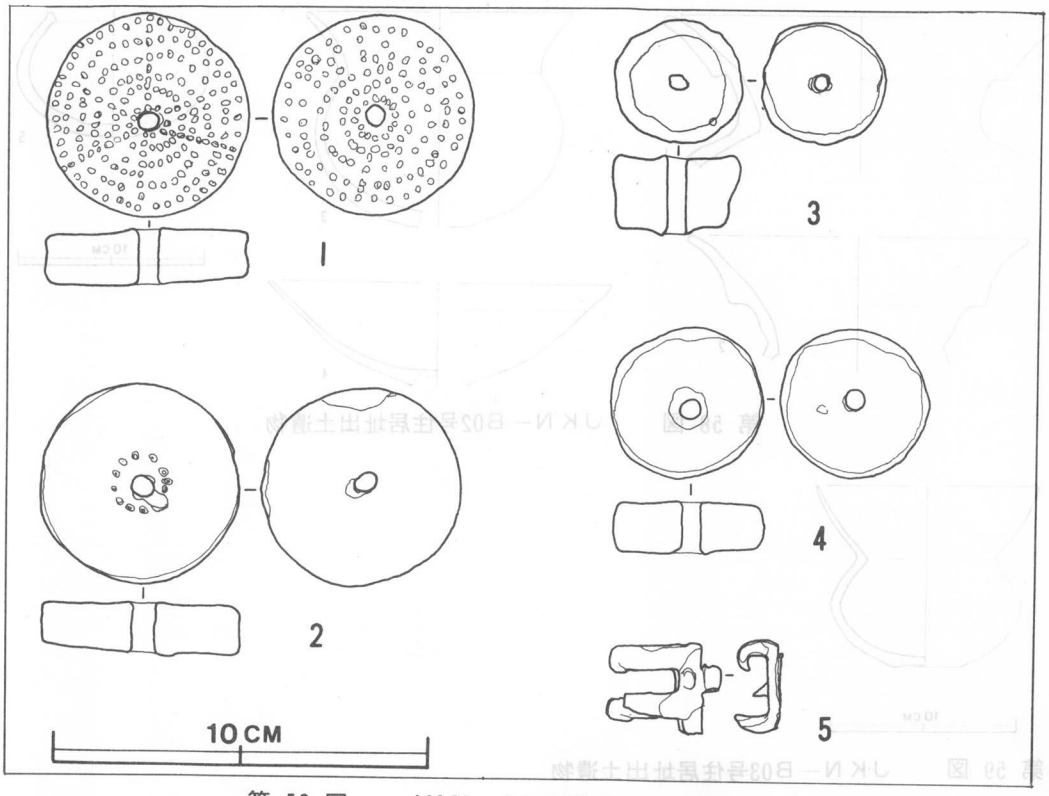
第 53 図　　ＪＫＮ－Ａ06号住居址出土遺物



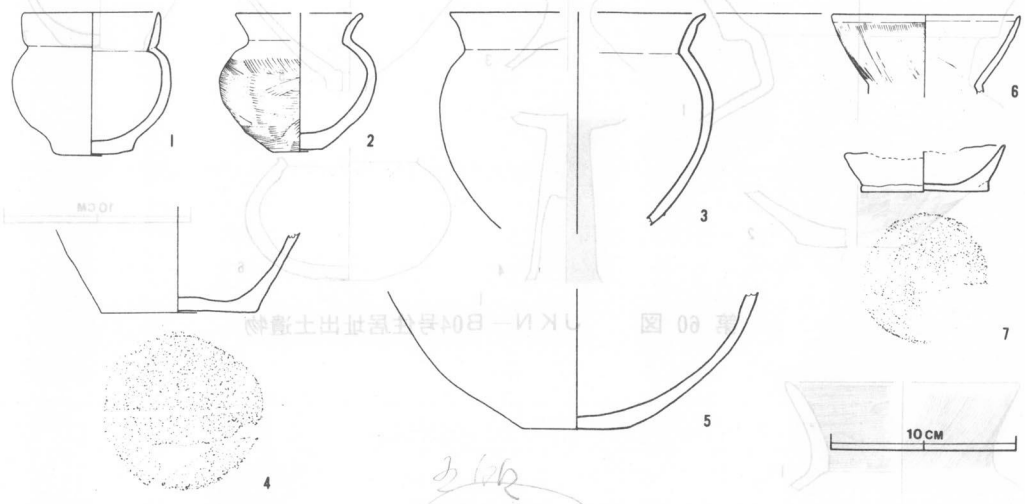
第 54 図　ＪＫＮ－Ａ09号住居址出土遺物



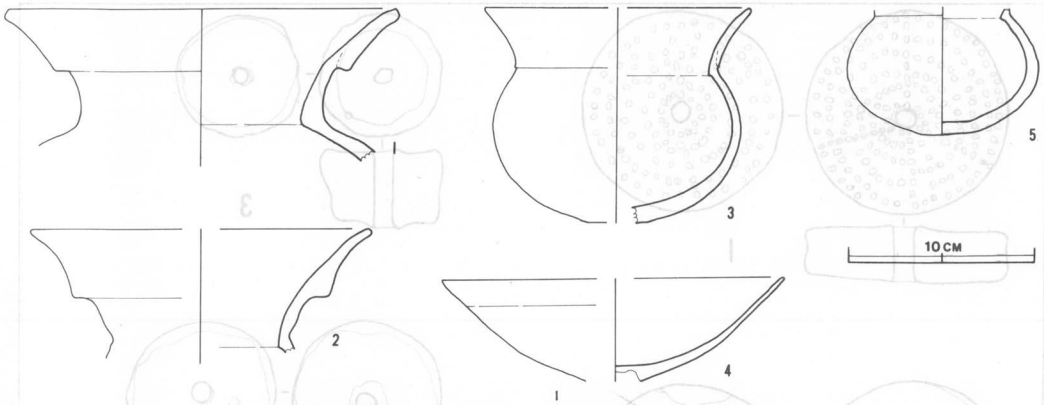
第 55 図　ＪＫＮ－Ａ12号住居址出土遺物



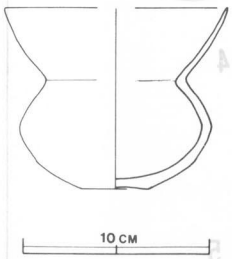
第 56 図　　ＪＫＮ－Ａ11号住居址出土遺物



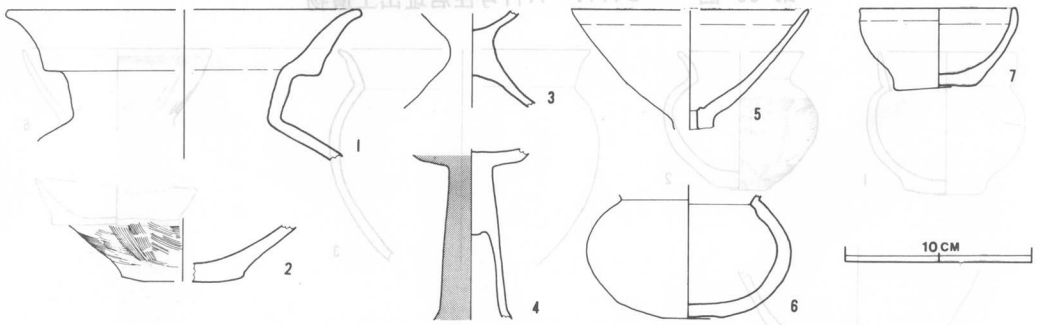
第 57 図　　ＪＫＮ－Ｂ01号住居址出土遺物



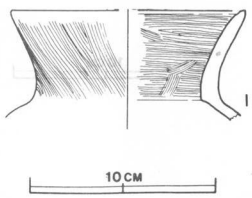
第 58 図　　ＪＫＮ－Ｂ02号住居址出土遺物



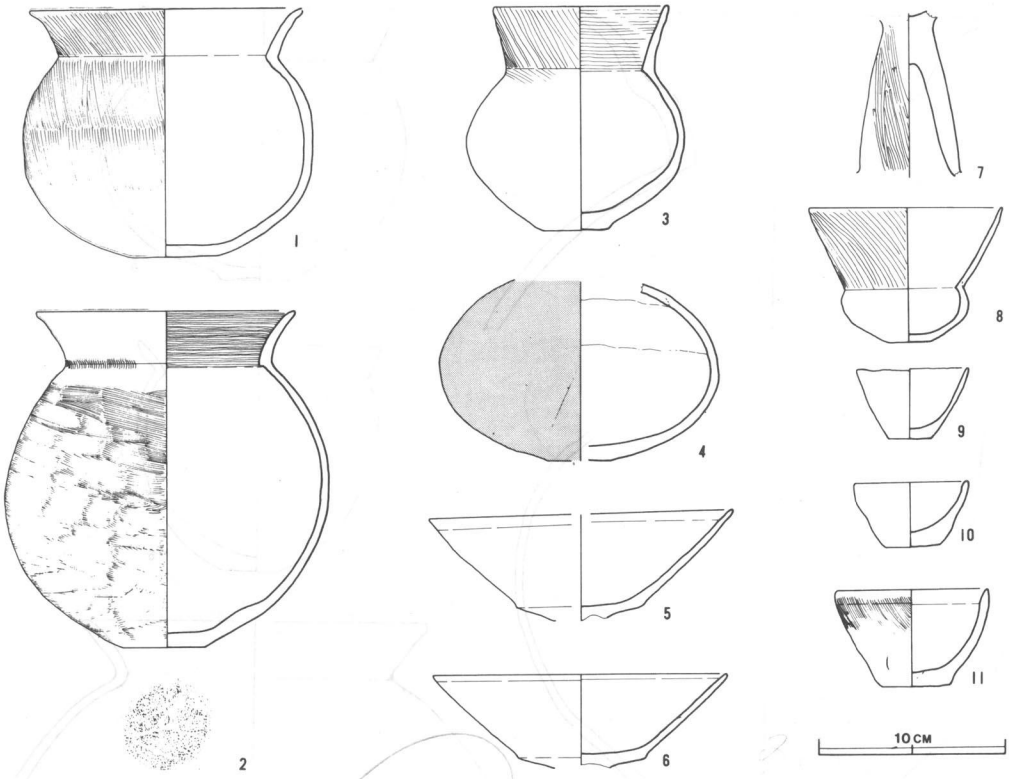
第 59 図　　ＪＫＮ－Ｂ03号住居址出土遺物



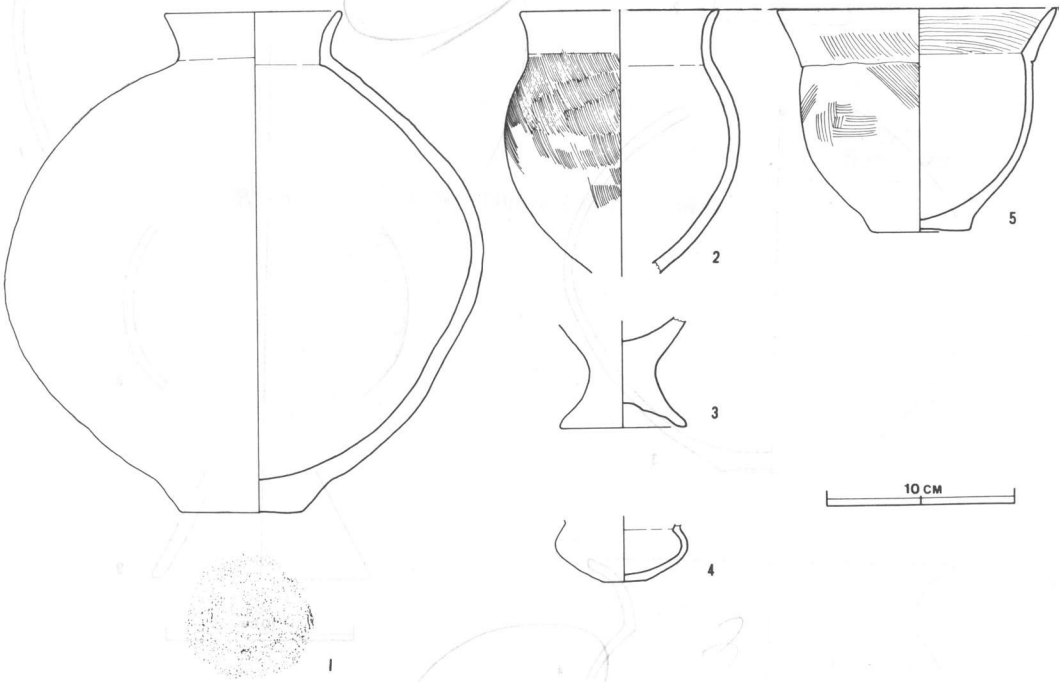
第 60 図　　ＪＫＮ－Ｂ04号住居址出土遺物



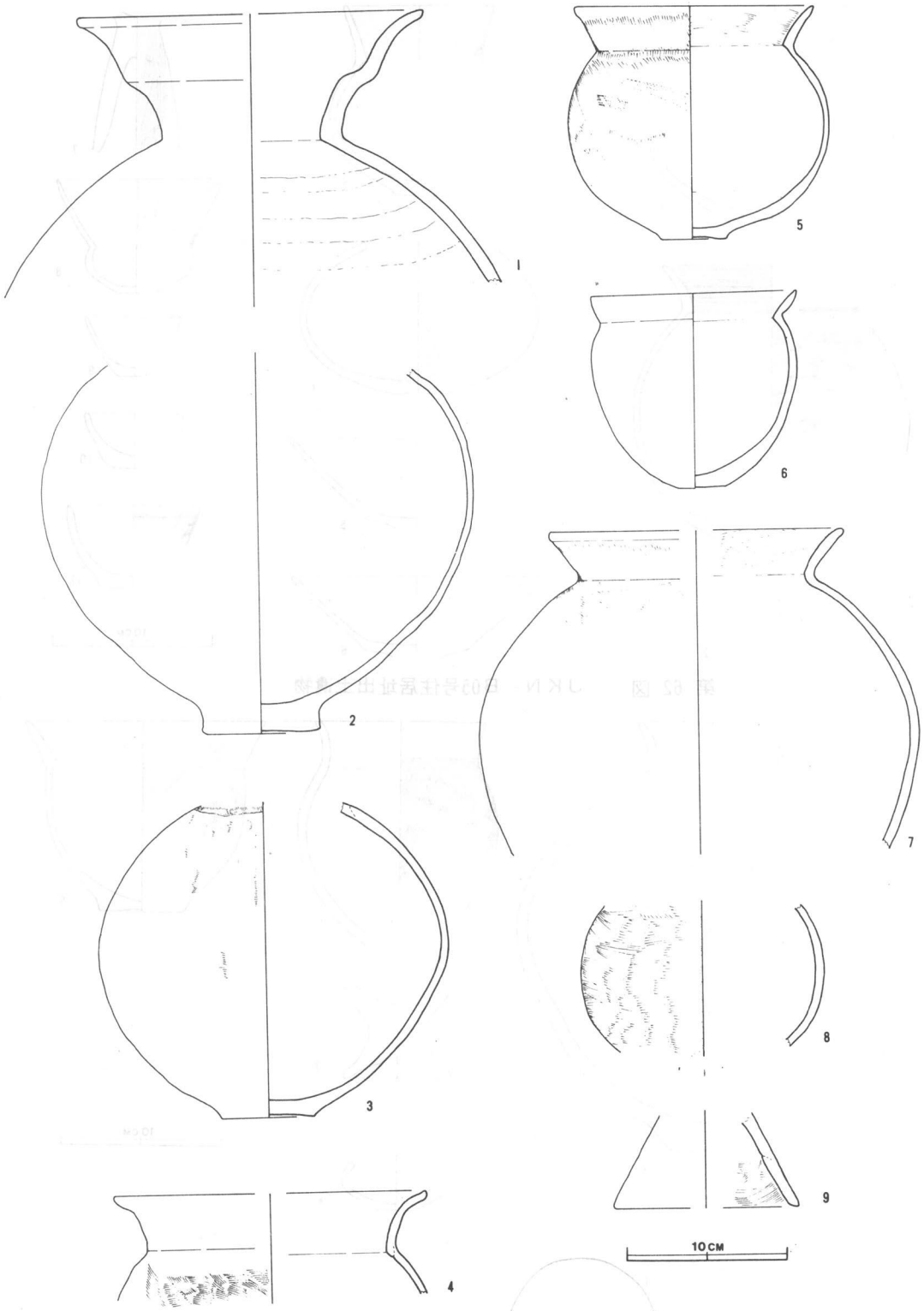
第 61 図　　ＪＫＮ－Ｂ06号住居址出土遺物



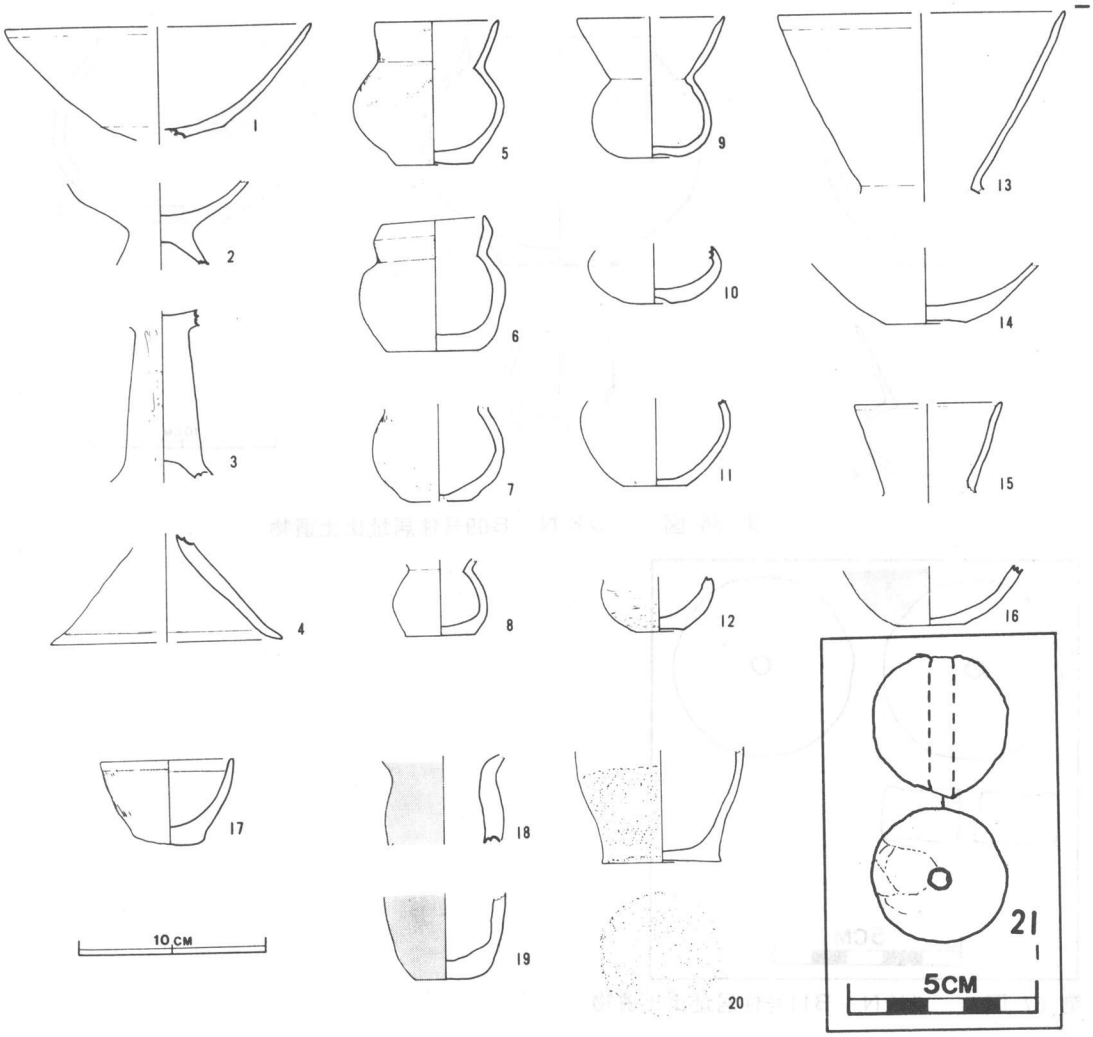
第 62 図　ＪＫＮ－Ｂ05号住居址出土遺物



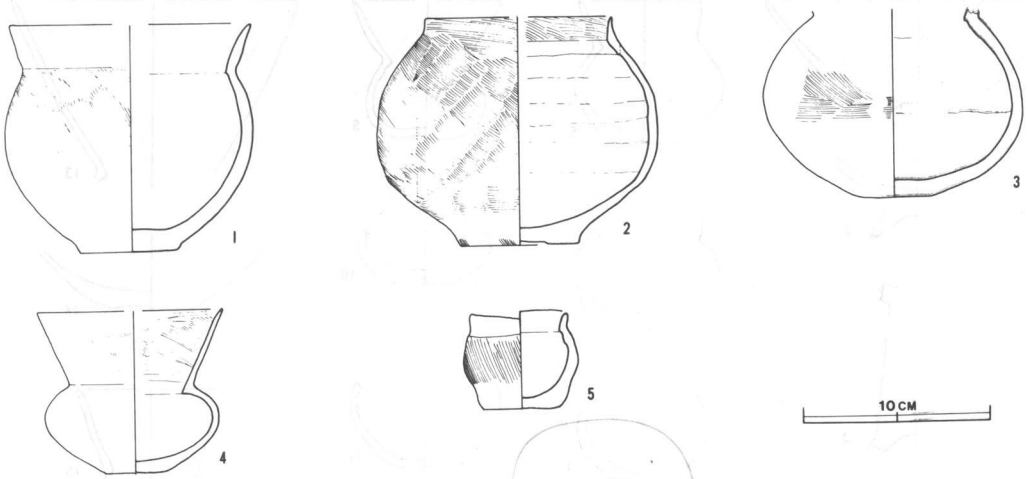
第 63 図　ＪＫＮ－Ｂ07号住居址出土遺物



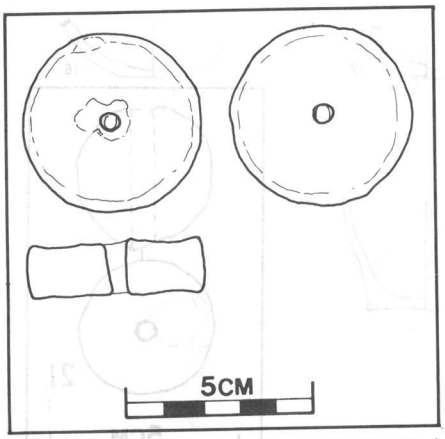
第 64 図　ＪＫＮ－Ｂ08号住居址出土遺物



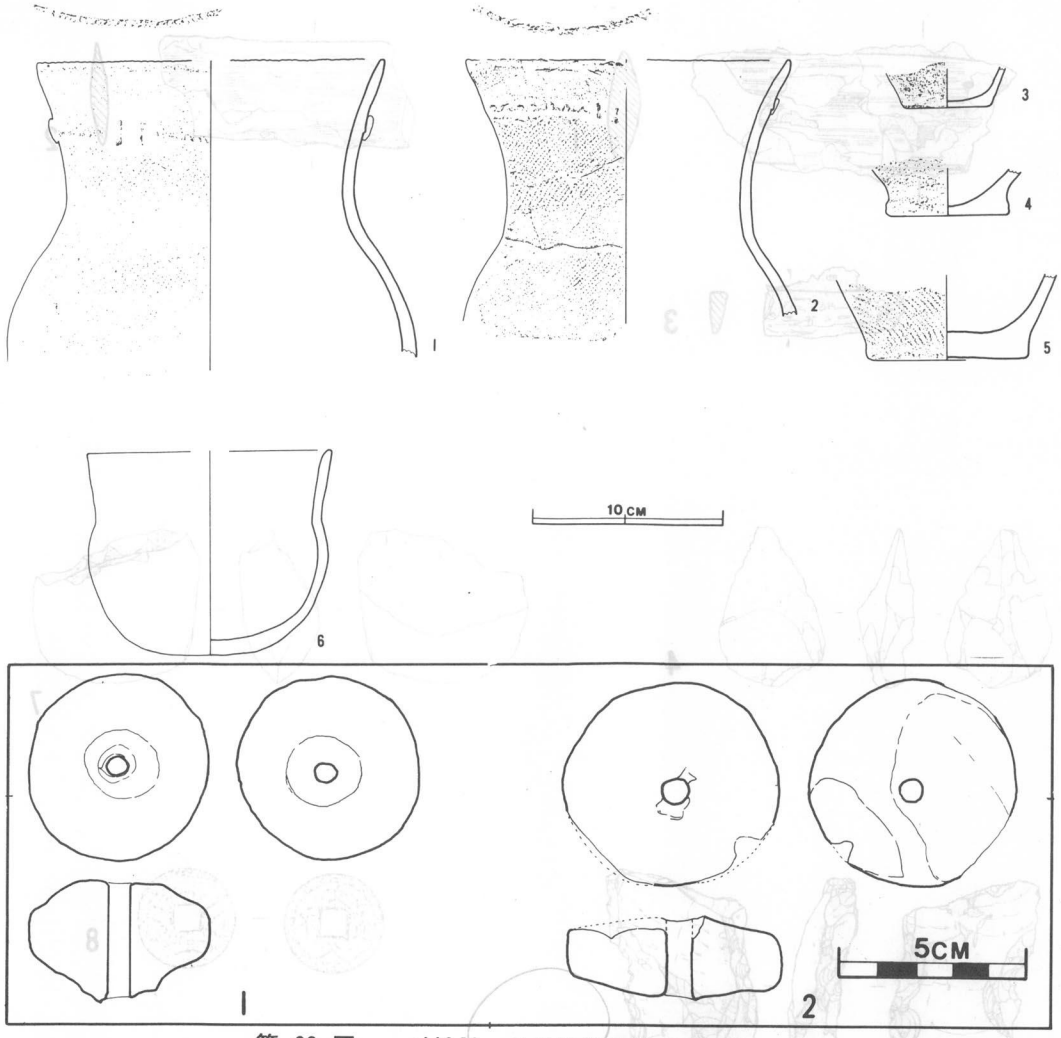
第 65 図　　ＪＫＮ－Ｂ08号住居址出土遺物



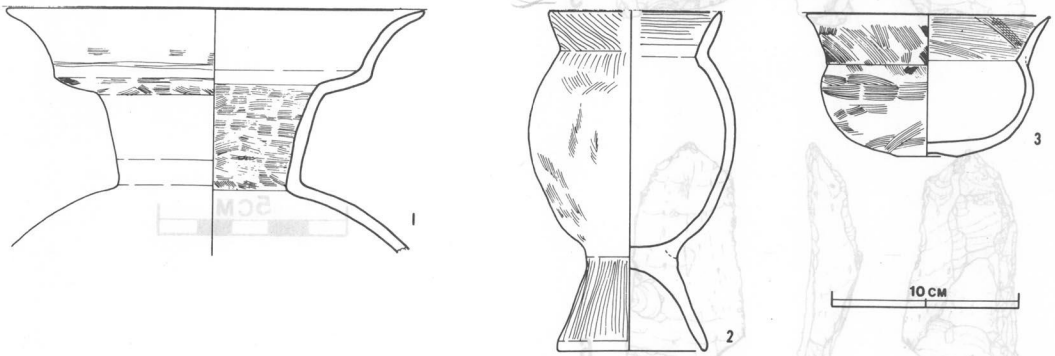
第 66 図　　ＪＫＮ－Ｂ09号住居址出土遺物



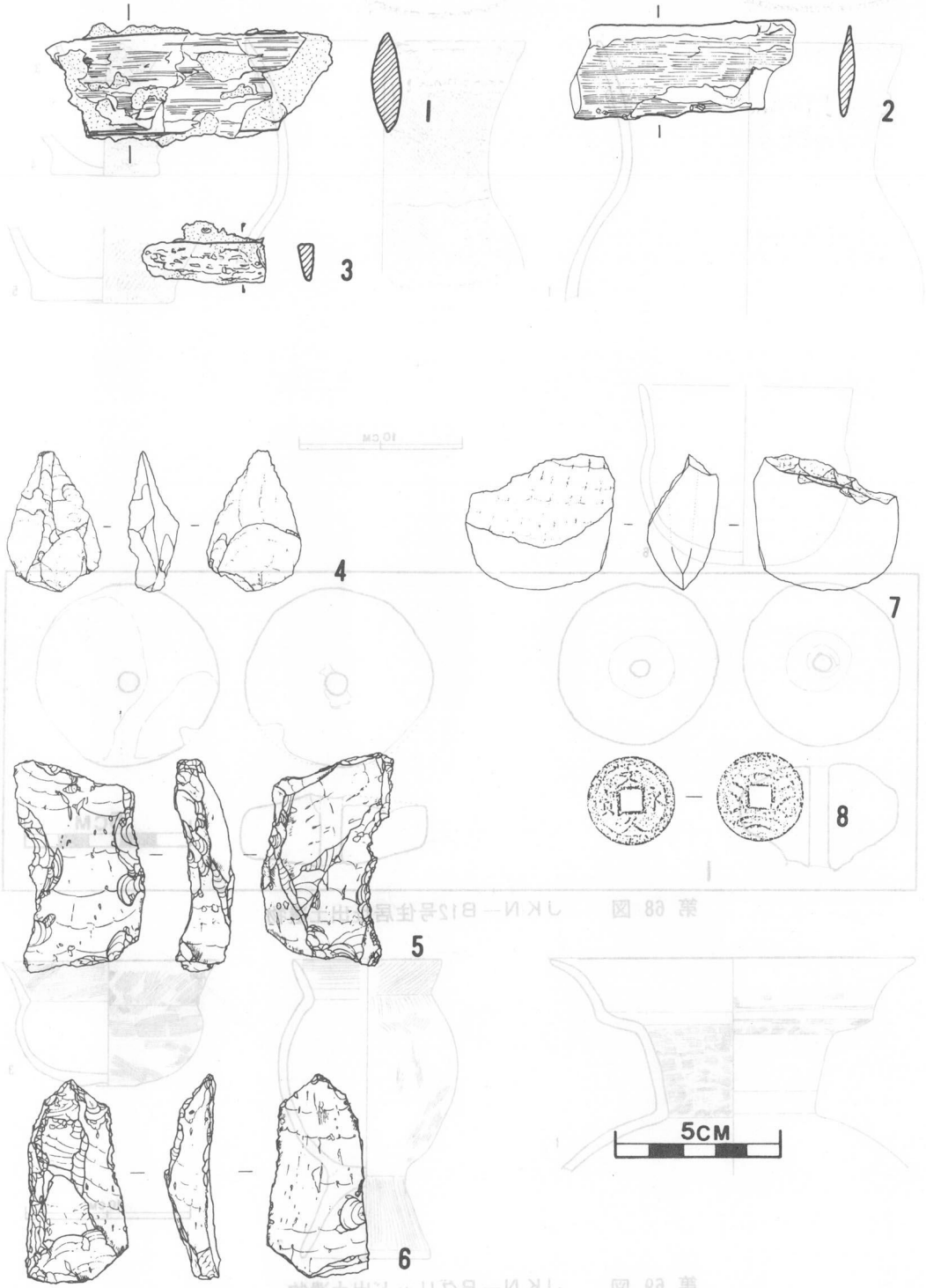
第 67 図　　ＪＫＮ－Ｂ11号住居址出土遺物



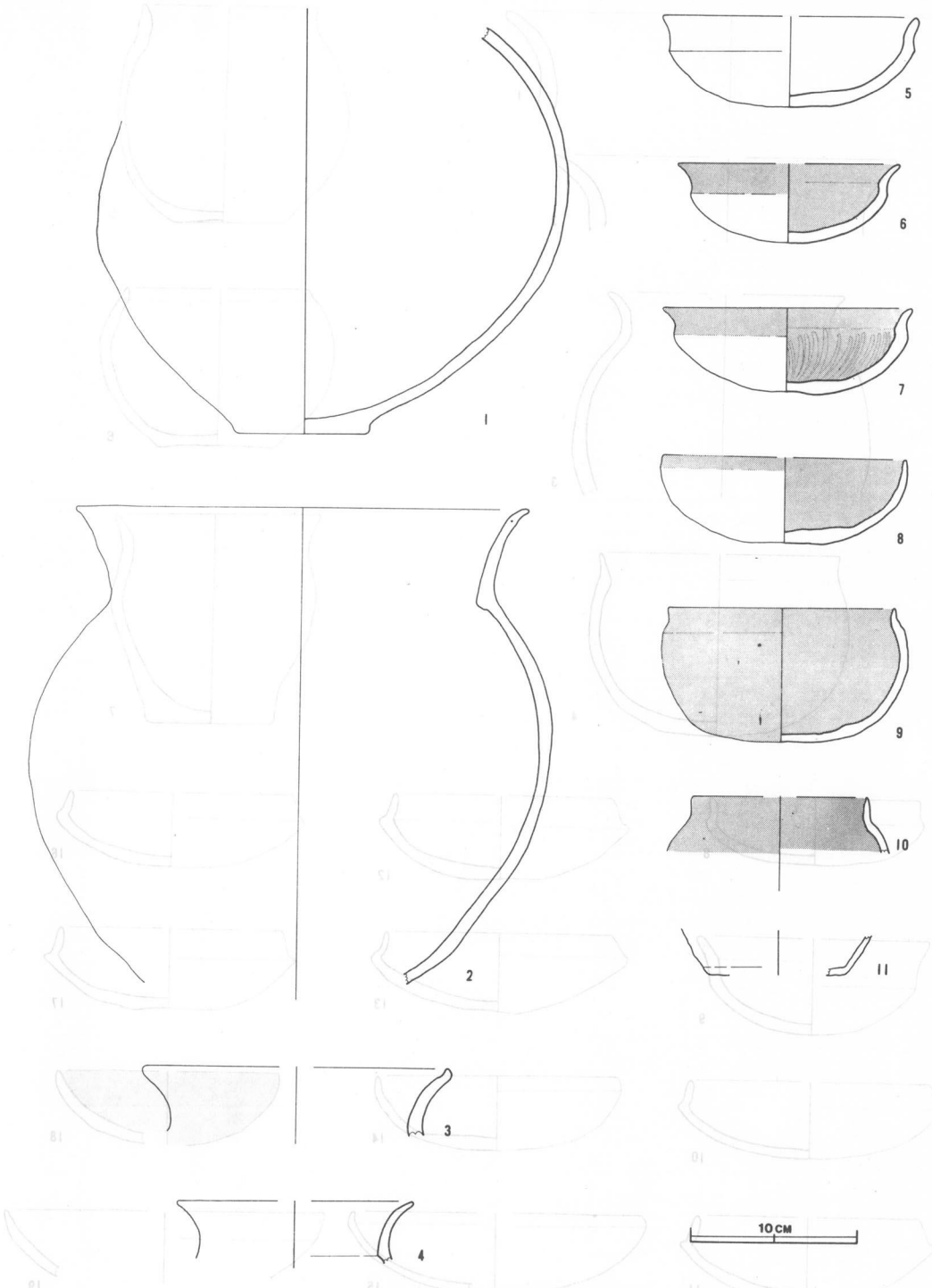
第 68 図　　ＪＫＮ－Ｂ12号住居址出土遺物



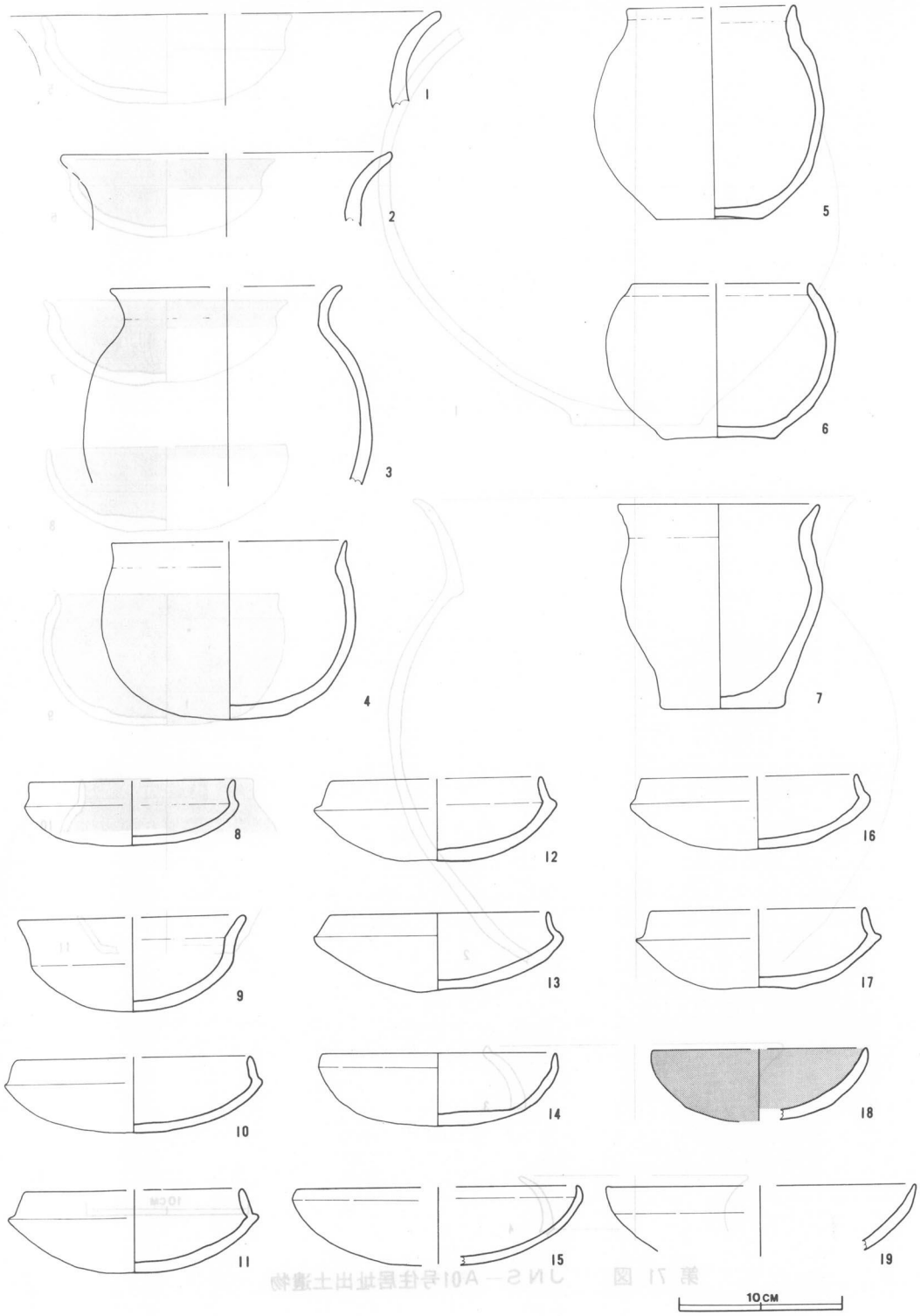
第 69 図　　ＪＫＮ－Ｂグリッド出土遺物



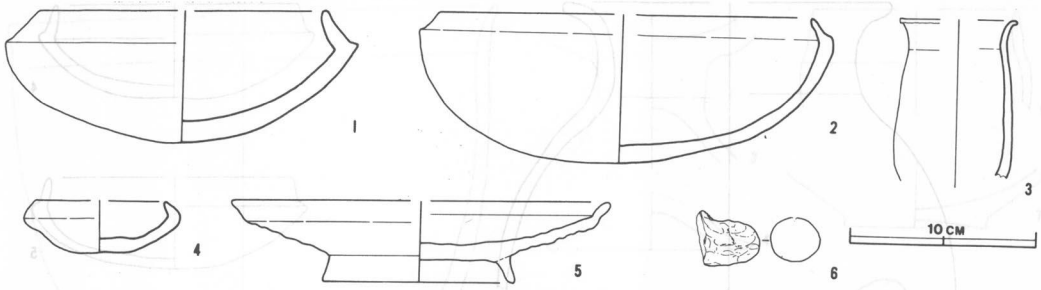
第 70 図　JKN 出 土 遺 物



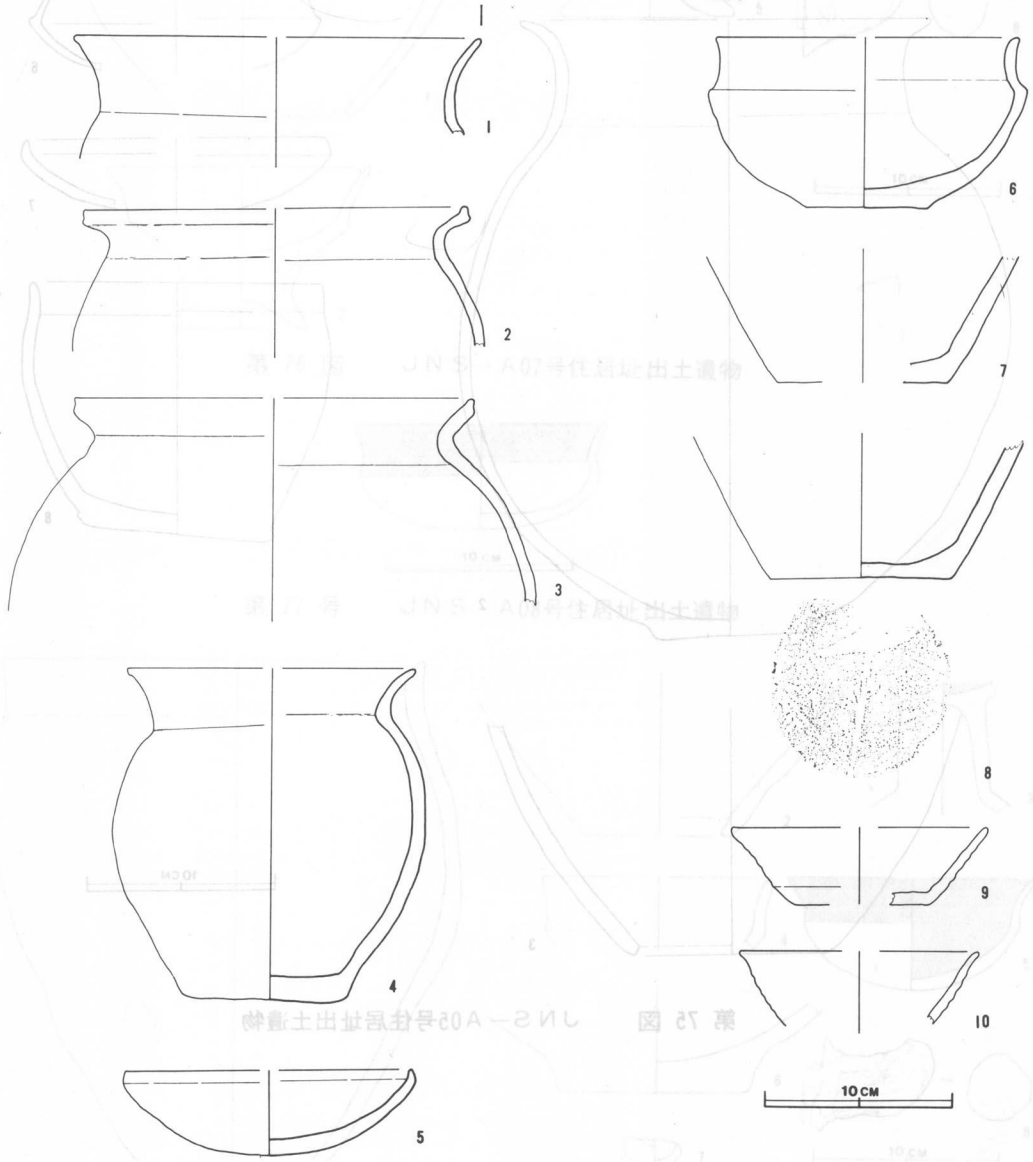
第 71 図　　ＪＮＳ－Ａ01号住居址出土遺物



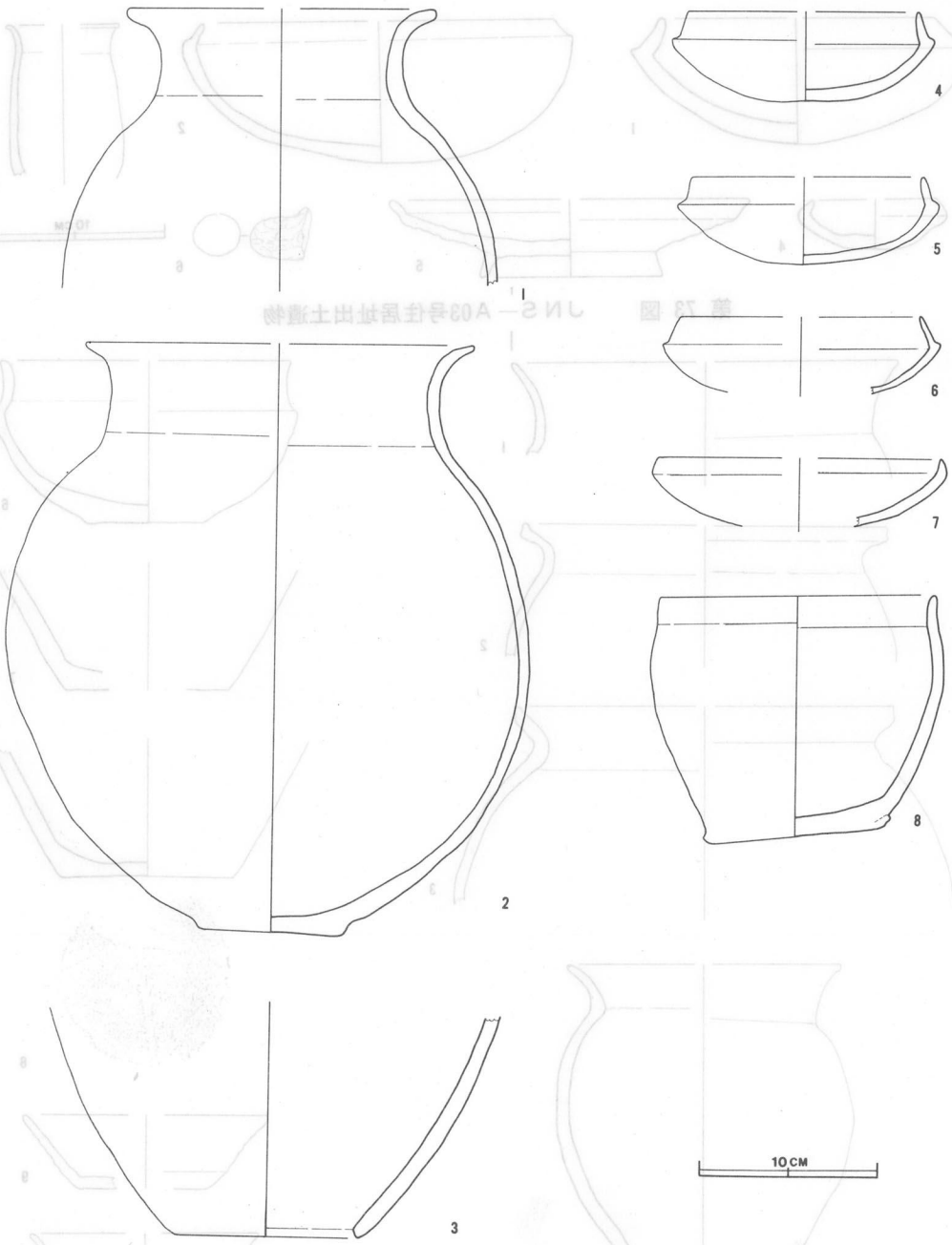
第 72 図　　ＪＮＳ－Ａ03号住居址出土遺物



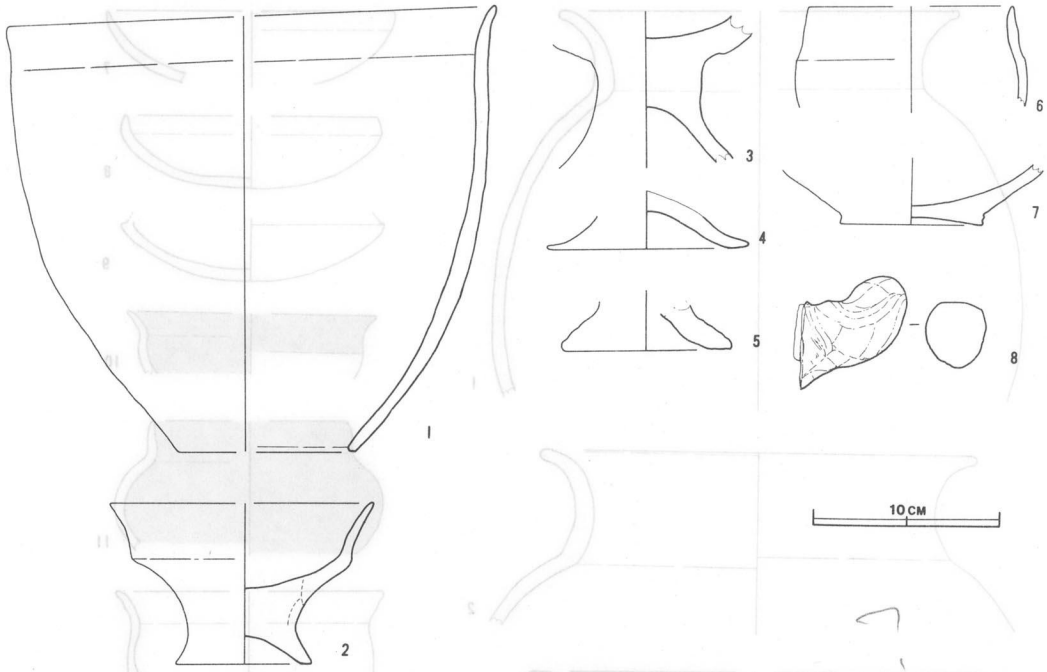
第 73 図　　ＪＮＳ－Ａ03号住居址出土遺物



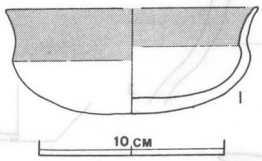
第 74 図　　ＪＮＳ－Ａ04号住居址出土遺物



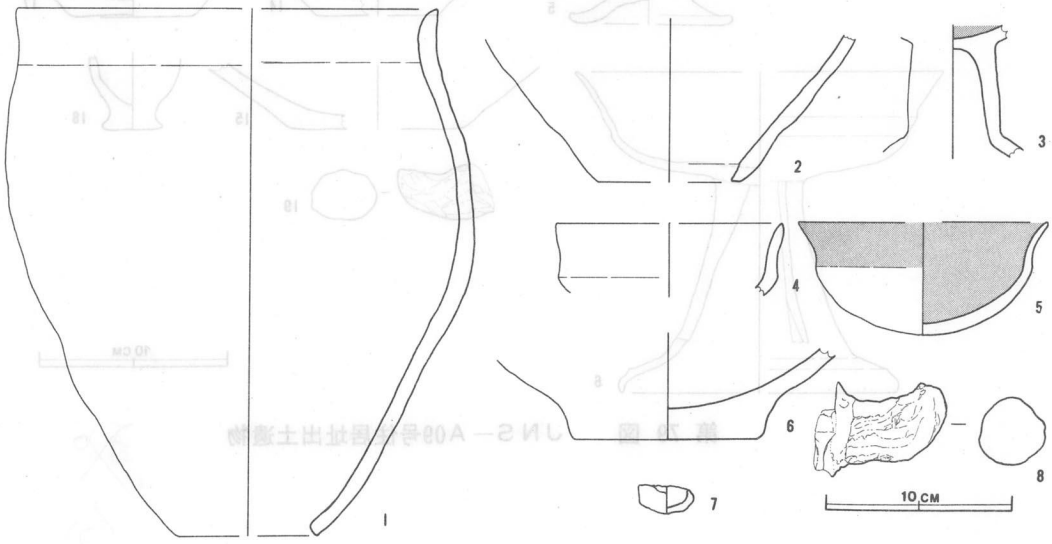
第 75 図　　ＪＮＳ－Ａ05号住居址出土遺物



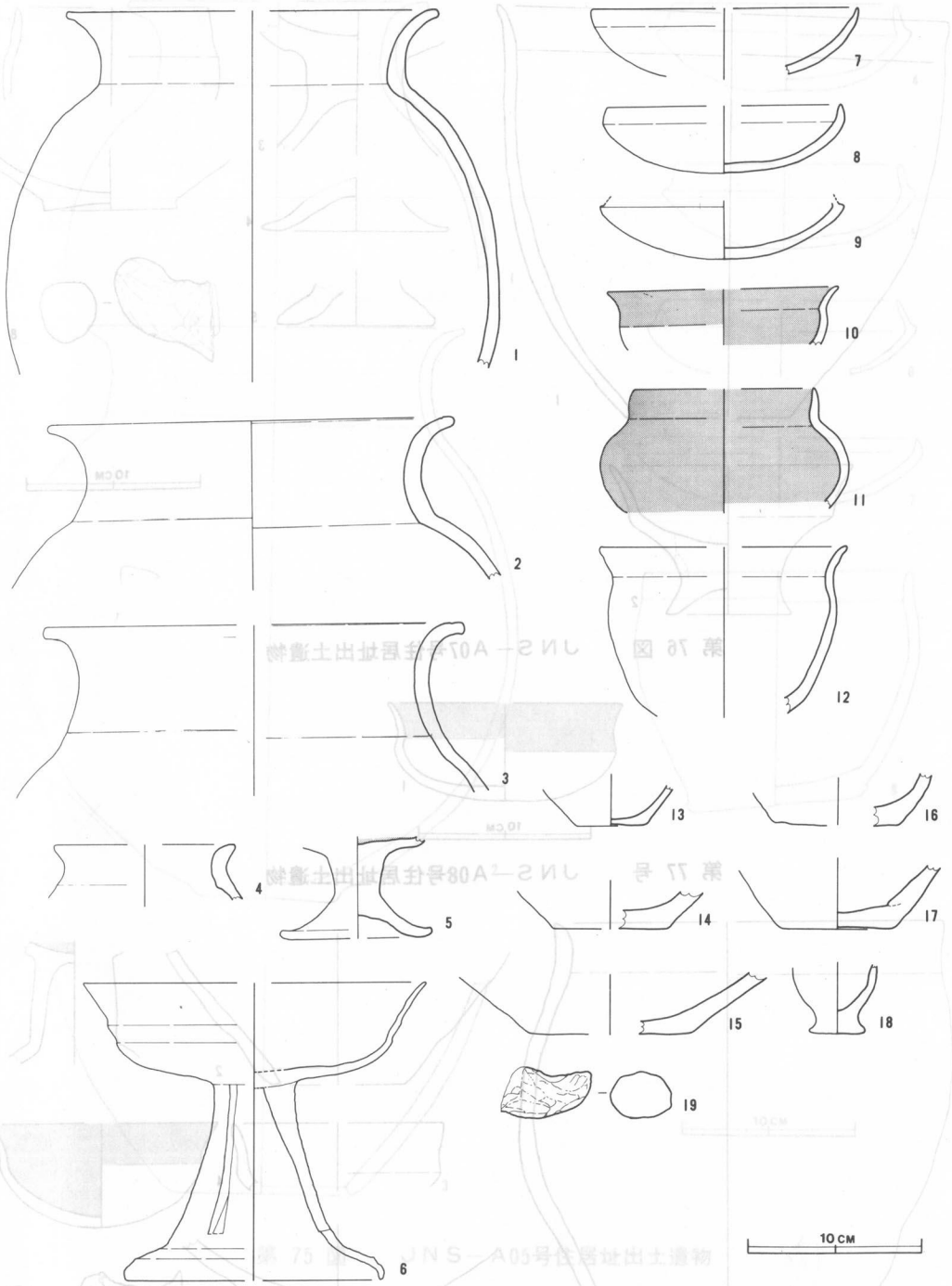
第 76 図　　ＪＮＳ－Ａ07号住居址出土遺物



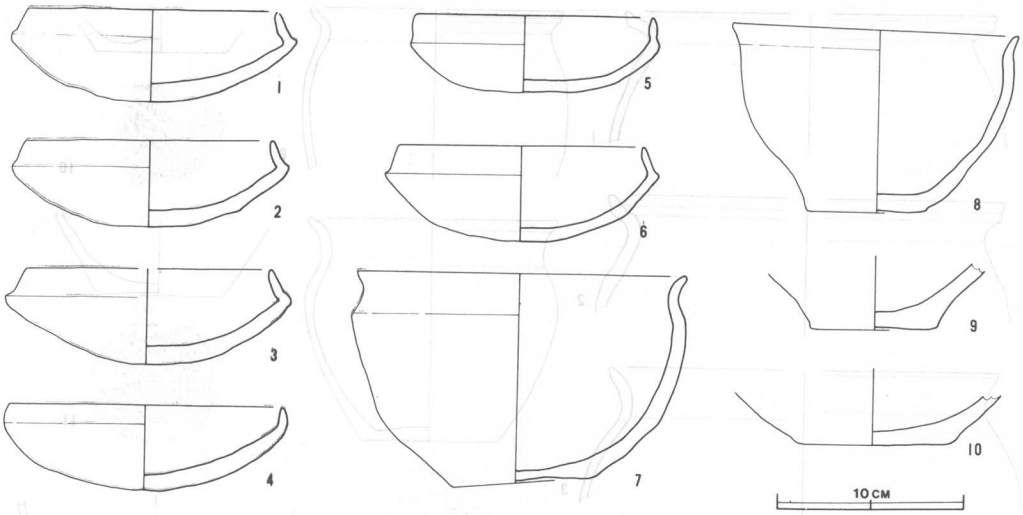
第 77 号　　ＪＮＳ－Ａ08号住居址出土遺物



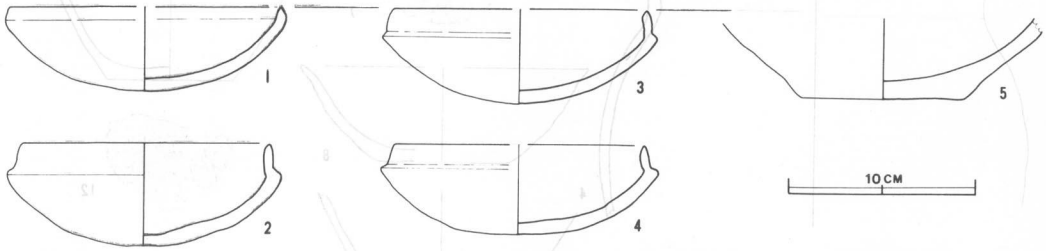
第 78 図　　ＪＮＳ－Ａ11号住居址出土遺物



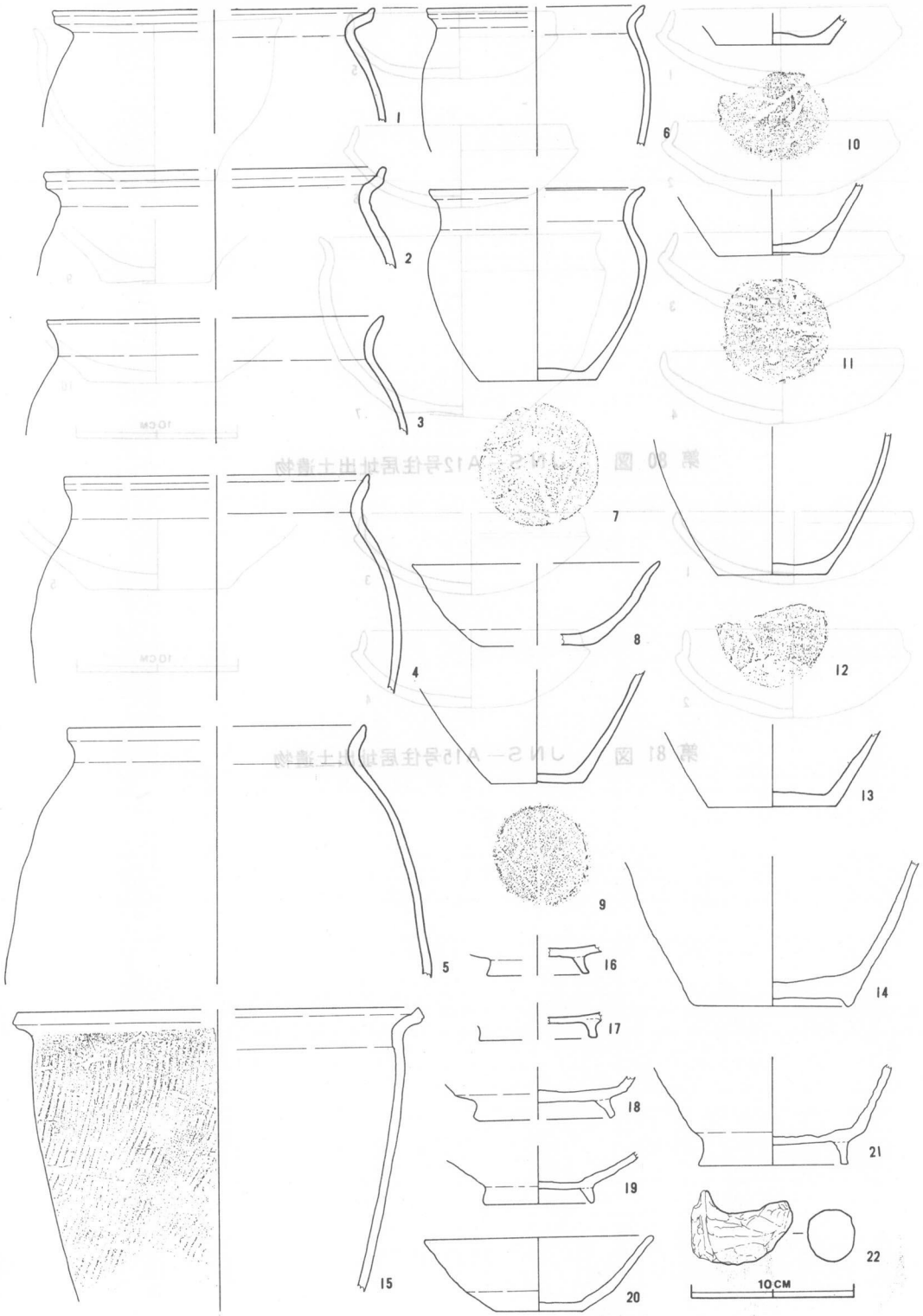
第 79 図　　ＪＮＳ－Ａ09号住居址出土遺物



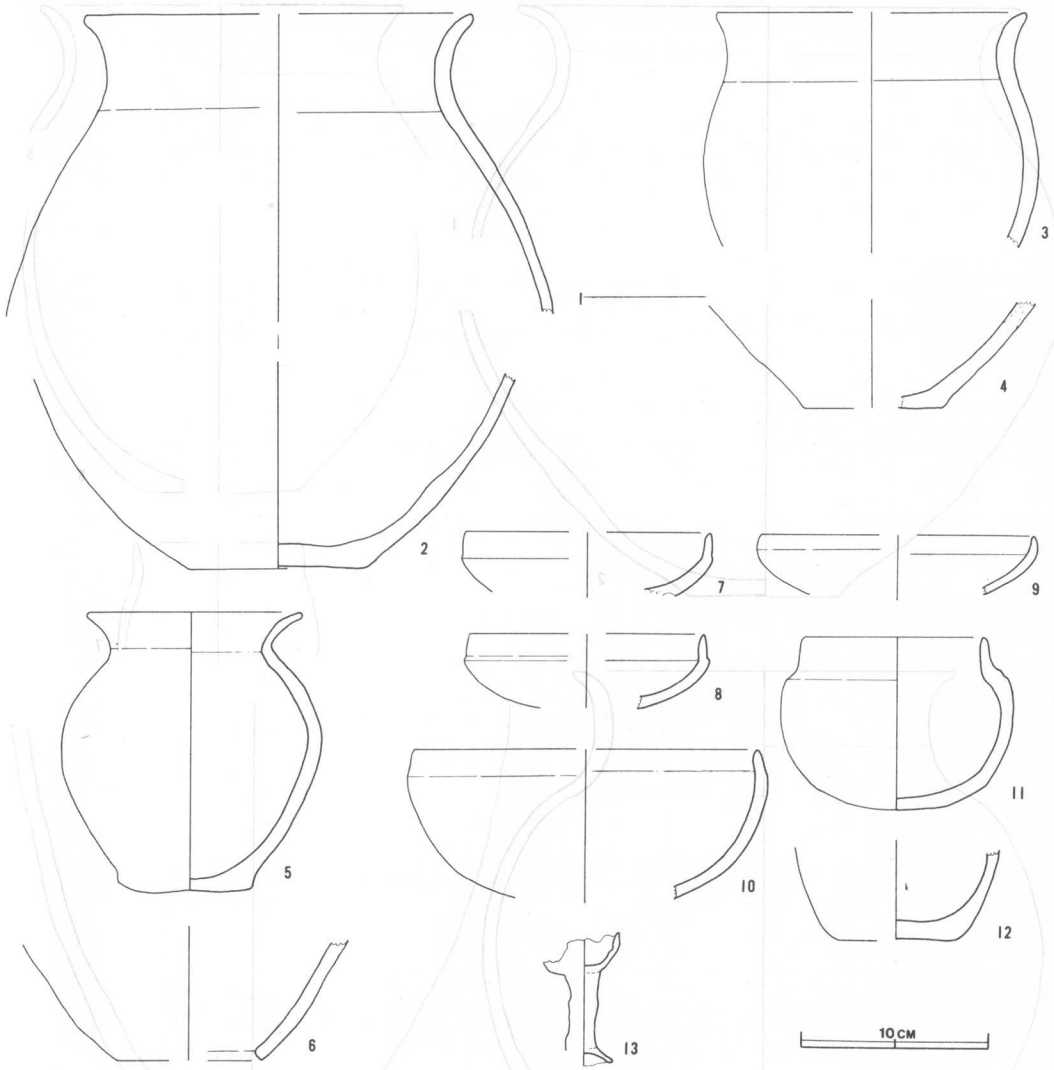
第 80 図　　ＪＮＳ－Ａ12号住居址出土遺物



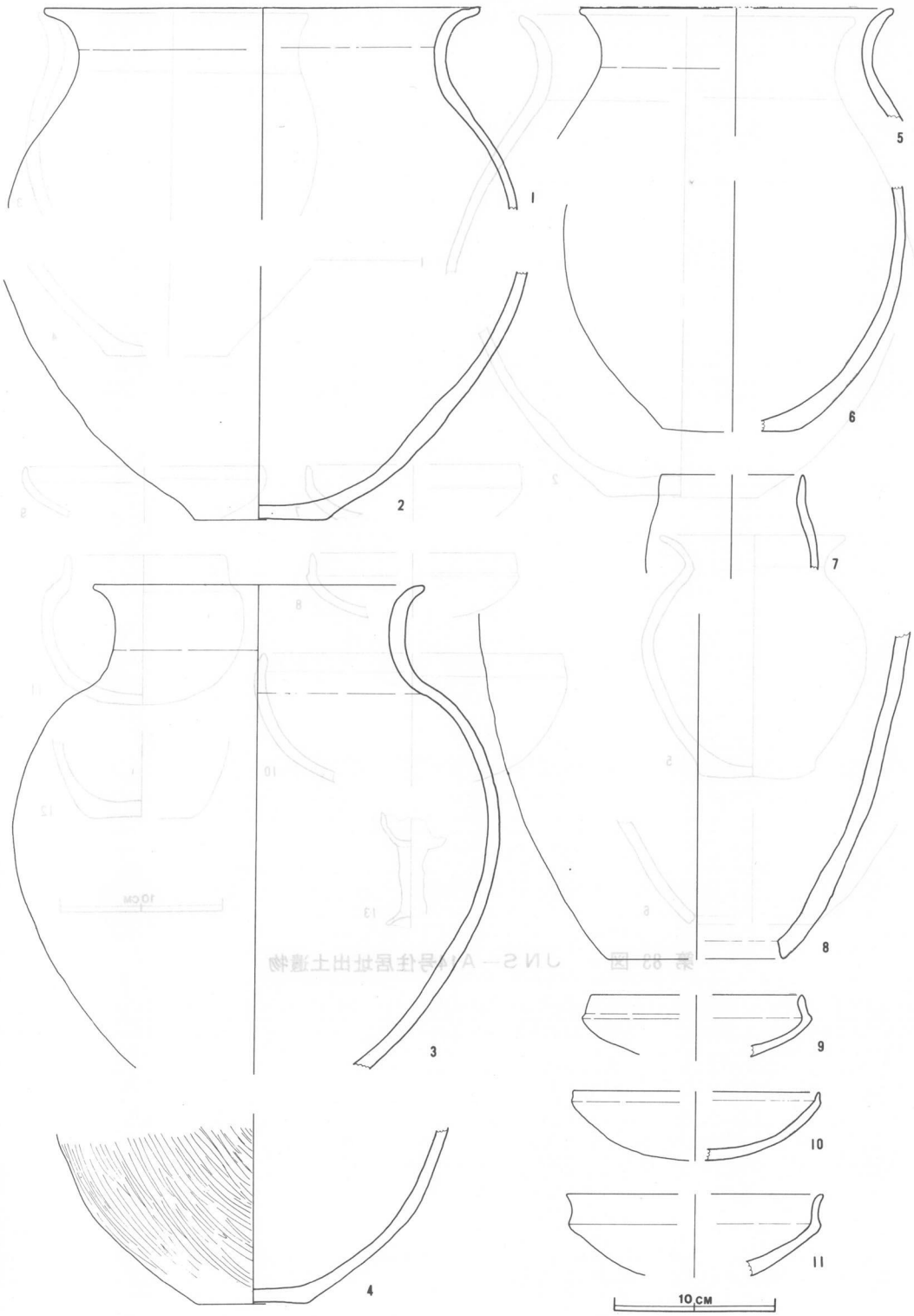
第 81 図　　ＪＮＳ－Ａ15号住居址出土遺物



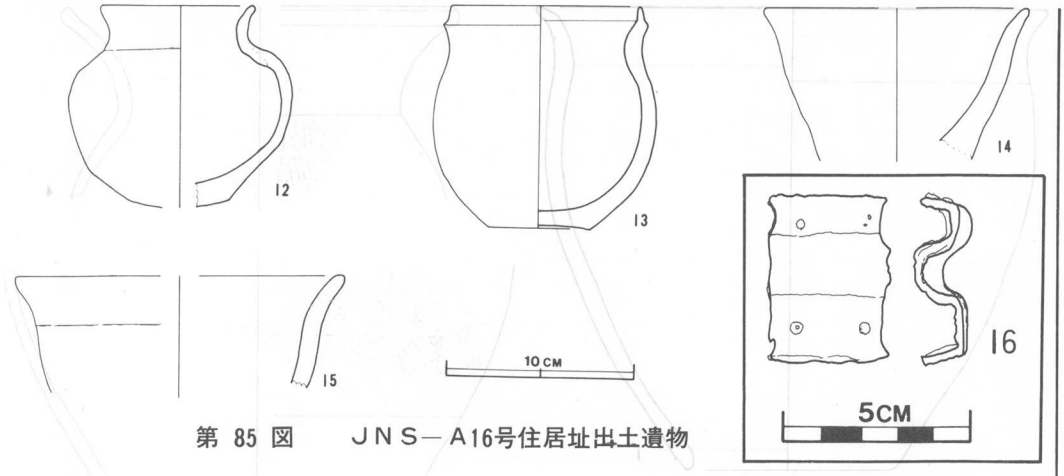
第 82 図　　ＪＮＳ－Ａ13号住居址出土遺物



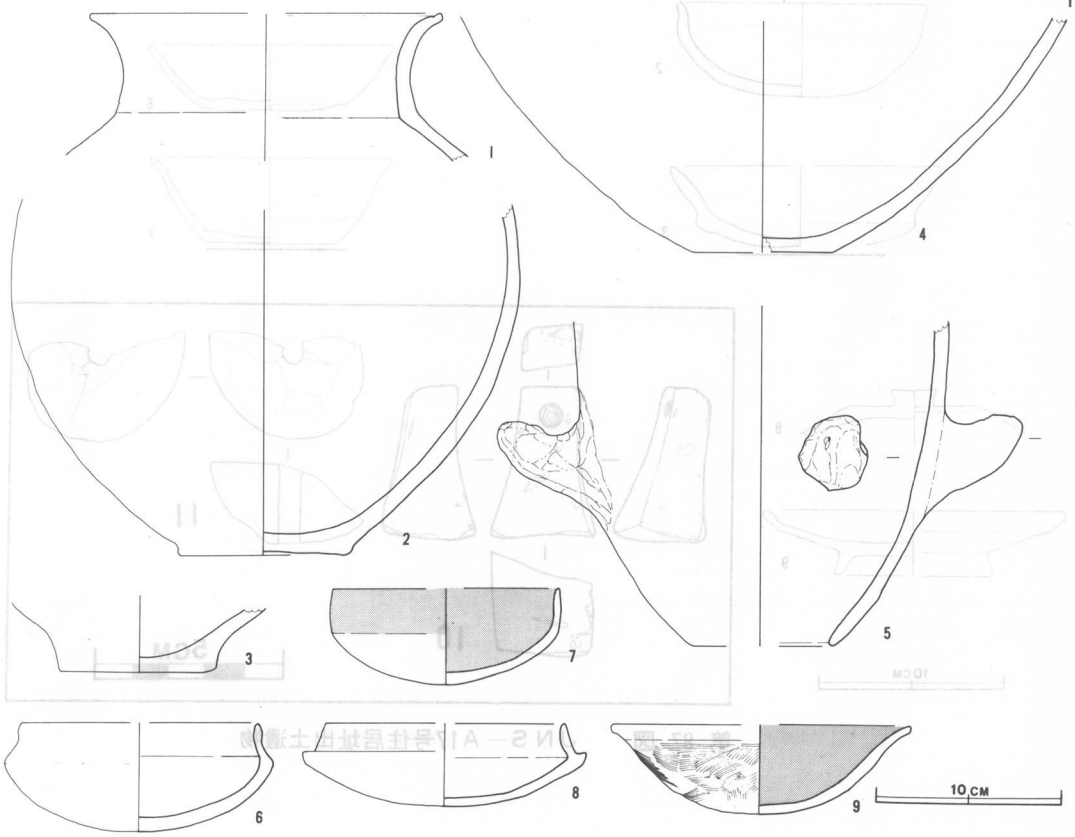
第 83 図　　ＪＮＳ－Ａ14号住居址出土遺物



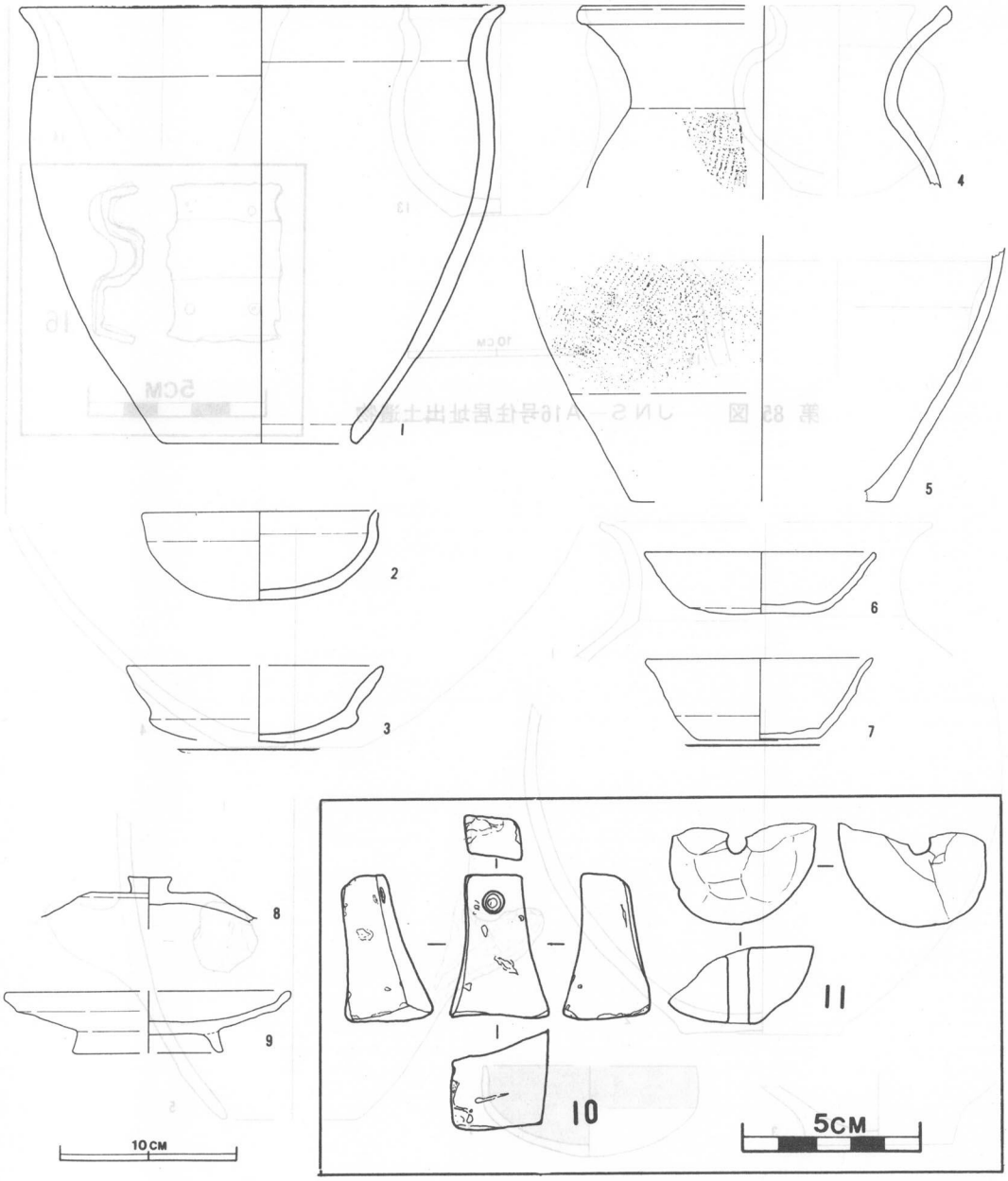
第 84 図　　ＪＮＳ－Ａ16号住居址出土遺物



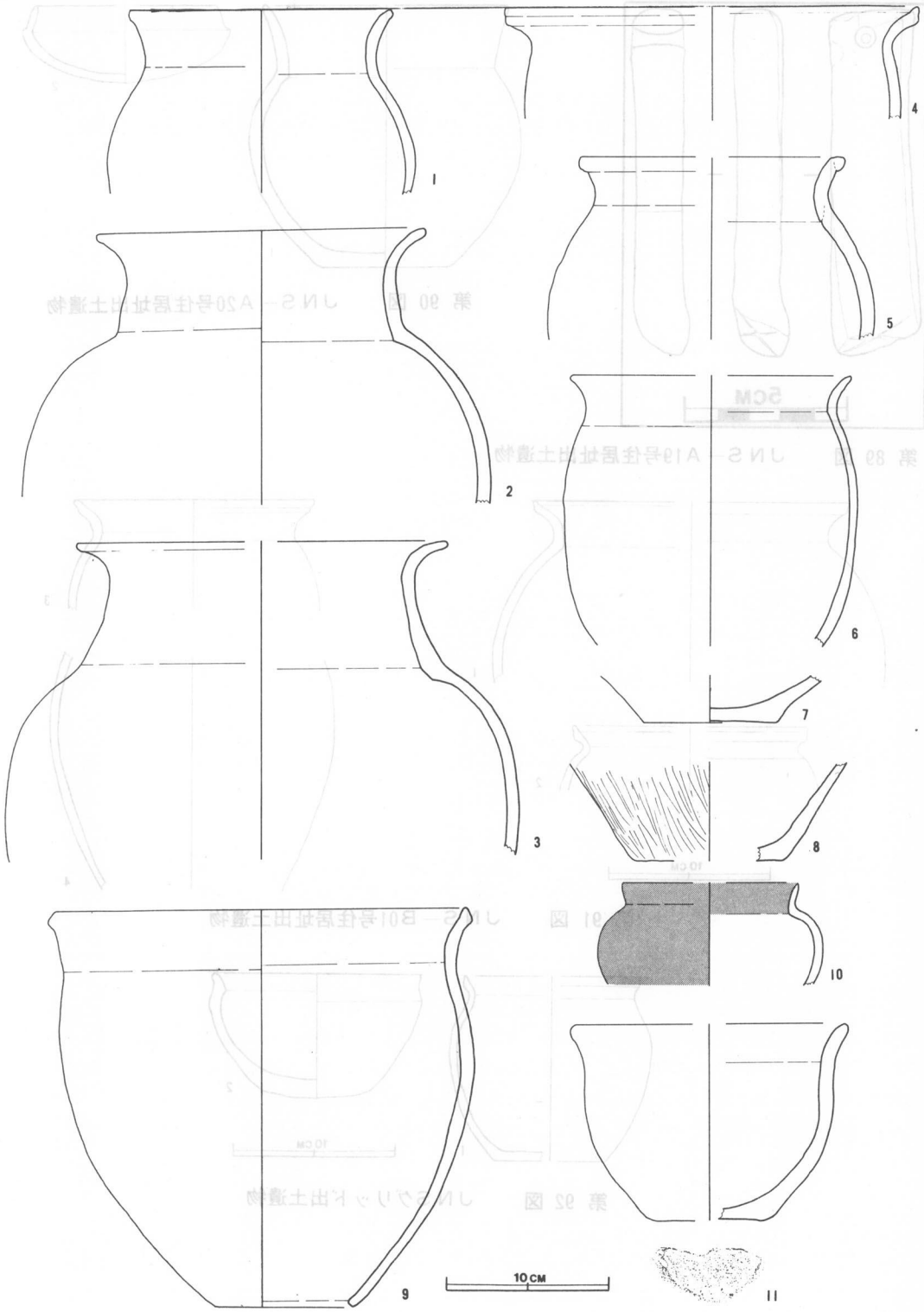
第 85 図　　ＪＮＳ－Ａ16号住居址出土遺物



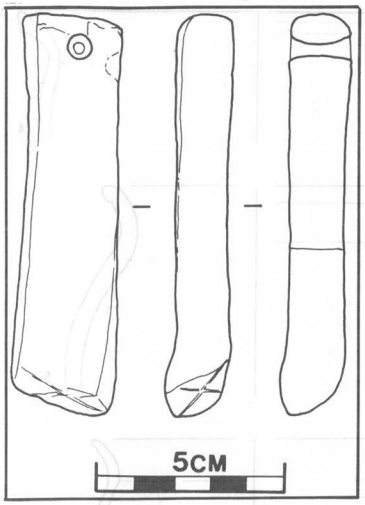
第 86 図　　ＪＮＳ－Ａ18号住居址出土遺物



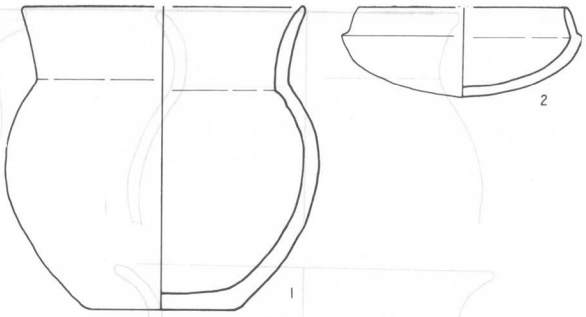
第 87 図　ＪＮＳ－Ａ17号住居址出土遺物



第 88 図　　ＪＮＳ－Ａ19号住居址出土遺物

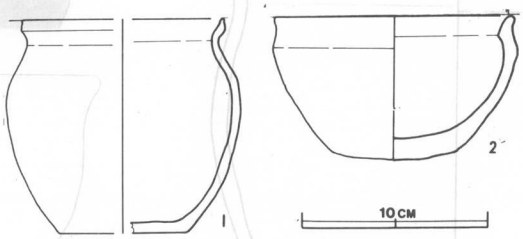


第 89 図　　ＪＮＳ－Ａ19号住居址出土遺物

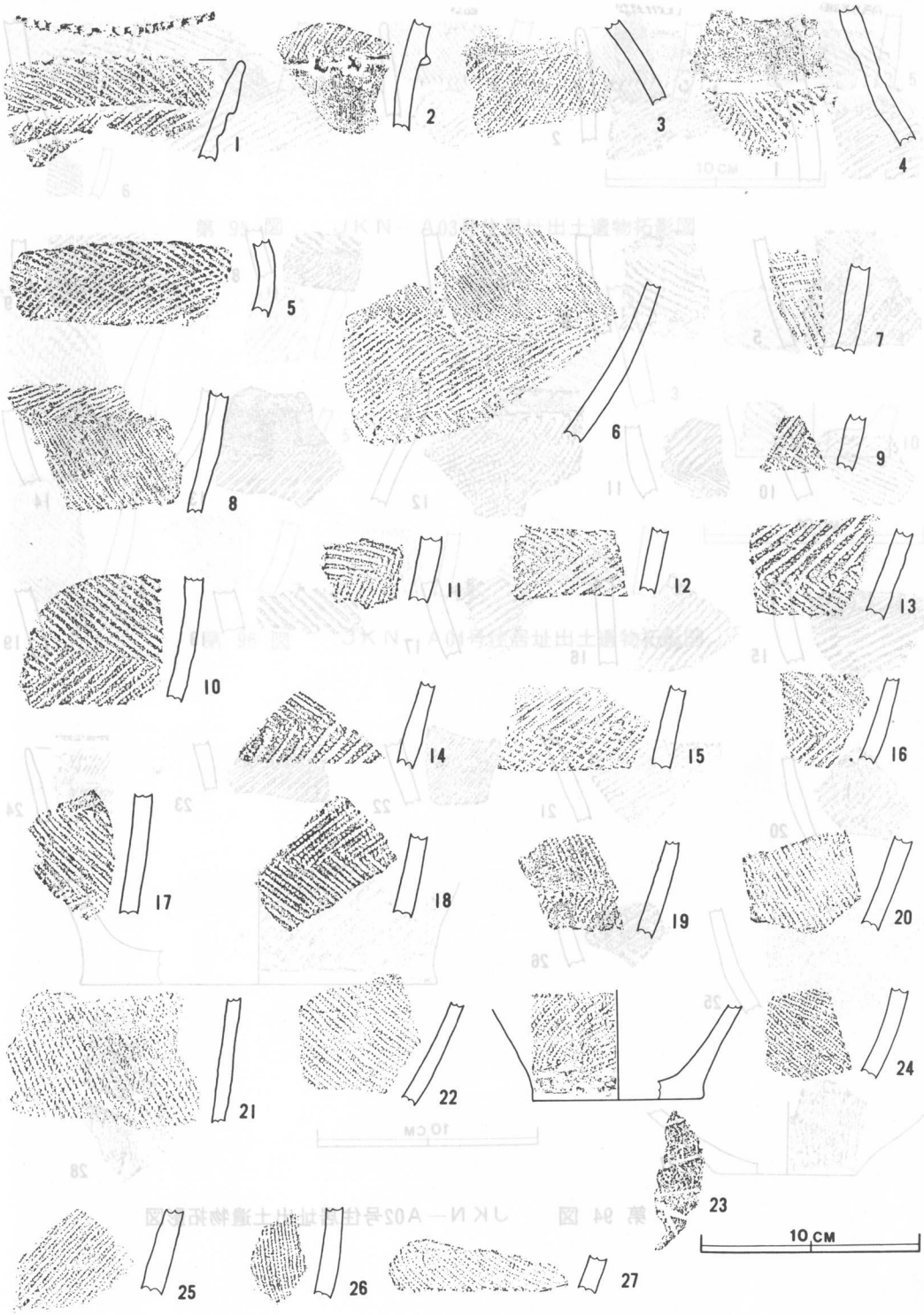


第 90 図　　ＪＮＳ－Ａ20号住居址出土遺物

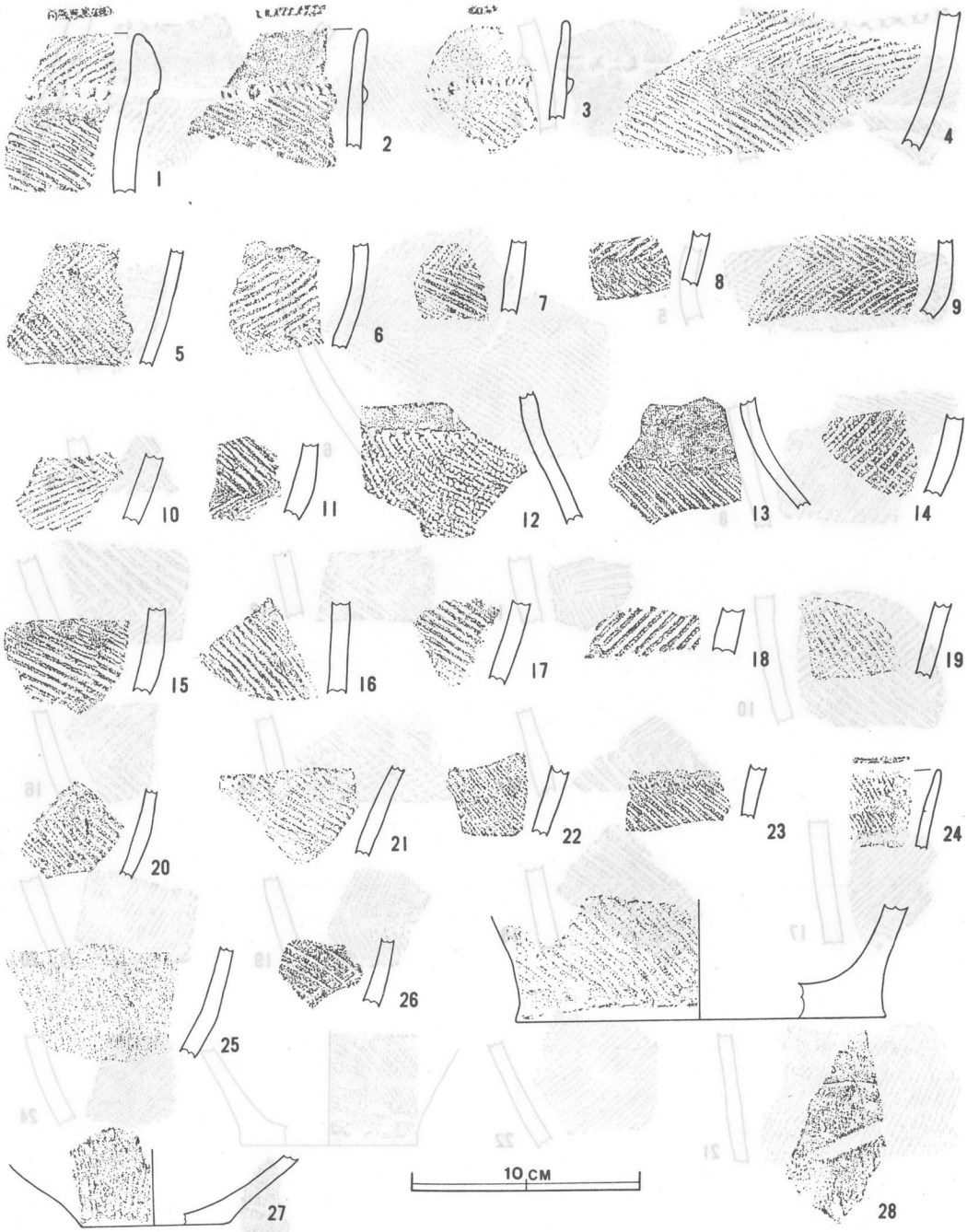
第 91 図　　ＪＮＳ－Ｂ01号住居址出土遺物



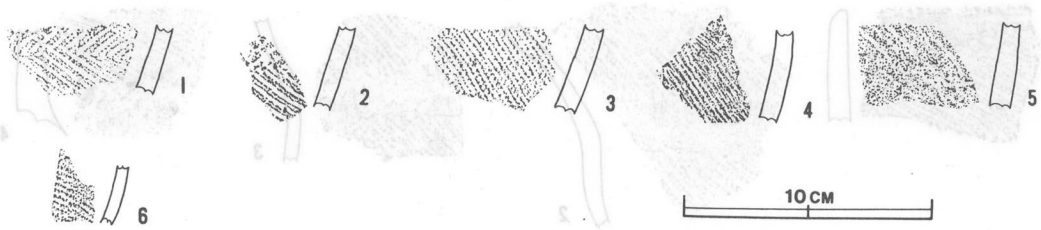
第 92 図　　ＪＮＳグリッド出土遺物



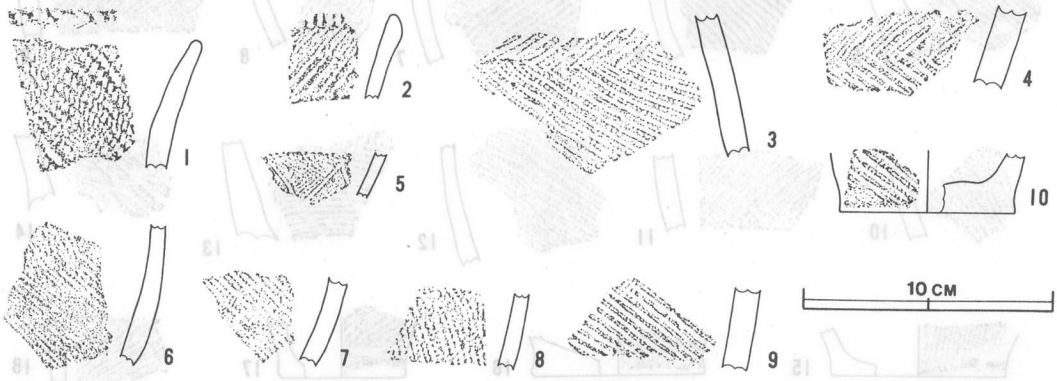
第 93 図　　ＪＫＮ－Ａ01号住居址出土遺物拓影図



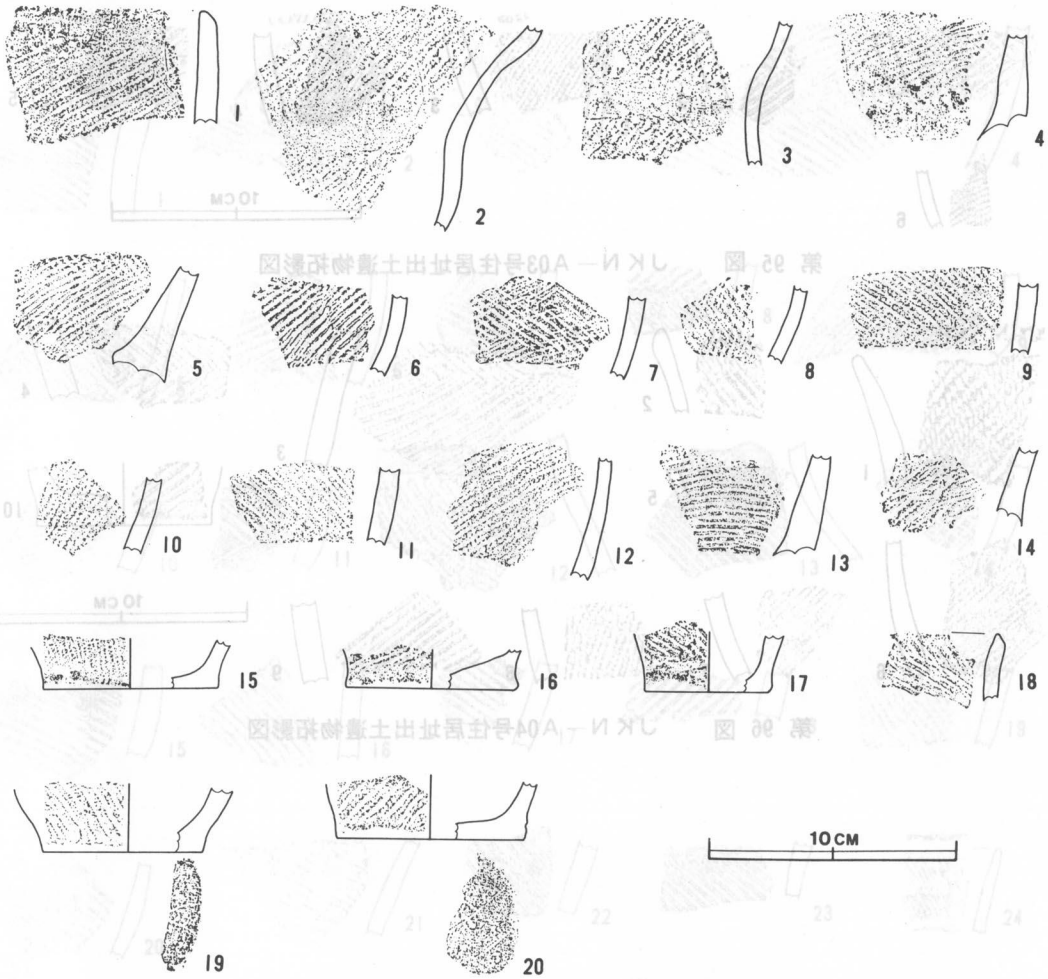
第 94 図　　ＪＫＮ－Ａ02号住居址出土遺物拓影図



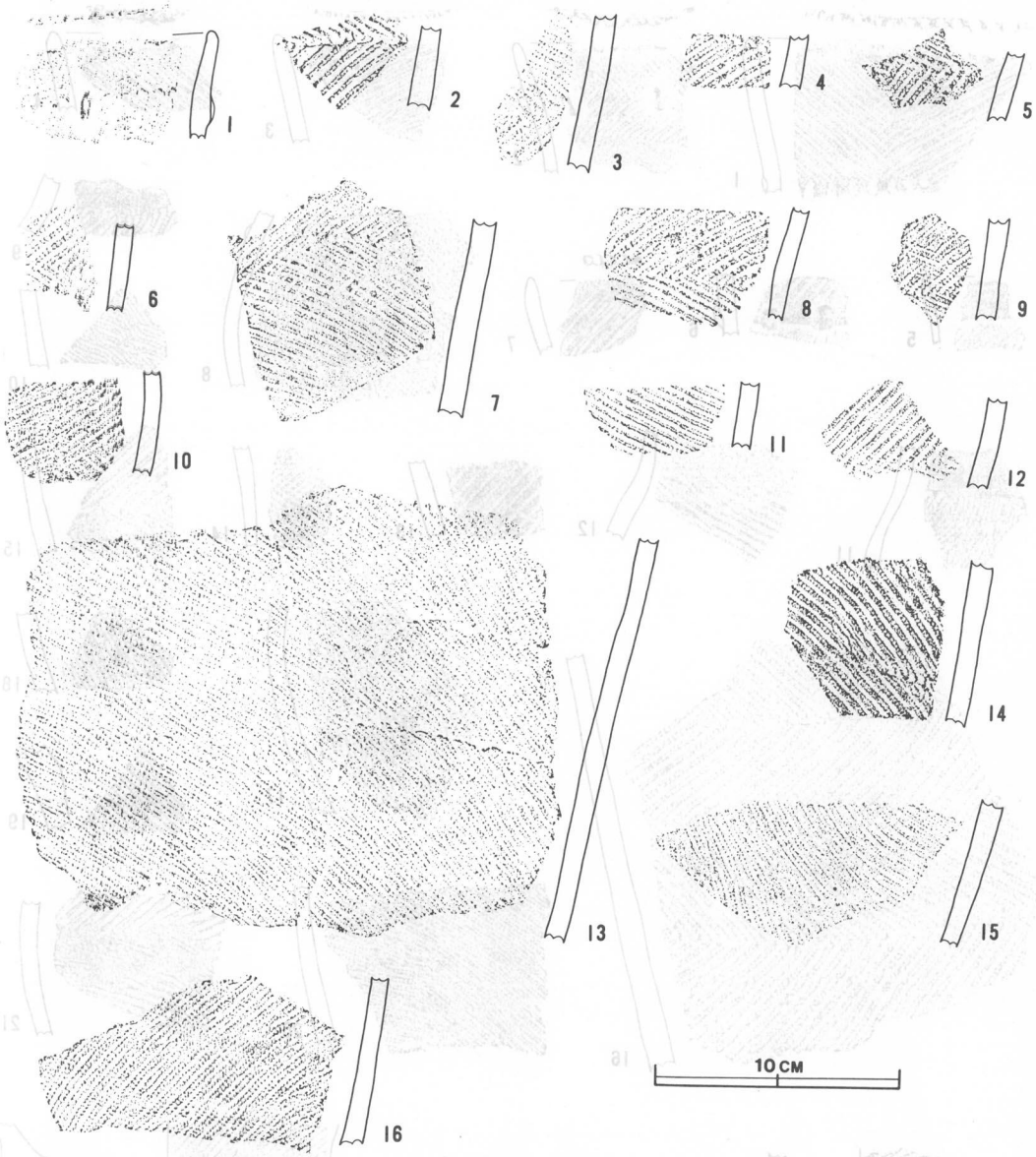
第 95 図　　ＪＫＮ－Ａ03号住居址出土遺物拓影図



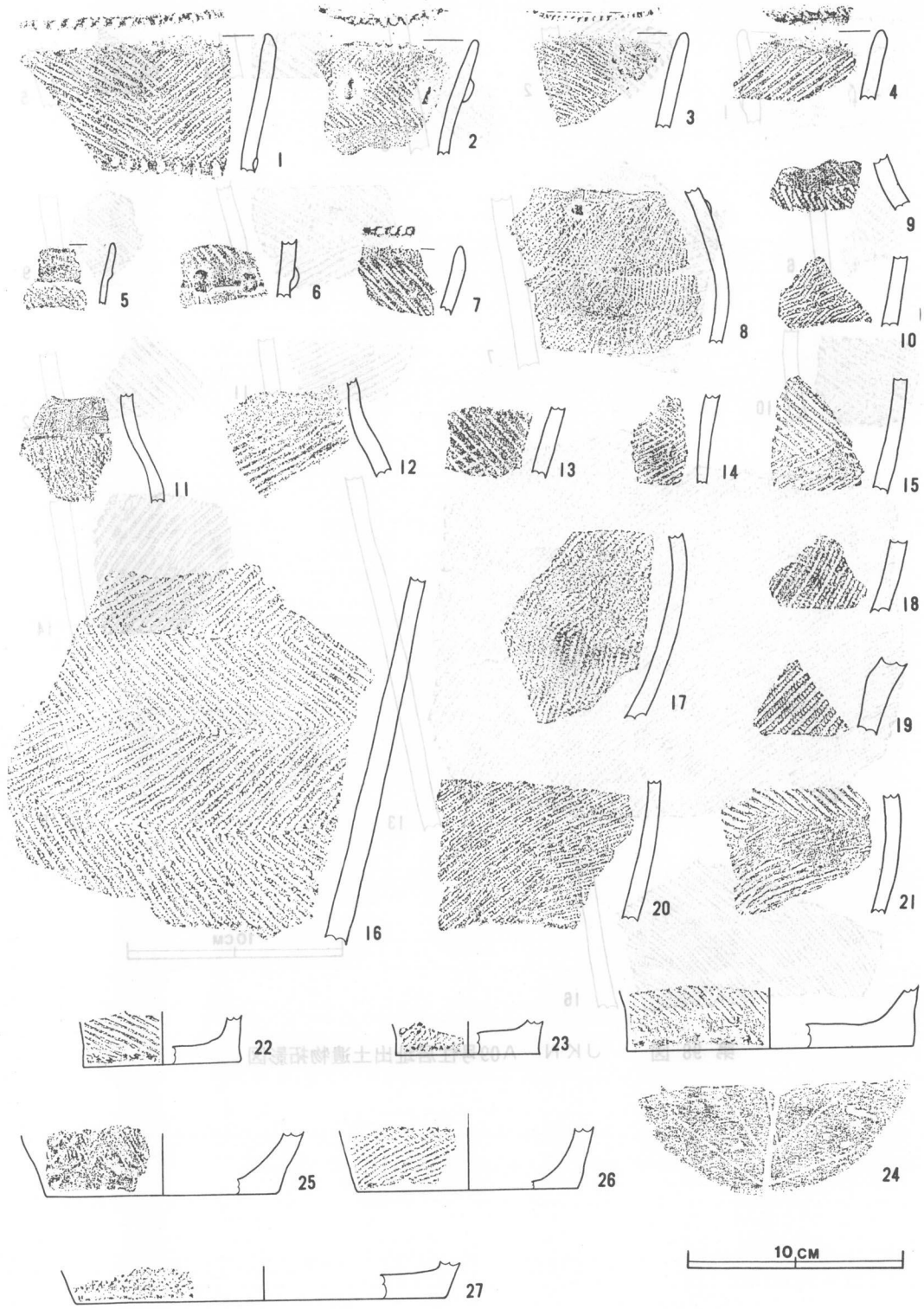
第 96 図　　ＪＫＮ－Ａ04号住居址出土遺物拓影図



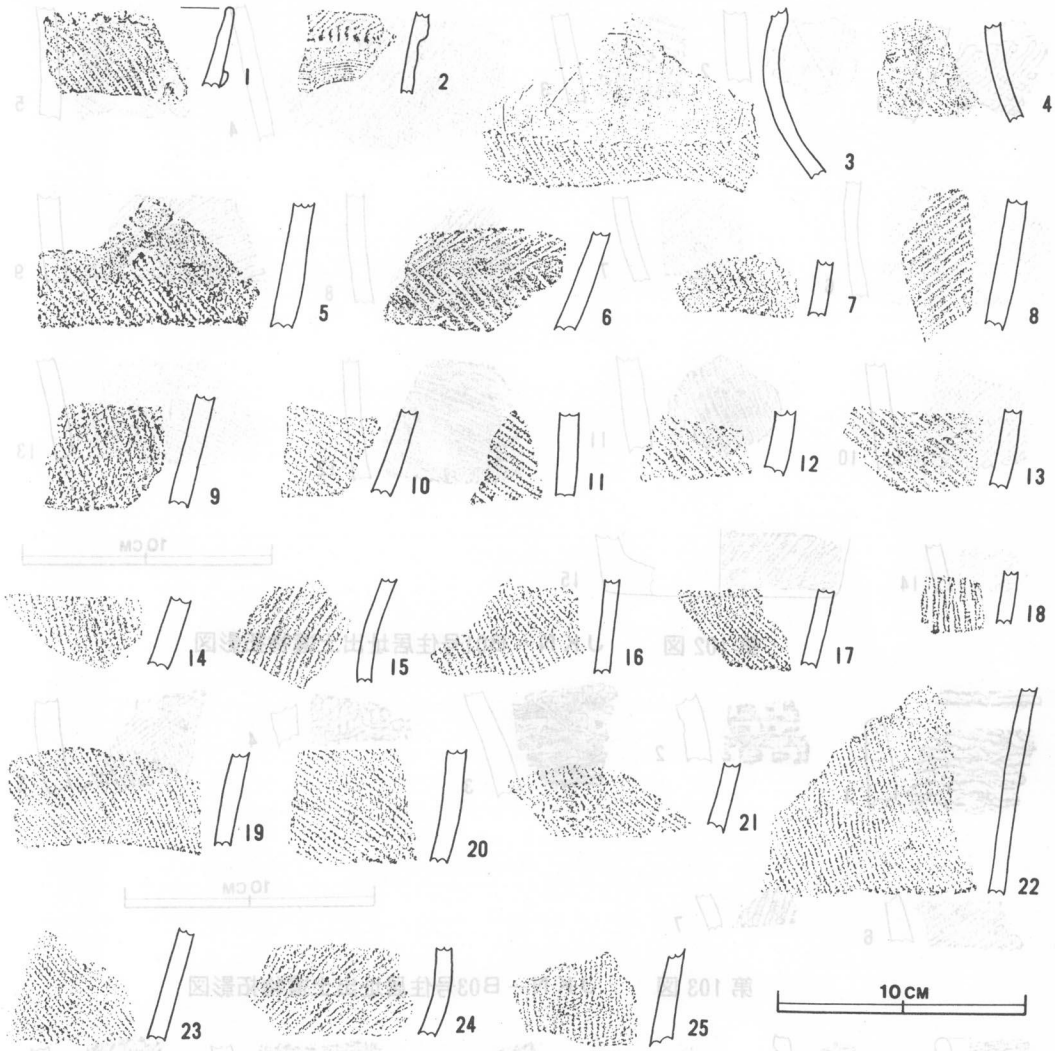
第 97 図　　ＪＫＮ－Ａ05号住居址出土遺物拓影図



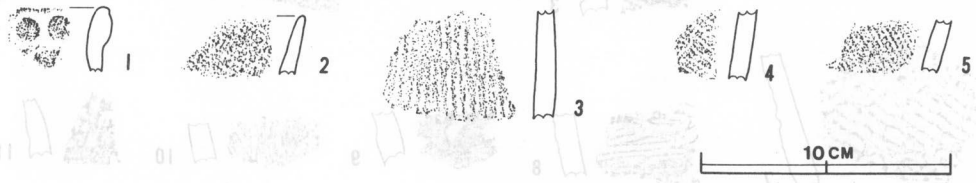
第 98 図　　ＪＫＮ－Ａ09号住居址出土遺物拓影図



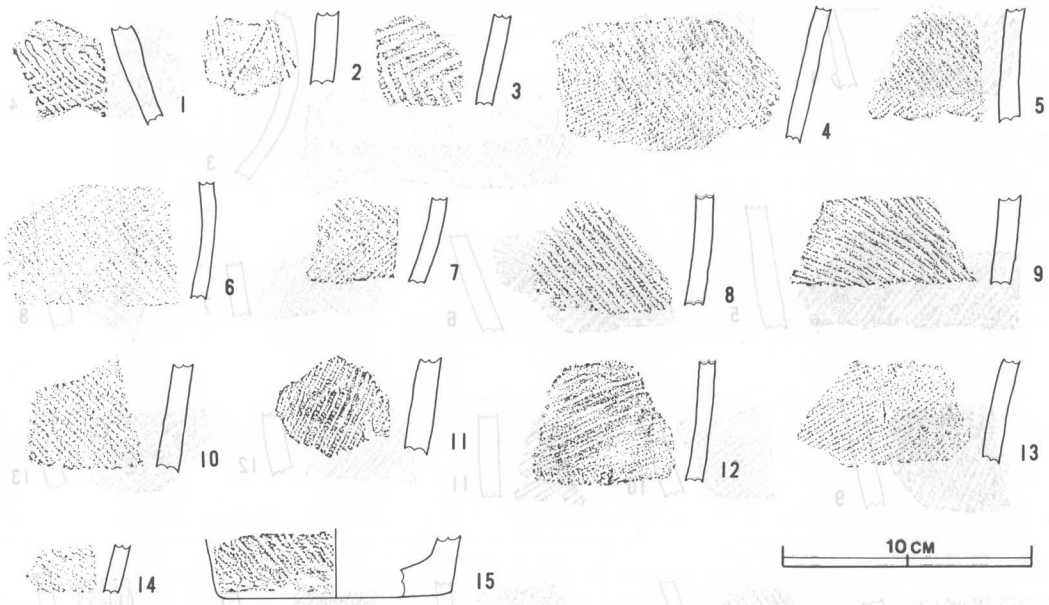
第 99 図　　ＪＫＮ－Ａ11号住居址出土遺物拓影図



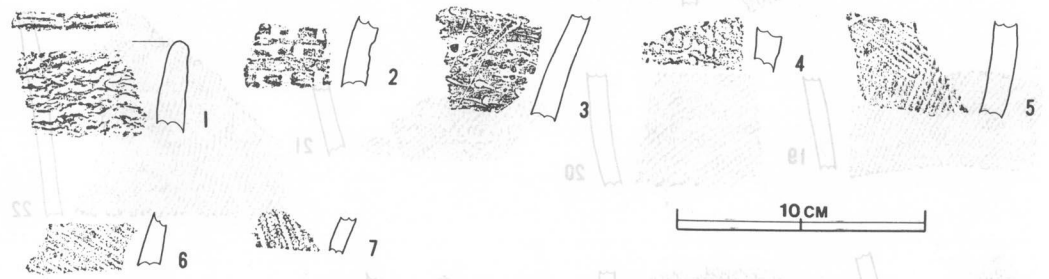
第 100 図　　ＪＫＮ－Ａ12号住居址出土遺物拓影図



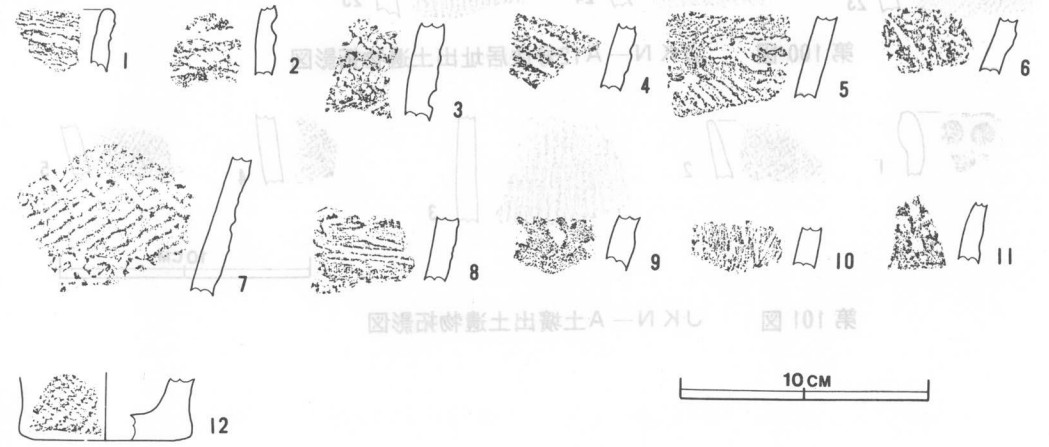
第 101 図　　ＪＫＮ－Ａ土壙出土遺物拓影図



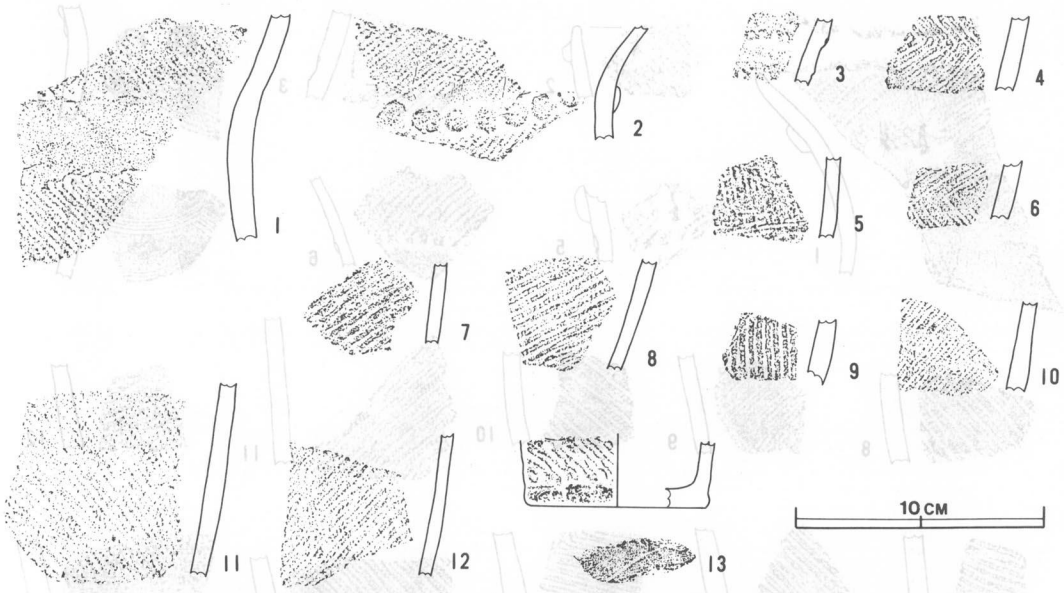
第 102 図　　ＪＫＮ－Ｂ01号住居址出土遺物拓影図



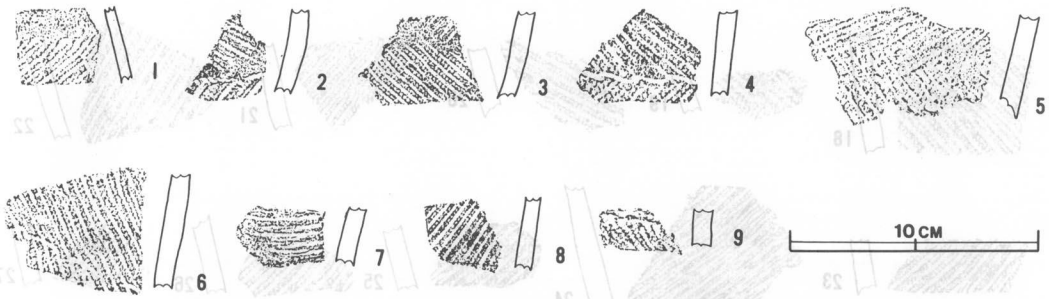
第 103 図　　ＪＫＮ－Ｂ03号住居址出土遺物拓影図



第 104 図　　ＪＫＮ－Ｂ06号住居址出土遺物拓影図



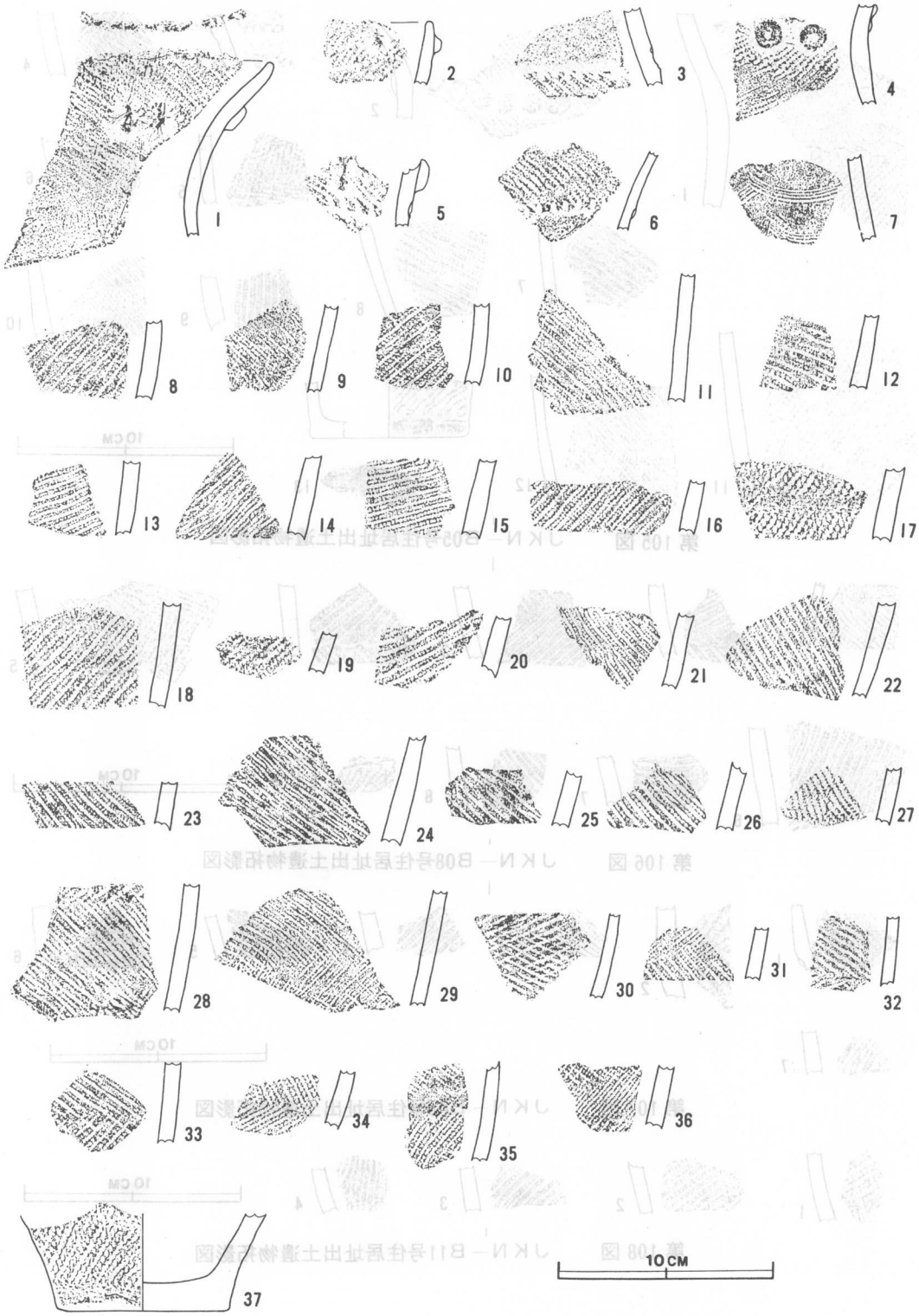
第 105 図　　ＪＫＮ－Ｂ05号住居址出土遺物拓影図



第 106 図　　ＪＫＮ－Ｂ08号住居址出土遺物拓影図

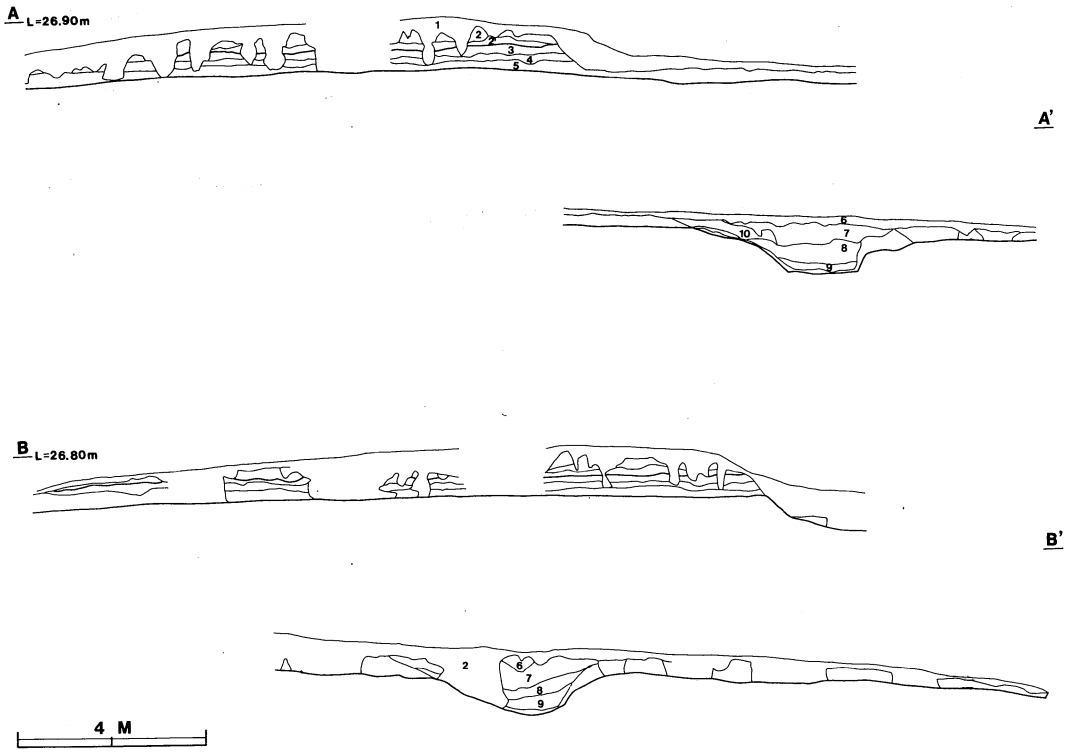
第 107 図　　ＪＫＮ－Ｂ09号住居址出土遺物拓影図

第 108 図　　ＪＫＮ－Ｂ11号住居址出土遺物拓影図



第 109 図　　ＪＫＮ－Ｂ12号住居址出土遺物拓影図

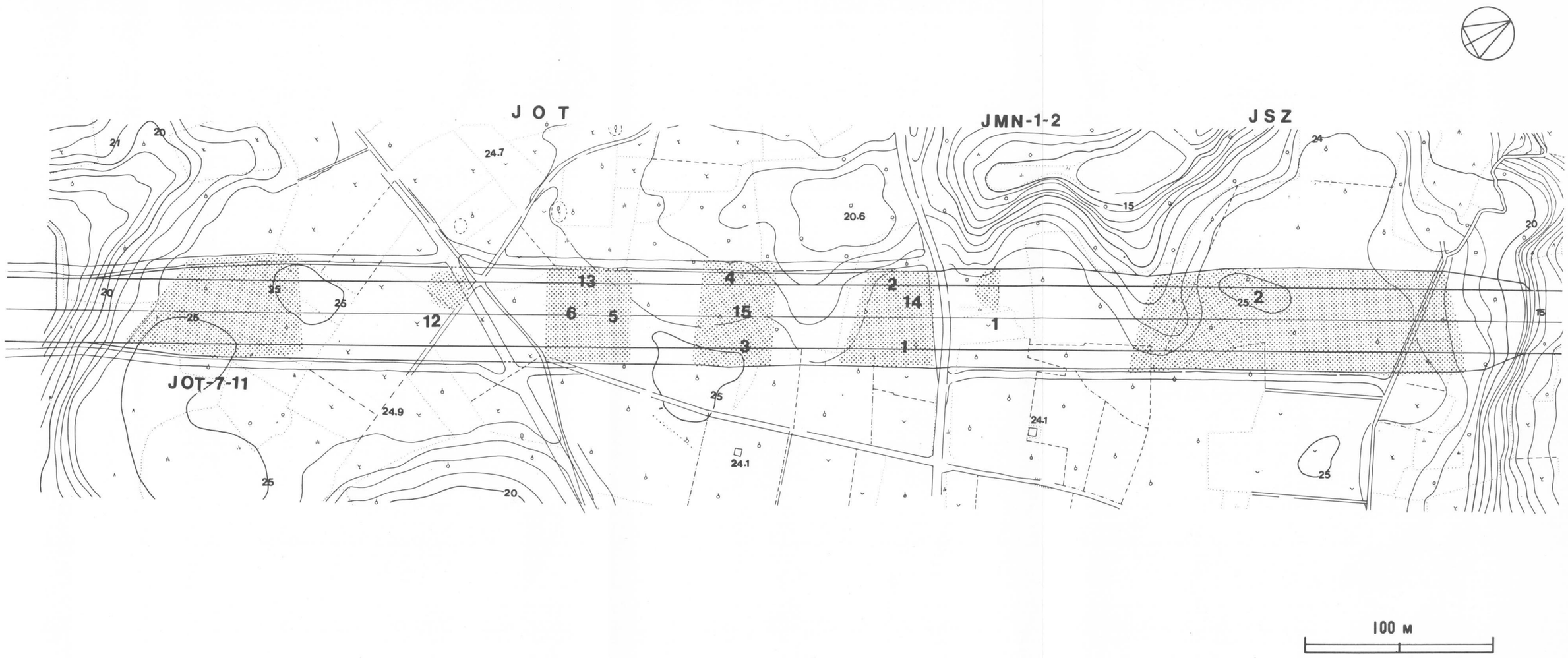
第110図　ＪＫＮ－Ｂ土壙出土遺物拓影図



第 111 図　　ＪＫＮ古墳墳丘・周溝断面図

JKN 地山・墳丘・溝中覆土土層解説

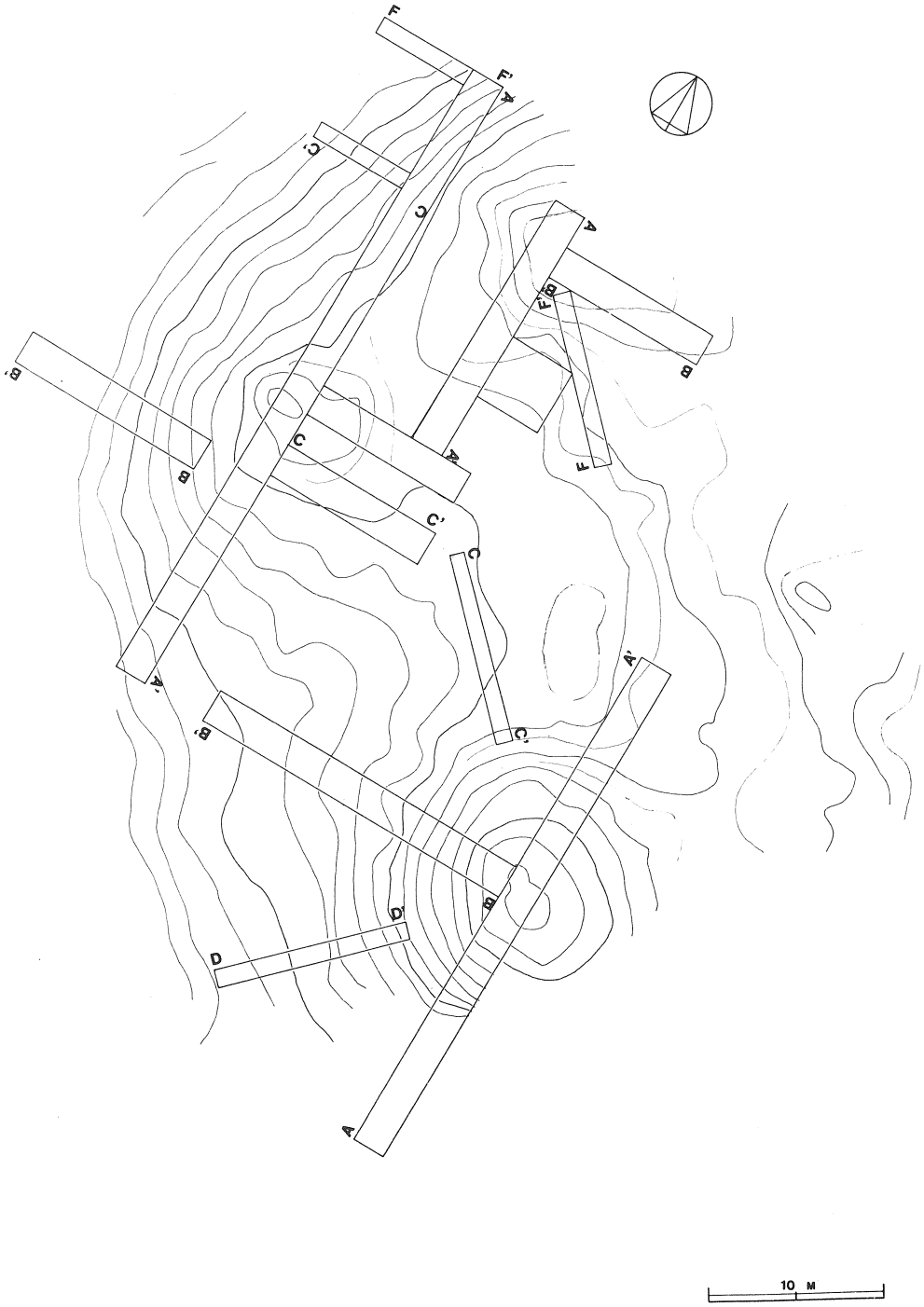
1．Hue 10YR 4/4 褐色　現表土層（撹乱）
2．Hue 10YR 4/6 褐色　盛土
2′ Hue 10YR 4/6 褐色　盛土
3．Hue 7.5YR 3/2 黒褐色　旧表土層
4．Hue 5YR 5/8 明赤褐色　旧表土層
5．Hue 7.5YR 4/4 褐色
6．Hue　　現表土層
7．Hue 10YR 2/1 黒色
8．Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
9．Hue 10YR 4/6 褐色　ロームブロック混
10．Hue 10YR 4/4 褐色



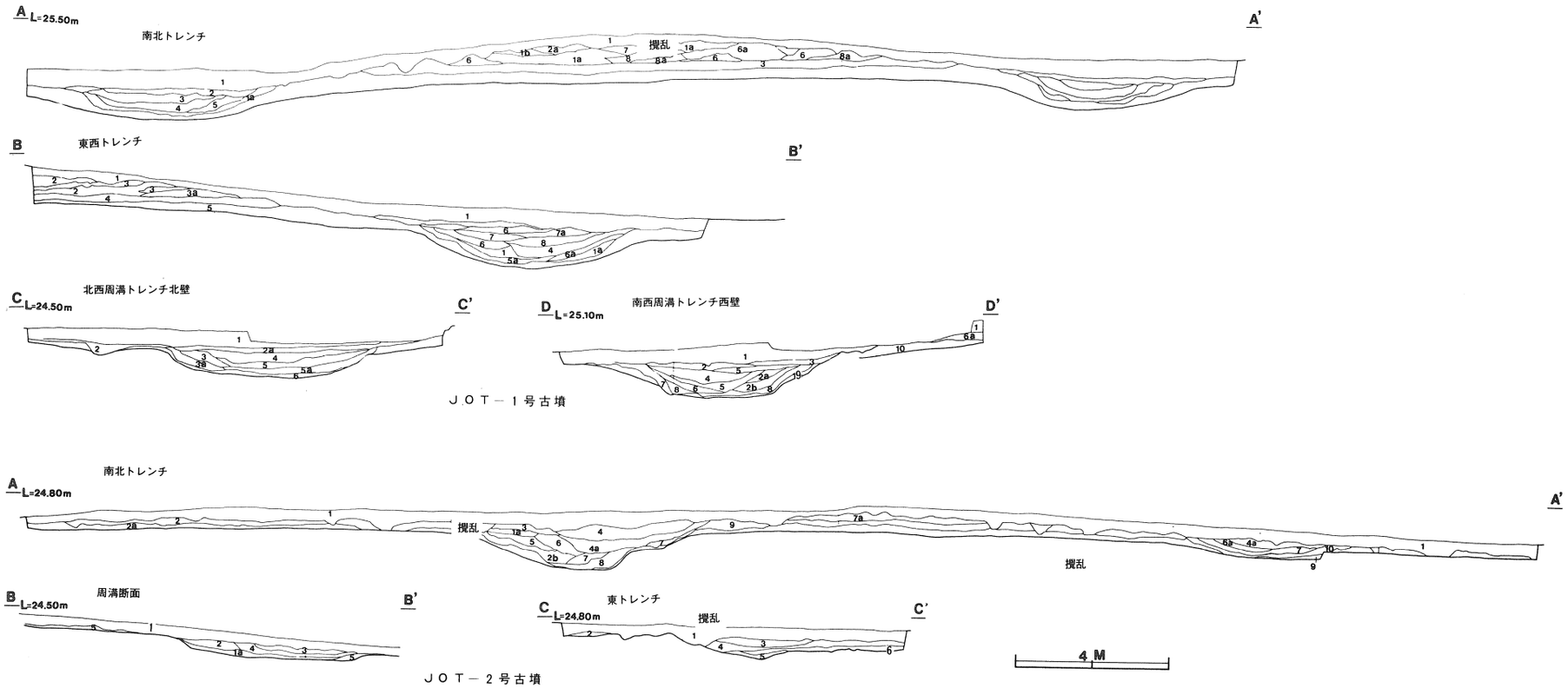
400
50
20000

第 112 図　　大塚古墳群・松延 1 ・ 2 号墳・志筑遺跡地形図

第113図　　ＪＯＴ－１・２・14号古墳墳丘実測図



第114図　　ＪＯＴ－１・２・14号古墳トレンチ配置図



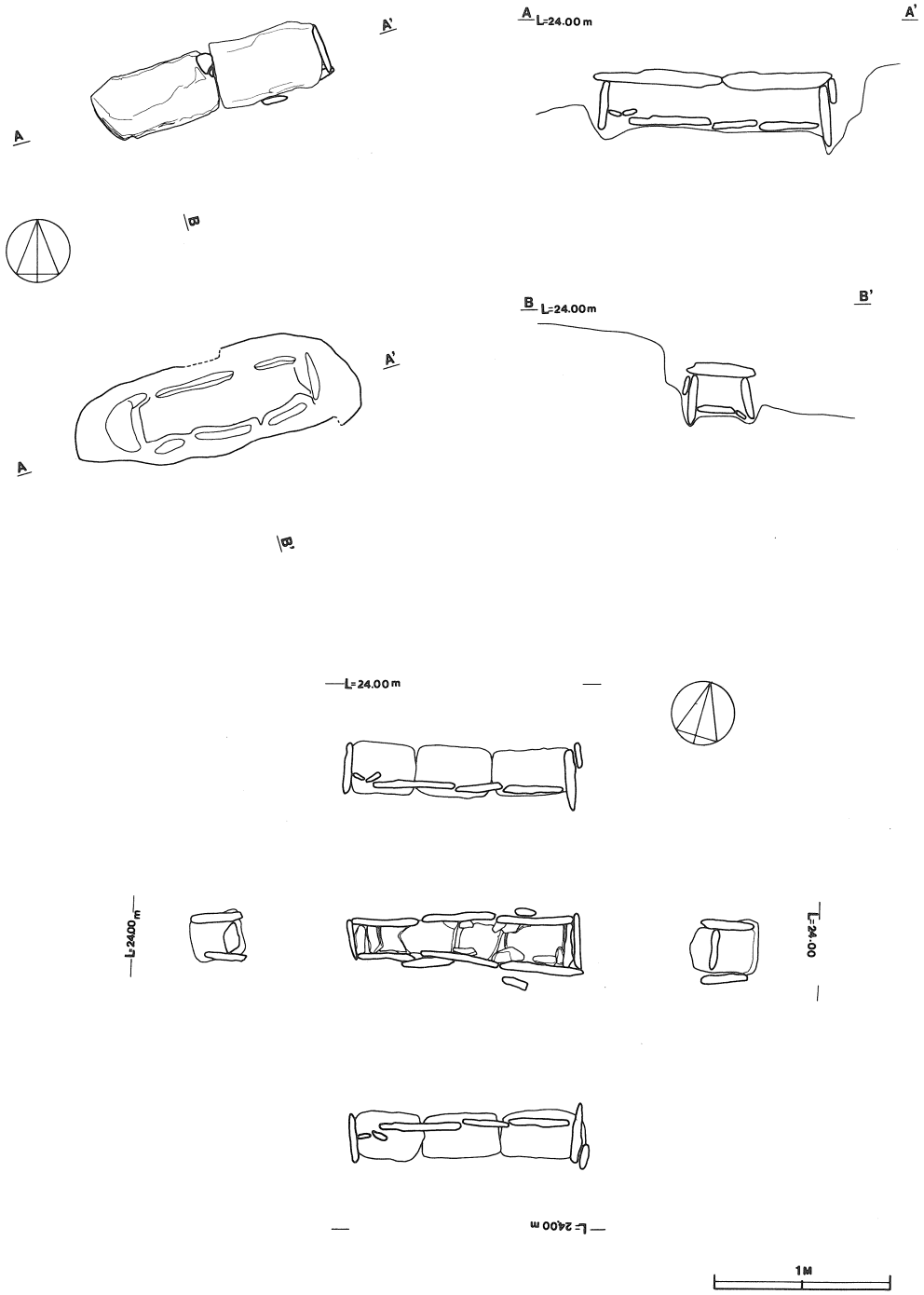
第115図　JOT－1・2号古墳墳丘・周構断面図

JOT－1　墳丘トレンチ土層解説

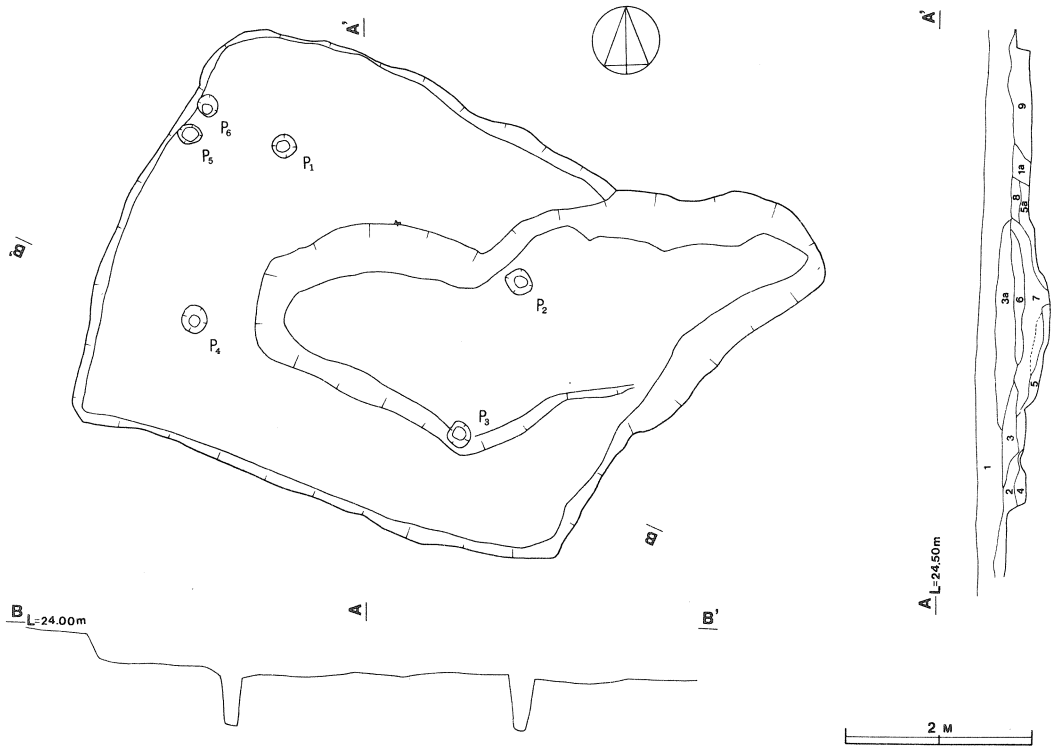
A 1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色
1a 7.5YR 3/4 ローム混
1b 7.5YR 3/4 ロームブロック混
2. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色
2a 7.5YR 3/3 ローム混
3. Hue 7.5YR 2/1 黒色
4. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
5. Hue 7.5YR 3/3 極暗褐色
6. Hue 7.5YR 4/6 褐色ローム混
6a 7.5YR 4/6 ロームブロック混
7. Hue 7.5YR 5/8 明褐色ロームブロック
8. Hue 7.5YR 4/4 褐色ロームブロック混
8a 7.5YR 4/4 ローム混
B 1. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色
1a 7.5YR 3/3 ローム細粒混
2. Hue 7.5YR 4/6 褐色ローム混
3. Hue 7.5YR 4/4 褐色ローム混
3a 7.5YR 4/4 黒色混
4. Hue 7.5YR 2/1 黒色
5. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色
5a 7.5YR 3/4 ローム混
6. Hue 7.5YR 3/3 極暗褐色ローム粒混
6a 7.5YR 3/3
7. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
7a 7.5YR 3/2 ローム粒混固い
8. Hue 7.5YR 1.7/1 黒色
C 1. Hue 7.5YR 4/4 褐色
2. Hue 7.5YR 4/3 褐色
2a 7.5YR 4/3 黒色混
3. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色黒色混
3a 7.5YR 3/4 しまっている
4. Hue 7.5YR 2/1 黒色固くしまっている
5. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色しまっている
5a 7.5YR 3/2 ローム粒混
6. Hue 7.5YR 4/6 褐色ほぼローム
D 1. Hue 7.5YR 4/3 褐色
2. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色しまっているローム粒混
2a Hue 7.5YR 3/2 柔かい
2b Hue 7.5YR 3/2 ローム粒混
3. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色粗粒子，ロームブロック多量に含む
4. Hue 7.5YR 2/1 黒色固くしまっている
5. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色固くしまっている，粗粒子，ロームブロック多量に含む
6. Hue 7.5YR 3/3 極暗褐色ローム粒混
6a 7.5YR 3/3
7. Hue 7.5YR 4/4 褐色
8. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色ローム混，やわらかい
9. Hue 7.5YR 4/6 褐色ほぼローム
10. Hue 7.5YR 5/8 明褐色

JOT－2　墳丘トレンチ土層解説

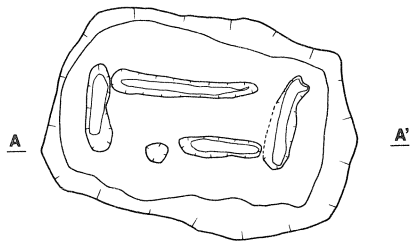
A 1. Hue 7.5YR 3/4 褐色
1a Hue 7.5YR 3/4 ローム粗粒混
2. Hue 7.5YR 4/6 褐色固い
2a Hue 7.5YR 4/6 柔かい
2b Hue 7.5YR 4/6 ローム粗粒混
3. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色ローム粗粒混
4. Hue 7.5YR 2/1 黒色固い，細ローム混
4a Hue 7.5YR 2/1
5. Hue 7.5YR 4/3 褐色ローム粗粒混
6. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色ローム粗粒混
6a Hue 7.5YR 3/2
7. Hue 7.5YR 3/3 極暗褐色ローム混
7a Hue 7.5YR 3/3
8. Hue 7.5YR 4/6 褐色ローム混
9. Hue ローム
10. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色ローム混
B 1. Hue 7.5YR 4/3 褐色
1a Hue 7.5YR 4/3 ローム混
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色
3. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色かたくしまっている
4. Hue 7.5YR 3/3 極暗褐色しまっている
5. Hue ローム
C 1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色
2. Hue 7.5YR 3/3 極暗褐色
3. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
4. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色ローム粒混
5. Hue 7.5YR 3/4 褐色ロームブロック粒混
6. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色ローム混

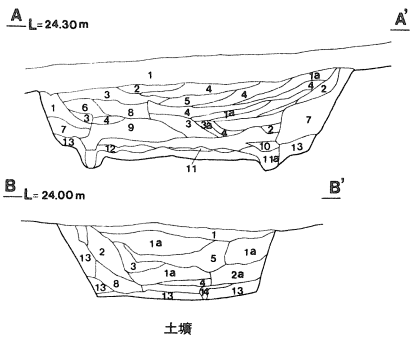


第 116 図　　ＪＯＴ－２号古墳石棺展開図・主体部掘り方実測図



住居址





土壙

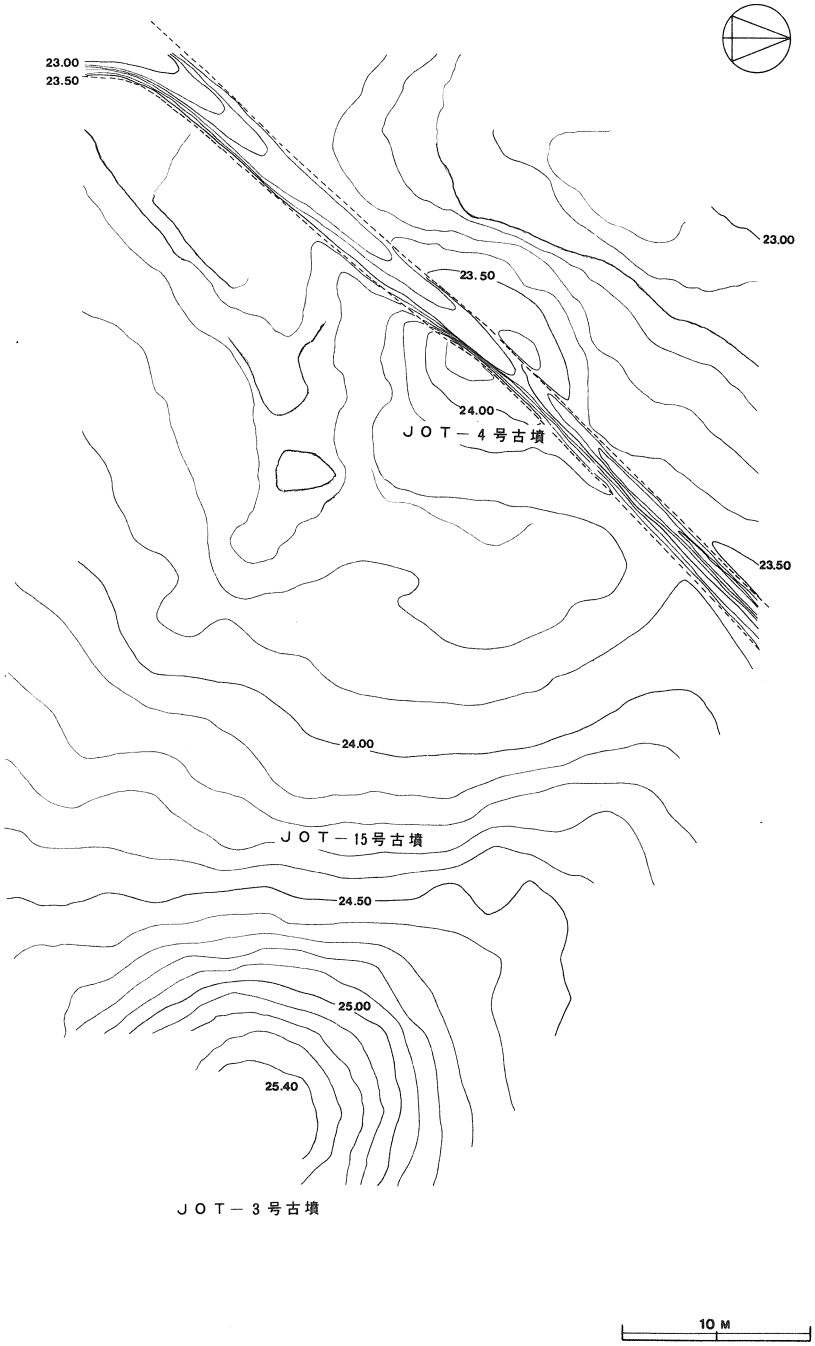
第117図　JOT－2号古墳・住居址・土壙実測図

JOT－2住居址土層解説

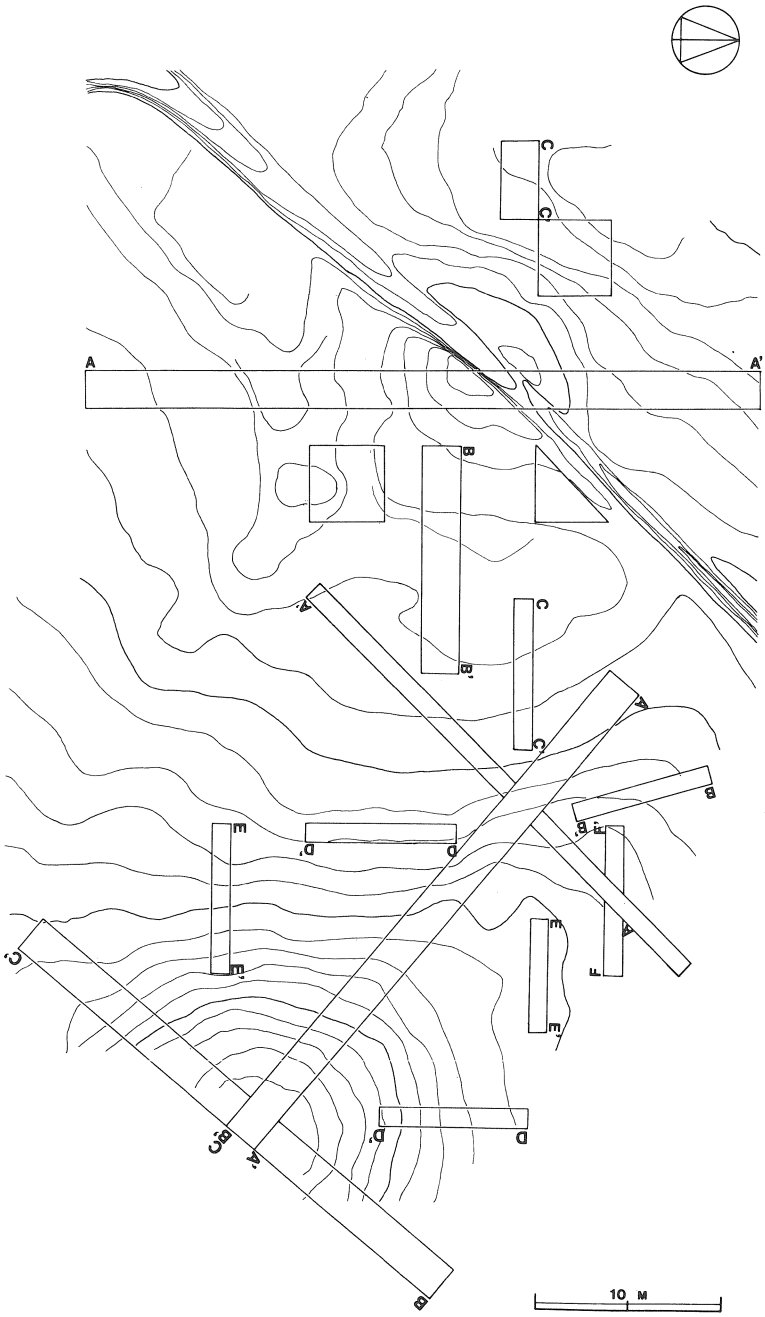
A 1．Hue　7.5YR ¾　暗褐色　1a Hue　7.5YR ¾焼土粒，ローム粒混
2．Hue　10YR ⅘　褐色　ロームブロック
3．Hue　7.5YR ⅔　暗褐色　3a Hue　7.5YR ⅔黒色混
4．Hue　7.5YR ⅔　黒褐色　焼土炭化物混
5．Hue　7.5YR ⅔　黒褐色　ローム粒混，5 a Hue　7.5YR ⅔ローム粒混，焼土粒
6．Hue　7.5YR ⅔　黒色
7．Hue　7.5YR ⅔　黒褐色　炭化物混，粒土焼，ローム粒混
8．Hue　7.5YR ⅔　暗褐色
9．Hue　7.5YR ⅘　褐色

JOT－2土壙土層解説

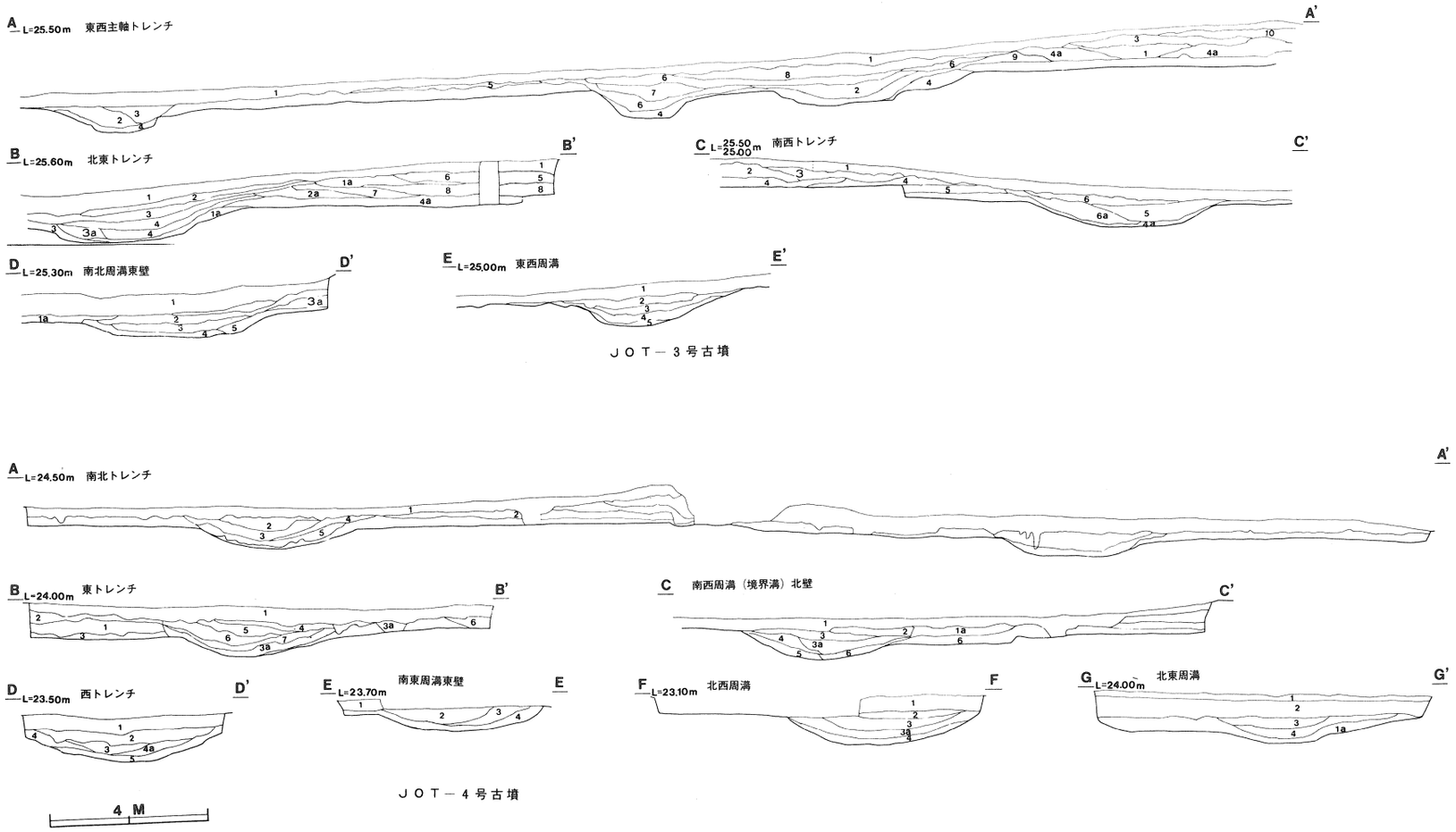
A 1．Hue　7.5YR ⅘　褐色
1 a Hue　7.5YR ¾　暗褐色
2．Hue　7.5YR ⅘　褐色
3．Hue　7.5YR ⅘　褐色
3 a Hue　7.5YR ⅘　褐色　やわらかい
4．Hue　7.5YR ⅔　褐色
5．Hue　7.5YR ⅔　暗褐色
6．Hue　10YR ⅘　褐色　固い
7．Hue　7.5YR ⅚　明褐色　ほぼローム
8．Hue　10YR ⅘　褐色　固い
9．Hue　10YR ⅔　暗褐色　粘土ローム，石片混，固い
10．Hue　10YR ⅝　灰黄褐色　粘土ブロック混
11．Hue　10YR ⅔　にぶい黄褐色　白色粘土及び石片混
11 a Hue　10YR ⅘　褐色　石片混
12．Hue　10YR ¾　暗褐色　石片多混
13．　ローム
B 1．Hue　7.5YR ¾　暗褐色　植根混
1 a Hue　7.5YR ¾　暗褐色
2．Hue　7.5YR ⅘　褐色　ローム混
2 a Hue　7.5YR ⅘　褐色　ロームブロック，石片共に混
3．Hue　7.5YR ⅘　褐色
4．Hue　7.5YR ⅔　にぶい黄褐色　ローム石片，白色粘土混
5．Hue　7.5YR ⅔　暗褐色　ローム粒子混
8．Hue　10YR ⅘　褐色　石片，多
11　Hue　10YR ⅔　にぶい黄褐色　白色粘土及び石片混
13．　ローム
14．Hue　10YR ⅝　灰黄褐色　粘土ブロック



第118図　　ＪＯＴ－３・４・15号古墳墳丘実測図



第119図　　ＪＯＴ－３・４・15号古墳トレンチ配置図



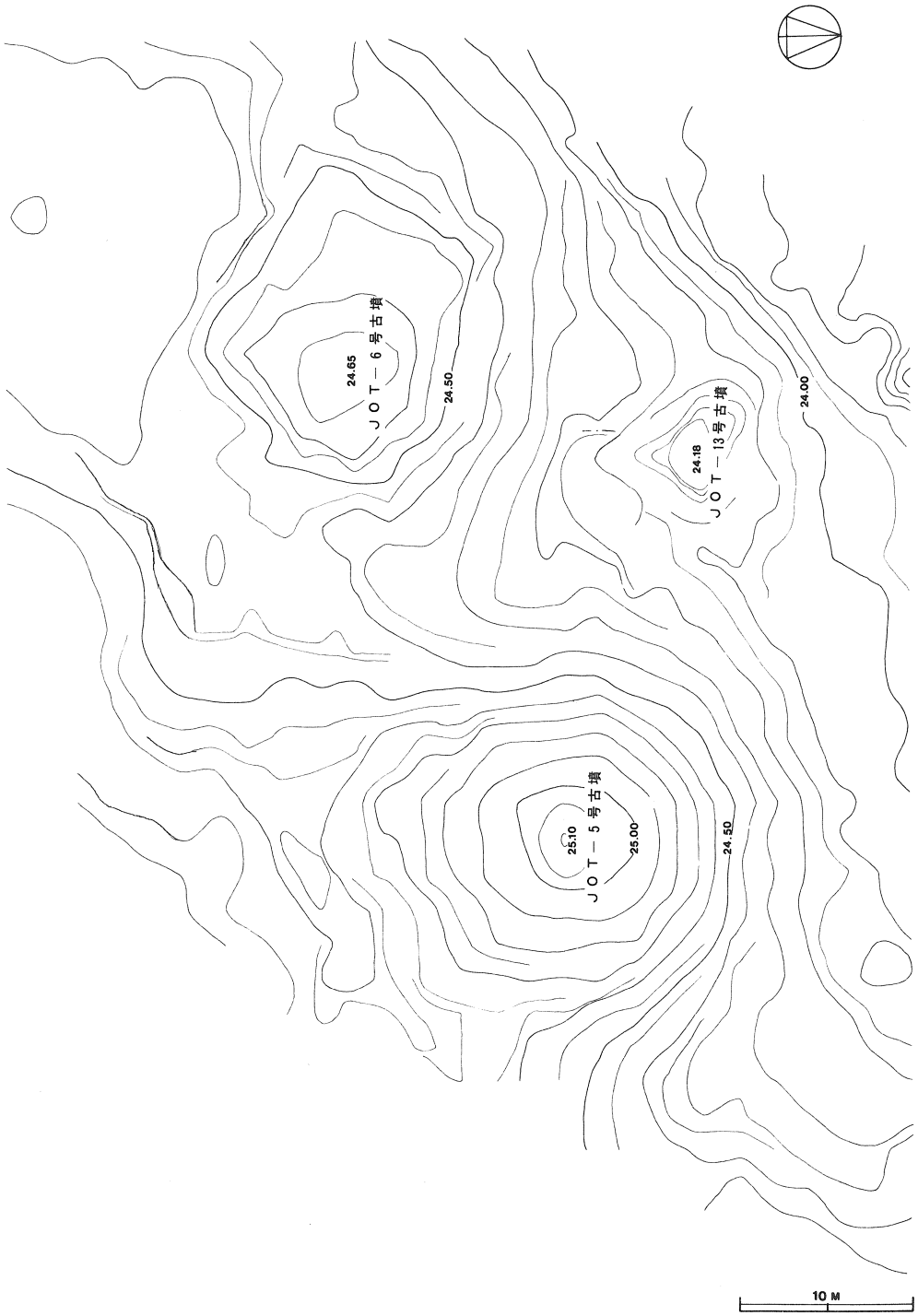
第120図　JOT－3・4号古墳墳丘・周構断面図

JOT－3　墳丘土層解説

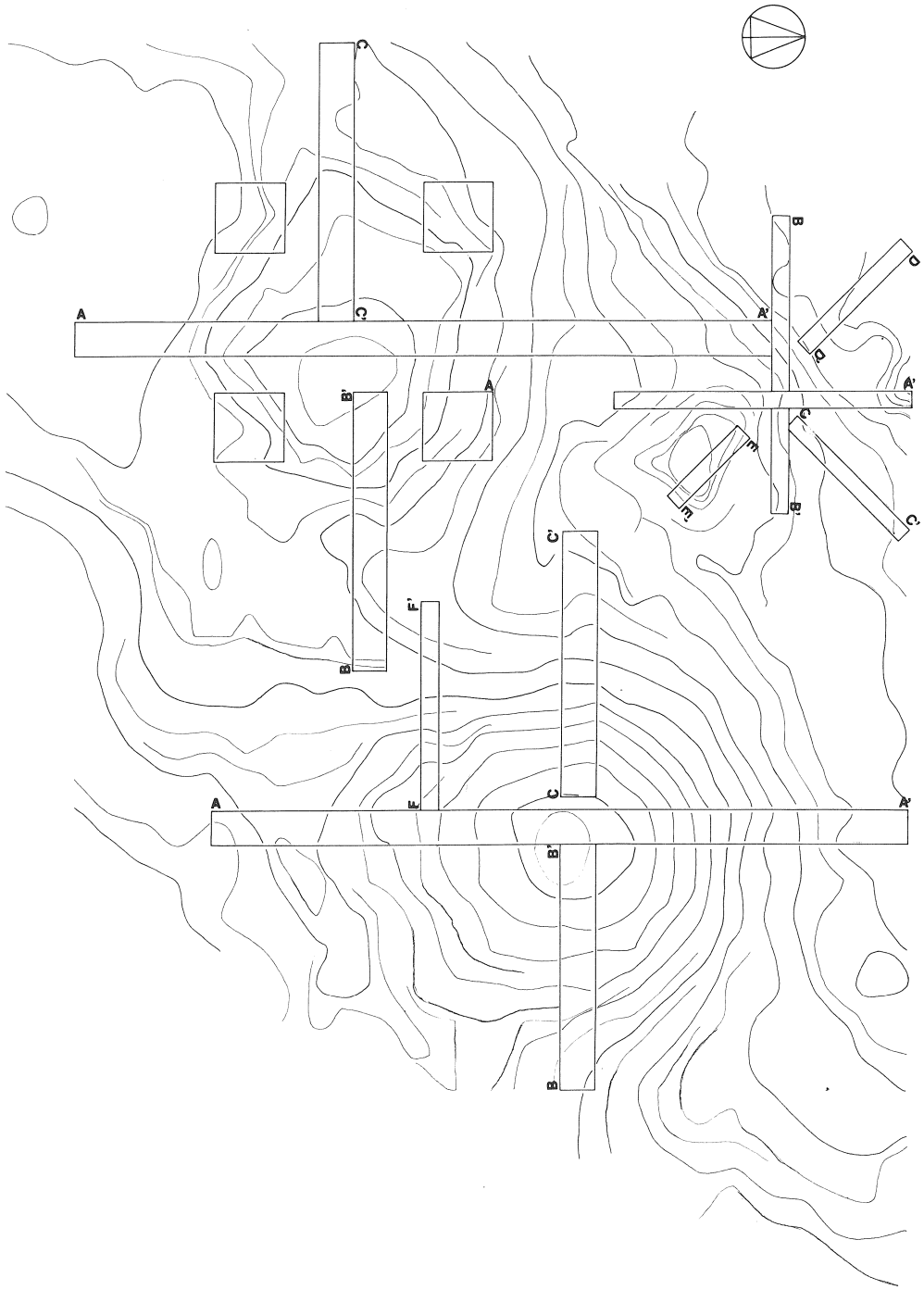
A 1．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色ローム粒多い
2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色
3．Hue 7.5YR 3/3　極暗褐色ローム混
4．Hue 7.5YR 4/6　褐色ほぼローム
4a Hue 7.5YR 4/6　ローム混
5．Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色
6．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色ローム粒少混
7．Hue 7.5YR 2/1　黒色
8．Hue 7.5YR 4/3　褐色ロームブロック黒色混
9．Hue 7.5YR 3/2　黒色柔らかい
10．Hue 7.5YR 5/6　明褐色ロームブロック
B 1．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色ローム粒多い
1a Hue 7.5YR 3/4　黒色混
2．Hue 7.5YR 3/2　黒い褐色柔かい
2a Hue 7.5YR 3/2　ロームブロック黒色混
3．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色黒色きめ荒く固い
3a Hue 7.5YR 3/2　黒色ややしまりある
4．Hue 7.5YR 2/1　黒色黒色きめ細かく固い
4a Hue 7.5YR 2/1　黒色旧表
5．Hue 7.5YR 4/6　褐色ロームブロック混
6．Hue 7.5YR 4/4　褐色ロームブロック黒色混
7．Hue 7.5YR 3/4　褐色ローム黒色混
8．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色ローム黒色混固い
C 1．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色
2．Hue 7.5YR 4/3　褐色ローム黒色混
3．Hue 7.5YR 4/6　褐色ローム混
4．Hue 7.5YR 3/4　褐色ローム混
4a Hue 7.5YR 3/4
5．Hue 7.5YR 2/1　黒色
6．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色
6a Hue 7.5YR 3/4　ローム粒混
D 1．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色ローム粒含み固い
1a Hue 7.5YR 3/4　黒色混
2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色黒色ローム粒含み固い
3．Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色ロームを含む，柔かい
3a Hue 7.5YR 2/3　黒色ローム混しまりあり
4．Hue 7.5YR 4/6　褐色ロームブロックを含む
5．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色黒色，ローム共に混
E 1．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色
2．Hue 7.5YR 2/1　黒色
3．Hue 7.5YR 3/1　黒褐色
4．Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色ローム混
5．Hue 7.5YR 3/4　褐色ほぼローム

JOT－4　墳丘土層解説

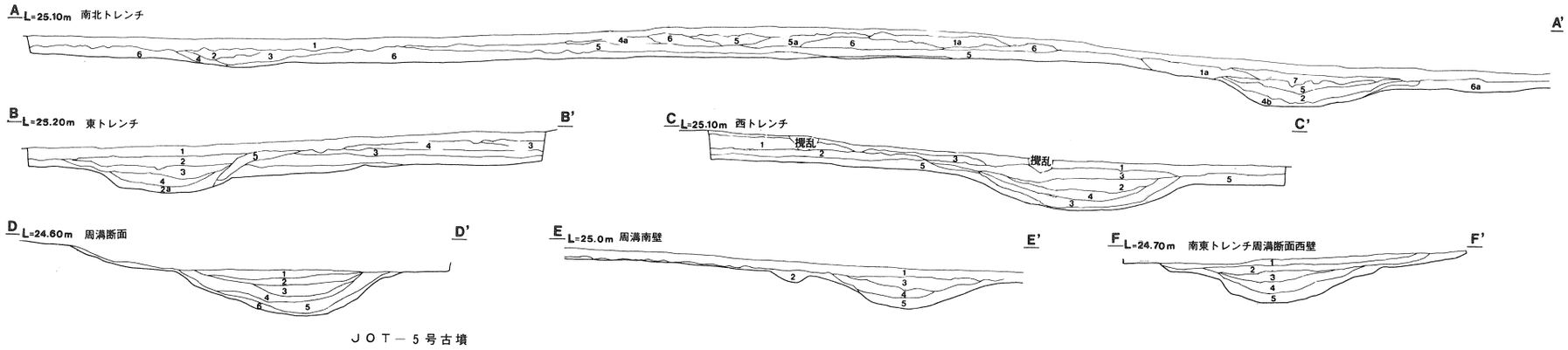
A 1．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色
2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色
2a Hue 7.5YR 3/2　ローム粒混
3．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色ローム粒混
4．Hue 7.5YR 4/3　褐色ローム粒混
5．Hue 7.5YR 4/6　褐色ほぼローム，
5a Hue 7.5YR 4/6　ローム黒色混
6．Hue 7.5YR 3/4　褐色ローム粒混
B 1．Hue 7.5YR 3/4　褐色
2．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色ローム混
3．Hue 7.5YR 4/6　褐色
3a Hue 7.5YR 4/6　ローム粒混
4．Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色
5．Hue 7.5YRR 2/1 黒色固い
6．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色
7．Hue 7.5YR 2/3　暗褐色
C 1．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色大きめなローム粒を含み固い
1a Hue 7.5YR 3/4　黒色ロームブロック混
2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色ローム粒黒色を含み固い
3．Hue 7.5YR 2/1　黒色ローム粒多く固い黒色
3a Hue 7.5YR 2/1　柔らかい
4．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色黒色混柔らかい
5．Hue 7.5YR 4/6　褐色ロームブロック混
6．Hue 7.5YR 3/4　褐色黒色ロームブロック混
6a Hue 7.5YR 3/4　褐色黒色ローム混柔らかい
D 1．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色
2．Hue 7.5YR 3/1　黒褐色
3．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色
4．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色
4a Hue 7.5YR 3/3　ローム粒混
5．Hue 7.5YR 4/6　褐色ローム混
E 1．Hue 7.5YR 3/3　極暗褐色ローム粒，黒色混固い
2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色
3．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色黒色ローム混
4．Hue 7.5YR 4/6　褐色ローム混
F 1．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色少量ローム粒含む
2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色きめ細かい
2a Hue 7.5YR 3/2　黒色ローム粒含む
3．Hue 7.5YR 2/1　黒色固い
4．Hue 7.5YR 4/6　褐色ローム
G 1．Hue 7.5YR 4/6　褐色ロームブロックを含む
1a Hue 7.5YR 4/6　ローム
2．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色ローム粒黒色ともに含み柔かい
3．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色柔らかい
4．Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色ロームを含み固い

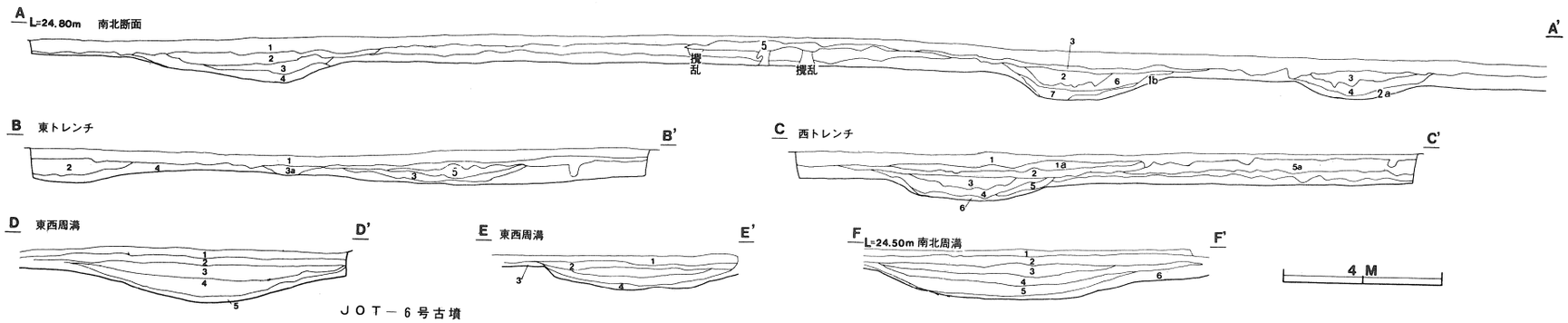


第121図　　JOT－5・6・13号古墳墳丘実測図



第 122 図　　ＪＯＴ－５・６・13号古墳トレンチ配置図





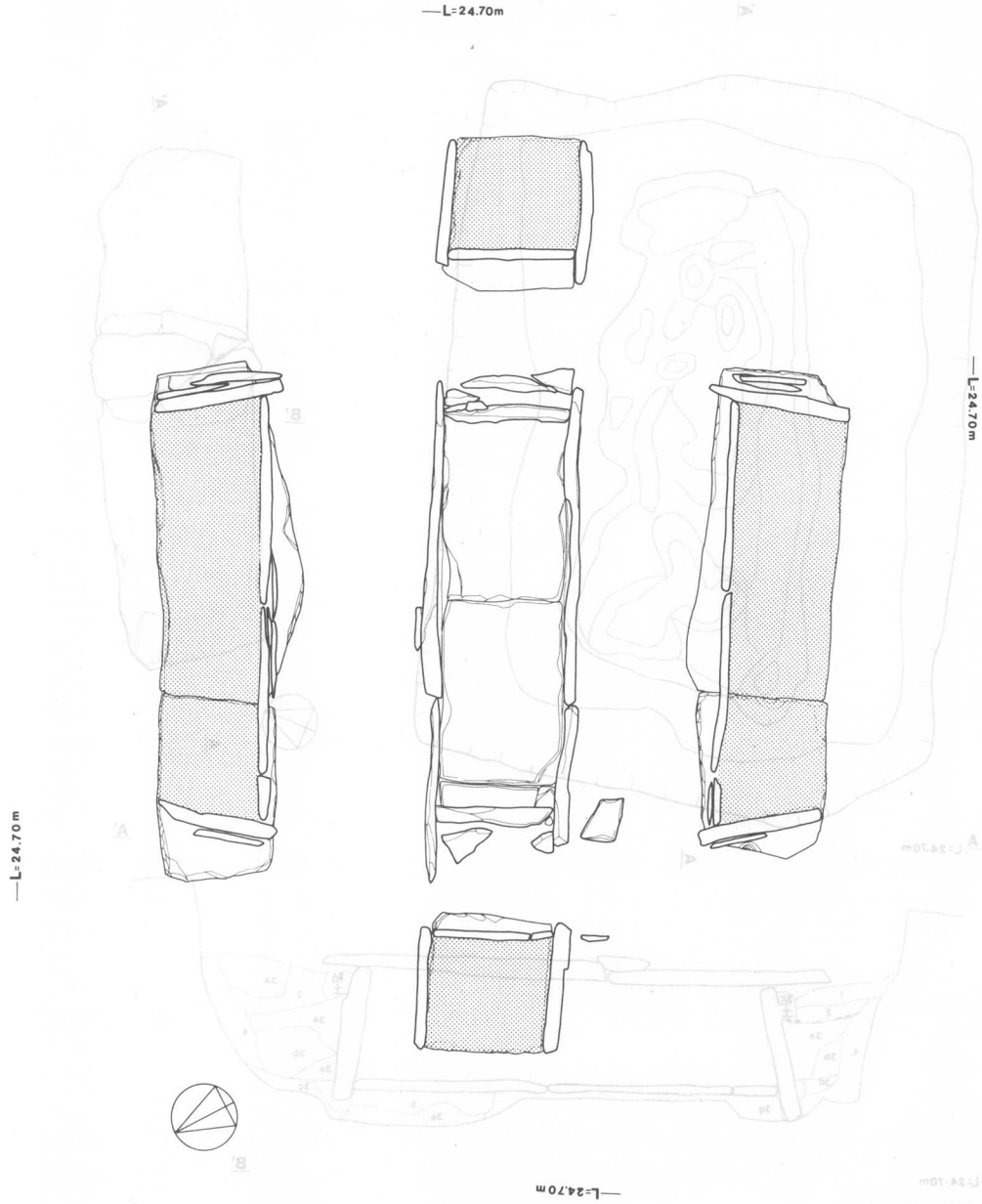
第123図　JOT－5・6号古墳墳丘・周構断面図

JOT－5トレンチ土層解説

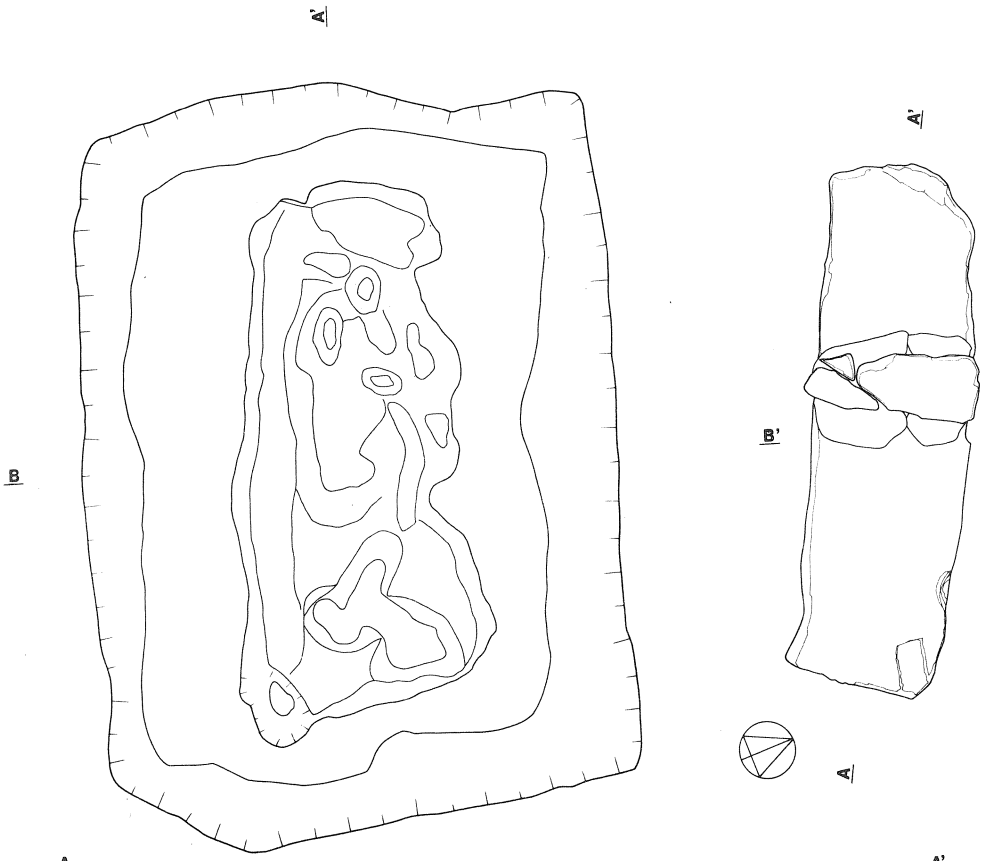
A 1. Hue 7.5YR 4/4 褐色
1a Hue 7.5YR 4/4 褐色 ローム粒子，黒色混
2. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色
3. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
4. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム混
4a Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム黒色混 4b
5. Hue 7.5YR 2/1 黒色
6. Hue 7.5YR 4/6 褐色 ローム黒色混
6a Hue 7.5YR 4/6 褐色
7. Hue 7.5YR 4/3 褐色
B 1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色
2. Hue 7.5YR 4/3 暗褐色
2a Hue 7.5YR 4/3 暗褐色 ローム混
3. Hue 7.5YR 2/1 黒色
4. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 ローム粒子混
5. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色ローム粒子混
C 1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色
1a Hue 7.5YR 3/4 暗褐色ローム黒色混
2. Hue 7.5YR 2/1 黒色
3. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム粒子黒色混入
4. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色
5. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム
D 1. Hue 10YR 2/3 黒褐色
2. Hue 10YR 1.7/1 黒色しまっている
3. Hue 10YR 2/2 黒褐色 ローム粒子混，しまっている
4. Hue 10YR 3/2 黒褐色 特にローム粒子多混きめが粗い
5. Hue 10YR 4/4 褐色 ローム多混，きめが粗い
6. Hue 10YR 4/6 褐色 ほぼローム，ロームブロック多混
E 1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色
2. Hue 7.5YR 4/4 褐色
3. Hue 7.5YR 2/1 黒色
4. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
5. Hue 7.5YR 4/6 褐色 ローム多混
F 1. Hue 7.5YR 4/3 褐色
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム多混特にきめが粗い
3. Hue 7.5YR 2/1 黒色 固くしまっている
4. Hue 7.5YR 3/1 黒褐色 しまっている
5. Hue 7.5YR 4/6 褐色 ほぼローム，やわらかい

JOT－6 墳丘周溝土層解説

A 1. Hue 7.5YR 4/6 褐色
1a Hue 7.5YR 4/6 褐色 固い
1b Hue 7.5YR 4/6 ほぼローム
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色
2a Hue 7.5YR 3/4 柔かい，ローム混
3. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 しまる
4. Hue ローム
5. Hue 7.5YR 4/4 ロームブロック混
6. Hue 7.5YR 2/2 ローム粒混
7. Hue 7.5YR 3/3 柔かい，ローム粒混
B 1. Hue 7.5YR 4/4 褐色
2. Hue 7.5YR 4/3 にぶい黄褐色
3. Hue 7.5YR 4/4 ローム混
3a Hue 7.5YR 4/4
4. Hue 7.5YR 4/6 ほぼローム
5. Hue 7.5YR 2/1
C 1. Hue 7.5YR 4/3 にぶい黄褐色
1a Hue 7.5YR 4/3 黒色混
2. Hue 7.5YR 2/3 黒褐色 しまりがある，ローム粒子少
3. Hue 7.5YR 2/1
4. Hue 7.5YR 3/4 柔かい，ローム粒混
5. Hue 7.5YR 2/2 ローム粒混
5a Hue 7.5YR 2/2
6. Hue 7.5YR 4/6 ほぼローム
D 1. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 極小ローム粒子を少量含む
2. Hue 7.5YR 4/4 褐色 ローム粒子を多量に含み硬い
3. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色 ローム粒子を多量に含む，黒色混，きめがあらい
4. Hue 7.5YR 2/1 黒色 きめ細かくしまりあり
5. Hue 7.5YR 4/6 褐色 ロームブロックを含みやわらかい
E 1. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 極小ローム粒子を含む
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 少量ローム粒子を含む
3. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 黒色やわらかい
4. Hue 7.5YR 4/6 褐色 ロームブロックを含む
F 1. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 極小ローム粒子を含む
2. Hue 7.5YR 4/4 褐色 極小ローム粒子混，やわらかい
3. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 極小ローム粒子混，黒色混
4. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 ローム粒子を多く含み硬い，黒色混
5. Hue 7.5YR 2/1 黒色 ローム粒子を多量に含みやわらかい
6. Hue 7.5YR 4/6 褐色 ロームブロック混



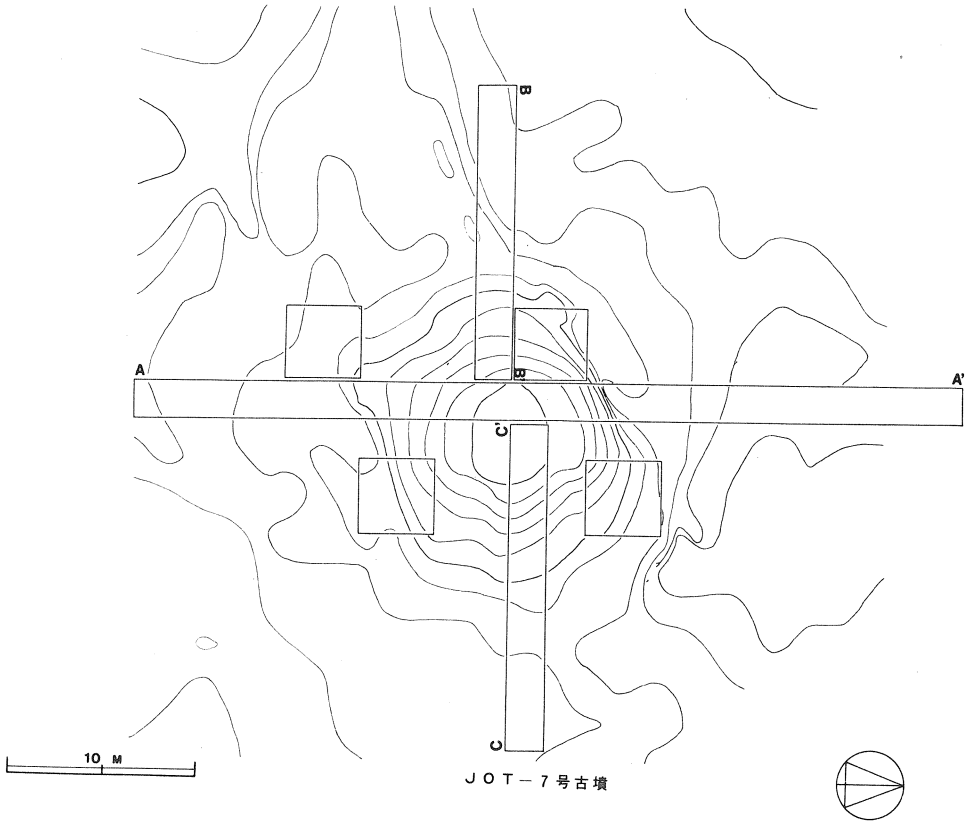
第 124 図　　ＪＯＴ－５号古墳石棺展開図

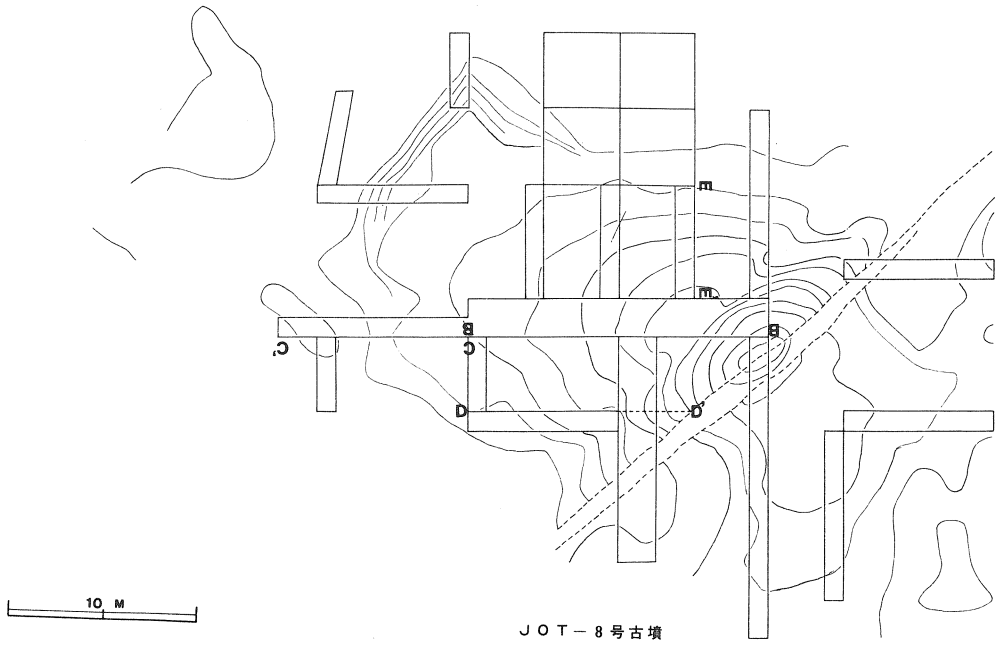


JOT－5号墳　土層解説

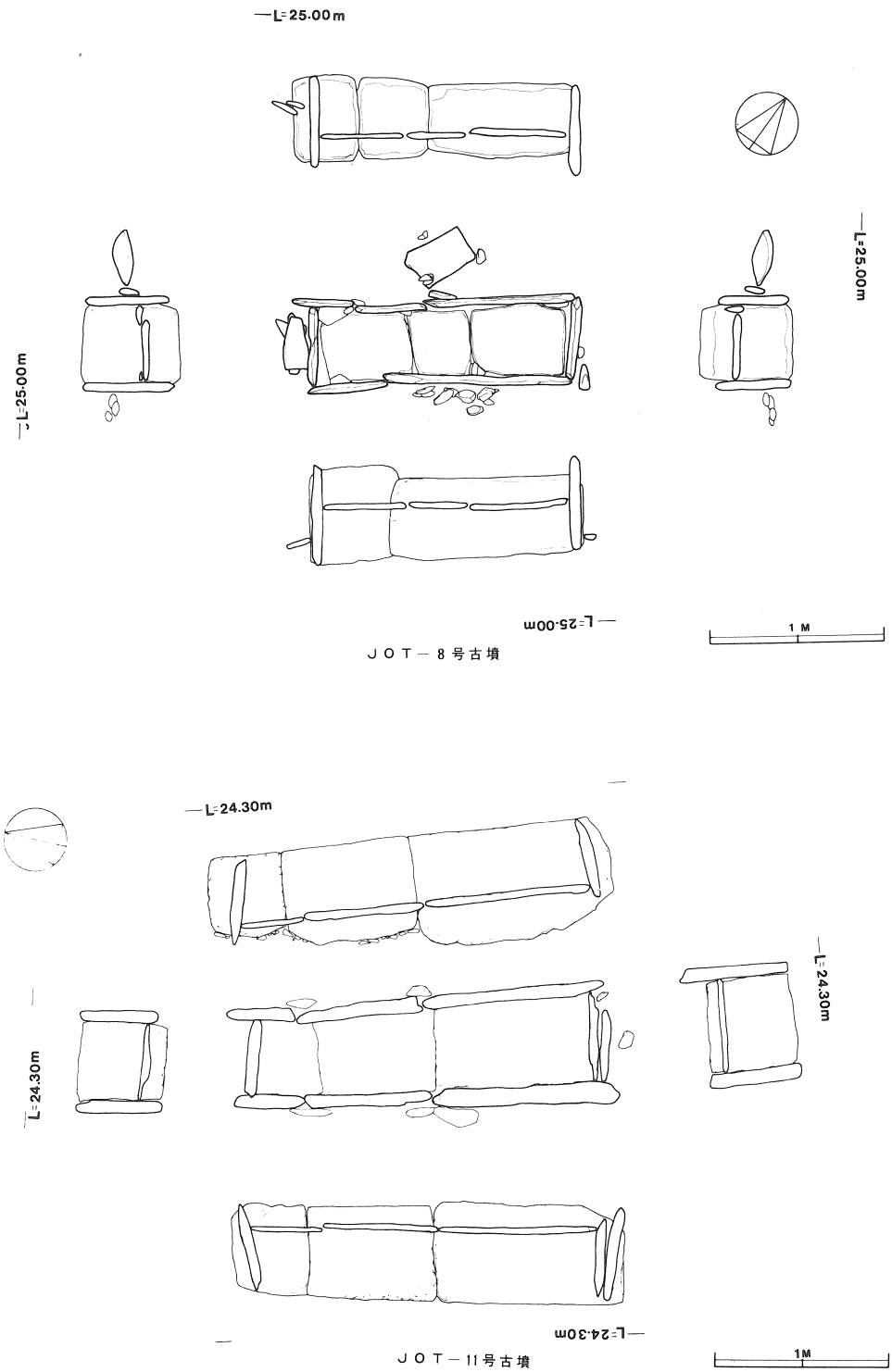
1．Hue 7.5YR 3/2 黒褐色(ローム粒子含む)
2．Hue 7.5YR 4/4 褐色(粘土・ローム混)
3a Hue 7.5YR 4/6 褐色(ロームブロック含む，しまっている)
3b Hue 7.5YR 4/6 褐色(ローム粒子含むもろい)
3c Hue 7.5YR 4/6 褐色(しまりのないローム・含む)
3d Hue 7.5YR 4/6 褐色(粘土とローム混)
3e Hue 7.5YR 4/6 褐色(しまりがない)
3f Hue 7.5YR 4/6 褐色(細石片，しまっている)
3g Hue 7.5YR 4/6 褐色(しまりがない)
4．Hue 7.5YR 3/2 黒褐色(ローム粒子含む)
5．Hue 7.5YR　褐色(粘土，細石片)

第125図　　JOT－5号古墳主体部掘り方実測図

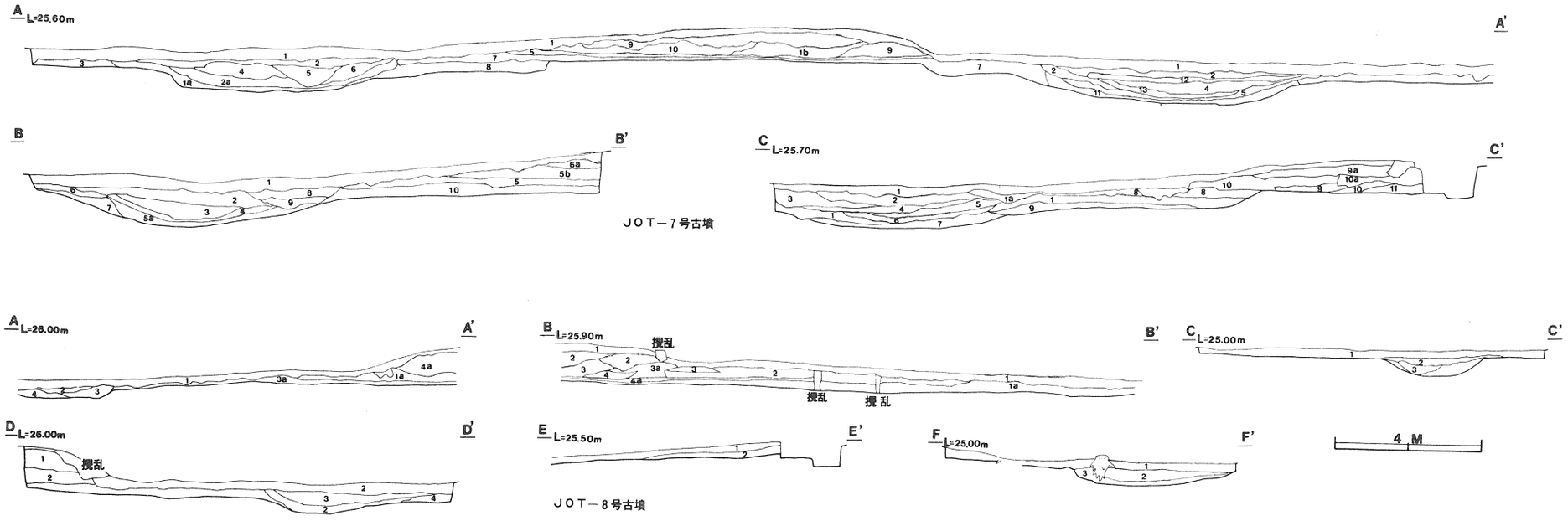




第126図　JOT－7・8号古墳トレンチ配置図



第 127 図　　ＪＯＴ－８・11号古墳石棺展開図



第128図　ＪＯＴ－７・８号古墳墳丘・周溝断面図

JOT－8墳丘周溝土層解説

Ａ１．Hue 7.5YR 4/4 褐色　1'7.5YR 4/4固い
　２．Hue 7.5YR 3/3 暗褐色　ローム粒混
　３．Hue 7.5YR 4/3 褐色　ローム粒混
　３ａ Hue 7.5YR 4/3 ローム多混
　４．Hue 10YR 4/6 褐色　ローム多混
　４ａ 10YR 4/6 ロームブロック多混

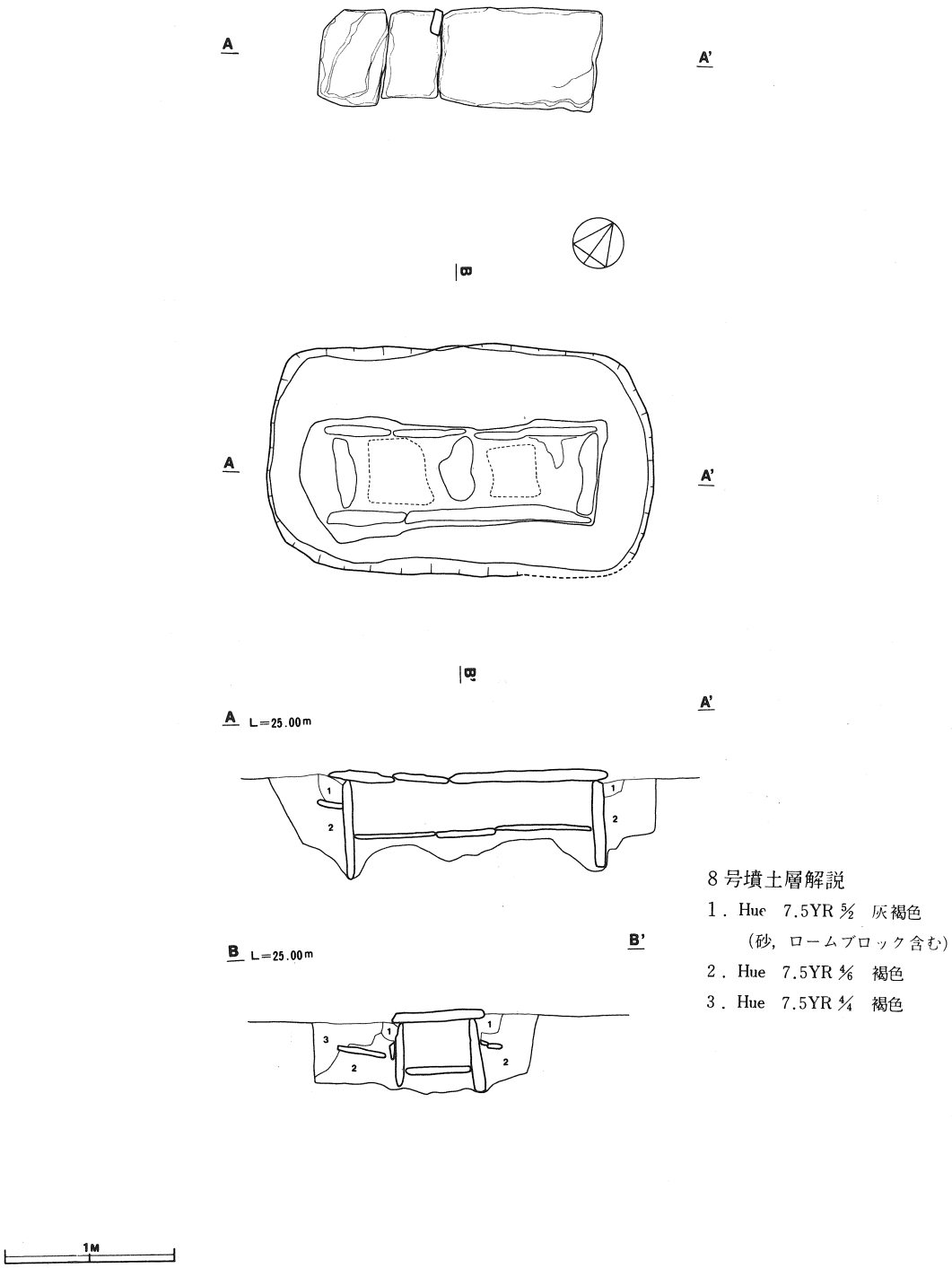
Ｂ１．Hue 7.5YR 4/4 褐色
　２．Hue 7.5YR 4/6 褐色　ロームブロック黒色混，2' 7.5YR 4/6ローム混
　３．Hue 7.5YR 3/3 暗褐色
　３ａ Hue 7.5YR 3/3 ローム黒色混
　４．Hue 7.5YR 3/2 黒褐色ローム粒混，
　４ａ Hue 7.5YR 3/2
Ｃ１．Hue 7.5YR 4/4 褐色
　２．Hue 7.5YR 3/3 暗褐色
　３．Hue 7.5YR 4/6 褐色
Ｄ１．Hue 7.5YR 4/3 褐色
　２．Hue 7.5YR 3/1 黒褐色
　３．Hue 7.5YR 3/2 黒褐色　ローム混
　４．Hue 7.5YR 4/4 褐色　ローム混柔かい，

Ｅ１．Hue 7.5YR 3/3 暗褐色
　２．Hue 7.5YR 3/2 黒褐色　ローム粒子混

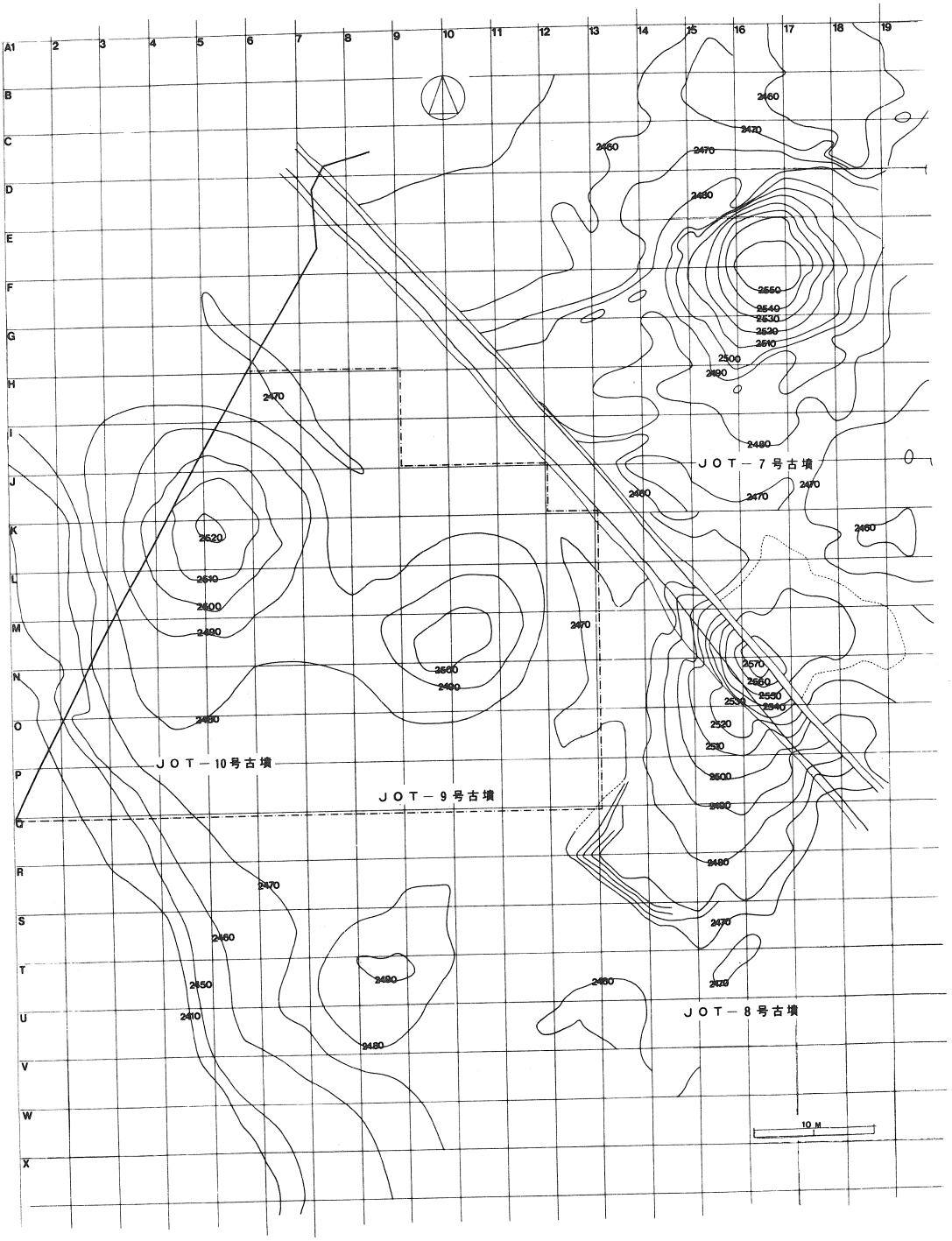
Ｆ１．Hue 7.5YR 4/3 褐色
　２．Hue 7.5YR 3/3 暗褐色
　３．Hue 7.5YR 3/1 黒褐色

JOT－7墳丘周溝トレンチ土層解説

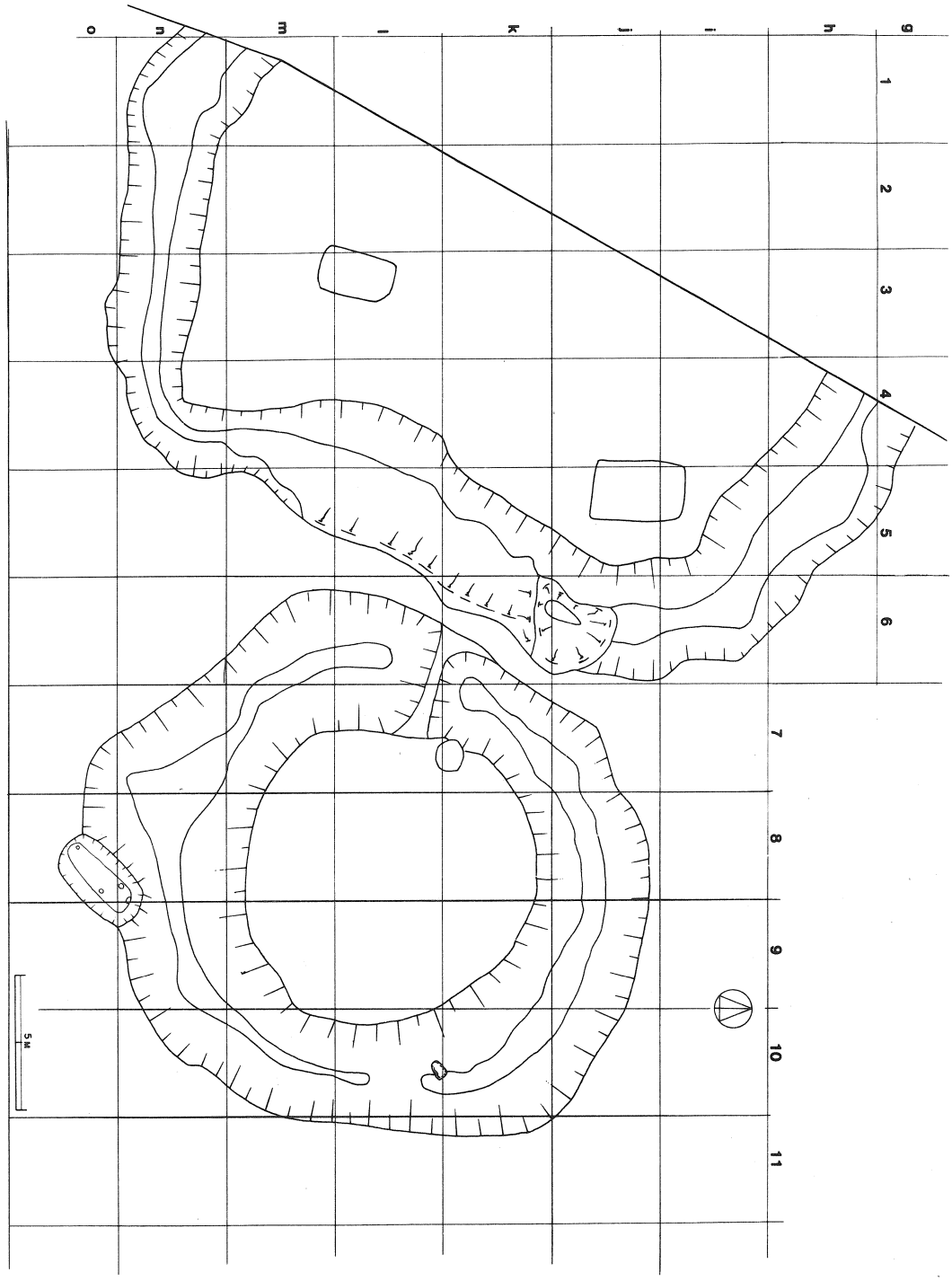
Ａ１．Hue 7.5YR 4/4 褐色
　１ａ Hue 7.5YR 4/4 褐色　ローム粒子混
　１ｂ Hue 7.5YR 4/4 褐色　ロームブロック混
　２ａ Hue 7.5YR 3/4 暗褐色　ローム粒子混
　３．Hue 10YR 4/6 褐色
　４．Hue 5YR 3/1 黒褐色　固い
　５．Hue 5YR 3/2 暗褐色赤　ローム粒子
　６．Hue 7.5YR 4/3 褐色　ローム粒子混
　７．Hue 5YR 4/6 赤褐色
　８．Hue 10YR 3/4 暗褐色
　９．Hue 7.5YR 4/6 褐色　ロームブロック混
　９ａ Hue 7.5YR 4/6 褐色　ローム粒子混子
　10．Hue 7.5YR 5/8 明褐色　ロームブロック混
　11．Hue 7.5YR 4/4 褐色　やわらかい
　12．Hue 7.5YR 3/2 黒褐色　ローム粒子混，固い
　13．Hue 5YR 4/4 にぶい褐赤色
Ｂ１．Hue 7.5YR 3/4 暗褐色
　２．Hue 5YR 3/2 黒褐色
　３．Hue 5YR 3/1 黒褐色　細かいロヰム粒子を含む
　４．Hue 5YR 3/2 暗赤褐色　ローム粒子を多く含む，きめがあらい
　５．Hue 7.5YR 4/4 褐色
　５ａ Hue 7.5YR 4/4 褐色　ローム粒子を多く含む，きめがあらい
　５ｂ Hue 7.5YR 4/4 褐色　ロームブロック混入
　６．Hue 7.5YR 4/6 褐色
　６ａ Hue 7.5YR 4/6 褐色　ロームブロック混入
　７．Hue 7.5YR 5/6 明褐色　ローム土
　８．Hue 7.5YR 3/3 暗褐色　ローム粒子を含む
　９．Hue 7.5YR 4/4 褐色　ローム粒子を含む
　10．Hue 7.5YR 4/3 褐色
Ｃ１．Hue 7.5YR 4/4 褐色
　１ａ Hue 7.5YR 4/4 褐色　黒色土混入
　２．Hue 7.5YR 3/4 暗褐色　ローム粒子を多く含む
　３．Hue 7.5YR 4/3 褐色　ローム粒子を多く含み，やわらかい
　４．Hue 7.5YR 3/1 黒褐色　固い
　５．Hue 5YR 3/1 黒褐色
　６．Hue 5YR 3/2 暗赤褐色
　７．Hue 7.5YR 5/6 明褐色　ちかいローム土
　８．Hue 7.5YR 4/6 褐色
　９．Hue 10YR 4/6 褐色
　９ａ Hue 10YR 4/6 褐色　ロームブロック多混，極めてもろい
　10．Hue 10YR 5/6 黄褐色
　10ａ Hue 10YR 5/6 黄褐色　細い，固くしまっている
　11．Hue 10YR 4/4 褐色



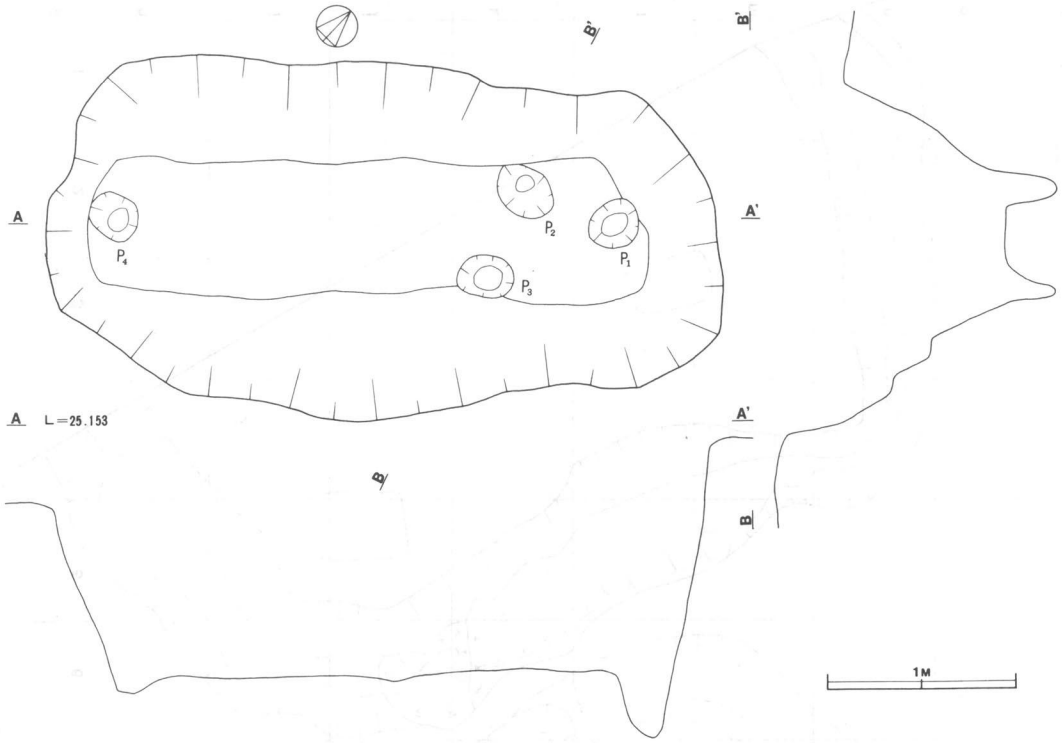
第129図　　JOT－8号古墳主体部掘り方実測図



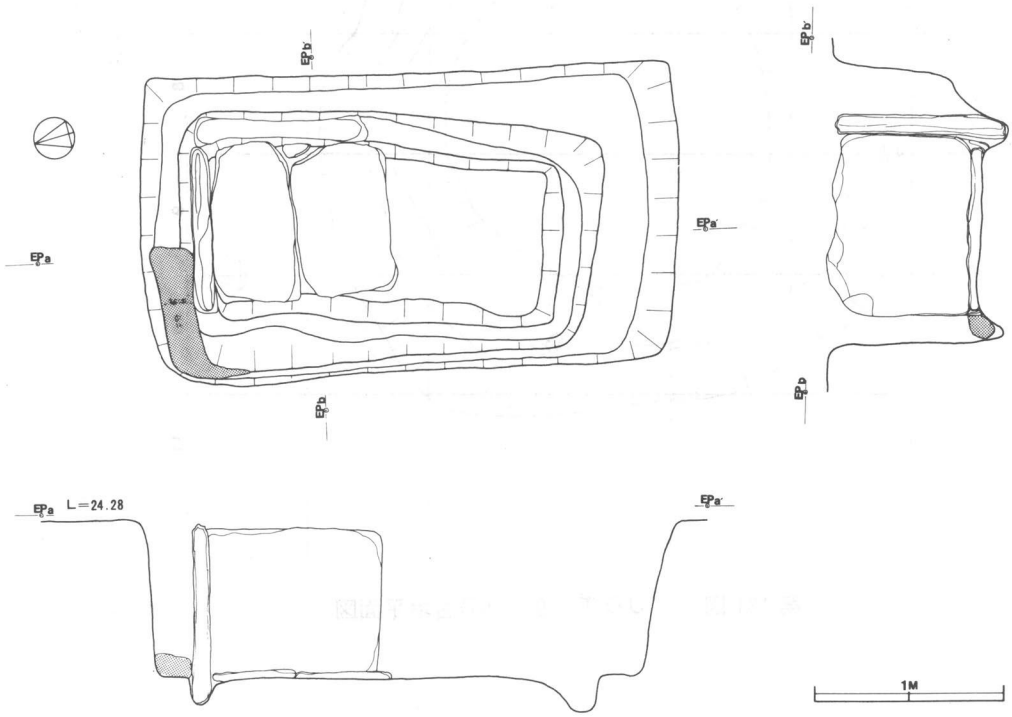
第130図　JOT－7・8・9・10号古墳地形図



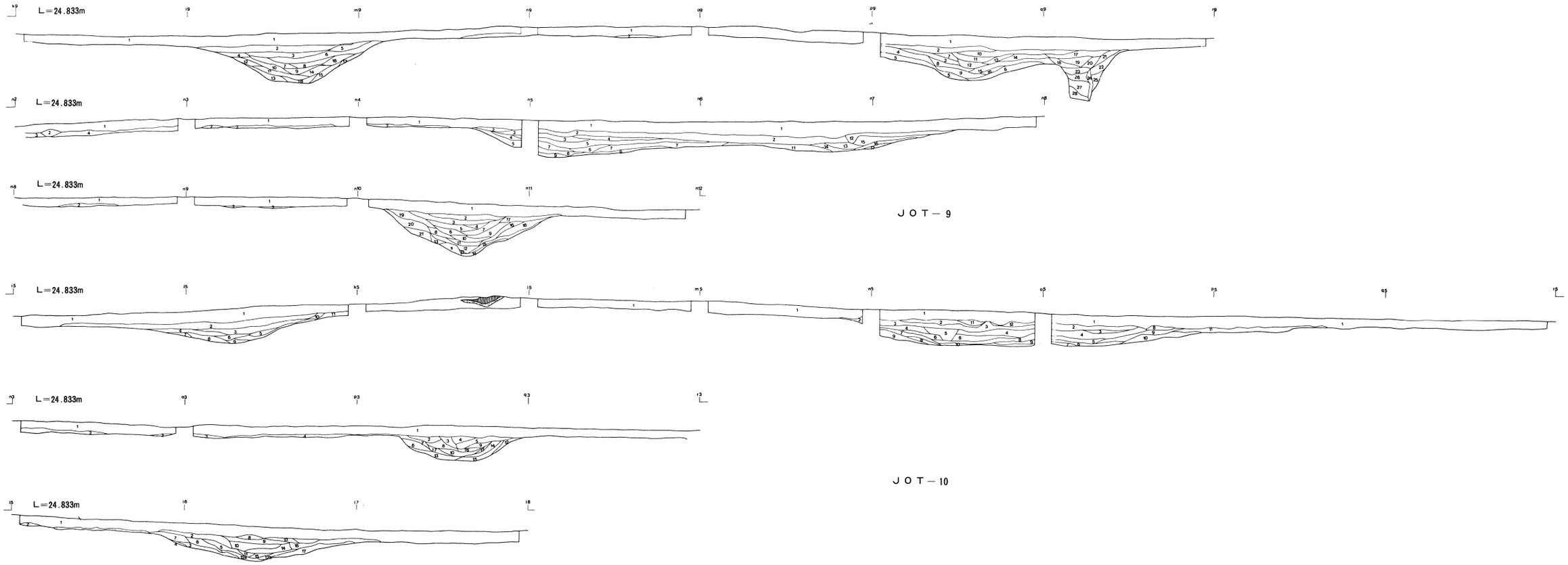
第 131 図　　ＪＯＴ－９・10号古墳平面図



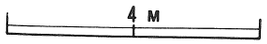
第 133図　ＪＯＴ－９号古墳実測図



第 134図ＪＯＴ－10号古墳南側主体部実測図



第132図ＪＯＴ－９・10号古墳断面図



大塚9・10号　セクション土層解説

Ｋ９－Ｌ９－ｍ９－ｎ９
１層　　耕作土
２層　黒色土　耕作土が含まれる。
３層　黒色土　黒色土，ブロックがありかたい。
４層　黒色土　ローム砂が混入。
５層　黒色土　黒色土＋砂＋褐色土　砂が多く含まれる。
６層　黒色土　３層より，灰色に近く，黒色のブロックが混入，かたい，土層になっている。
７層　黒色土　ローム粒子を含む。かたい。
８層　黒色土　ローム粒子を含む。７層よりやや多く含む。
９層　黄褐色　(暗)ローム粒子及びロームブロックを含む。砂が多く含まれている。
10層　黒色土　砂を多く含む。ローム粒子混入。きめはこまかである。
11層　褐色　　黒色土が混入している。ローム粒子あり。
12層　褐色　　黒色土を含む。11層よりやや黄褐色の量は少ない。
13層　褐色　　ロームブロック混入
14層　ローム粒子を混入　所々に砂黒色土が混じる。
15層　褐色
16層　黄褐色土　ロームブロック及びローム粒子が混入する＋砂砂
17層　褐色　　ロームブロック混入
18層　褐色

Ｐ９－ｑ９－ｒ９
１層　耕作土
２層　黒色土　耕作土混入
３層　黒褐色　ローム粒子及び黒色土混入
４層　黄褐色　ローム粒子混入＋砂＋小石が混じる。
５層　暗褐色　ロームブロック及びローム粒がまじる。
６層　暗褐色　ロームブロック及びローム粒子が混入。
７層　黒色土　ローム粒子混入，３層より柔かい。
８層　暗褐色　ローム粒子混入＋砂　３層よりかたい。
９層　褐色　　砂及びローム粒子が混入する。
10層　黒色土
11層　黒色土　黒色土のかたいものである。ローム粒子が混入＋砂
12層　黒色土　ローム粒＋砂　11層より茶褐色土の色を呈する。砂を含みゆるい。
13層　黒色土　11層と同様であるが，ややブロック粒子の量が多い。
14層　黒色土　黒色土の中に，ロームブロックが混入。
15層　黒色土　(黄褐色)黒色土＋ローム＋砂　ローム粒子が多量に含まれている。
16層　茶褐色　ロームブロック混入。
17層　　10層より砂及び耕作土が混入している。
18層　黒褐色　ローム粒子が多く含まれている。砂も多い。
19層　黒色土　黒色土のブロックがある。ローム粒子が少量であるが含まれる。
20層　　黒色土＋ローム粒子混入　19層よりやや黄褐色土である
21層　　茶褐色土＋砂。
22層　暗褐色　ロームブロック混入。
23層　暗褐色　砂も多い。
24層　　撹乱層
25層　暗褐色土　砂が多く含まれる。水分が少ない。
26層　暗褐色　ロームブロックが含まれる。少量，こまかい。
27層　暗褐色　大きいロームブロックが混入する。床面たたいてある。
28層　褐色　　ロームブロックが混入。

ｎ２－ｎ３
１層　耕作土
２層　耕作土＋ロームブロック＋黒色土（撹乱）
３層　黒色土
４層　ローム

ｎ３－ｎ４
１層　耕作土
２層　耕作土＋ロームブロック

ｎ４－ｎ５
１層　耕作土
２層　耕作土＋ロームブロック＋黒色土　黒色土の中に耕作土及びロームブロックが混入している。
３層　ｎ５・ｎ６の２層と同様である。
４層　黒色土　黒色土＋ロームブロック　粒子が多量に含まれている。
５層　黒褐色　ローム

ｎ５－ｎ６
１層　耕作土
２層　黒色土＋耕作土＋砂
３層　黒色土
４層　黒色土＋ローム粒子　少量であるが含まれている。
５層　黒色土＋ローム粒子＋砂
６層　黒色土＋ローム粒子＋砂５層より水分が含まれている。
７層　黒色土＋ロームブロック，粒子が多量に含まれている。
８層　黒褐色　ローム
９層　暗褐色　ローム
10層　　ブロックによる床ばり。

ｎ６－ｎ７
１層　耕作土
２層　ｎ５－ｎ６の黒色土よりやや黒色土は暗い色であらわされる。

ｎ７－ｎ８
12層　耕作土＋黒色土　ロームの中に焼土が含まれる。
13層　黒色土の中にロームブロックが混入している。
14層　暗褐色　ローム＋黒色土＋砂
15層　黒色土＋砂＋ローム粒子＋ロームブロックを含む。ところどころに黒色土のブロック状のものがある。
16層　14層と同様。
17層　ハードローム

ｎ８－ｎ９
１層　耕作土
２層　ローム

ｎ９－ｎ10
１層　耕作土
２層　ローム
３層　ロームに粘土が混じる。

ｎ10－ｎ11－ｎ12
１層　耕作土
２層　黒色土＋耕作土混入＋砂
３層　黒色土（砂が混る）
４層　黒色土に黒色土のブロック混入
５層　黒色土にローム粒子が混入
６層　黒色土＋ローム粒子が多く含まれ，黒褐色を呈す。
７層　黒色土＋ローム粒子が混り，黒色土のブロックの凝まりがある。
８層　茶褐色土であり，黒色土が少量混入する。ローム粒子が多く含まれる　砂あり
９層　黒色土＋ロームが混入し８層と同じ。
10層　暗褐色土＋砂
11層　暗褐色土＋砂＋ロームブロック　少量であるが混入。
12層　暗褐色＋ロームブロックが多量に混入，＋砂。
13層　褐色＋砂＋ロームブロック
14層　褐色＋砂＋ロームブロック　13層よりややロームブロックが少ない。
15層　褐色＋砂＋ロームブロック
16層　褐色土の中に黒色土及びローム粒子が含まれる。
17層　耕作土＋黒色土の混入
18層　褐色土であるが，ところどころに木の根の撹乱層がみられる。
19層　黒色土　ローム粒子が混入，砂，小さいつぶの小石が混入，７層よりやや砂，ローム粒子が多い。
20層　褐色土＋黒色土＋ローム粒子＋小石。
21層　褐色土

ｉ５－ｊ５－ｋ５
１層　耕作土
２層　黒色土
３層　黒色土＋黒色土のブロック状のものが多量にある（凝い）
４層　黒色土＋黒色土のブロックあり，ローム粒子が含まれていて３層よりやや灰色をおびている，＋砂
５層　黒色土＋黒色土のブロックあり，ローム粒子が含まれていて，３層よりやや灰色をおびている，＋砂
６層　黒色土であり，ロームブロックが混入している。
７層　茶褐色　ハードローム
８層　茶褐色　ロームブロック　粒子。
９層　ロームブロック
10層　撹乱
11層　茶褐色（ローム）

ｎ５－ｏ５
１層　耕作土
２層　黒色土
３層　黒色土　ローム粒子が混じる。
４層　黒色土＋ローム粒子　黒色土のブロック状のものが混る。
５層　黒色土・根により撹乱をしている。
６層　黒色土＋ロームブロック，粒子混入。
７層　茶褐色土　ロームブロック混入。
８層　茶褐色土　ロームブロック混入であるが，やや黄褐色に近い。
９層　黄褐色　ロームブロック状のもの及び，ハードロームが含まれている。
10層　ローム（ハードローム）
11層　耕作土＋黒色土の混ったものである。
12層　黒色土

ｏ５－ｐ５
１層　耕作土
２層　黒色土
３層　黒色土であるが表土が含まれている。
４層　黒色土であるが，黒色のブロックを含むものである。色も耕作土の下のとは違い２層よりも黒い。
５層　黒色土であるが，ローム粒子を多量に含んでいる。
６層　黒色土であるが，ローム粒子及びロームブロックを含んでいる。
７層　茶褐色土
８層　黒色土＋耕作土
９層　黒色土の中にロームブロック及びローム粒子を含んでいるが，やや６層より色は暗い。
10層　ロームブロックを含む　茶褐色土のソフトロームである。

ｐ５－ｑ５
11層　黒色土＋ロームブロック＋耕作土　黒色土＋ロームブロック

ｑ５－ｒ５
１層　耕作土

ｎ３－ｏ３
１層　耕作土
２層　ローム
３層　耕作土＋ローム粒子＋黒色土＋砂（茶褐色土）
４層　ローム

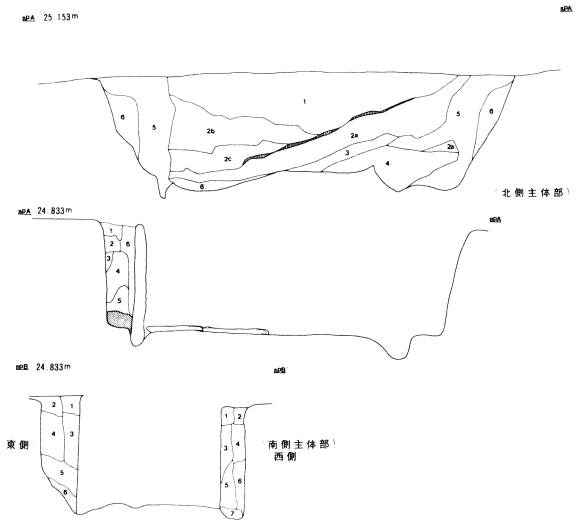
ｐ３－ｑ３
１層　耕作土（撹乱層）
２層　黒色土＋耕作土
３層　根による撹乱層
４層　黒色土　耕作土及び砂を含む。
５層　黒色土　黒色ブロック状のものが含まれている。
６層　黒色土　黒色ブロック状のものが含まれている。
７層　黒色土＋耕作土＋ローム　黒褐色土
８層　茶褐色であり，茶褐色のブロック状のものが多量に含まれている。
９層　黒褐色であり，８層と同様に茶褐色のブロック状のものが多量に含まれている。
10層　黒色土＋ローム粒子＋ロームブロックが半分位づつ含まれている。
11層　黒色土の中にローム粒子が含まれている。
12層　ハードローム
13層　ソフトローム
14層　茶褐色　ロームブロックが含まれている。
15層　ソフトローム
16層　黒色土であり，ローム ブロックおよび粒子が含まれている。
17層　ハードローム

ｑ３－ｒ３
１層　耕作土

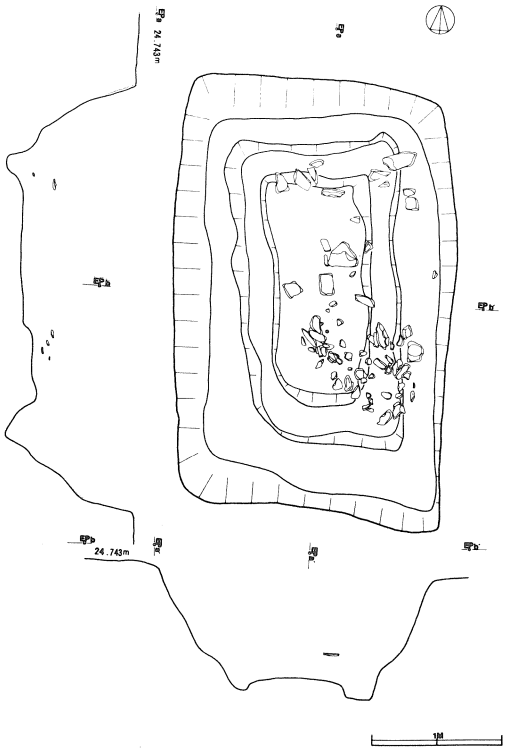
ｌ５－ｌ６
１層　耕作土
２層　ローム

ｌ６－ｌ７
１層　耕作土
２層　黒色土＋砂＋ローム粒子を含む
３層　ローム＋黒色土＋砂　茶褐色土
４層　黒褐色土　黒色＋ローム＋砂
５層　黒色土＋ローム粒子＋ロームブロック　黒褐色土
６層　ロームブロック＋黒色土＋砂　黄褐色
７層　ロームブロック＋ハードローム　茶褐色　やや明るい
８層　耕作土＋ローム粒子＋砂　黒色土
９層　黒色土＋ブロック（黒色土）＋砂
10層　黒色土（かたいもの）＋黄色土（ローム粒子）混入。
11層　撹乱（黒褐色土）ローム＋黒色土
12層a　茶褐色　黒色土＋ローム粒子を多く含む。
12層b　12層a よりやや明るい。
13層　黒色土＋砂＋ローム粒子を含む。
14層　一部撹乱あり　黒色土＋ロームブロック混入。
15層　黒色土＋耕作土＋砂　黒色土
16層　黒色土＋砂＋ローム粒子を含む。
17層　ロームブロック＋黄褐色土

ｌ７－ｌ８
１層　耕作土



第 135図　ＪＯＴ－10号古墳北・南側主体部断面図



大塚10号墳　ＪＯＴ－10 土層解説

Ａ－Ａ′（北側主体部）

１層	褐色土	ローム小ブロック混り
２層a	黒褐色土	部分的にロームブロック　粘土混り
２層b	黒褐色土	部分的にロームブロック含む，しまり粘性あり
２層c	黒褐色土	部分的にロームブロック、粘土ブロック含む，２層b よりしまり粘性なくボロボロとした感じ。
３層		２層c と同類であるが，上部にロームブロック、底部に粘土ブロック，緑泥片岩片を含む。
４層	暗褐色土	ローム多量に混入，粘土混り。
５層		ロームブロック，しまりなし。
６層		ハードローム。

Ａ－Ａ′（南側主体部）

１層	暗褐色土	しまりの悪い，攪乱。
２層		ロームブロック，攪乱
３層	暗褐色土	やわらかい。
４層	褐色土	ロームブロック混入，ロームブロックの粒はかたい，しまっている。
５層		ロームブロック混入，しまっている。
６層	褐色土	２層よりやや暗いものであり，ロームブロックが多く含まれる。

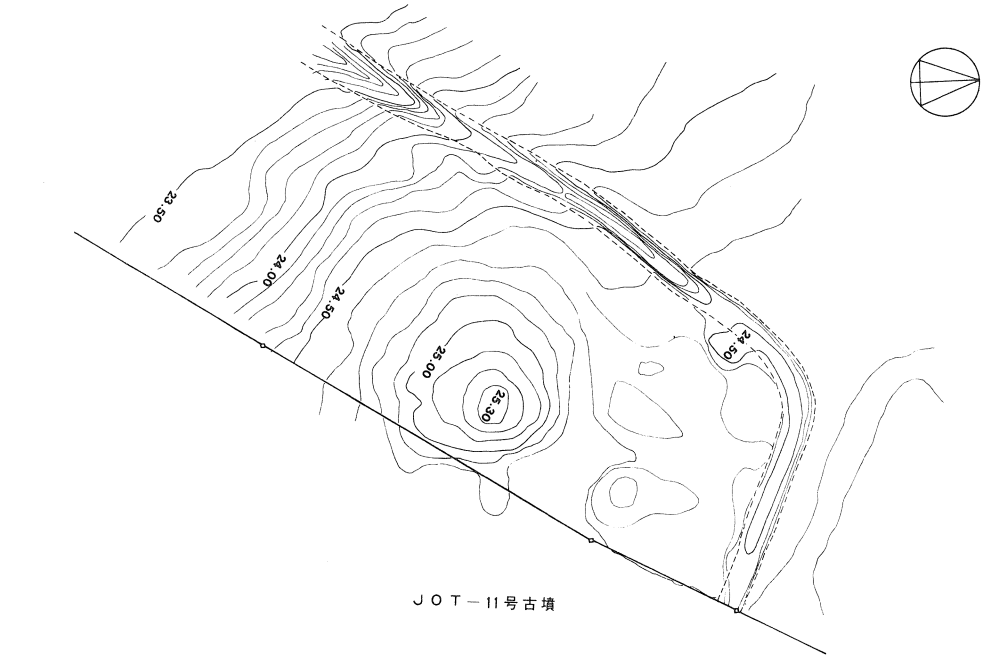
Ｂ－Ｂ′　〈東側〉

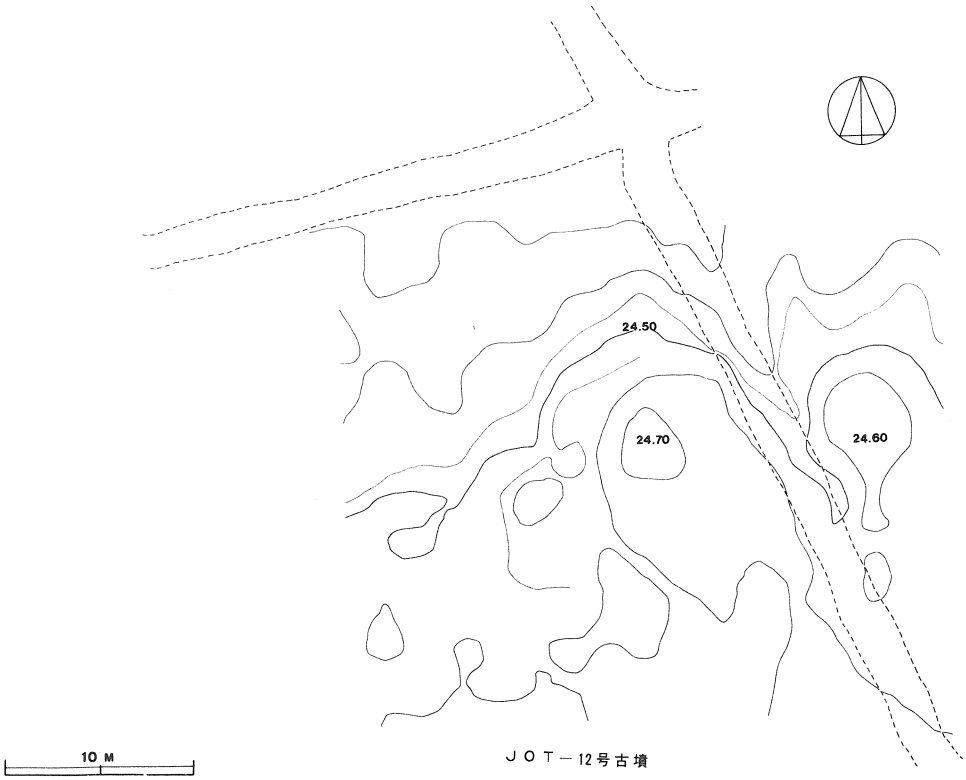
１層	攪乱ボソボソ。
２層	しまりのよわい。
３層	ロームブロックと石片を含む，しまりつよい。
４層	しまりややつよい。
５層	ロームブロックを多く含む。
６層	ソフトローム，ロームブロック混入。

〈西側〉

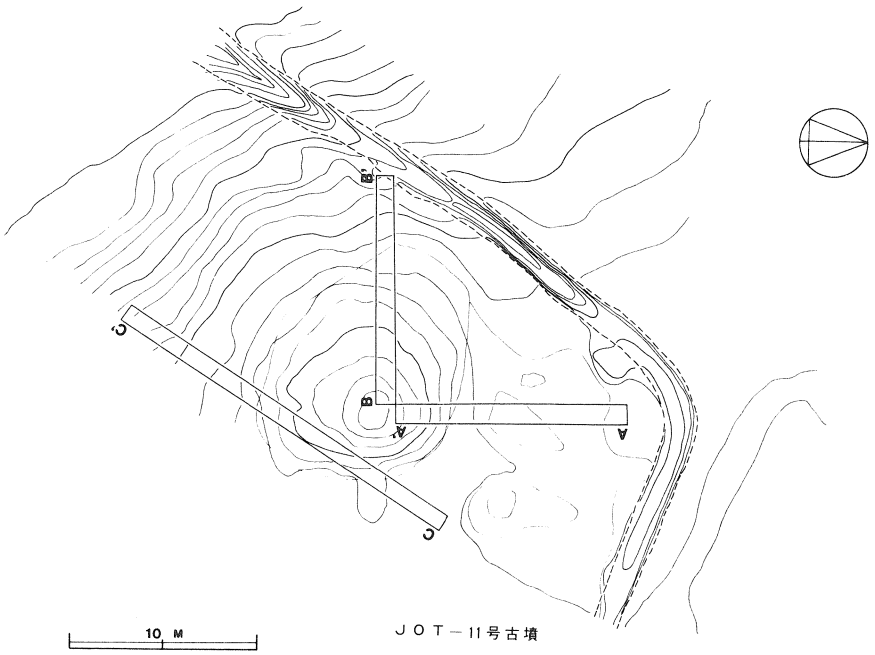
１層	ねばりのある，ややあかるい。
２層	非常にしまりのつよい，かたい。
３層	しまりややつよい。
４層	色がやや暗いかんじでしまりは，ややつよい。
５層	しまりややつよい。
６層	しまりつよい，ロームブロックと石片を含む。
７層	ロームブロック（３cm～５cm）やわらかい。

第 136図　ＪＯＴ－10号古墳北側主体部実測図

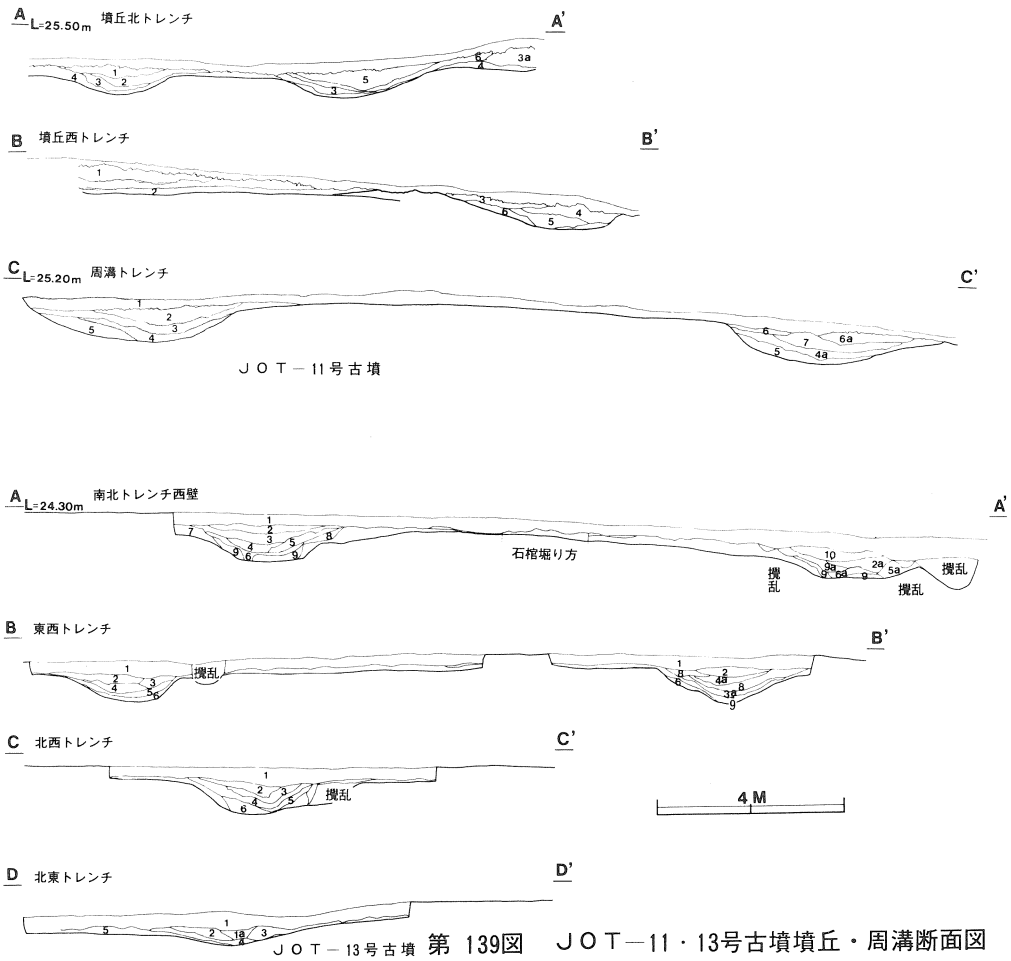




第137図　ＪＯＴ－11・12号古墳墳丘実測図



第138図　ＪＯＴ－11・12号古墳トレンチ配置図



第 139図　JOT－11・13号古墳墳丘・周溝断面図

JOT －11　墳丘周溝トレンチ土層解説

A 1．Hue 7.5YR 3/3　極暗褐色
2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色ローム粒混
3．Hue 7.5YR 4/4　褐色ローム混，しまりあり
3a Hue 7.5YR 4/4　褐色しまりない
4．Hue 7.5YR 5/6　明褐色ローム層
5．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色かたくもろい，ローム少混
6．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色ローム混，しまりあり

B 1．Hue 7.5YR 4/6　褐色ロームブロック少混
2．Hue 7.5YR 4/6　褐色しまっている
3．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色旧表土層しまりある
4．Hue 7.5YR 4/4　褐色しまりない
5．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色かたくもろい
6．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色しまっている ローム粒多混

C 1．Hue 7.5YR 4/4　褐色
2．Hue 7.5YR 3/1　黒色かたくしまっている
3．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色しまっている
4．Hue 7.5YR 4/3　褐色ほぼローム
4a Hue 7.5YR 4/3　ローム粒混
5．Hue 7.5YR 4/6　褐色ローム
6．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色ローム粒混
6a Hue 7.5YR 3/4　しまりない黒色混
7．Hue 7.5YR 3/3　極暗褐色かたくもろい ローム粒少混

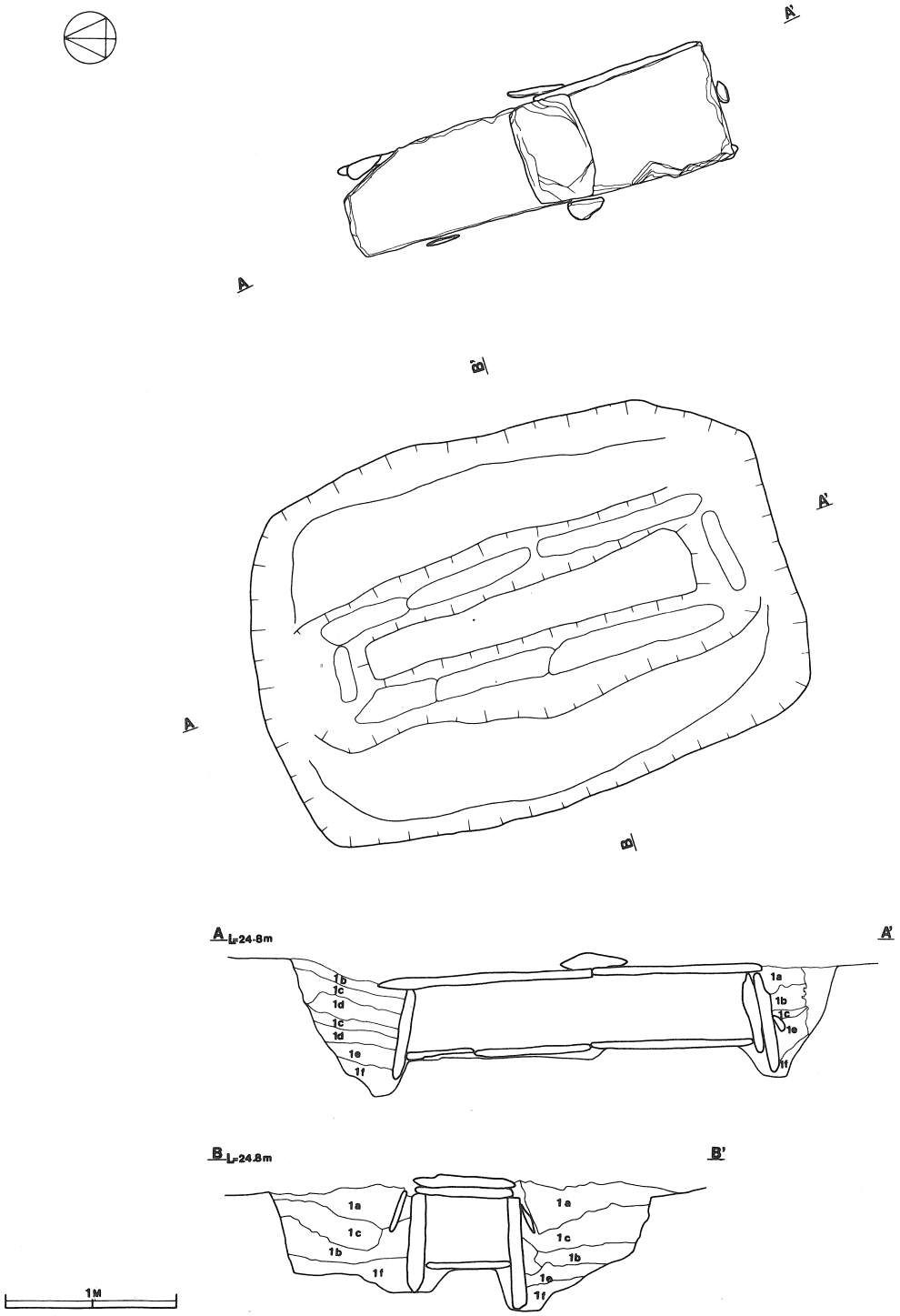
JOT －13　周溝トレンチ土層解説

A 1．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色
2．Hue 7.5YR 3/1　固くてもろい　2a 3/1 柔かい
3．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色きめ細い
4．Hue 7.5YR 3/3　極暗褐色ローム粒混
5．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色ローム粒混　5a 3/3 柔かいローム粒混
6．Hue 7.5YR 4/4　褐色ローム混　6a 4/4 ローム多混
7．Hue 7.5　ローム
8．Hue 7.5YR 4/3　褐色ローム混　9a 4/3 ローム多混
9．Hue 7.5YR 4/6　褐色ほぼローム
10．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色柔かい

B 1．Hue 7.5YR 3/4　褐色
2．Hue 7.5YR 3/1　黒色固くてしまりがある
3．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色柔かい 3a 7.5YR 3/3 ローム粒多混
4．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　4a 7.5YR 3/2 しまりがある
5．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色ローム多混
6．Hue 7.5YR 4/6　褐色ほぼローム
8．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色
9．Hue 7.5YR 4/4　褐色ローム多混

C 1．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色
2．Hue 7.5YR 3/1　黒色固くしまりがある
3．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色ローム粒少混
4．Hue 7.5YR 3/3　極暗褐色ローム粒混
5．Hue 7.5YR 4/4　褐色ローム粒混
6．Hue 7.5　3/6　ほぼローム

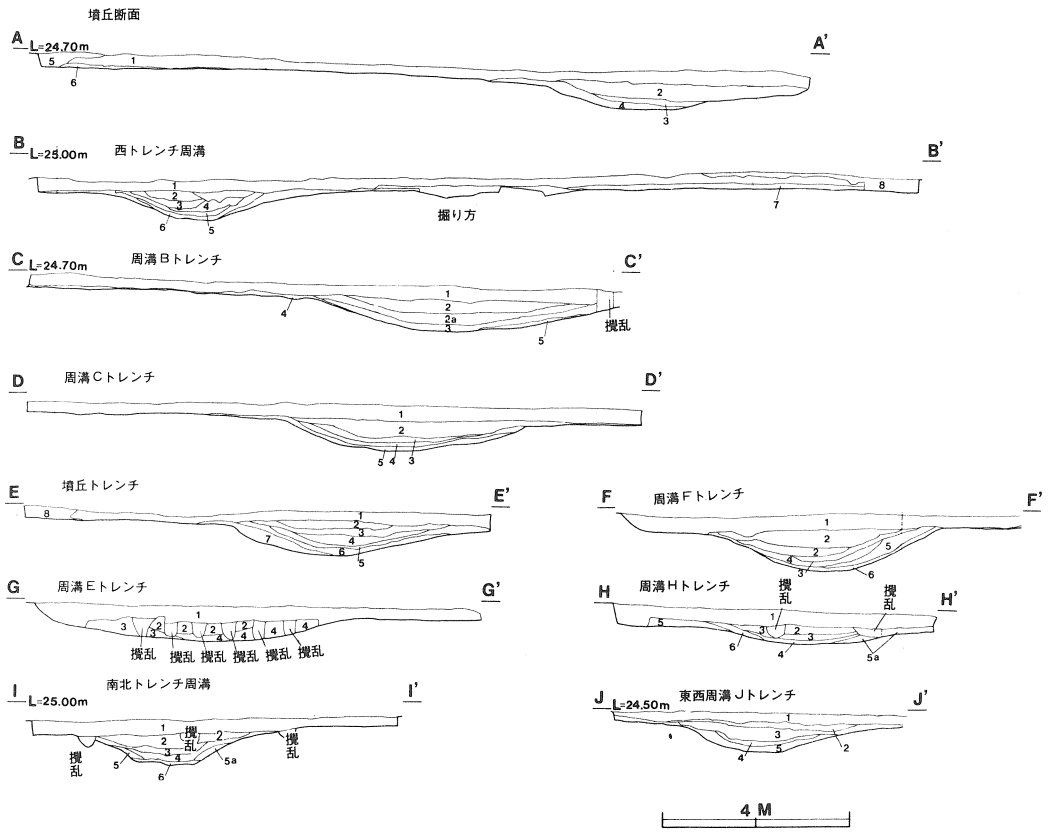
D 1．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色，1a 7.5YR 3/4 特に柔かい
2．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色ローム多混
3．Hue 7.5YR 4/4　褐色ローム多混
4．Hue 7.5YR 4/6　褐色ほぼローム
5．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色



第 140図　ＪＯＴ－11号古墳主体部掘り方実測図

第11号墳土層解説

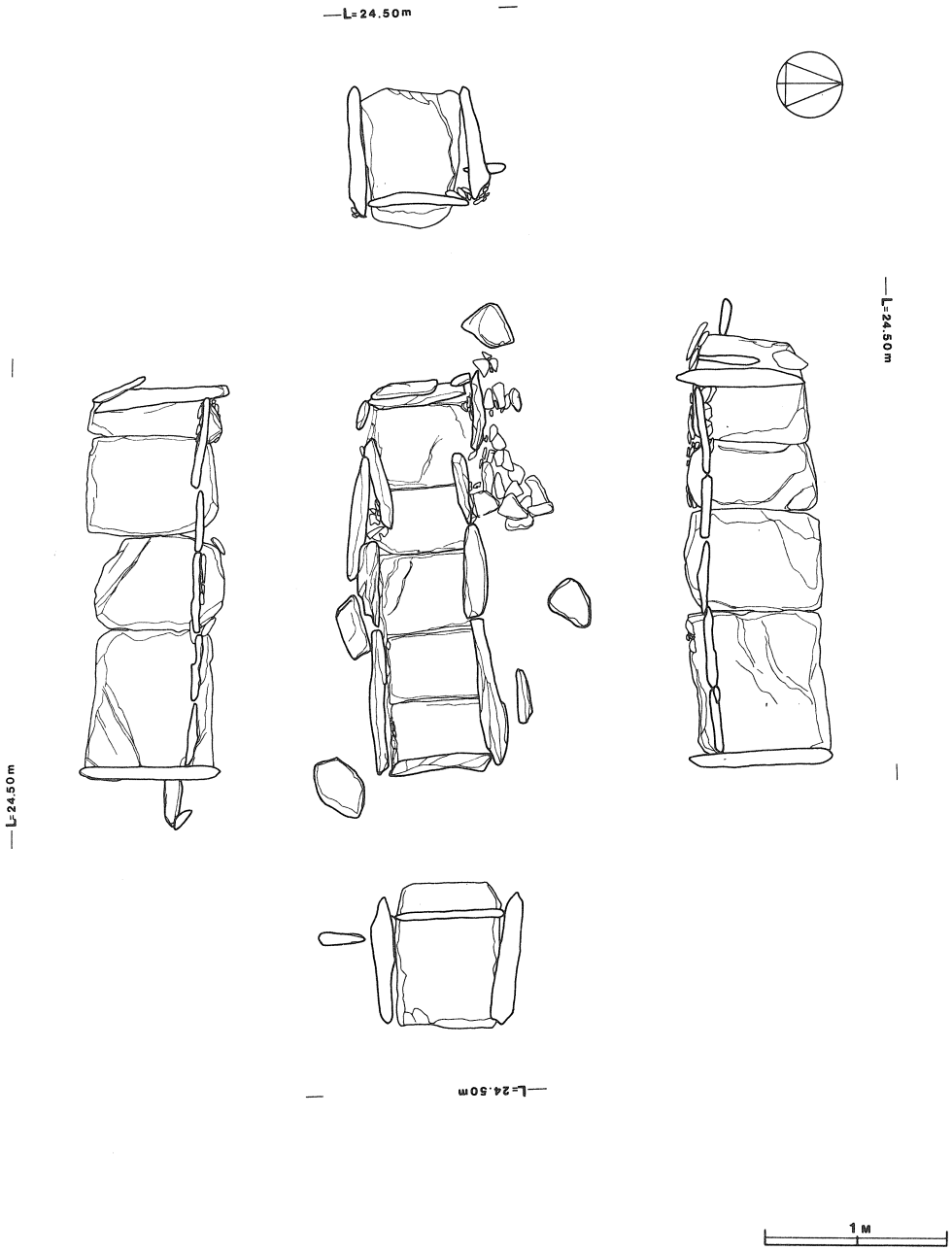
1 a Hue	10YR ⅚	褐色	(やや暗く赤味をおび，しまりがない)
1 b Hue	10YR ⅚	褐色	(やや赤味をおびている)
1 c Hue	10YR ⅚	褐色	(しまりがない)
1 d Hue	10YR ⅚	褐色	(やや暗い)
1 e Hue	10YR ⅚	褐色	(ロームブロックを含み，やや明るい)
1 f Hue	10YR ⅚	褐色	(ロームブロック，小石片を含み，やや明るい)



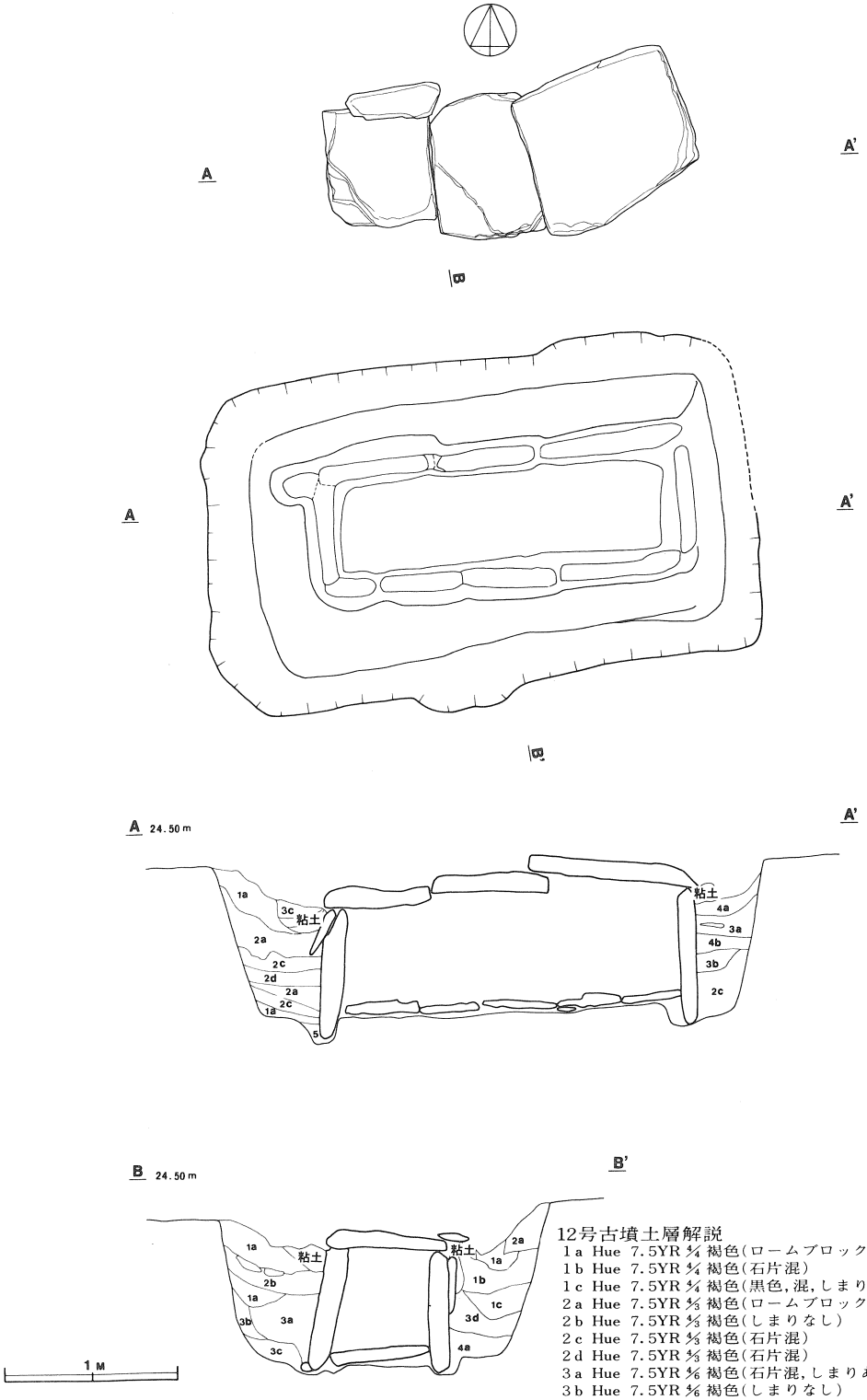
第141図　JOT—12号古墳墳丘・周構断面図

JOT —12　墳丘周構トレンチ，土層解説

A 1．Hue 7.5YR 3/3　褐色　少量のローム粒子含，しまりをおびている。
2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　少量のローム粒子含，しまりをおびている。
3．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　多量のローム粒子含，しまりをおび粘性強い
4．Hue 7.5YR 5/6 明褐色　しまりをおび粘性強い，ローム主体である
5．Hue 7.5YR 3/4　褐色　多量のローム粒子含，しまりをおびている
6．Hue 7.5YR 3/6　褐色少量のロームブロック含み,さらさらしている
B 1．Hue 7.5YR 3/3　褐色
2．Hue 7.5YR 2/1　黒色　固くしまっている
3．Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　ローム粒子少混
4．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム粒混
5．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム混
6．Hue 7.5YR 3/6　褐色　ほぼローム
7．Hue 7.5YR 3/3　ややまばらな旧表黒色
8．Hue 7.5YR 5/8　白色　粘土砂礫混りロームブロック混
C 1．Hue 7.5YR 3/3　褐色　少量のローム粒子含
2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　少量のローム粒子含，しまりをおびている。粘性は弱い
2a Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　多量のローム粒子含，しまりをおび粘性も強い
3．Hse 7.5YR 5/6　明褐色　多量のローム粒子含，しまりをおび粘性強い
4．Hue 7.5YR 3/4　褐色　少量のローム粒子含，粘性強い
5．Hue　ローム層
D 1．Hue 7.5YR 3/3　褐色　多量のローム粒子含，しまりをおびている
2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ローム粒子含しまりをおびている
3．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　多量のローム粒子含，しまりをおび粘性強い
4．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　多量のローム粒子含，しまりをおび粘性強い
5．Hue 7.5YR 5/6　明褐色　しまりをおび粘性強い
E 1．Hue 7.5YR 3/3　褐色　少量のローム粒子炭化物を含む
2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　多量のローム粒子しまりをおびている
3．Hue 7.5YR 2/1　黒色　しまりをおびている粘性弱い
4．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　多量のローム粒子，しまりをおびている
5．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　少量のローム粒子焼土粒子含しまりをおびている
6．Hue 7.5YR 3/4　褐色　少量のロームブロック含有し，しまりをおびている
7．Hue 7.5YR 5/6　明褐色　ローム主体としている
8．Hue 7.5YR 3/3　褐色　表面に近い方に多量の粘土粒を含有している
F 1．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム粒子・炭化物を含み比較的さらさらしている
2．Hue 7.5YR 2/1　黒色　少量のローム粒子を含む，しまりをおびている，粘性弱い
3．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　多量のローム粒子含，しまりをおびている，粘性強い
4 t Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　少量のローム粒子含，しまりをおびている
5．Hue 7.5YR 3/4　褐色　多量のローム粒子含，しまりをおびている
6．Hue 7.5YR 5/6　明褐色　粘性強い
G 1．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　少量のローム粒子・炭化物・焼土粒子含
2．Hue 7.5YR 3/4　褐色　少量のローム粒子含，粘性強い
3．Hue 7.5YR 3/6　褐色　少量のローム層ブロック含，しまりをおびている
4．Hue 7.5YR 5/6　明褐色　多量のロームブロック含，しまりをおびている
※木の根により撹乱されている
H 1．Hue 7.5YR 3/3　褐色　多量のローム粒子を含，しまりをおびている
2．Hue 7.5YR 2/1　黒色　少量のローム粒子含，しまりをびている
3．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　少量のローム粒子含，しまりをおびている
4．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　粘性弱い
5．Hue 7.5YR 5/6　明褐色　しまりをおびており粘性強い
5a Hue 7.5YR 5/6　明褐色　しまりをおびている，ローム主体の土層である
6．Hue 7.5YR 3/4　褐色　しまりをおびており粘性も弱い
※全体的に木の根によりひどく撹乱されている
I 1．Hue 7.5YR 3/3　褐色
2．Hue 7.5YR 2/1　黒色　固くしまっている
3．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ローム粒少混
4．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム少混
5．Hue 7.5YR 3/4　きわめてしまっている，5a 3/4ほとんどしまりがない
6．Hue 7.5YR 5/6　ほぼローム
J 1．Hue 7.5YR 3/3　褐色　表土層
2．Hue 7.5YR 3/4　褐色　黒色ややしまっている
3．Hue 7.5YR 2/1 黒色　かたくしまる
4．Hue 7.5YR 3/2 黒褐色　ローム粒混
5．Hue 7.5YR 3/4　褐色　ローム混



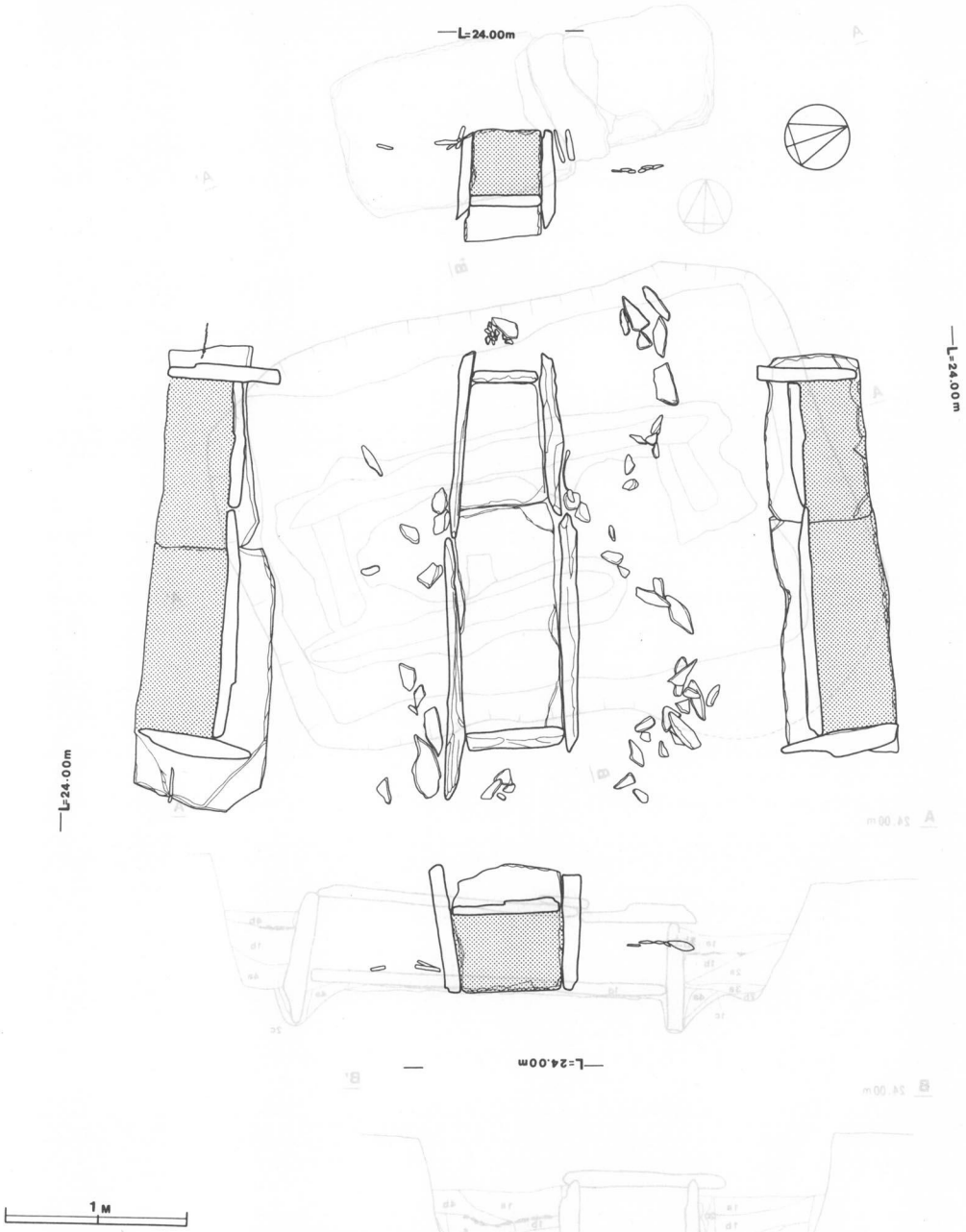
第 142 図　　ＪＯＴ－12号古墳石棺展開図



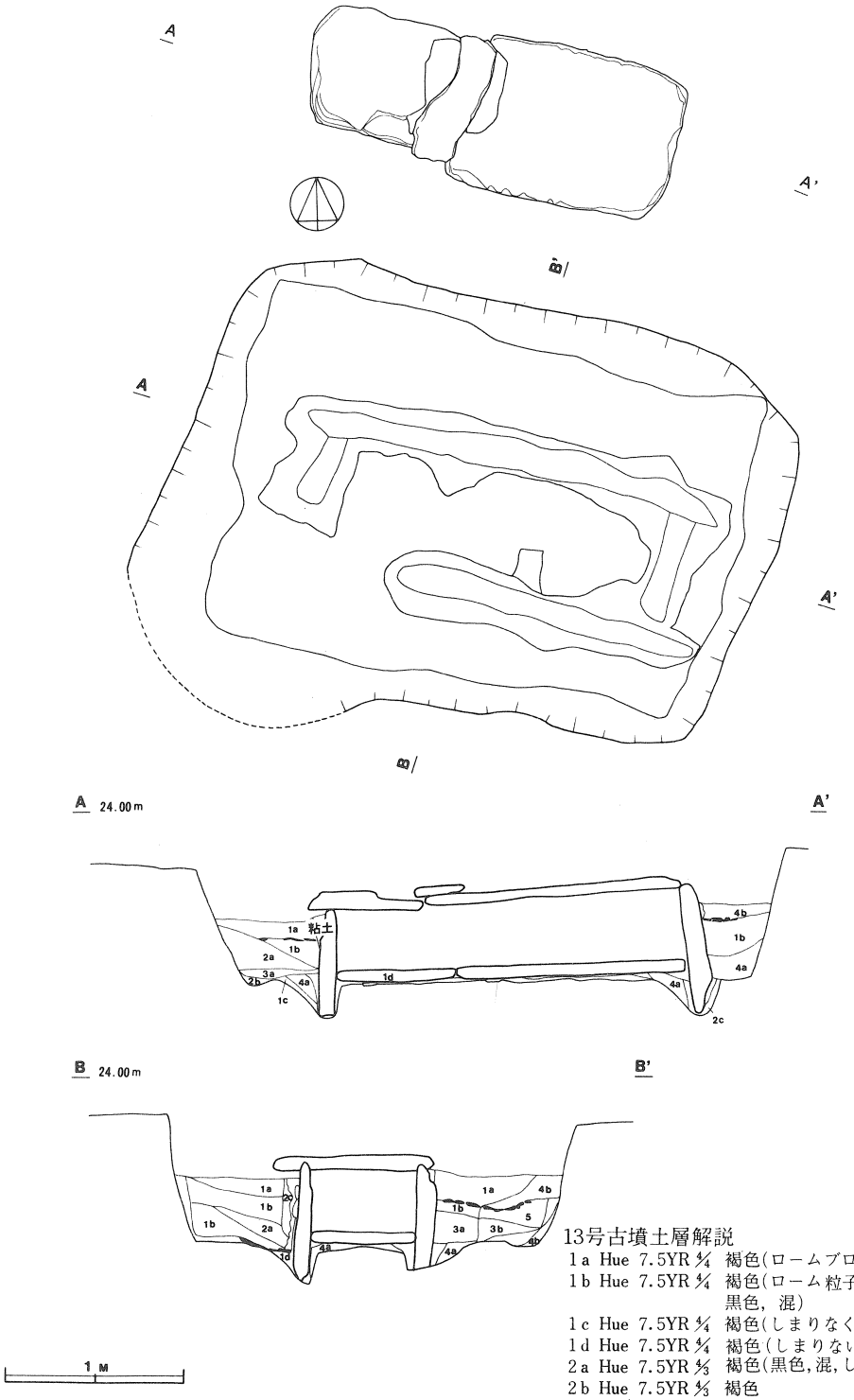
12号古墳土層解説

1a Hue 7.5YR 4/4 褐色(ロームブロック混)
1b Hue 7.5YR 4/4 褐色(石片混)
1c Hue 7.5YR 4/4 褐色(黒色,混,しまりなし)
2a Hue 7.5YR 4/3 褐色(ロームブロック, 混)
2b Hue 7.5YR 4/3 褐色(しまりなし)
2c Hue 7.5YR 4/3 褐色(石片混)
2d Hue 7.5YR 4/3 褐色(石片混)
3a Hue 7.5YR 5/6 褐色(石片混,しまりある)
3b Hue 7.5YR 5/6 褐色(しまりなし)
3c Hue 7.5YR 5/6 褐色(しまっている)
3d Hue 7.5YR 5/6 褐色
4a Hue 7.5YR 5/6 明褐色(ロームブロック,しまりある)
4b Hue 7.5YR 5/6 明褐色
5. Hue 7.5YR 5/6 褐色

第143図　ＪＯＴ－12号古墳主体部掘り方実測図



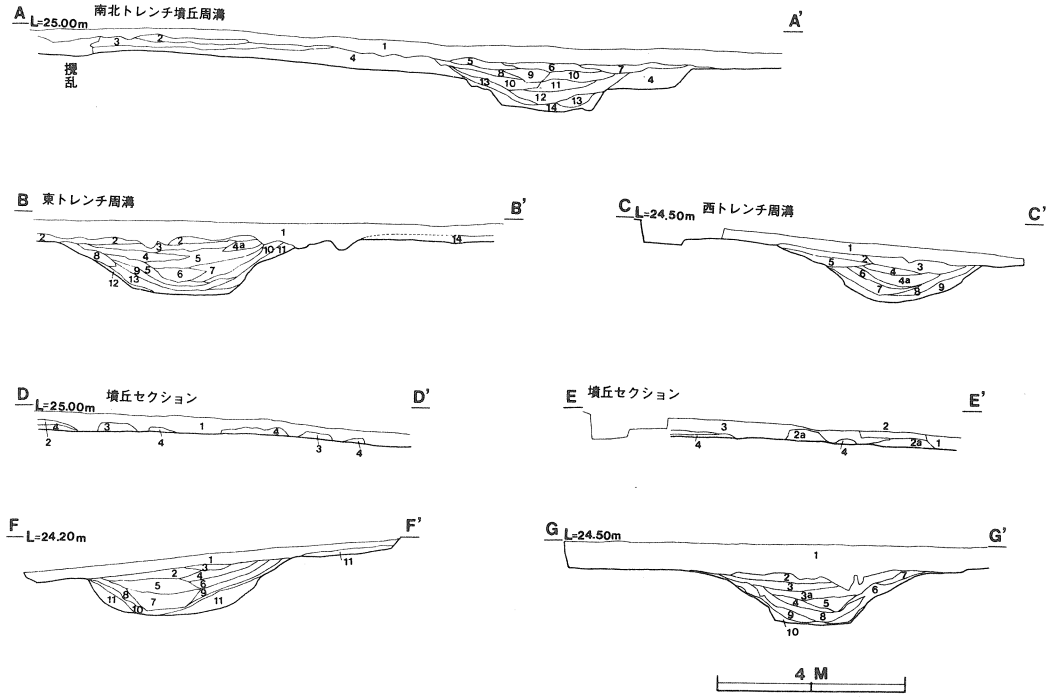
第 144 図　ＪＯＴ－13号古墳石棺展開図



13号古墳土層解説

1a Hue 7.5YR 4/4 褐色(ロームブロック，混)
1b Hue 7.5YR 4/4 褐色(ローム粒子やや多し,石片,黒色，混)
1c Hue 7.5YR 4/4 褐色(しまりなく，石片，粘土，混)
1d Hue 7.5YR 4/4 褐色(しまりない)
2a Hue 7.5YR 4/3 褐色(黒色,混,しまっている)
2b Hue 7.5YR 4/3 褐色
2c Hue 7.5YR 4/3 褐色(しまりなし)
3a Hue 7.5YR 3/3 暗褐(粘土，黒色，石混)
3b Hue 7.5YR 3/3 暗褐色
4a Hue 7.5YR 4/6 褐色(しまりある)
4b Hue 7.5YR 4/6 褐色(黒色，ローム粒，混，柔かい)
5. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色

第145図　ＪＯＴ－13号古墳主体部掘り方実測図



第146図　JOT—14号古墳墳丘・周構断面図

JOT —14　墳丘周溝トレンチ土層解説

A 1. Hue 7.5YR 5/3 褐色
2. Hue 7.5YR 5/4 褐色 ローム多混土盛
3. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色
4. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色 ローム
5. Hue 7.5YR 5/3 褐色
6. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 固くしまっている
7. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
8. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム混粗粒子で特に粒子が多い
9. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム粒混
10. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色固い
11. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 ローム粒混
12. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色 ローム混粗粒子で特に粒子が多い
13. Hue 7.5YR 4/4 褐色 ローム多混
14. Hue 7.5YR 4/6 褐色 ほぼローム

B 1. Hue 7.5YR 4/3 褐色
2. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色黒色混
3. Hue 7.5YR 2/1 黒色 固くしまっている
4. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色
4a Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色 やわらかい
5. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 粒子混
5a Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
6. Hue 7.5YR 2/1 黒色 ローム粒混
7. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色 粒子多混
8. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム多混
9. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム多混
10. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム多混
11. Hue 7.5YR 4/3 褐色 ローム多混
12. Hue 7.5YR 4/6 褐色 ほぼローム
13. Hue 7.5YR 4/4 褐色 ローム多混しまっている
14. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色

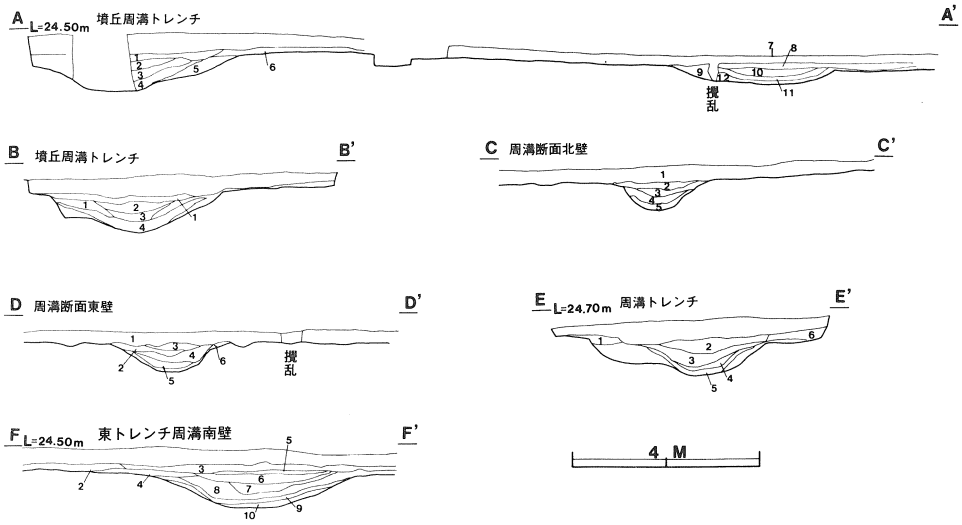
C 1. Hue 7.5YR 4/3 褐色
2. Hue 7.5YR 4/4 褐色 ローム多混
3. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 固くしまっている
4. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色 ローム粒混
4a Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム粒混柔かい
5. Hue 7.5YR 4/3 褐色 固い
6. Hue 7.5YR 4/3 暗褐色 固い
7. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 固い
8. Hue 7.5YR 5/4 褐色 ローム混
9. Hue 7.5YR 4/6 褐色 ほぼローム混

D 1. Hue 10YR 3/2 黒褐色 柔かい，表土および撹乱
2. Hue 10YR 2/3 黒褐色 旧表固くしまっている
3. Hue 10YR 3/4 暗褐色 焼土粒混
4. Hue 10YR 4/6 褐色 ローム

E 1. Hue 10YR 3/2 黒褐色 表土層および撹乱柔かい
2. Hue 10YR 3/4 暗褐色 しまっている
2a Hue 10YR 3/4 暗褐色
3. Hue 10YR 2/3 黒褐色 旧表土しまっている
4. Hue 10YR 4/6 褐色 ローム

F 1. Hue 10YR 4/4 褐色 1′ 4/4ローム粒子多混
2. Hue 10YR 2/1 黒色固 くしまっている
3. Hue 10YR 4/3 にぶい黄褐色 固い
4. Hue 10YR 3/4 暗褐色 ローム粒子多混
5. Hue 10YR 3/2 黒褐色 ローム粒子多混
6. Hue 10YR 3/2 黒褐色 しまっている
7. Hue 10YR 3/3 暗褐色 ローム粒多混
8. Hue 10YR 3/4
9. Hue 10YR 4/3 にぶい黄褐色 ローム粒混
10. Hue 10YR 3/3 暗褐色 ローム粒混
11. Hue 10YR 4/6 褐色 ほぼローム

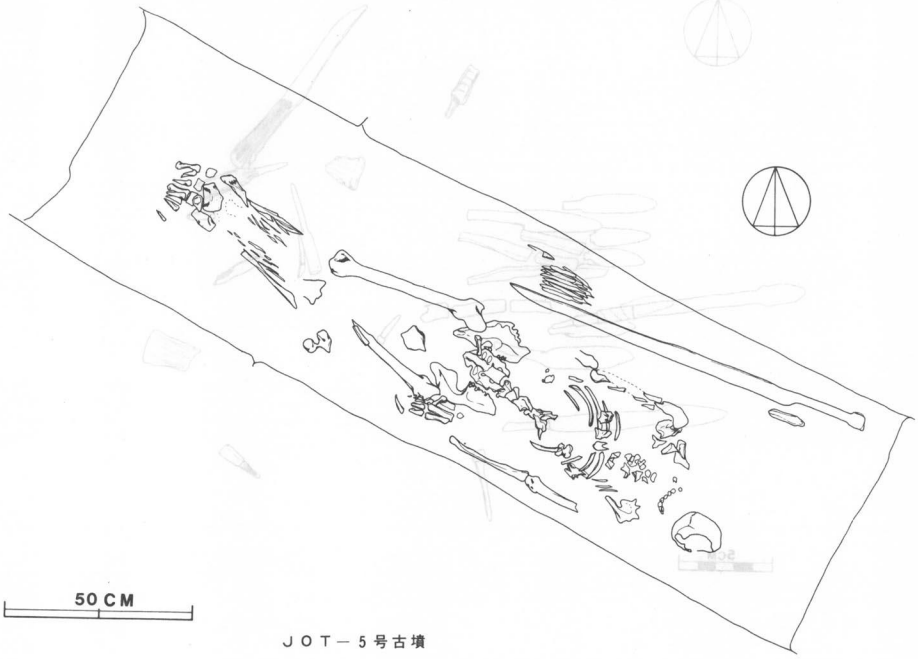
G 1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム粒混柔かい
2. Hue 7.5YR 2/1 黒色 黒色固い
3. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 ローム粒混，黒色
3a Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 ローム粒混，固い黒色
4. Hue 7.5YR 2/1 黒色 ロームを含みしまっている
5. Hue 7.5YR 2/1 ローム粒多くきめ荒い
6. Hue 7.5YR 3/3 ローム粒黒色混
7. Hue 7.5YR 3/2 ローム粒黒色混
8. Hue 7.5YR 3/2 きめこまかく，しまっている
9. Hue 7.5YR 3/4 ローム混しまっている
10. Hue 7.5YR 5/6 ローム



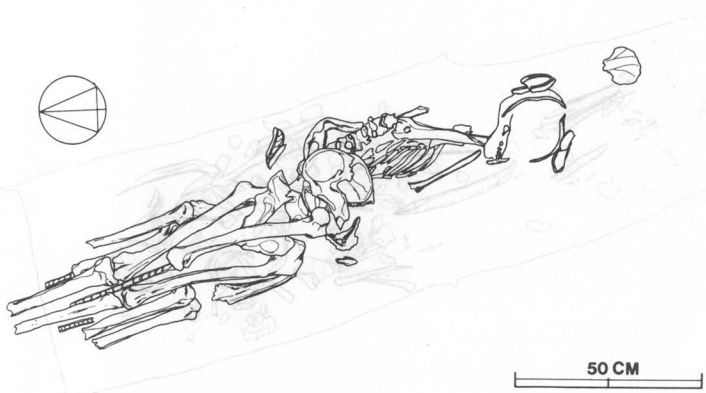
第 147 図　　ＪＯＴ－15号古墳墳丘・周構断面図

JOT －15　墳丘周溝トレンチ土層解説

A 1．Hue 7.5YR 2/2　黒褐色
　2．Hue 7.5YR 3/1　黒褐色
　3．Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　ローム粒混
　4．Hue 7.5YR 4/3　褐色　ローム混
　5．Hue 7.5YR 4/6　褐色　ローム多混
　6．Hue 7.5YR 2/1　黒色　固くしまっている旧表
　7．Hue 7.5YR 4/3　褐色　表土層
　8．Hue 7.5YR 4/4　褐色　固くしまっている
　9．Hue 7.5YR 4/6　褐色　ローム黒色混
　10．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色
　11．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム混
　12．Hue 7.5YR 4/6　暗褐色　ローム混
B 1．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　固くしまっている
　2．Hue 7.5YR 2/1　黒色　固い
　3．Hue 7.5YR 3/1　黒色　やや柔かいローム粒混
　4．Hue 7.5YR 4/4　褐色　ローム多混
C 1．Hue 7.5YR 4/3　褐色
　2．Hue 7.5YR 2/2　黒褐色　固くしまっている
　3．Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色
　4．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色
　5．Hue 7.5YR 4/6　褐色　ロームブロック，黒色混
D 1．Hue 7.5YR 4/3　褐色
　2．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色
　3．Hue 7.5YR 2/2　黒褐色　固くしまっている
　4．Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　ローム粒混
　5．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム粒混
　6．Hue 7.5YR 4/6　褐色　ほぼローム
E 1．Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　旧表
　2．Hue 7.5YR 3/1　黒褐色　やや固い
　3．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　固くしまっている
　4．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色
　5．Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム粒混
　6．Hue 7.5YR 4/3　褐色　しまり多し
F 1．Hue 7.5YR 3/4　黒褐色
　2．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色
　3．Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　しまっている
　4．Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色
　5．Hue 7.5YR 2/2　黒褐色　しまっている
　6．Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　固くしまっている
　7．Hue 7.5YR 2/1　黒色
　8．Hue 7.5YR 2/2　黒褐色　ローム粒混
　9．Hue 7.5YR 4/4　褐色　ローム多混
　10．Hue 7.5YR 4/6　褐色　ほぼローム

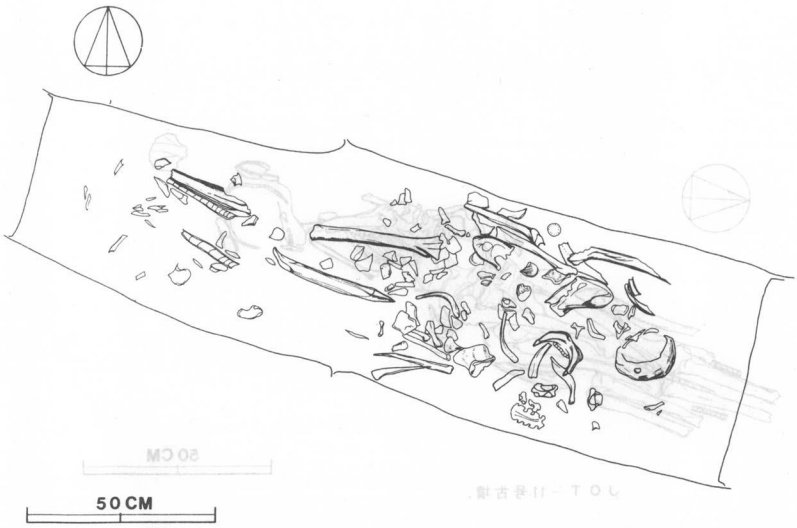


ＪＯＴ－５号古墳

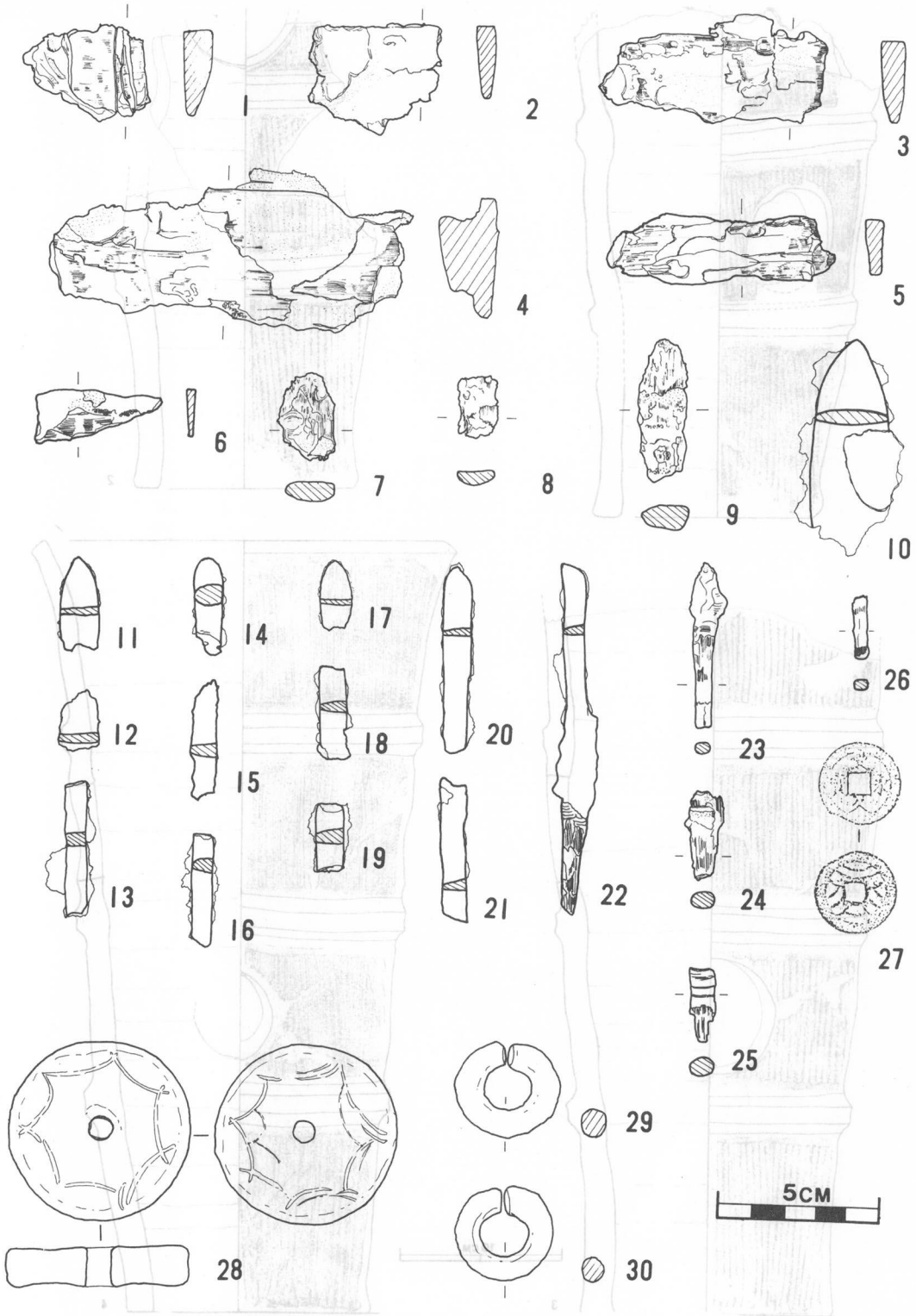


ＪＯＴ－11号古墳

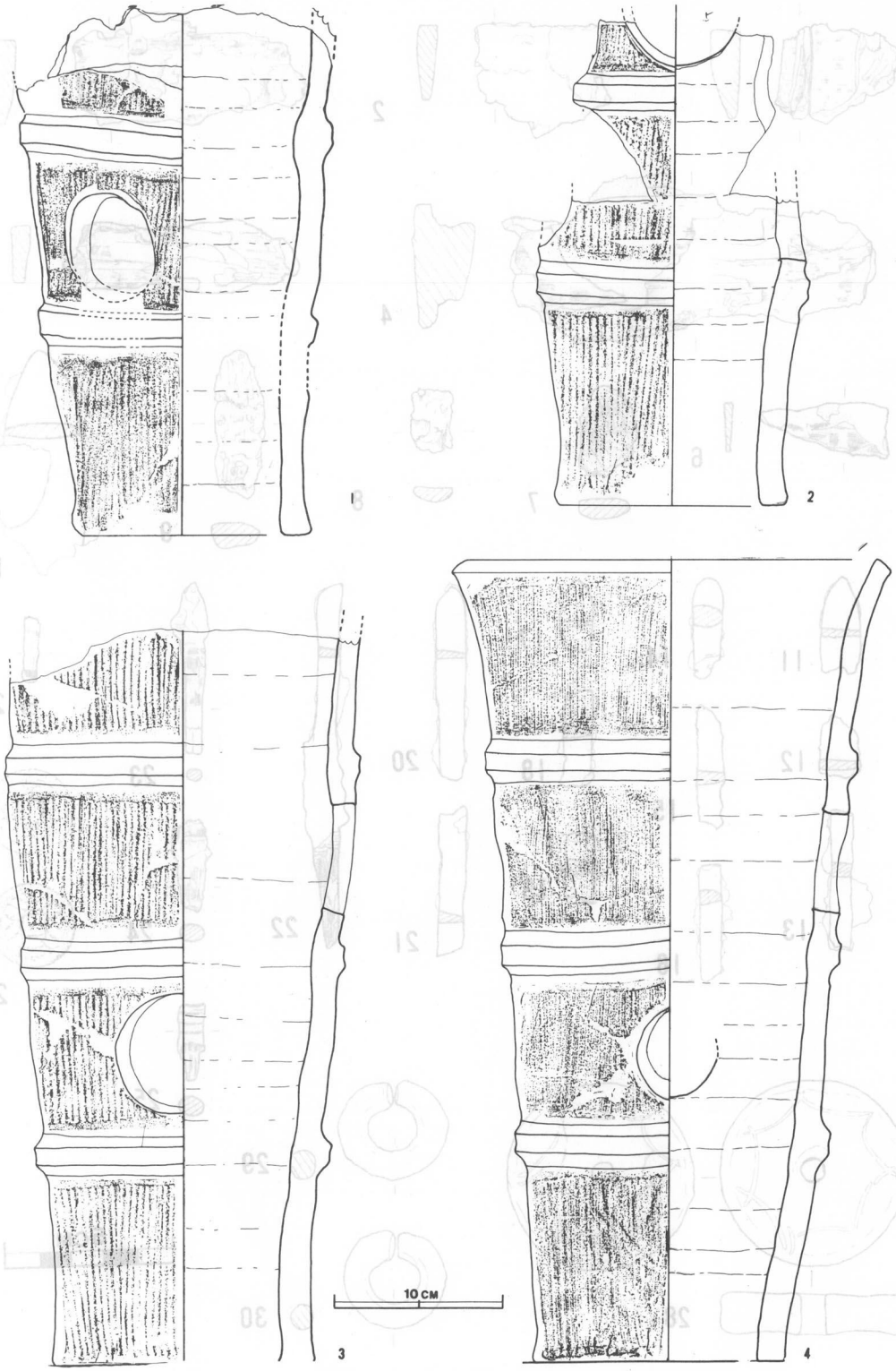
第148図　ＪＯＴ－５・11号古墳石棺内出土遺物



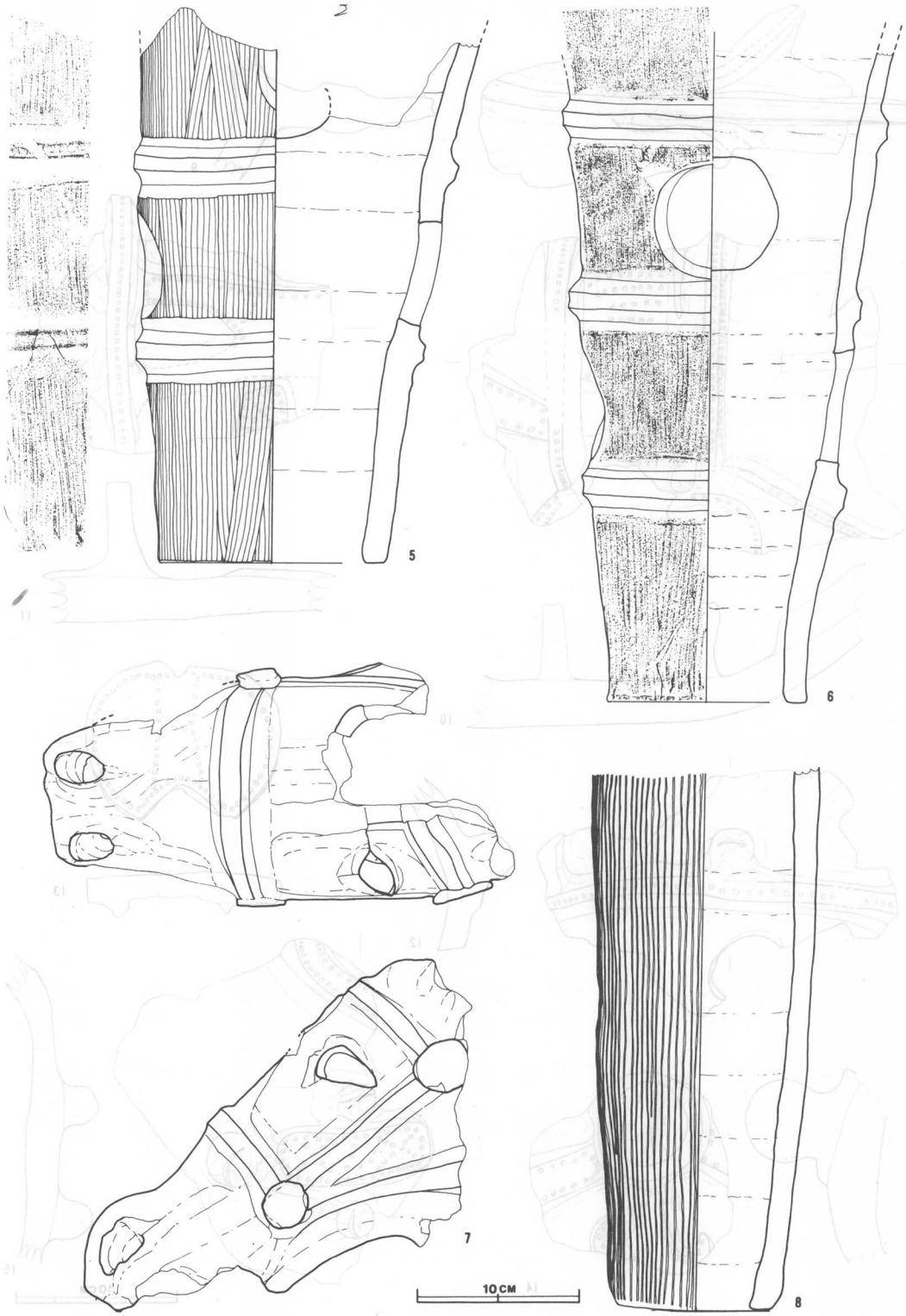
第 149 図　　ＪＯＴ－13号古墳石棺内出土遺物



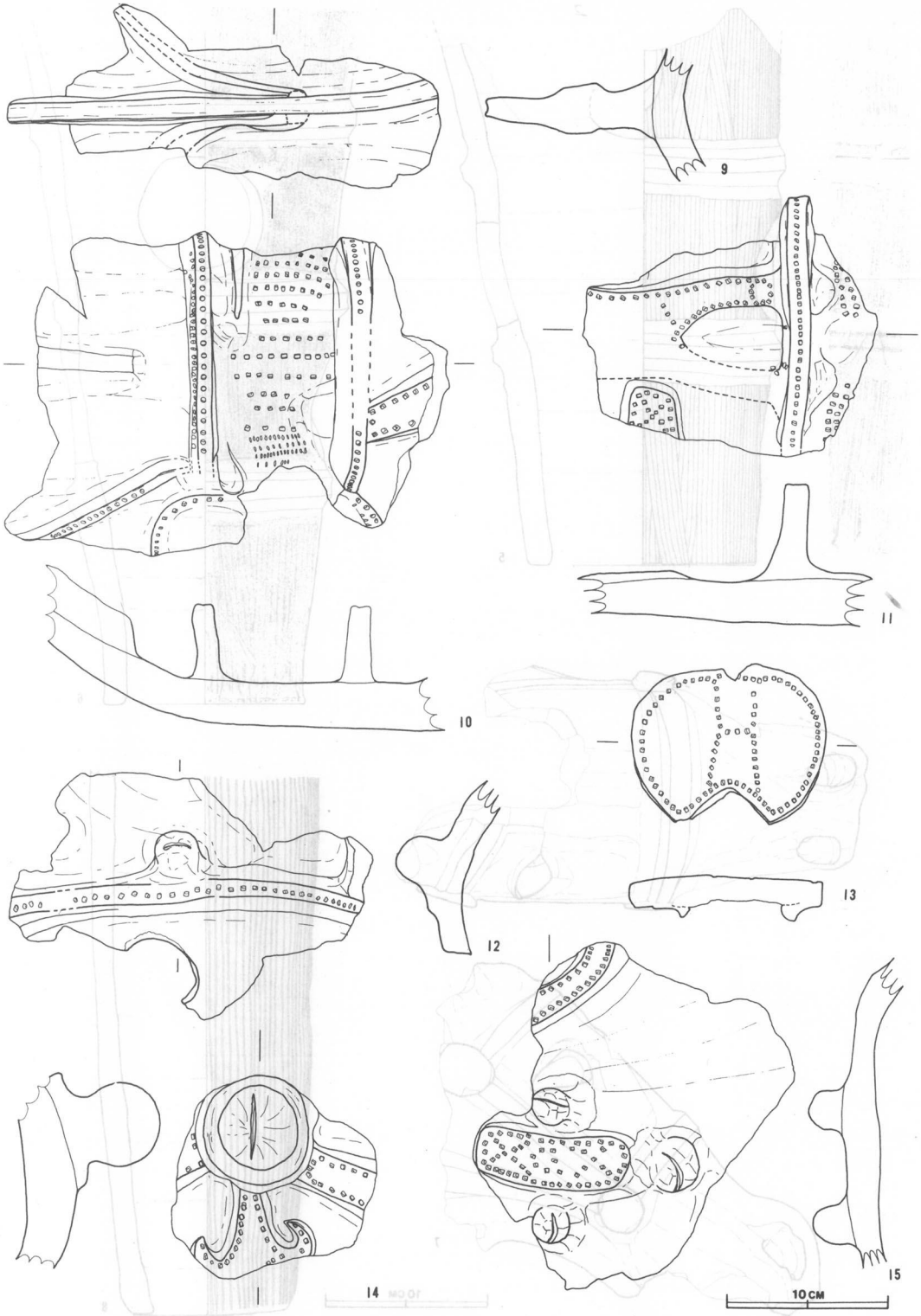
第 150 図　　ＪＯＴ－２号古墳出土遺物



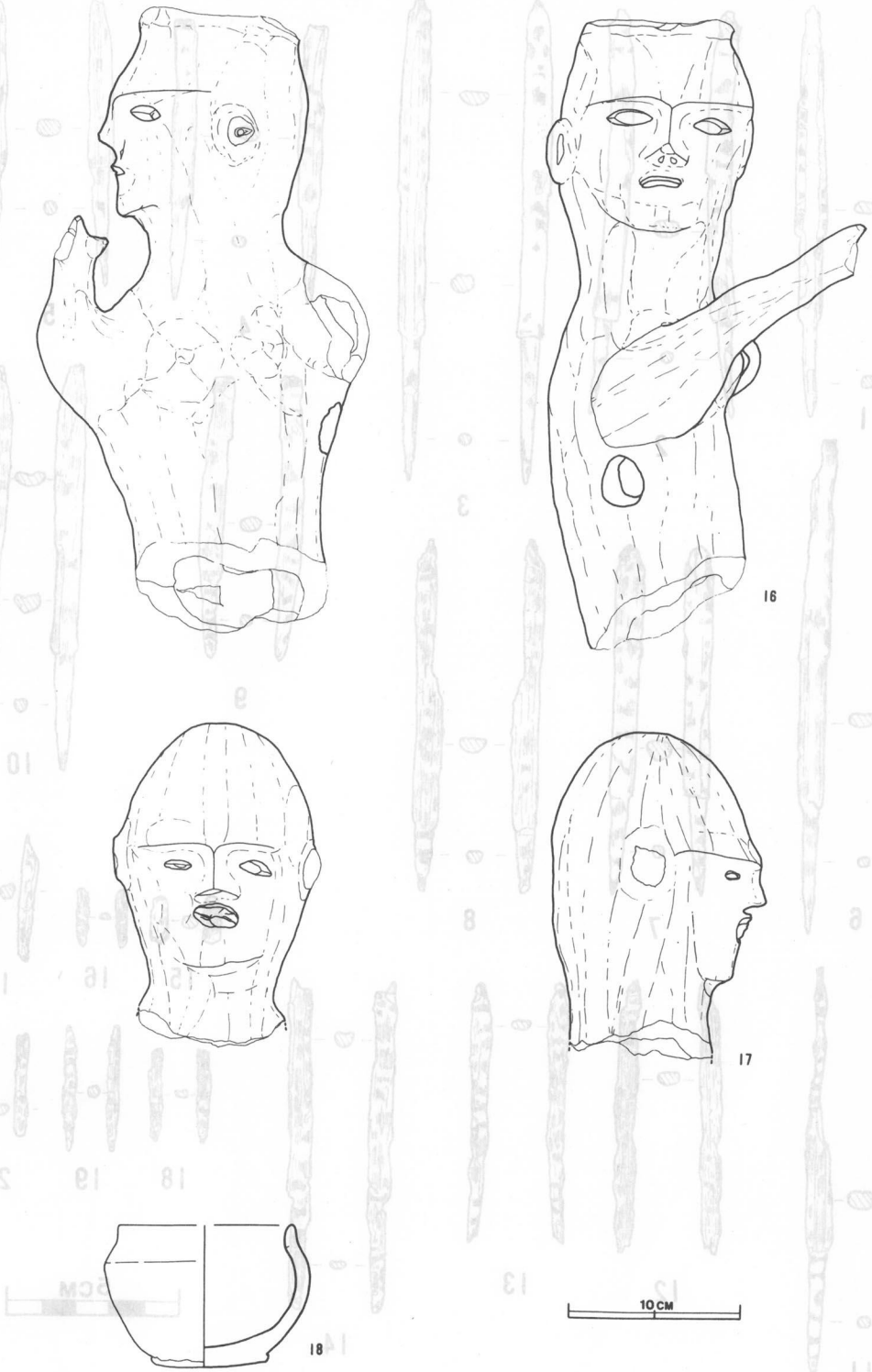
第151図　　JOT－5号古墳出土遺物（1）



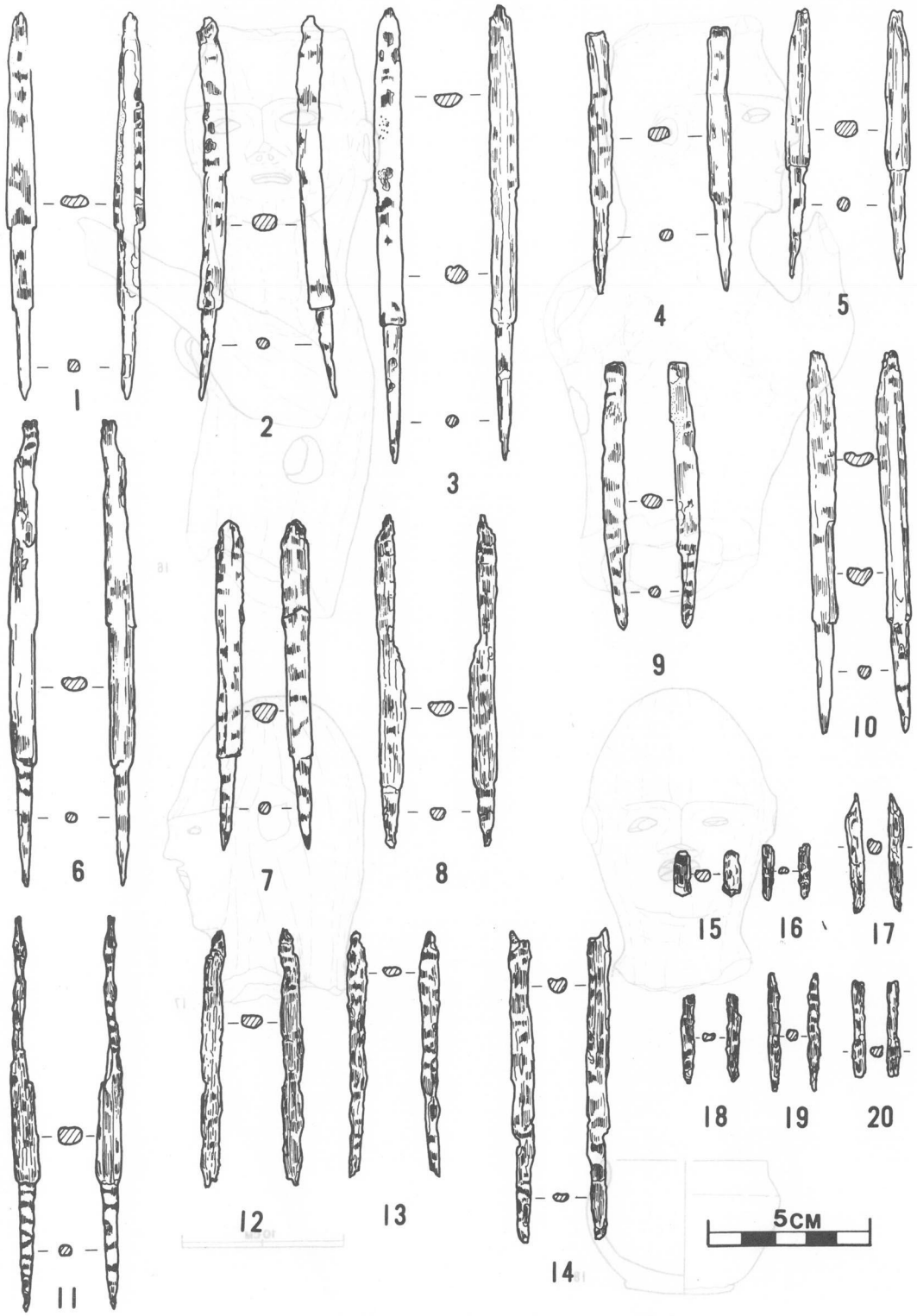
第152図　ＪＯＴ－５号古墳出土遺物（２）



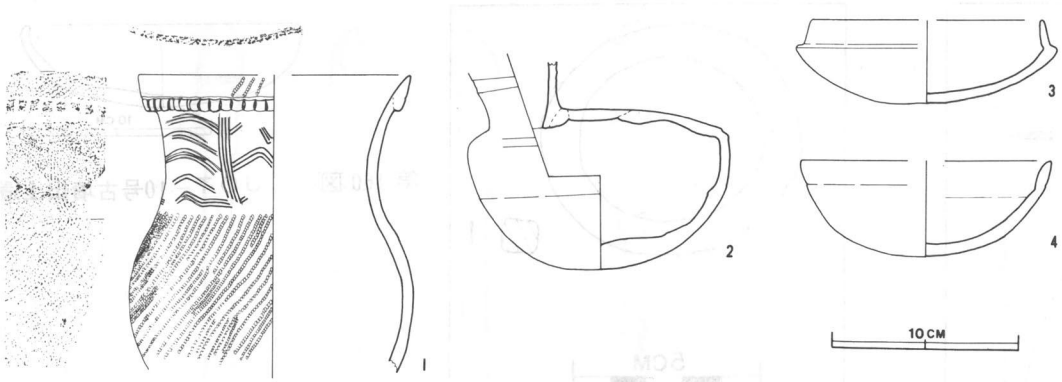
第153図　JOT－5号古墳出土遺物（3）



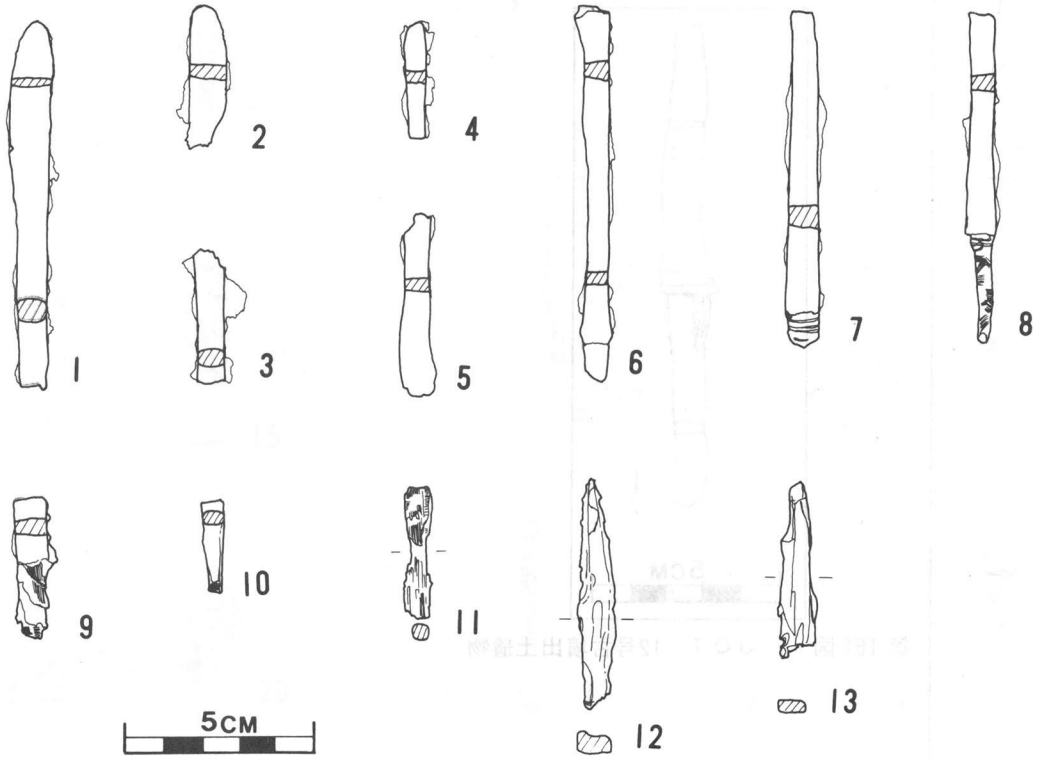
第154図　　ＪＯＴ－５号古墳出土遺物（４）



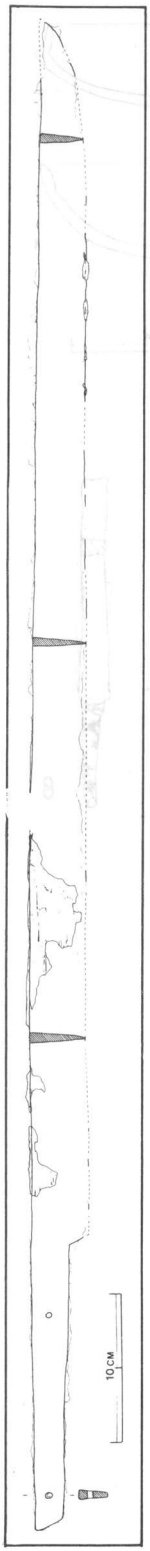
第155図　　JOT－5号古墳出土遺物（5）



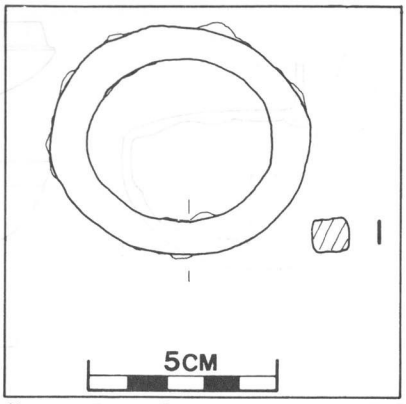
第 156 図　　ＪＯＴ－２号古墳出土遺物



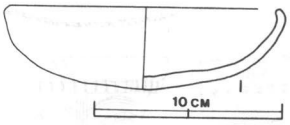
第 157 図　　ＪＯＴ－11号古墳出土遺物



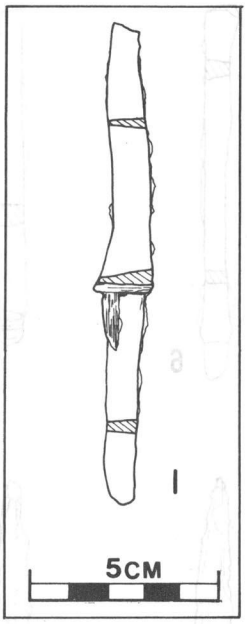
第 158 図　ＪＯＴ－５号古墳出土遺物



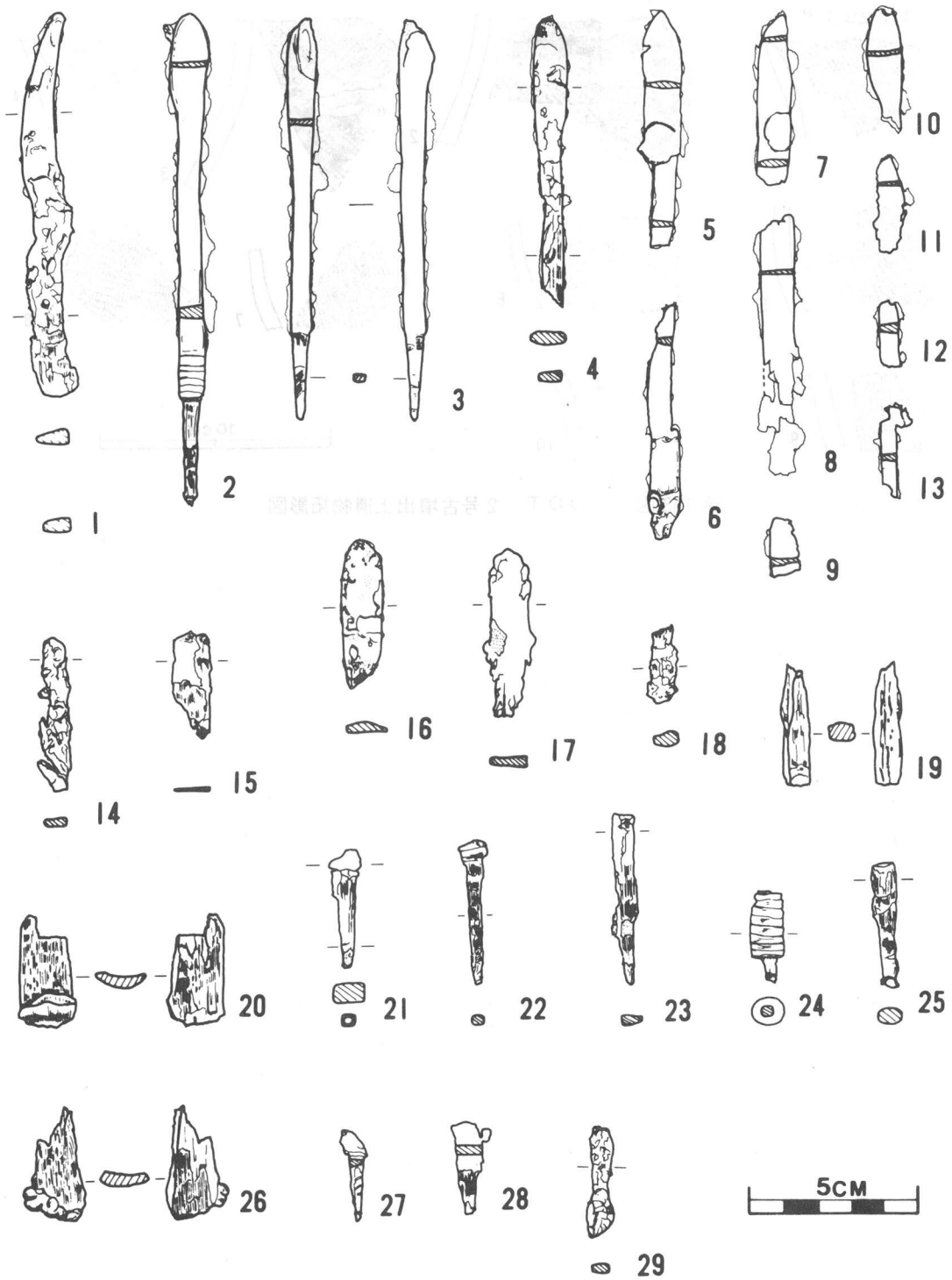
第 159図　ＪＯＴ－８号古墳出土遺物



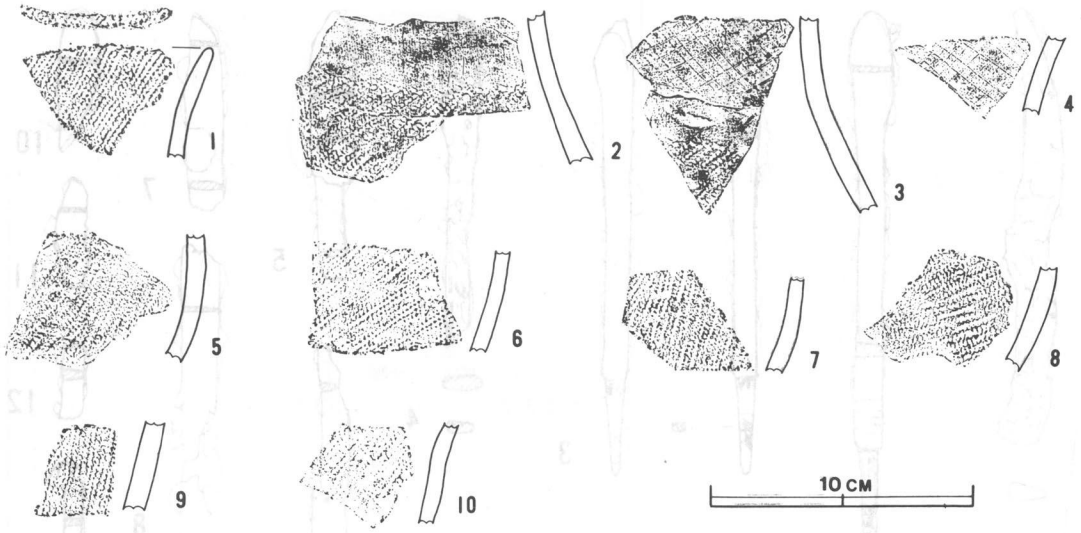
第 160 図　ＪＯＴ－10号古墳出土遺物



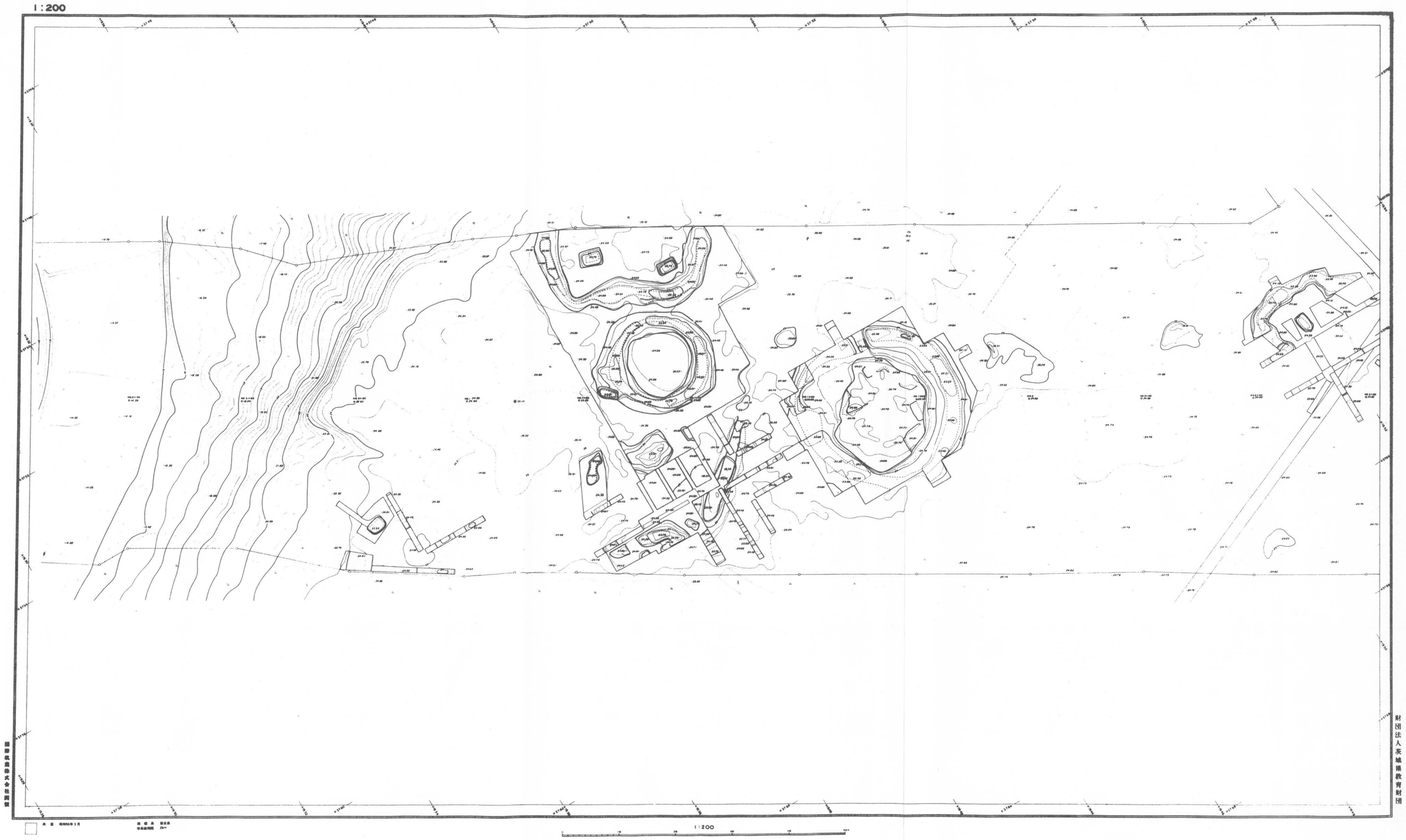
第 161 図　ＪＯＴ－12号古墳出土遺物



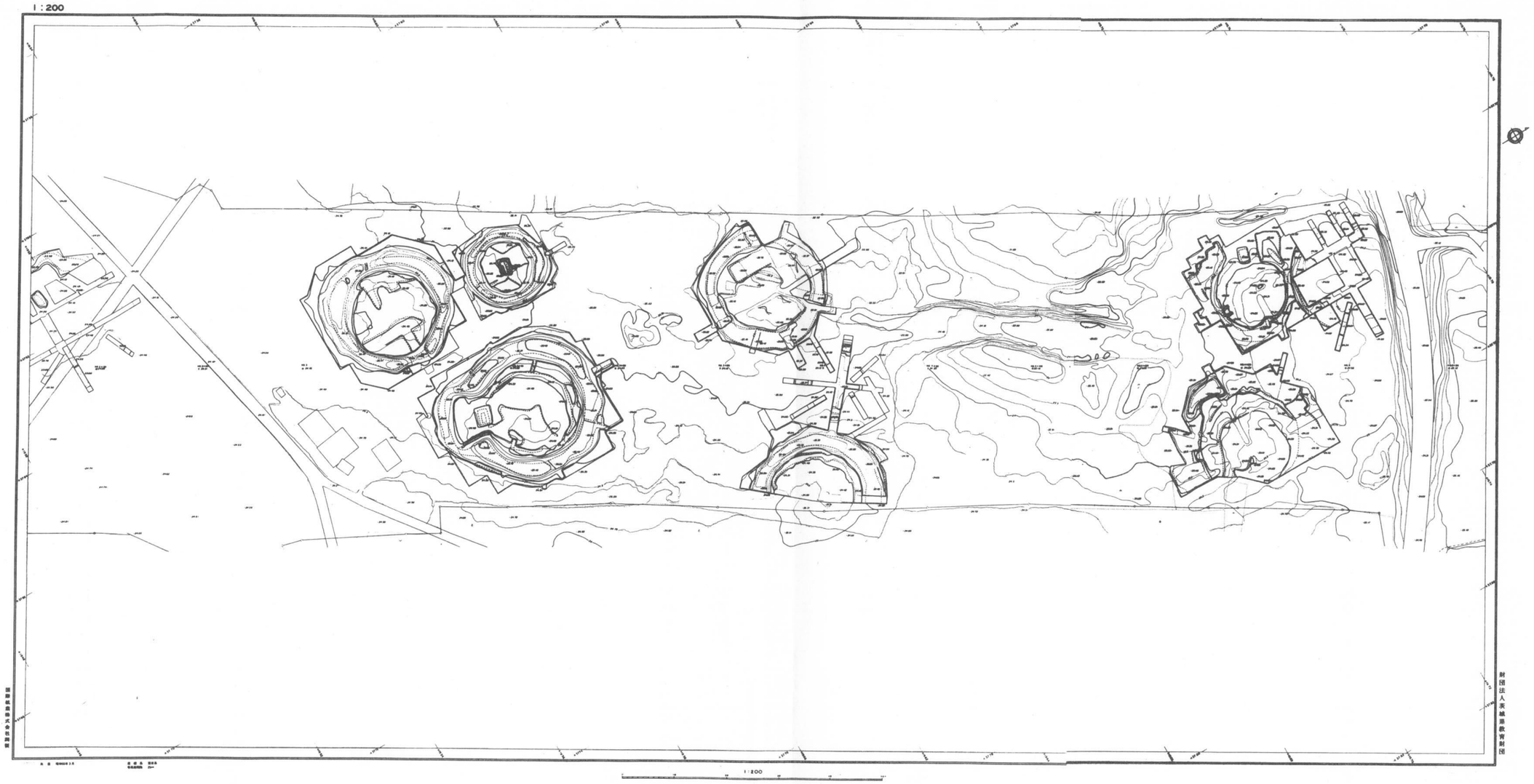
第 162 図　　ＪＯＴ—13号古墳出土遺物



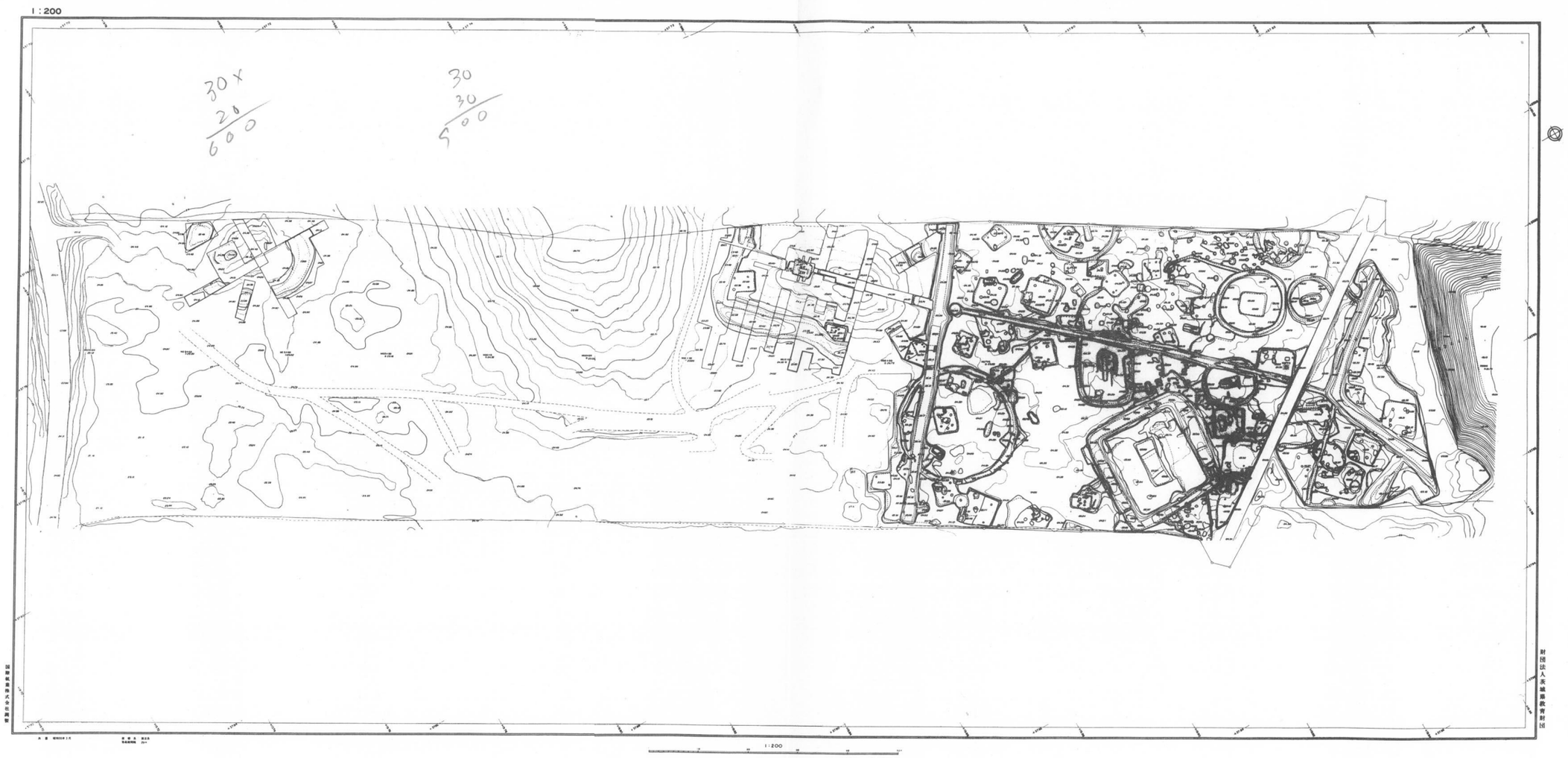
第 163 図　　ＪＯＴ－２号古墳出土遺物拓影図



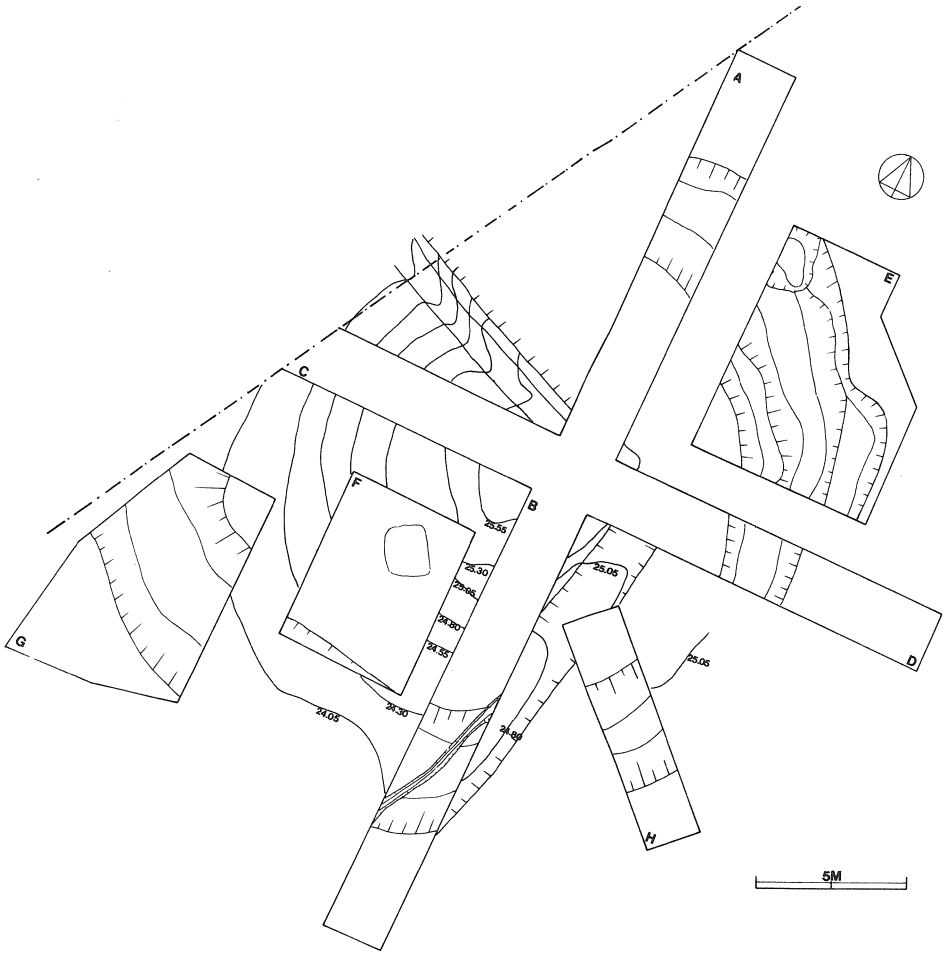
第164図　大塚古墳群航空写真測量図（1）



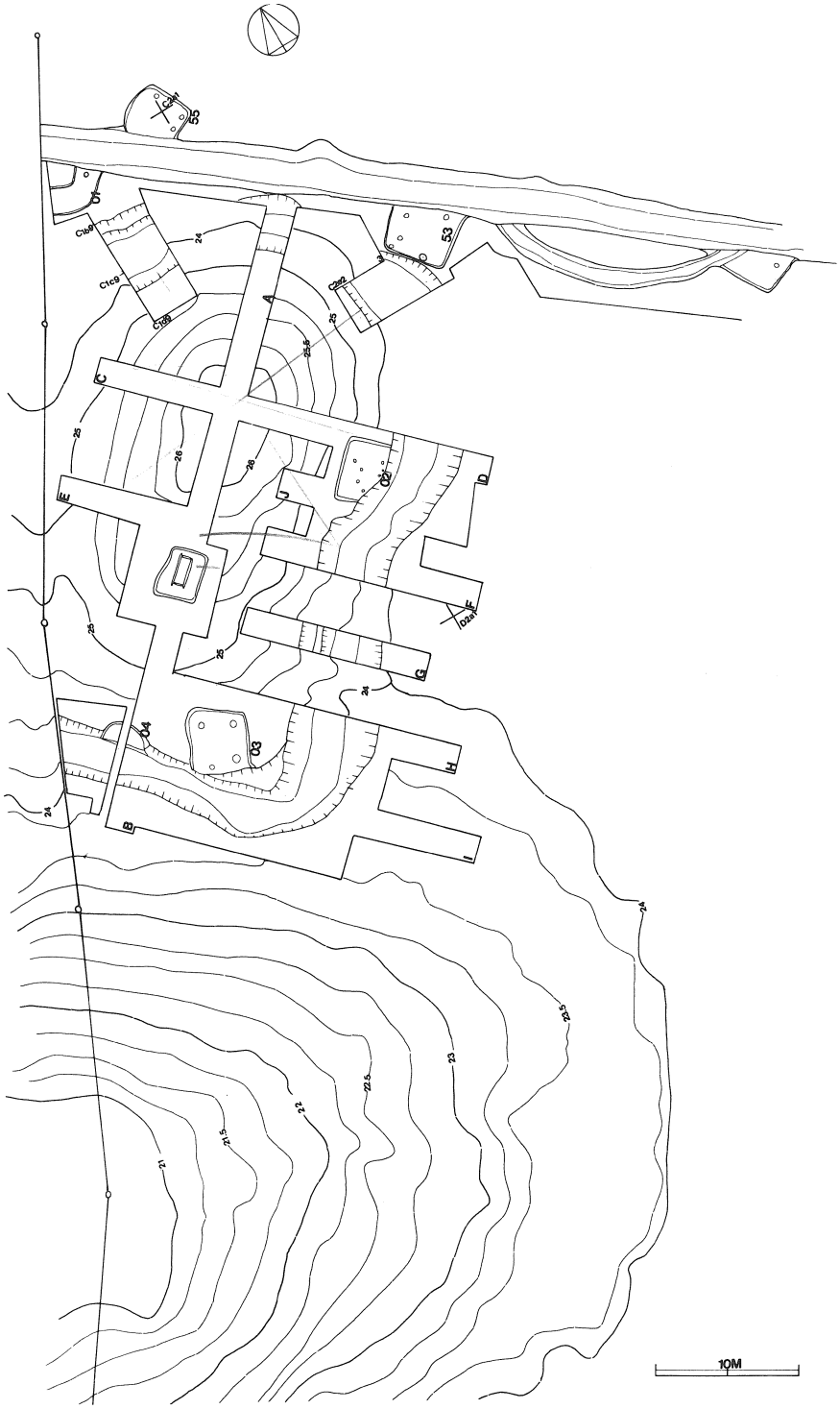
第165図　大塚古墳群航空写真測量図（2）



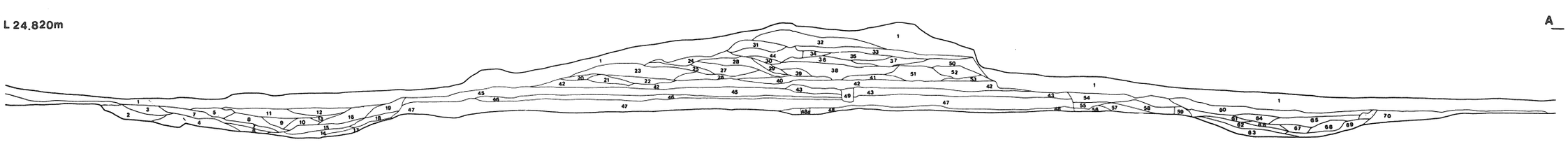
第 166 図　　松延古墳群・志筑遺跡航空写真測量図



第 167 図　　松延 1 号古墳地形図



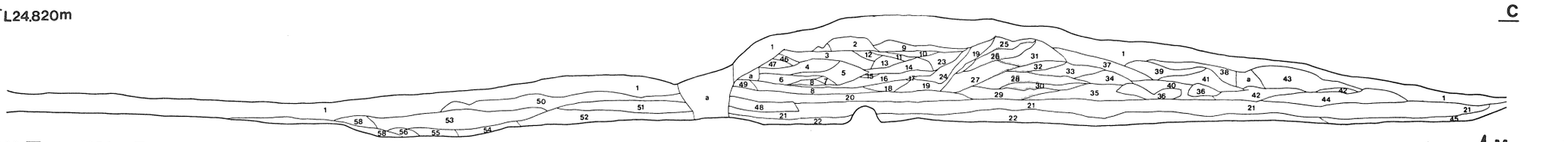
第 168 図　　松延 2 号古墳地形図



松延１号　Ａ・Ｂトレンチ土層解説

Hue 7.5YR 使用

1層　3/4　暗褐色土　表土ロームブロック＋ローム粒子　ひじょうにやわらかい
2層　3/4　暗褐色土　ローム粒子やわらかい表土
3層　4/4　褐色土　やわらかい　ロームブロック（3㎝前後）
4層　5/6　明褐色土
5層　3/3　暗褐色土　少量の暗褐色土含む＋砂粒　やわらかい
6層　3/4　暗褐色土　ロームブロック少量
7層　3/2　黒褐色土　しまってきる　ローム粒子少量
8層　3/3　暗褐色土　しまっている
9層　3/2　黒褐色土　ローム粒子少量　しまっている
10層　3/4　暗褐色土　ローム粒子　しまっている。
11層　1/2 3/2黒褐色土　黒色土（3/1）がブロック状にはいっている　しまっている
12層　3/3　極暗褐色土　ローム粒子しまっている，砂粒含む
13層　3/2　黒褐色土　ローム粒子少量　やわらかい
14層　3/4　暗褐色土　ローム粒子少量　しまっている
15層　3/2　黒褐色土　ローム粒子少量　しまっている
16層　3/3　暗褐色土　ローム粒子多量　やわらかい
17層　5/6　明褐色土　ソフトローム
18層　4/4　褐色土　ローム粒子少量　ややしまっている
19層　3/4　褐色土　ローム粒子多量　やわらかい
20層　3/3　暗褐色土　ロームブロック（3㎝前後）少
21層　3/2　黒褐色土　ローム粒子＋砂粒　しまっている
22層　3/2　黒褐色土　ロームブロック（3㎝前後）＋黒褐色土（3/2）少量
23層　4/4　褐色土　ロームブロック＋少量の黒褐色土（3/2）しまっている
24層　5/6　褐色土　ロームブロック帯状
25層　3/3　暗褐色土　ローム粒子＋砂粒少量しまっている
26層　4/4　褐色土　ロームブロック（5㎝前後）
27層　3/4　暗褐色土　ローム粒子　しまっている
28層　3/3　暗褐色土　ロームブロック混入＋ローム粒子
29層　4/4　褐色土　ロームブロック混入
30層　3/4　暗褐色土　ロームブロック（3㎝前後）＋極暗褐色土（3/3）少量
31層　3/4　暗褐色土　ロームブロック（3㎝前後）＋ローム粒子＋黒褐色土（3/2）
32層　4/3　褐色土　ロームブロック少量＋表土＋砂粒少量
33層　3/4　暗褐色　ロームブロック＋ローム粒子＋表土
34層　3/3　暗褐色　ロームブロック（3㎝前後）＋極暗褐色（3/3）がブロック状に含まれる
35層　3/4　暗褐色　ローム粒子少量＋砂粒しまっている
36層　3/2　黒褐色　ローム粒子少量＋砂粒しまっている
37層　5/6　褐色土　ロームブロック
38層　3/3　暗褐色　ローム粒子＋黒褐色（3/2）の粒しまっている，ねばり気がある
39層　3/2　黒褐色　ローム粒子混入　しまりがある
40層　3/2　黒褐色　しまりがある。
41層　3/3　暗褐色　ローム粒子＋黒褐色土の粒混入
42層　3/2　黒褐色　旧表土非常にかたい
43層　4/4　褐色　しまっている
44層　　撹乱　ロームブロック　表土　やわらかい
45層
46層
47層　4/3　褐色土　しまっている
48層　5/6　褐色土　ソフトローム
48ａ層　撹乱
49層　3/3　暗褐色土　ローム粒子混入
50層　3/3　暗褐色　ローム粒子＋褐色土（3/4）少量＋砂粒しまっている
51層　3/4　暗褐色　ロームブロック（4㎝前後）＋暗褐色＋（3/3）しまっている
52層　3/3　暗褐色　ロームブロック（3㎝前後）＋ローム粒子所々に撹乱ありやわらかい
53層　3/3　暗褐色　ローム粒子＋砂粒　やわらかい
54層　3/3　暗褐色　ローム粒子＋ロームブロック（3㎝前後）やわらかい
55層　4/4　褐色　ローム粒子混入　やわらかい
56層　5/6　褐色　炭化物（少量）＋焼土＋ローム粒子　やわらかい
57層　3/4　暗褐色　ローム粒子少量＋小石
58層　4/4　褐色　ローム粒子　しまっている
59層　5/6　褐色　ソフトローム
60層　3/2　黒褐色土　ローム粒子混入　しまりがある
61層　2/3　極暗褐色土　少量のローム
62層　4/4　褐色土　ローム粒子＋ロームブロック（3㎝前後）
63層　5/6　褐色土　ハードローム（ロームブロック，3㎝前後　帯状）
64層　3/2　黒褐色土　少量のローム粒子　しまっている
65層　4/4　褐色土　ローム粒子＋暗褐色土（3/3）少量　しまっている
66層　4/3　褐色土　ローム粒子＋ロームブロック（3㎝前後）
67層　3/4　暗褐色土　ローム粒子（少量）＋黒褐色土（3/2）少量
68層　3/4　暗褐色　ローム粒子＋黒褐色土（3/2）67層より黒褐色土が多い
69層　4/4　褐色　ローム粒子混入　やわらかい
70層　5/6　褐色　しまりがある

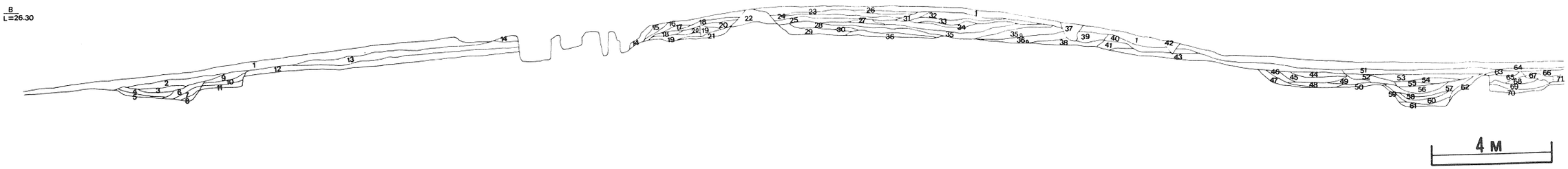


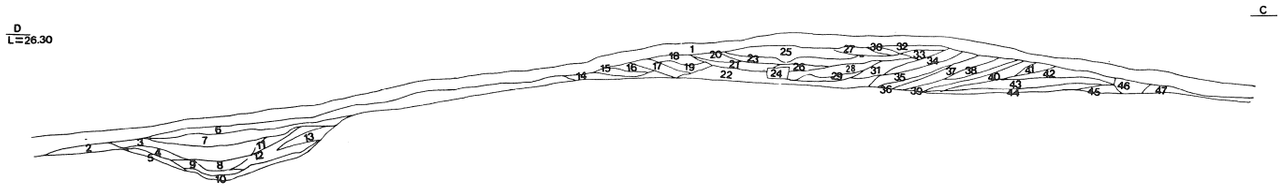
第169図　松延１号古墳断面図

松延１号　Ｃ・Ｄトレンチ土層解説

Hue 7.5ＹＲ使用

1層　4/4　褐色土　表土＋ローム粒子＋砂粒，しまりはやわらかい
2層　4/4　褐色土　ロームブロック（3㎝前後）＋暗褐色土（3/3＋ローム粒子）
3層　4/4　褐色土　ロームブロック＋ローム粒子＋暗褐色土（3/3）一部含む，しまりはかたい
4層　4/3　褐色土　ロームブロック（2㎝前後）＋ローム粒子＋暗褐色土（3/3）
5層　4/4　褐色土　ロームブロック（5㎝前後）＋ローム粒子＋暗褐色土（3/4）少量含む　しまりはかたい
6層　3/3　暗褐色土　ローム粒子混入，若干しまっている
7層　3/4　暗褐色土　ローム粒子
8層　4/3　褐色土　少量のローム粒子＋暗褐色土（3/3）少量，しまっている
9層　3/4　暗褐色土　ロームブロック（3㎝前後）＋ローム粒子＋表土，やわらかい
10層　3/3　暗褐色土　ロームブロック（2㎝前後）＋ローム粒子＋黒褐色土（3/2）少量
11層　4/3　褐色土　ロームブロック（2㎝前後）少量＋ローム粒子，しまっている。
12層　4/3　褐色土　黒褐色土（3/2）含＋ローム粒子少量
13層　3/4　暗褐色土　ロームブロック（3㎝前後）少量
14層　4/4　褐色土　ロームブロック（3㎝）＋ローム粒子＋暗褐色土（3/3）
15層　3/2　黒褐色土　ローム粒子少量含む，しまっている
16層　4/4　褐色土　ロームブロック（5㎝前後）少量含
17層　3/3　暗褐色土　ローム粒子少量
18層　4/4　褐色土　ロームブロックのかたまり＋少量の暗褐色土（3/3）
19層　5/6　褐色土　ロームブロック（3㎝前後）のかたまり＋黒褐色土（3/2）が1㎝前後のブロックになり入りこむ
20層　3/4　暗褐色土　ロームブロック（3㎝前後）＋ローム粒子＋黒褐色土（3/2）
21層　3/2　黒褐色土　旧表土＋砂粒，しまっている。
22層　4/3　暗褐色土　ローム
23層　3/3　暗褐色土　ロームブロック少量（3㎝前後）＋黒褐色土（3/2）しまりは普通
24層　3/4　暗褐色土　ロームブロック＋ローム粒子，やわらかい
25層　5/6　褐色土　ロームブロック，しまっている。
26層　5/6　褐色土　暗褐色土（3/3）のブロックがところどころに含まれる
27層　5/6　褐色土　暗褐色土（3/3）のブロックがところどころに含まれる，26層より黒色土が多い
28層　3/4　暗褐色土　ロームブロック（3㎝前後）少量＋黒褐色土（3/2）のブロック＋少量の炭化物
29層　3/4　暗褐色土　少量のロームブロック＋ローム粒子＋黒褐色土，しまっている
30層　5/6　褐色土　ロームブロック帯状になっている
31層　5/6　褐色土　ロームブロックのかたまり
32層　3/4　暗褐色土　ローム粒子＋ロームブロック
33層　3/4　暗褐色土　ロームブロック（3㎝前後）＋粘土少量ふくむ
34層　3/3　暗褐色土　ロームブロック（1㎝前後）＋焼土粒色＋黒褐色土（3/2）
35層　4/4　褐色土　ロームブロック（2㎝前後）＋ローム粒子＋黒褐色土（3/2）少量
36層　3/2　黒褐色土　ローム粒子少量＋砂粒，ひじょうにかたい
37層　4/4　褐色土　ロームブロック（3㎝前後）＋暗褐色土（3/4）しまりは普通
38層　4/4　褐色土　ロームブロック（2㎝前後）＋多量のローム粒子＋表土，一部撹乱あり
39層　4/4　褐色土　ロームブロック（3㎝前後）＋ローム粒子
40層　5/6　褐色土　ローム粒子＋ロームブロック（1㎝前後）＋少量の暗褐色土（3/4）しまっている
41層　4/4　褐色土　ロームブロック＋ローム粒子＋暗褐色土（3/4）少量含，しまりは普通
42層　3/3　黒褐色土　ローム粒子＋砂粒，しまっている
43層　4/4　褐色土　ロームブロック（3㎝前後）＋ローム粒子＋暗褐色土
44層　4/3　褐色土　ローム粒子＋黒褐色（3/2）の粒子混入　しまっている
45層　4/3　褐色土　ローム（ソフトローム）
46層　3/4　暗褐色土　砂粒
47層　3/4　暗褐色土　ロームブロック（4㎝前後）少量
48層　4/4　褐色土
49層　3/3　暗褐色土　砂粒
50層　3/2　黒褐色土　しまっている，旧表土砂粒
51層　4/4　褐色土
52層　5/6　褐色土
53層　4/4　褐色土　ロームブロック＋ローム粒子＋暗褐色土（3/3）
54層　3/3　暗褐色　ロームブロック（3㎝前後）少量＋ローム粒子，やわらかい
55層　5/6　明褐色土　ソフトローム
56層　3/4　明褐色土　やわらかい
57層　5/6　明褐色土　ソフトローム
58層　4/4　褐色土　やわらかい
a　撹乱





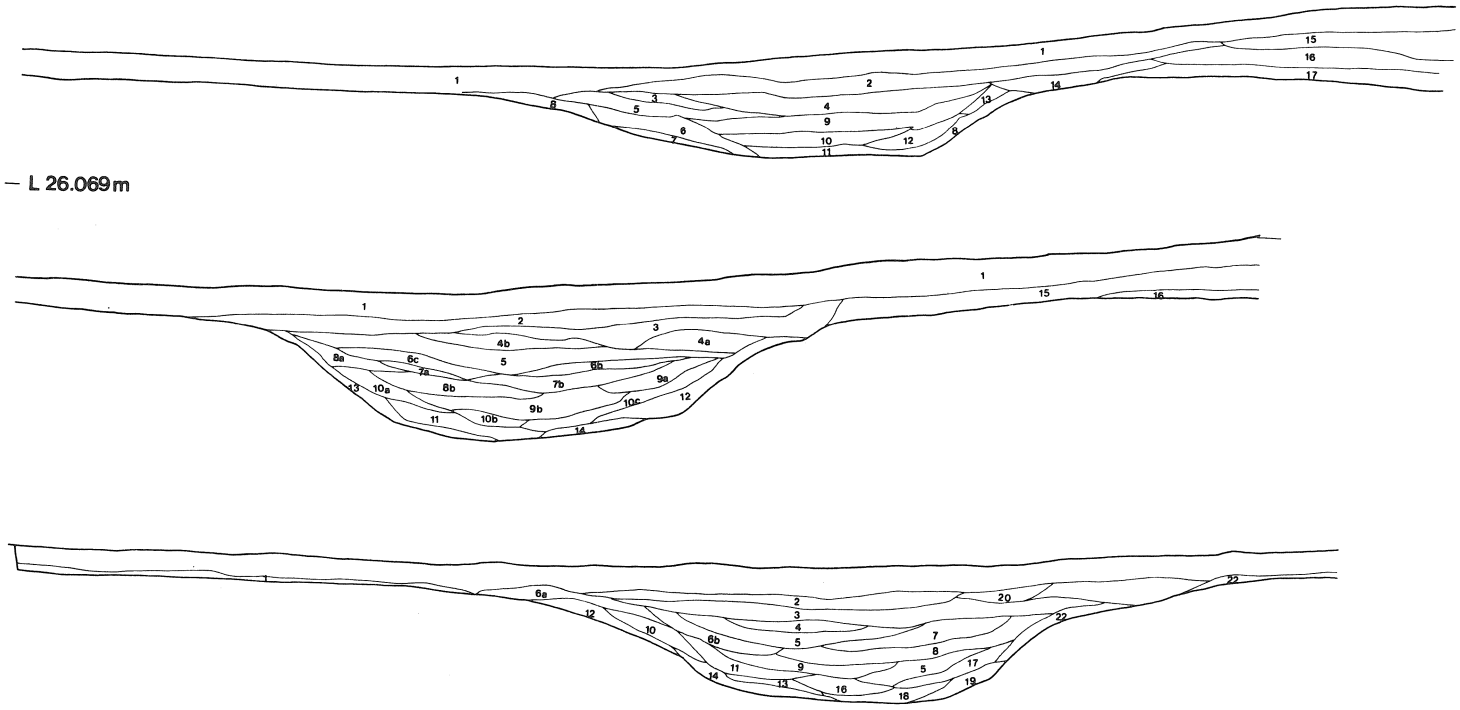
第 170 図　　松延 2 号古墳墳丘断面図

松延２号　主体部　　Ａ Ｂトレンチ土層解説 Hue 7.5YR 使用

1 層　3/4　黒色　少量のハードローム粒子（1 mm前後）を含む。
2 層　　耕作土
3 層　2/3　黒褐色　極少量のＹＰハードローム粒子（1 mm前後）を含む。
4 層　2/3　黒褐色　極少量のＹＰ及び炭化粒子
5 層　2/3　黒褐色　極少量のハードローム粒（1 mm前後）およびＹＰを含む。
6 層　3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（1 mm前後）および極少量の炭化粒子を含む。
7 層　2/3　黒褐色　少量のハードローム粒（1 mm前後）を含む。
8 層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1 cm前後）およびＹＰを含む。
9 層　3/4　褐色　少量のハードローム粒（1 mm前後）および極少量のＹＰを含む。
10 層　3/4　暗褐色　極少量のハードローム粒（1 mm前後）およびＹＰを含む。
11 層　3/4　褐色　少量のハードローム粒子（2 mm前後）を含む。
12 層　3/4　褐色　所謂，褐色土である（地山）
13 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～1 cm前後）を含む。
14 層　　撹乱
14 a 層 3/4　褐色　多量のハードロームブロック（5 cm前後）を含む。
15 層　3/3　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（2 cm前後）を含む。
16 層　3/3　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1 mm前後）を含む。
17 層　3/3　褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～3 cm）を含む。
18 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～5 cm）および極少量の炭化物（木炭）を含む。
19 層　3/4　褐色　少量のハードロームブロック（1～5 cm）を含む。
20 層　3/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（3 cm前後）を含む。
21 層　3/4　明褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～6 cm）を含む。
22 層　3/4　黒色　少量の白色スコリアおよびＹＰを含む。
23 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1 cm前後）を含む。
24 層　3/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～4 cm）を含む。
25 層　3/4　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～3 cm）を含む。
26 層　3/4　褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～2 cm）を含む。
27 層　3/3　暗褐色　極少量のハードロームブロック（1 cm前後）を含む。
28 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1～5 cm）および黒色土のミキシング層であり，若干しまりをおびている。
29 層　3/4　褐色　多量のハードロームブロックハードローム粒及び少量の（1 cm～3 cm）を含む。
30 層　3/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5 mm～3 cm）を含む。
31 層　3/4　暗褐色　ロームブロック，およびローム粒子が多量に含まれる，しまりは普通
32 層　3/4　暗褐色　ロームブロック（3 cm前後）＋ローム粒子表土層も含まれる。
33 層　3/4　暗褐色　ロームブロック（3 cm前後）＋ローム粒子＋黒色土（3/4）少量含まれる。しまりは硬い。炭化物，砂粒を含む。
34 層　3/4　褐色　多量のハードロームブロック（1 cm前後）を主体とし若干しまりをおびている。
35 層　2/2　黒褐色　比較的多量のハードロームブロック（3 mm～2 cm前後）を含む。
35 a 層 3/3　暗褐色　黒色（3/4）がある，ロームブロック（2 cm前後）が含まれローム粒子がある。しまりは硬い。
36 層　3/3　褐色　比較的多量のハードロームブロック（2～3 cm前後）を含む。
36 a 層 2/2　黒　少量のハードロームブロック（5 mm前後）を含有し，少量の炭化物を含む。
37 層　　撹乱
38 層　3/4　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（5 mm～2 cm）を含有し，しまりをおびている，１部木の根による撹乱あり。
39 層　3/3　ローム粒子＋ロームブロック（3 cm前後）＋2/3黒色土が少量
40 層　2/2　黒褐色　ローム粒子＋少量の砂粒　やわらかい。木の根による撹乱あり
41 層　3/3　黒褐色　ローム粒子一部撹乱があって砂粒が含まれ，40層よりややしまりがある。
42 層　　撹乱
43 層　3/3　暗褐色　全体的にはしまっているが所々に，木の根による撹乱層がある。
44 層　3/4　黒色　少量の砂粒および極少量のＹＰを含む。
45 層　2/2　黒褐色　極少量のＹＰを含む。
46 層　2/2　黒褐色　極少量のＹＰハードロームブロック（5 mm前後）を含む。
47 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～1 cm）を含む。
48 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5 mm前後）を含む。
49 層　3/3　暗褐色　極少量の砂粒ＹＰを含む。
50 層　3/3　褐色　ロームブロック粒子，やわらかい。
51 層　3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（1～5 mm）および，極少量の砂粒を含む。
52 層　3/4　暗褐色　少量の砂粒および極少量のハードローム粒（1 mm前後）を含む。
53 層　3/4　暗褐色　極小量のハードローム粒（1 mm前後）および少量の砂粒を含む。
54 層　3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（2 mm前後）および極少量の砂粒を含む。
55 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5 mm前後）及び極少量の砂粒，含む。
56 層　3/4　暗褐色　比較的多量の黒色ハードブロック（2 cm前後）および極少量のハードロームブロック（5 mm前後）を含む。
57 層　3/4　暗褐色　少量の砂粒及びハードローム粒（3 mm前後）を含有し，ざらざらしている。
58 層　3/3　褐色　少量のハードローム粒（1 mm前後）を含む。
59 層　3/4　褐色　極少量のハードロームブロック（1 cm前後）を含む。
60 層　3/4　褐色　砂粒を主体とし，少量のハードローム粒（1 mm前後）を含む。
59 層　3/4　褐色　極少量のハードロームブロック（1 cm前後）を含む。
60 層　3/4　褐色　砂粒を主体とし，少量のハードローム粒（1 mm前後）を含む。
61 層　3/4　褐色　砂粒を主体とし，極少量のハードロームブロック（5 mm～1 cm）を含む
62 層　3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（1 mm前後）を含む。
63 層　3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（1 mm前後）及び極少量のハードロームブロック（5 mm～1 cm）を含む。
64 層　3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（1～5 mm）および極少量の砂粒を含む。
65 層　3/4　褐色　ハードロームブロック（1 cm前後）を主体とし，ごつごつしている。
66 層　3/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5 mm～2 cm）を含む。
67 層　3/4　暗褐色　少量の黒色ハードローム，ブロック粒（1 mm前後）および極少量の炭化粒子を含む。
68 層　3/4　暗褐色　少量の小石（指頭大）およびごく少量のハードローム粒（1 mm前後）炭化粒子を含む。
69 層　3/4　褐色　比較的多量のハードローム（1 mm～1 cm）を含む。
70 層　3/4　褐色　ハードロームブロック（5 mm～5 cm）を含む。

松延２号　Ｃ・Ｄトレンチ土層解説　Hue 7.5YR 使用

1 層　　耕作土
2 層　3/3　褐色　表土＋ロームブロック（2 cm前後）やわらかい。
3 層　2/2　黒褐色　少量のローム粒子を含み，しまっている。砂粒も含む。
4 層　3/3　褐色　ロームブロック（3 cm前後）＋ローム粒子，木の根により撹乱あり。
5 層　3/3　褐色　ソフトローム＋硬いロームブロック（3 cm前後）しまっている。
6 層　2/2　黒褐色　表土＋砂粒＋黒色土（3/4）
7 層　3/3　暗褐色　ローム粒子，ややしまりがある，砂粒を含む。
8 層　3/4　黒色　若干のローム粒子，しまっている。
9 層　3/3　暗褐色　ローム粒子＋炭化物＋少量のロームブロック，しまっている。
10 層　3/4　褐色　ローム粒子を主体とし，しまりがある。ねばりもある。
11 層　3/3　褐色　表土＋ロームブロック（2 cm前後）やわらかい。
12 層　2/2　黒褐色　ローム粒子，しまっている。
13 層　3/3　暗褐色　ローム粒子，12層より硬い。
14 層　3/3　暗褐色　ロームブロック（3～5 cm前後）＋ローム粒子＋極暗褐色（3/3）少量の炭化物が含まれる。
15 層　3/3　暗褐色　ローム粒子＋炭化物（少量）＋砂粒（少量）
16 層　3/4　暗褐色　表土＋ロームブロック（2 cm前後）さらさらしている。
17 層　3/4　褐色　ロームブロック（1～5 cm前後）＋ローム粒子＋黒色土（3/2）しまりがある。ごく少量の炭化物が含まれている。
18 層　3/3　褐色　表土＋ロームブロック（3 cm前後）＋ローム粒子＋砂粒，さらさらしている。
19 層　3/3　褐色　ロームブロック（2 cm前後）＋黒色土＋暗褐色（3/3）＋ローム粒子，やわらかい。
20 層　3/4　褐色　褐色土の中にロームブロック（3 cm前後）が含まれている。表土が混入している。
21 層　3/4　暗褐色　明褐色土＋ロームブロック＋（2/3黒色土）が含まれている＋ローム粒子，しまりがある。
22 層　3/4　褐色　黒色土＋ロームブロック（5 cm前後）＋ローム粒子，炭化物が含まれている。
23 層　3/3　褐色　黒色土＋ロームブロック（3 cm前後）＋ローム粒子，所々に炭化物混入
24 層　3/3　褐色　ローム粒子＋黒色土少量含む。
25 層　3/6　明褐色　ロームブロック
26 層　3/3　暗褐色　黒色＋ローム粒子，しまっていて炭化物を含む。
27 層　3/4　褐色　表土＋ロームブロック混入，砂が多い，所々に黒色土が含まれている。
28 層　3/4　褐色　ロームブロック（5 cm前後）＋黒色土が含まれている，しまりがある。ローム粒子も含まれる。
29 層　3/3　暗褐色　黒色土＋ローム粒子＋少量のロームブロック＋炭化物を含む。
30 層　3/4　褐色　表土＋ロームブロック混入，砂が多い，所々に黒色土を含む。
31 層　3/6　褐色　大きいロームブロックであり，黒色土が含まれており，28層よりやや多い。
32 層　3/4　暗褐色　ローム粒子が含まれ，ところどころに炭化物が含まれている。
33 層　3/3　褐色　ロームブロック及びローム粒子
34 層　3/6　明褐色　ロームブロック，少量だが黒色土がある。
35 層　3/6　褐色　大きいロームブロックであり，黒色土が含まれる。
36 層　3/3　暗褐色　黒色土であり，その中にローム粒子が含まれる。所々に少量だがロームブロックがある。
37 層　3/4　褐色　ロームブロック（5 cm前後）が帯状になっている，小さいロームがある。（2 cm前後）黒色土（2/3）がある。
38 層　3/3　褐色　ロームブロック（3 cm前後）＋ローム粒子混入，しまっている。黒色土を少量含む。
39 層　3/4　暗褐色　ロームブロック（3 cm前後）が含まれている，38層よりやや暗褐色（3/4）が多く含まれる。＋ローム粒子しまりがある。
40 層　3/4　暗褐色　ロームブロック（3 cm前後）が帯状につながる，所々に黒色土がブロック的にみられる。
41 層　3/3　褐色　ロームブロック（2 cm前後）砂粒が含まれる，表土がまじっている。
42 層　3/3　暗褐色　砂粒と表土が混入
43 層　3/3　暗褐色　黒色土（2/3のブロック的なもの（3 cm前後）が含まれる。
44 層　3/3　褐色　24層より，黒色土を多く含む，ロームブロックは少量であり，ローム粒子がやや多い。
45 層　2/2　黒褐色　旧表土
46 層　木の根による撹乱
47 層　3/4　褐色



第 171 図　　松延 2 号古墳周構部断面図

2M

JMN－2　Fトレンチ土層解説　7.5YR使用

1層　5/3　褐色土　表土
2層　5/3　褐色土　ローム粒子＋砂粒混入，やわらかい。
3層　3/3　暗褐色　ローム粒子＋砂粒混入，しまっている。
4層　3/3　暗褐色　ローム粒子混入，褐色土（5/3）がまじっている，砂粒もまじっている。
5層　2/3　極暗褐色　ローム粒子＋砂粒，帯状でしまっている
6層　3/3　暗褐色土　ローム粒子混入
7層　5/3　褐色土　所々にロームブロック（3cm前後）が含まれる，ローム粒子が多く含まれる。
8層　5/6　褐色土　ソフトローム
9層　3/3　暗褐色土　ロームブロック少量含まれる，やわらかい
10層　3/2　黒褐色土　しまっている，ロームブロック（2cm前後）がはいっている，ローム粒子少量含まれる。
11層　5/6　褐色土　ロームブロック（少量3cm前後）ローム粒子が多い。
12層　3/4　暗褐色　やわらかい土層である，ローム粒子混入
13層　5/3　褐色土　ロームブロック混入
14層　5/4　褐色土　ローム粒子が少量ふくまれている。
15層　3/3　暗褐色　ローム粒子＋表土＋砂粒，しまりはかたい
16層　5/4　褐色土　しまりはかたい，ローム粒子＋表土＋砂粒
17層　5/6　褐色土　ソフトローム

JMN－2　Gトレンチ土層解説

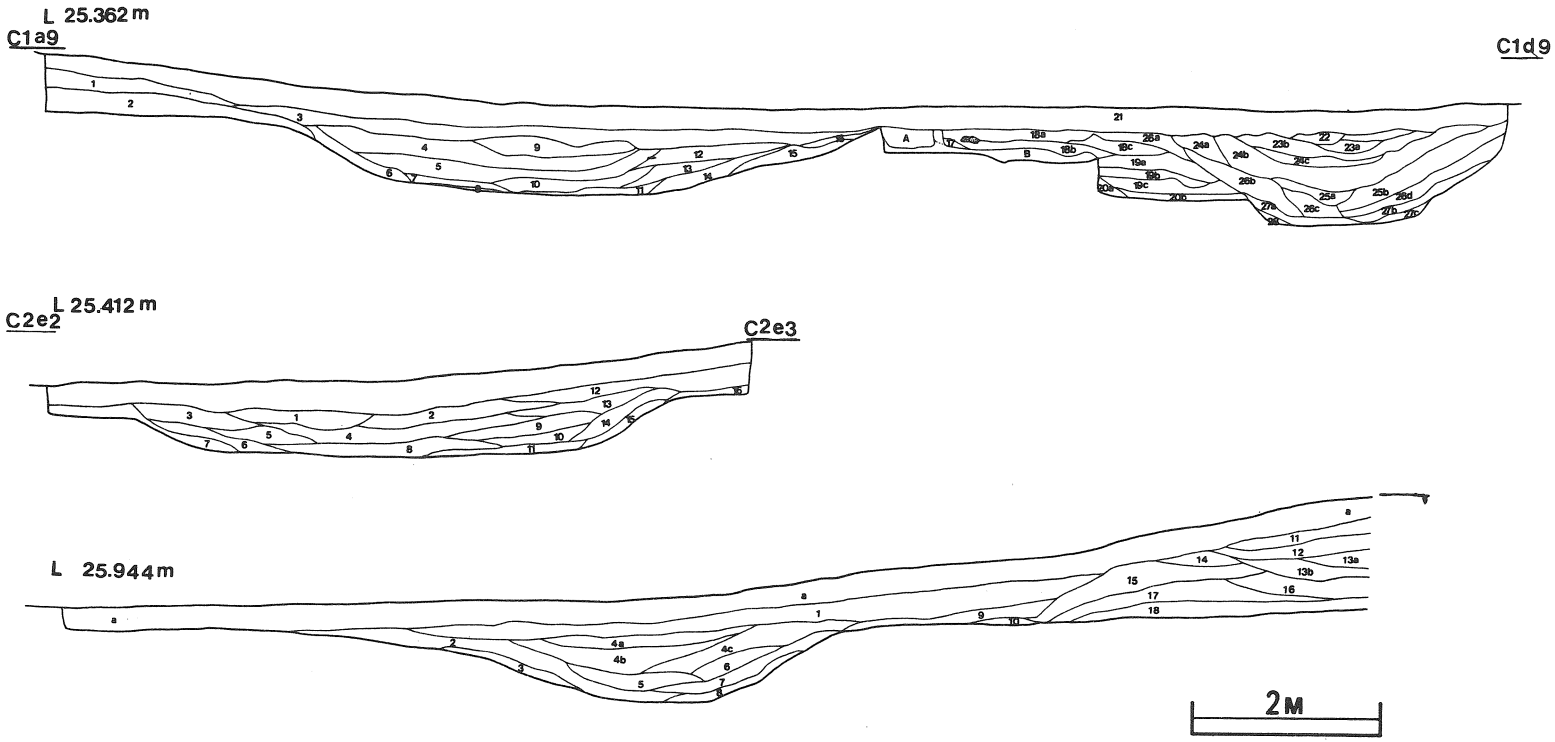
南壁　セクション

1層　3/4　所謂　耕作土である。
2層　3/4　暗褐色　極少量のハーデロームブロック（5mm前後）を含有し，比較的やわらかい。
3層　3/3　暗褐色　少量のハードブロック（5mm～1cm）を含有し，若干しまりをおびている。
4層a　5/4　褐色　極少量のハードロームブロック（3mm～1cm）を含有し，若干しまりをおびている。
4層b　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
5層　3/2　黒褐色　極少量のＹＰ，ハードローム粒子（1mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
6層a　3/2　黒褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，しまりをおびている。
6層b　3/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
7層a　3/3　暗褐色　少量のＹＰ，ハー　ロームブロック（1cm前後所を含有し，若干しまりをおびている）
7層b　3/4　暗褐色　極少量のハードロームブロック（5mm前後）及び少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
8層a　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯びている。
8層b　3/4暗褐色　少量のＹＰ，ハードロームブロック（5mm～3cm）を含有し，若干しまりを帯びている
9層a　5/3　褐色　少量のＹＰ，ハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
9層b　3/4　暗褐色　少量のＹＰ，ハードロームブロック（1～3cm）を含有し，若干しまりをおびている。
10層a　5/3　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1cm前後）及び少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
10層b　5/3　褐色　少量のＹＰ，ハードロームブロック（1～3cm）を含有し，若干しまりをおびている。
10層c　5/4　褐色　少量のＹＰ，ハードロームブロック（1～5cm）を含有し，若干しまりをおびている。
11層　5/4　褐色　極少量のＹＰ，ハードロームブロック（1cm前後）を含有し，砂質をおびている。
12層　5/6　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～5cm）及び少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
13層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（3cm前後）を含有し，しまりをおびている。
14層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1～5cm）を含有し，しまりをおびている。
15層　5/4　褐色　所謂，褐色土層である。
16層　5/4　褐色　所謂，ローム層であると思われる。

JMN－2　Hトレンチ土層解説

南壁　セクション

1層　5/4　所謂，褐色土である。
2層　3/1　黒色　少量のハードローム粒子（1mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
3層　3/2　黒褐色　極少量のＹＰ，ハードローム粒子（1mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
4層　3/2　黒褐色　極少量のＹＰ，及び炭化粒子を含有し，若干しまりを帯びている。
5層　3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
6層a　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，若干しまりをおびている。
6層b　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
7層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び極少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
8層　5/4　褐色　少量のハードロームブロっク（1～3cm）ＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
9層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し，若干しまりをおびている。
10層　3/4　暗褐色　極少量のハードロームブロック（1cm前後）ＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
11層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）及び極少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
12層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（3cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
13層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，若干しまりをおびている。
14層　5/4　褐色　少量のハードロ｜ムブロック（1～5cm）を含有し，しまりを帯ている。
15層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び，極少量のＹＰを含有し，若干しまりを帯ている。
16層　3/2　黒褐色　極少量のハードロームブロック（5mm～1cm）ＹＰを含有し比較的やわらかい。
17層　3/4　暗褐色　少量のハートロームブロック（1cm前後）ＹＰを含有ち，若干しまりを帯ている。
18層　5/4　褐色　極少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干砂質を帯ている。
19層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1～5cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
20層　3/2　黒褐色　極少量のハードロームブロック（1mm前後）を含有し，比較的やわらかくさらさらしている。
21層　3/3　暗褐色　極少量のハードロームブロック（1mm前後）ＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
22層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，若干砂質を帯ている。
23層　5/4　褐色　所謂，褐色土層である。



第 172 図　　松延 2 号古墳周構部断面図

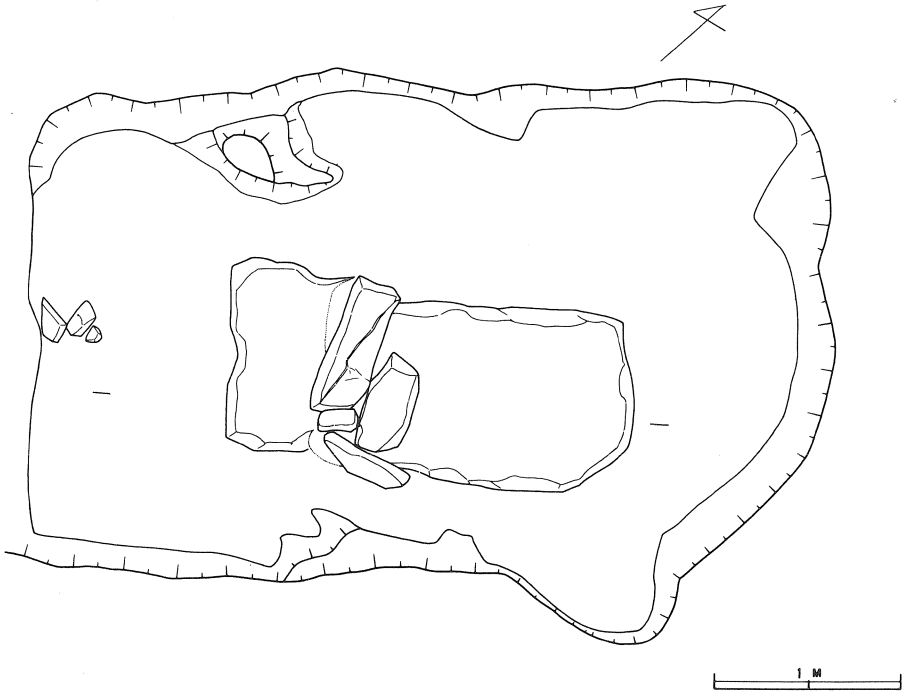
JMN－2
C1a9 －C1d9 土層解説　7.5YR使用

1層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
2層　5/4　褐色　所謂，褐色土
3層　3/1　黒色　少量のハードローム粒子（1mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
4層　3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，しまりをおびている。
5層　3/2　黒褐色　極少量のハードローム粒（1mm前後）YPを含有し，若干しまりをおびている。
6層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及びYPを含有し，しまり粘性ともに帯ている。
7層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～3cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
8層　3/3　暗褐色　極少量のハードロームブロック（1mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
9層　3/2　黒褐色　少量のハードローム粒（1～3mm）を含有し，若干しまりおこびている。
10層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯てきる。
11層　3/2　黒褐色　少量のハードローム粒（1～2mm）を含有し，若干しまりを帯ている。
12層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び，YPを含有し，比較的やわらかい。
13層　3/3　暗褐色　極少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有しを若干しまりを帯ている。
14層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，若干しまり　帯ている。
15層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1～5cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
16層　3/3　暗褐色　極少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
17層　3/4　暗褐色　少量の炭化粒子を含有し，若干しまりを帯ている。
18層a 5/3　褐色　少量のハードローム粒（1mm～5mm）及び極少量の焼土粒子を含有し，若干しまりを帯ている。
18層b 3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（2mm前後）及び極少量の焼土粒子を含有し，若干しまりを帯ている
18層c 5/3　褐色　少量のハードローム粒（3mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
19層a 5/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）及び極少量の焼土粒子，炭化粒子を含有し，若干しまりを帯ている。
19層b 5/6　褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）及び極少量の焼土粒子，炭化粒子を含有し，若干しまりを帯ている。
19層c 5/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し，しまり粘性ともに帯ている。
20層a 5/6　褐色　少量のハードロームブロック（2cm前後）を含有し，しまり粘性ともに若干帯ている。
20層b 5/3　褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，しまり粘性ともに強い。
21層　5/3　褐色　表土（耕作土）
22層　5/3　褐色　極少量のハードローム粒子を含有し，非常にかたい。
23層a 5/3　褐色　極少量のハードローム粒子，砂粒含有し，木の根による腐飾土を混入している。若干しまりを帯ている。
23層b 5/3　褐色　極少量のハードローム粒子，砂粒を含有し，木の根による攪乱あり，若干しまりを帯ている。
24層a 3/4　暗褐色　極少量のハードローム粒子，YPを含有し，しまりを帯ている。木の根による攪乱あり。
24層b 5/3　褐色　極少量のハードローム粒子（1～5mm）を含有し，若干しまりを帯ている。木の根による攪乱あり。
24層c 5/3　褐色　極少量のハードローム粒子を含有し，しまっている。木の根による攪乱あり。
25層a 5/4　褐色　少量のハードローム粒子（1～5mm）極少量の砂粒を含有し，しまっている。
25層b 3/4　暗褐色　少量のハードローム粒子（1～5mm）YPおよび極少量の砂粒を含有し，若干しまりを帯ている。
26層a 3/3　暗褐色　少量のYP及び，極少量の焼土を含有ししまっている。
26層b 3/4　暗褐色　極少量のYPを含有し，さらさらしている。木の根による攪乱あり，。
26層c 3/4　暗褐色　極少量のYPを含有し，しまっている。
26層d 5/4　褐色　少量のハードローム粒子（1～5mm及び極少量の砂粒を含有し，さらさらしている。
27層a 3/4　暗褐色　少量のハードローム粒子を含有し，若干しまりを帯ている。
27層b 5/4　褐色　少量の砂粒を含有し，粒の形をしてさらさらしている。
27層c 5/4　褐色　極少量のハードローム粒子（2mm前後）少量の砂粒を含有し，粒の形をしていて，さらさらしている。
28層　3/4　暗褐色　極少量の砂粒を含有し，さらさらしている。
A層　攪乱
B層　地山

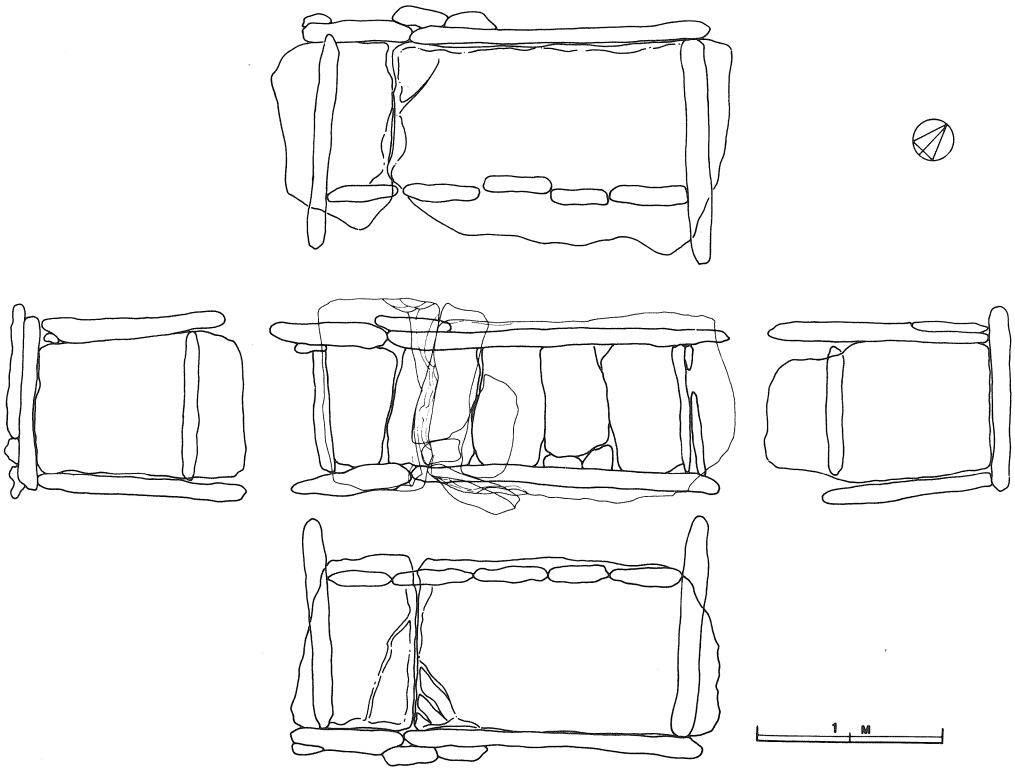
JMN－2
C1a9－C1d9　土層解説　7.5YR　Hue　使用

1層　5/2　黒色　少量のハードローム粒子（1mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
2層　5/3　褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）及び極少量のYPを含有し，しまりを帯ている。
3層　3/2　黒褐色　極少量のYP及び炭化粒子を含有し，若干しまりを帯ている。
4層　3/2　黒褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，しまりを帯ている。
5層　3/3　暗褐色　極少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
6層　5/3　褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，しまりを帯ている。
7層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
8層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
9層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
10層　3/4　暗褐色　少量のハードローム粒子（1mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
11層　3/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後所及び，極少量のYPを含有し，若干しまりを帯ている。
12層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
13層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）YR含有し，若干しまりをおびている。
14層　3/2　黒褐色　極少量のYP，ハードローム粒（1～3mm）を含有し，若干しまりを帯ている。
15層　5/3　褐色　少量のハードロームブロック（2cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
16層　5/4　褐色　所謂　褐色土である。

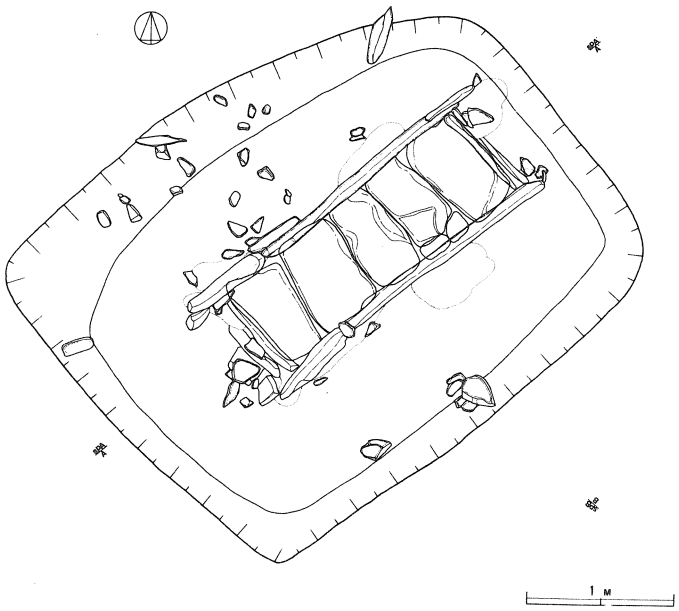
松延2号　Eトレンチ土層解説
1層　5/2　黒褐色　極少量のYPを含有し，サラサラしている。
2層　3/3　暗褐色　極少量のYP，ハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
3層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
4層a 5/1　黒色　少量のYP及び極少量の砂粒を含有し，若干しまりを帯ている。
4層b 3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）含有し，若干しまりをおびている。
4層c 3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）及び極少量のYPを含有し若干しまりを帯ている。
5層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）ロッを含有し，若干しまりを帯ている。
6層　5/4　褐色　少量の砂粒及び極少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，サラサラしている。
7層　5/4　褐色　極少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
8層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～3cm）及び極少量のYPを含有し，若干しまりを帯ている。
9層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
10層　5/4　褐色　所謂　褐色土である。
11層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，サラサラしている。
12層　5/3　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～5cm）を含有し，ザラザラしている。
13層a 3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
13層b 5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1cm～3cm所を含有し，しまりを帯ている。
14層　3/4　暗褐色　少量のハードローム（2～3cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
15層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1～5cm）を含有し，しまりを帯ている。
16層　5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック　しまりをおびている。
17層　5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（2cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
18層　5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～5cm）を含有し，しまりを帯ている。



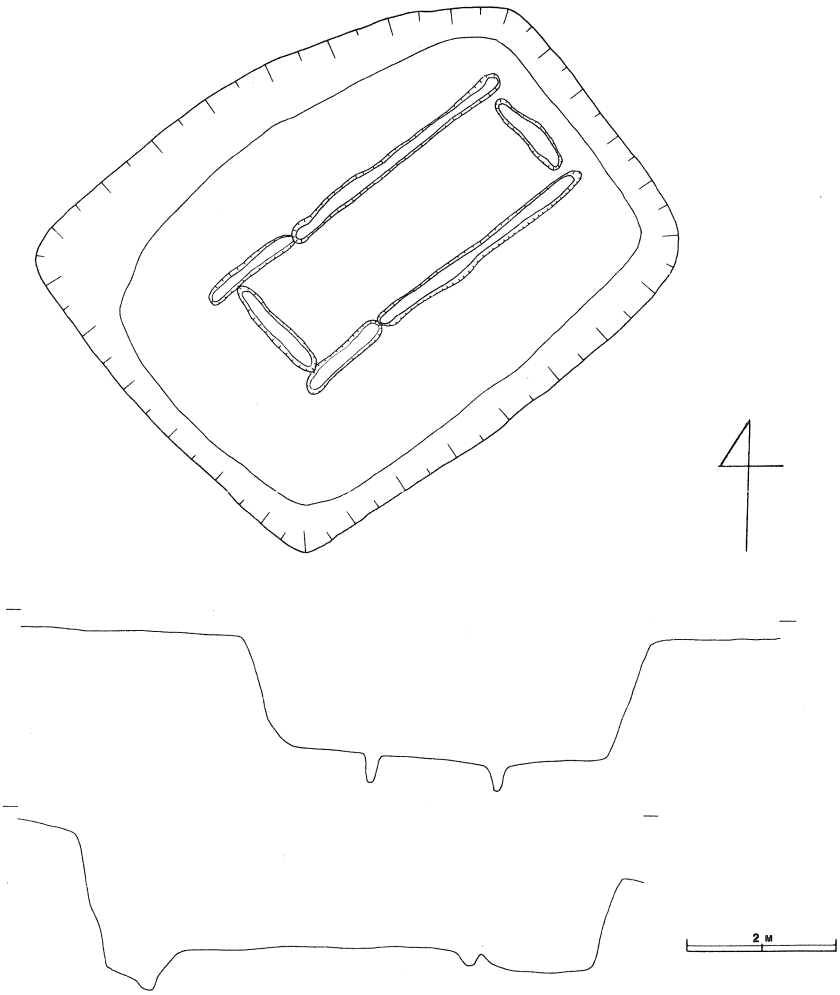
第 173 図－1　松延 2 号古墳主体部石棺実測図



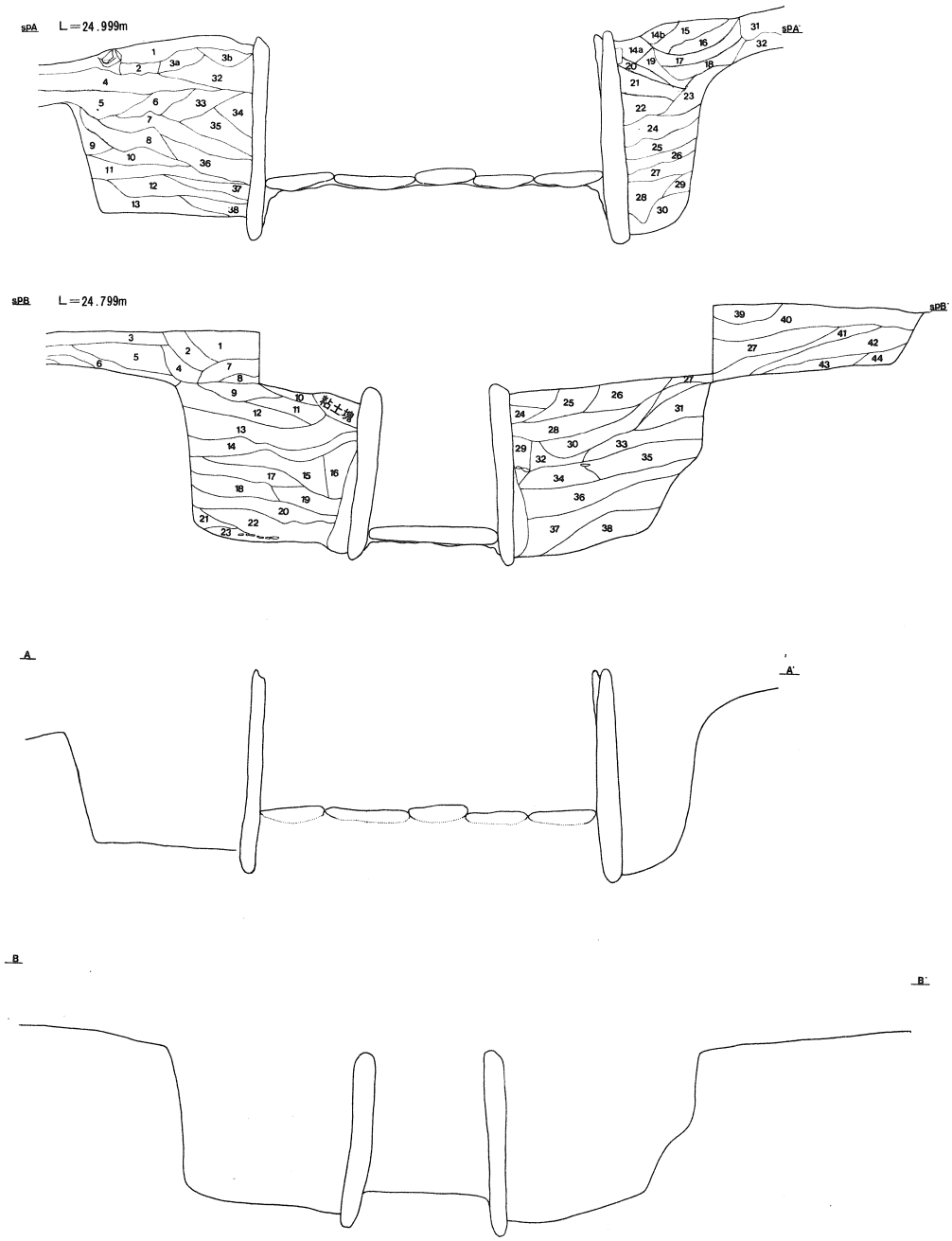
第173 図－2　松延 2 号古墳主体部石棺展開図



第 174 図－1　松延 2 号古墳主体部実測図



第 174 図－2　松延 2 号古墳主体部平面図



第175図　松延2号古墳主体部土壙断面図

松延2号古墳主体部土壙断面図土層解説 7.5YR Hue 使用

A－A′

1層　4/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有しボロボロしている。

2層　3/1　黒色　極少量のハードローム粒（2mm前後）を含有ししまりを帯ている。

3層a　4/6　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，さらさらしている。

4層　5/6　明褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。

5層　4/6　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～3cm）を含有し若干しまりを帯ている。

6層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）及び少量の2層のミキシング土であり若干しまりを帯ている。

7層　4/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1cm前後）を含有ししまりを帯ている。

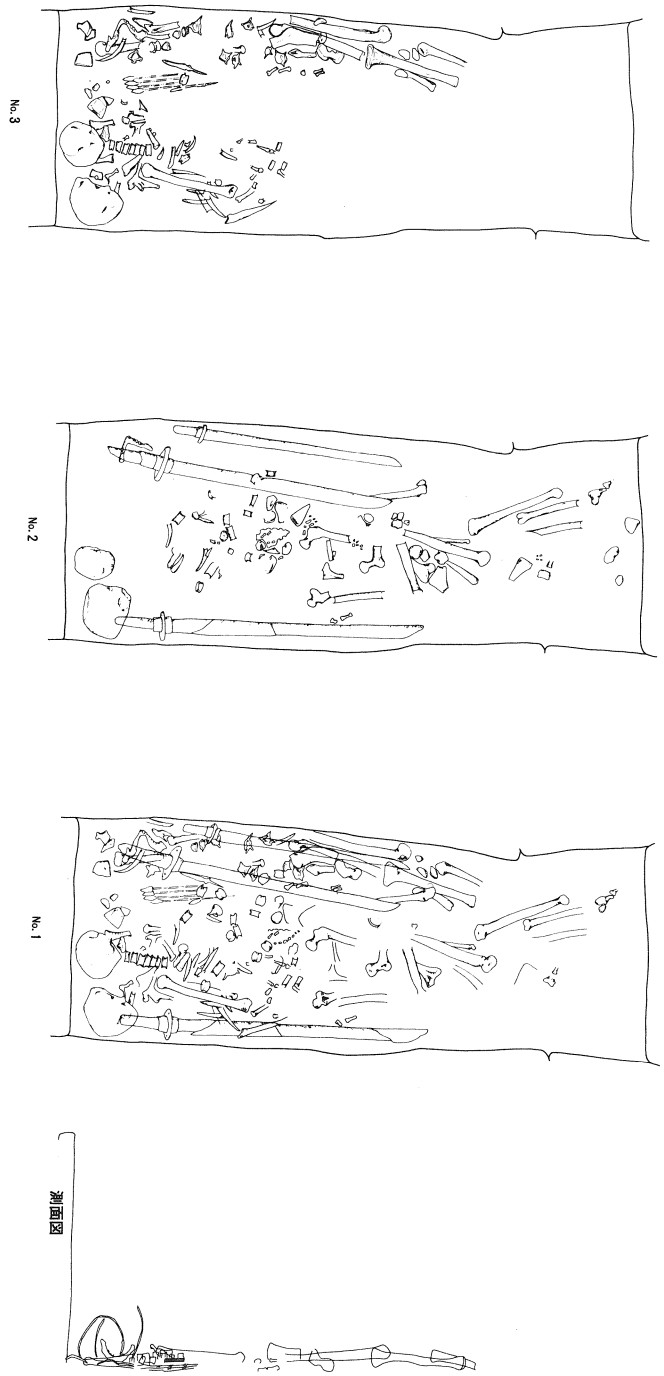
8層　3/4　暗褐色　極少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまり粘性ともに若干帯ている。

9層　4/4　褐色　極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。

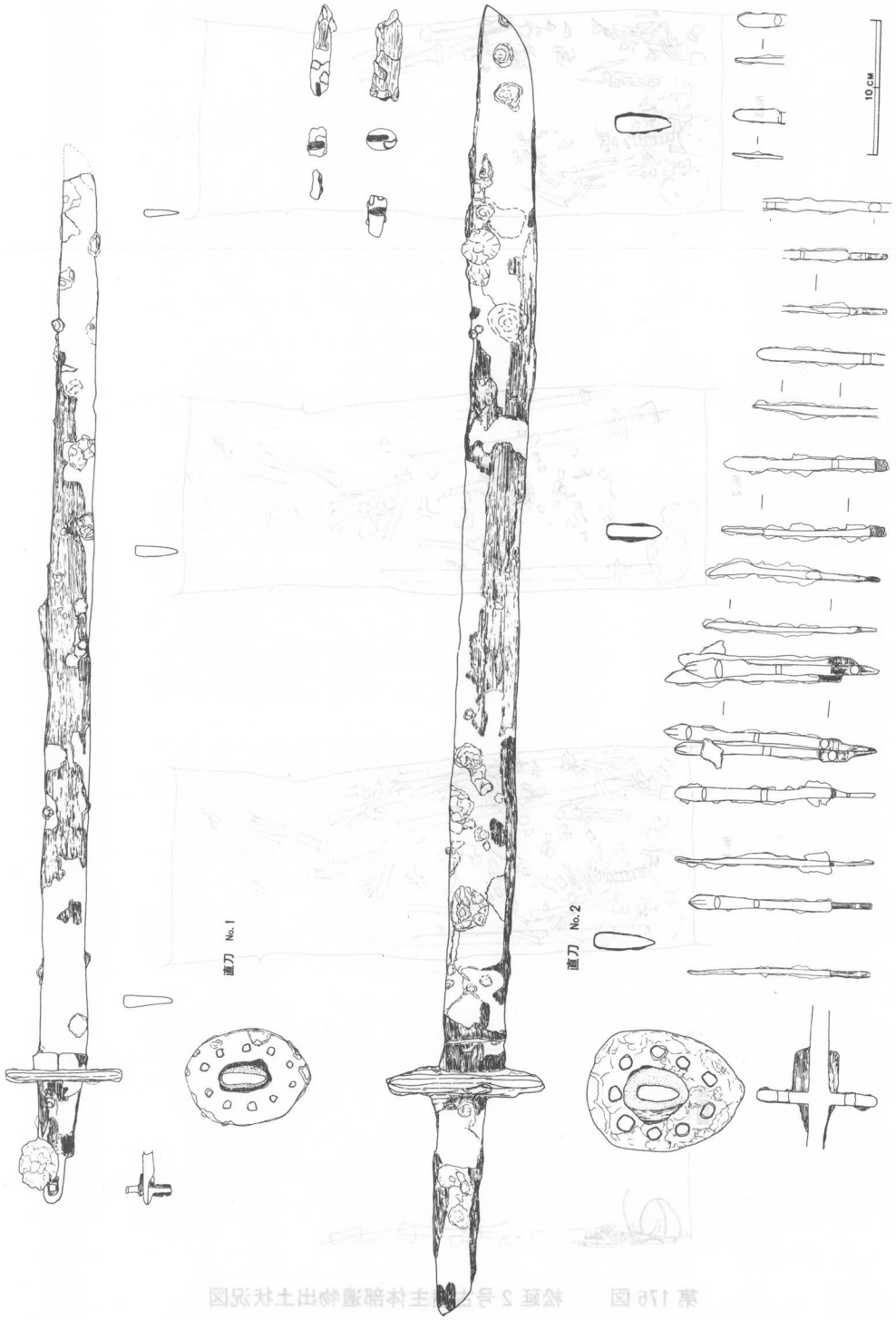
10層　5/6　褐色　少量のハードロームブロック（3cm前後）を含有し，しまり粘性ともに若干帯ている。
11層　5/6　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
12層　5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（3cm前後）を含有ししまりを帯ている。
13層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
14層a　粘土塊（青色粘土）
14層b　灰白色を呈する粘土塊であり少量の山砂を混入している。
15層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（5cm前後）及び14層a の粘土ブロック（1cm前後）を含有し，ボロボロしている。
16層　5/4　褐色　少量の14層a 粘土ブロック（5mm～2cm）及びハードロームブロック（2cm前後）を含有し，しまりを帯ている。
17層　5/6　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～4cm）を含有し，しまりを帯ている。
18層　5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
19層　5/6　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
20層　3/1　黒色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有した黒色土であり，しまりを帯ている。
21層　5/6　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～2cm）を含有し，しまりを帯ている。
22層　5/6　褐色　少量のハードロームブロック（1～2cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
23層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有し，しまりを帯ている。
24層　5/6　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～2cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
25層　5/6　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまりを帯ている。
26層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（3cm前後）を含有し，しまりを帯ている。
27層　5/6　褐色　少量のハードロームブロック（1～2cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
28層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（2cm前後）を含有し，しまり粘性ともに帯ている。
29層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び極少量の20層を含有し，しまり粘性ともに帯ている。
30層　5/6　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，しまり粘性ともに帯ている。
31層　5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1mm～1cm）を含有し，しまりを帯ている。
32層　3/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまり粘土ともに帯ている。
33層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，しまりを帯ている。
34層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び極少量の粘土粒を含有し，若干しまりを帯ている。
35層　5/4　褐色　極少量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し，しまりを帯ている。
36層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1～5cm）を含有し，しまり粘性ともに帯ている。
37層　5/6　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまりを帯ている。
38層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，若干しまりを帯ている。

B－B′

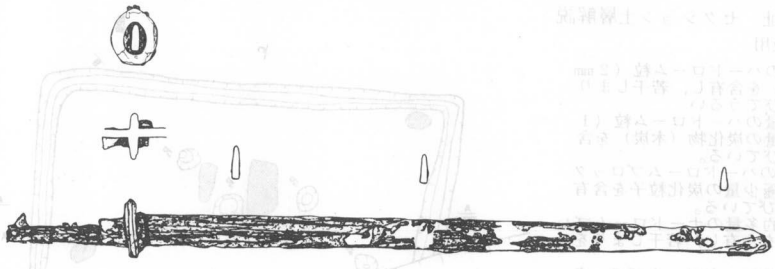
1層　6/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（2cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
2層　3/3　黒褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
3層　5/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
4層　5/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
5層　3/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまりを帯ている。
6層　3/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
7層　6/5　明褐色　ハードロームブロック（1cm前後）を主体とし，しまりを帯ている。
8層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び少量の黒色土を含有し若干しまりを帯ている。
9層　6/4　褐色　ハードロームブロック（1～3cm）を主体とし，ゴツゴツしている。
10層　5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
11層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び少量の黒色土を混在し若干しまりを帯ている。
12層　5/3　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～3cm）及び部分的に黒色土のブロック（10cm）が見られる。若干しまりを帯ている。
13層　5/4　褐色　ハードロームブロック（2mm～3cm）を主体とし，ごく少量の黒色土を混在し，非常にしまりを帯ている。
14層　3/3　黒褐色　比較的多量のハードロームブロック（2mm～1cm）を含有し，しまりを帯ている。
15層　3/4　褐色　ハードロームブロック（5mm～2cm）及び黒色土の混在土層であり若干しまりを帯ている。
16層　6/4　褐色　ハードロームブロック（1～3cm）を主体とし若干しまりを帯ている。
17層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有ししまりを帯ている。
18層　3/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び黒色土の混在土層であり若干しまりを帯ている。
19層　5/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
20層　5/4　褐色　比較的多量のハードローム粒（2mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
21層　3/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
22層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1～5cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
23層　6/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまり粘性ともに帯ている。
24層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）及び少量の粘土塊を混在ししまりを帯ている。
25層　5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（3mm～2cm）を含有し，しまりを帯ている。
26層　5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（2mm～1cm）を含有し，若干しまりを帯ている。
27層　6/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1cm～5cm）を含有し，しまりを帯ている。
28層　5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm前後）及び少量の黒色土及びごく少量の粘土ブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりを帯ている。
29層　6/6　明褐色　ハードローム粒（1～5mm）を主体とし若干しまりを帯ている。
30層　6/4　褐色　ハードロームブロック（5mm前後）を主体とし，しまりを帯びている。
31層　5/4　褐色　ハードロームブロック（5mm～1cm）を主体とし，非常にしまりを帯びている。
32層　6/4　褐色　ハードロームブロック（1cm前後）を主体とし，若干しまりを帯びている。
33層　6/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm前後）及び少量の黒色土を混在し若干しまりを帯びている。
34層　5/4　褐色　ハードロームブロック（5mm～3cm）を主体とし非常にしまりを帯びている。
35層　3/4　褐色　ハードロームブロック（1～2cm）を主体とし，非常にしまりを帯ている。
36層　6/4　褐色　ハードロームブロック（5mm～3cm）を主体とし，しまりを帯びている。
37層　6/4　褐色　ハードロームブロック（2cm前後）を主体とし，非常にしまりを帯びている。
38層　5/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～3cm）及び少量の黒色土を混在し若干しまりを帯びている。
39層　6/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯びている。
40層　5/4　褐色　比較的多量のハードームブロック（5mm～3cm）を含有し，若干しまりを帯びている。
41層　5/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまりを帯びている。
42層　3/3　黒褐色　少量の褐色土を混在ししまりを帯ている。
43層，44層　地山



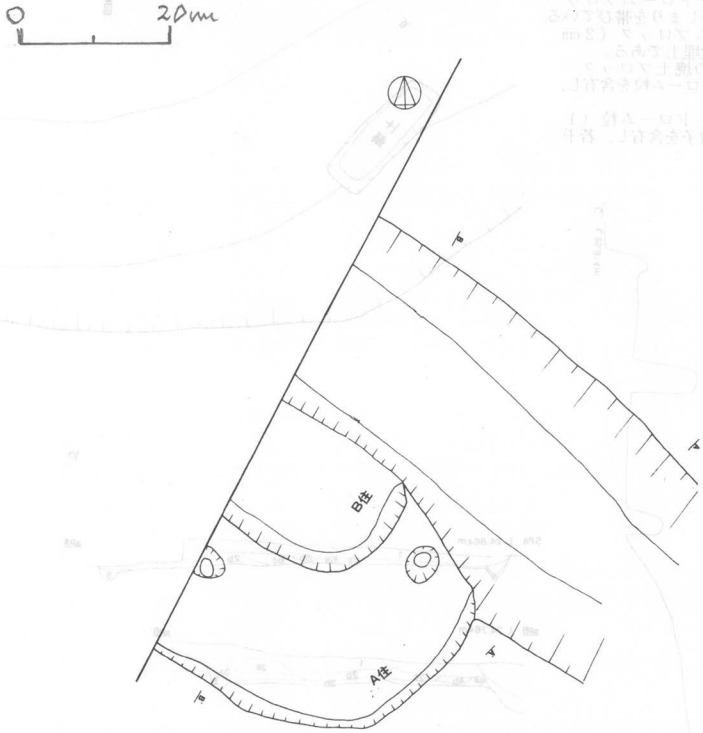
第 176 図　　松延 2 号古墳主体部遺物出土状況図



第 177 図　　松延 2 号古墳石棺内出土遺物実測図



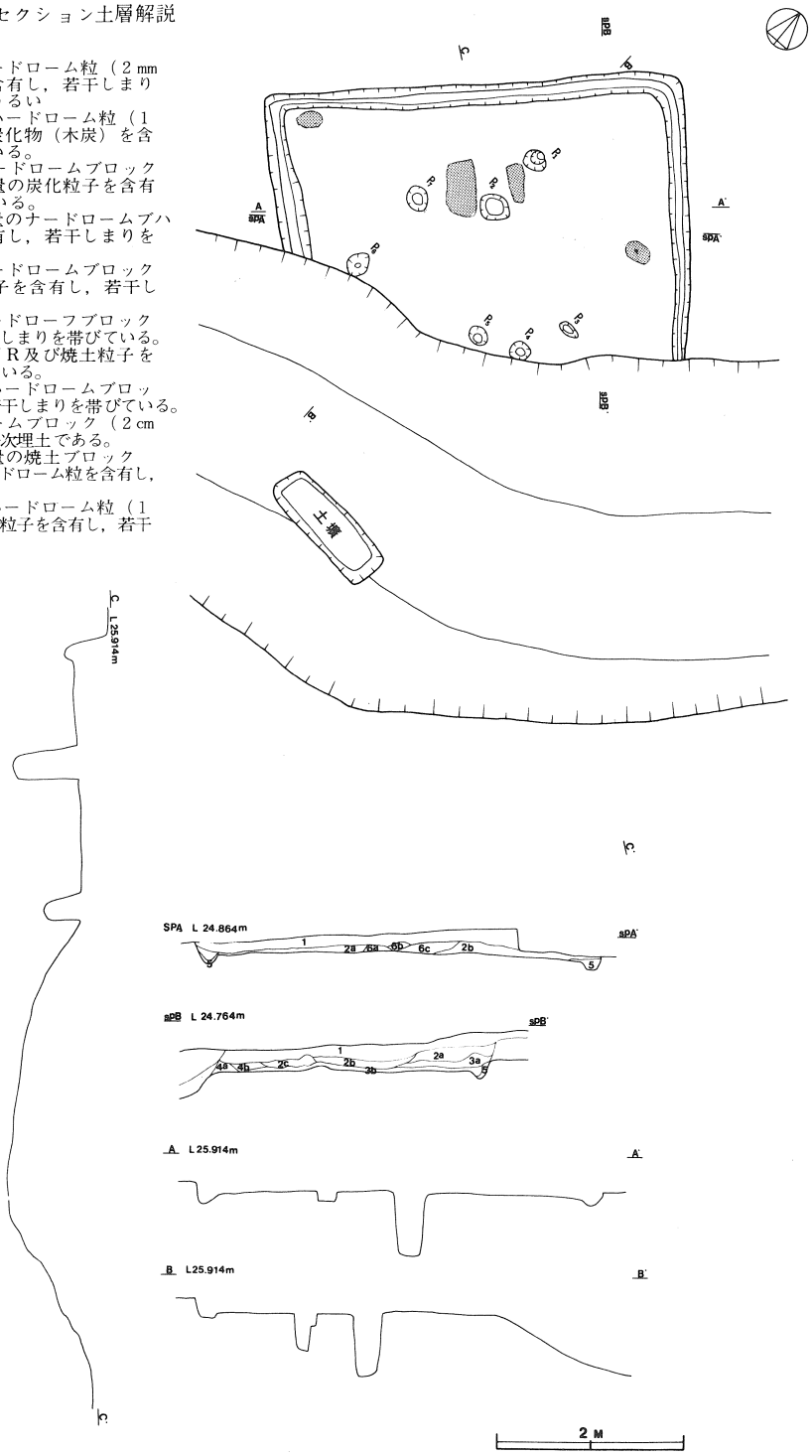
第 178 図－1　松延 2 号古墳石棺出土遺物実測図



第 178 図－2　松延 2 号古墳1 号住居址実測図

松延２号　墳丘下住居址　セクション土層解説
Ａ－Ａ'
Ｂ－Ｂ'　Hue 7.5YR 使用

１層　3/3　暗褐色　少量のハードローム粒（２mm前後）を含有し，若干しまりを帯びてうるい
２層ａ 3/2　黒褐色　極少量のハードローム粒（１mm前後）ＹＰ及び少量の炭化物（木炭）を含有し若干しまりを帯びている。
２層ｂ 3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（１mm～１cm）及び極少量の炭化粒子を含有し，若干しまりを帯びている。
２層ｃ 3/4　暗褐色　比較的多量のナードロームブハロック（５mm前後）を含有し，若干しまりを帯びている。
３層ａ 3/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（１cm前後）及び炭化粒子を含有し，若干しまりを帯びせいる。　て
３層ｂ 3/4　暗褐色　少量のハードローフブロック（１cm前後）を含有し，若干しまりを帯びている。
４層ａ 3/4　暗褐色　極少量のＹＲ及び焼土粒子を含有し，若干しまりを帯びている。
４層ｂ 4/3　褐色　極少量のハードロームブロック（１cm前後）を含有し，若干しまりを帯びている。
５層　4/6　褐色　ハードロームブロック（２cm前後を主体とした，所謂第一次埋土である。
６層ａ 3/4　暗褐色　比較的多量の焼土ブロック（５mm前後）及び少量のハードローム粒を含有し，若干しまりを帯びている。
６層ｃ 3/2　黒褐色　極少量のハードローム粒（１mm前後）及び炭化粒子，焼土粒子を含有し，若干しまりを帯びている。



第 179図　松延２号古墳－土壙・住居址実測図

松延３号　松延住居址炉セクション土層解説

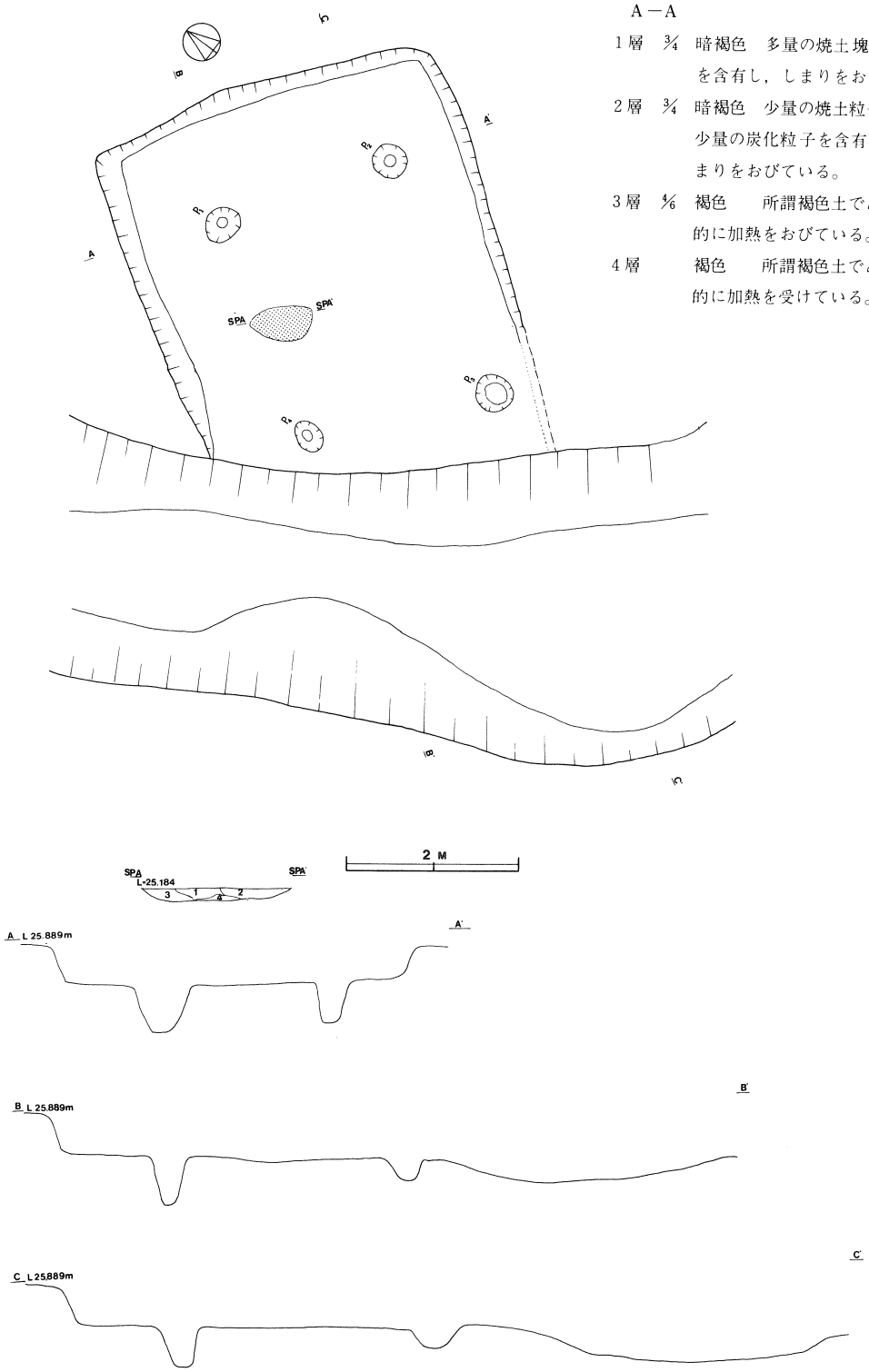
Ａ－Ａ

１層　3/4　暗褐色　多量の焼土塊（１cm前後）を含有し，しまりをおびている。

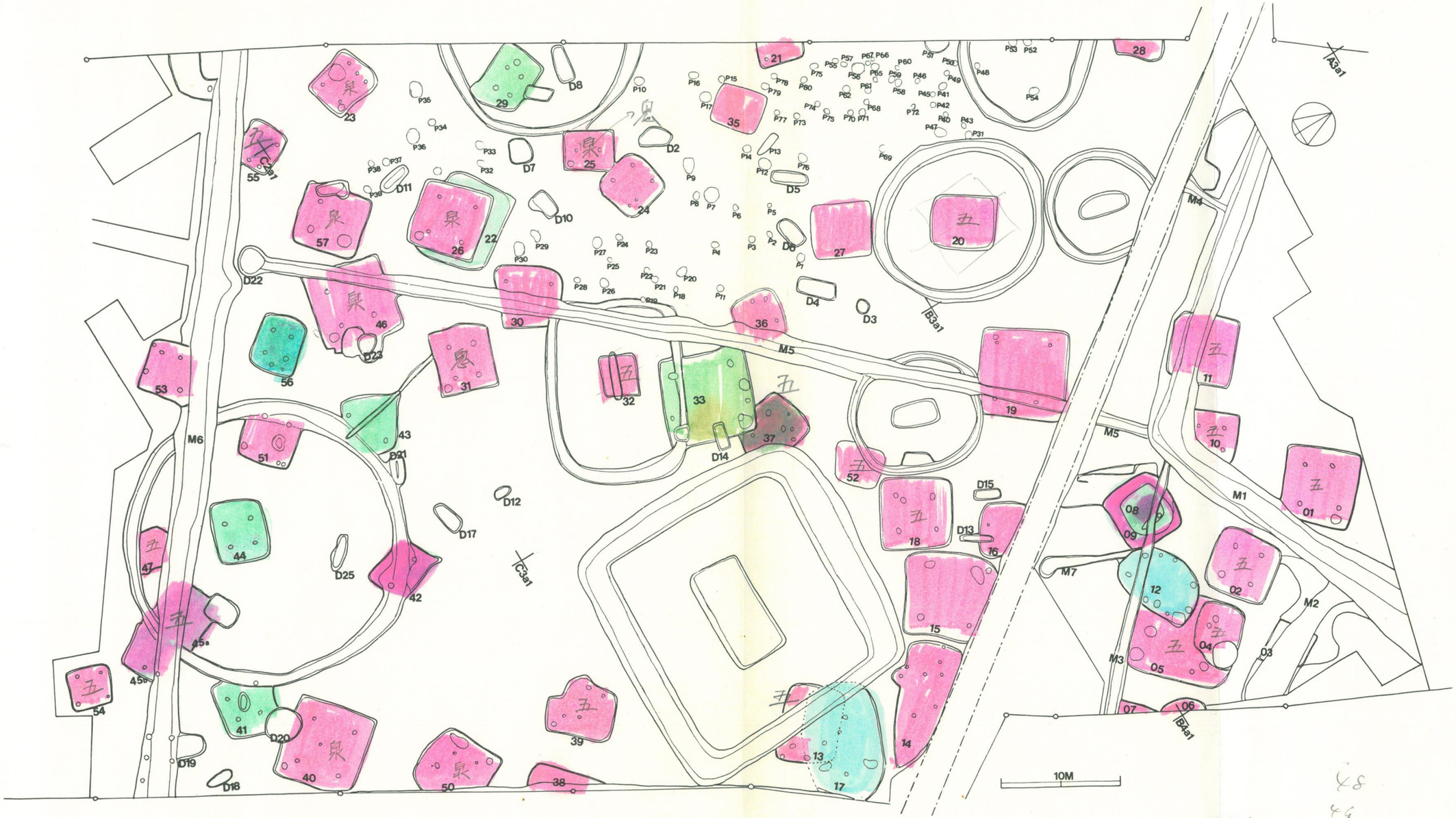
２層　3/4　暗褐色　少量の焼土粒子および極少量の炭化粒子を含有し，若干しまりをおびている。

３層　4/6　褐色　所謂褐色土であり，部分的に加熱をおびている。

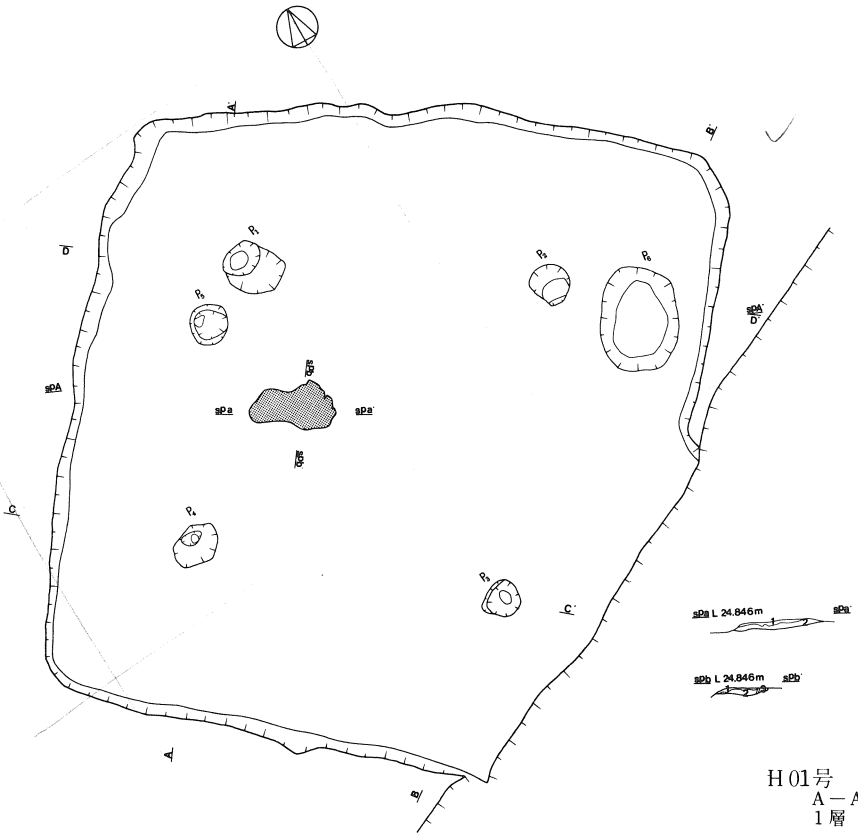
４層　　褐色　所謂褐色土であり，部分的に加熱を受けている。焼土かたい。

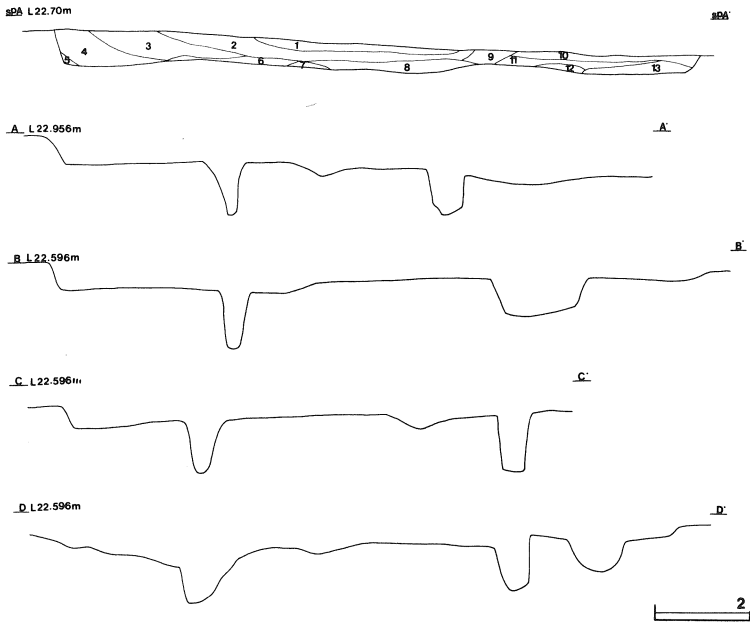


第 180 図　　松延２・３号古墳住居址実測図



第181図　志筑遺跡　遺構位置図





H01号　セクション土層解説

A－A′

1層　黒色土　ローム粒子少量含まれる。

2層　暗褐色　ローム粒子1層より多量。

3層　黒褐色　しまりがある。

4層

5層　黒色土　ローム粒子及びロームブロックを含有。

6層　黒褐色　ローム粒子が含まれている。しまっている。

7層　床面の一部でひじょうに固い。

8層　暗褐色　炭化物が含まれ，ローム粒子が多量でやわらかい。

9層　木の根による攪乱

10層　黒色土　ローム粒子，少量含まれる。

11層　暗褐色　ローム粒子含有，しまっている。

12層　暗褐色　ロームブロック及びローム粒子が含有され，非常に固い。

13層　黒褐色

a－a′ 焼土セクション土層解説

1層　黒色土混入

2層　焼土

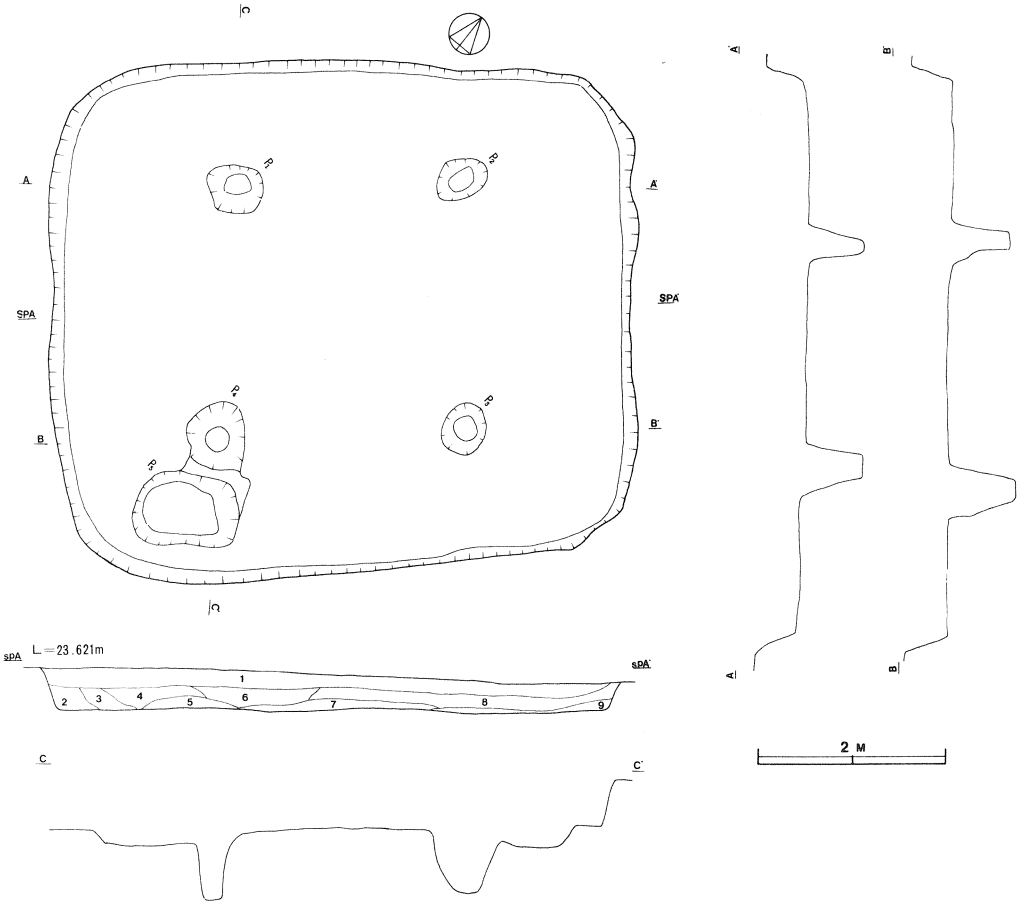
b－b′

1層　黒色土混入

2層　焼土

3層　攪乱

第182図　志筑遺跡01号住居址実測図



第 183 図　　志筑遺跡02号住居址実測図

H 02号　セクション土層解説

A－A′

1 層　黒色土の中にローム粒子を多く含んでいる。木の根により攪乱している所がある。

2 層　黒褐色の中にローム粒子，及びロームブロックをふくみ，砂が多く含まれ，やわらかである。

3 層　黒褐色であり，ローム粒子を含む。しまりのある層である。

4 層　暗褐色土である。ところどころにロームブロックが含まれる。

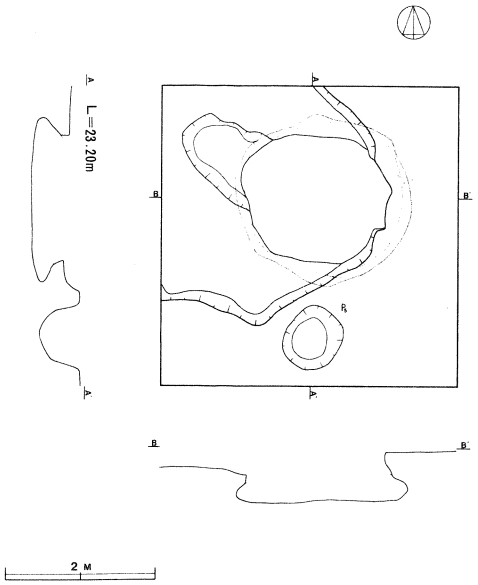
5 層　暗褐色土であり，ロームブロックが混入する。

6 層　暗褐色土であり，ローム粒子がふくまれる。しまりがある。

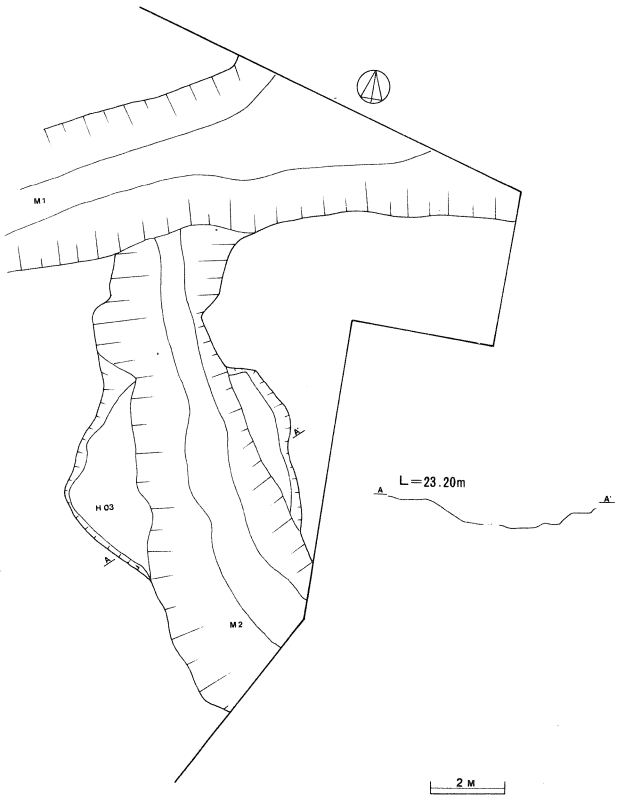
7 層　暗褐色土であり，ロームブロック・ローム粒子が含まれる。5 層よりしまりがある。

8 層　黒褐色であり，ローム粒子が入りこんでいるが，木の根により，やわらかい。

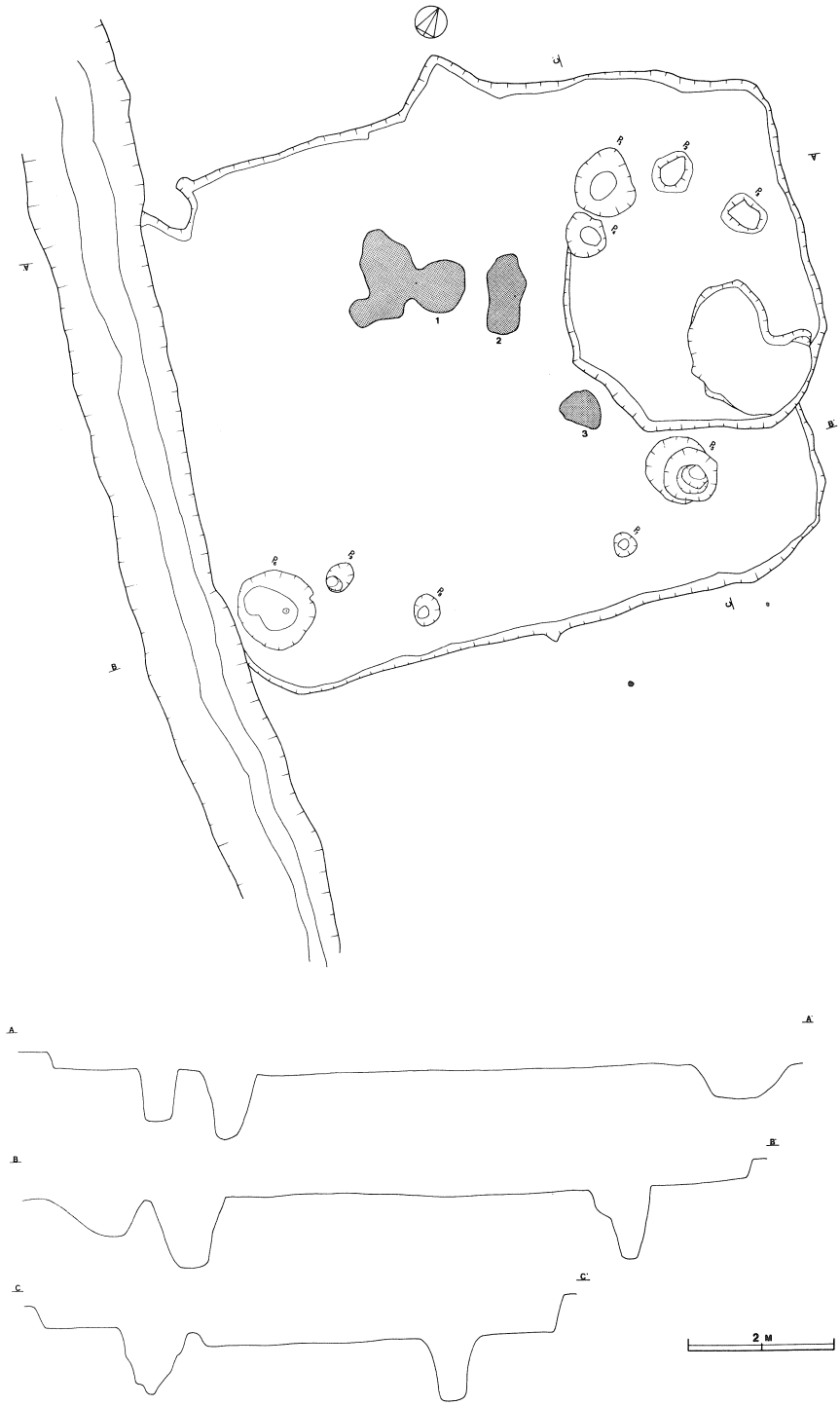
9 層　黒色土の中にローム粒子及びロームブロックがある。全体的にはかたい。



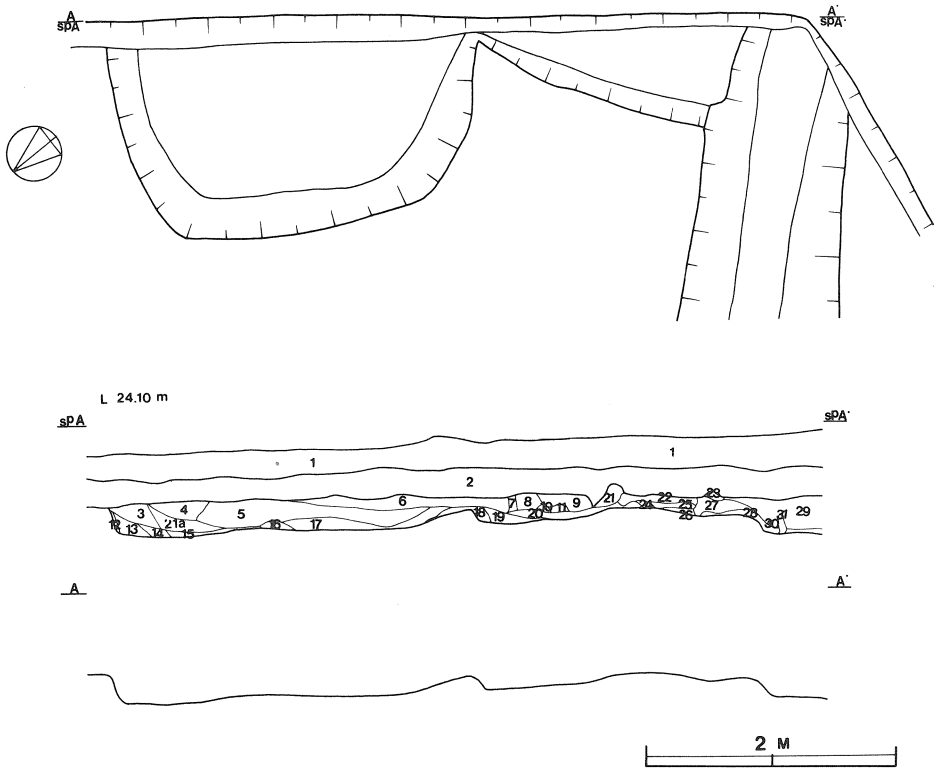
第 184 図　　志筑遺跡04号住居址内フラスコ形土壙実測図



第 185 図　　志筑遺跡03号住居址実測図



第 186 図　　志筑遺跡04・05号住居址実測図



第187図　志筑遺跡06・07号住居址実測図

H06・07号　セクション土層解説

A－A′

1層 Hue 7.5YR 3/4　耕作土

2層　7.5YR 3/2　黒褐色土　ローム粒少量を含み，しまり弱く，粒子はやや粗い。

3層　7.5YR 2/1　黒色土　ローム粒子は全く含まない。しまりはやや強い，粒子は細かい，ややねばりがある。

4層　7.5YR 3/2　黒褐色土　2層よりロームやや多い。しまりはやや強い，粒子は細かい。

5層　7.5YR 2/3　極暗褐色　細微なロームを少量含む，しまりは弱い，粒子は細かい。

6層　7.5YR 3/2　黒褐色土　ロームは極く少量，しまりは弱い，粒子は細かい。

7層　2/3　木の根による攪乱。

8層　7.5YR 3/3　極暗褐色土　細微なロームを少量含む。しまりはふつう，粒子はやや粗い。

9層　7.5YR 2/2　暗褐色土　ローム粒は8層より多く，10層より少ない。しまりはふつう，粒子は細かい。

10層　7.5YR 3/4　＋7.5 5/6　ローム質土が多い，しまりはふつう。ねばりがある。

11層　7.5YR 3/4　暗褐色土　9層よりロームは少ない。しまりはややつよい。

12層　7.5YR 2/3　極暗褐色土　細微なロームを少量含み，しまりは強い，粒子は細かい。

13層　7.5YR 3/2　黒褐色土　細微なロームを少量含む。しまりは強い，粒子は細かい。

14層　7.5YR 3/4　暗褐色土　細微なロームは12・13層よりやや多く，しまりは強い，粒子は細かい。

15層　7.5YR 2/3　極暗褐色土　細微なロームは12・13層よりやや多く，しまりは強い。粒子は細かい。

16層　7.5YR 2/3　極暗褐色土　ロームブロックを含む（2cm），しまりは強い，粒子は細かい，ねばり強い。

17層　7.5YR 3/2　黒褐色土　ローム粒を含む。しまりはふつう。粒子は細かい。

18層　7.5YR 3/4　暗褐色土　ローム粒含む。しまりはつよい。ねばりがある。

19層　7.5YR 5/6　明褐色土　黒色粒少量を含み，しまりは18層よりやや弱い。

20層　7.5YR 2/3　極暗褐色土　ローム少量を含む。しまりはつよく，ねばりがある。

21層　7.5YR 2/3　極暗褐色土　ローム粒少量を含む。しまりはよわい。粒子はやや粗い。

21層　7.5YR 3/3　暗褐色土　微細なローム粒を含む。しまりはやや強い。ややねばりがある。

22層　7.5YR 2/3　極暗褐色土　微細なローム粒とともに，オレンジ色の粒子も少量含む。ロームは22層より多い。しまりはふつう。粒子は細かくややねばりがある。

23層　7.5YR 5/6・3/2　ロームブロックの崩壊したものらしい。もろくバラバラである。

24層　7.5YR 3/2　黒褐色土　ローム粒は少ない。しまりは強い。粒子は細かく，ねばりがある。

25層　7.5YR 3/2　黒褐色土　ローム粒は少ない。しまりは強い。粒子は細かくねばりがある。

26層　7.5YR 2/3　極暗褐色土　25層よりロームは多い。しまりは強い。かたい。粒子が細かくねばりがある。

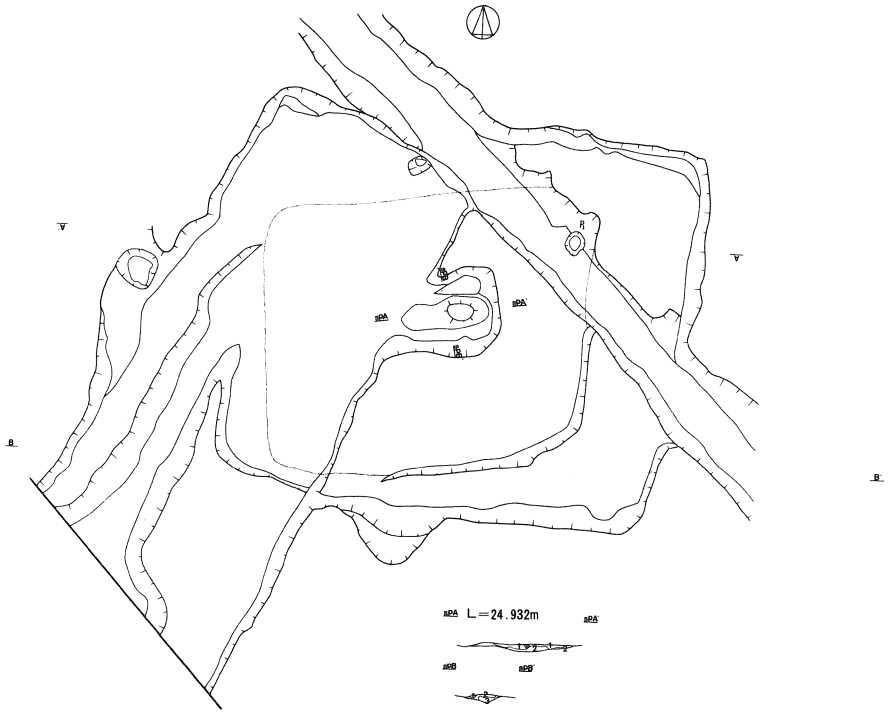
27層　7.5YR 3/2　黒褐色土　ローム粒は少ない。しまりはやや弱い。粒子は細かく，ねばりがある。

28層　7.5YR 3/2　黒褐色土　ローム粒は28層よりかなり多い。しまりは強い。粒子は細かくねばりがある。

29層　7.5YR 3/2　黒褐色土　ローム粒はほとんど含まない。しまりは弱い。粒子はやや粗い。

30層　7.5YR 5/8　明褐色　ロームブロック

31層 7.5YR 5/6・3/2　明褐色・黒褐色　ロームは少ない。しまりは強い。粒子は細かく，ねばりがある。



H08・09　セクション土層解説

A－A′

1層　炭化物を含み赤褐色土でやわらかい。

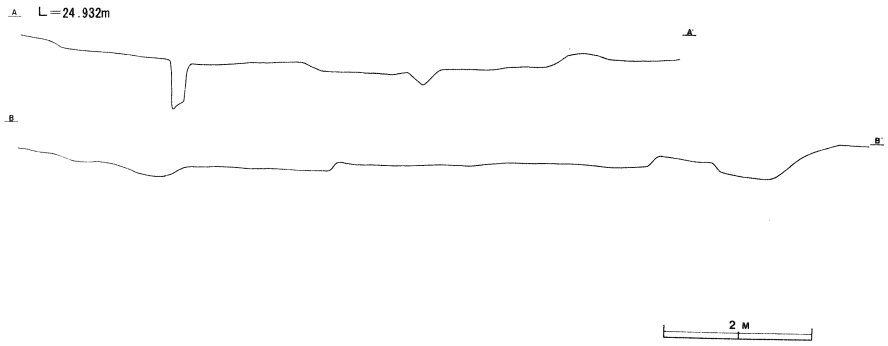
2層　ロームブロックであり焼土である。
赤褐色でありかたい。

B－B′

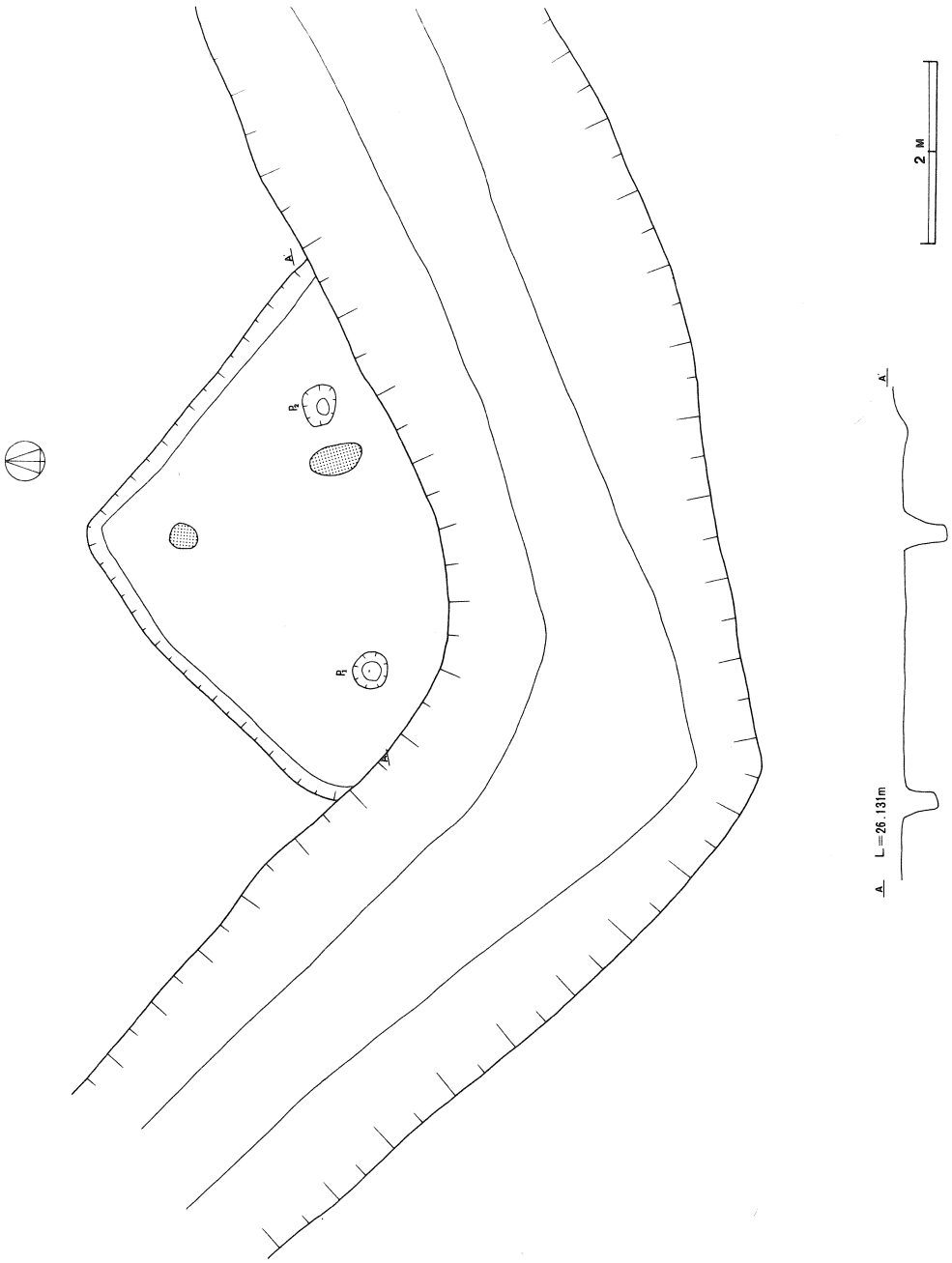
1層　炭化物を含み赤褐色土でやわらかい。

2層　炭化物を含み少量黒色土が含まれる。ややかたい。

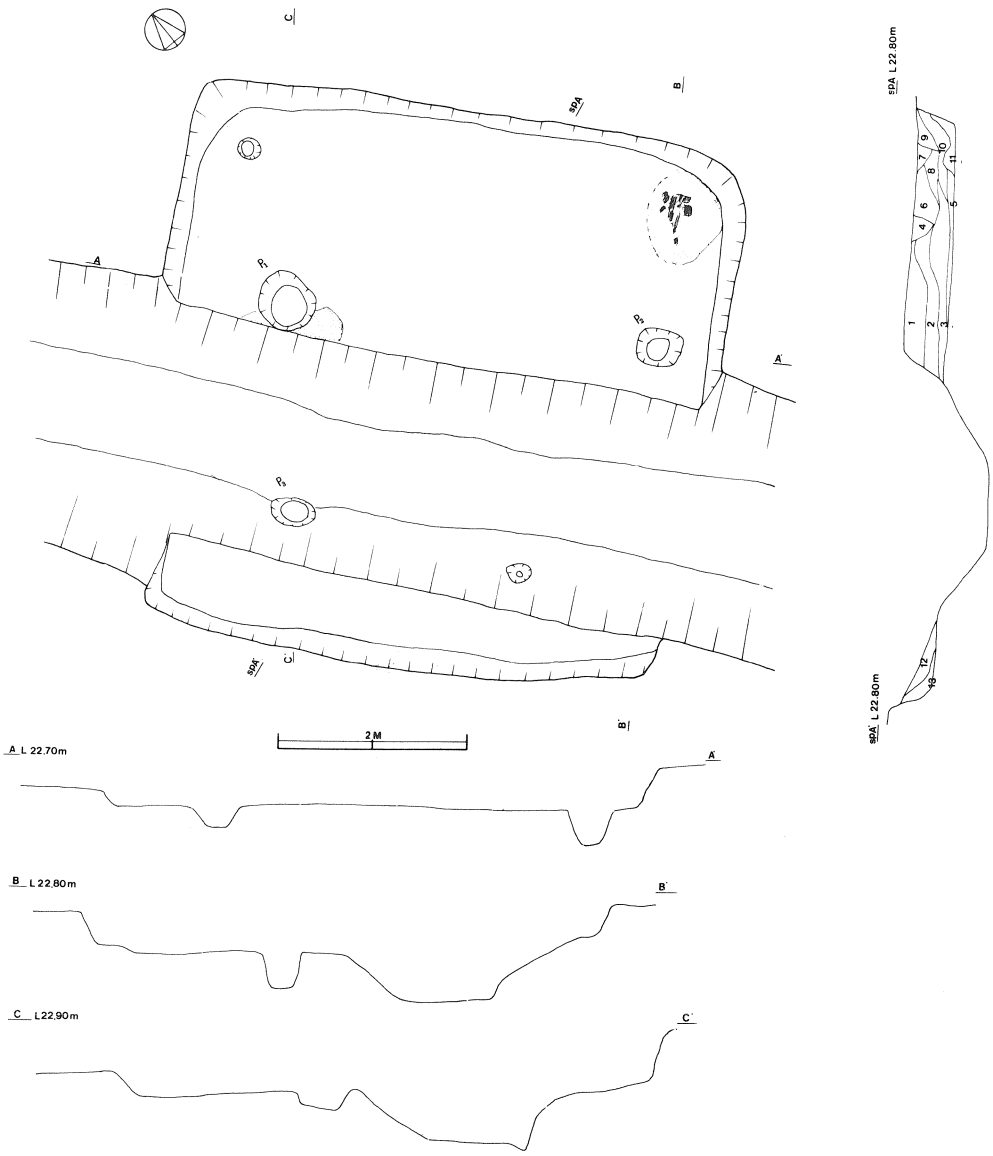
3層　2層と同じ。



第188図　志筑遺跡08・09号住居址実測図

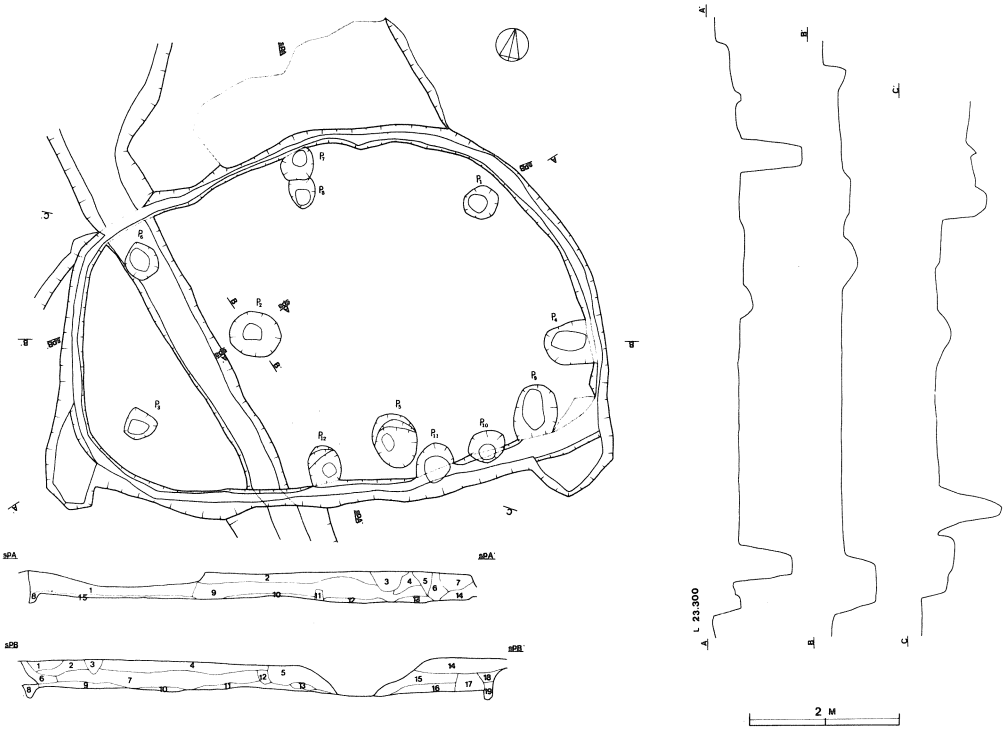


第 189 図　　志筑遺跡10号住居址実測図



第 190 図　　志筑遺跡11号住居址実測図

H11　セクション土層解説
A－A′
1 層
2 層　暗褐色　ローム粒少量含む。
3 層
4 層　暗褐色　ロームなし，耕作土のつづき。
5 層
6 層　暗褐色　ローム粒含む，しまりがややつよい。
7 層　暗褐色　ロームなし。
8 層　にぶい暗褐色　ロームを含む。
9 層　暗褐色　ローム粒子を含む。
10層　黒褐色　ローム粒子を含む。
11層　暗褐色　ロームブロックを多く含む，しまりつよい。
12層　黒褐色　ローム粒子を含む。
13層　暗褐色　ロームブロックを多く含む，しまりつよい。



第 191 図　　志筑遺跡12号住居址実測図

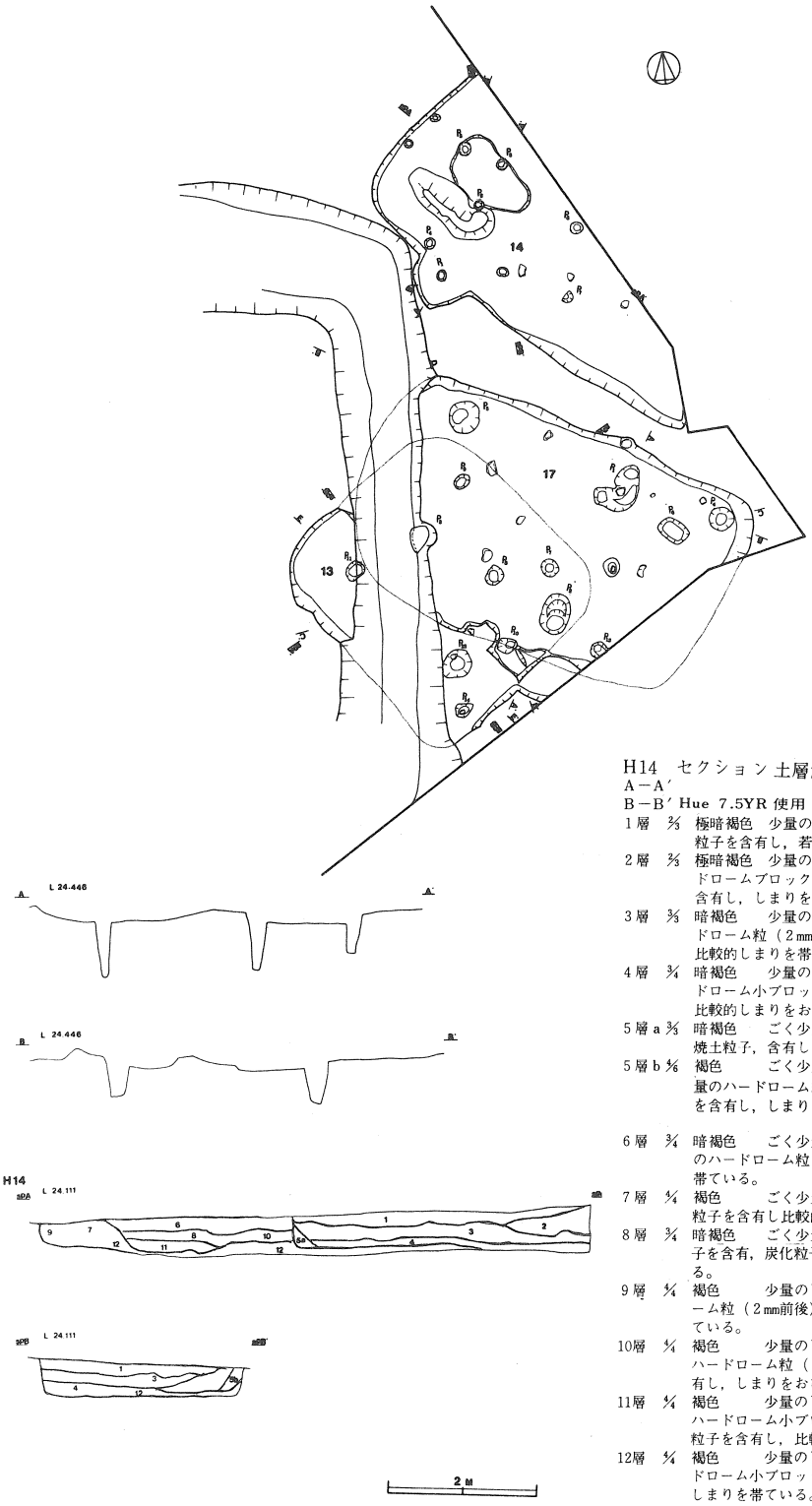
H 12　（炉を含む）セクション土層解説

A－A′

1 層 Hue 7.5YR 5/2　灰褐色
2 層　7.5YR 4/3　褐色
3 層　7.5YR 3/4　暗褐色
4 層　7.5YR 4/6　褐色
5 層　7.5YR 3/4　暗褐色
6 層　7.5YR 3/3　暗褐色
7 層　7.5YR 4/6　褐色
8 層　7.5YR 5/8　明褐色
9 層　7.5YR 4/4　ローム粒混　褐色
10層　7.5YR 4/6　褐色
11層　ロームブロック
12層　7.5YR 4/6　褐色
13層　7.5YR 4/4　ローム多い　褐色
14層　7.5YR 5/6　明褐色
15層　7.5YR 4/6　褐色
しまりは全体につよくかたい。

B－B′

1 層
2 層
3 層　かくらん
4 層
5 層Hue 7.5YR 4/4　褐色
6 層
7 層Hue 7.5YR 4/4　ローム粒混　褐色
8 層Hue 7.5YR 5/8　明褐色
9 層Hue 7.5YR 4/6　褐色
10層Hue 7.5YR 4/6　褐色
11層Hue 7.5YR 4/6　褐色
12層　かくらん
13層　かくらん
14層Hue 7.5YR 4/4　褐色　ローム少ない。
15層Hue 7.5YR 4/4　褐色　ローム多い。
16層Hue 7.5YR 4/6　褐色　ローム多い。
17層Hue 7.5YR 4/6　褐色　左よりローム少ない。
18層Hue 7.5YR 4/4　褐色
19層Hue 7.5YR 5/8　明褐色



H14　セクション土層解説

A－A′

B－B′ Hue 7.5YR 使用

1層　3/3　極暗褐色　少量のＹＰ及びごく少量の焼土粒子を含有し，若干しまりをおびている。

2層　3/3　極暗褐色　少量のＹＰ及びごく少量のハードロームブロック（2～5mm）焼土粒子を含有し，しまりをおびている。

3層　3/3　暗褐色　少量のＹＰ及びごく少量のハードローム粒（2mm前後）焼土粒子を含有し比較的しまりを帯びている。

4層　3/4　暗褐色　少量のＹＰ及びごく少量のハードローム小ブロック（2～5mm）を含有し比較的しまりをおびている。

5層a 3/3　暗褐色　ごく少量のＹＰ及びごく少量の焼土粒子，含有し，比較的しまりを帯ている

5層b 4/6　褐色　ごく少量のＹＰ及びごくごく少量のハードローム粒（2mm前後）炭化粒子を含有し，しまりを帯ている。

6層　3/4　暗褐色　ごく少量のＹＱ及びごく微量ののハードローム粒を含有し比較的しまりを帯ている。

7層　4/4　褐色　ごく少量のＹＰ及び微量の焼土粒子を含有し比較的しまりをおびている。

8層　3/4　暗褐色　ごく少量のＹＰ及び微量焼土粒子を含有，炭化粒子比較的しまりを帯ている。

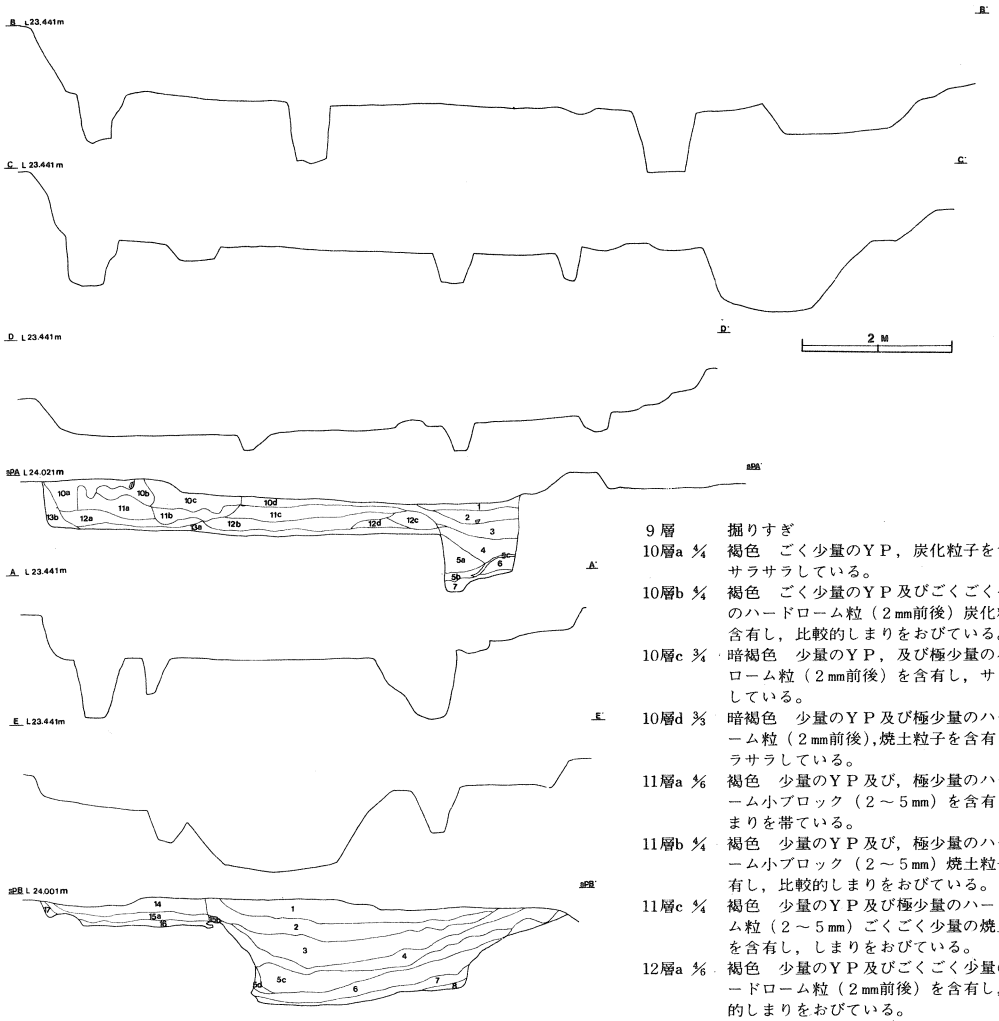
9層　4/4　褐色　少量のＹＰ及び微量のハードローム粒（2mm前後）を含有し，しまりを帯ている。

10層　4/4　褐色　少量のＹＰ及びごくごく少量のハードローム粒（2mm前後），炭化粒子を含有し，しまりをおびている。

11層　4/4　褐色　少量のＹＰ及びごくごく少量のハードローム小ブロック（2～5mm）炭化粒子を含有し，比較的しまりを帯ている。

12層　4/4　褐色　少量のＹＰ及びごく少量のハードローム小ブロック（2～5mm）を含有ししまりを帯ている。

第192図　志筑遺跡13・17号住居址実測図（1）



第 193 図　　志筑遺跡13・17号住居址実測図（2）

H 13・17号　セクション土層解説

Hue 7.5YR 使用

1 層　3/3　暗褐色　少量のＹＰ，及びごくごく少量のハードローム粒（2㎜前後）を含有し，サラサラしている。

2 層　3/2　黒褐色　少量のＹＰ，及び極少量のハードローム粒（2㎜前後）を含有し，若干しまりをおびている。

3 層　3/2　黒褐色　少量のＹＰ，及び極少量のハードローム小ブロック（2～5㎜），ごくごく少量の焼土粒子，比較的しまりを帯ている。

4 層　3/2　黒褐色　少量のＹＰ，及びごく少量のハードローム粒（2㎜前後）焼土粒子，炭化粒子を含有し，しまりを帯ている。

5 層a 4/4　褐色　少量のＹＰ，ハードローム粒（2㎜前後）及びごく少量の焼土粒子，炭化粒子を含有し，若干しまりをおびている。

5 層b 3/4　暗褐色　少量のＹＰ，ハードローム小ブロック（3㎝前後）及びごく少量の焼土粒子，炭化粒子を含有し，若干しまりを帯ている。

5 層c 3/3　暗褐色　少量のＹＰ，ハードローム粒（2㎜前後）及びごく少量の焼土粒子，炭化粒子を含有し，しまりをおびている。

5 層d 4/4　褐色　比較的多量のハードローム小ブロック(2～5㎜)及び少量のＹＰ，極少量の炭化粒子を含有し，ザラザラしている。

6 層　4/4　褐色　比較的多量のハードローム粒（2㎜前後）及び少量のＹＰ，極々少量の焼土粒子を含有し，ザラザラしている。

7 層　4/4　褐色　比較的多量のハードローム小ブロック（2～5㎜）及び少量のＹＰ，極々少量の焼土粒子，炭化粒子，比較的しまりをおびている。

8 層　4/4　褐色　少量のＹＰ，ハードローム小ブロック(5㎜前後)及び極少量の焼土粒子，炭化粒子を含有し，粘性をおびている。

9 層　掘りすぎ

10層a 4/4　褐色　ごく少量のＹＰ，炭化粒子を含有し，サラサラしている。

10層b 4/4　褐色　ごく少量のＹＰ及びごくごく少量のハードローム粒（2㎜前後）炭化粒子を含有し，比較的しまりをおびている。

10層c 3/4　暗褐色　少量のＹＰ，及び極少量のハードローム粒（2㎜前後）を含有し，サラサラしている。

10層d 3/3　暗褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードローム粒（2㎜前後），焼土粒子を含有し，サラサラしている。

11層a 4/6　褐色　少量のＹＰ及び，極少量のハードローム小ブロック（2～5㎜）を含有し，しまりを帯ている。

11層b 4/4　褐色　少量のＹＰ及び，極少量のハードローム小ブロック（2～5㎜）焼土粒子を含有し，比較的しまりをおびている。

11層c 4/4　褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードローム粒（2～5㎜）ごくごく少量の焼土粒子を含有し，しまりをおびている。

12層a 4/6　褐色　少量のＹＰ及びごくごく少量のハードローム粒（2㎜前後）を含有し，比較的しまりをおびている。

12層b 4/4　褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードローム小ブロック(5㎜前後)極々少量の炭化粒子を含有し，比較的しまりを帯ている。

12層c 4/4　褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードローム粒(2㎜前後)極々少量の焼土粒子を含有し，若干しまりを帯ている。

12層d 4/6　褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードローム粒（2㎜前後）炭化粒子を含有し，比較的しまりをおびている。

13層a 4/4　褐色　ごく少量のＹＰ及びごくごく少量の炭化粒子を含有し，しまりを帯ている。

13層b 4/4　褐色　少量のＹＰ及びごくごく少量のハードローム小ブロック（5㎜前後）を含有し，粘性を帯ている。

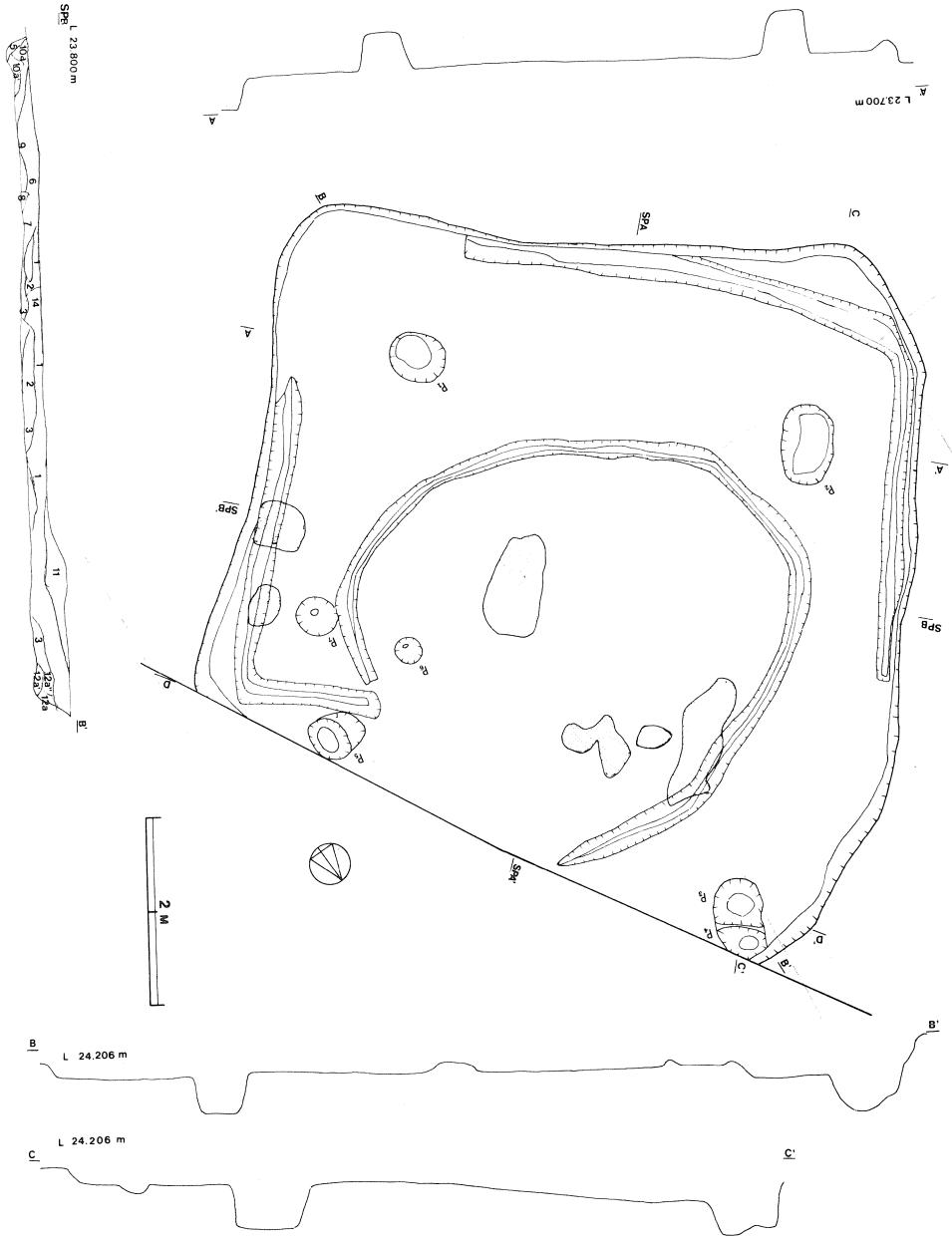
14層　3/3　暗褐色　少量のＹＰ及びごく少量のハードローム粒（2㎜前後）焼土粒子を含有し，サラサラしている。

15層a 3/3　暗褐色　少量のＹＰ及びごく少量のハードローム粒（2㎜前後）ごくごく少量の炭化粒子を含有し，若干しまりを帯ている。

15層b 4/4　褐色　少量のハードローム小ブロック（2～5㎜）及びごく少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。

16層　3/3　暗褐色　少量のＹＰ，及びごくごく少量のハードロームブロック（2～5㎜）焼土粒子を含有し，しまりを帯ている。

17層　4/6　褐色　ソフトロームを主体とし，壁面の崩壊によるものと思われる。



第194図　志筑遺跡15号住居址実測図

H 15　セクション土層解説

A－A′・B－B′

Hue 7.5YR 使用

1層　3/3　暗褐色　ごく少量のＹＰ，焼土粒子，炭化粒子を含有し，さらさらしている。

2層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）およびごく少量のＹＰを含有し，しまりをおびている。

3層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまりをおびている。

4層　3/3　暗褐色　ごく少量のＹＰ，ハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまりをおびている。

5層　5/4　褐色　ハードロームブロックを主体とし，しまりをおびている。（第1次埋土である）

6層　3/3　暗褐色　ごく少量のＹＰ，焼土粒子を含有し，若干しまりをおびている。

7層　3/3　暗褐色　ごく少量のＹＰ，炭化粒子を含有し，非常にしまりをおびている。

8層　3/4　暗褐色　ごく少量のＹＰを含有し，しまりをおびている。

9層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～3cm）を含有し，しまりをおびている。

10層a　3/4　暗褐色　ごく少量の焼土粒子，炭化粒子を含有し，しまりをおびている。

10層a　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまりをおびている。

11層　5/2　黒褐色　ごく少量のYPを含有し，さらさらしている。

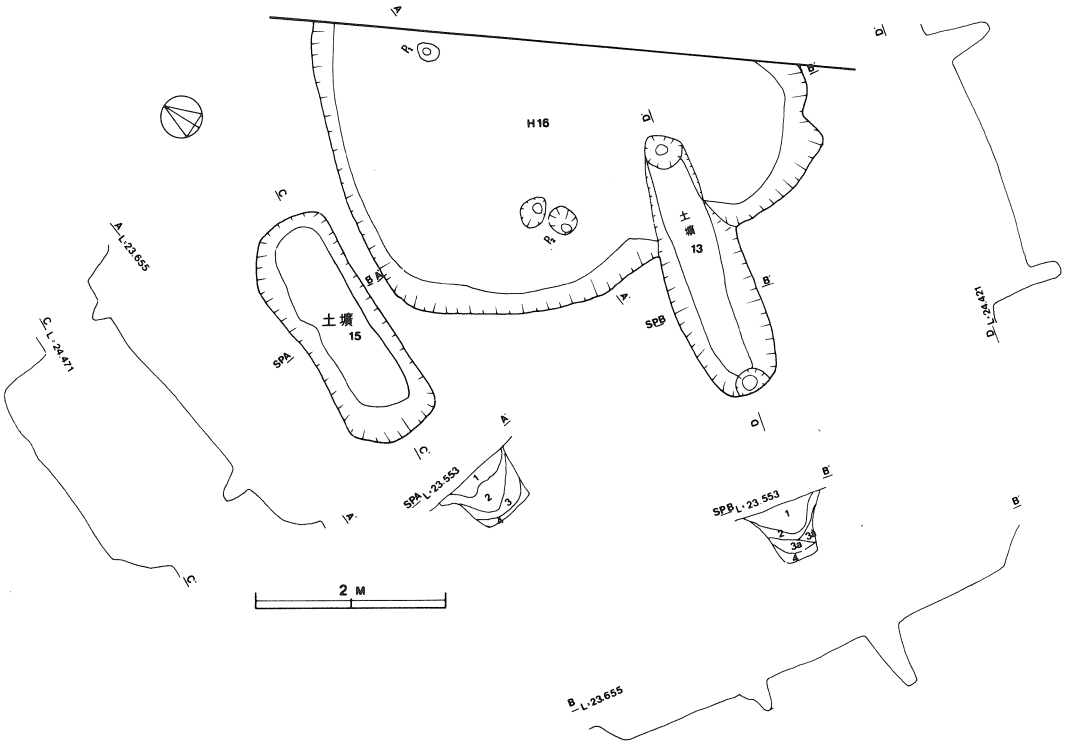
12層a　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまりをおびている。

12層a′　5/4　褐色　ハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまりをおびている。

12層a″　5/6　褐色　焼土粒子を多量に含有した土層であり，しまりをおびている。

13層　焼土魂

14層　撹乱



第 195図　志筑遺跡16号住居址土壙13・15号実測図

土壙15号土層解説
A－A′ Hue 7.5YR 使用

1層　3/3　暗褐色　少量のＹＰ，およびごく少量の炭化粒子を含有し，若干しまりをおびている。

2層　2/3　極暗褐色　少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。

3層　3/4　暗褐色　ごく少量のＹＰ，ハードロームブロック（5mm～3cm）を含有し，若干しまりをおびている。

4層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干粘性をおびている。

土壙13号土層解説
B－B′ Hue 7.5YR 使用

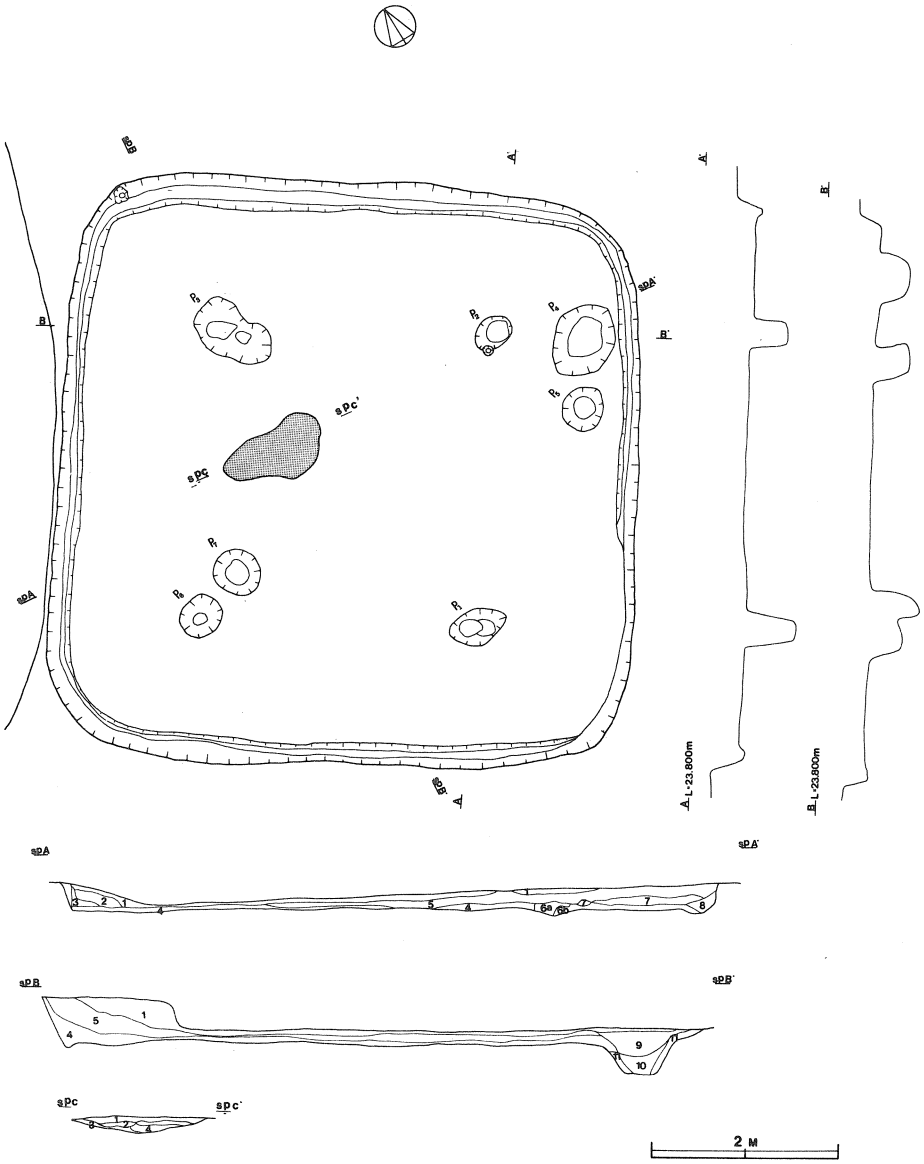
1層　3/3　黒褐色　ごく少量のＹＰおよび部分的にハードロームブロック（5cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

2層　3/2　黒褐色　ごく少量のＹＰ，ハードロームブロック（5cm前後）を含有し，若干粘性をおびている。

3層a 4/4　黒褐色　少量のハードロームブロック（3cm前後）を含有し，若干粘性をおびている。

3層b 3/2　褐色　少量のハードロームブロック（2cm前後）を含有し，若干粘性をおびている。

4層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（5cm前後）を含有し，粘性をおびている。



第 196 図　志筑遺跡18号住居址実測図

H18号セクション土層解説

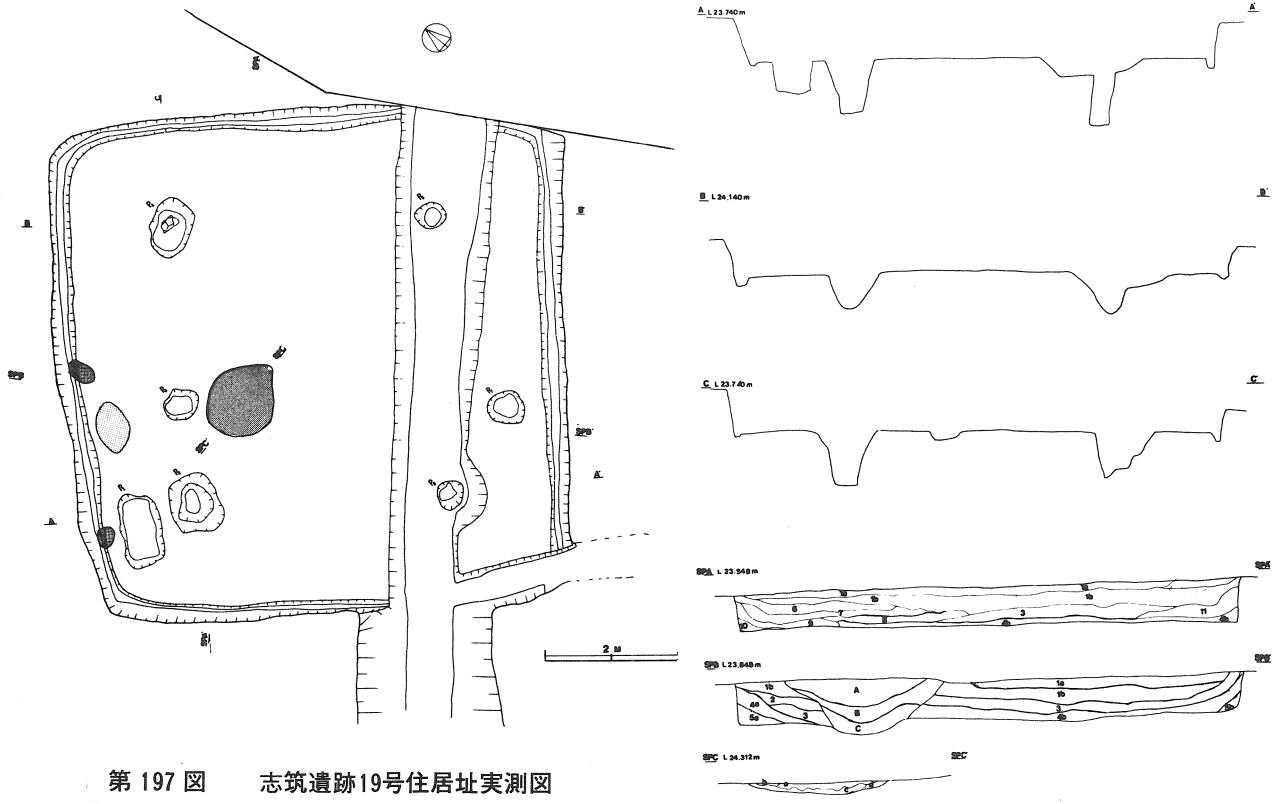
A－A
B－B　Hue 7.5YR 使用

1層	3/3	暗褐色	少量のＹＰ，ごく少量の炭化粒子を含有し，さらさらしている
2層	3/3	暗褐色	少量のＹＰを含有し，さらさらしている
3層	3/2	黒褐色	少量のハードロームブロック（5mm～2cm）および，ごく少量のＹＰを含有し，さらさらしている
4層	3/4	暗褐色	少量のハードロームブロック（2mm～2cm）を含有し，しまりをおびている。
5層	3/3	暗褐色	少量のＹＰ，ごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有ししまりをおびている
6層a	3/2	黒褐色	少量のＹＰ，ごく少量の焼土粒子を含有し，若干しまりをおびている
6層b	4/4	褐色	多量のＹＰを主体とし，比較的しまりをおびている
7層	3/3	暗褐色	少量のＹＰ，ハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまりをおびている。
8層	4/4	褐色	少量のハードロームブロック（2～5mm）を含有し，しまりをおびている
9層	2/2	黒褐色	ごく少量のＹＰを含有し，しまりをおびている
10層	3/1	黒色	ごく少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている
11層	2/2	黒褐色	少量のハードロームブロック（5mm～1cm）ＹＰを含有し，若干しまりをおびている

H18号　炉址　セクション土層解説

C－C′ Hue 7.5YR 使用

1層	3/3	暗褐色	少量の焼土粒子を含有し，さらさらしている
2層			焼土塊を主体とし，焼けておりかたい
3層	4/4	褐色	ハードロームブロックを主体としており，全体的に火焼を受けており，ガリガリしている
4層	3/4	暗褐色	ハードロームブロックを主体とし，部分的に火焼を受けておりガリガリしている



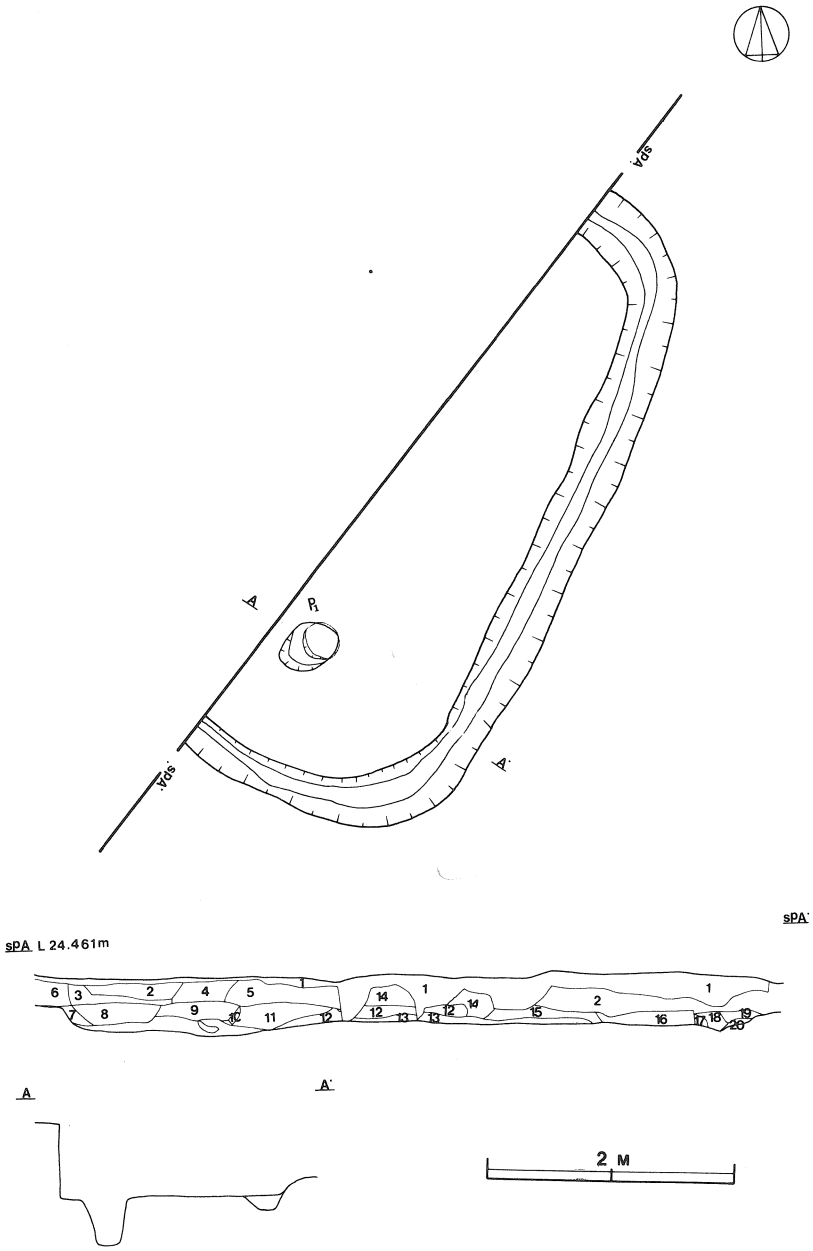
第 197 図　志筑遺跡19号住居址実測図

H19号　セクション土層解説
A－A′
B－B′　Hue 7.5YR 使用

1層a ⅗　暗褐色　ごく少量のＹＰを含有し，さらさらしている。
1層b ⅗　暗褐色　ごく少量のＹＰハードロームブロック（1cm前後）を含有し，さらさらしている。
2層　⅘　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）ＹＰを含有し，若干粘性をおびている。
3層　⅗　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し，若干しまりをおびている。
4層a ⅗　暗褐色　ごく少量のＹＰ，炭化粒子を含有し，若干しまりをおびている。
5層a ⅗　暗褐色　ごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまりをおびている。
A層　⅖　黒褐色　ごく少量のＹＰを含有し，さらさらしている。
B層　⅕　黒色　ごく少量のＹＰを含有し，さらさらしている。
C層　⅗　極暗褐色　ごく少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
4層b ⅖　黒褐色　少量のハードロームブロック（3mm～3cm）を含有し，しまりをおびている。
5層b ⅘　褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）を含有し，若干しまりをおびている。
6層　⅕　黒色　少量のＹＰ，及びごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまりをおびている。
7層　⅘　褐色　少量のハードロームブロックいる。（1cm前後）を含有し，しまりをおびている。
8層　⅗　暗褐色　少量のＹＰおよびごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまり粒性ともにおびている。
9層　⅕　黒色　少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
10層　⅗　暗褐色　ごく少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまり粘性ともに若干おびている。
11層　⅘　褐色　少量のハードロームブロック（2mm～3cm）を含有し，若干しまりをおびている。

H19　焼土セクション土層解説
C－C′
a層　炭化粒子を多量に含有
b層　焼土塊
C層　焼土塊　ハードロームブロック含所々火熱を受けている。
d層　少量のハードロームブロックを含有し，所々火熱を受けている。

※　概して，西側で多く火熱がかれたものと思われる。

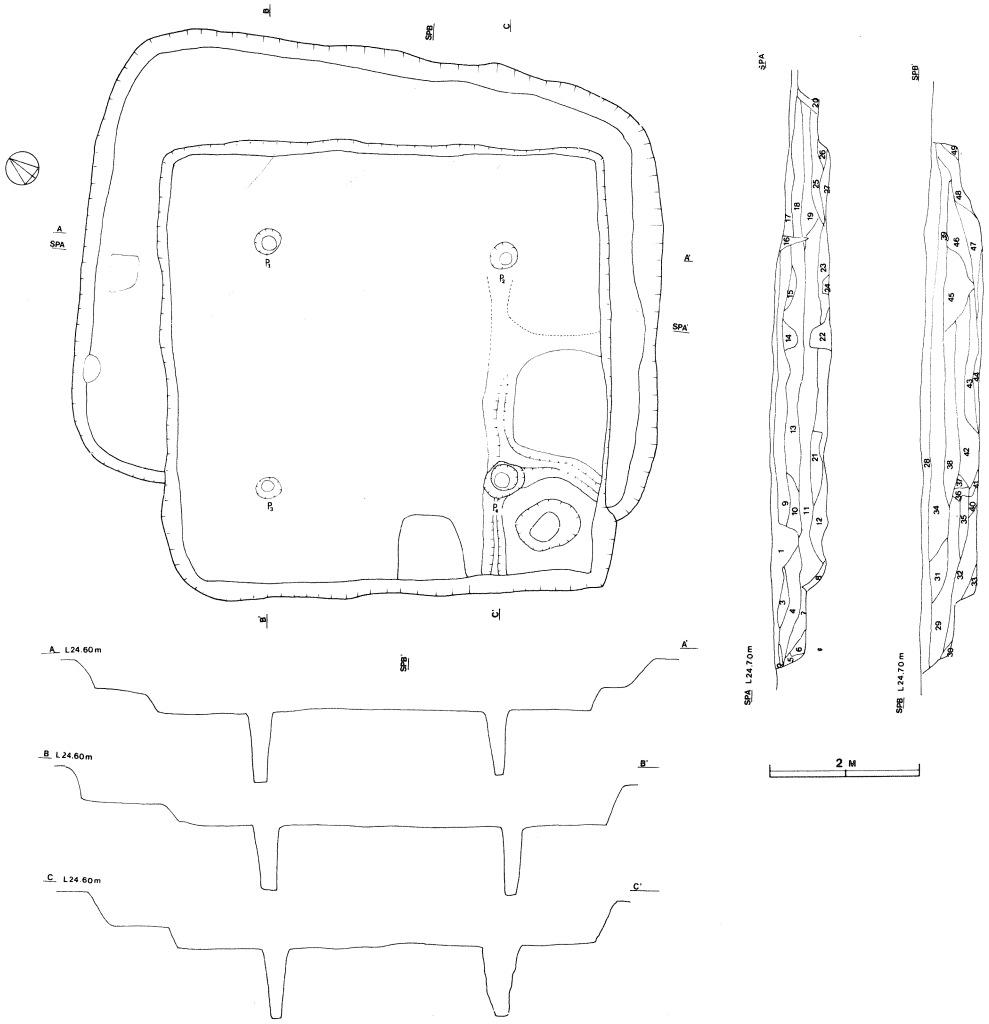


第 198 図　　志筑遺跡21号住居址実測図

H21　セクション土層解説

A－A′

1 層　表土及び攪乱層。
2 層　褐色土（焼土粒を含む）
3 層　茶褐色土（焼土粒を含む）
4 層　茶褐色土（焼土粒を含む）
5 層　橙色土　しまり弱い。
6 層　ロームを多く含む。にぶい橙色土。
7 層　暗褐色土。
8 層　黒色土。
9 層　極暗褐色土。
10層　ロームブロック。
11層　黒色土。
12層　ロームブロックを多く含む。明褐色(しまりつよい)
13層　ロームブロックを多く含む。明褐色(しまりつよい)
14層　橙色土（しまり弱い）
15層　茶褐色土（しまり弱い）
16層　暗褐色土（しまり弱い）
17層　ローム。
18層　茶褐色土（しまり弱い）
19層　暗褐色土（しまり弱い）
20層　ローム。



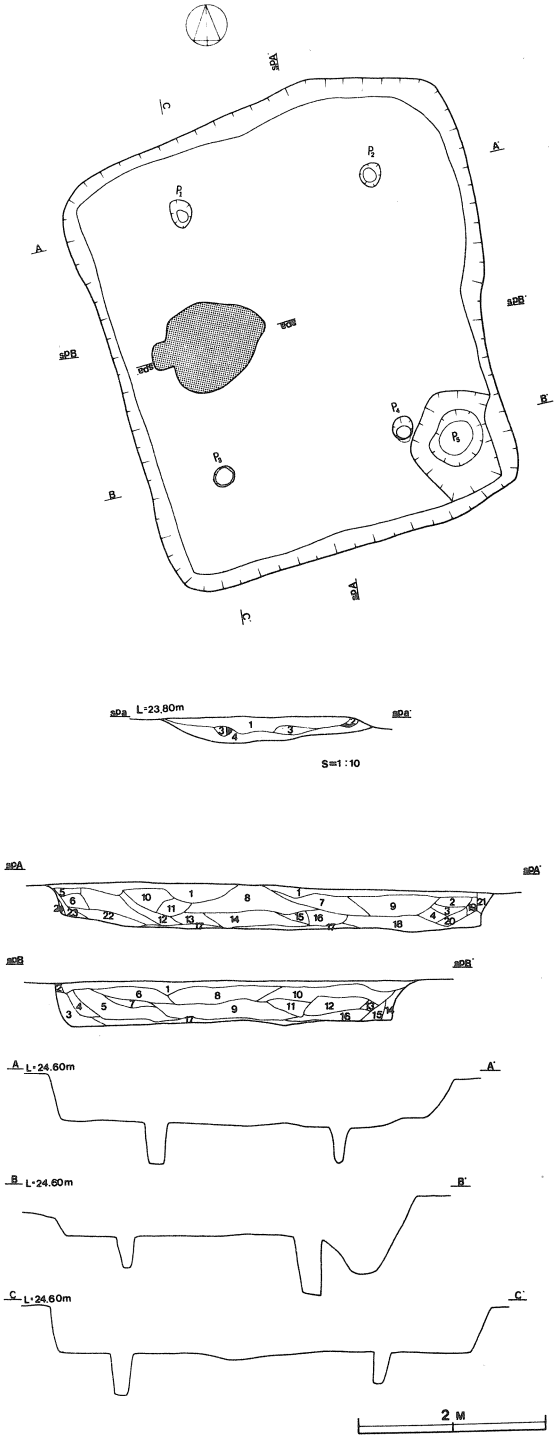
第199図　志筑遺跡22・26号住居址実測図

H22・26　セクション土層解説

A－A′

B－B′

1層　黒褐色（耕作土）
2層　黒褐色。
3層　黒褐色。
4層　暗褐色　ローム粒子を含む。
5層　　ローム（ソフトローム）
6層　暗褐色
7層　褐色
8層　褐色　にぶい褐色
9層　黒褐色
10層　黒褐色　ローム粒子混入（少量）
11層　茶褐色　ローム粒子を多く含む。
12層　　ソフトローム
13層　褐色　ローム粒子を多量に含む（やわらかい）
14層　　攪乱
15層　暗褐色　ロームブロック少量
16層　　木の根による攪乱
17層　　耕作土
18層　暗褐色　ローム粒子を含む（少量）
19層　褐色　多量のローム粒子を含む（やわらかい）
20層　　ソフトローム
21層　　炭化物
22層　　炭化物
23層　　にぶい褐色でロームブロック
24層　炭化物
25層　褐色　ローム粒子を含む
26層　茶褐色　ローム粒子
27層　暗茶褐色　ロームブロックを多量に含む
28層　　耕作土
29層　暗褐色　ローム粒子を含む（しまりがある）
30層　　ソフトローム
31層　黒褐色
32層　茶褐色　ローム粒子及びロームブロックを多量に含む。（やわらかい）
33層　暗褐色　しまりがゆるやか。
34層　暗褐色　少量のローム粒子を含む。
35層　黒褐色　しまりがよい。
36層　黒色　しまりがよい。
37層　茶褐色　ややロームが多い。
38層　黒褐色　しまりがやわらかい。
39層　　石
40層　黒褐色　しまりがわるい。
41層　暗褐色
42層　暗茶褐色
43層　暗褐色　しまりがよい，ロームを多量に含む（ローム粒子）
44層　　ソフトローム
45層　暗褐色　固い，ローム粒子が少量含まれる。
46層　暗褐色　ローム粒子を含む。しまりがよい。
47層　暗茶褐色　しまりが弱い。
48層　茶褐色　ロームブロック及びローム粒子を含む（やわらかい）
49層　　ソフトローム



H23　セクション土層解説

a－a´

1層	7.5YR	3/3	焼土を含み，かたくしまっている。(暗褐色)
2層	7.5YR	3/3	1層より焼土少ない。(暗褐色)
3層	7.5YR	3/3	1層より焼土多い。(暗褐色)
3層	7.5YR	3/3	1層より焼土多い。(暗褐色)
4層	7.5YR	4/6	2層より焼土少ない。(褐色)

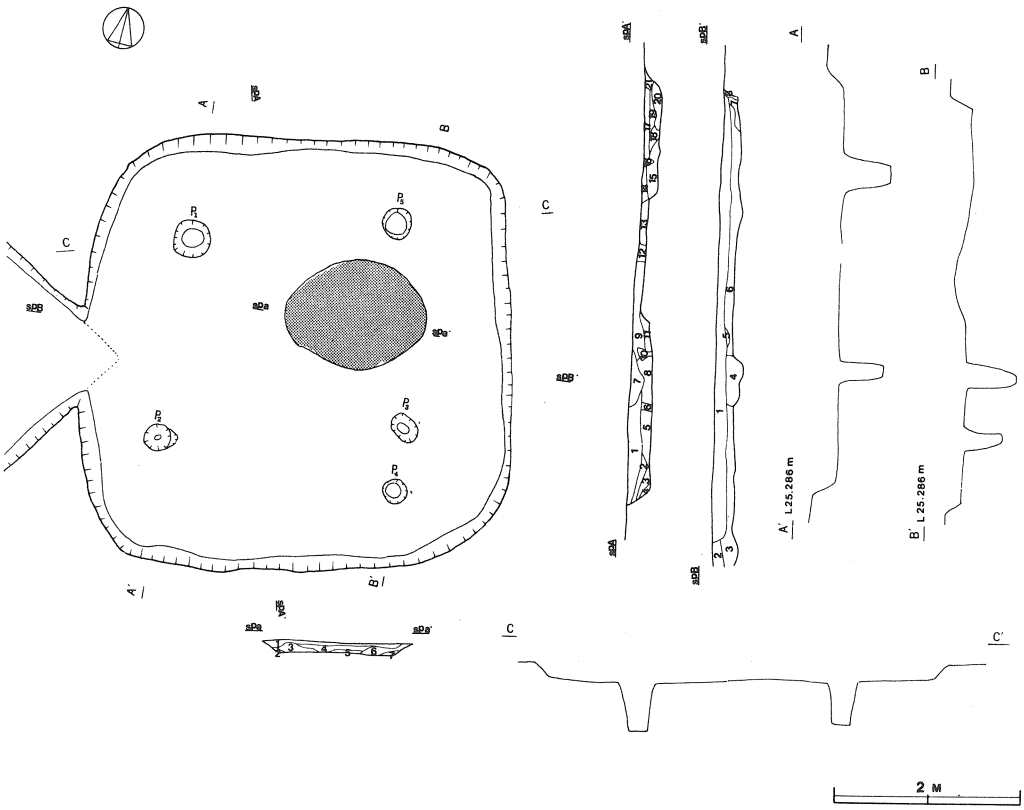
A－A´

1層			耕作土つづき。
2層	7.5YR	4/3	ローム粒なし。(褐色)
3層	7.5YR	3/3	ロームブロックを含む。(暗褐色)
4層	7.5YR	3/2	ローム粒なし。(黒褐色)
5.	7.5YR	3/3	特にかたくしまっている。(暗褐色) 炭化物及び焼土粒子を含む
6層	7.5YR	2/3	ローム少ない。(極暗褐色)
7層	7.5YR	3/3	ローム粒（1mm～2mmを含む)(暗褐色)
8層	7.5YR	3/2	ローム粒が少ない。(黒褐色) 炭化物を含む
9層	7.5YR	4/3	ローム粒（1～2mm）を含む(褐色) 炭化物及び焼土粒子を含む
10.	7.5YR	4/2	ローム少ない。(灰褐色)
11層	10YR	4/6	ローム粒多い，しまりつよい。(褐色)
12層	7.5YR	2/3	ローム粒含む,(極暗褐色) 炭化物及び焼土粒子も含まれる。
13層	7.5YR	3/2	ローム粒（1～2mm）を含む。(黒褐色) 炭化物及び焼土粒子等を含む
14. 層	5YR	3/1	ローム粒少ない，(黒褐色) 炭化物及び焼土粒子を多量に含む，やわらかい
15層			攪乱
16層	5YR	4/4	ローム粒（1mm以下を含む)(にぶい赤褐色)
17層	7.5YR	5/6	ソフトローム（明褐色）であり，ところどころに赤褐色の焼土をみる。
18層	5YR	3/3	ローム粒（1～2mm）を含む。(暗赤褐色) 炭化物及び焼土粒子等を含む
19層	5YR	3/3	(暗赤褐色)
20層	5YR	5/4	(にぶい赤褐色)
21層	7.5YR	3/3	固くしまったローム（暗褐色）
22.	7.5YR	4/6	ローム粒及び炭化物を含む,(褐色) やわらかい。
23層	7.5YR	4/2	(灰褐色)
24層			ソフトローム

B－B´

1層			耕作土つづき
2層			ローム
3層			明褐色　粒子が細かい
4層	5YR	4/3	にぶい赤褐色
5層	7.5YR	3/4	ローム粒（1～2mm）を含む。暗褐色土，炭化物，焼土粒子等が含まれる
6層			ローム粒（1～2mm）を含む。にぶい赤褐色
7層	暗褐色		ローム粒（1～2mm）を含む。
8層	黒褐色		ローム粒の比較的少ない
9層	5YR	3/1	ローム粒が少ない（黒褐色）炭化物，焼土粒子等が含まれる
10層	7.5YR	4/4	ローム粒（1～2mm）を含む。(褐色)
11層	7.5YR	4/3	ローム粒（1mm以下）を含む。(褐色)
12層	7.5YR	4/6	ローム粒（1～2mm）を含む。(褐色)
13層			攪乱
14層			ソフトロームに黒褐粒を多く含む
15層	7.5YR	2/3	(極暗褐色)
16層	5YR	4/6	粒子こまかい,(赤褐色) 炭化物，焼土　がある，やわらかい　塊
17層	7.5YR	5/8	ソフトローム,(明褐色) とそろどころに赤褐色の焼土塊がある

第 200図　志筑遺跡23号住居址実測図



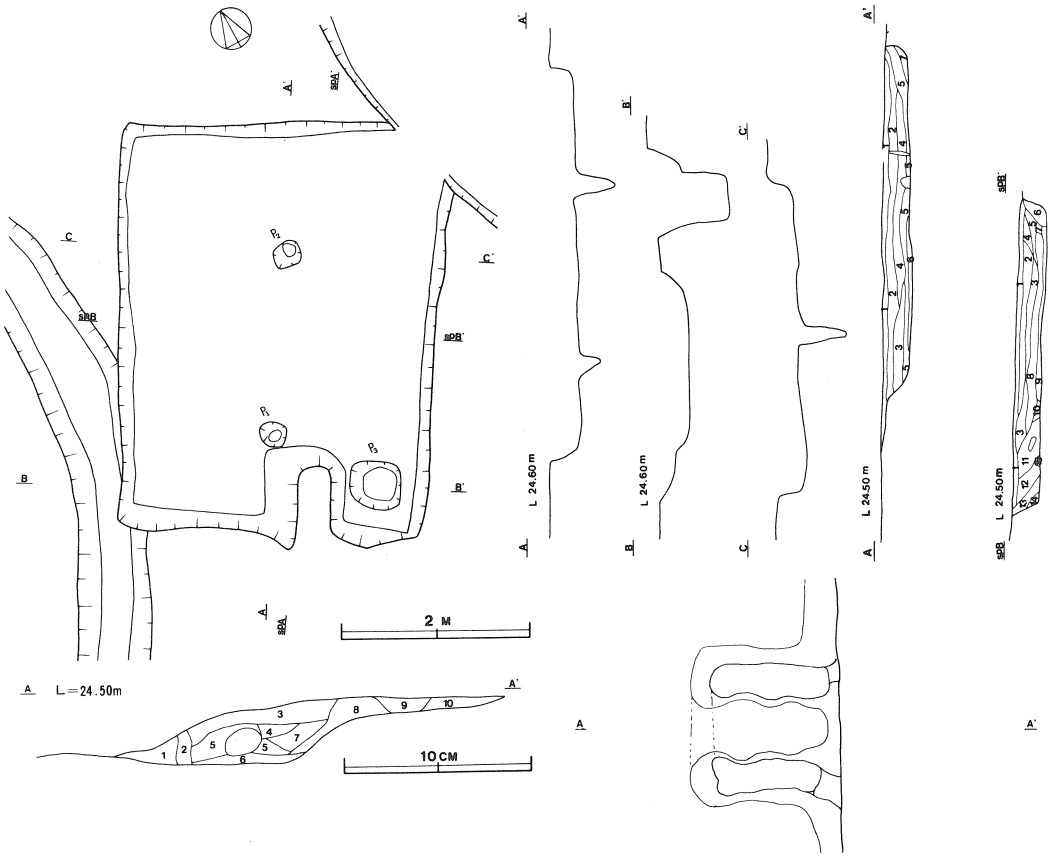
第 201 図　　志筑遺跡24号住居址実測図

H24号　セクション土層解説

A－A′
1 層 Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
2 層 Hue 7.5YR 4/3 褐色
3 層 Hue 7.5YR 4/4 褐色
4 層 Hue 7.5YR 3/3 暗褐色
5 層 Hue 7.5YR 5/6 明褐色
6 層
7 層　} 攪乱
8 層　7.5YR 5/8 明褐色
9 層　7.5YR 5/3 にぶい褐色
10層　攪乱
11層　7.5YR 5/6 明褐色
12層　7.5YR 4/3 褐色
13層　7.5YR 4/2 灰褐色
14層　7.5YR 4/6 褐色
15層　7.5YR 6/6 橙色
16層　攪乱
17層　7.5YR 4/2 灰褐色
18層　7.5YR 5/6 明褐色
19層　7.5YR 3/3 暗褐色
20層　7.5YR 6/6 ローム

B－B′
1 層Hue 7.5YR 3/3　ローム含有，暗褐色
2 層
3 層
4 層　}
5 層　攪乱
6 層　　ローム
7 層
8 層　攪乱

焼土セクション
a－a′
1 層　黒色土を含み，炭化物が多く含まれやわらかい。
2 層　ローム焼土
3 層　ローム赤褐色であり，かたい。
4 層　赤褐色土　炭化物含む，ロームブロック
5 層　赤褐色土　3 層と同じ，かたい。
6 層　3 層と同じ
7 層　2 層と同じ



第202図　志筑遺跡25号住居址カマド実測図

H25　カマド　セクション土層解説

A－A

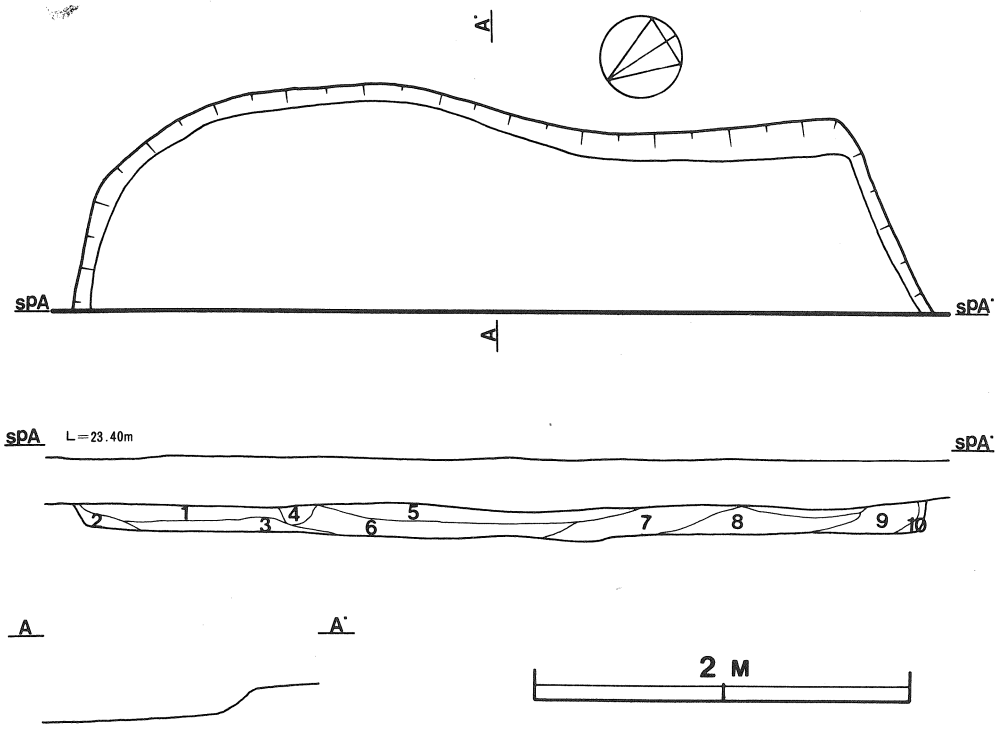
1層	Hue 7.5YR 5/4	焼土粒子を含む＋ローム＋砂　褐色
2層	Hue 7.5YR 5/4	焼土粒子を含む＋粘土＋砂＋炭化物を含む　褐色
3層	7.5YR 5/3	焼土の粒子を含む＋粘土＋砂＋炭化物を含む　やわらかい　褐色
4層	7.5YR 3/4	焼土の粒子を含む＋粘土＋砂＋炭化物を含む　やわらかである　暗褐色
5層	7.5YR 3/4	砂＋焼土粒子を含む　暗褐色
6層	7.5YR 5/4	褐色土，焼土塊あり　（赤褐色）
7層	7.5YR 5/3	褐色土　焼土粒子を含む＋炭化物少量含まれる。やわらかい＋砂
8層	7.5YR 5/4	褐色土（ソフトローム）
9層	7.5YR 5/4	8よりやや黒色をおびている。
10層		8と同様

A25　セクション土層解説

A～A′ B～B′

1層～7層

1層	耕作土つづき
2層	暗褐色　しまりやや弱い
3層	極暗褐色
4層	にぶい橙（黒色粒含）
5層	暗褐色　しまりやや強い
6層	茶褐色
7層	暗褐色　しまりふつう
8層	褐色
9層	褐色
10層	明褐色
11層	ロームブロック
12層	褐色
13層	明褐色
14層	茶褐色　しまり弱い
15層	明褐色　ローム含む



第 203 図　　志筑遺跡28号住居址実測図

H28号セクション土層解説

A－A′

1層　黒色土　ローム粒子混入。

2層　ソフトローム。

3層　暗褐色土　ローム粒子及びロームブロック（2㎝～3㎝）混入し，しまりがある。

4層　攪乱層

5層　黒色土　ローム粒子混入。

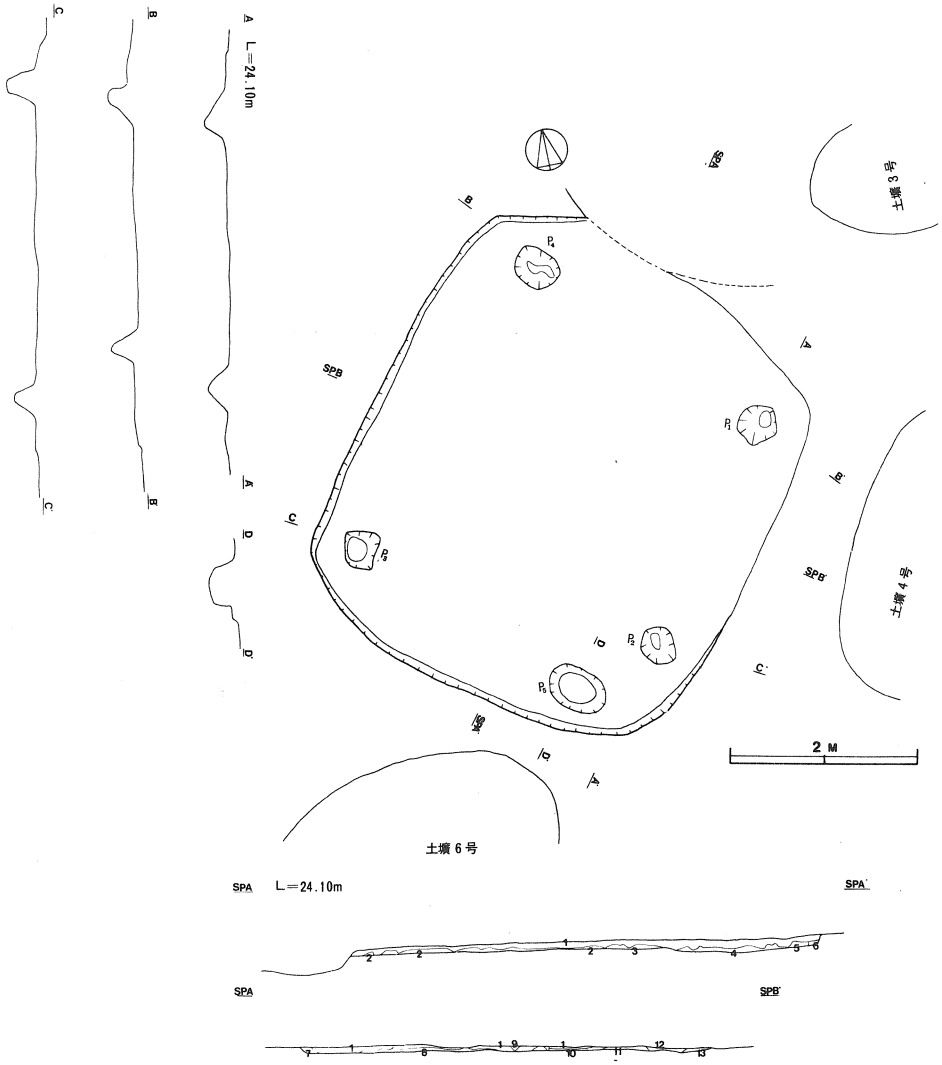
6層　暗褐色土　ローム粒子，ロームブロックを含む（2㎝～3㎝）前後，黒色土が少量ふくまれている。

7層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりがある。

8層　暗褐色土　ローム粒子及び，ロームブロック（2㎝～3㎝）混入し，しまりがある。

9層　ソフトロームの中に黒色土がふくまれる。

10層　ソフトローム。

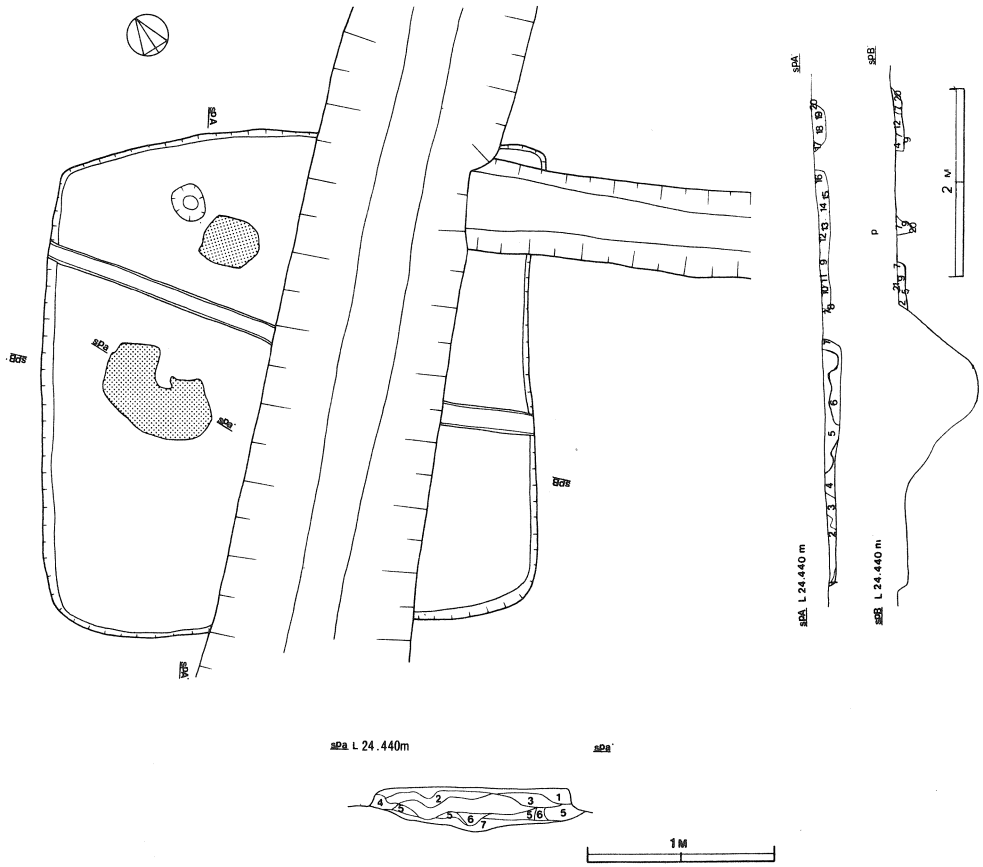


第 204 図　　志筑遺跡27号住居址実測図

H 27　セクション

A－A′　　B－B′

1 層Hue 7.5YR 3/3　粒子細かくしまり弱い
2 層Hue 7.5YR 5/8　ねばりの強いソフトロームに若干の暗褐色土を含む
3 層　ロームブロック
4 層　撹乱
5 層Hue 7.5YR 5/8　ねばりの強いソフトロームに若干の暗褐色土を含む
6 層　ロームブロック
7 層Hue 7.5YR 5/8　ねばりの強いソフトロームに若干の暗褐色土を含む
8 層Hue 7.5YR 5/8　ねばりの強いソフトロームに若干の暗褐色土を含む
9 層Hue 7.5YR 3/3　粒子細かくしまり弱い
10層Hue 7.5YR 5/8　ねばりの強いソフトロームに若干の暗褐色土を含む
11層Hue 7.5YR 5/8　ねばりの強いソフトロームに若干の暗褐色土を含む
12層Hue 7.5YR 5/8　ねばりの強いソフトロームに若干の暗褐色土を含む
13層　撹乱

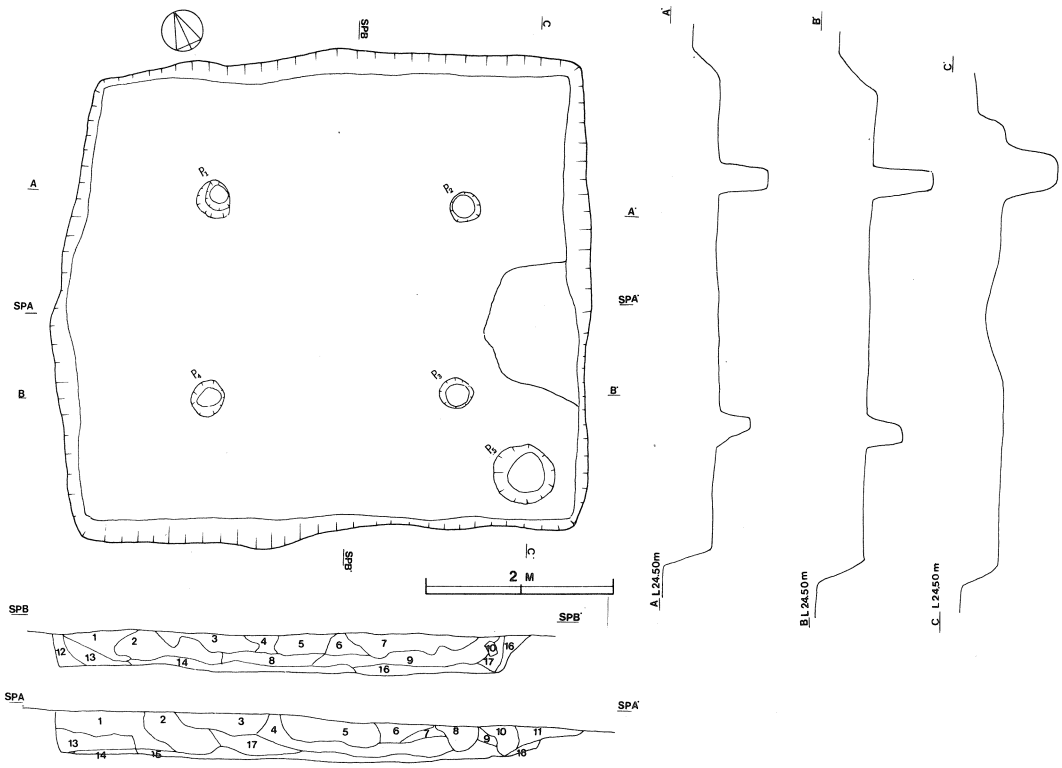


第 205 図　　志筑遺跡30号住居址実測図

H30　セクション
SPa－a´

1 層 Hue　5YR ¾　焼土多く　暗赤褐色土
2 層 Hue 7.5YR ⅔　暗褐色　ねばり強い
3 層 Hue 7.5YR ¾　暗褐色　ねばり強い
4 層 Hue 7.5YR ½　黒褐色　ねばりなくサラサラ
5 層　ハードなローム
6 層　撹乱
7 層　焼土　ところどころに赤褐色あるがしまっている

1 層 Hue 7.5YR ⅝　明褐色　粒子やや粗くねばりない
2 層 Hue 7.5YR ½　黒褐色　粒子細かけサラサラしている
3 層 Hue 7.5YR ¼　褐色　粒子細かくややねばりがあるローム粒子含む
4 層 Hue 7.5YR ⅝　明褐色　ねばり強い，黒色土も含む
5 層 Hue 7.5YR ⅔　極暗褐色　粒子細かくサラサラしているローム粒子を少量含む
6 層 Hue 7.5YR ¼　褐色　粒子細かきややねばりがあるローム粒子含む
7 層　撹乱
8 層　撹乱
9 層　4 層に同じ
10層 Hue 7.5YR ⅔　暗褐色　粒子やや粗くサラサラしている，ローム粒を含む
11層　撹乱
12層 Hue 7.5YR ¾　暗褐色　粒子細かくサラサラしている，しまりは弱い
13層　ロームブロック
14層 Hue 7.5YR ¼　粒子細かくサラサラしている，しまりは弱い　褐色
15層　ロームブロック
16層 Hue 7.5YR ⅔　粒子細かくサラサラしている，しまりは弱い　黒褐色
17層 Hue 7.5YR ½　16層にローム粒を含む
18層　16層に同じ
19層　17層に同じ
20層　ソフトローム十黒色



第 206 図　　志筑遺跡31号住居址実測図

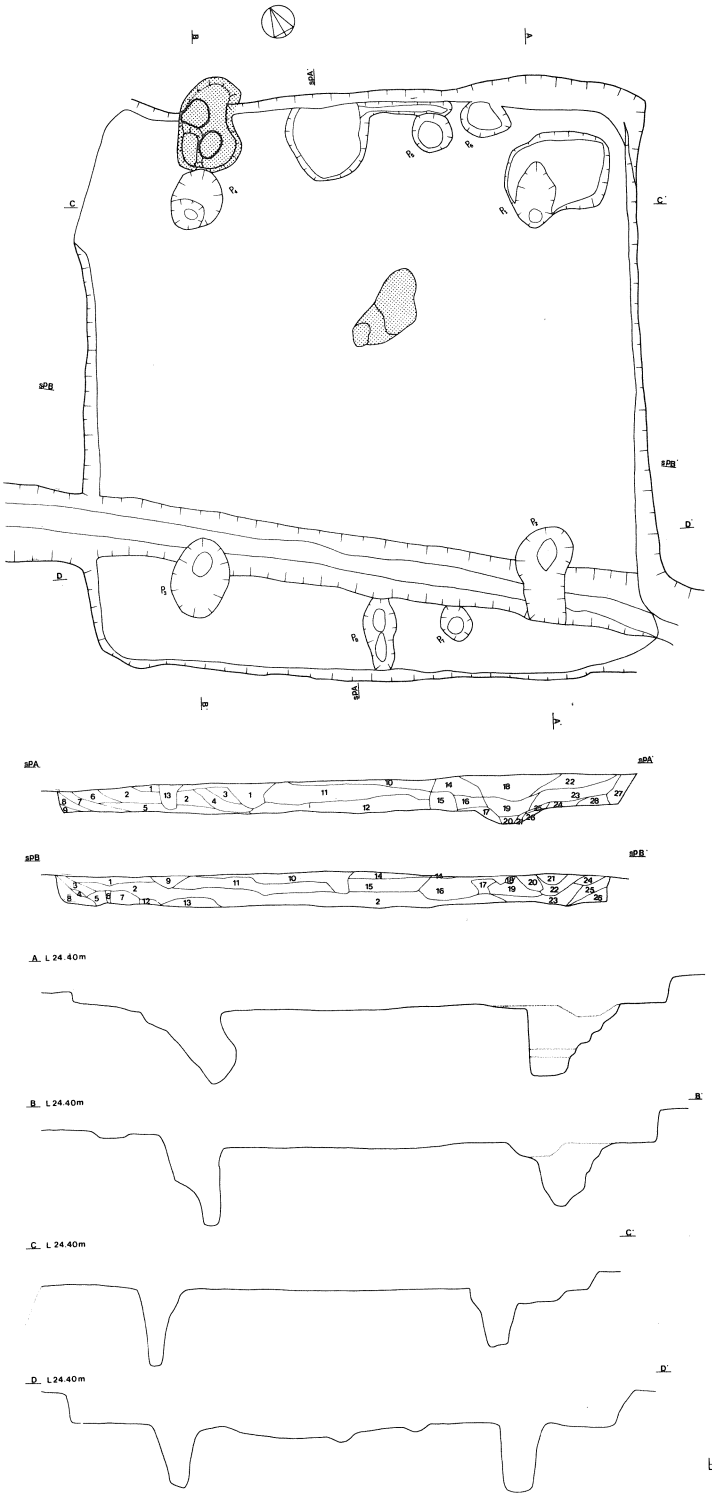
H31　セクション土層解説

A－A′

1 層　　撹乱
2 層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　粗粒，つよい
3 層　　撹乱
4 層Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ローム粒混
5 層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　しまり弱くさらさら，細粒
6 層Hue 7.5YR 4/4　褐色　ローム粒多くかたくしまっている
7 層
8 層　　撹乱
9 層Hue 7.5YR 4/4　褐色
10層　　撹乱
11層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　ローム粒子混（少量）
13層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色
14層
15層Hue 7.5YR 4/6　褐色　ローム多い
16層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　しまりつよい
17層Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　さらさらしまりつよい

B－B′

1 層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　さらさら
2 層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　かたくしまっている。
3 層　　撹乱
4 層Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　しまり弱い，さらさら
5 層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　しまり弱くさらさら，粒子細かい
6 層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム粒混　3/4
7 層　　撹乱
8 層Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ローム粒子を含む
9 層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　ローム粒少量混，しまりやや強い
10層　　ロームブロック
12層Hue 7.5YR 4/6　褐色　ローム多い
13層Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ローム粒少，しまり強い
14層Hue 7.5YR 4/6　褐色　ローム多い
16層
17層Hue 7.5YR 4/4　褐色
18層Hue 7.5YR 5/8　明褐色　ロームブロック，中に黒色まじり



H 33号　セクション土層解説

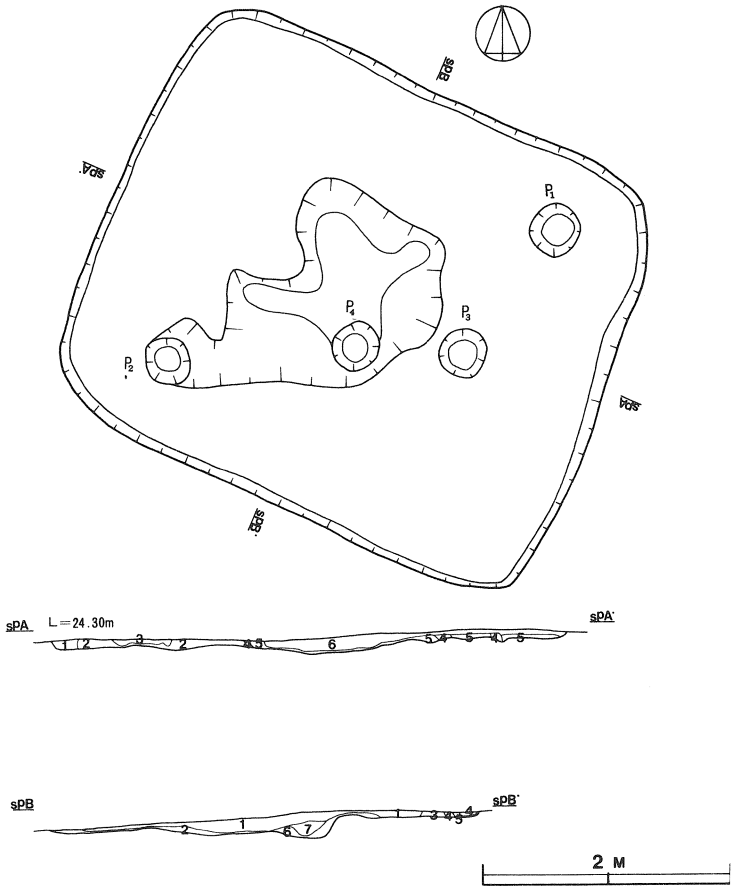
A－A′

1 層　　撹乱
2 層Hue 7.5YR 3/4　暗褐色
3 層Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ロームブロック
4 層Hue 7.5YR 5/3　褐色　ロームブロック
5 層Hue 7.5YR 2/2　黒褐色　黒色土，ローム
6 層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色
7 層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色
8 層Hue 7.5YR 3/4　褐色
9 層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　サラサラ
10層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム
11層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム混（中）
12層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム少
13層　撹　乱　　撹乱
14層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム多い
15層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　炭化物混
16層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム多い
17層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム混入
18層Hue 7.5YR 2/1　黒色
19層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色
20層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　しまりつよい
21層Hue 7.5YR 3/4　にぶい褐色　黒色
22層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色
23層Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　粒子粗，粘弱，ローム粒弱
24層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　粒子やや粗
25層　　ソフトローム
26層　　掘りすぎ
27層Hue 7.5YR 2/2　黒褐色　粒子細，粘弱，しまりやや弱い
28層Hue 7.5YR 2/1　黒色　粒子細，粘中，しまり強い

B－B′

1 層　　暗褐色　ローム少量混入
2 層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　しまりつよい
3 層Hue 7.5YR 3/4　ロームブロック
4 層　　暗褐色　しまり強いローム
5 層Hue 7.5YR 3/4　ブロック混入
6 層　　撹　乱
7 層
8 層 Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　さらさらしている
9 層
10層 Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ロームなし
11層 Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム混入
12層 Hue 7.5YR 4/6　褐色　ローム粒多い
13層 Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　かたくしまっている，ローム多い
14層
15層 Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム粒混入
16層 Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　さらさらしまり弱い
17層
18層　　ロームブロック
19層 Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色
20層 Hue 7.5YR 4/6　褐色　ロームブロック少い
21層
22層 Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　さらさらしまりやや弱い
23層 Hue 7.5YR 4/6　褐色　ねばり中
24層 Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　さらさらしまり弱い
25層 Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　しまり強い
26層 Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　しまり強い

第 207 図　　志筑遺跡33号住居址実測図



第 208 図　　志筑遺跡35号住居址実測図

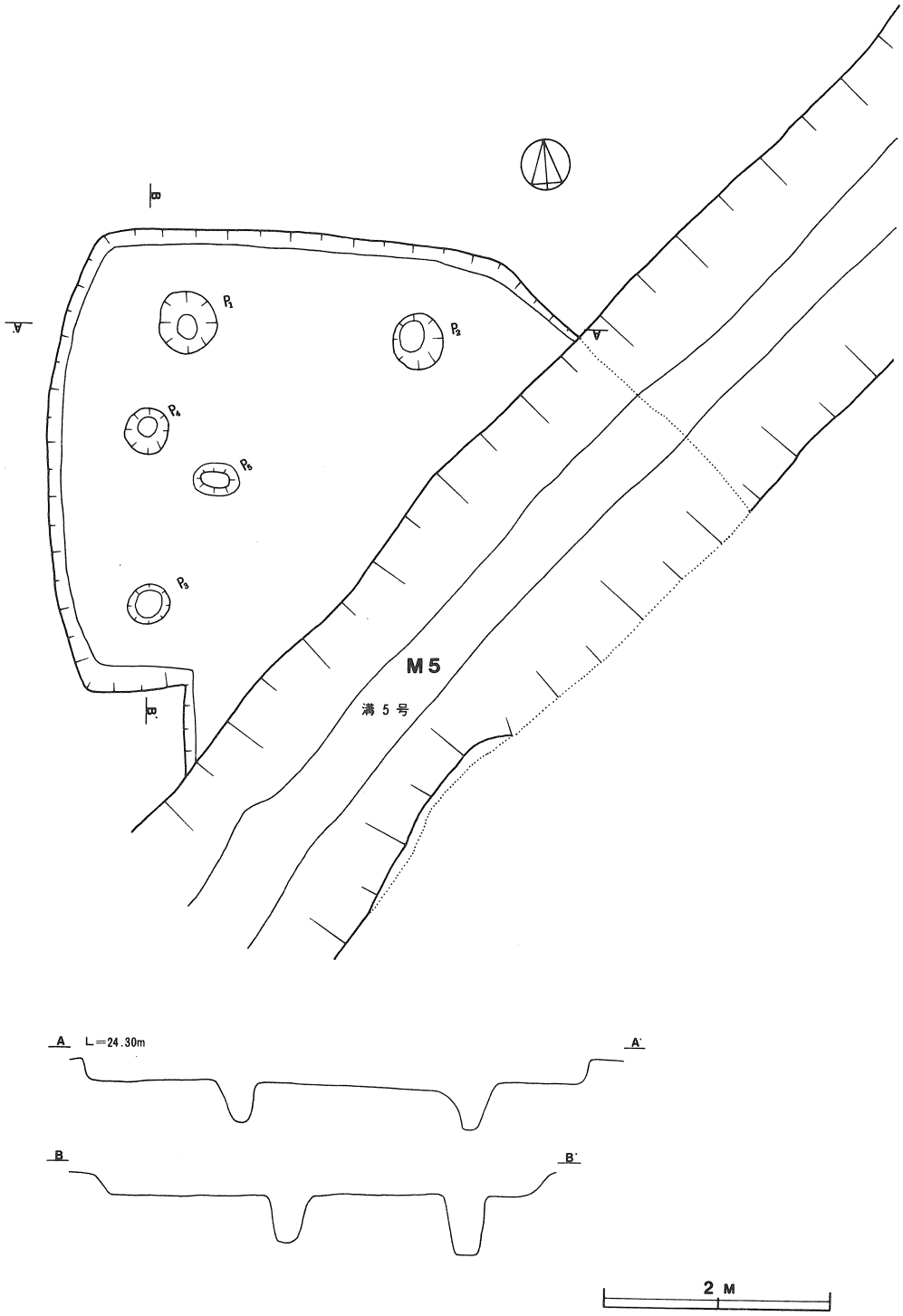
H 35　セクション土層解説

A～A′

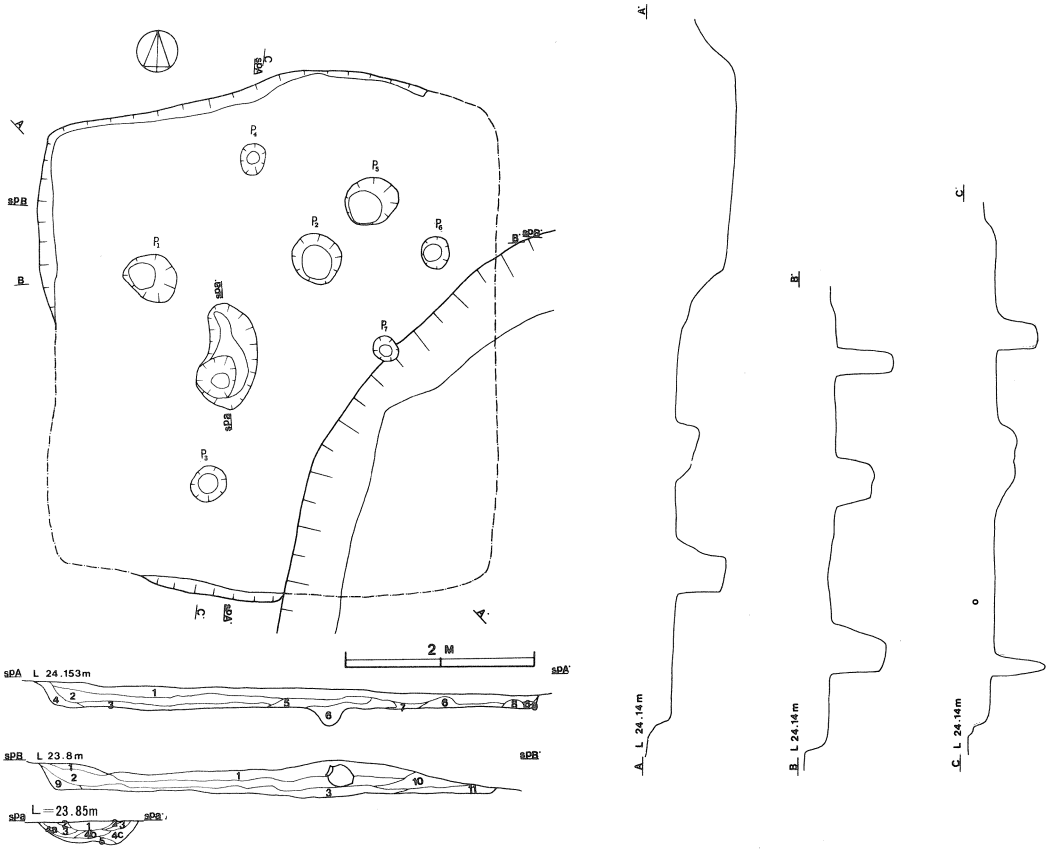
1層	7.5YR	4/6	褐色
2層	7.5YR	5/8	明褐色
3層	7.5YR	4/6	褐色
4層		かくら	撹乱
5層	7.5YR	5/8	明褐色
6層	7.5YR	4/6	褐色

B～B′

1層	7.5YR	4/6	褐色
2層			
3層	7.5YR	6/8	橙　粘性強
4層			撹乱
5層	7.5YR	6/8	橙　粘性強
6層	7.5YR	5/8	明褐色
7層	7.5YR	4/4	褐色



第 209 図　　志筑遺跡36号住居址実測図



第 210 図　　志筑遺跡37号住居址実測図

H37　セクション土層解説

A－A´ B－B´

Hue 7.5YR

1層　2/2　黒褐色　少量のＹＰおよびごく少量の焼土粒子を含有し若干しまりをおびている。

2層　3/2　黒褐色　ごく少量のＹＰハードロームブロック（5mm前後）を含有し若干しまりをおびている。

3層　3/4　暗褐色　ごく少量のＹＰハードブロック（5mm前後）を含有し，しまりをおびている。

4層　4/4　褐色　ハードロームブロック（3cm前後）を主体とし第1次埋土である。

5層　2/2　黒褐色　比較的多量の焼土粒子を含有し若干しまりをおびている。

6層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまりをおびている。

7層　3/2　黒褐色　少量のＹＰを含有ししまりをおびている。

8層　3/3　暗褐色　ごく少量のＹＰを含有し非常にしまりをおびている。

9層　3/3　暗褐色　ごく少量のＹＰハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

10層　4/4　褐色　ハードロームブロック（2cm前後）を含有し，しまりをおびている。

a－a´

1層　焼土塊を主体とした土層である。

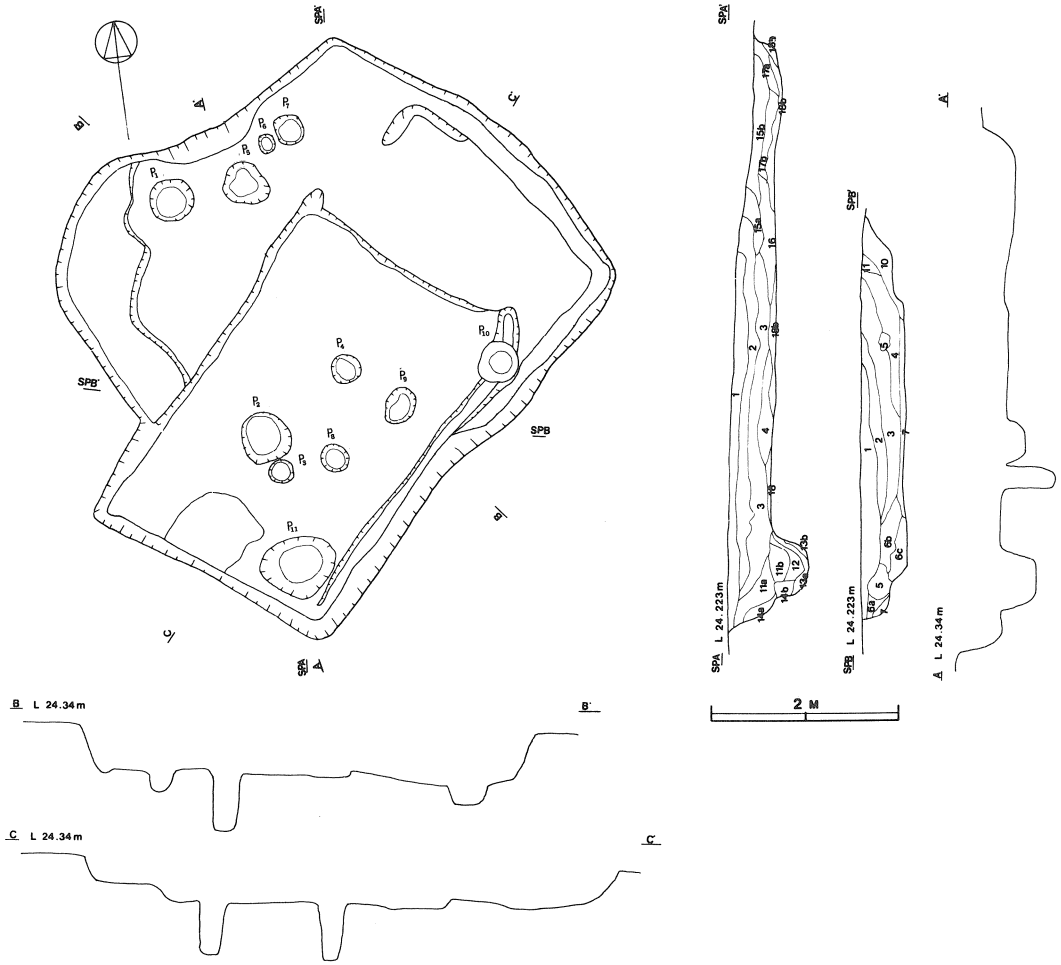
2層　3/2　黒褐色　少量の焼土粒子を含有し，若干しまりをおびている。

3層　4/4　褐色　ハードロームブロック（2cm前後）を主体とし，ごつごつしてうる。　い

4 a　5/6　明褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）および極少量の炭化粒子を含有ししまりをおびている。

4 b層 4/6　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）および焼土粒子を含有し，加熱を受けている。

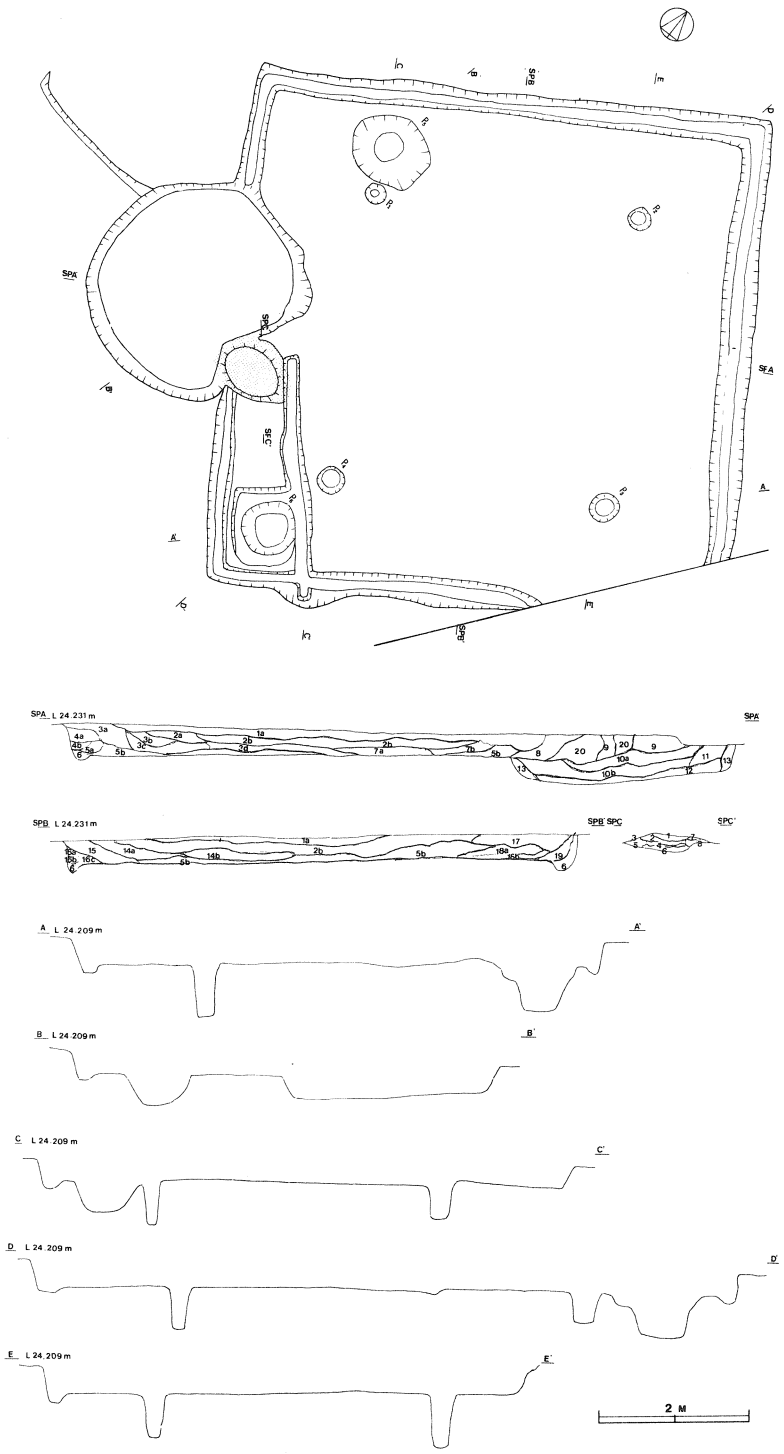
4 c層 5/6　明褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまりをおびている。



第 211 図　　志筑遺跡39号住居址実測図

H39　セクション土層解説
A－A´ B－B´
Hue 7.5YR

1 層　2/2　黒褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードロームブロック（5mm弱）を含む。
2 層　2/1　黒色　少量のＹＰを含む。
3 層　2/2　黒褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードローム粒（3mm前後）焼土粒子を含む。
4 層　2/2　黒褐色　極少量のＹＰ，焼土粒子及び少量の炭化物（木炭）を含む。
5 層　2/1　里色　極少量のＹＰを含む。
6 a 層 3/3　暗褐色　極少量のハードロームブロック（5mm前後）ＹＰを含む。
6 b 層 2/2　黒褐色　少量のＹＰ，ハードロームブロック（5mm前後）及びごく少量の炭化粒子，焼土粒子を含む
6 c 層 3/3　暗褐色　極少量のＹＰ，焼土粒子を含む。
7 層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含む。
8 層　2/2　黒褐色　少量のＹＰ，及び極少量のハードロームブロック（1cm前後）を含む。
9 層　2/2　黒褐色　極少量のＹＰを含む。
10層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含む。
11 a 層 2/2　黒褐色　少量のＹＰ及びごく少量のハードロームブロック（5mm前後）焼土粒子を含む。
11 b 層 2/2　黒褐色　極少量のＹＰを含む。
12層　3/2　黒褐色　少量の炭化物（木炭）及び極少量のＹＰを含む。
13 a 層 3/3　暗褐色　少量のＹＰを含む。
13 b 層 4/6　褐色　ハードロームブロック（1cm前後）を主体としている。
14 a 層 3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含む。　（第１次埋土）
14 b 層 3/3　暗褐色　少量のＹＰ及び，極少量の炭化粒子を含む。
15 a 層 2/2　黒褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含む。
15 b 層 2/2　黒褐色　極少量のＹＰを含む。
16層　2/1　黒色　多量の炭化物，及び焼土粒子，極少量のハードロームブロック（1cm前後）を含む。（当住居址で確認されている大型木炭は当土層中に含有されるものと思われる。）
17 a 層 3/2　黒褐色　少量のＹＰを含む。
17 b 層 3/2　黒褐色　極少量のＹＰ，及び焼土粒子を含む。
18 a 層 4/4　褐色　ハードロームブロック（1cm前後）を主体としている。
18 b 層 3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）及びＹＰを含む。



第212図　志筑遺跡40号住居址実測図

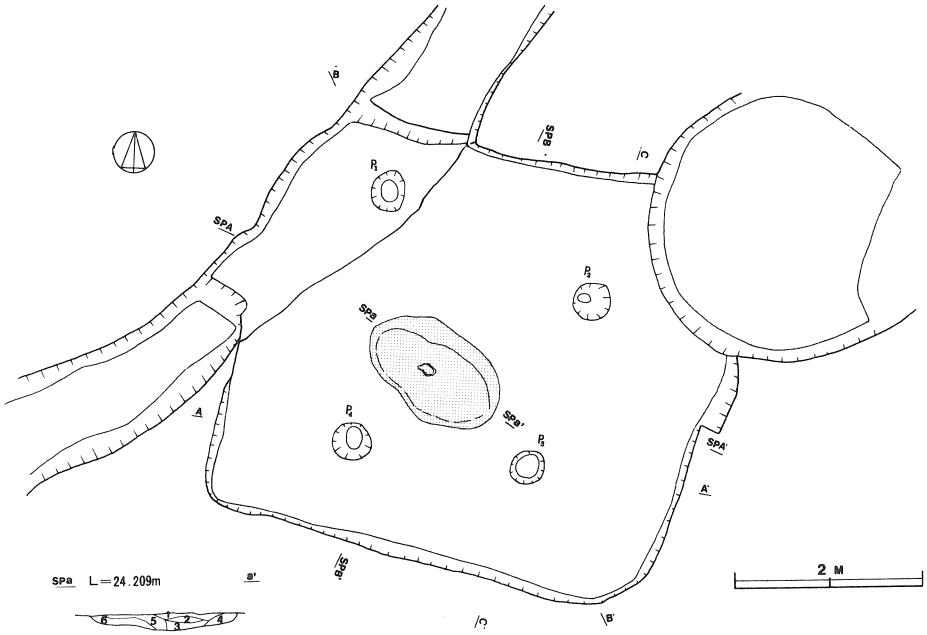
C－C'

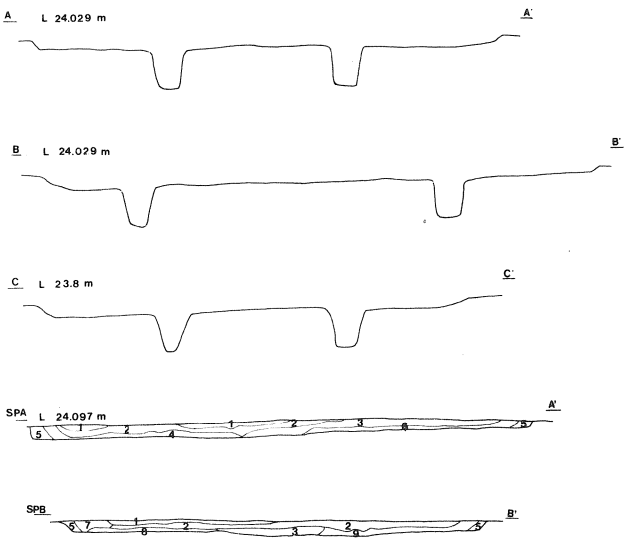
1層　山砂を主体とし少量の焼土粒子を含有しざらざらしている。
2層　山砂を主体とし極少量の焼土粒子を含有しさらさらしている。
3層　山砂を主体としざらざらしている。
4層　多量の焼土塊を含有した山砂層でありざらざらしている。
5層　山砂を主体とし極少量の焼土粒子を含しざらざらしている。(粒子があらい)
6層　加熱を受けたハードロームであり非常にかたい
7層　山砂を主体とし少量の焼土粒子を含有しさらさらしている（粒子が密である）
8層　山砂を主体とし若干多量の焼土粒子を含有しさらさらしている（粒子が密である）

H40　セクション土層解説

A－A'　B－B'

1 a層　3/4　極暗褐色　少量のＹＰおよび砂粒を含有しさらさらしている。
2 a層　3/4　黒褐色　ごく少量のＹＰハードロームブロック（2～3mm）を含有しさらさらしている。
2 b層　3/2　黒褐色　少量のＹＰごく少量のハードロームブロック（5mm前後）砂粒を含有し若干しまりをおびている。
3 a層　3/4　暗褐色　少量のＹＰごく少量のハードロームブロック（2～3mm）を含有しさらさらしている。
3 b層　3/2　黒褐色　少量のＹＰごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有しさらさらしている。
3 c層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（2～3mm）およびごく少量のＹＰを含有ししまりをおびている。
3 d層　3/2　黒褐色　少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
4 a層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（2～3mm）を含有し若干しまりをおびている。
4 b層　3/4　暗褐色　ハードロームブロック（1cm前後）を主体とし若干しまりをおびている。
5 a層　3/4　暗褐色　少量のＹＰおよびごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し若干しまりをおびている。
5 b層　5/4　褐色　少量のＹＰごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有ししまりをおびている。
6層　5/6　褐色　ハードロームブロック主体とした第1次埋土である。
7 a層　3/4　暗褐色　少量の焼土粒子ハードロームブロック（5mm前後）を含有し若干しまりをおびている。
7 b層　3/4　暗褐色　少量の砂粒ハードロームブロック（2mm前後）を含有しさらさらしている。
8層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（2～5mm）を含有し若干しまりをおびている。
9層　5/4　褐色　ごく少量のＹＰおよび少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し若干しまりをおびている。
10層　5/4　褐色　少量のＹＰごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有ししまりをおびている。
10 b層　5/6　褐色　少量のハードロームブロック（5mm～3cm）を含有ししまりをおびている。
11層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し若干のしまりをおびている。
12層　5/4　褐色　ごく少量のハードロームブロック（5mm前後）ＹＰを含有ししまり粘性ともにおびている。
13層　5/6　褐色　ハードロームブロックを主体とした第1次埋土であり若干粘しまり性おびている。
14層 a　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1mm前後）を含有しさらさらしている。
14 b層　3/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（1mm前後）を含有し若干しまりをおびている。
15層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1mm前後）を含有しさらさらしている。
16 a層　5/4　褐色　褐色土を主体とし若干しまりをおびている。
16 b層　3/4　暗褐色　ごく少量のハードロームブロック（2～3mm）を含有し若干しまりをおびている。
16 c層　3/4　暗褐色　ごく少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
17層　3/4　暗褐色　ごく少量のハードロームブロック（1～3mm）および少量の砂粒を含有しさらさらしている。
18 a層　3/4　暗褐色　少量のＹＰハードロームブロック（2～3mm）を含有し若干しまりをおびている。
18 b層　5/4　褐色　ごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し若干しまりをおびている。
19層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有し若干しまりをおびている。
20層　撹乱





第 213 図　　志筑遺跡41号住居址実測図

H41号　炉址　土層解説

a－a´

Hue 7.5YR

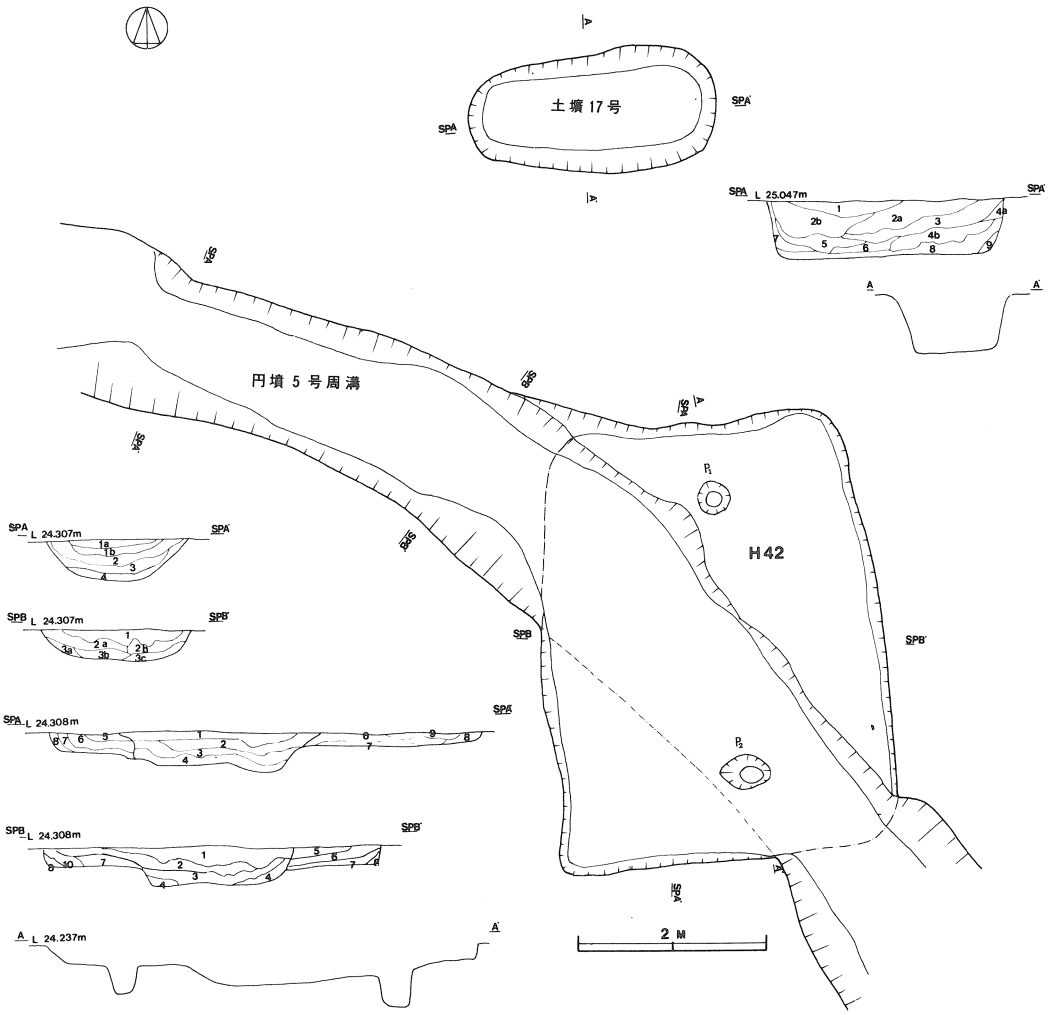
1層	3/3	暗褐色	少量の焼土粒子を含有する。
2層			焼土塊
3層			焼けたローム
4層			堀りすぎ
5層	4/4	褐色	ごく少量のＹＰ，ハードローム粒（2㎜前後）を含有し，若干しまりをおびている。
6層			堀りすぎ

Ａ－Ａ´（東西ベルト，南壁）

Ｂ－Ｂ´（南北ベルト　西壁）

Hue 7.5Y R

1層	2/2	黒褐色	ごく少量のＹＰを含有し，さらさらしている。
2層	2/1	黒色	ごく少量のハードロームブロック（3㎜前後）焼土粒子を含有し，若干しまりをおびている。
3層	3/3	暗褐色	少量のＹＰを含有し，しまり粘性ともに若干おびている。
4層	4/6	褐色	少量のハードロームブロック（1㎝前後）を含有した褐色土であり，しまり粘性ともにおびている。
5層	3/4	暗褐色	ごく少量のハードロームブロック（3㎜前後）を含有し，若干しまりをおびている。
6層	2/2	黒褐色	少量のハードロームブロック（5㎜前後）を含有し，若干しまりをおびている。
7層	3/3	暗褐色	少量のハードロームブロック（5㎜前後）を含有し，若干しまりをおびている。
8層	3/3	暗褐色	ごく少量のＹＰ，ハードロームブロック（5㎜前後）を含有し，若干しまりをおびている。
9層	3/3	暗褐色	少量のハードロームブロック（5㎜～2㎝）を含有し，若干しまりをおびている。



第214図　志筑遺跡42号住居址実測図

土壙17号　セクション土層解説

A－A´

Hue 7.5YR

1層	2/1	黒色	少量のＹＰを含有しさらさらしている。
2 a 層	2/1	黒色	少量のＹＲおよびごく少量の炭化粒子を含む。
2 b 層	2/1	黒色	少量のＹＰハードロームブロック（２～３mm）を含む。
3層	2/2	黒褐色	少量のＹＰを含有しさらさらしている。
4 a 層	4/4	褐色	少量のハードロームブロックを含む。
4 b 層	3/2	黒褐色	少量のＹＰハードロームブロック（５mm前後）を含む。
5層	2/1	黒色	ごく少量のＹＰハードロームブロック（３mm弱）を含む。
6層	3/2	黒褐色	ごく少量のＹＰ炭化粒子を含む。
7層	3/4	暗褐色	少量のハードロームブロック（１cm前後）を含む。
8層	3/2	黒褐色	少量のＹＰを含む。
9層	3/3	暗褐色	少量のハードロームブロック（１cm前後を含む。

円墳5号　セクション土層解説

A－A´

Hue 7.5YR

1 a 層	2/2	黒褐色	少量のＹＰを含む。
1 b 層	3/3	暗褐色	少量のＹＰハードロームブロック（１cm前後）を含む。
2層	3/4	暗褐色	ごく少量のＹＰを含む。
3層	3/4	暗褐色	少量のハードロームブロック（５mm～２cm）を含む。
4層	4/6	褐色	ハードロームブロック（１cm～３cm）を主体とする。

B－B´

Hue 7.5YR

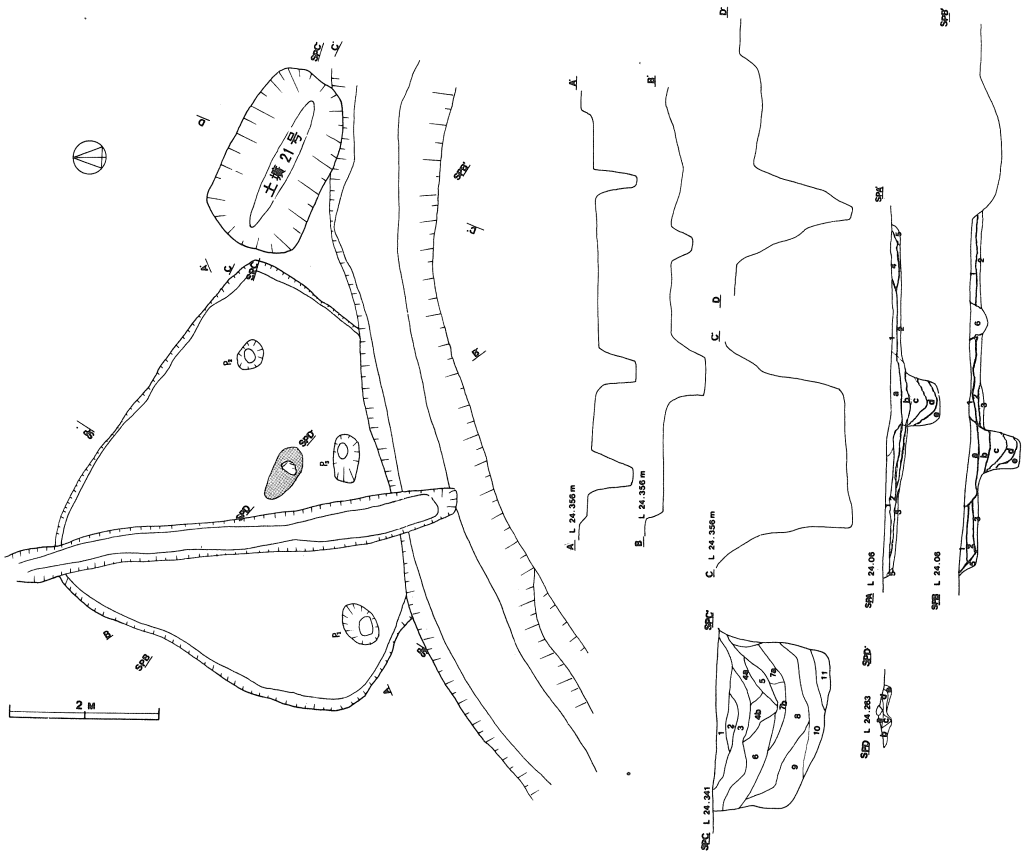
1層	2/2	黒褐色	ごく少量のＹＰを含む。
2 a 層	3/3	暗褐色	ごく少量のＹＰを含む。
2 b 層	4/4	褐色	少量のハードロームブロック（５mm前後）を含む。
3 a 層	5/6	明褐色	ハードロームブロックを主体とした第１次埋土である。
3 b 層	4/4	暗褐色	少量のハードロームブロック（１cm前後）を含む。
3 c 層	4/4	褐色	ハードロームブロック（５mm～２cm）を主体とする。

H42　セクション土層解説

A－A´　B－B´

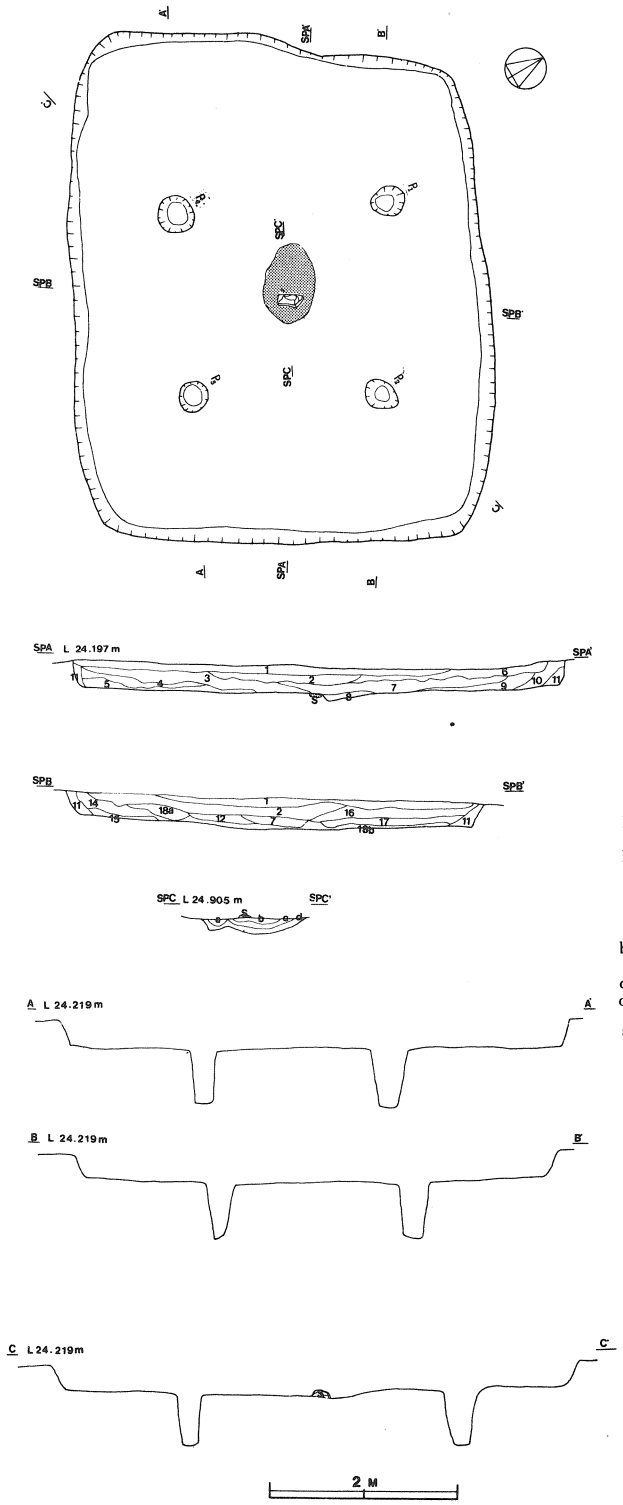
Hue 7.5YR

1層	2/2	黒褐色	ごく少量のＹＰを含む。
2層	2/1	黒色	ごく少量のＹＰを含む。
3層	3/3	暗褐色	少量のＹＰおよびごく少量のハードロームブロック（１cm前後）を含む。
4層	4/4	褐色	少量のハードロームブロック（５mm～３cm）を含む。
5層	2/2	黒褐色	少量のＹＰを含む。
6層	2/2	黒褐色	少量のＹＰ及び極少量のハードローム粒（１mm前後）を含む。
7層	3/3	暗褐色	少量のハードロームブロック（１cm前後）及び炭化物を含む。
8層	4/4	褐色	少量のハードロームブロック（５mm前後を含む。
9層	3/3	暗褐色	少量のハードロームブロック（１mm～５mm）を含む。
10層	3/3	暗褐色	少量のハードロームブロック（１mm～３mm）を含む。



第215図　志筑遺跡43号住居址実測図

H43　セクション土層解説
A－A　B－B′
Hue 7.5YR
1層　2/3　極暗褐色　極少量のＹＰ，ハードロームブロック（5mm前後）を含有し，サラサラしている。
2層　3/3　暗褐色　少量のＹＰ，ハードロームブロック（5mm前後）を含有し，蒸干しまりを帯びている。
3層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯びている。
4層　3/3　暗褐色　少量のＹＰを含有し，サラサラしている。
5層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりを帯びている。
所謂第一次埋土である。
a層　3/3　暗褐色　少量のハードヨームブロック（1～4mm）を含有した耕作土的な土層であり。サラサラしている。
b層　3/3　暗褐色　極少量のハキドロームブロック（2～5mm）を含有し，サラサラしている。
c層　3/3　暗褐色　少量のＹＰ，及び極少量のハードロームブロック（1～3mm）を含有し，サラサラしている。
4d層　4/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1mm～2cm）を含有し，ザラザラしている。
e層　4/3　褐色　ハードローム粒（1mm前後）を主体とし，ザラザラしている。
H43　炉址土層解説
D－D′
Hue 7.5YR
a層　3/4　暗褐色　焼土粒子及び焼土ブロック（5mm前後）を含有し，しまりをおびている。
b層　4/4　褐色　いわゆる褐色土層であり，当層上面が当住居址床面と思われる。
c層　3/4　暗褐色　少量の焼土粒子，ハードロームブロック5mm前後）を含有し，しまりをおびている。
d層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し若干しまりをおびてうる。
（部分的に加熱を受けている）
c層　4/4　褐色　ハードロームブロック（1～3cm）を主体とし，ごつごつしている。



H44　セクション土層解説

A－A´　B－B´
Hue 7.5YR

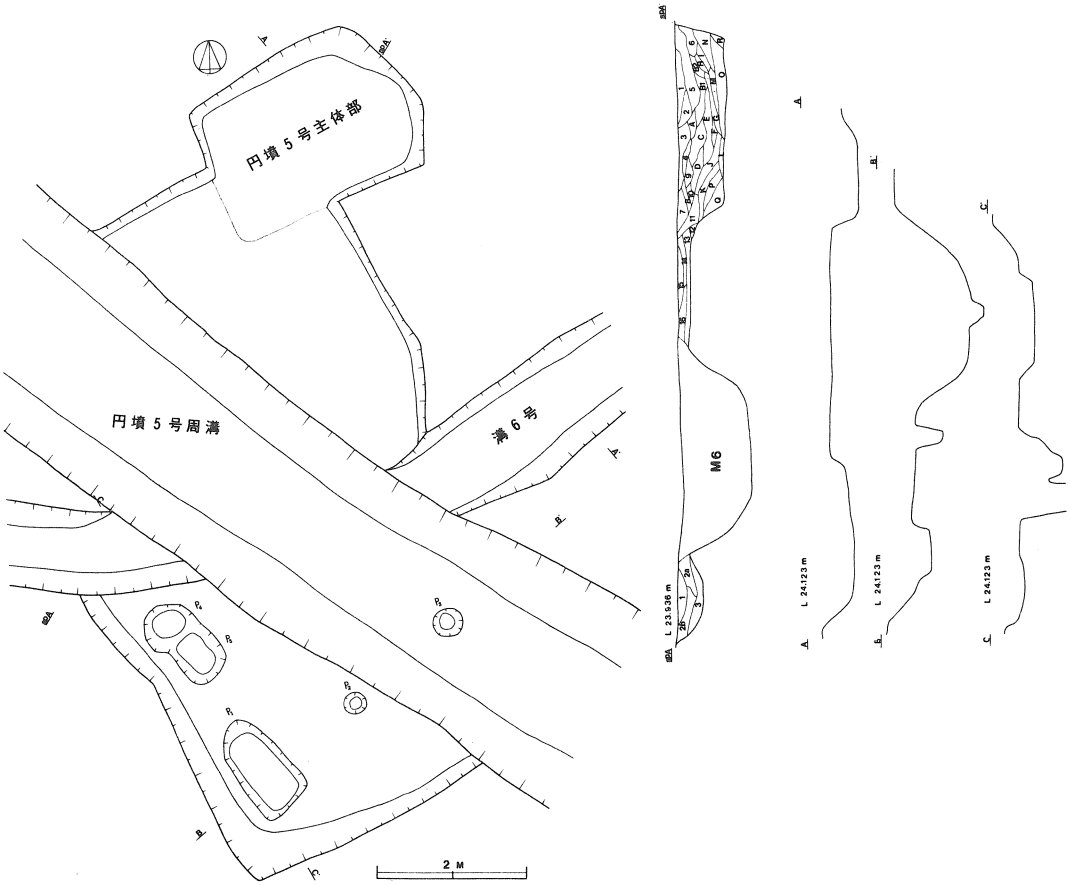
1層	2/2	黒褐色	比較的多量のＹＰおよびごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有しさらさらしている。
2層	2/2	黒褐色	少量のＹＰハードロームブロック（3mm前後）を含有しさやさらさしている。
3層	3/2	黒褐色	比較的多量のＹＰおよびごく少量の炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。
4層	2/3	極暗褐	少量のＹＰ，炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。
5層	2/2	黒褐色	少量のＹＰ，および極少量の炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。
6層	2/2	黒褐色	少量のＹＰを含有しさらさらしている。
7層	2/1	黒色	ごく少量のＹＰおよび少量の炭化粒子，焼土粒子を含有し若干しまりをおびている。
8層	2/3	極暗褐色	比較的多量の焼土粒子および少量の炭化物（どんぐり？）を含有し若干しまりをおびている。
9層	3/2	黒褐色	少量のＹＰおよびごく少量の炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。
10層	3/4	暗褐色	少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し比較的しまりをおびている。
11層	4/4	褐色	ハードロームブロック（1cm～5cm）を主体としごつごつしている。
12層	2/1	黒色	少量のハードロームブロック（3mm前後）およびごく少量の焼土粒子を含有し若干しまりをおびている。
13a層	2/2	黒褐色	ごく少量のＹＰを含有し比較的しまりをおびている。
13b層	2/2	黒褐色	少量のハードロームブロック（3mm～1cm）を含有し比較的しまりをおびている。
14層	2/1	黒色	少量のＹＰを含有ししまり粘性とも若干おびている。
15層	2/2	黒褐色	ごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまり粘性ともに若干おびている。
16層	2/2	黒褐色	少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
17層	3/3	暗褐色	少量のＹＰ，炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。

C－C´
Hue 7.5YR

a層	4/4	褐色	所謂褐色土である。
b層	3/4	暗褐色	少量の焼土粒子を含有し若干しまりをおびている。
c層			焼土塊
d層	5/6	明褐色	全面的に火熱を受けており非常にかたい。
s			石

※　当炉址上部に雲母変岩をのせてある。

第216図　志筑遺跡44号住居址実測図



第 217 図　　志筑遺跡45号住居址実測図

H45　セクション 土層解説

円墳５号周溝　A－A'

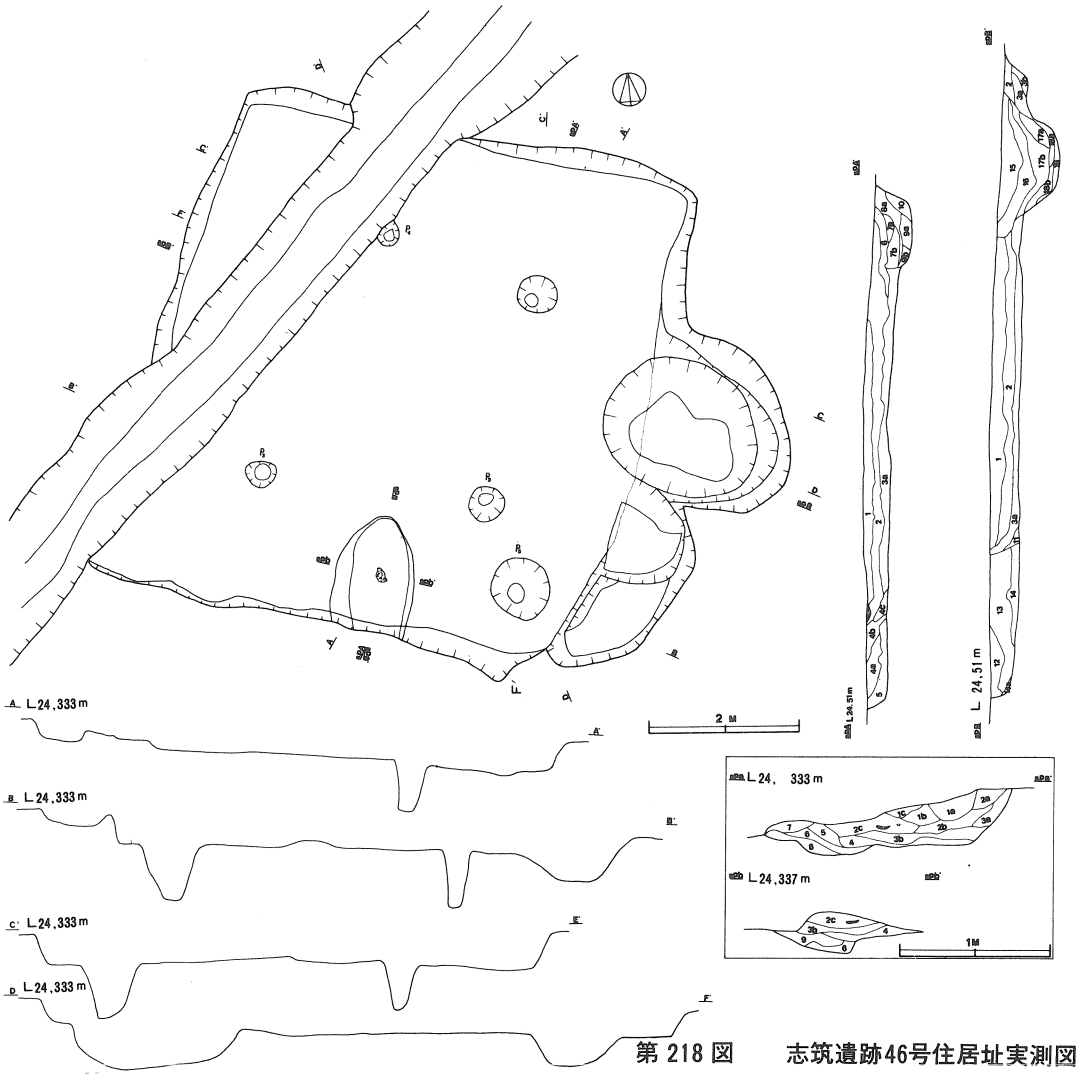
1層　3/3　暗褐色　少量のハードローム粒子（1mm前後）を含む。
2a層3/4　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～2cm）を含む。
2b層3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1mm～1cm）を含む。
3層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm～3cm）を含む。

円墳５号　M６号　セクション土層解説

1層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）及び極少量と焼土粒子を含む。
2層　3/4　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含む。
3層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）及び極少量の砂粒粘土ブロック（1cm前後）を含む。
4層　3/2　黒褐色　極少量のハードローム粒（1mm前後）粘土ブロック（3mm前後）を含む。
5層　3/2　黒褐色　極少量のハードロームブ（粒（1mm前後）及び粘土粒子（1mm前後）を含む。
6層　4/3　褐色　少量のハードロームブロック（1mm～3mm）及び，極少量の粘土ブロック（5mm前後）を含む。
7層　3/2　黒褐色　比較的多量のハードロームブロック（1mm～1cm）及び極少量の炭化粒子を含む。
8層　3/4　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（2mm～3cm）を含む。
9層　3/3　暗褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）を含む。
10層　3/2　黒褐色　極少量のハードローム粒（2mm前後）を含む。
11層　3/4　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～3cm）及び極少量の焼土粒子を含む。
12層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまりをおびていん。る
13層　3/4　暗褐色　多量のハードロームブロック（2mm～2cm）及び，比較的多量の焼土（1mm～1cm）及び，炭化物（炭）を含む。
14層　3/4　暗褐色　比較的多量のハードローム粒子（2mm前後）及び，極小量の焼土，及び極少量の炭化物（木炭所を含む。）
15層　4/4　褐色　比較的多量のハードローム粒子（3mm前後）及び，少量の焼土，炭化物（木炭）を含む。
16層　焼土塊　少量の炭化物（木炭）を含む

円墳５号主体部　セクション土層解説

A層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び，極少量の粘土粒子砂粒を含む。
B１層3/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）及び，粘土粒（1～5mm）を含む。
B２層3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含む。
C層　4/3　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～3cm）及び，少量の粘土，粒子を含む。
D層　3/3　暗褐色　極少量のハードロームブロック（1cm前後）を含む。
E層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1～3cm）及び，極少量の粘土粒子を含む。
F層　3/2　黒褐色　極少量の粘土粒子（1～5mm）を含む。
G層　4/3　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）粘土粒子を含む。
H層　3/3　暗褐色　極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含む。
I層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含む。
J層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1～2cm）及び粘土ブロック（1cm前後）を含む。
K層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1～5cm）及び極少量の粘土粒子（1mm～1cm）を含む。
L層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含む。
M層　4/3　褐色　極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含む。
N層　4/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～3cm）を含む。
O層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び，極少量の粘土粒（2mm前後）を含む。
P層　4/3　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含む。　後
Q層　4/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～5cm）を含む。
R層　4/3　褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～3cm）を含む。



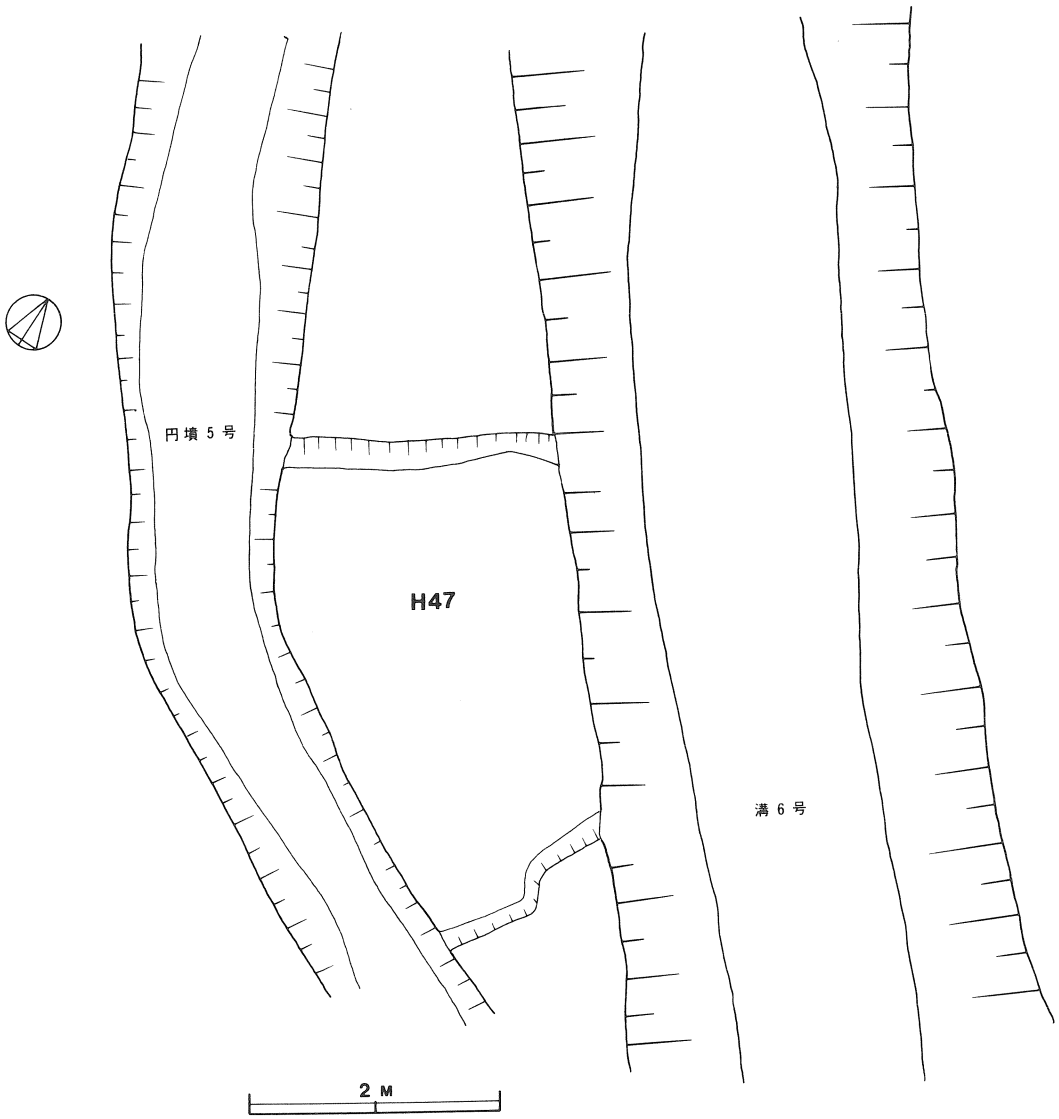
第218図　志筑遺跡46号住居址実測図

H46 セクション（土壙23）土層解説
A－A′　B－B′
Hue 7.5YR

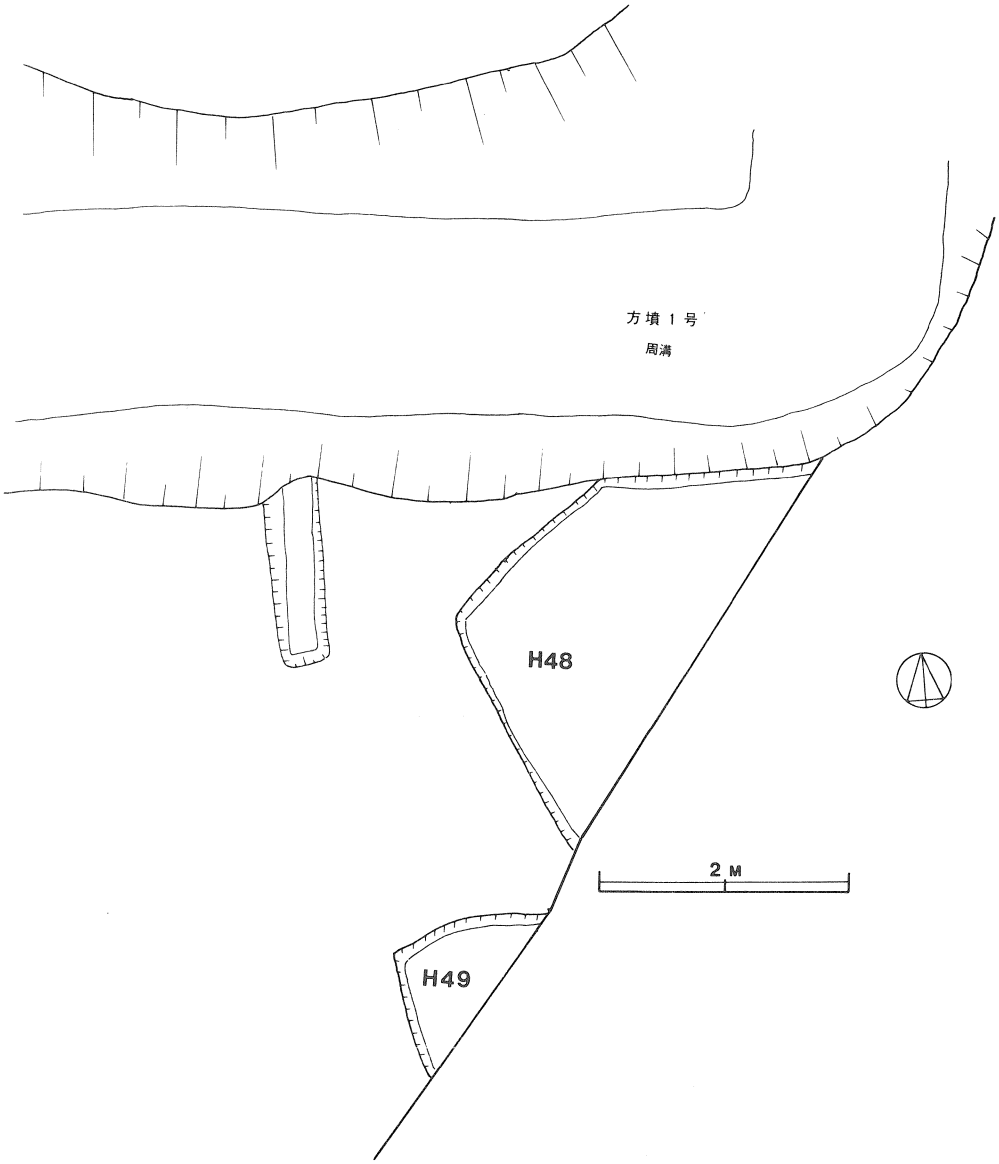
1 層 2/2 黒褐色　ごく少量のＹＰを含む。
2 層 3/3 暗褐色　ごく少量のハードロームブロック（1～3mm）を含む。
3a 層 3/4 暗褐色　ごく少量のＹＰ，ハードロームブロック（5mm～1cm）を含む。
4a 層 4/4 褐色　山砂を主体とし，ごく少量のハードロームブロック（5mm～3cm）を含む。
4b 層 3/3 暗褐色　少量のＹＰを含有した砂質の土層である。
4c 層 3/4 暗褐色　焼土を混在した山砂質の土層である。
5 層 6/6 橙色焼土を混入した山砂である。
6 層 3/4 暗褐色　少量のＹＰ及び極少量の焼土粒子を含む。
7a 層 3/3 暗褐色　極少量のＹＰを含む。
7b 層 3/4 暗褐色　少量のＹＰを含む。
8a 層 3/3 暗褐色　極少量のＹＰ及び少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含む。
9a 層 3/3 暗褐色少量のハードロームブロック（2mm～1cm）を含む。
9b 層 4/4 褐色　極少量のハードロームブロック（2mm～1cm）を含む。
10 層 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含む。いわゆる第1次埋土である。
11 層 3/4 暗褐色　極少量のＹＰを含む。
12 層 4/4 褐色　極少量のＹＰを含む。
13 層 4/4 褐色　極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含む。
14 層 4/4 褐色　極少量のＹＰを含む。
14a 層 4/6 褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含む。
15 層 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）及びＹＰを含有した砂質の土層である。
16 層 3/2 黒褐色　少量のＹＰ及び極少量の炭化粒子を含有した砂質の土層である。
17a 層 3/3 暗褐色　極少量のＹＰを含む砂質の土層である。
17b 層 3/2 黒褐色　少量のＹＰ及びハードな黒色ブロックを含む。
18a 層 3/3 暗褐色　極少量のＹＰを含む。
18b 層 3/2 黒褐色　少量のＹＰを含む。
19層 3/3 暗褐色　比較的多量のＹＰを含む。

H46 焼土　セクション土層解説
A－A′B－B′

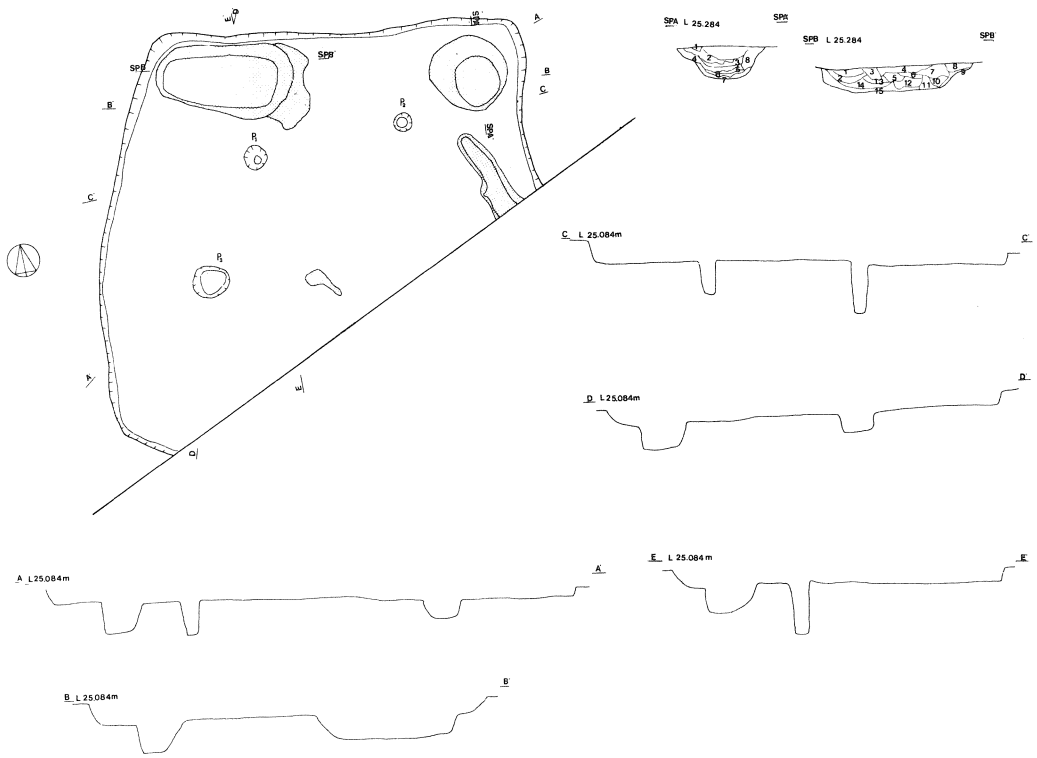
1a 層 4/4 褐色　山砂を主体とし，ザラザラしている。
1b 層 3/6 褐色　山砂層
1c 層 3/4 暗褐色　山砂を主体とし，ザラザラしている。
2a 層 4/4 褐色　山砂層
2b 層 4/4 褐色　少量の山砂を混在した褐色土であり，若干しまりを帯びている。
2d 層 5/6 明褐色　山砂層であり土器を包含している。
3a 層 4/4 褐色　極少量の山砂を含有し，若干しまりを帯びている。
3b 層 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
4 層 4/6 褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び極少量の焼土塊（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯びている。
5 層 Hue 7.5YR 3/4 暗赤褐 多量の焼土粒子を含有した山砂層である。
6 層 4/6 褐色　加熱を受けたハードロームブロック層
7 層 3/4 暗褐色　比較的多量の焼土粒子を含有した砂質の土層である。
8 層 5YR 3/4 にぶい赤褐色　多量の焼土粒子を含有した砂質の土層である。
9 層 3/4 明褐色　少量の焼土粒子，ハードローム粒（5mm前後）を含有した砂質の土層である。
10層 焼土塊を主体とした土層であり，非常にかたい。
11a 層（5YR）4/6 赤褐色　比較的多量の焼土塊（2cm前後）を含有した砂質の土層である。
11b 層（5YR）3/4 にぶい赤褐色　少量の焼土粒子を含有した砂質の土層である。



第 219 図　　志筑遺跡47号住居址実測図



第 220 図　　志筑遺跡48号住居址実測図



第 221 図　　志筑遺跡50号住居址実測図

H50　セクション土層解説

Hue 7.5YR 使用

A－A′

1層　3/4　暗褐色　少量のＹＰ炭化物（木炭）焼土塊（1cm前後）を含有し，しまりをおびている。

2層　　焼土塊（しまりをおびている）

3層　　多量の焼土塊（1cm前後）および比較的多量の炭化粒子を含有し，しまりをおびている。

4層　　焼土塊（非常にかたい）

5層　　焼土塊を主体とし少量のハードロームブロックを含有し，しまりをおびている。

6層　4/6　褐色　比較的多量の焼土粒子を含有し若干しまりをおびている。

7層　4/6　褐色　極少量の焼土粒子を含有し若干しまりをおびている。

8層　3/4　暗褐色　極少量の炭化粒子，焼土粒子を含有し若干しまりをおびている。

B－B′

1層　4/4　褐色　比較的多量の焼土粒子および少量のハードロームブロック（2cm前後）を含有し若干しまりをおびている。

2層　4/6　褐色　少量の焼土粒子，炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。

3層　3/3　暗褐色　少量と焼土粒子，炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。

4層　3/4　暗褐色　少量の焼土粒子，ハードロームブロック（1cm前後）を含有し若干しまりをおびている。

5層　4/4　褐色　多量の焼土粒子を含有ししまりをおびている。

6層　3/3　暗褐色　少量の焼土粒子および極少量の炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。

7層　2/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）炭化粒子を含有しさらさらしている。

8層　3/4　暗褐色　極少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し若干しまりをおびている。

9層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し若干しまりをおびている。

10層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）および極少量の焼土粒子を含有し若干しまりをおびている。

11層　5/6　明褐色

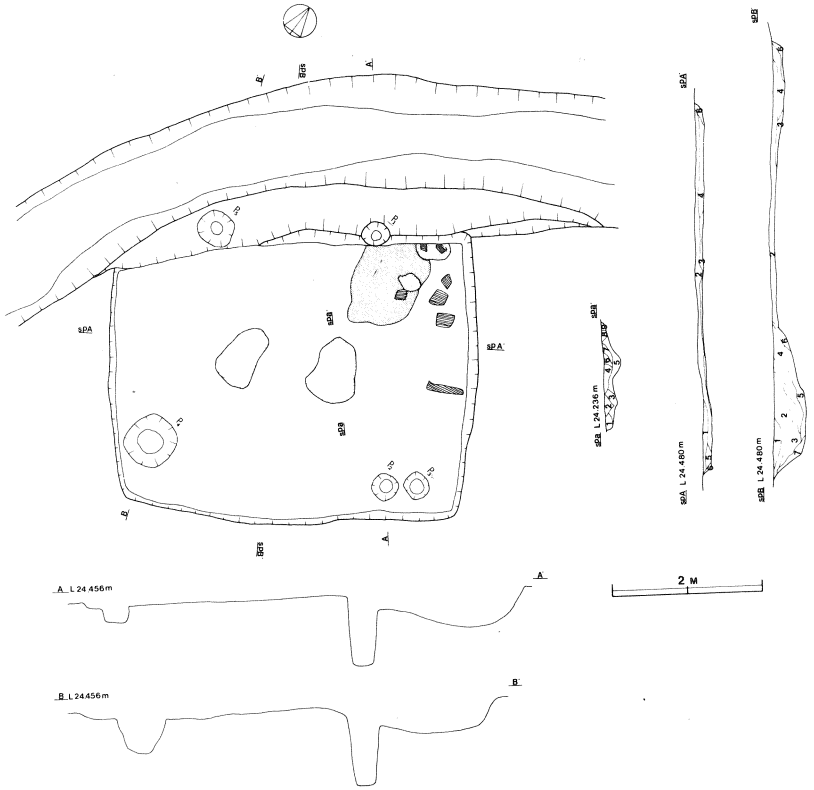
12層　4/4　褐色　少量の焼土粒子を含有し，若干しまりをおびている。

13層　4/6　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し若干しまりをおびている。

14層　4/6　褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有しまりを若干おびている。

15層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有ししまり粘性ともにおびている。

※　A・B土壙とも覆土上部および覆土中に多量の焼土および炭化粒子を含有している。



第 222 図　　志筑遺跡51号住居址実測図

H 51　セクション 土層解説

A－A′

Hue 7.5YR

1 層　3/3　暗褐色　少量のＹＰを含有し，サラサラしている。

2 層　3/4　暗褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードロームブロック(５mm前後)を含有し，サラサラしている。

3 層　4/4　褐色　少量のハードロー ムブロック(５mm前後)及び焼土粒子を含有し，若干しまりをおびている。

4 層　4/4　褐色　極少量の焼土粒子及び少量のハードロームブロック(２～３mm)を含有し，若干しまりをおびている。

5 層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック(１cm前後)含有し若干しまりをおびている。

6 層　4/4　褐色　褐色土を主とした，第一次埋土である。

B－B′

1 層　3/3　極暗褐色　極少量のＹＰを含有し，サラサラしてている。

2 層　3/2　黒褐色　少量のＹＰ及び，極少量のハードローム粒(１mm前後)を含有し，サラサラしている。

3 層　3/4　暗褐色　少量のＹＰ及び，極少量のハードロームブロック(２mm～５mm)を含有し，若干しまりを帯びている。

4 層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック(１cm前後)を含有し，若干しまりを帯びている。

5 層　4/6　褐色　ハードロームブロック(５mm～２cm)を主体とし,ゴツゴツしている。

6 層　3/4　暗褐色　少量のＹＰを含有しサラサラしている。

7 層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック(１cm前後)を含有し，若干しまりを帯びている。所謂，第一次埋土である。

H 51炉址 セクション土層解説

a －a′

Hue 7.5YR

1 層　3/4　暗褐色　少量のハードローム粒(５mm前後)を含有し，若干しまりを帯びている。

2 層　焼土塊

3 層　4/4　褐色　少量の焼土塊を含有し，しまりを帯びている。

4 層　焼土粒子を多量に含有した層。

5 層　4/6　褐色　所々，火熱を受けている。

6 層　焼土塊

7 層　赤褐色　火熱を受けたローム

8 層　撹乱

9 層　4/4　褐色　極少量のＹＰを含有し，若干しまりを帯びている。

第 223 図　　志筑遺跡53号住居址実測図

H 53　溝6号セクション土層解説

A－A

Hue 7.5YR

1層　⅔　褐色　多量のＹＰ，ハードローム粒子を含有し，若干しまりをおびている。

2層　⅔　暗褐色　極少量のＹＰ，ハードローム粒子を含有し，やわらかい

3a 層 ⅔　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm～10cm）を含有し，サラサラしている。

3b 層 ½　黒褐色　多量のハードローム粒子を含有し，若干しまりをおびている。

4a 層 ¾　暗褐色　多量のＹＰ，ハードローム粒子（1mm～5mm）及び極少量の砂粒を含有し，しまりをおびている。

4b 層 ⅔　暗褐色　多量のハードローム粒子を含有し，しまりをおびている。(一部に木の根の攪乱がある。)

4c 層 ⅔　暗褐色　多量のＹＰ，ハードローム粒子（1～5mm）を含有し，若干しまりをおびている。

5a 層 ⅔　暗褐色　少量のＹＰ，及び極少量のハードロームブロック（2cm前後）及び極少量の炭化物を含有し，若干しまりをおびている。

5b 層 ½　暗褐色　少量のＹＰ，ハードローム粒子（1～5mm）及び極少量の炭化物（炭）を含有し，非常にしまっている。

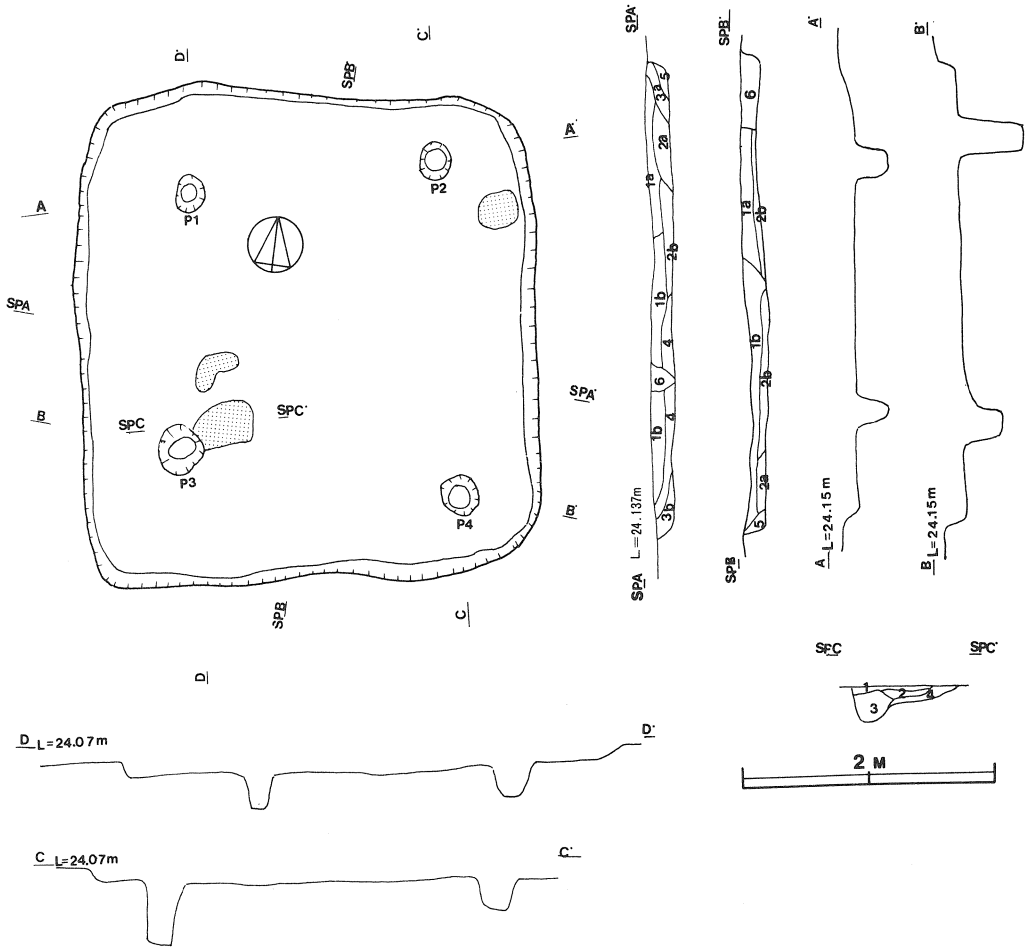
5c 層 ½　黒褐色　多量のＹＰ，ハードローム粒子を含有し，しまりをおびている。(一部に攪乱あり)

5d 層 ¾　暗褐色　少量のハードローム粒子，及び極少量の砂粒を含有し，サラサラしている。(一部に木の根による攪乱あり)

6a 層 ¾　暗褐色　少量のハードロームブロック（3cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

6b 層 ¾　暗褐色　多量のハードローム粒子（1mm～1cm）及び極少量の焼土を含有し，しまりをおびている。

6c 層 ⅔　暗褐色　少量のハードローム粒子を含有し，若干しまりをおびている。



第 224 図　　志筑遺跡54号住居址実測図

H 54　セクション土層解説

A－A′　　B－B′

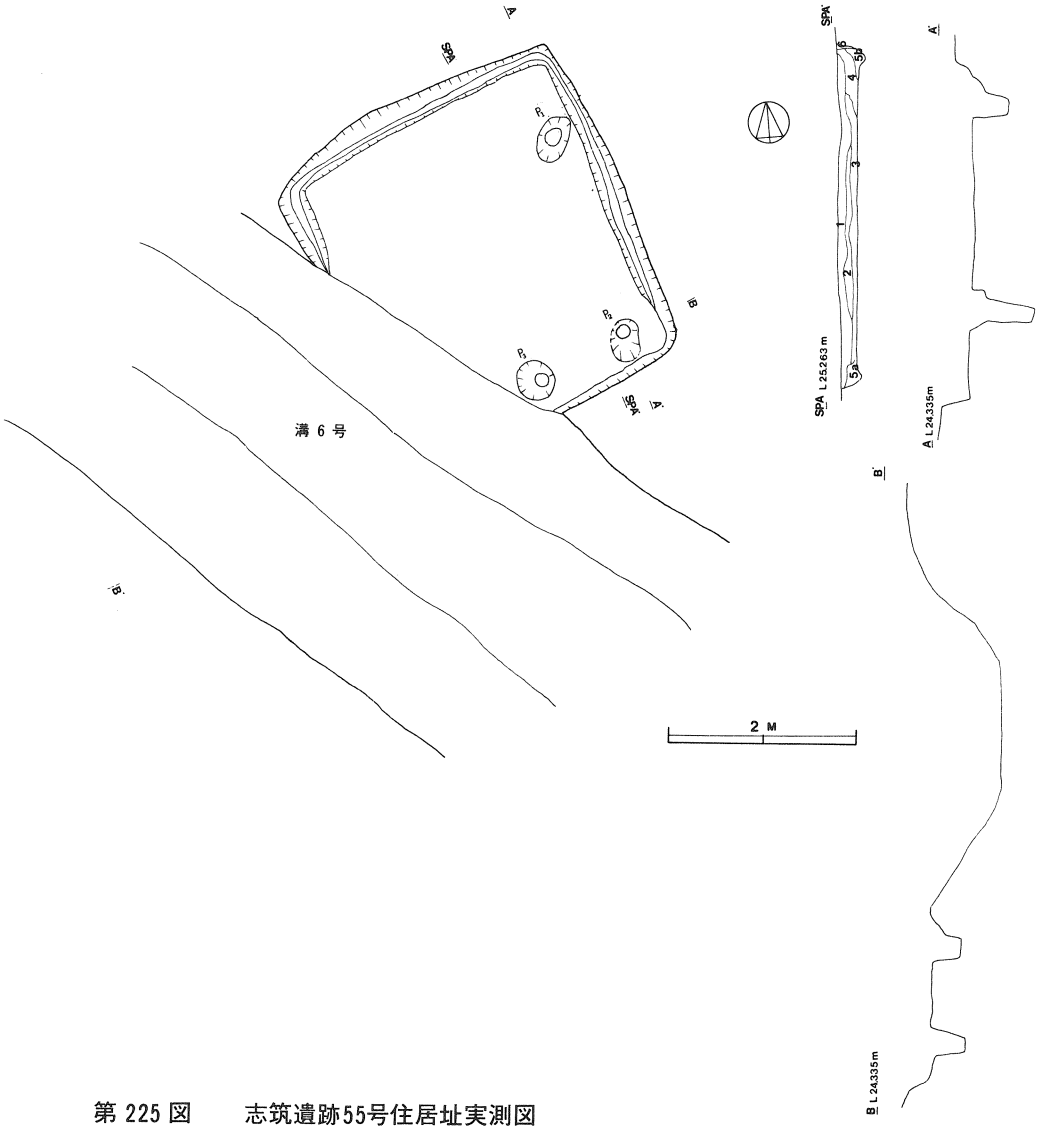
Hue 7.5YR

1 a 層	3/4	暗褐色　ごく少量のハードロームブロック（5㎜前後）を含有した砂質の土層であり，ざらざらしている。
1 b 層	3/3	暗褐色　極少量のハードロームブロック（5㎜前後）を含有し若干しまりをおびている。
2 a 層	3/2	黒褐色　少量の炭化物（木炭）および極少量のＹＰを含有し，しまりをおびている。
2 b 層	3/4	暗褐色　少量のＹＰおよび極少量の炭化粒子を含有し，しまりをおびている。
3 a 層	3/2	黒褐色　少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
3 b 層	3/4	暗褐色　極少量のＹＰおよび炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。
4 層	3/2	黒褐色　少量のＹＰ及び炭化粒子を含有し，しまりをおびている。
5 層	4/4	褐色　少量のハードロームブロック（1㎝前後）を含有し，若干しまりをおびている。
6 層		攪　乱

C－C′　焼土セクション土層解説

Hue 7.5YR

1 層	3/1	黒色　少量の焼土粒子を含有し，しまり粘性共に若干おびている。
2 層		比較的多量の焼土塊を含有した土層。
3 層	4/6	褐色　少量のハードロームブロック（1㎝前後）を含有し，若干しまりをおびている。
4 層		少量の焼土塊を含有した加熱を受けたハードローム層。



第 225 図　　志筑遺跡55号住居址実測図

H 55　セクション土層解説

Hue 7.5YR

1 層　3/4　暗褐色　少量のＹＰ，及び極少量のハードロームブロック（5 mm前後）を含有し，サラサラしている。

2 層　3/4　暗褐色　極少量のＹＰ，及びハードロームブロック（5 mm前後）を含有し，若干しまりを帯びている。

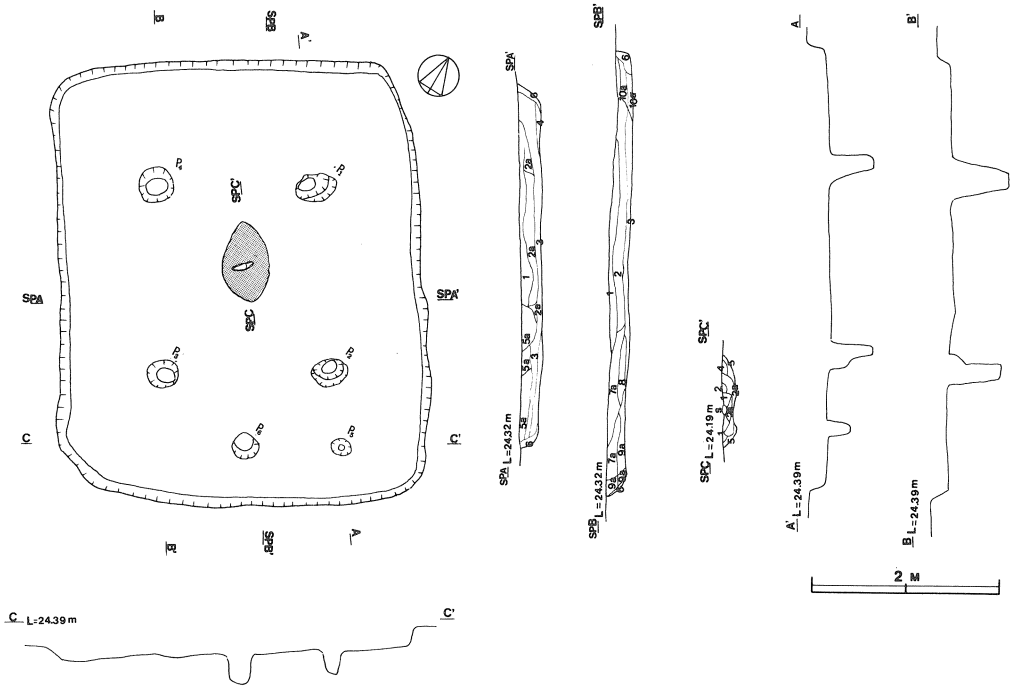
3 層　4/3　褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～1 cm）及び，極少量のＹＰを含有し，しまりを帯びている。

4 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～1 cm）及び，ＹＰを含有し，若干しまりをおびている。

5 a 層 5/6　明褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～1 cm）を含有し，若干しまりをおびている。

5 b 層 4/4　褐色　少量のハードロームブロック（1 cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

6 層　掘りすぎ



第 226 図　志筑遺跡56号住居址実測図

H 56　セクション土層解説

A－A′　　B－B′

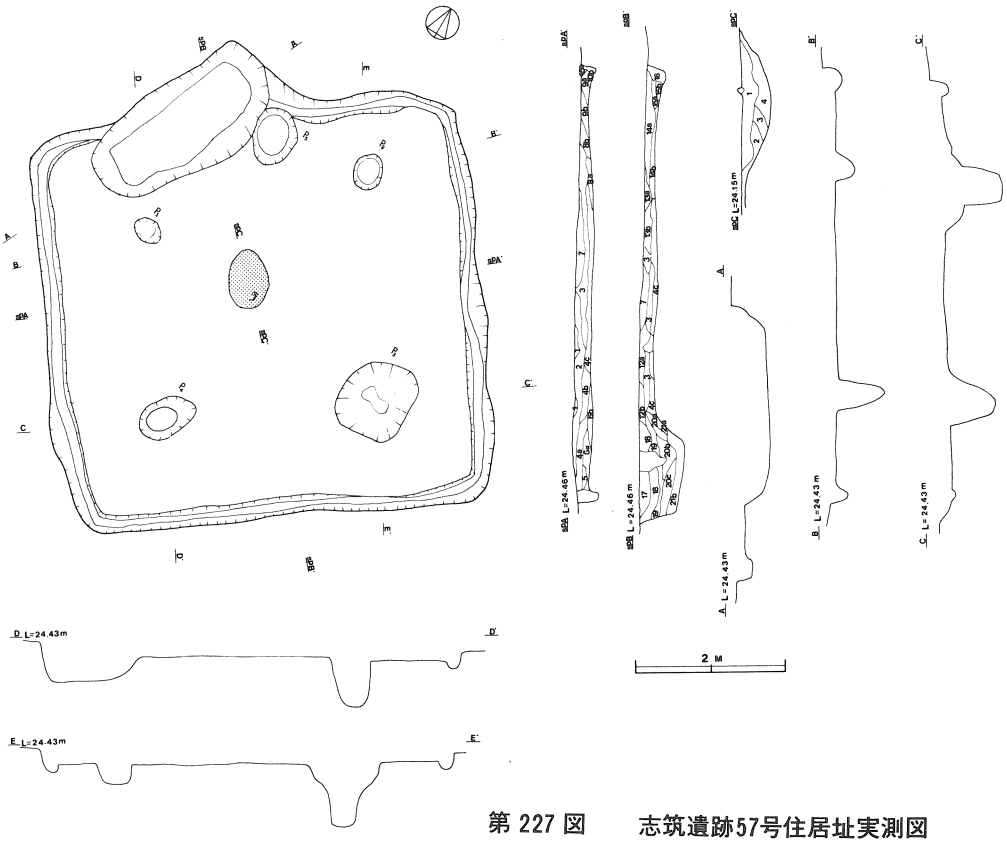
Hue 7.5YR

1 層　3/3　暗褐色　極少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
2 a 層 3/3　暗褐色　極少量のＹＰハードロームブロック（5 mm前後）を含有し若干しまりをおびている。
2 a′層 3/2　黒褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードロームブロック（5 mm前後）を含有ししまりをおびている。
2 a″層 3/4　暗褐色　少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
3 層　3/3　暗褐色　極少量のＹＰハードロームブロック（5 mm前後）を含有ししまりをおびている
4 層　3/3　暗褐色　極々少量のＹＰ焼土粒子を含有し，しまりをおびている。
5 a 層 3/4　暗褐色　少量のＹＰを含有し，さらさらしている。
5 a′層 3/3　暗褐色　少量のＹＰを含有し，しまりをおびている。
5 a″層 3/3　暗褐色　比較的多量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
6 層　3/6　褐色　ハードロームブロック（1 cm前後）を主体とし若干しまりをおびている。
7 a 層 3/2　黒褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードロームブロック（5 mm前後）炭化粒子を含有し，しまりをおびている。
7 a′層 3/2　黒褐色　比較的多量のＹＰ及び少量の炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。
8 層　3/1　黒色　比較的多量の焼土粒子及び極少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
9 a 層 3/6　褐色　少量のハードロームブロック（1 cm前後）を含有し若干しまりをおびている。
9 a′層 3/3　暗褐色　極少量のハードロームブロック（5 mm前後）を含有し非常にしまりをおびている。
9 a″層 3/3　暗褐色　少量のＹＰを含有ししまり粘性ともに強い。
10a 層 3/2　黒褐色　少量のＹＰ及び極少量の炭化物（木炭　）を含有し若干しまりをおびている。
10a′層 3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1 cm前後）を含有ししまり粘性ともに強い。

C－C′

Hue 7.5YR

1 層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（5 mm前後）及び焼土粒子を含有し若干しまりをおびている。
2 a 層　多量の焼土塊を含有した土層
2 a′層　加熱を受けたハードロームブロック
2 層　3/4　暗褐色　多量のハードロームブロック（5 mm前後）を含有し若干しまりをおびている。
4 層　3/4　褐色　少量のハードロームブロック（1 cm前後）を含有し若干しまりをおびている。
5 層　地山
S 層　石



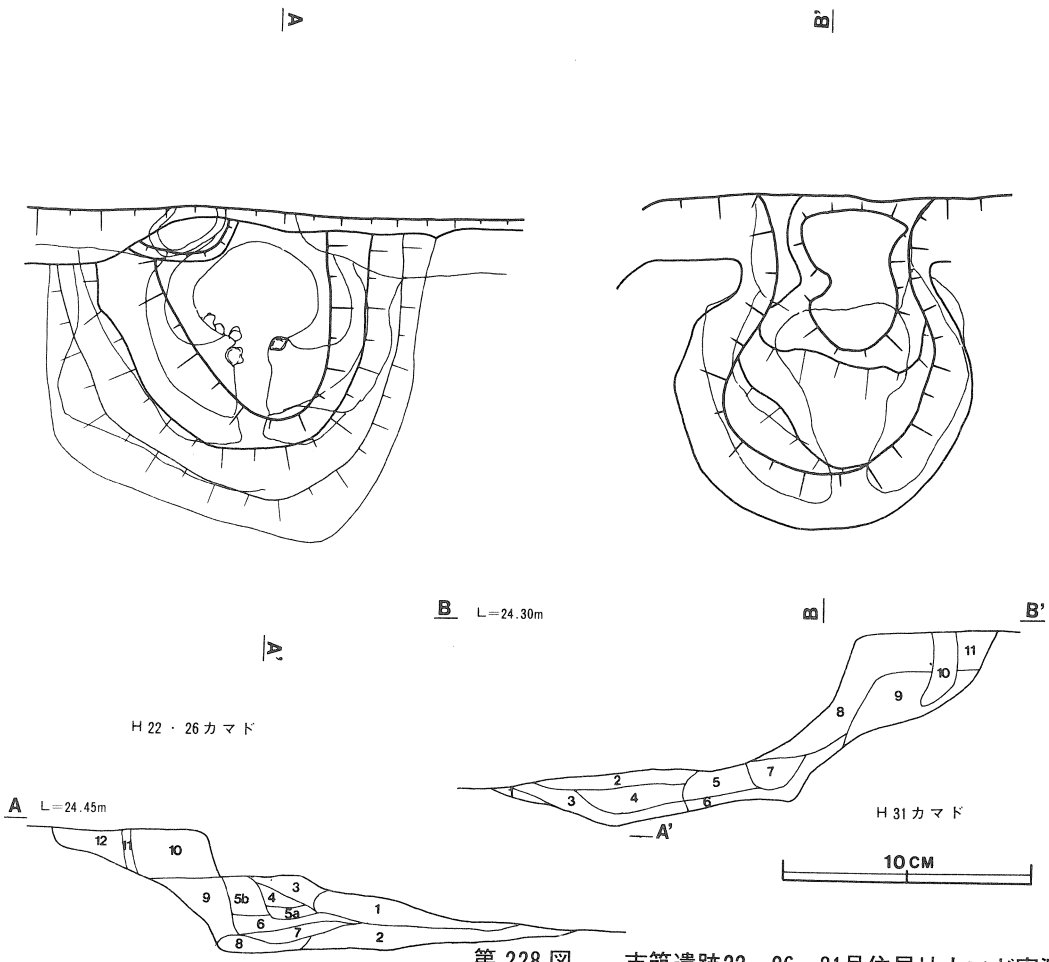
第227図　志筑遺跡57号住居址実測図

H57 セクション土層解説
A－A′ B－B′
Hue 7.5YR

1層 3/4 暗褐色　少量のＹＰを含有し，サラサラしている。
2層 3/3 暗褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードローム粒（3mm前後）を含有し，若干しまりを帯びている。
3層 3/4 暗褐色　少量のＹＰ及び極少量の焼土粒子，炭化粒子を含有し，若干しまりを帯びている。
4a層 3/3 暗褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードローム粒（5mm前後）焼土粒子を含有し若干しまりを帯びている。
4b層 3/2 黒褐色　少量のハードロームブロック（5mm～3cm）及び極少量の炭化粒子を含有し，しまりを帯びている。
4C層 4/3 褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有し，若干しまりを帯びてきいる。
5層 3/2 黒褐色　少量のＹＰを含有し，若干しまりを帯びている。
6a層 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）及び極少量のＹＰを含有し，しまりを帯びている。
6b層 4/4 褐色　ハードロームブロック(5mm～1cm)を主体とし，しまりを帯びている。
7層 3/2 黒褐色　極少量のＹＰ及びハードロームブロック（5mm）前後を含有し，若干しまりを帯びている。
8a層 4/4 少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまり粘性ともに帯びている。
8b層 4/3 褐色　少量のＹＰ及び極少量の焼土粒子を含有し，しまり粘性ともに若干帯びている。
9a層 3/3 極暗褐色　極少量のＹＰを含有
9b層 3/2 黒褐色　極少量のＹＰ，ハードローム粒（1mm前後を含有し，若干しまりを帯びている。
10a層 4/3 褐色　少量のＹＰ，ハードローム粒を含有し，さらさらしている。
10b層 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後を含有し，しまり，粘性ともに帯びている。
11層 5/6 明褐色　ハードロームブロック（5mm前後　を含有し，しまり，粘性ともに帯びている。
12a層 3/2 黒褐色　少量のＹＰ及び極少量の焼土粒子を含有し，しまりを帯びている。
12b層 3/3 暗褐色　少量のＹＰ及び極少量の粒子，炭化粒子を含有し，若干しまりを帯びている。
13a層 3/4 暗褐色　少量のハードローム粒（3mm前後，）極少黒の焼土粒子を含有し，若干しまりをおびている。
13b層 3/2 黒褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）及び極少量の焼土粒子，炭化粒子を含有し，若干しまりをおびている。
14層a 4/3 褐色　極少量のハードローム粒（1mm～5mm）及び，少量の焼土，塊，含有し若干しまりを帯びている。
14層b 3/3 暗褐色　少量のハードローム粒（1mm～5mm）及び，炭化物（木炭を含有）し，しまりを帯びている。
15層a 3/3 暗褐色　少量のハードローム粒（1mm）前後及び，炭化粒子，焼土粒子を含有し，しまりを帯びている。
15層b 4/4 褐色　ハードロームブロック（1mm）前後を主体し，しまり粘性，ともに，しまりを帯びている。
16層 3/4 暗褐色　少量のハードローム粒（1mm）前後及び極少量のハードローム，1mm前後，しまりを帯びている。
17層 3/2 黒褐色　比較的多量のハードローム粒（1mm）前後を含有し，若干しまりをおびている。
18層 3/2 黒褐色　少量のハードローム粒（1mm）前後を含有しを若干しまりを帯びている。
19層 3/2 黒褐色　少量のハードローム粒（1mm～5mm）を含有し，若干しまりをおびている。
20層a 3/3 暗褐色　極少量のハードローム粒（1mm）前後を含有し，しまりをおびている。
20層b 3/2 黒褐色　少量のハードローム粒（1～3mm）及び極少量の焼土粒子を含有し，しまりを帯びている。
20層c 3/2 黒褐色　少量のハードローム粒（1mm）前後を含有し，若干しまりをおびている。
21層a 3/4 暗褐色　極少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
21層b 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し，若干しまりをおびている。

H57 炉址 セクション土層解説
C－C′

1層 3/3 暗褐色　少量の焼土粒子を含有し，若干しまりを帯びている。
2層 5/6 褐色　火熱を受けたハードローム（極少量の焼土粒子を含有）
3層 4/4 褐色　少量の加熱を受けたハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりを帯びている。
4層 4/3 褐色　少量のハードロームブロック（加熱を受けていない）（1cm～3cm）を含有し，若干しまりを帯びている。



第 228 図　志筑遺跡22・26・31号住居址カマド実測図

H 22・26カマド　セクション土層解説

A－A′

1 層Hue 7.5YR 5/4　褐色　ローム床面（ブロック）

2 層Hue 7.5YR 5/1　褐灰色　粘土＋砂＋焼土粒を含み，やわらかい。

3 層Hue 7.5YR 5/4　褐色　ローム＋焼土（ブロック，粒子）　化物を含む。

4 層Hue 7.5YR 5/6　褐色　ローム＋砂＋焼土（ブロック，粒子）炭化物を含む＋小石有＋粘土

5 層Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム＋砂＋焼土＋粒子を含む＋炭化物混入

6 層Hue 7.5YR 5/3　褐色　ローム＋砂＋焼土粒子を含むしまりあり。

7 層Hue 7.5YR 5/4　褐色　ローム＋砂＋焼土粒子を含む。炭化物あり＋粘土少量含む。（特に砂多い）

8 層Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ロームブロック＋粘土少量含まれる（砂＋粒子）

9 層Hue 7.5YR 5/4　褐色　ローム，ソフトローム

10層Hue 7.5YR 5/4　褐色　ローム，ソフトローム　9 層よりややくらい。

11層Hue 7.5YR 5/4　褐色　ローム，ソフトローム

H 31　カマド　セクション土層解説

A－A′ B－B′

1 層Hue 7.5YR 5/2　灰褐色　粘土＋砂＋焼土＋炭化物（特に砂目のものが多い）

2 層　Hue 7.5YR 5/4　褐色　粘土を含む＋焼土粒が含まれる。ところどころにロームブロック混入。

3 層　Hue 7.5YR 5/2　灰褐色　粘土＋砂＋焼土の粒が含まれる。やわらかい。土師片が入り，含んでいた。

4 層　Hue 7.5YR 5/2　灰褐色　粘土＋砂＋焼土の粒が含まれる（黒色土，炭化物が含まれる），砂が多い，やわらかい。

5 a/b 層Hue 7.5YR 5/2　灰褐色　粘土＋砂＋焼土の粒子が含まれる（黒色土，炭化物が含まれる），砂が多い，やわらかい。

6 層　Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　粘土＋砂＋焼土の粒子が含まれる（黒色土，炭化物が含まれる），砂が多い。

7 層　Hue 7.5YR 5/3　褐色　黒色土が含まれるがロームブロックが混入する。

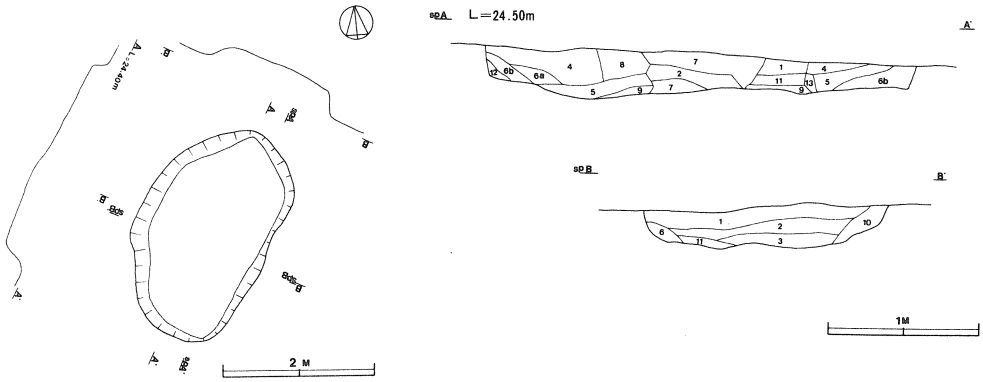
8 層　Hue 7.5YR 5/4　褐色　ロームブロック混入，やや砂を含む。あかみが含まれよく焼れた。

9 層　Hue 7.5YR 5/4　褐色　ロームブロック混入　かたい。

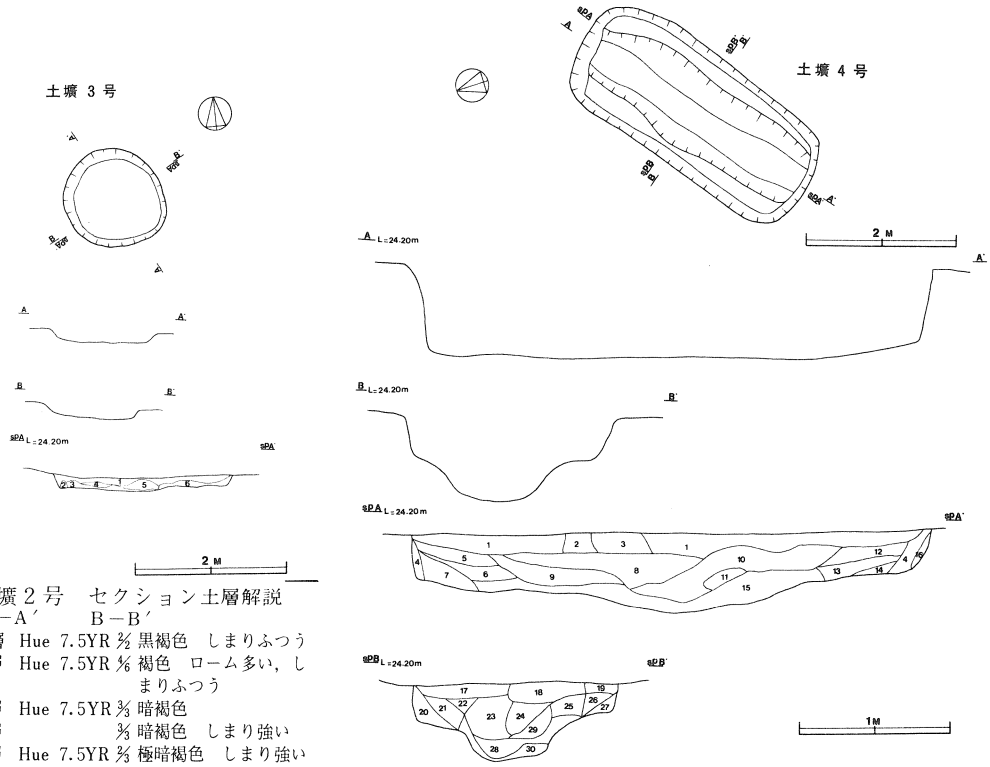
10層　Hue 7.5YR 6/4　にぶい橙色　ソフトローム

11層　攪乱

12層　Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ソフトローム



土壙 2 号



第 229 図　　志筑遺跡土壙 2・3・4 号実測図

土壙 2 号　セクション土層解説
A－A′　　B－B′

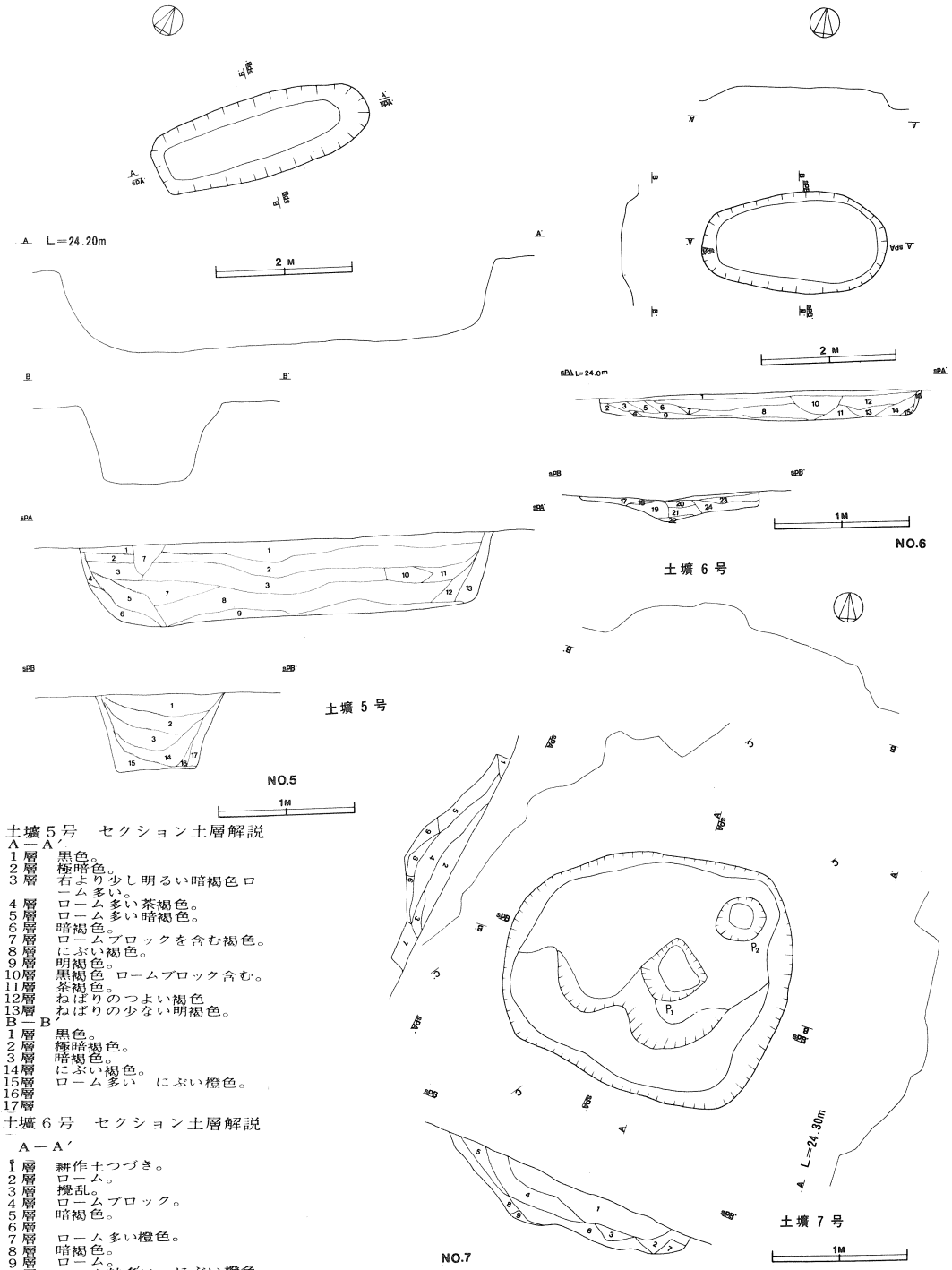
1 層　Hue 7.5YR 2/2 黒褐色　しまりふつう
2 層　Hue 7.5YR 4/6 褐色　ローム多い，しまりふつう
3 層　Hue 7.5YR 3/3 暗褐色
4 層　　3/3 暗褐色　しまり強い
5 層　Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色　しまり強い
6a 層Hue　5YR 4/6 褐色　しまりふつう
6b 層Hue 7.5YR 4/6 褐色　ロームを多く含む，しまり弱い。
7 層　　撹乱
8 層　Hue 7.5YR 3/4 暗褐色　しまり強い
9 層　Hue 7.5YR 5/6 褐色　しまりふつう，
10層　　ソフトローム
11層　Hue 7.5YR 3/4 暗褐色
12層　　ソフトローム
13層　　ロームブロック

土壙　3 号　セクション土層解説
A－A′

1 層　褐色土
2 層　ロームブロック
3 層　ソフトローム
4 層　暗褐色
5 層　暗褐色
6 層　ソフトローム

土壙 4 号　セクション土層解説
A－A′ B－B′

1 層　耕作土つづき
2 層　撹乱
3 層　黒褐色
4 層　暗褐色　ローム少ない，しまり強い。
5 層　明褐色　しまりよい。
6 層　褐色　しまり弱い。
7 層　褐色　しまりがよい
8 層　にぶい褐色，P・B 含む
9 層　暗褐色
10層　ロームの少ない，しまりよい。極暗褐色
11層　暗褐色　しまり弱い。
12層　暗褐色　ロームブロックを少量含む，しまりゆるい。
13層　褐色　ローム多い。
14層　極暗褐色　ローム少ない。
15層　極暗褐色　P・B を多く含む。
16層　にぶい橙色ロームの再堆積。
17層　耕作土
18層　黒褐色
19層　褐色　ローム多い。
20層　ロームのブロック化した。
21層　かたくしまったローム。
22層　ロームに黒色粒混入。
23層　明褐色　ロームが多い。
24層　にぶい褐色　P・B が多い。
25層　明褐色
26層　暗褐色
27層　にぶい褐色
28層
29層　極暗褐色　ローム少ない。
30層　褐色



土壙５号　セクション土層解説

Ａ－Ａ′

１層　黒色。
２層　極暗色。
３層　右より少し明るい暗褐色ローム多い。
４層　ローム多い茶褐色。
５層　ローム多い暗褐色。
６層　暗褐色。
７層　ロームブロックを含む褐色。
８層　にぶい褐色。
９層　明褐色。
10層　黒褐色　ロームブロック含む。
11層　茶褐色。
12層　ねばりのつよい褐色
13層　ねばりの少ない明褐色。

Ｂ－Ｂ′

１層　黒色。
２層　極暗褐色。
３層　暗褐色。
14層　にぶい褐色。
15層　ローム多い　にぶい橙色。
16層
17層

土壙６号　セクション土層解説

Ａ－Ａ′

１層　耕作土つづき。
２層　ローム。
３層　攪乱。
４層　ロームブロック。
５層　暗褐色。
６層
７層　ローム多い橙色。
８層　暗褐色。
９層　ローム。
10層　ローム粒多い　にぶい橙色。
11層　やや暗褐色。
12層　暗褐色。
13層　茶褐色。
14層　にぶい橙。
15層　茶褐色。
16層　ローム。

Ｂ－Ｂ′

17層　耕作土つづき。
18層　明褐色。
19層　にぶい橙色。
20層　しまりのよい暗褐色。
21層　しまりのよわい暗褐色。
22層　ローム。
23層　しまりのない褐色。
24層　にぶい橙色。

第 230 図　志筑遺跡土壙５・６・７号実測図

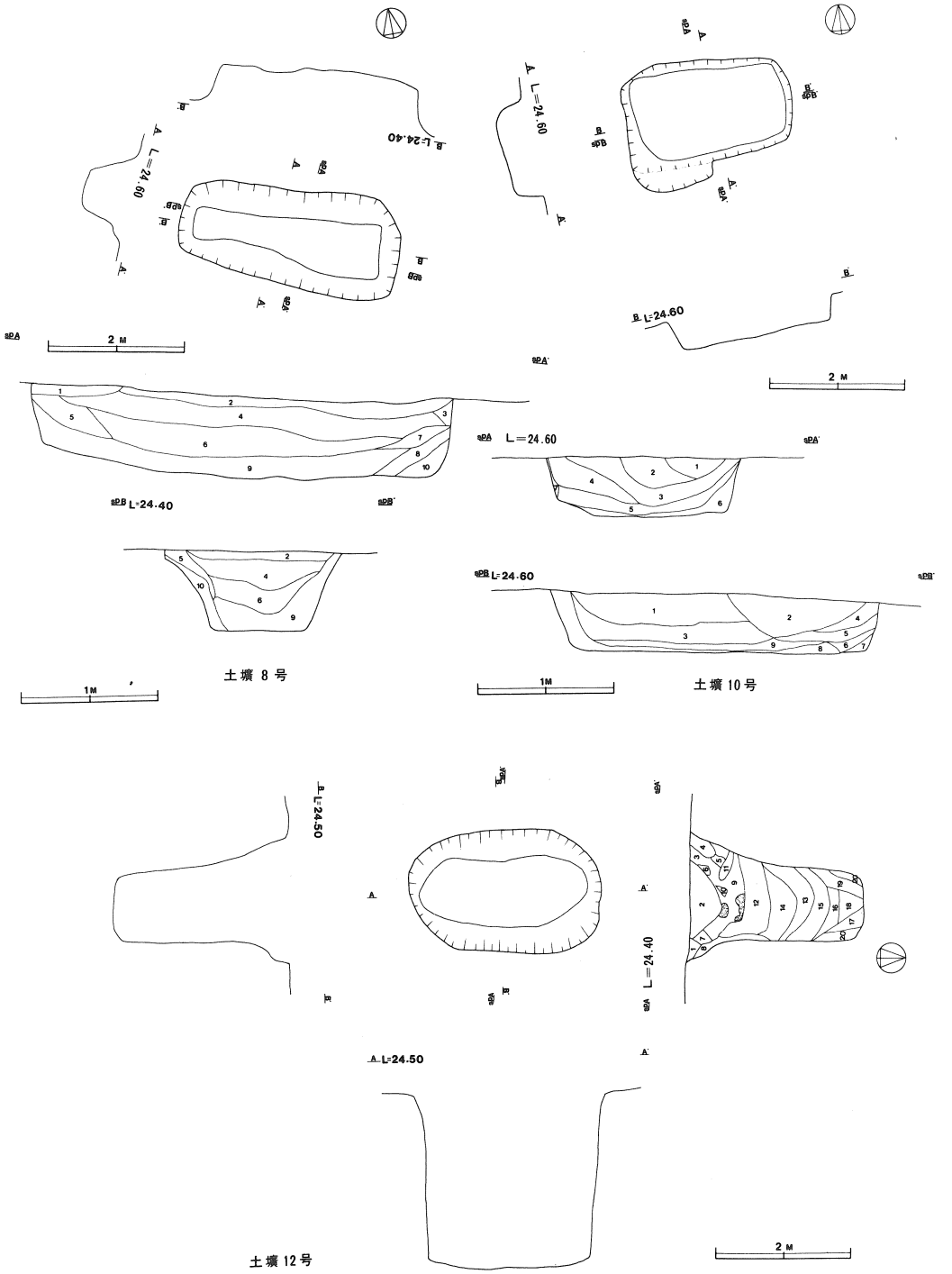
土壙７号

Ａ－Ａ′

１層　攪乱。
２層　黒色土。
３層　黒色土　ローム粒子を少量含む。
４層　暗褐色土　ローム粒子を少量含む。
５層　褐色土　少量のロームブロックを含む。
６層　褐色土　少量のロームブロックを含む。
７層　黒色土　ローム粒子を多く含む。
８層　褐色土　ローム粒子を含む。やわらかい。
９層　褐色土　ロームブロックを多量に含む。

Ｂ－Ｂ′

１層　黒色土。
２層　黒色土　ローム粒子を少量含む。
３層　黒褐色土。
４層　暗褐色土　ローム粒子を少量含む。
５層　黒色土　ローム粒子を少量含む。
６層　褐色土　ローム粒子及びロームブロックを含む。
７層　攪乱。
８層　褐色土　少量のロームブロックを含む。
９層　褐色土　ロームブロック混入。



第 231 図　　志筑遺跡土壙 8・10・12号実測図

土壙８号　セクション土層解説

Ａ－Ａ´Ｂ－Ｂ´

1 層Hue 7.5YR 4/4　ロームを多く含む（褐色）
2 層Hue 7.5YR 3/3　少量のローム粒を含む（暗褐色）
3 層Hue 7.5YR 4/4　ロームを多く含む（褐色）
4 層Hue 7.5YR 3/2　ローム粒混（黒褐色）
5 層Hue 7.5YR 3/4　ローム粒混（褐暗色）
6 層Hue 7.5YR 3/3　ローム粒混（暗褐色）７層 7.5 4/4　ローム粒混
7 層Hue 7.5YR 4/4　ローム粒混，しまりがつよい，粒子はあらい（褐色）
8 層Hue 7.5YR 4/6　ローム粒混，しまりふつう，粒子はあらい，ねばり有（褐色）
9 層Hue 7.5YR 3/4　ローム粒混，しまりよわい，粒子はあらい，サラサラ（褐暗色）
10層Hue 7.5YR 2/2　を含むローム，かたい（黒褐色）

土壙12セクション

Ａ－Ａ´

1 層Hue 7.5YR 2/2　かたくしまってきる，ローム粒子少量を含む（黒褐色）
2 層Hue 7.5YR 2/2　しまりは弱い，ローム粒子少量を含む（黒褐色）
3 層Hue 7.5YR 2/3　しまりは弱く，サラサラとしてきる。ローム粒はほとんど含まない（極暗褐色）
4 層　ソフトローム
5 層　ロームブロック
6 層　ロームブロック（バラバラにくずれている）
7 層Hue 7.5YR 2/2　しまりは弱い，ローム粒はごく少量（黒褐色）
8 層Hue 7.5YR 3/3　ロームを多量に含む（暗褐色）
9 層Hue 7.5YR 2/3　炭化物を多量に含む。ロームは少量（２重口縁のツボ等はこの層から出土，遺物はこの層に集中している）（極暗褐色）
10層　ロームブロック
11層　ロームブロック
12層Hue 7.5YR 2/2　粒子細かくサラサラしている。ローム粒を多く含んでいる。しまりはよわい　黒褐色）
13層Hue 7.5YR 2/3　粒子細かくサラサラしている。ローハはほとんど含まれなき。しまりはよわい（極暗褐色）
14層Hue 7.5YR 2/3　粒子はやや粗い。ローム粒子を多く含んでいるしまりはよわい（極暗褐色）
15層Hue 7.5YR 3/3　粒子細かくサラサラしている。ロームを多く含んでいる。しまりはよわい（暗褐色）
16層Hue 7.5YR 3/4　粒子細かくサラサラしている。ローム粒は少なく。しまりはつよい（暗褐色）
17層Hue 7.5YR 4/6　粒子は細かく，ねばりがある。ローム粒を主体とする（褐色）
18層Hue 7.5YR 3/2　粒子は細かく，ややねばりがある。ローム粒を少量含む。しまりはよわい（黒褐色）
19層Hue 7.5YR 3/3　粒子は細かく，ねばりがある。ローム粒を含みしまりはややつよめである（暗褐色）
20層Hue 7.5YR 4/6　粒子は細かくねばりがある，ローム粒を主体とし，17層と共にロームの再堆積と思われる（褐色）

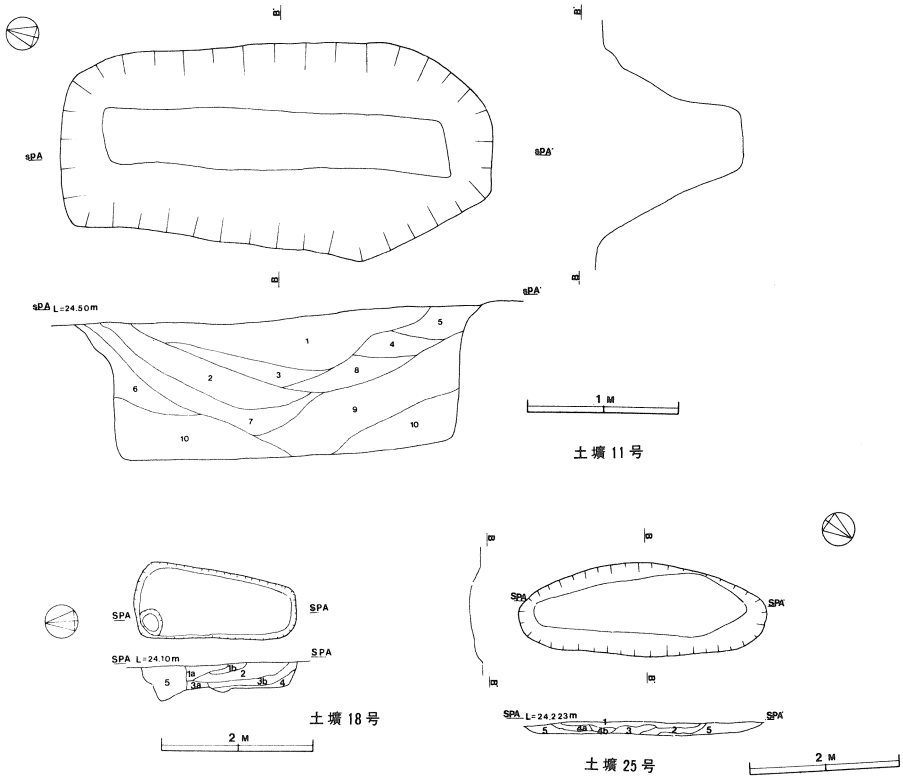
土壙10号　セクション土層解説

Ａ－Ａ´

1 層Hue 7.5YR 2/2　しまりはふつう，粒子は細かい，ねばりはない（黒褐色）
2 層Hue 7.5YR 2/3　ロームブロックのすぐれたもとを含む。粒子は細かくねばりはない，しやらはやや弱い（極（極暗褐色）
3 層Hue 7.5YR 2/2　ローム粒をあまり含まない，粒子は細かくややねばりがある。しまりはやや弱い（黒褐色）
4 層Hue 7.5YR 3/4　1mm内外のローム粒子を多く含む，ややねばりがある，しまりはやや弱い（黒褐色）
5 層Hue 7.5YR 3/4　1mm内外のローム粒子を含む，粒子は細かくねばりはややある。しまりはややつよい（暗褐色）
6 層Hue 7.5YR 5/6　ソフトローム　ねばりがつよい（明褐色）
7 層Hue 7.5YR 5/6　ソフトローム　　ねばりがつよい（明褐色）

Ｂ－Ｂ´

1 層Hue 7.5YR 2/3　ロームブロックのくずれたものを含む，粒子は細く，ねばりはない，しまりはやや弱い（極暗（極暗褐色）
2 層Hue 7.5YR 3/4　1mm内外のローム粒子を多く含む，1層より粗い粒子でややねばりがある。しまりはやや強い（暗褐色）
3 層Hue 7.5YR 2/2　ローム粒子をあまり含まない。粒子は１層と同じく細かくややねばりがある。しまりはやや弱い（黒褐色）
4 層Hue 7.5YR 3/4　２層よりやや明るい。しまりは２層よりやや強く，他は２層と変らない（暗褐色）
5 層Hue 7.5YR 3/4　４層とほぼ同じだが，粒子が細かくしまりが弱い（暗褐色）
6 層Hue 7.5YR 4/4　ローム粒子を多く含む（褐色）
7 層Hue 7.5YR 5/6　ソフトローム，ねばりが強い（明褐色）
8 層Hue 7.5YR 5/6　ソフトローム，ねばりが強い（明褐色）
9 層Hue 7.5YR 4/6　ロームのゼンイに近い（褐色）



第232図　志筑遺跡土壙11・18・25号実測図

土壙18号　セクション土層解説　Hue 7.5YR

1a 層　3/2　黒褐色　ごく少量のＹＰを含有し，サラサラしている。

1b 層　3/2　黒褐色　ごく少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，サラサラしている。

2 層　3/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（5mm～3cm）を含有し，若干しまりをおびている。

3a 層　3/3　暗褐色　ごく少量のハードロームブロック（1cm前後）ＹＰを含有し，若干しまりをおびている。

3b 層　3/2　黒褐色　ごく少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

4 層　4/6　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまり粘性ともにおびている。

5 層　撹乱

土壙25号　セクション土層解説
A－A′
Hue 7.5YR

1 層　3/3　暗褐色　少量のＹＰ及び極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

2 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm後後）を含有し，若干しまりを帯びている。

3 層　4/3　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有し，しまりをおびている。

4a 層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（3mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

4b 層　4/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

5 層　ソフトローム（掘りすぎ）

土壙11号　セクション土層解説

A－A′

1 層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　しまりつよい。粒子は細かくさらさらしている。

2 層Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　しまり強い。粒子細かくややねばりがある。

3 層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　しまり強い。粒子は細かくさらさらしている。

4 層Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　しまり強い。ややねばりあり。

5 層Hue 7.5YR 4/6　褐色　ロームブロックを多く含む。

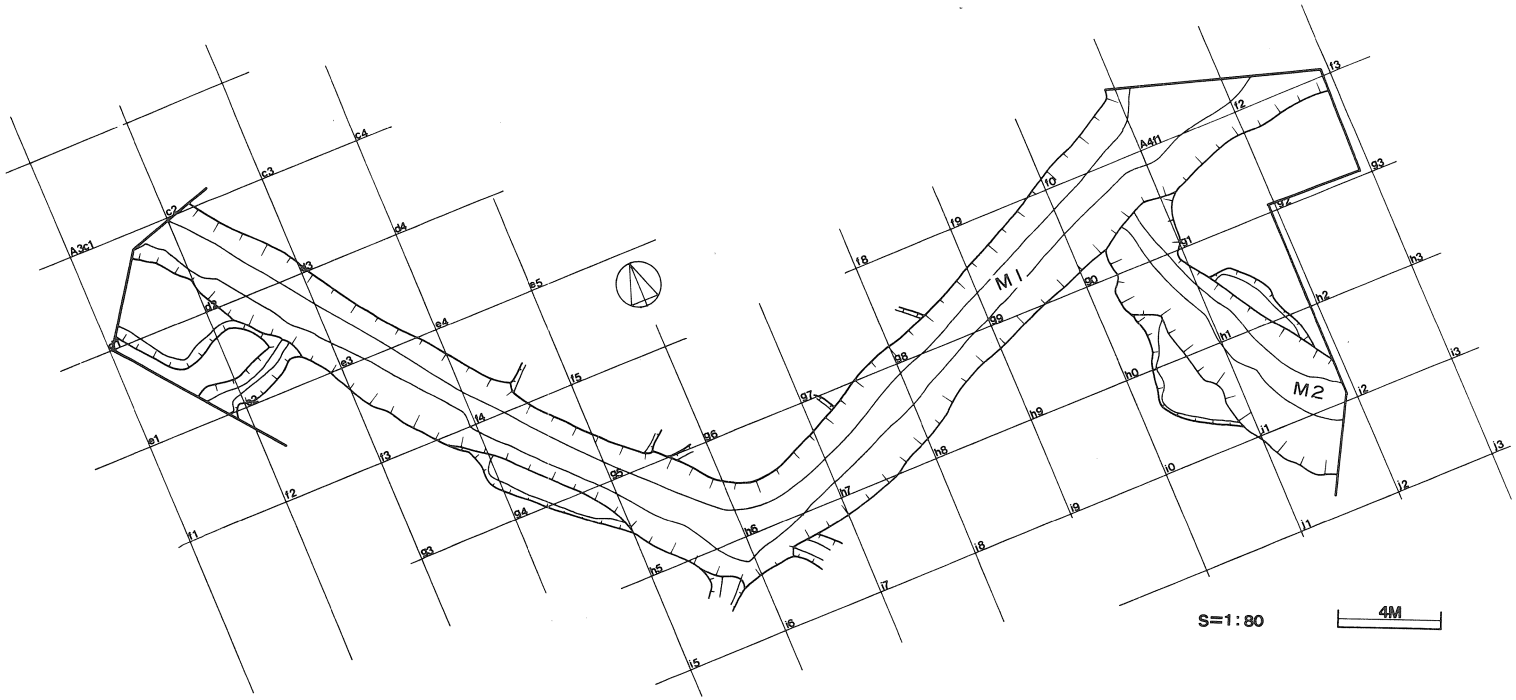
6 層Hue 7.5YR　5 層と同じ

7 層Hue 7.5YR 5/8　明褐色　ねばり強いローム。

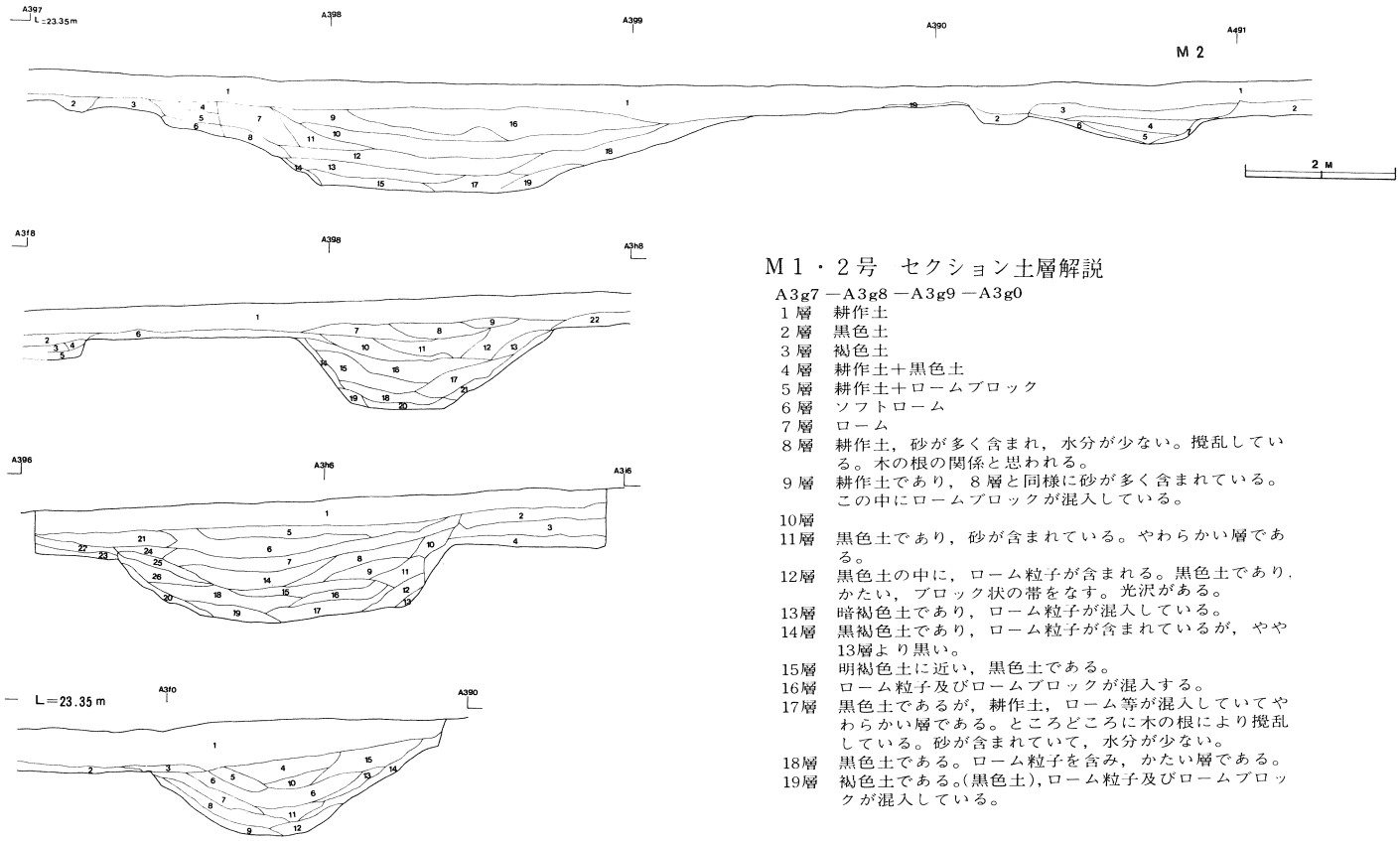
8 層Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　2 層と同じ

9 層Hue 7.5YR 5/8　明褐色　強くしまっている。ブロック含む。

10層Hue 7.5YR 5/8　明褐色　ソフトローム



第 233 図　　志筑遺跡溝（Ｍ１・２号）実測図



M1・2号　セクション土層解説

A3g7 —A3g8 —A3g9 —A3g0

1層　耕作土
2層　黒色土
3層　褐色土
4層　耕作土＋黒色土
5層　耕作土＋ロームブロック
6層　ソフトローム
7層　ローム
8層　耕作土，砂が多く含まれ，水分が少ない。撹乱している。木の根の関係と思われる。
9層　耕作土であり，8層と同様に砂が多く含まれている。この中にロームブロックが混入している。
10層
11層　黒色土であり，砂が含まれている。やわらかい層である。
12層　黒色土の中に，ローム粒子が含まれる。黒色土であり，かたい，ブロック状の帯をなす。光沢がある。
13層　暗褐色土であり，ローム粒子が混入している。
14層　黒褐色土であり，ローム粒子が含まれているが，やや13層より黒い。
15層　明褐色土に近い，黒色土である。
16層　ローム粒子及びロームブロックが混入する。
17層　黒色土であるが，耕作土，ローム等が混入していてやわらかい層である。ところどころに木の根により撹乱している。砂が含まれていて，水分が少ない。
18層　黒色土である。ローム粒子を含み，かたい層である。
19層　褐色土である。(黒色土)，ローム粒子及びロームブロックが混入している。

第234図　志筑遺跡溝（M1・2号）断面図

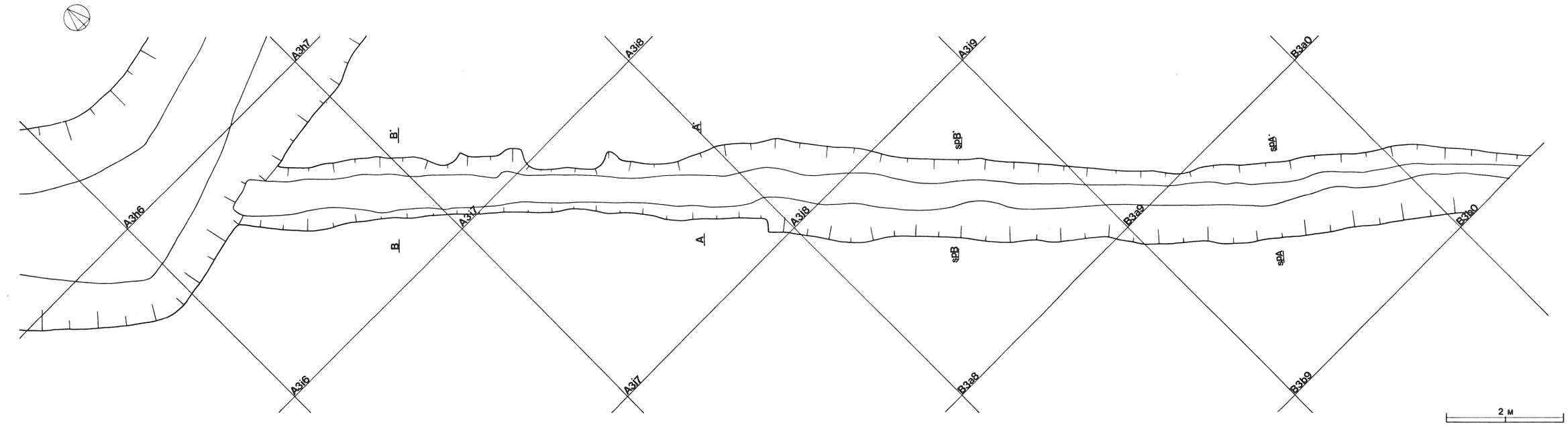
A3g0 —A4g1
1 層　耕作土
2 層　耕作土＋ローム混入したもの
3 層　黒色土，黒色土であるが一部ローム。耕作土が含まれる。
4 層　黒褐色土。ローム粒子が含まれる。かたい層である。
5 層　明褐色土
6 層　黄褐色土
7 層　ローム

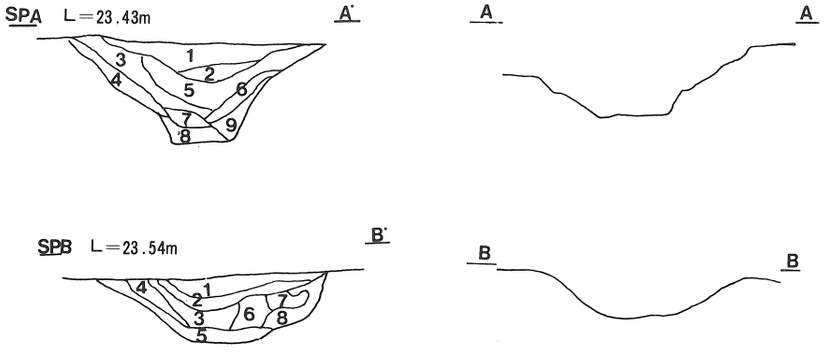
A3f8 —A3g8 —A3h8
1 層　耕作土
2 層　黒色土の中にロームブロック混入。
3 層　黒色土＋ローム粒子。しまりがありかたい。
4 層　黒色土
5 層　黒色土＋ローム粒子＋ロームブロック混入でかたい。
6 層　暗褐色土　ところどころに耕作土及びロームのかたまりが混入している。
7 層　黒色土
8 層　褐色土の中にロームが混入している。
9 層　耕作土の中にロームブロック・粒子が混じっている。やわらかい。
10層　暗褐色土　ローム粒子が混入する。柔かい。
11層　暗褐色土　黒色のロームのかたまりが混入している。
12層　褐色土　耕作土が混入し，柔かい。
13層　黒褐色土であるが，耕作土が混入していて柔かい。
14層
15層　黒色土の中に少量であるがローム粒子が混入する。
16層　黒色土　かたいブロック状のもので，しまっている。光沢がある。
17層　10層よりややローム粒子が含まれる。
18層　黒色土の中にローム粒子及びロームの固まりがみられる。
19層　黄褐色土　ところどころに黒色土が混入している。
20層　黒色土ではあるがローム粒子が多く含まれている。かたい。
21層　ロームブロック＋黒色土であり，やや柔かい。
22層　褐色土

A3g6 —A3h6 —A3i6
1 層　耕作土
2 層　黒色土
3 層　暗褐色土
4 層　明褐色土
5 層　耕作土＋黒色土の混りあったもの
6 層　黒色土であるが，やや5層より砂を多く含み，やや明るい黒色土である。
7 層　黒色土　砂を多く含み5層と同様な色をもつ。かたくしまった土層である。
8 層　黒色土であるが7層より柔かく色も暗黒色土である。
9 層　黒色土であるが，ローム粒子及びロームブロックが混入している。
10層　ローム粒子及びロームブロックを多量に含む。褐色土である。
11層　黒色土であるが，2層と違いブロック状の帯になり，かたい所である。
12層　黒色土であり，少量のローム粒子がみられる。
13層　黒色土であるが，やや9層よりローム粒子が少ない。柔かい層である。撹乱の様子もある。
14層　黒色土であり，ローム粒子を含む。13層よりやや暗い色である。
15層　黒色土　ところどころにロームブロックのかたまりが混入する。
16層　黒色土であり，ローム粒子がわずかに混入する。2・11・15層より褐色をおびている。
17層　褐色土でありローム粒子及びロームブロック混入。

18層　褐色土
19層　黒色土であるが，耕作土が多量に含まれている。ところどころにロームブロックが見られる。撹乱層である。
20層　黒色土と耕作土のミックスしたものである。
21層　黒色土であるが，ロームのブロック状のものがある。ローム粒子が含まれる。
22層　黒色土＋耕作土のまじったものがある。ところどころにロームブロックがみられる。黒色土層である。
23層　ローム粒子が含まれるが，ロームブロックがなく，22層と同様，黒色土＋耕作土の混りあったものである。
24層　黒色土であり，ローム粒子及びロームブロックがみられる。
25層　ロームブロック及びローム粒子を多量に含む。黒色土の土層である。

A3f0 —A3g0
1 層　耕作土
2 層　褐色土（ハードローム）
3 層　黒色土
4 層　耕作土　ロームの中に耕作土が含まれる。明褐色土でやわらかい。
5 層　褐色土でややややわらかい。
6 層　暗褐色土　ブロック状になり，かたくつやがある。
7 層　明褐色土　ロームであり暗褐色土が混入している。やわらかい層である。
8 層　暗褐色土　褐色土の中に黒色土が含まれる。低部に行くにしたがい黒色土が多くなる。
9 層　暗褐色であり，ところどころにロームブロックがあり，やわらかい。砂も含まれる。
10層　4層よりやや黒色をおびている。7層と同様な色土を呈す。砂が含まれる。
11層　6層の暗褐色土の下にあり，やわらかい土である。ところどころに黒色土が含まれる。砂も多く含まれている。
12層　9層と同様で9層よりやや暗い色である。やわらかくローム粒子が多く混入する。砂が多量に混入している。
13層　暗褐色土であるが，柔かいローム粒子を含む。
14層　13層より明るい。ロームブロック，ローム粒子を含む。
15層　黒色土であり，ローム粒子が多量に含まれる。柔かい土層であり，水分も少ない。





第 235 図　　志筑遺跡溝（Ｍ３号）実測図

Ｍ３号　セクション土層解説

Ａ－Ａ′

１層　黒色土。

２層　黒色土でローム粒子が含まれ，やわらかい。

３層　暗褐色土でローム粒子を含む。ややしまりがある。

４層　ソフトローム。

５層　暗褐色土でローム粒子を含みやわらかい。

６層　暗褐色土でロームブロック少量含まれる。

７層　褐色土　ロームブロックが含まれやわらかい。

８層　ソフトローム　ローム粒子及びロームブロックを含む（３～５㎝）

９層　暗褐色土であり，ハードロームのブロックを含む。

Ｂ－Ｂ′

１層　黒色土。

２層　２層（Ａ－Ａ′）と同じ。

３層　５層（Ａ－Ａ′）と同じ。

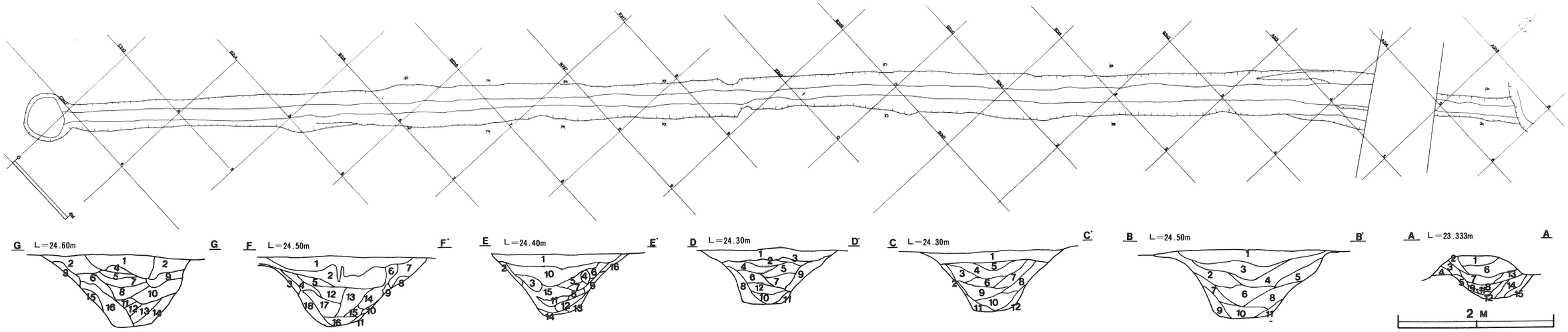
４層　黒色土　ローム粒子を含み，やわらかい。

５層　ソフトローム，ロームブロック混入。

６層　暗褐色土　やわらかい。

７層　黒色土でローム粒子を含みやわらかい。

８層　ソフトローム混入。



第 236 図　　志筑遺跡溝（Ｍ５号）実測図

Ｍ５号　セクション土層解説

Ａ－Ａ′

1 層Hue 7.5YR 5/4 にぶい橙色　ハードロームブロックを含む。
2 層Hue 7.5YR 3/4 暗褐色　ロームブロック含む。
3 層Hue 7.5YR 3/2 黒褐色　ローム粒子を含む。
4 層Hue 7.5YR 4/6 褐色
5層Hue 7.5YR 5/6 明褐色　粘性つよい。
6 層　ほとんどハードロームブロックよりなる，土層と共にガサガサである。
7 層Hue 7.5YR 3/3 極暗褐色　ロームブロック(中)を含む。
8 層Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
9 層Hue 7.5YR 3/2 黒褐色　ロームを多く含む。
11層Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
12層Hue 7.5YR 3/3 極暗褐色
13層Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
14層Hue 7.5YR 2/1 黒色
15層Hue 7.5YR 3/4 暗褐色

Ｂ－Ｂ′

1 層Hue 7.5YR 3/2 黒褐色　1～2㎜のローム粒混入しまりつよい。
2 層Hue 7.5YR 3/3 極暗褐色　しまりつよい。
3 層Hue 7.5YR 3/3 暗褐色　しまりややつよい。
4 層Hue 7.5YR 3/2 黒褐色
5 層Hue 7.5YR 3/3 極暗褐色　かたくしまる。
6 層Hue 7.5YR 3/3 暗褐色
7 層Hue１０YR 4/6 褐色
8 層Hue 7.5YR 4/6 褐色
9 層Hue 7.5YR 4/4 褐色　しまり弱い。
10層Hue 7.5YR 5/6 明褐色
11層Hue１０YR 4/6 褐色

Ｃ－Ｃ′

1 層　耕作土
2 層
3 層　褐色　しまりない。
4 層　黒色　ロームブロックを含む。
5 層　褐色　ロームブロックを含む。
6 層　黒色　しまりよい。
7 層　にぶい褐色　ロームが多い。
8 層　にぶい褐色　ロームブロックを含む。
9 層　暗褐色
10層　褐色　ロームブロックをふくむ。
11層　褐色　黒色粒をふくむ。
12層　褐色　ロームブロックを多く含む。

Ｄ－Ｄ′

1 層Hue 7.5YR 3/2 黒褐色　微少なローム粒子を含む，しまりがつよい。
2 層Hue 7.5YR 3/2～5/2 黒褐色～極暗褐色　ローム粒混入，しまりがつよい。
3 層Hue 7.5YR 3/2 黒褐色　ローム含有。
4 層Hue 7.5YR 3/2 黒褐色　しまりやや強い。
5 層Hue 7.5YR 3/3 暗褐色　しまり強い。
6 層Hue 7.5YR 4/4 褐色
7 層Hue 7.7YR 4/6 褐色　7.5
8 層Hue 7.5YR 5/6 明褐色　ソフトローム主体，ねばり強い。
9 層Hue 7.5YR 3/3 暗褐色　ロームブロック含有，しまり弱い。
10層Hue 7.5YR 5/8 明褐色
11層Hue 7.5YR 4/6 褐色　ロームブロック（2～3㎝）のものと混入と混入，やわらかい。
12層Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色

Ｅ－Ｅ′

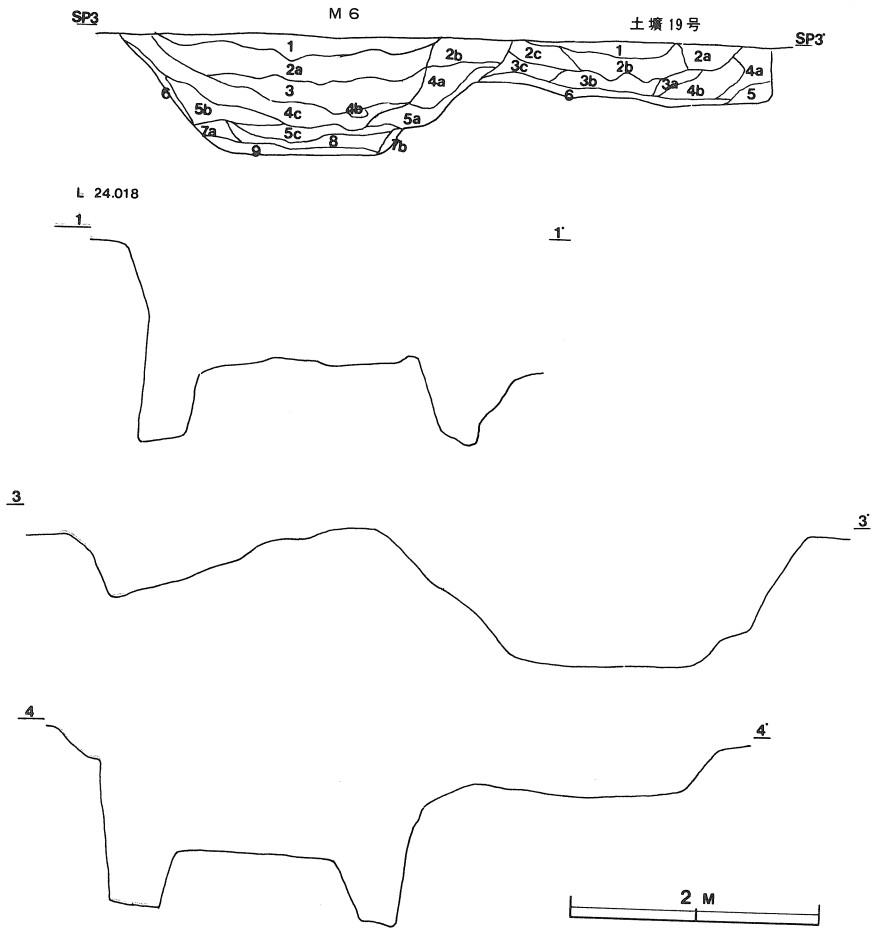
1 層　耕作土
2 層　ローム
3 層　ローム少ない
4 層　ロームブロック
5 層　黒色
6 層
7 層　ローム少
8 層　暗褐色　ローム中ぐらい
9 層　ロームブロック
10層　黒褐色
11層　暗褐色　ローム多い
12層　褐色　ローム含有
13層　褐色
14層　暗褐色　ローム含有，しまり弱い
15層　暗褐色　ローム少ない
16層　暗褐色　ローム多い

Ｆ－Ｆ′

1 層　暗褐色　耕作土
2 層　明褐色　ローム少ない
3 層　褐色　ローム多く混入
4 層　黒褐色　ローム多く含まれる
5 層　黒褐色　ローム少ない
6 層　褐色　ローム多い
7 層　褐色　ローム
8 層　褐色　ローム多い
9 層　ロームが多く含有
10層　ローム
11層　ローム，粒子のみパラパラ含まれる。
12層　ローム少ない
13層　暗褐色　ロームやや多く含有
14層　ローム多い
15層　明褐色　ローム粒多く含まれる。
16層

Ｇ－Ｇ′

1 層　攪乱
2 層　耕作土
3 層　ローム
4 層　耕作土
5 層　暗褐色　ロームなし，かたい
6 層　暗褐色　ローム小，しまりがよい
7 層　黒褐色　ローム小，しまりがよい
8 層　黒褐色　ローム中，しまりがふつう
9 層　黒褐色　ロームやや多く，しまりがよい
10層　黒褐色　ローム中，しまりがある
11層　暗褐色　ローム粒多く，しまりがない
12層　暗褐色　ロームふつう，しまりがない
13層　暗褐色　ローム多く，しまりがない
14層　暗褐色　ローム多く含有
15層　ローム
16層　明褐色　ローム非常に多い



第 237 図　志筑遺跡溝（M 6 号）断面実測図

M 6 号　土壙19号　セクションベルト土層解説

SP3－SP3′　M 6
Hue 7.5YR

1　層　3/2　黒褐色　ごく少量のハードローム粒（1 mm前後）を含有しさらさらしている。

2a 層　3/3　暗褐色　ごく少量のハードローム粒（1 mm前後）および，比較的多量の黒色のハードブロック（1 cm前後）を含有ししまりをおびている。

2b 層　3/3　暗褐色　ごく少量のハードローム粒（1 mm前後）および少量の黒色のハードブロック（5 mm前後）を含有し若干しまりをおびている。

3　層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1 mm～1 cm）を含有した砂質の土層であり若干しまりをおびている。

4a 層　3/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（1～5 mm）及びごく少量の黒色ハードブロック（5 mm前後）を含有し若干しまりをおびている。

4b 層　3/2　黒褐色　比較的多量の黒色ハードブロック（1 cm前後）及び極少量のハードローム粒（1 mm前後）を含有し若干しまりをおびている。

4c 層　3/3　暗褐色　少量のハードローム粒（1～3 mm）黒色ハードブロック（5 mm～1 cm）を含有し若干しまりをおびている。

5a 層　3/3　暗褐色　少量のハードローム粒（1 mm前後）を含有した砂質の土層であり若干しまりをおびている。

5b 層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1 mm～1 cm）およびごく少量の炭化物（木炭）を含有ししまりをおびている。

5c 層　5/4　褐色　ハードロームブロック（5 mm前後）を主体としまりをおびている。

6　層　3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（3 cm前後）を含有し若干しまりをおびている。

7a 層　5/4　褐色　ハードロームブロック（1 mm～1 cm）を主体とした砂質の土層でありしまりをおびている。

7b 層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1 cm前後）を含有し若干しまりをおびている。

8　層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～1 cm）および黒色土ブロック（5 mm前後）を含有ししまりをおびている。

9　層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5 mm前後）を含有した砂質の土層であり，若干しまりを帯ている。

SP3－SP3′　土壙19
Hue 7.5YR

1　層　3/3　暗褐色　ごく少量のハードローム粒（1 mm前後）およびごく少量の焼土粒子を含有し若干しまりを帯ている。

2a 層　3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（1 mm前後）を含有し若干しまりをおびている。

2b 層　3/3　暗褐色　少量のハードローム粒（1 mm前後）及び極少量の焼土粒子を含有ししまりをおびている。

2c 層　3/3　暗褐色　少量のハードローム粒（1 mm前後）を含有し若干しまりをおびている。

3a 層　3/4　暗褐色極少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている

3b 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～1 cm）を含有ししまりをおびている。

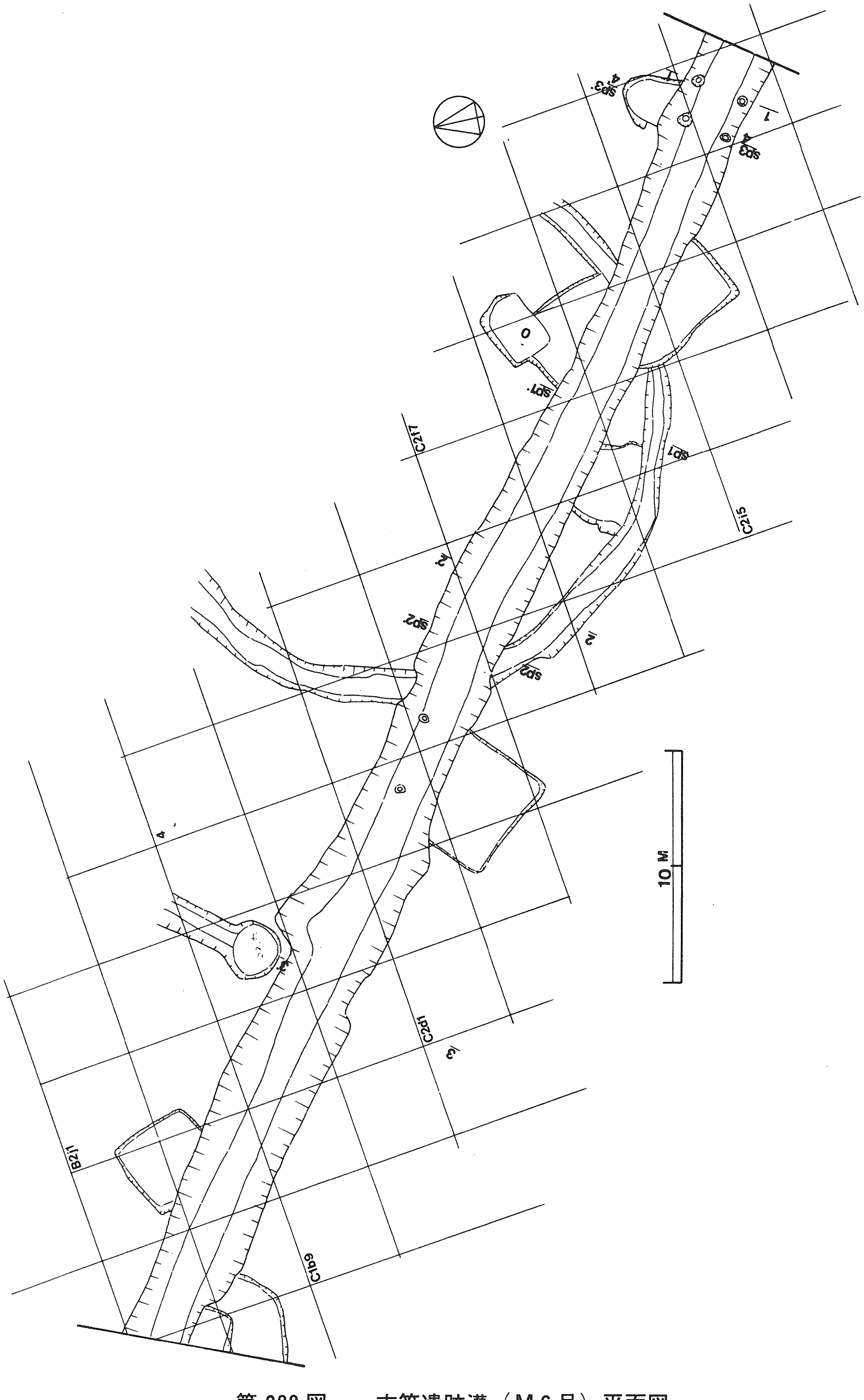
3c 層　3/3　暗褐色　ごく少量のハードローム粒（1 mm前後）を含有ししまりをおびている。

4a 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5 mm～3 cm）を含有し若干しまりをおびている。

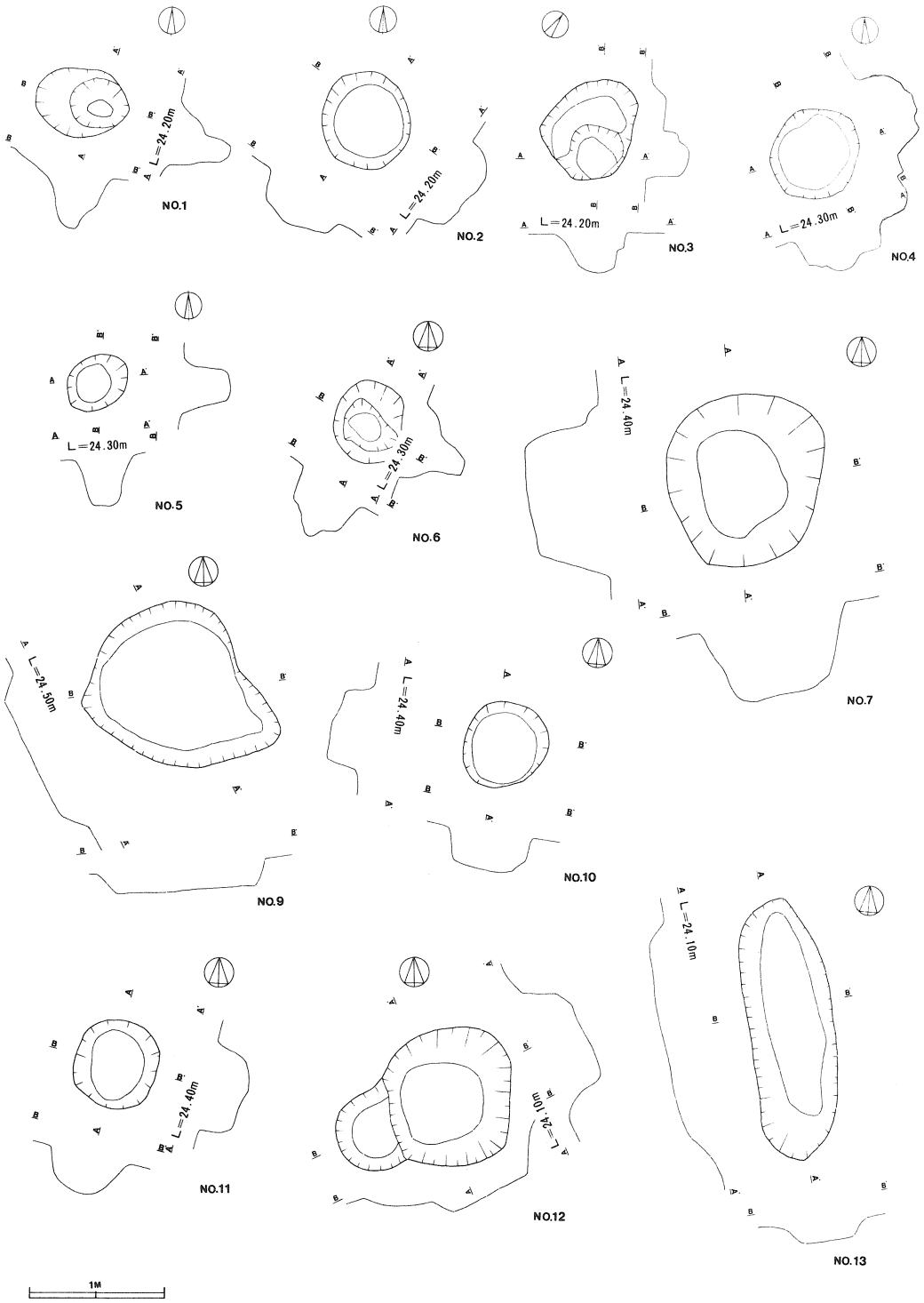
4b 層　3/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（1 cm前後）を含有し若干しまりをおびている。

5　層　5/6　褐色　少量のハードロームブロック（1 cm前後）を含有し若干しまりをおびている。

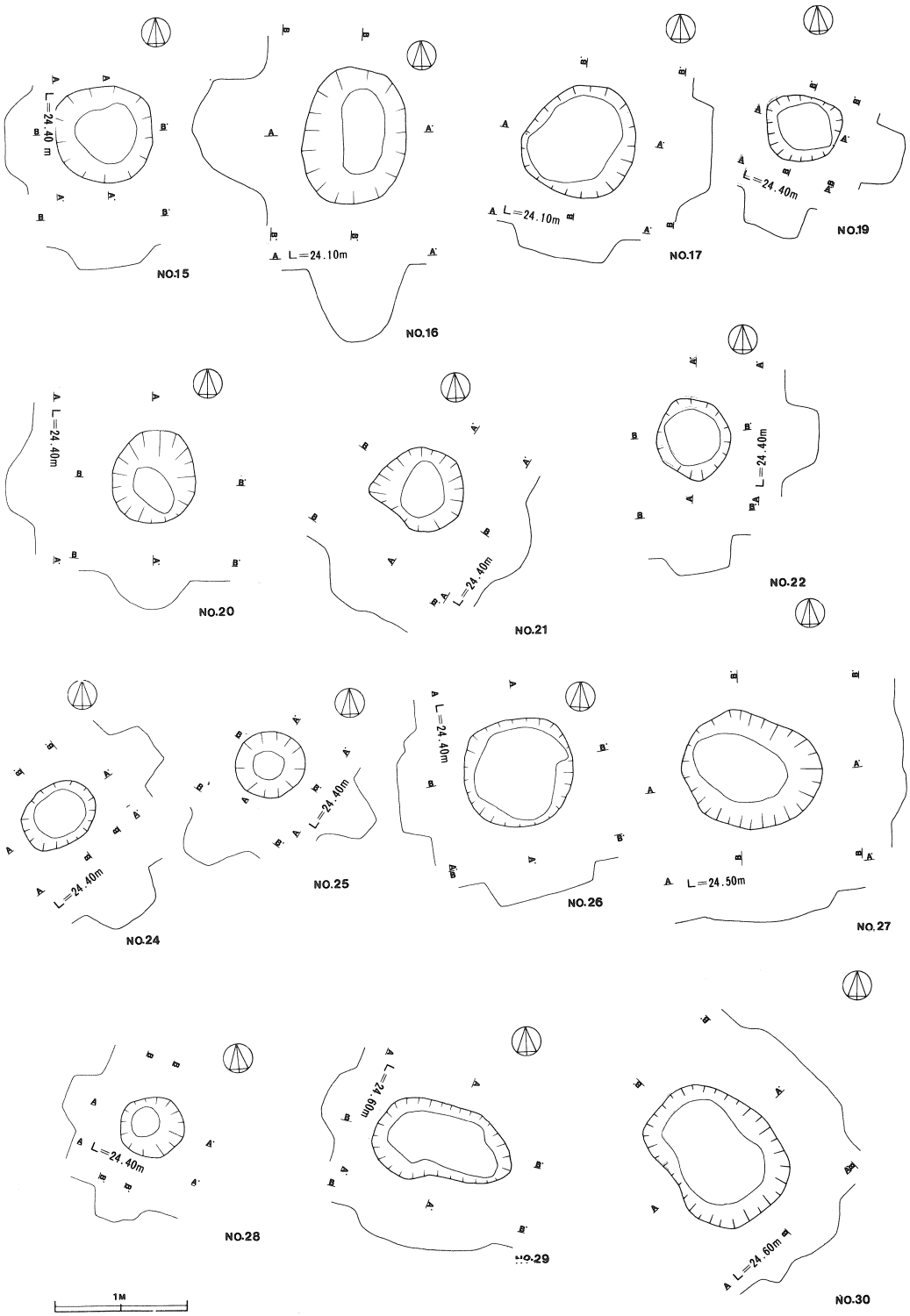
6　層　5/4　褐色　ハードロームブロック（1 cm前後）を主体としまりをおびている。



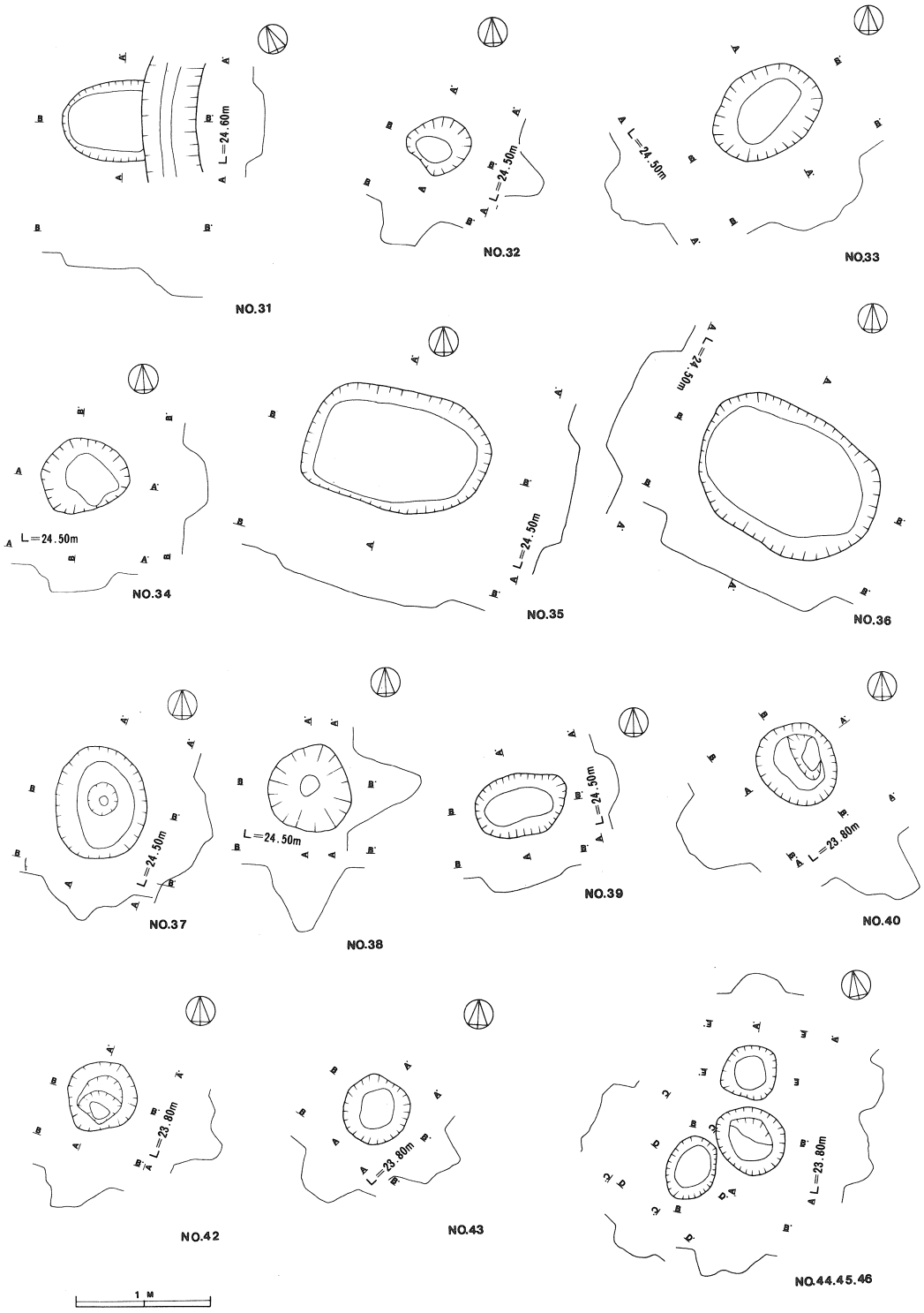
第 238 図　　志筑遺跡溝（M 6 号）平面図



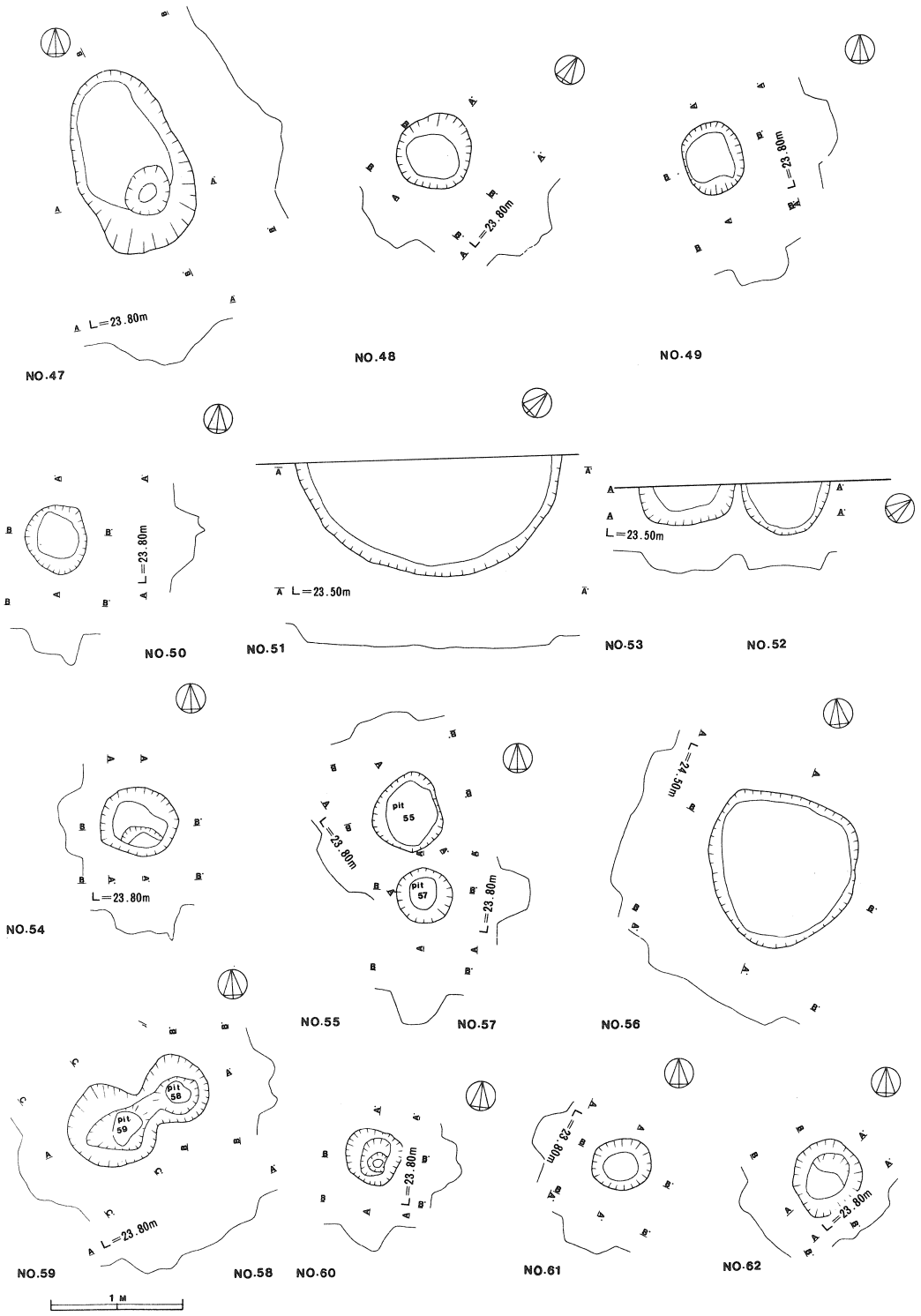
第 239 図　　志筑遺跡ピット実測図



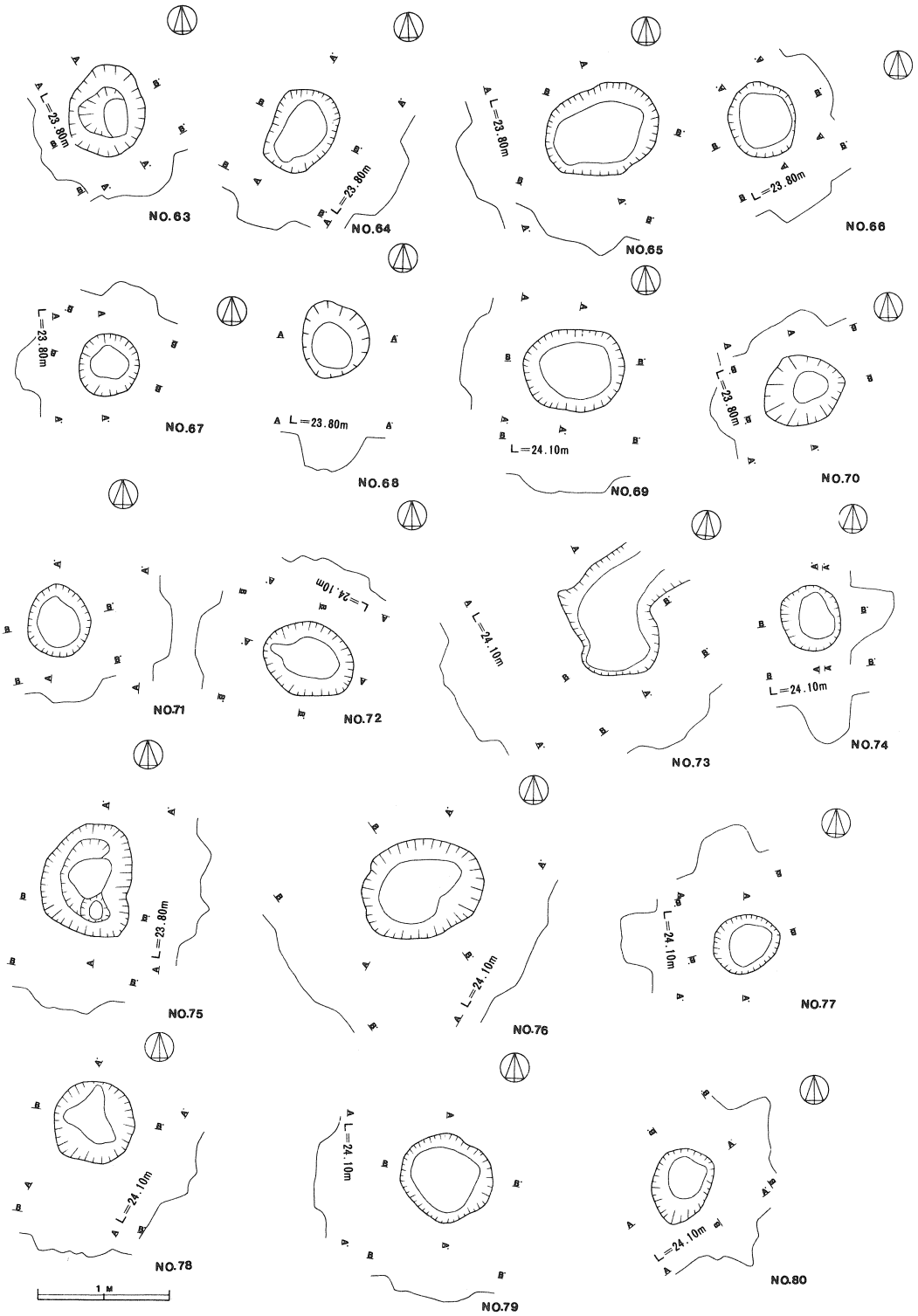
第 240 図　　志筑遺跡ピット実測図



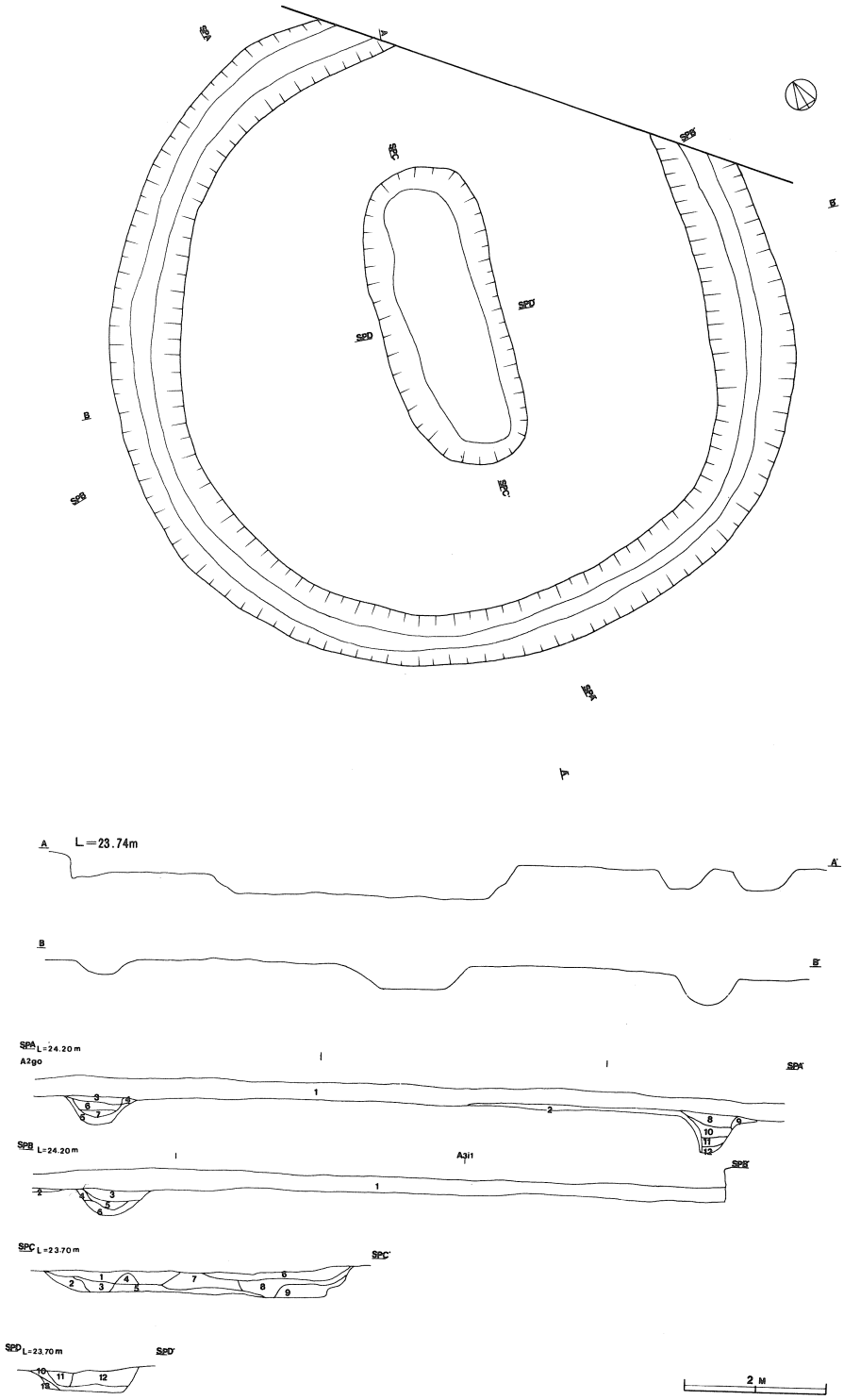
第 241 図　　志筑遺跡ピット実測図



第 242 図　　志筑遺跡ピット実測図



第 243 図　　志筑遺跡ピット実測図



第244図　志筑遺跡円墳1号実測図

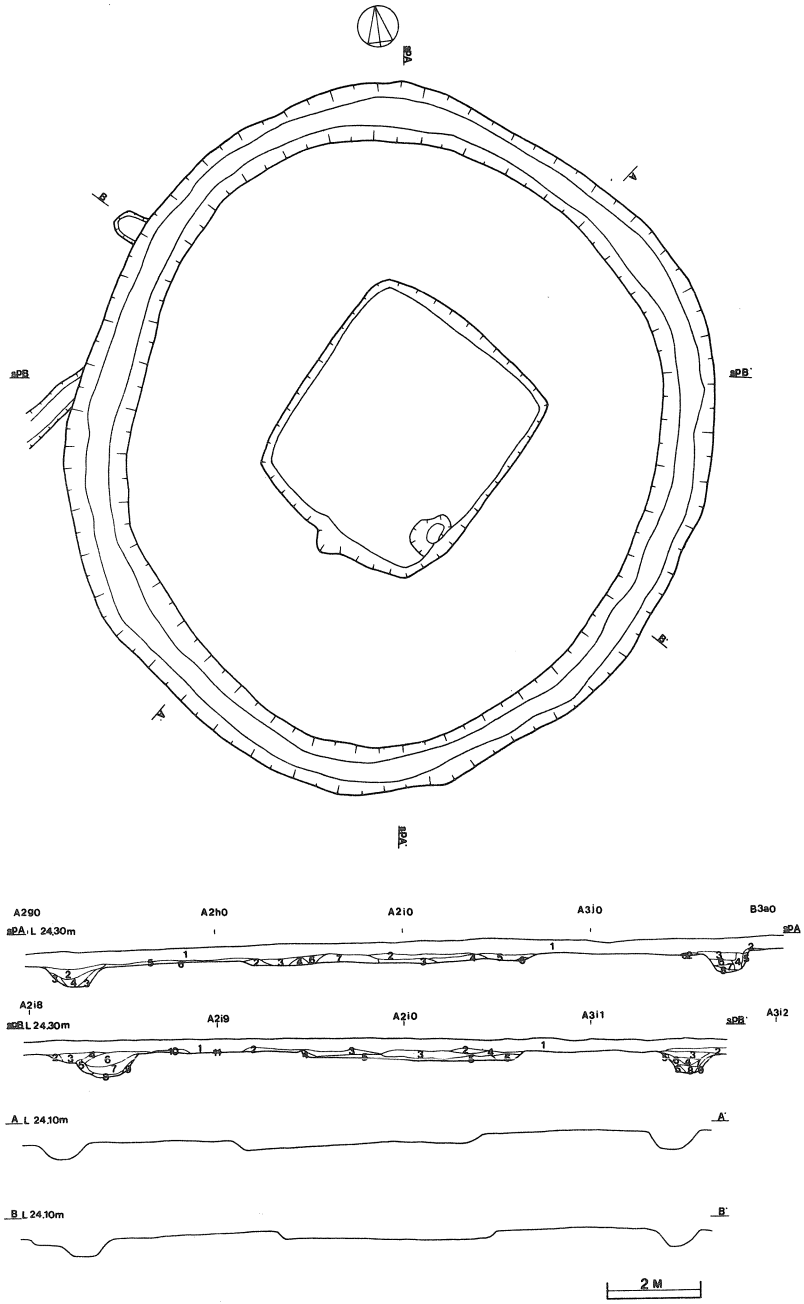
円墳１号　セクション

土壙No.１
Ａ－Ａ′
Ｂ－Ｂ′
A2g0～A3g1（周溝）
１層　耕作土。
２層　黒色土　ローム粒子を含む。しまりがある。
３層　黒色土　ロームブロック　混入のしまりがある。
４層　ローム(ソフトローム)
５層　ローム。
A3g1～A3g2
１層　耕作土。
２層　ローム。
A3g2～A3g3
１層　耕作土。
２層　ローム。
３層　黒色土　黒色土の中にローム粒子混入。しまりがある。
４層　黒色土とローム混入であり，やわらかい層をなす。
５層　ロームの中に黒色土が混入している。ロームブロックがみられる。
６層　ロームブロックの層であり，やわらかい

A3g1～A3h1
１層　耕作土。
２層　ローム。
３層　黒色土の中に，ローム粒子及び，ロームブロックが少量であるが，混入している
４層　暗褐色土でやわらかい。ロームブロックであるが所々に黒色土が混入する。
５層　黒色土　ロームがまじりあったものであり，やわらかい層をなす。砂が含まれる
６層　黒色土の中に，ローム粒子及び，ロームブロックが少量であるが，混入している
７層　黒色土　ロームがまじりあったものであり，やわらかい層をなす。砂が含まれる
８層　黒色土とロームの混入したもの。やわらかい砂を含む。所々にロームブロック混入（暗褐色土）

円墳１号　土壙No.１　セクション

ＳＰＣ－Ｃ′
ＳＰＤ－Ｄ′
１層　暗褐色土　ローム粒子混入。
２層　ソフトローム。
３層　暗褐色土であるが，１層より暗い。ローム粒子及びロームブロック混入。一部木の根による攪乱。
４層　暗褐色土　ロームと暗褐色土が混入している。
５層　ソフトローム　ロームブロックが混入し，しまっている。
６層　１層と同様であるが，ロームブロックが混入している。
７層　暗褐色土とロームの混入したものであるが，中に黒色土が含まれている。
８層　暗褐色土と黒色土の混入　ロームブロック及びローム粒子混入で，しまりがある。
９層　８層と同様であるが，しまっている。ローム粒子，ロームブロックが多く含まれる。
10層　ソフトローム　所々にロームブロックが混入する。
11層　ソフトローム　ロームブロックが混入，しまっている。
12層　暗褐色土でローム粒子混入であるが，ロームブロックが混入している。
13層　暗褐色土とロームの混入したものであるが，中に黒色土が含まれている。



H20号円墳2号
セクション土層解説

A－A'

A2g0 －A2h0
1層　耕作土
2層　黒褐色土
3層　暗褐色土（ロームブロックとローム粒子混入）
4層　黒色土と暗色土（ロームブロックとローム粒子と含む）
5層　ハードローム（暗褐色土）

A2h0 －A2i0
1層　耕作土
2層　ローム　黄褐色土
3層　黒色土　ローム粒子混入ー
4層　暗褐色土
6層　黒褐色土と耕作土の中にロームブロック混入　色土褐
7層　ロームブロックがところどころにある，しまりがありかたい

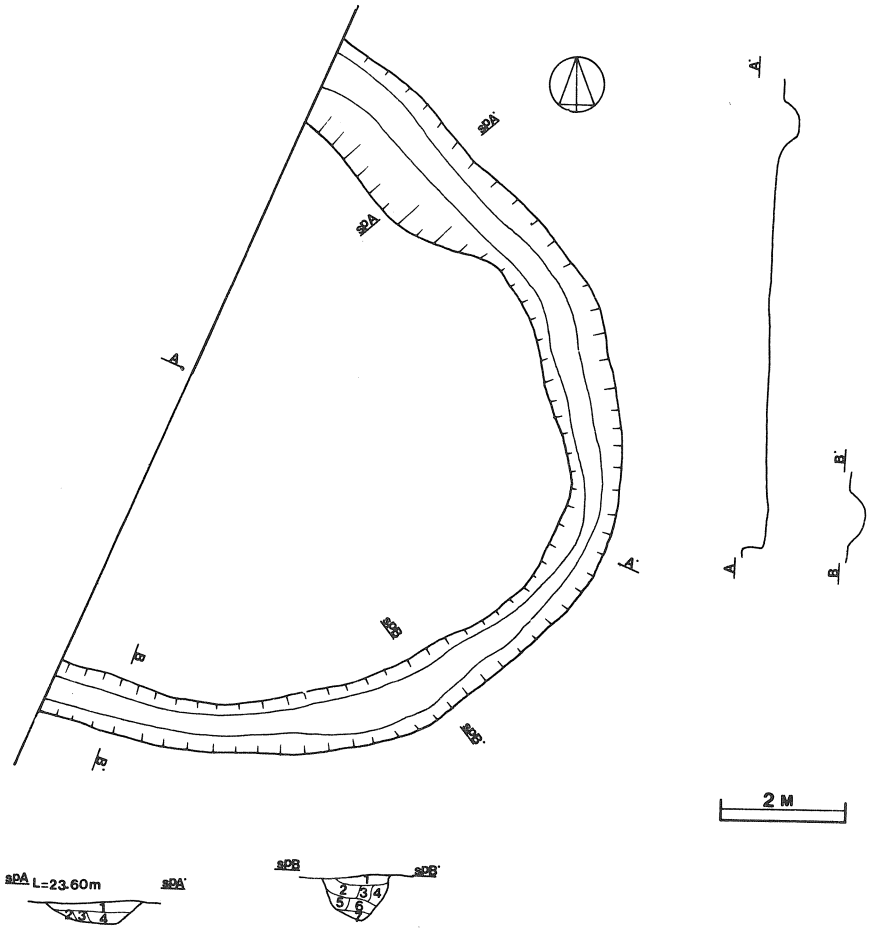
A2i0 －A2j0
1層　耕作土
2層　耕作土の中にロームブロックが混入している
3層　暗褐色土であり，所々にロームが混入する
4層　暗褐色土（黒色土）やわらかい，ローム粒子を含む，炭化物あり
5層　黒色土，焼土の粒子が含まれる
6層　ロームブロック

A3j1 －B3a1
1層　耕作土
2層　暗褐色土　ローム
3層　黒色土
4層　撹乱
5層　ローム（黄褐色土）所々にに黒色土，ブロックが入りこまれている。
6層　黒色土　ローム粒子が含まれる，やわらかい
7層　黒色土　ローム粒子，ロームブロック混入する
8層　黄褐色土　ロームブロック　ローム粒子　砂混入

B－B'

A2i8 －A2i9
1層　耕作土
2層　ローム
3層　耕作土であるが，ローム粒子が混入している，しまりがある。
4層　耕作土の中に，砂が多く含まれ，木の根により，撹乱した様子がみられる
5層　黄褐色土である，黒色土が混入している
6層　黒色土である
7層　暗褐色土　黒色土ローム粒子，ロームブロック混入，砂が多く含まれている。やわらかい。
8層　黄褐色土であり，ロームブロック。
9層　5層と同じである。
10層　ローム

第245図　志筑遺跡円墳2号実測図



第 246 図　　志筑遺跡円墳 3 号実測図

円墳3号　セクション土層解説

A－A′

1層　黒色土　ローム粒子を含む。

2層　褐色土　ロームブロック，しまっている。

3層　木の根による攪乱　黒色土＋黄褐色土（ローム）

B－B′

1層　暗褐色土

2層　黒色土の中にロームブロック及びローム粒子が含まれる。

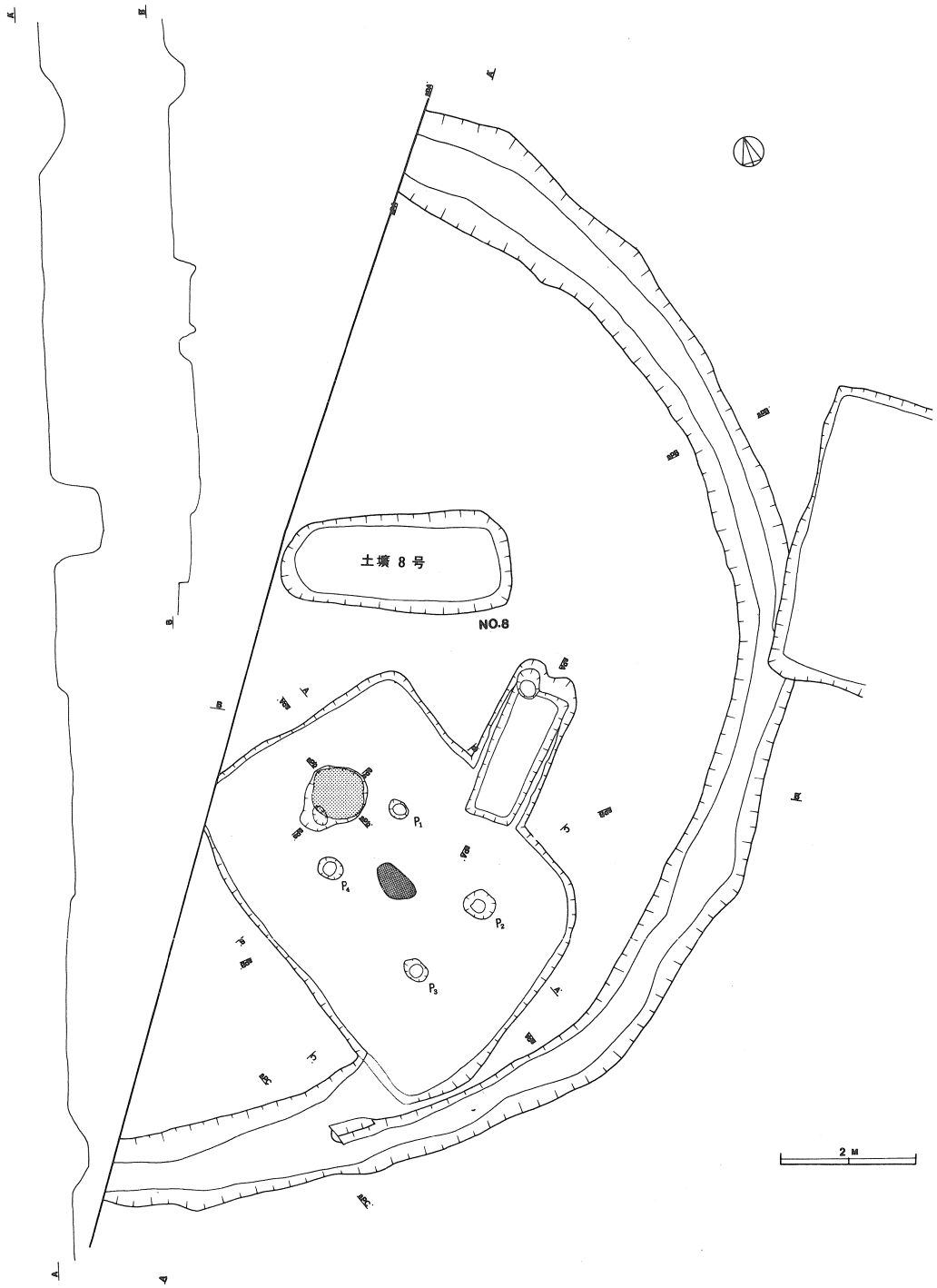
3層　黒色土と暗褐色土の混じったもので，やわらかい。

4層　暗褐色　1層より暗い。

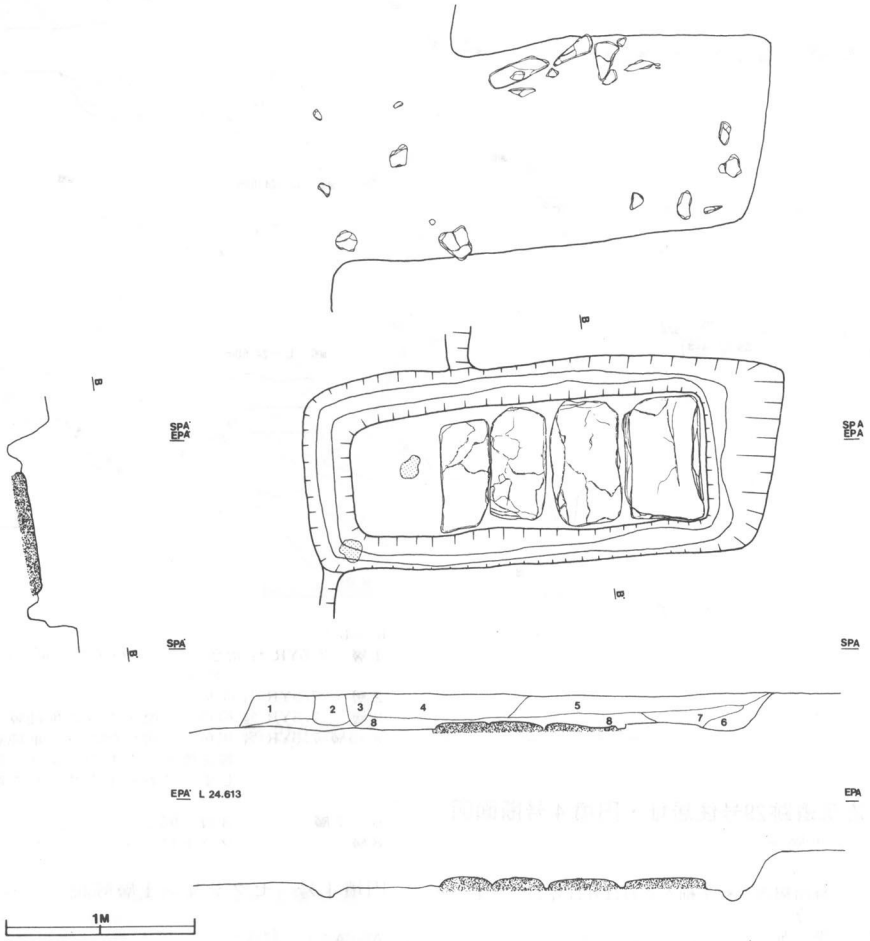
5層　暗褐色土　黒色土＋砂が含まれる。

6層　暗褐色土　ロームブロック，ローム粒子が含まれる。

7層　黒色土　ロームブロック粒子を含む。しまっている。暗褐色混入　暗褐色土＋黒色土



第 247 図　　志筑遺跡円墳 4 号実測図



第248図　志筑遺跡円墳4号主体部実測図

円墳4号主体部（土壙9）セクション土層解説

A－A´

1層　Hue　7.5YR ⅝　ローム　（明褐色）

2層　Hue　7.5YR ⅜　砂とローム粒子と耕作土混入　やらわかい（黒褐色）

3層　Hue　7.5YR ⅔　石とローム粒子，一部攪乱あり，ローム粒子は，1層より多い。やわらかい（極暗褐色）

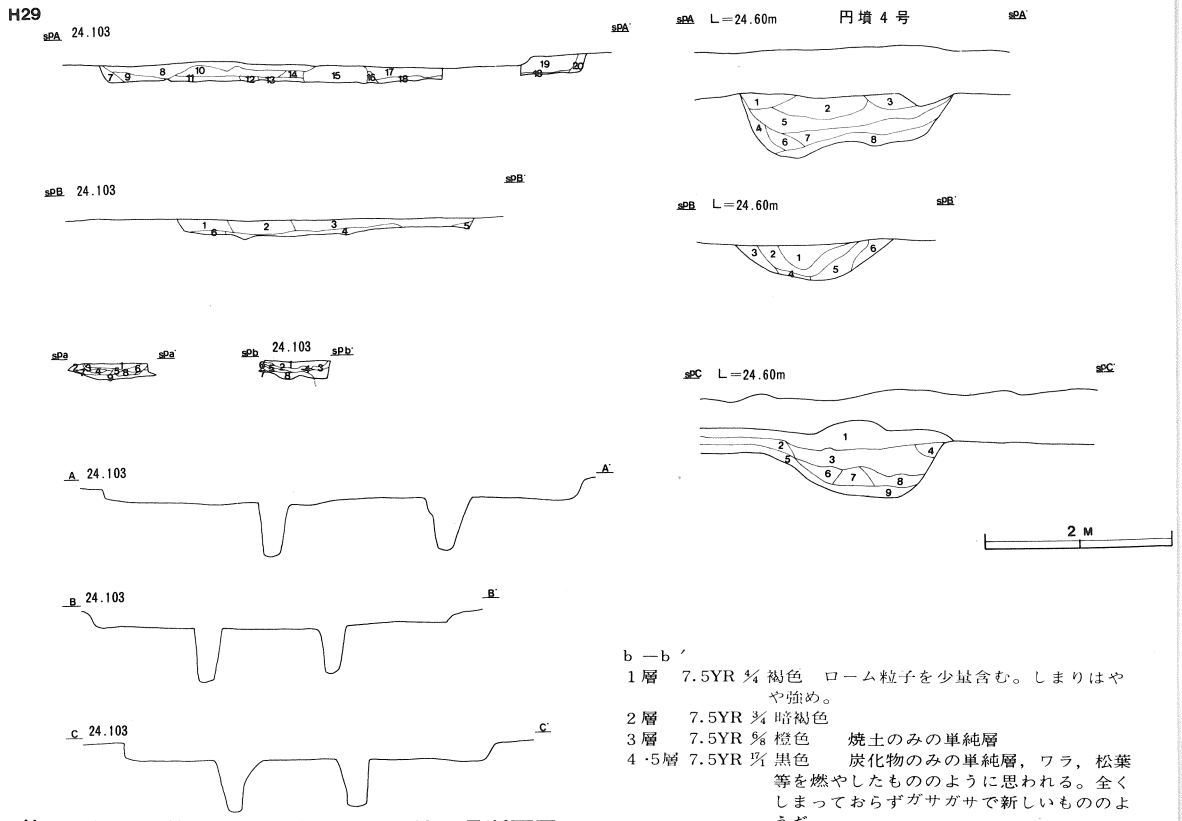
4層　Hue　7.5YR ⅜　黒色土でかたい，所々に石粉まじる（黒褐色）

5層　Hue　7.5YR ⅔　極暗褐色2層よりやや黒色を示す，ローム粒子が少量含まれる。砂と耕作土を混入する（極暗褐色）

6層　Hue　7.5YR ⅔⅘耕作土と砂にロームブロック混入（褐色）

7層　Hue　7.5YR ⅔　2層よりやや黒色を示す，ローム粒子が少量含まれる。砂と耕作土混入する（極暗褐色）

8層　Hue　7.5YR ¾　暗褐色土　ローム粒子混入（暗褐色）



第 249図　志筑遺跡29号住居址・円墳４号断面図

H 29　セクション土層解説

B－B′　A－A′

1層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　粒子細かくねばりはない　しまり良い。
2層Hue 7.5YR 2/3　攪　乱
3層Hue 7.5YR 3/4　褐色　しまりは良く粒子は１層より細かい。ねばりがない。
4層Hue 7.5YR 5/6　明褐色　ソフトロームを主体に黒色粒の部分を含む。
5層　４層に同じ
6層Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　かたく，しまっている。ねばりはなく，さらさらしている。
7層Hue 7.5YR 5/6　褐色　粒子細かくさらさらしている。
8層Hue 7.5YR 3/4　褐色　しまり良く粒子は細かい。
9層Hue 7.5YR 5/6　褐色　やや粒の粗いローム粒２～３mmを含む，かたくしまっている。
10層Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　粒子はやや粗い。しまりは普通。
11層　８，７，19，15，20，９，10，14層と同じ
12層　攪乱
13層Hue 7.5YR 2/2　黒褐色　ローム粒子を少量含む。

a －a′

1層　7.5YR 3/4　褐色　ローム粒子を少量含む。
2層　１層に同じ
3層　7.5YR 3/4　褐色土　ローム粒子を少量含む。しまりはやや弱め，焼土を多く含む。
4層　7.5YR 1/1　炭化物のみの単純層，ワラ，松葉等を燃やしたもののように思われる。全くしまっておらずがさがさで新しいもののようだ。
5層　7.5 6/8　橙　焼土のみの単純層
6層　３層に同じ
7層　7.5YR 3/4　暗褐色
8層　７層に炭化物（木質のもの）を含む。
9層　ソフトローム
10層　ロームブロック

b －b′

1層　7.5YR 3/4　褐色　ローム粒子を少量含む。しまりはやや強め。
2層　7.5YR 3/4　暗褐色
3層　7.5YR 5/8　橙色　焼土のみの単純層
4・5層　7.5YR 1/1　黒色　炭化物のみの単純層，ワラ，松葉等を燃やしたもののように思われる。全くしまっておらずガサガサで新しいもののようだ。
6・7層　３層と同じ
8層　ソフトローム

円墳４号　セクション土層解説

A－A′

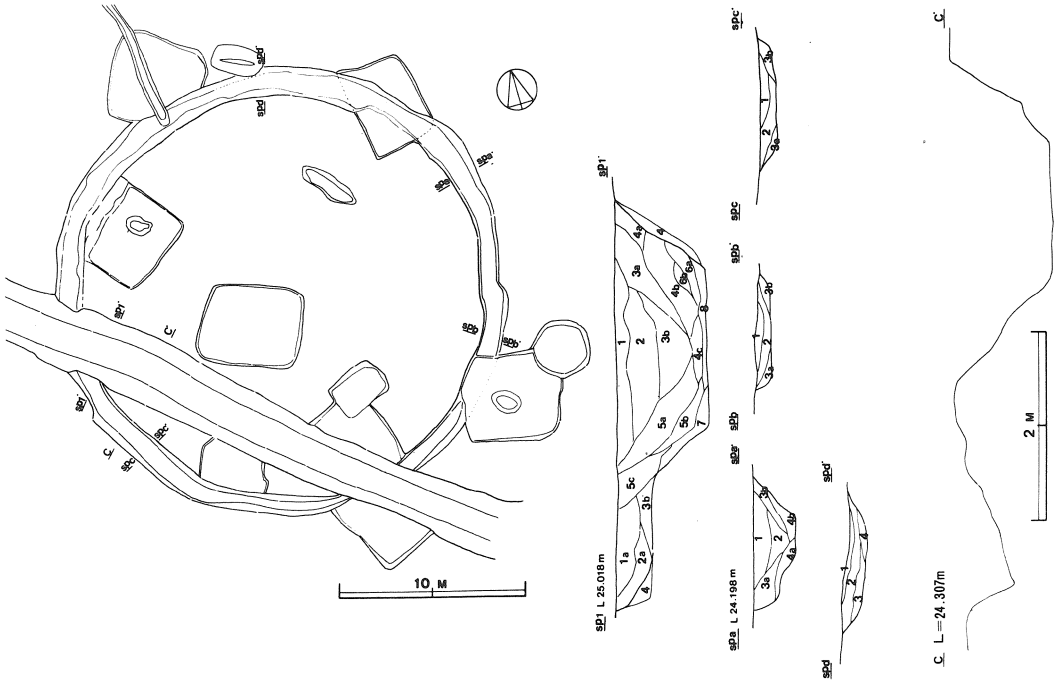
1層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色
2層Hue 7.5YR 2/2　黒褐色
3層　黒色
4層Hue 7.5YR 2/2　黒褐色
5層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　ローム粒少量含む。
6層Hue 7.5YR 3/4　暗褐色
7層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色
8層　ソフトローム

B－B′

1層Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色
2層Hue 7.5YR 5/6　褐色
3層Hue 7.5YR 5/8　明褐色
4層　ローム
5層Hue 7.5YR 5/8　明褐色
6層Hue 7.5YR 4/2　灰褐色

C－C′

1層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　焼土粒を含む
2層Hue 7.5YR 5/6　褐色　焼土粒を含む
3層Hue 7.5YR 2/2　黒褐色　黒色粒を多量に含む
4層Hue 7.5YR 5/6　明褐色
5層　ローム
6層Hue 7.5YR 3/3　暗褐色
7層　ロームと黒色のまじり
8層Hue 5YR 2/3　極暗赤褐色　しまりよい
9層　ローム



第250図　志筑遺跡円墳5号実測図

円墳5号周溝及び6号溝セクション土層解説

1－1′　Hue 7.5YR 使用

1層　2/3　極暗褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，サラサラしている。

1a層 2/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，さらさらしている。

2層　3/4　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（1～3mm）を含有し，ゴツゴツしたかんじである

2a層 3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

3a層 3/3　暗褐色　極少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

3b層 3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）及び極少量の小石を含有し，しまりを帯びている。

4層　掘りすぎ

4a層 3/3　暗褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，サラサラしている。

4b層 3/3　暗褐色　少量のハードローム粒（2mm前後）及び極少量のハードロームブロック（1cm～3cm）を含有し，若干しまりをおびている。

4c層 3/4　暗褐色　極少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，しまりをおびている。

5a層 3/2　黒褐色　極少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，しまりを帯びている。

5b層 3/4　暗褐色　少量のハードローム粒（2mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

5c層 3/4　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～3cm）を含有し，若干しまりをおびている。

6a層 3/4　暗褐色　砂粒を主体とし，サラサラしている。

6b層 4/4　褐色　砂粒を主体とし，少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，ザラザラしている。

7層　4/4　褐色　砂粒を主体とし，ザラザラしている。

8層　4/3　褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）を含有した砂質の土層であり，しまりをおびている。

a－a′

1層　2/1　黒色　ごく少量のハードローム粒（1mm弱）およびYPを含有し，さらさらしている。

2層　2/2　黒褐色　ごく少量のYPを含有し，若干しまりをおびている。

3層a 3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

3層b 3/3　暗褐色　ごく少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。

4層a 4/4　褐色　比較的多量のハードロームブロック（5cm前後）を含有し，ごつごつしている。

4層b 4/4　褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を主体とした褐色土であり，しまり粘性ともに若干おびている。

b－b′

1層　2/1　黒色

2層　2/2　黒褐色

3層a 3/3　暗褐色

3層b 3/3　暗褐色

c－c′

1層　2/1　黒色

2層　2/2　黒褐色

3層a 3/3　暗褐色

3層b 3/3　暗褐色

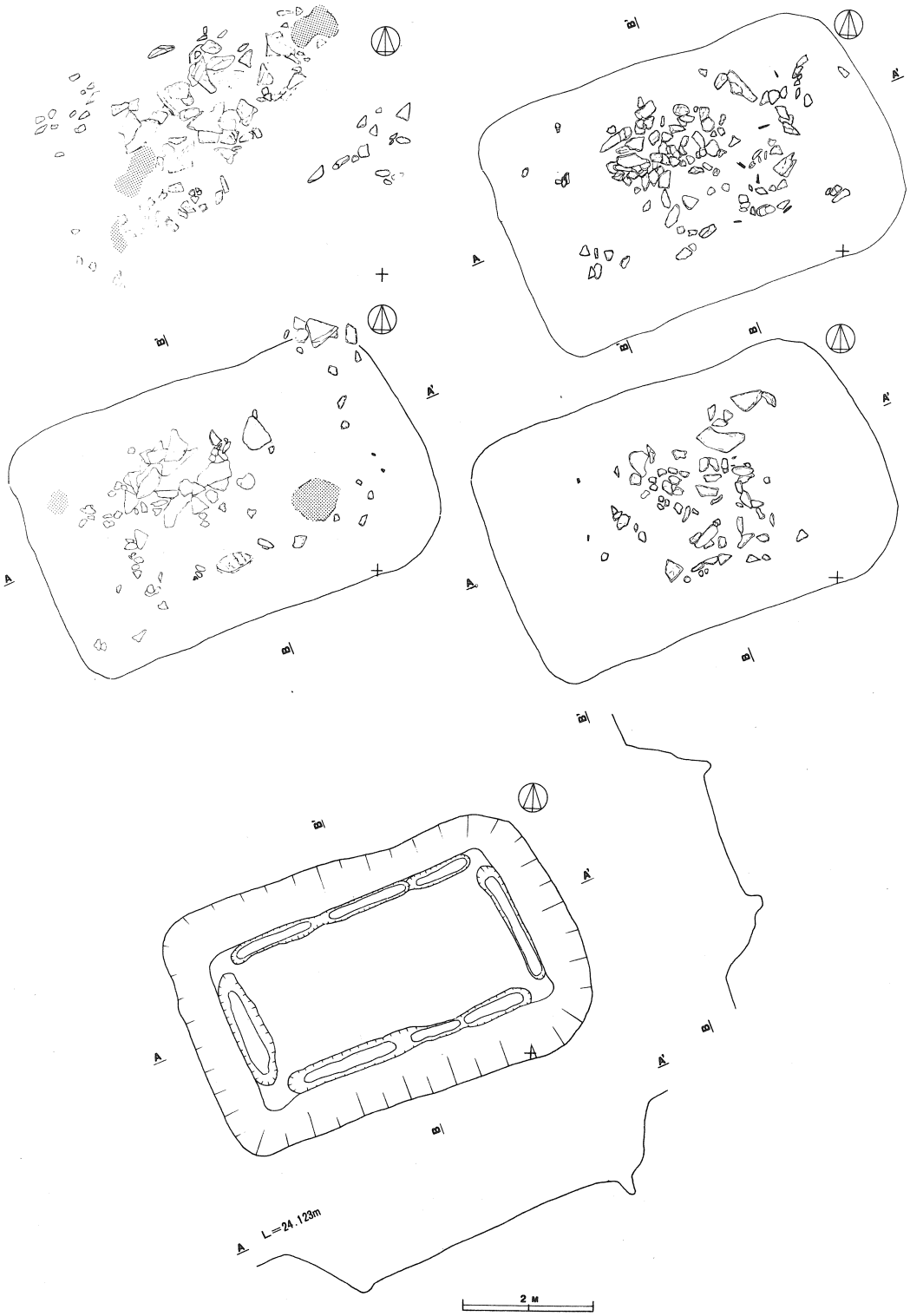
d－d′

1層　2/1　黒色

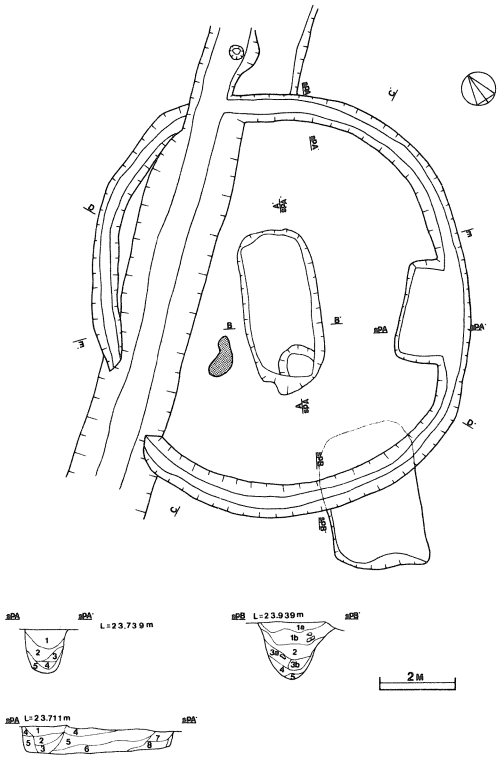
2層　2/2　黒褐色3層

3層　3/3　暗褐色

4層　4/4　褐色



第 251 図　　志筑遺跡円墳 5 号主体部実測図



円墳6号　セクション土層解説

Hue 7.5YR 使用

A－A′

1層　3/2　黒褐色　少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。

2層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5㎜前後），ＹＰを含有し，若干しまりをおびている。

3層　3/2　黒褐色　少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。

4層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1㎝前後）を含有し，しまり，粘性ともにおびている。

5層　5/6　褐色　ハードロームブロックを主体とし，ごつごつしている。

B－B′

1層a 3/2　黒褐色　少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。

1層b 3/2　黒褐色　ごく少量のＹＰを含有し，しまりをおびている。

2層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（5㎜前後），ＹＰを含有し，若干しまりをおびている。

3層a 5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1㎝前後）を含有し，若干しまりをおびており当土層中には刀子と思われる鉄器片が検出されている。

3層b 3/2　黒褐色　少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。

4層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（1㎝前後）を含有し，しまり粘性ともにおびている。

5層　5/6　褐色　ハードロームブロックを主体とし，ごつごつしている。

東側土壙　東西ベルト北壁セクション土層解説

Hue 7.5YR 使用

1層　3/2　黒褐色　少量のＹＰを含有し，さらさらしている。

2層　3/3　暗褐色　少量のＹＰ，ごく少量のハードロームブロック（1㎝前後）を含有し，若干しまりをおびている。

3層　5/4　褐色　ごく少量のハードロームブロック（2㎜前後）を含有し，しまり粘性ともにおびている。

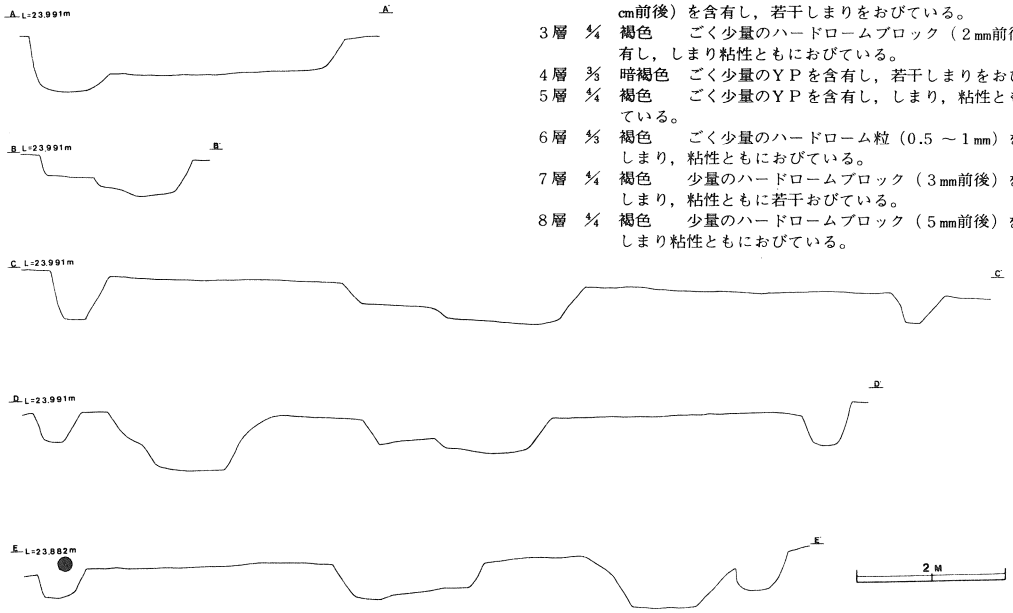
4層　3/3　暗褐色　ごく少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。

5層　5/4　褐色　ごく少量のＹＰを含有し，しまり，粘性ともにおびている。

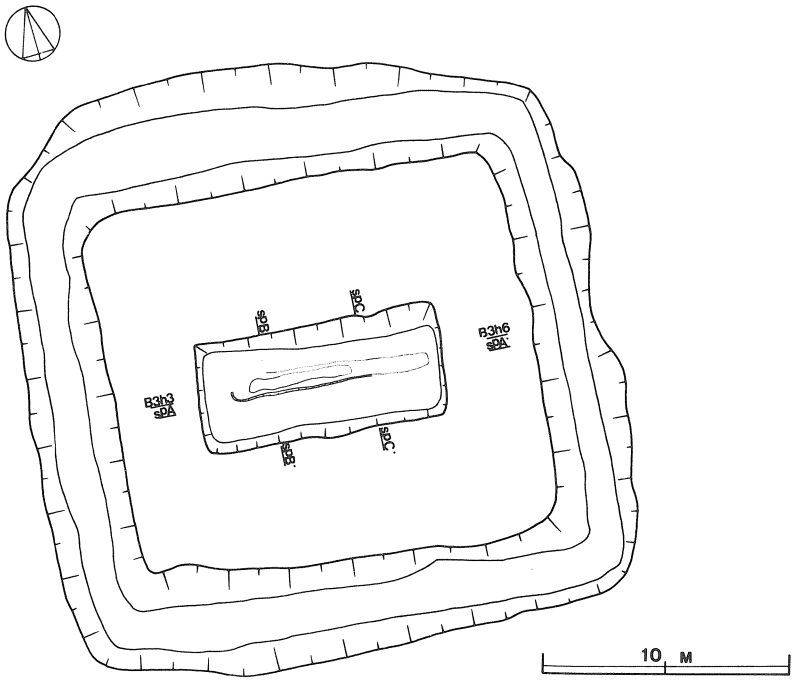
6層　5/3　褐色　ごく少量のハードローム粒（0.5～1㎜）を含有し，しまり，粘性ともにおびている。

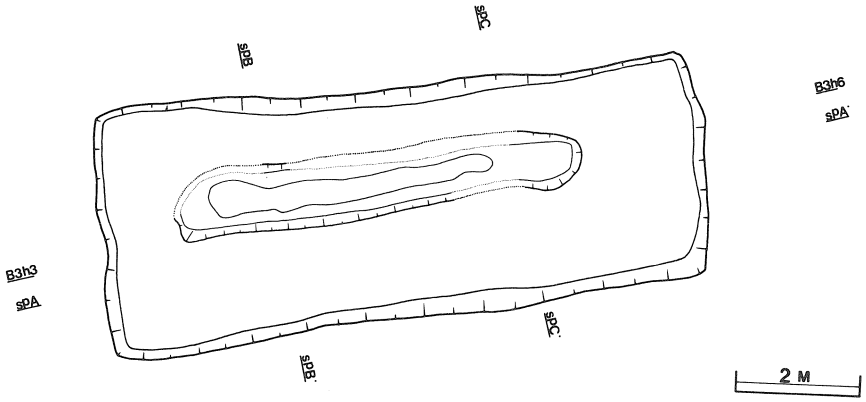
7層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（3㎜前後）を含有し，しまり，粘性ともに若干おびている。

8層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（5㎜前後）を含有し，しまり粘性ともにおびている。

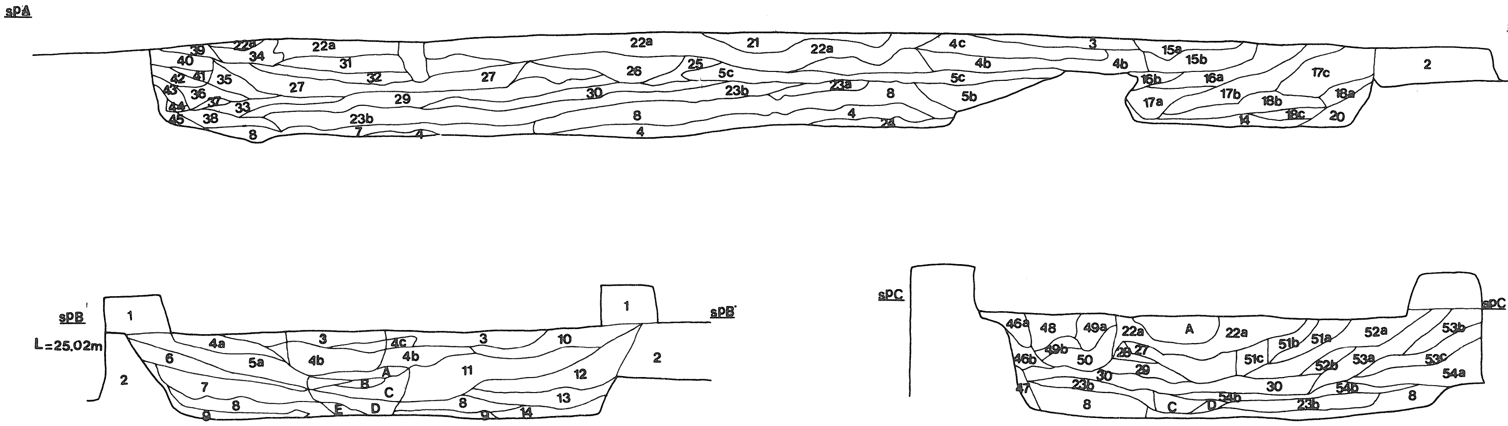


第252図　志筑遺跡円墳6号実測図





第 253 図　　志筑遺跡方墳 1 号平面図主体部実測図



第254図　志筑遺跡方墳1号実測図（1）

方墳1号　主体部土層解説　　Hue 7.5YR 使用

A－A′　　B－B′

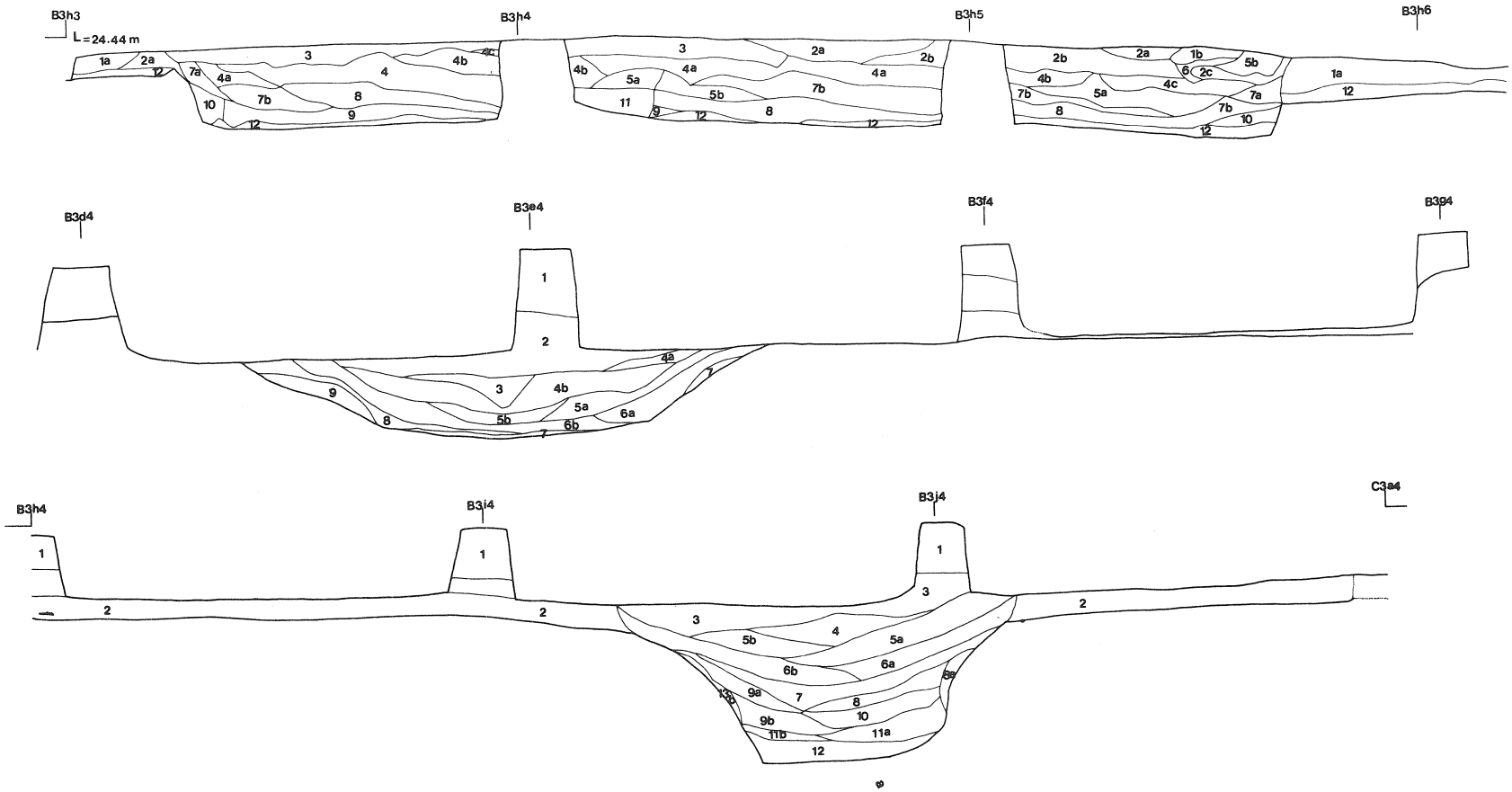
A層 4/4 褐色　比較的多量のハードロームブロック（1 ～3cm）を含有ししまりをおびている。
B層 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（1mm～1cm）及び2層のミキシング土でありしまりをおびている。
C層 3/4 暗褐色　多量のハードロームブロック（1 ～5cm）を含有し若干しまりをおびている。
D層 4/3 褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有し若干しまりをおびている。
E層 3/4 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し若干しまりをおびている。

B3g4－B3h4

1層　所謂　耕作土である。
2層 2/1 黒色土である
3層 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（3mm～1cm）を含有し若干しまりをおびている。
4層a 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～3cm）を含有し若干しまりをおびている。
4層b 3/4 暗褐色　極少量のハードローム粒（1mm前後）を含有しサラサラしている。（当 層中にはハードロームブロックは，存在しない）
4層c 3/3 暗褐色　極少量のハードローム粒（1 ～2mm）を含有しサラサラしている。（4層b との差は色調をのぞいてそれほどちがわない）
5層a 3/4 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）及び極少量の2層を混在しており若干しまりをおびている。
5層b 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（2cm前後）を含有しサラサラした感じである。
5層c 3/3 暗褐色　極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有しサラサラしている。
6層 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）及び2層を混在し比較的しまりをおびている。（5層a に比して2層混在量が多い）
7層 3/4 暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～2cm）及び少量の2層を混在し若干しまりをおびている。
8層 4/4 4/4 褐色　多量のハードロームブロック（5mm～2cm）及び少量の2層を混在ししまりをおびている。
9層 2/2 黒褐色　2層を主体とし少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有ししまりをおびている。
10層 3/4 暗褐色　少量のハードロームブロック（3mm～1cm）及び2層の混在土層であり比較的サラサラしている。
11層 3/4 暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（1cm～3cm）及び少量の2層の混在土層であり若干しまりをおびている。
12層 3/4 暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（1cm前後）及び2層を混在し若干しまりをおびている。
13層 3/4 暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（1cm～3cm）及び少量の黒色土を混在し若干しまりをおびている。
14層 3/3 暗褐色　2層を主体とし少量のハードロームブロック（2cm前後）を含有ししまりをおびている。
15層a 3/4 暗褐色　極少量のハードロームブロック（1mm～3mm）を含有しサラサラしている。
15層b 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（2mm～1cm）を含有しサラサラしている。
16層a 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し若干しまりをおびている。
16層b 3/4 暗褐色　極少量のハードロームブロック（3mm前後）を含有しサラサラしている。
17層a 3/4 暗褐色　少量のハードロームブロック（3mm～1cm）及び黒色土を混在し若干しまりをおびている。
17層b 3/4 暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（2cm前後）及び少量の黒色土を混在ししまりをおびている。
17層c 4/4 褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～2cm）及び少量の黒色土を含有し若干しまりをおびている。
18層a 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）及び2層の混在土層でありしまりをおびている。
18層b 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）及び極少量の2層を混在ししまりをおびている。
18層c 4/4 褐色　2層を主体とし極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，しまりをおびている。
18層c 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び2層の混在土層でありしまりをおびている。
19層 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び2層の混在土層でありしまりをおびている。
20層 2/2 黒褐色　2層を主体とし少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有ししまりをおびている。
21層 3/3 暗褐色　極少量のハードロームブロック（1 ～5mm）を含有しサラサラしている。
22層a 3/4 暗褐色　極少量のハードロームブロック（2mm前後）を含有しサラサラしている。
22層b 3/4 暗褐色　極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有しサラサラしている。
23層a 3/4 暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）及び2層の混在土層でありしまりをおびている。
23層b 4/4 褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～2cm）及び少量の2層を混在ししまりをおびている。
24層 3/3 暗褐色　極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有ししまり粘性ともにおびている。
25層 3/4 暗褐色　極少量のハードロームブロック（3mm前後）を含有しさらさらしている。
26層 3/4 基本的に25層同質であるがハードロームの含有量，大きさが若干大きくなる。
27層 3/4 暗褐色　極少量のハードロームブロック（2mm前後）を含有しさらさらしている。
28層 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し若干しまりをおびている。
29層 4/4 褐色　比較的多量のハードロームブロック（2cm前後）を含有し若干しまりをおびている。
30層 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）及び2層の混在層であり若干しまりをおびている。
31層 4/4 褐色　極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有しさらさらしている。
32層 3/4 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し若干しまりをおびている。
33層 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～2cm）及び2層の混在土層であり若干しまりをおびている。
34層 5/6 明褐色　少量のハードロームブロック（3mm～3cm）を含有ししまりをおびている。
35層 3/4 暗褐色　極少量のハードロームブロック（1mm～1cm）及び2層の混在土層であり若干しまりをおびている。
36層 4/4 褐色　比較的多量のハードロームブロック（1cm前後）及び2層の混在土層であり若干しまりをおびている。
37層 4/3 褐色　2層を主体とし極少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し若干しまりをおびている。
38層 4/6 比較的多量のハードロームブロック（5mm～3cm）及び2層を混在した土層であり若干しまりをおびている。
39層 3/4 暗褐色　極少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有し，さらさらしている。
40層 3/4 暗褐色　極少量のハードロームブロック（5cm前後）を含有しさらさらしている。
41層 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
42層 3/4 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）及び2層の混在土層であり若干しまりをおびている。
43層 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
44層 2/3 極暗褐色　2層のブロックである。
45層 2/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（3mm前後）を含有し若干しまりをおびている。

C－C′　　B3g5－B3h5

A層 4/4 褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有し若干しまりをおびている。
B層 4/6 褐色　多量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有ししまりをおびている。
C層 5/6 明褐色　ハードロームブロック（3cm～5cm）を主体としまりをおびている。
D層 4/3 褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し若干しまりをおびている。
46層a 2/2 黒褐色　極少量のハードローム粒（2mm前後）を含有し，さらさらしている。
46層b 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
47層 2/1 黒色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有し，しまりをおびている。
48層 3/2 黒褐色　極少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
49層a 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（1mm～2cm）を含有し，若干しまりをおびている。
49層b 3/2 黒褐色　少量のハードローム粒（2mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
50層 3/2 黒褐色　少量のハードロームブロック（1mm～1cm）及び黒色土のニキシング土層であり，しまりをおびている。
51層a 3/3 暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（2mm～1cm）を含有し，若干しまりをおびている。
51層b 3/3 暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～2cm）を含有し，若干しまりをおびている。
51層c 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（2mm～1cm）を含有し，若干しまりをおびている。
51層d 3/4 暗褐色　少量のハードローム粒（1mm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
52層a 3/4 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm前後）を含有し若干しまりをおびている。
52層b 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有し，若干しまりをおびている。
53層a 3/4 暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（5mm～1cm）を含有し，若干しまりをおびている。
53層b 3/3 暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
53層c 3/4 暗褐色　少量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，若干しまりをおびている。
54層a 4/4 褐色　多量のハードロームブロック（5mm～3cm）を含有し，しまりをおびている。
54層b 4/6 褐色　比較的多量のハードロームブロック（1cm前後）を含有し，しまりをおびている。



第 255 図　　志筑遺跡方墳 1 号実測図（2）

方墳１号 セクション土層解説

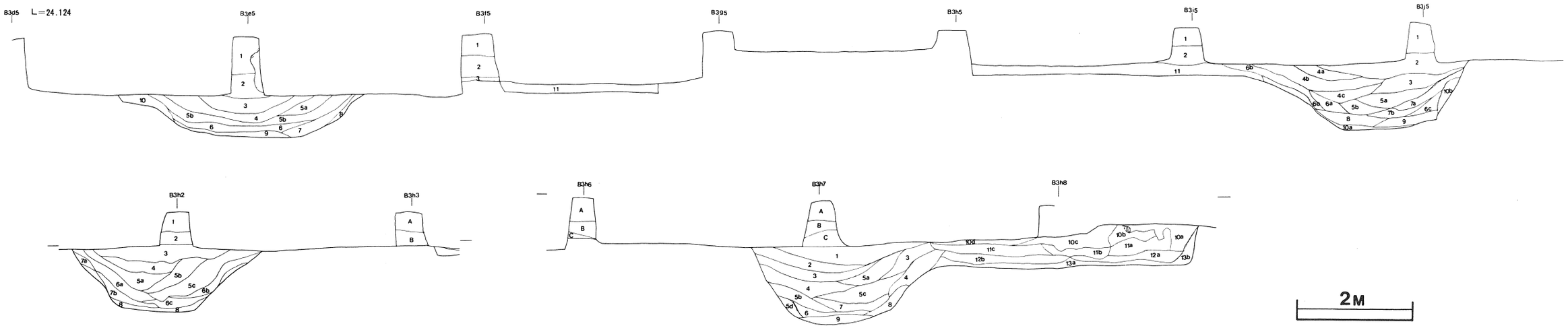
Ｂ３ｈ３ －Ｂ３h4 －Ｂ３ｈ５ －Ｂ３ｈ６

１ａ 層　7/1　黒色土である。
１ｂ 層　7/1　黒色土である。
２ａ 層　7/1　黒色土である。
２ｂ 層　7/1　黒色土である。
２ｃ
３層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（３㎜～１㎝）を含有し，若干しまりをおびている。
４ａ 層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（５㎜～３㎝）を含有し，若干しまりをおびている。
４ｂ 層　3/4　暗褐色　極少量のハードローム粒（１㎜前後）を含有しさらさらしている（当土層中にはハードロームブロックは，存在しない。
４ｃ 層　3/3　暗褐色　極少量のハードローム粒（１㎜～２㎜）を含有し，さらさらしている。（４ｂ との差は，色調をのぞいてそれほどちがわない。
５ａ 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（５㎜～２㎝）およびごく少量の２層を混在しており，若干しまりをおびている。
５ｂ 層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（２㎝前後）を含有しさらさらした感じである。
６層　3/3　暗褐色　少量のハードロームブロック（５㎜～１㎝）および２層を混在し比較的しまりをおびている（５ａ 層に比して２層混在量が多い）
７ａ 層 ｝ ７ｂ 層　3/4　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（５㎜～２㎝）および少量の２層を混在し若干しまりをおびている。
８層　5/4　褐色　多量のハードロームブロック（５㎜～２㎝）および少量の２層を混在し，しまりをおびている。
９層　5/2　黒褐色　２層を主体とした少量のハードロームブロック（５㎜～１㎝）を含有し，しまりをおびている。
10層　3/4　暗褐色　少量のハードロームブロック（３㎜～１㎝）および２層の混在土層であり，比較的さらさらしている。
11層　3/4　暗褐色　比較的多量のハードロームブロック（１㎝～３㎝）および少量の２層の混在土層であり若干しまりをおびている。
12層　3/4　晴褐色暗比較的多量のハードロームブロック（１㎝前後）および２層を混在し若干しまりをおびている。

Ｂ３Ｊ４
１層
２層　5/4　褐色　いわゆる褐色土層である。
３層　3/1　黒色　ごく少量のＹＰを含有した砂質の土層でありさらさらしている。
４層　3/1　黒色　少量のＹＰを含有した砂質の土層でありさらさらしている。
５ａ 層　3/1　黒色　少量のＹＰごく少量の炭化粒子を含有しさらさらしている。
５ｂ 層　3/1　黒色　５ａ 層より若干多くのＹＰを含有した砂質の土層でありさらさらしている。
６ａ 層　3/1　黒色　ごく少量のＹＰを含有し若干ではあるが，しまり粘性をおびている。
６ｂ 層　3/1　黒色　６ａ 層に比して若干ＹＰの量が多くなるが基本的には同じ土質である。
７層　3/1　黒色　少量のＹＰ，ごく少量の焼土粒子を含有し若干ではあるがしまり粘性をおびている。
８層　5/2　黒褐色　ごく少量のＹＰを含有ししまり粘性ともにおびている。
９ａ 層　5/2　黒褐色　少量のＹＰ，ごく少量の焼土粒子を含有した土層であり若干しまりをおびている。
９ｂ 層　3/4　暗褐色　ごく少量のＹＰを含有した砂質の土層でありざらざらしている。
10層　3/4　暗褐色　少量のＹＰを含有した砂質の土層でありしまりをおびている。
11ａ 層　5/4　褐色　少量のＹＰ，ごく少量のハードロームブロック（１㎝前後）を含有した砂質の土層でありしまりをおびている。
11ｂ 層　3/2　黒褐色　少量のハードロームブロック（径２㎝前後）を含有し，しまりをおびている。
12層　7/6　黄橙色　ハードロームブロックを主体とした鹿沼パミスの混在土層である。
13ａ 層　3/3　暗褐色　少量の褐色土ブロック（２㎝前後）を含有し若干しまりをおびている。
13ｂ 層　5/6　褐色　比較的多量のハードロームブロック（３㎝前後）を主体とししまりをおびている。

Ｂ３i４
１層　所請黒色土である。

Ｂ３ｅ4
１層　耕作土である
２層　3/1　黒色　少量のＹＰを含有し，さらさらしている。
３層　3/1　黒色　少量のＹＰおよびごく少量の炭化粒子を含有し，さらさらしている。
４ａ 層　3/1　黒色　２層に比してＹＰの量が多くなるが基本的に同じ土質である。
４ｂ 層　3/2　黒褐色　少量のＹＰを含有しさらさらしている。
５ａ 層　3/2　黒褐色　少量のＹＰおよびごく少量の炭化粒子を含有し，さらさらしている。
５ｂ 層　3/1　黒色　ごく少量のＹＰ，炭化粒子を含有し若干粘性をおびている。
６ａ 層　3/2　黒褐色　ごく少量のＹＰを含有し，若干しまりをおびている。
６ｂ 層　5/4　褐色　ハードロームブロック（５㎝前後）を含有し，若干しまりをおびている。
７層　5/6　褐色　ハードロームブロック（２～３㎝）を主体とし若干粘性をおびている。
８層　3/4　暗褐色　少量のＹＰハードブロック（５㎜～１㎝）を含有し，しまりをおびている。
９層　5/4　褐色　少量のハードロームブロック（２～10㎝）を含有し，しまりをおびている。



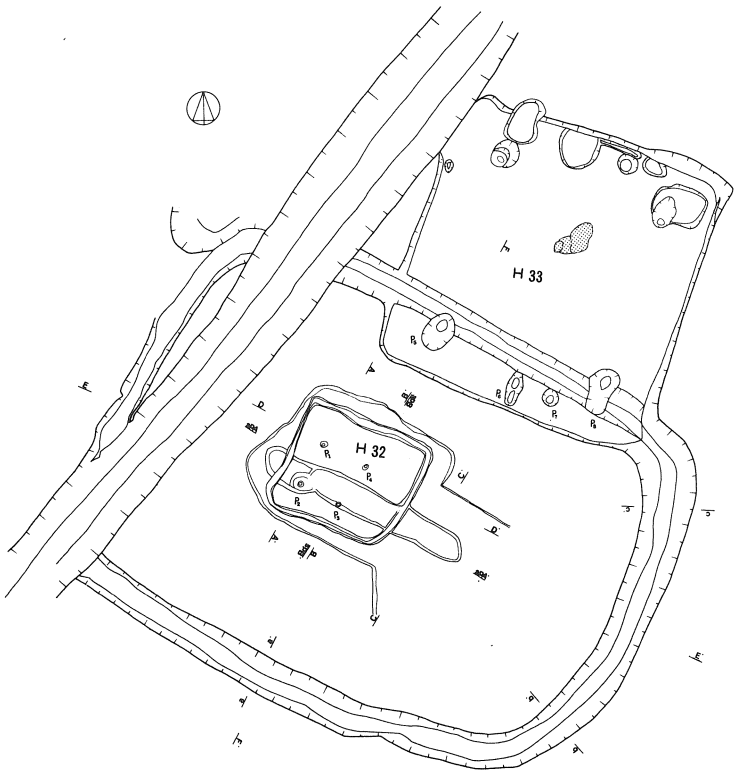
第 256 図　　志筑遺跡方墳１号実測図（３）

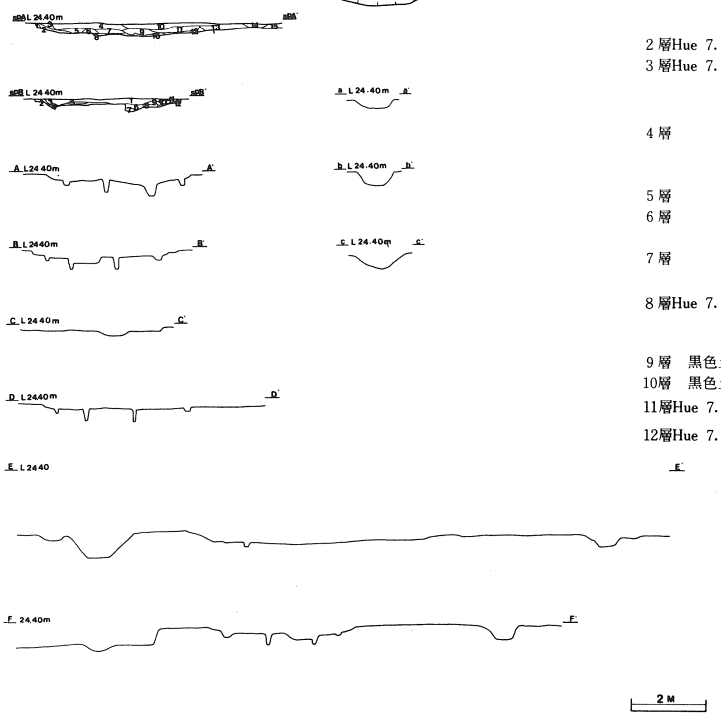
方墳１号 土層解説

B３ｅ５　Hue 7.5YR
１層　　耕作土である。
２層 ３/１　黒色　　ごく少量のＹＰを含有しさらさらしている。
３層 ３/１　黒色　　ごく少量のＹＰ，炭化粒子を含有しさらさらしている。
４層 ３/１　黒色　　ごく少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
５層a ３/２　黒褐色　比較的多量のＹＰを含有し若干しまりを帯ている。
５層b ３/２　黒褐色　比較的多量のＹＰおよびごく少量の炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。
６層 ３/３　暗褐色　少量のＹＰハードロームブロック（５㎜前後）を含有し若干しまりをおびている。
７層 ３/４　褐色　　比較的多量のＹＰ及び少量のハードロームブロック（（５㎜前後）を含有し若干しまりをおびている。
８層 ３/４　暗褐色　ごく少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
９層 ５/６　明褐色　少量のハードロームブロック（５㎜～２㎝）を含有ししまりをおびている。
10層 ５/６　褐色　　少量のハードロームブロック（１㎜～５㎝）を含有ししまりをおびている。
11層　　所謂　褐色土である。

B３ｈ２
１層　表土
２層　　いわゆる黒色土
３層 ３/１　黒色土　ごく少量の砂粒を含有しさらさらしている。
４層 ３/１　黒色土　ごく少量のＹＰ炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。
５層a ３/１　黒色土　ごく少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
５層b ３/１　黒色土　ごく少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
５層b ３/２　黒褐色　少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
５層c ３/３　極暗褐色　少量のＹＰ及び極少量の炭化粒子を含有ししまりをおびている。
６層a ３/２　黒褐色　極少量のＹＰを含有ししまりをおびている。
６層b ３/２　黒褐色　極少量のＹＰ及びハードロームブロック（５㎜～２㎝）を含有ししまりをおびている。
７層a ３/４　暗褐色　少量のハードロームブロック（１㎝前後）を含有し若干しまりをおびている。
７層b ４/４　褐色　　少量のハードロームブロック（１㎝前後）および極少量のＹＰを含有ししまりをおびている。
８層 ３/４　暗褐色　少量のハードロームブロック（１㎝前後）およびＹＰを含有ししまりをおびている。

B３ｊ５
１層　　いわゆる耕作土である。
２層 ３/１　黒色　少量のＹＰを含有しさらさらしている。
３層 ３/１　黒色　ごく少量のＹＰを含有しさらさらしている。
４層a ３/１　黒色　少量のＹＰ，ごく少量の砂粒を含有し若干しまりをおびている。
４層b ３/１　黒色　基本的には，４層a と同質であるがＹＰを若干多く含みまた炭化粒子を含有している。
４層c ３/１　黒色　４層b と基本的に同じであるがＹＰ炭化粒子の含有量が若干少なくなる。
５層a ３/１　黒色　少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
５層b ３/１　黒色　比較的多量のＹＰおよびごく少量の炭化粒子を含有し若干しまりをおびている。
６層a ３/３　暗褐色　比較的多量のＹＰを含有し若干しまりを帯ている。
６層b ５/３　褐色　比較的多量のソフトロームブロック（２㎝前後）を含有し若干粘性をおびている。
７層a ３/１　黒色　極々少量のＹＰを含有し若干しまりをおびている。
７層b ３/２　黒褐色　極少量のＹＰを含有ししまり粘性ともに若干帯ている。
７層c ４/４　褐色　極少量のＹＰ，ソフトロームブロック（３㎝前後）を含有ししまり粘性ともに若干おびている。
８層 ３/４　暗褐色　砂粒を主体とした土質でありしまりをおびざらざらしている。
９層 ５/６　褐色　少量のハードロームブロック（５㎜前後）砂粒を含有ししまり粘性ともにおびている。
10層 ５/６　明褐色　ハードロームブロック（５～10㎝前後）を主体とししまり粘性ともにおびている。





H 32　セクション 土層解説

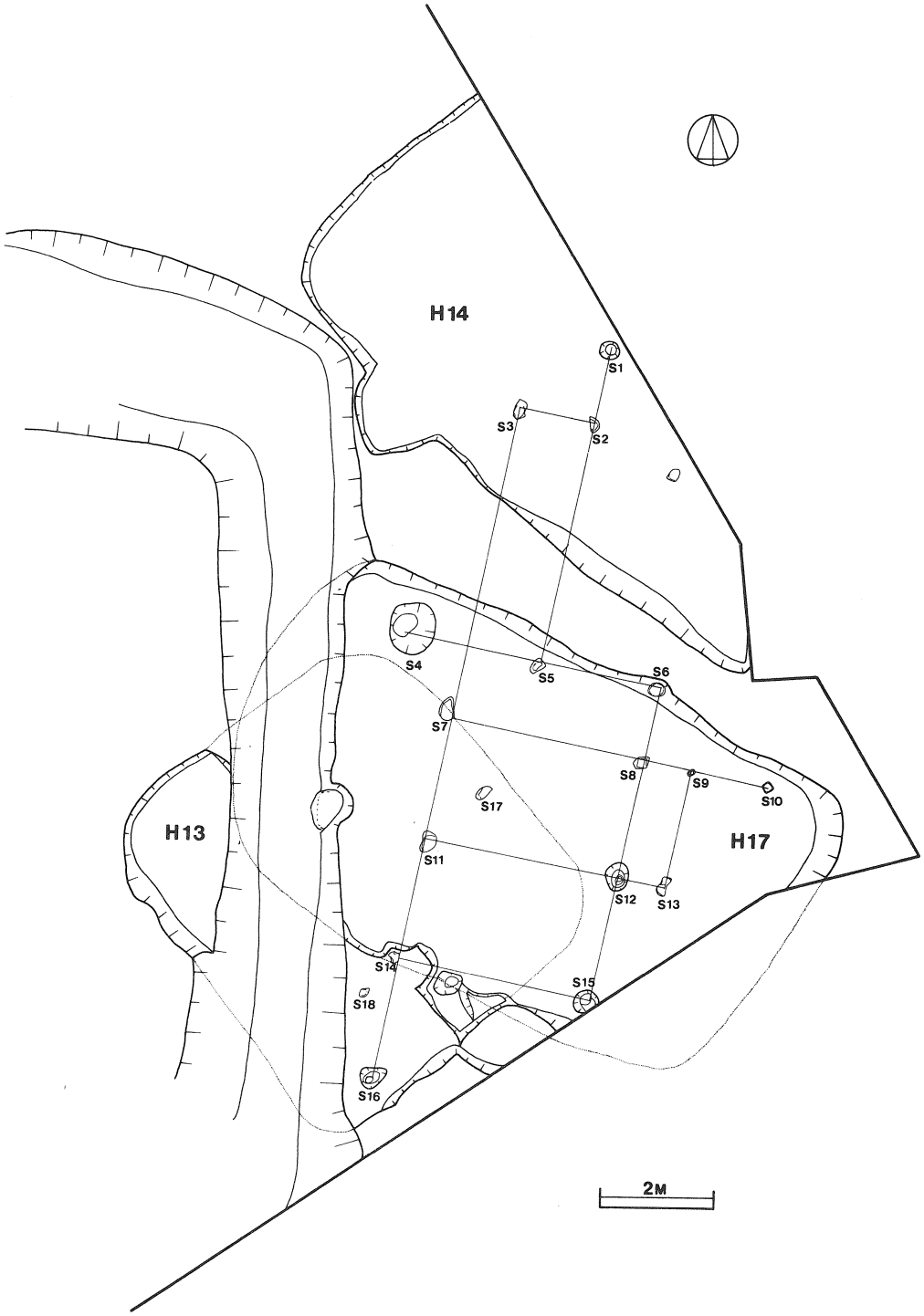
A－A′

1 層Hue 7.5YR 3/4　ローム粒子混入（暗褐色）
2 層Hue 7.5YR 5/6　ローム，ソフトローム（褐色）
3 層Hue 7.5YR 3/4　1 層よりやや黒色土を含む，所々にロームブロック混入（暗褐色）
4 層Hue 7.5YR 3/2　耕作土，ローム粒子混入砂を含む（黒褐色）
5 層Hue 7.5YR 3/2　黒色土の中にロームブロック混入（黒褐色）
6 層Hue 7.5YR 3/3　ロームブロック，ソフトローム混入（暗褐色）
7 層Hue 7.5YR 3/2　黒色土（ローム粒子を中心とする）ソフトローム混入（黒褐色）
8 層Hue 7.5YR 3/4　ローム（ハード）（暗褐色）
9 層Hue 7.5YR 4/4　にぶい赤褐色（黒色土とローム混入）のものであり，ローム粒子が多い（褐色）
10層Hue 7.5YR 3/2　耕作土，ローム粒子混入砂を含む（黒褐色）
11層Hue 7.5YR 3/3　黒色土とソフトロームとの混入のものであり，帯状に凝まった層をなしている．非常にかたい（暗褐色）
12層Hue 7.5YR 3/3　黒色土を含む，ソフトローム（極暗褐色）
13層Hue 7.5YR 3/4　黒色土の中にロームブロック混入（暗褐色）
14層Hue 7.5YR 3/3　黒色土の中にロームブロック混入（極暗褐色）
15層Hue 7.5YR 4/4　ソフトローム（褐色）
16層Hue 7.5YR 4/4　ローム（ロームかためである）（褐色）

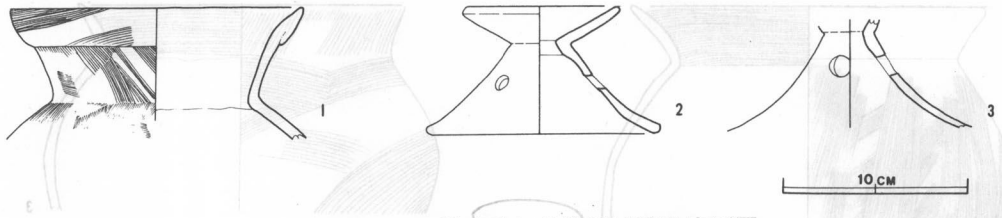
B－B′

1 層Hue 7.5YR 3/2　黒色土の中に，ローム粒子を混入（耕作土，砂を含む，やわらかい）（黒褐色）
2 層Hue 7.5YR 4/4　ローム（褐色）
3 層Hue 7.5YR 3/2　黒色土の中にロームブロック混入，しまっている砂を含む（黒褐色）
4 層　黒色土の中にロームブロック混入，しまっている（床面の一部）
5 層
6 層　南北のセクション，黒色土の中にローム粒子を含む3/2
7 層　黒色土の中に，ロームブロック混入
8 層Hue 7.5YR 5/6　ロームブロック，ローム粒子混入，やわらかい（褐色）
9 層　黒色土の中に，ロームブロック混入
10層　黒色土の中に，ローム粒子を含む　3/2
11層Hue 7.5YR 4/4　黒色土が混入してやわらかい（褐色）
12層Hue 7.5YR 4/4　ソフトローム（褐色）

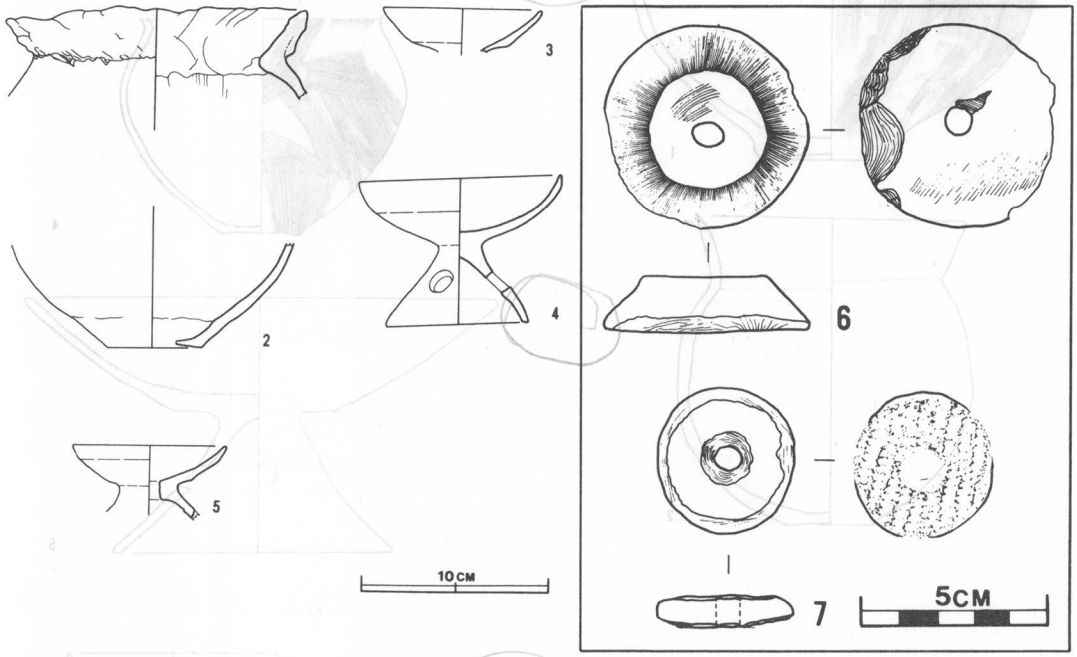
第 257 図　　志筑遺跡方墳 2 号実測図



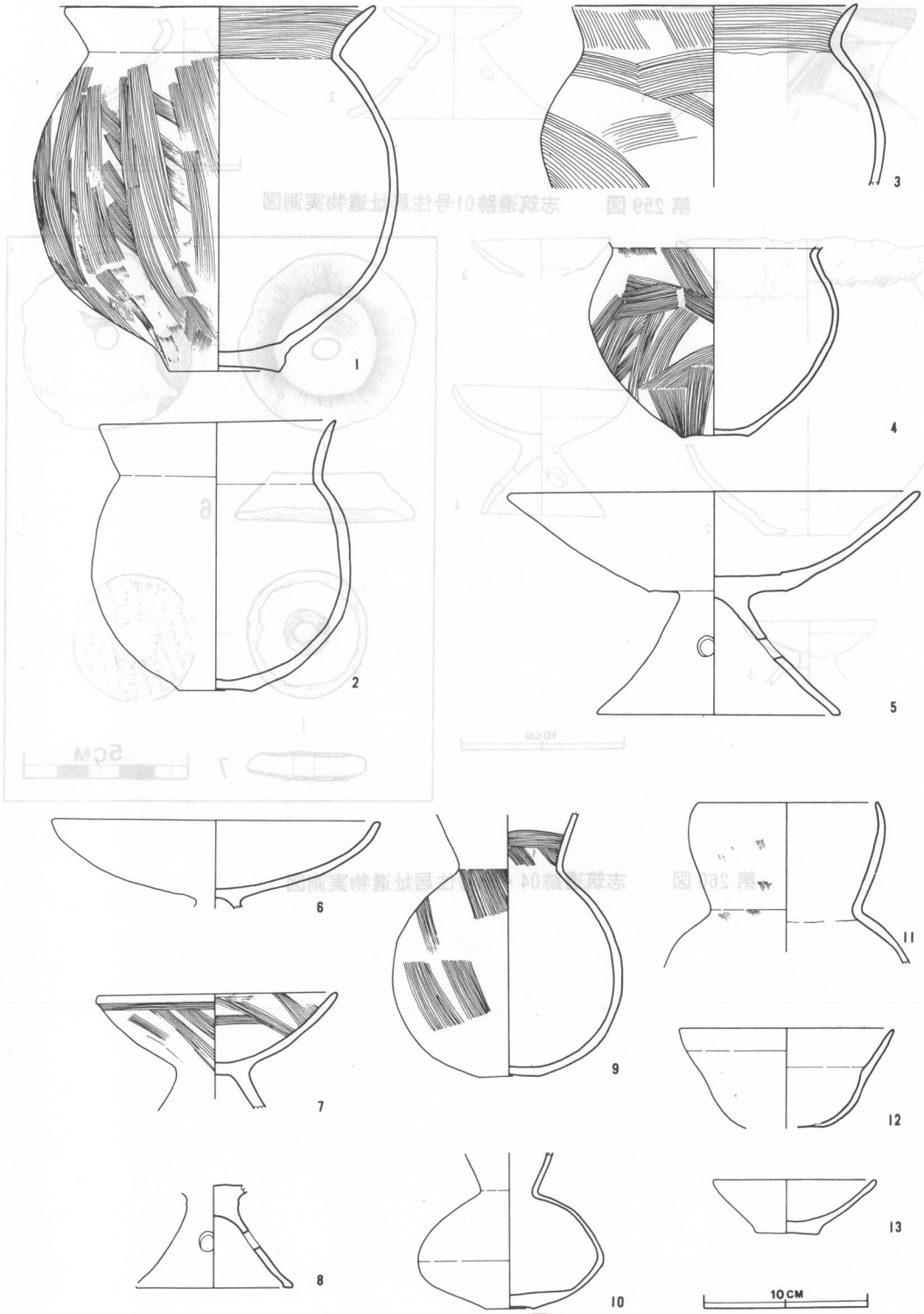
第 258 図　　志筑遺跡特殊住居遺構平面図



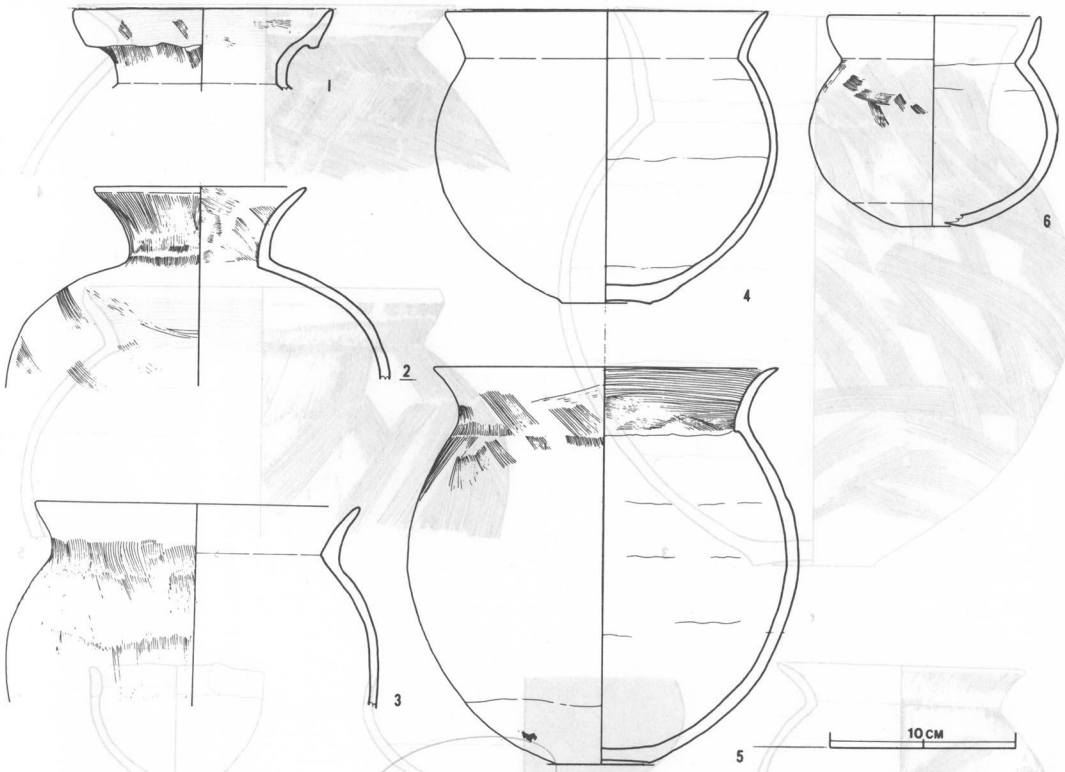
第 259 図　　志筑遺跡01号住居址遺物実測図



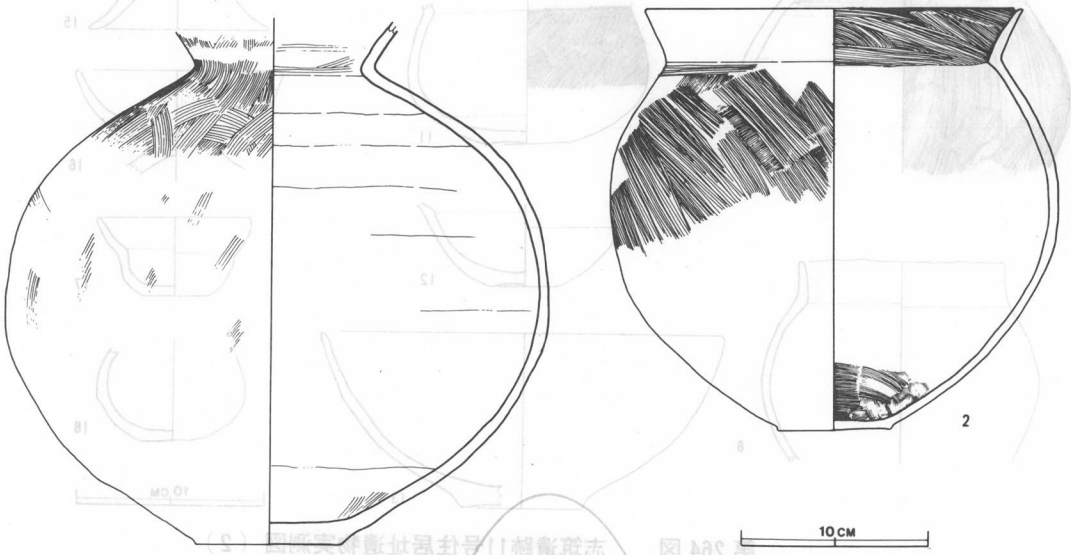
第 260 図　　志筑遺跡04・05号住居址遺物実測図



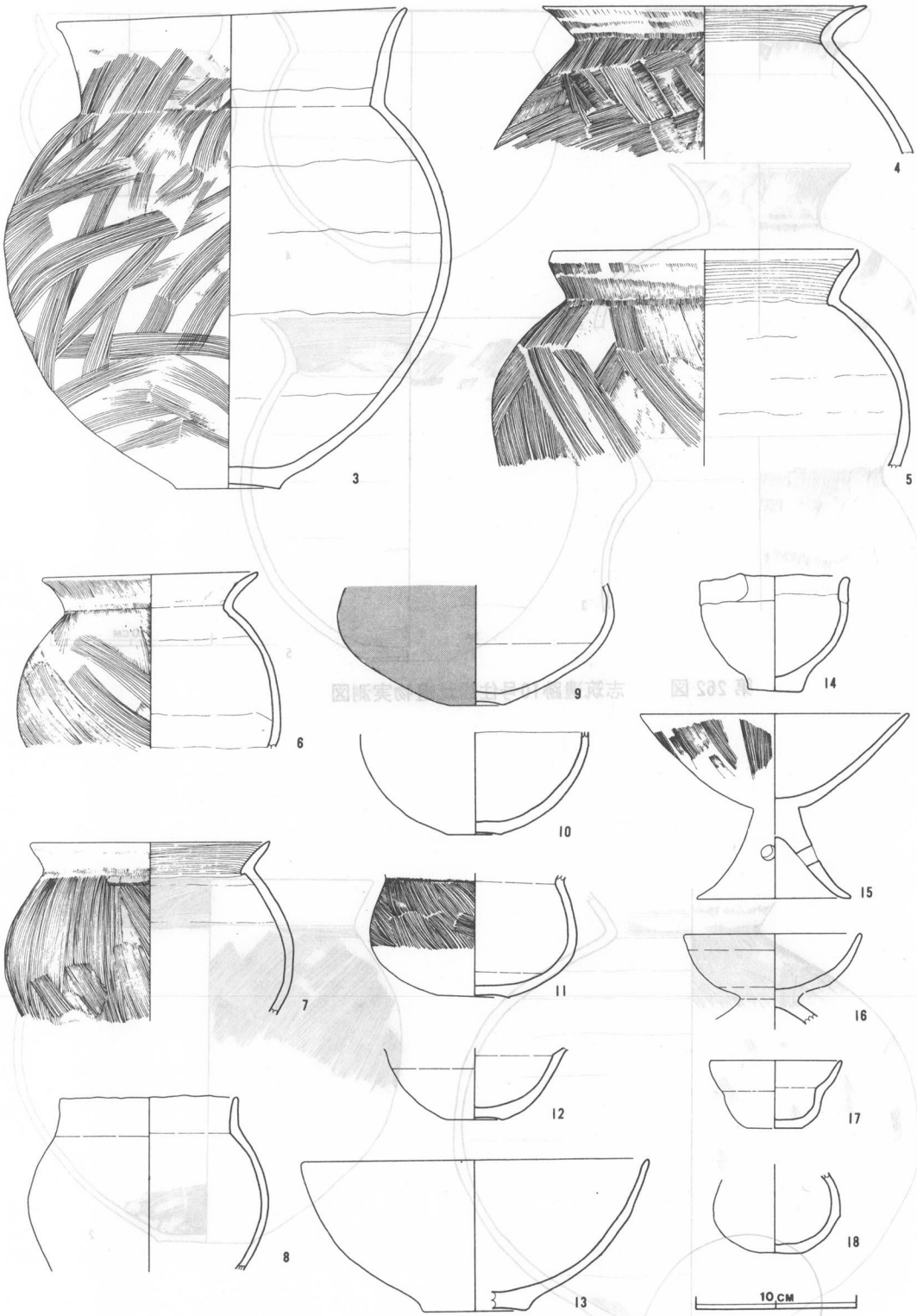
第 261 図　　志筑遺跡02号住居址遺物実測図



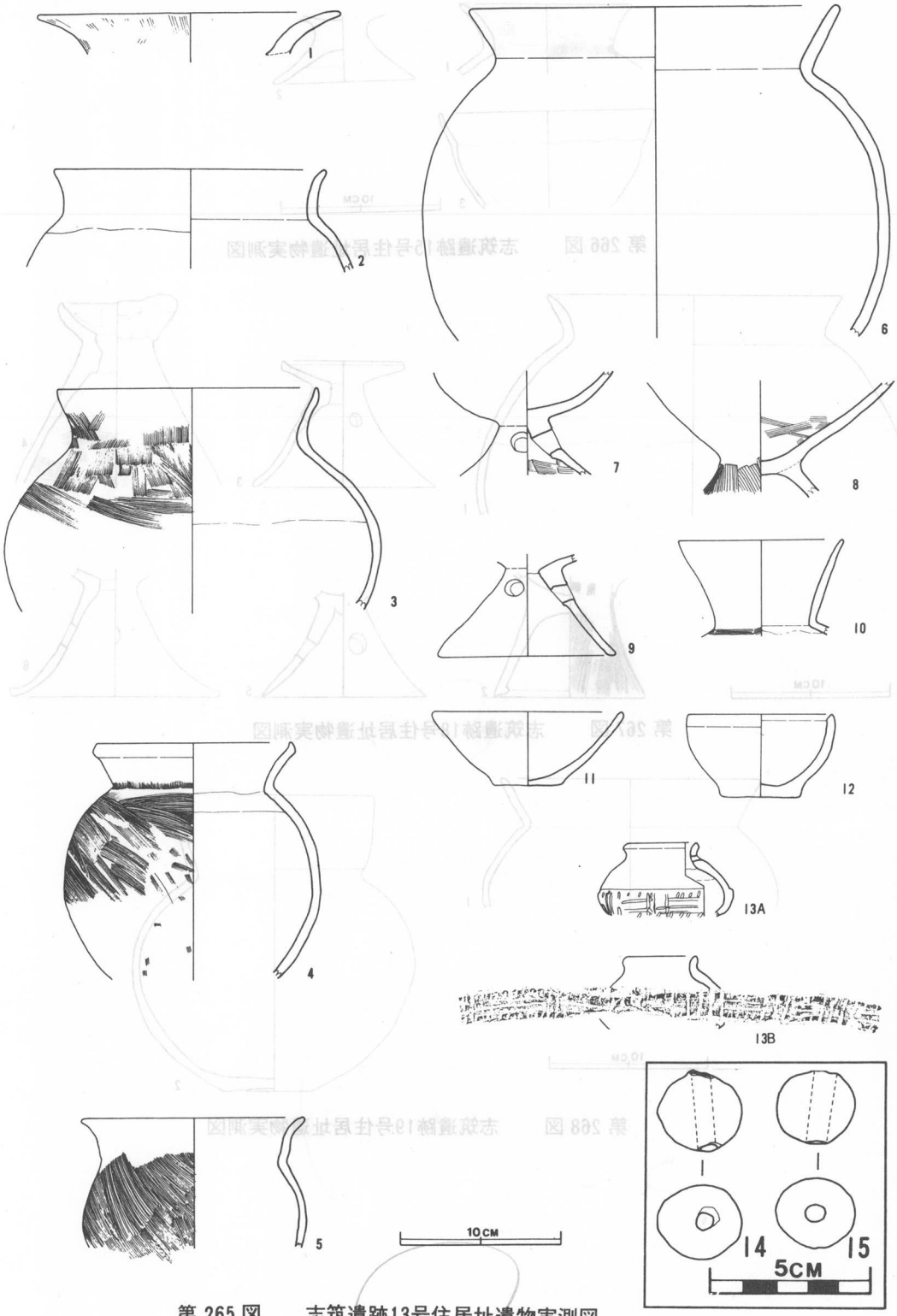
第 262 図　　志筑遺跡10号住居址遺物実測図



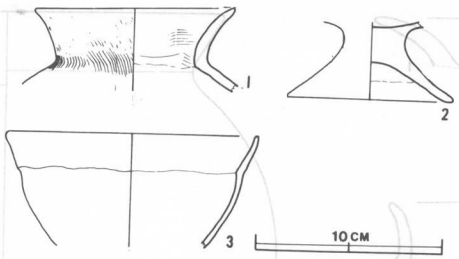
第 263 図　　志筑遺跡11号住居址遺物実測図（1）



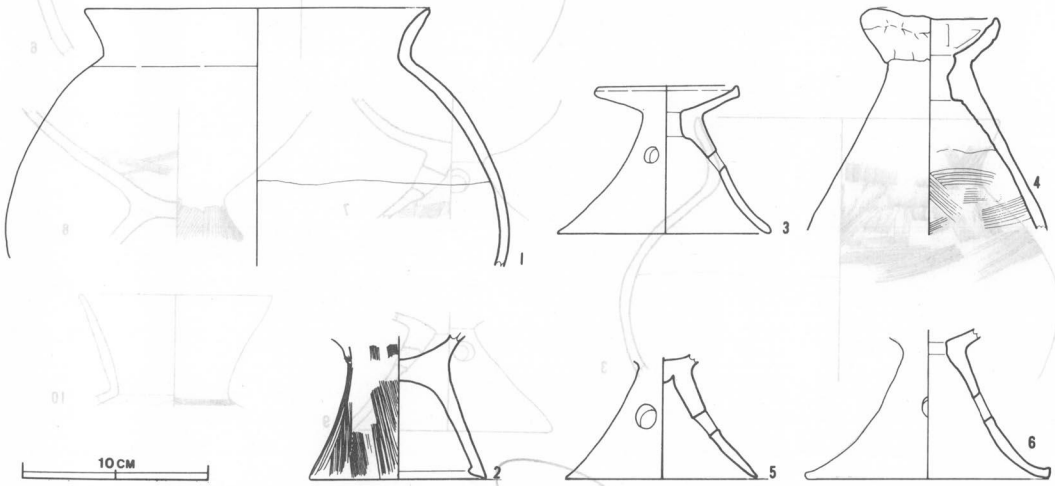
第 264 図　　志筑遺跡11号住居址遺物実測図（2）



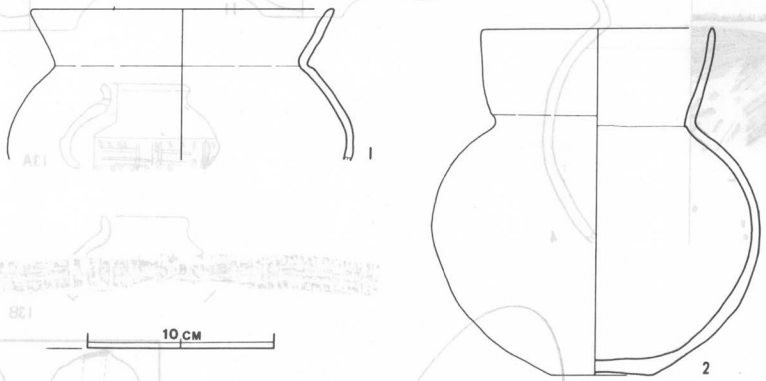
第 265 図　　志筑遺跡13号住居址遺物実測図



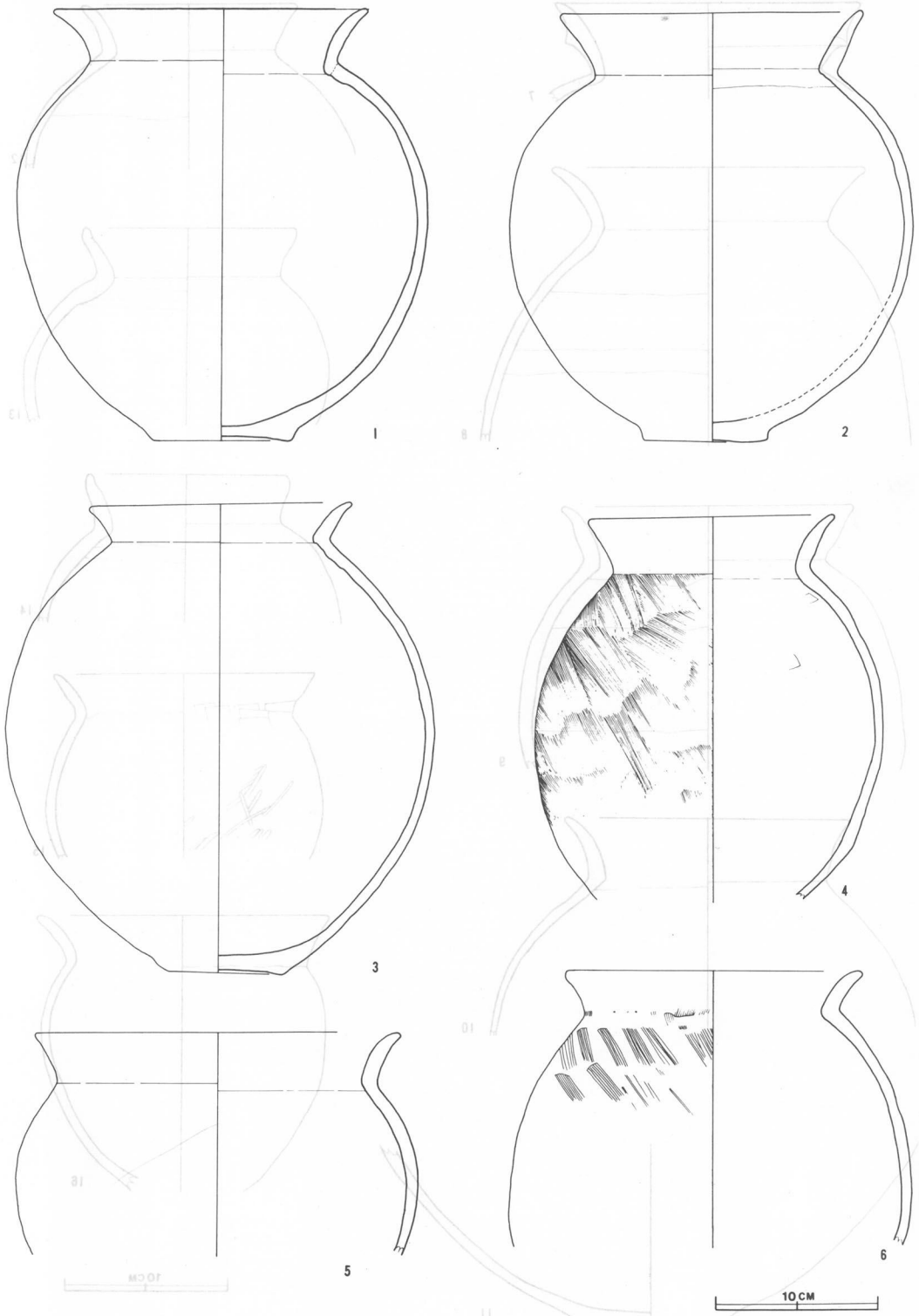
第 266 図　　志筑遺跡15号住居址遺物実測図



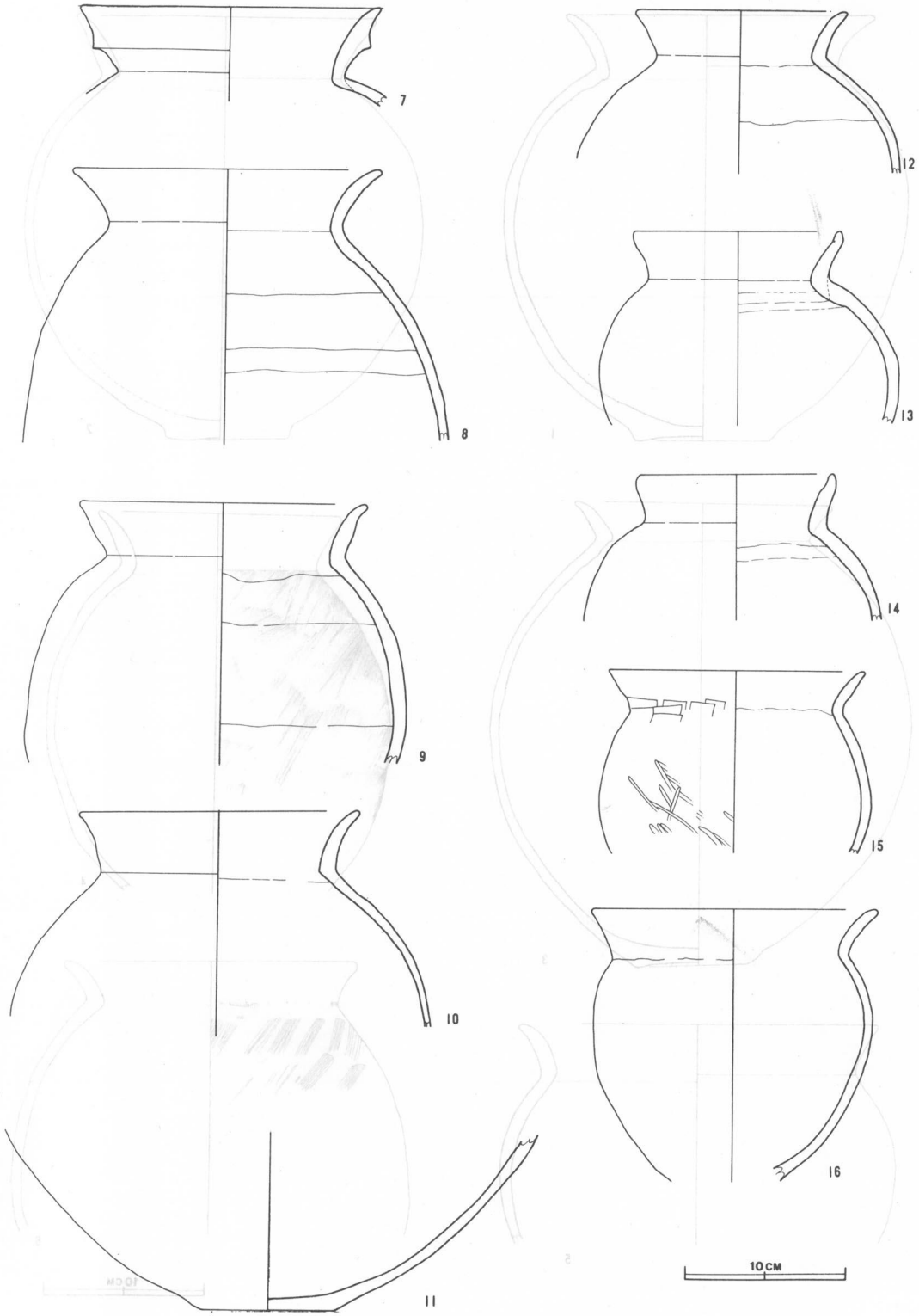
第 267 図　　志筑遺跡18号住居址遺物実測図



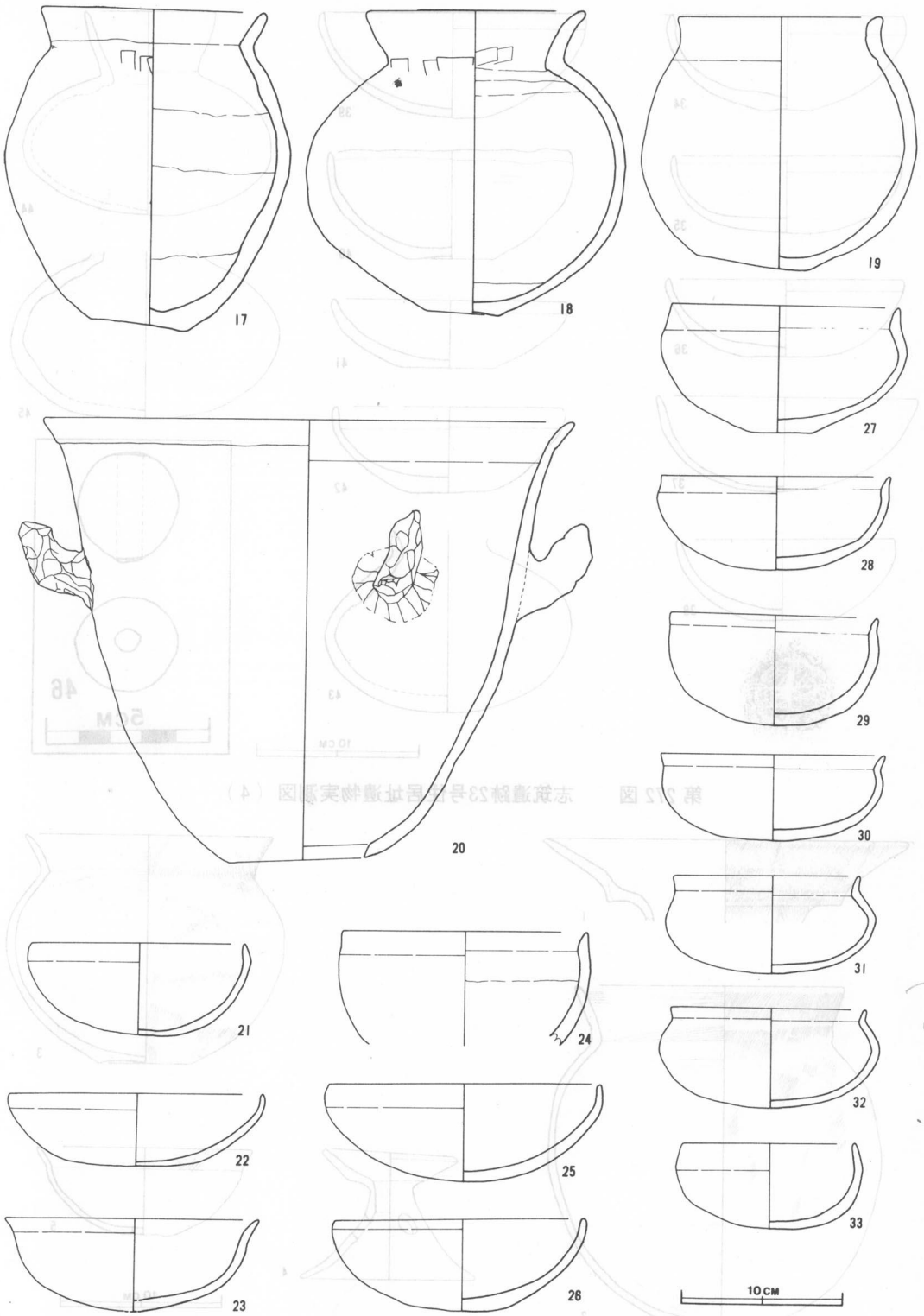
第 268 図　　志筑遺跡19号住居址遺物実測図



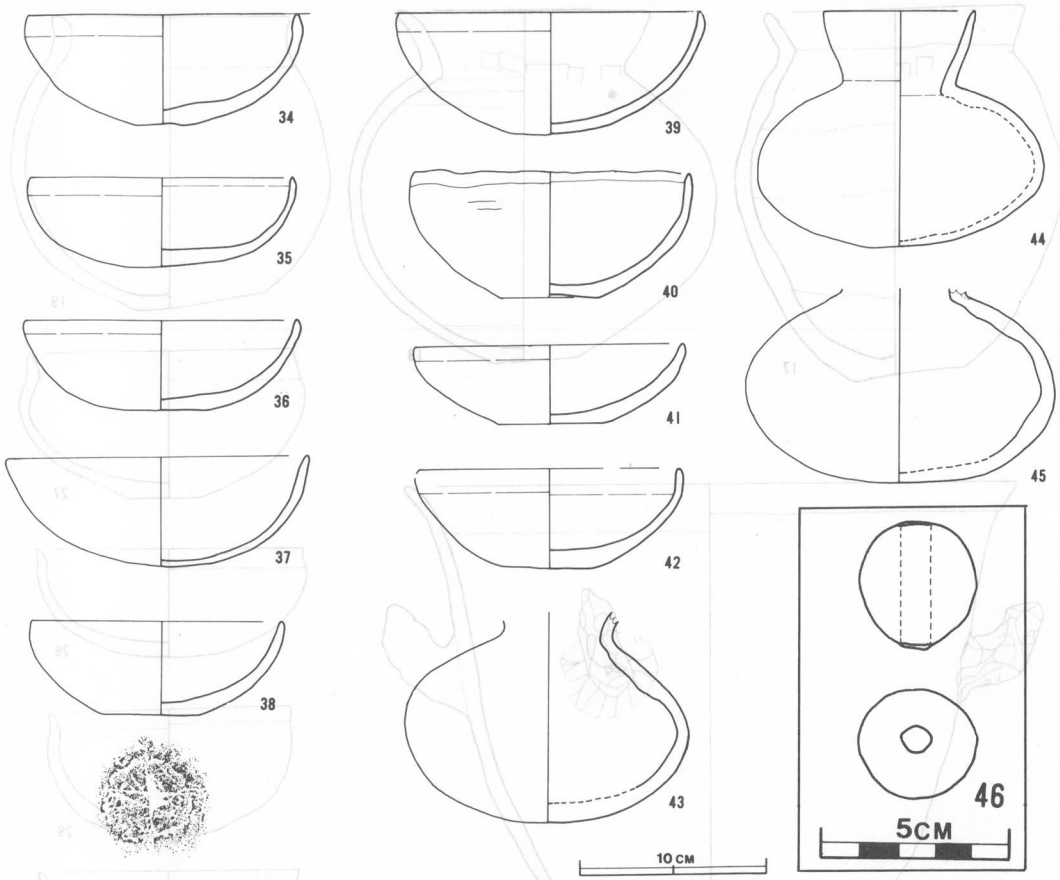
第 269 図　志筑遺跡23号住居址遺物実測図（1）



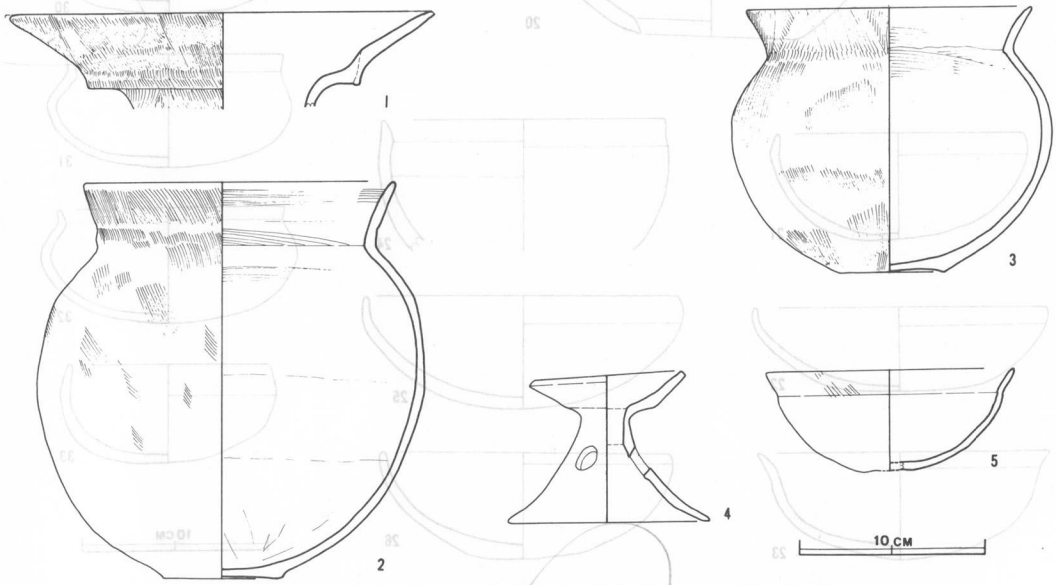
第 270 図　志筑遺跡23号住居址遺物実測図（2）



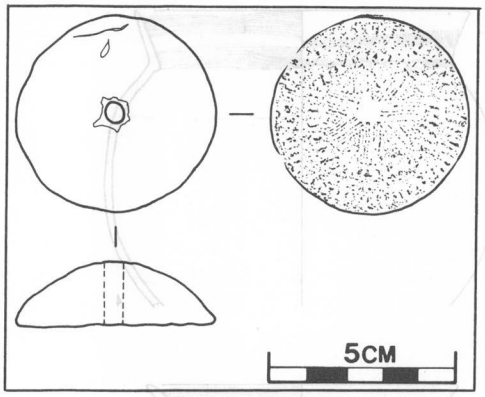
第 271 図　　志筑遺跡23号住居址遺物実測図（3）



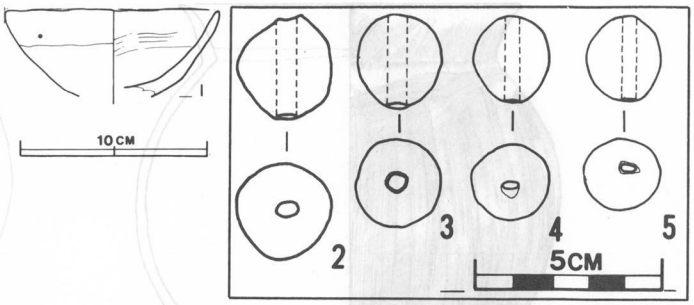
第 272 図　　志筑遺跡23号住居址遺物実測図（4）



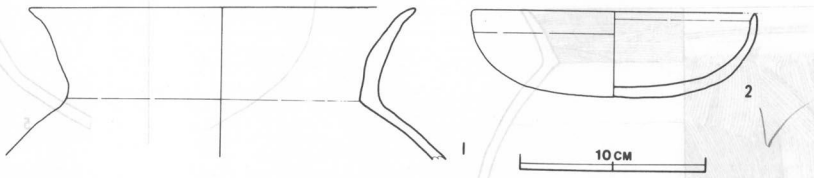
第 273 図　　志筑遺跡20号住居址遺物実測図



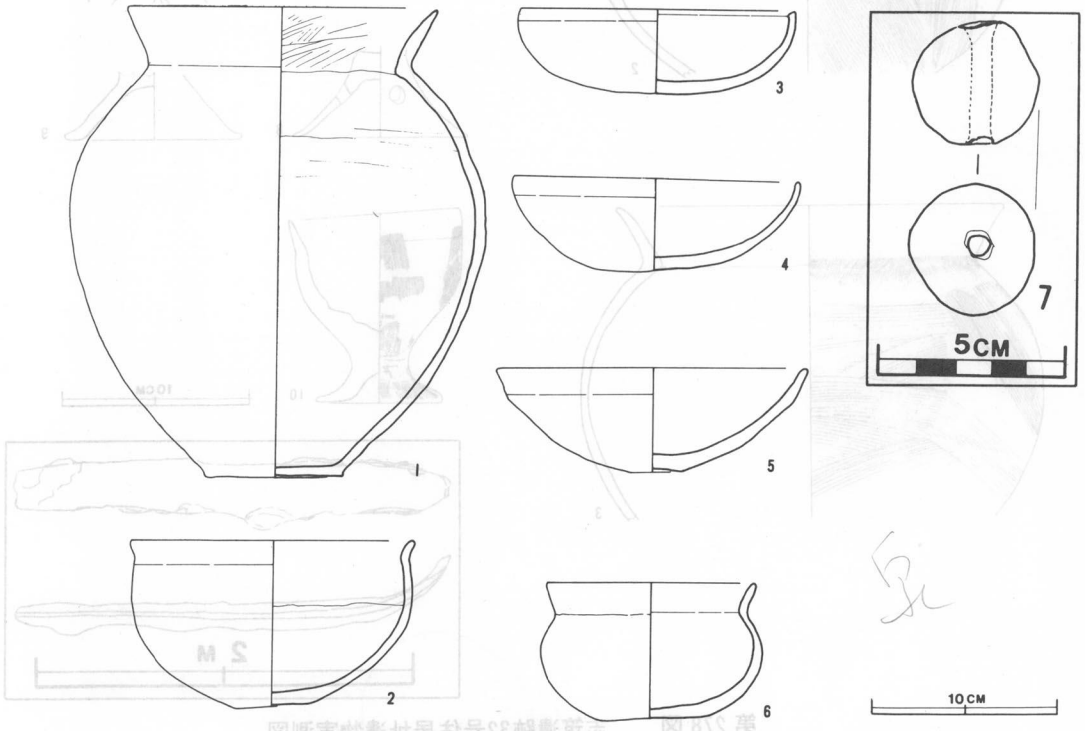
第 274 図　志筑遺跡24号住居址遺物実測図



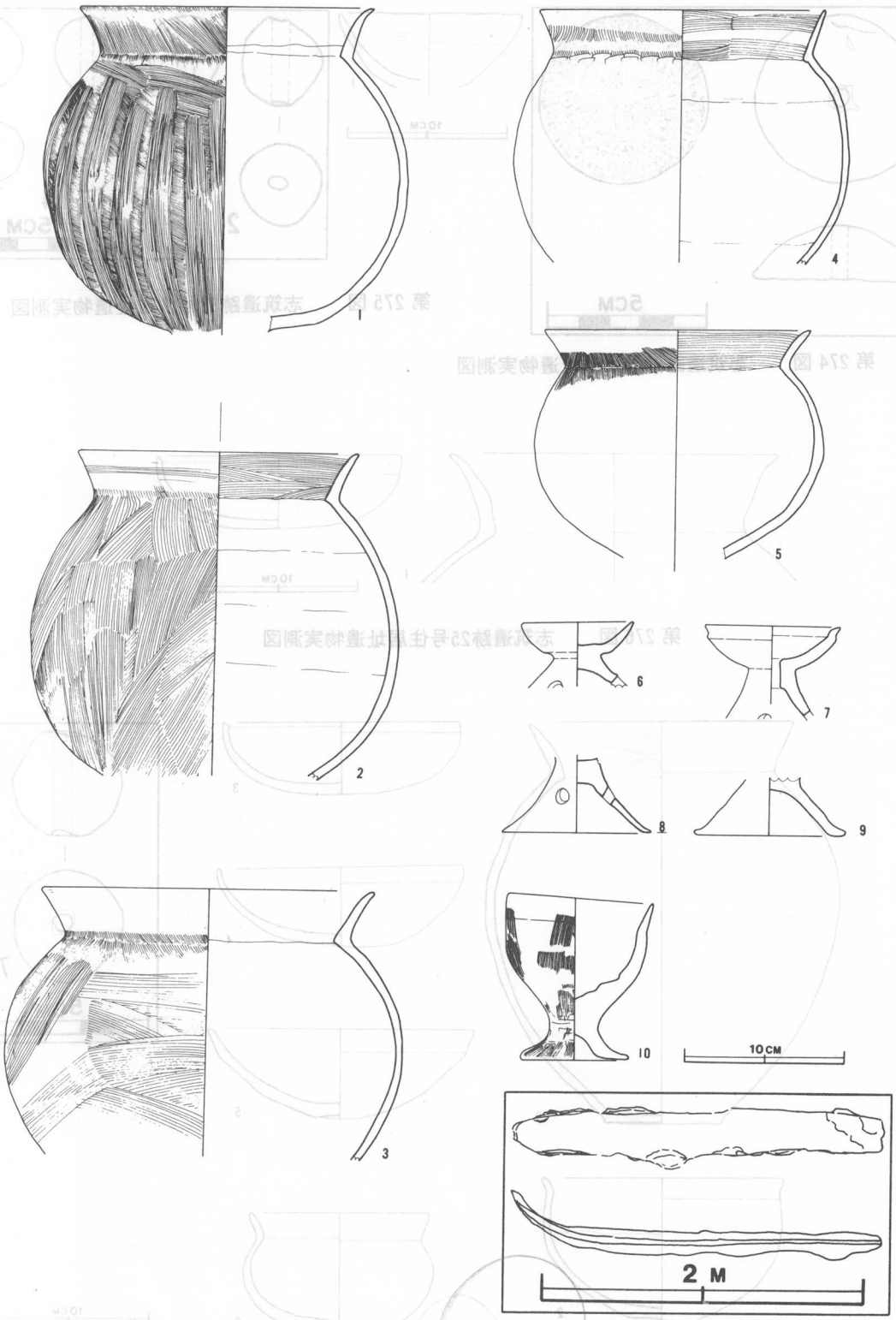
第 275 図　志筑遺跡33号住居址遺物実測図



第 276 図　志筑遺跡25号住居址遺物実測図



第 277 図　志筑遺跡26号住居址遺物実測図



第 278 図　　志筑遺跡32号住居址遺物実測図